

目書容收

錄秘答問濟經

六十卷至一卷

HB      Takimoto, Seiichi (ed.)  
51      Nihon keizai sōsho  
T3  
v.22

East  
Asiatic  
Studies

PLEASE DO NOT REMOVE  
CARDS OR SLIPS FROM THIS POCKET

---

UNIVERSITY OF TORONTO LIBRARY

---





# 日本經濟叢書

卷三十二

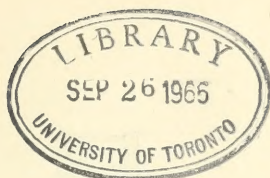
日本經濟叢書刊行會

HB

51

T3

V. 22



1126250



日本經濟叢書卷二十二目次

一

經濟問答秘錄

卷一  
至卷十六

正司考祺著

一頁

目次終

# 解題

## 經濟問答秘錄

本書に經濟と云ふは、矢張儒者の所謂經濟にて、經國濟民の意味なれば、書中の記事論説は、多くは爲政家の見地より述べたるものなり、而して第一卷及第二卷の經濟要論に於ては、先づ經濟の意義を解釋し、それより詳に爲政の要領を説き、第三卷乃至第五卷に於ては、學校は天下を治むるの根本なる事を述べ、第六第七兩卷は主として法令の事に關し、第八卷より第十卷下に至る四卷は、國用考と題し、専ら和漢の史實、若くは學者の所論を引用して、經濟上の面白き談柄を澤山に列舉し、題名は國用とあるも、其の實往々個人の一家經濟に關する事をも併記したるなり、第十一卷乃至十六卷は田賦考にて、是れは幕府に仕へたる某士が、元祿二年に諸國に頒布したる檢地法なるものは、其の文義中解せざる所ありとて、其の太要を拔抄して詳かに之を辨

明したるを始とし、其他田制及農事に關する、種々の事項を、最も細密に考證論述したるものなり、叢書本卷は紙頁の都合に依り、本書第十六卷までを收容したれども、第十七卷(僧道部)以下第三十卷(詳讞大刑赦贖)に至る十三卷は本叢書の次卷へ載録する事とせり

本書の性質は、徂徠の「政談」、春臺の「經濟錄」、竹山の「草茅危言」などと略同様のものなれども、此等に比較すれば、記事雜駁にして、頗る不統一を極め、殊に冗慢なる漢文を處々に引用し、普通多く用ゐざる言語を使用するなど、其の體裁甚だ宜しきを得ざるのみならず、文章も亦難澁にして、意義の明白ならざる所あり、之に加ふるに引用書名及其の拔抄せる本文等、往々多少の相違あつて、引用原本に一致せざるが如き不體裁あるを免かれずと雖も、其の大體の記事に至りては、大に參考すべきこと尠からず、多くの誤謬、多くの混雜の中に最も多くの面白き記事を包容すること、本書の右に出づるもの、殆ど稀なるが如し、是れその卷帙浩瀚なるを厭はず、故らに其の

全部を收容する所以なり

世上に流布する本書は、板本二種あり、何れも木活字本なれども、一は薄葉美濃紙本にして、合本十冊とし、他の一は普通美濃紙本にして、三十卷三十冊とし、二者の内容は大體同様なれども、細かに對照すれば文章用語等、多少の異同なきにあらず、依て編者は此の兩本を校合參考して、其の正當と信じたる方に従へりと雖も、元來活字本の通弊として、兩本とも誤字誤植等頗る多く、往々全く通讀し難き所なきにあらざるも、他に正確なる別本を得ること能はざりしかば、已むことを得ず、不完全ながら活字本のまゝ、之を釀印することゝせり、讀者幸に之を諒察せられんことを乞ふ

本書の著者正司考祺、通稱は庄治、碩溪又南畝と號す、肥前有田の人なり、家世々商賈にして巨萬の資産家たり、考祺夙に學を好み、博聞強記にして、殊に經濟の學に長じ、又實地自ら莫大の山野を開き、多數の農奴を使役して、國產興作の事業を試みたる事あるが如きは、荒木某が其の著作「家職要道」の

跋文に記する所に依つて明かなり、但懣むらくは其の學歷詳ならざるも、彼が一生の大著作なる「豹皮錄」（凡一百卷あり天保六年の作）の序跋は皆篠崎小竹・廣瀬淡窓・草場佩川・帆足萬里・後藤松蔭・奥野小山等諸名家の撰文に係はる事に依て之を推測すれば、著者は當時此等の學者中に多少知られたる人なりしならん、安政四年年六十五にして歿せり、著す所は本書「經濟問答祕錄」「家職要道」及「豹皮錄」の外に、「環堵日記」二十卷（嘉永三年の作）「天明錄」四卷（安政三年の作）「武家七徳前後篇」十六卷（弘化二年の作）あり、皆其の家に藏す

大正五年三月

瀧 本 誠 一

解 題 終

經濟問答秘錄

卷十一  
至卷十六

正司考祺著



## 自叙

或訪余遯廬、淹留數月、日夜諮問利用厚生術、余喟然嘆曰、吾家多賓、其所論談者、不出於詩文外而已、嗟乎仁哉、赤心愛國者歟、聞義不徙、聖人憂之、余雖卑陋、何默而止哉、然方今政教煥然丕敷、民被陶甄之化、嘉猷靡遺焉、吾儕胡爲用心于國事哉、蓋聞千金裘、非一狐之腋、先王之法、非一士之智、問善御者、莫如馬、問善治者、莫如民、是故古聖王、雖芻蕘者、必諮詢焉、余曩徧歷諸國、觀其風土、昇平久、而稍稍凌夷、有當蕩滌模糊處者、或有世祿疇官、而濶於下情者、乃隨所其視聽、加以愚慮、無忌憚、而敢述屠龍之技焉、有言逆于汝心、求諸道、雖噉然迂僻之言、亦能踐其實地、而徹於民情、必也非猛獮之說也、冀有取萬一焉、庶乎富國強兵捷徑乎、其能考旃

時天保辛巳春

正司考祺識

# 經濟問答秘錄卷一凡例

一 是書ニ正卿ト記スハ、執政ヲ云、大夫ハ家老、上士ハ番頭・着座・嫡子格、中士ハ平士、下士ハ與力・歩行役・馬廻・中扈從・小給等ヲ云

一 世俗朝廷トハ、禁中ノミ稱スト思ヘドモ、諸國ニ於テモ稱シテヨシ、衙門モ元禁中ノ事ナレドモ中華モ後世役所ヲ衙門ト云、コレニハ政事堂・朝堂・政廳ト書シ、又諸役所ヲ官局官署ト記シ置

一 城内ヲ殿中ト記シ置、今諸國ニ御殿ト云、御ノ字ヲ附ルハ謬リナレドモ、神書ニ御殿ト記セバ、我邦古ヨリノ事トミユ、薩州ハ御屋形ト稱ス、是ハ戰國ヨリノ餘言トミユ、昔ハ江州佐々木家等ニ用ユ、元公館文字ノ誤トミユ

一 代官ヲ輕輩ヨリ勤ル邦アリ、僭號ト云ベシ、大抵公儀ノミ代官ト稱シ、諸國皆郡奉行・郡代ト云、古ノ卿大夫ニ當レリ、茲ニハ宰尹ト記シ置、大庄屋ハ古ノ黨正ニ當ル、小庄屋ハ鄙正・里正也、庄屋ハ元庄園ノ名目ヨリ起レドモ、後世縣庄ノ號盡テ、郡・郷・村ノ三名ニ究レリ、町別當・乙名ハ古ノ司市・司令ノ官也、今時町人ノ別當ト名クハ、僭號ト云者也

一 俗ニ農民ヲ百姓ト云ハ、後世ノ事也、士農工商ノ四民ヲ百姓ト云、和漢ノ古書ニ百姓トミユルハ、

舉<sup>ミナ</sup>四民ノ事也、和訓ニ百姓ヲ御寶トヨム事、日本紀ニモ出ヅ、是ニハ農民商賈ト記シ、工ハ諸職人トモ記シ置

一 量ハ公儀ノ扶持方、及諸國大抵京判ニテ四斗俵也、九州ハ三斗四升俵、或ハ三ツ俵ト云テ三斗俵アリ、或ハ國升ニテ三斗ヲ一俵トス、京判ニテ三斗九合、或ハ三斗一升五合ニモ當レリ、是ニハ京判ニテ記ス、又諸國租稅ニ四物成・三物成ト云事アレドモ、是ニハ現米ニテ記シ置、衡斤目ハ二百八十目・二百四十目其品ニ由テ違ヘドモ、唐目百六十目ニ記シ置

一 是事ハ當時諸國ヲ巡リ民語ヲ聞テ、客ニ答ヘ啜ルユヘ、倘文章字義ニ拘リテハ、實意ヲ失ハン事ヲ恐レ、俗言平話ノ儘ニ記シ置、國家ノ富饒ハ其本ヲ正スニ在、故ニ先其要領ヲ初卷ニ述ブ、全部ヲ看テ始末併セ考ベシ

一 朱子云、「看文字、須<sup>ニ</sup>是虛心、莫<sup>ニ</sup>先立己意、」ト云ハ、讀書ノ大法也、聖人ハ狂夫ノ言モ擇ムトアレバ、能心ヲ潛メテ看トキハ、縱不正ノ書トイヘドモ、亦取ベキ所モ有者ナリ、故ニ書ヲ看トキハ、先愛憎ヲ棄ズンバ、眼力昧ンデ善事モ惡ク取、惡キ所モ善ク見込ム者也、故ニ平心ニシテ、其惡キ所ハ之ヲ捨テ、其善キ所ハ白心ノ上ニ取テ、尙モ工夫ヲ做スベシ、是讀書ノ要務也

# 經濟問答秘錄惣目錄

卷之一 經濟要論

卷之三 學校考

卷之五 學校考

卷之七 法令考

卷之九 國用考

卷之十下 國用考

卷之十二 田賦考

卷之十四 田賦考

卷之十六 田賦考

卷之十八 僧道部

卷之二十 僧道部

卷之二十二 海港部

卷之二 經濟要論

卷之四 學校考

卷之六 法令考

卷之八 國用考

卷之十上 國用考

卷之十一 田賦考

卷之十三 田賦考

卷之十五 田賦考

卷之十七 僧道部

卷之十九 僧道部

卷之二十一 海港部

卷之二十三 征榷考

卷之二十四 武備考

卷之二十六 武備考

卷之二十八 武備考

卷之三十 詳讞 大刑 赦贖

卷之二十五 武備考

卷之二十七 武備考

卷之二十九 刑法

物  
目  
錄  
終

## 經濟問答秘錄卷一

西 肥 正司考祺編

## 經濟要入

○客云、「在公門、則不言貨利」出左傳利ハ固ヨリ君子ノ賤ンズル所也、然ドモ當今諸國匱乏ニ及  
 デ、營財ヲ主トシ、士庶人モ皆家ヲ富スヲ經濟ト云、抑國家ヲ富スニ一術有リヤ  
 答云 今世間ニ貨殖興利ヲ以テ經濟ト云ハ謬也、今ノ經濟ト云ハ、俗ニ所謂世智方上首ノ方便者也、  
 庶人ノ一家ヲ富スハ隨分可也、蓋國天下ヲ治ルニ至テハ、終ニハ災害ヲ招ク媒灼也、經濟トハ仁義ヲ  
 以テ國家ヲ治ル事也、大學「國不以利爲利、以義爲利」ト云、是句富國ノ要領也、古今ノ賢君皆  
 利ヲ棄レドモ、營テ富ザル者ナキハ、歴史ヲ讀ンデ察スベシ、太宰子ノ經濟錄ニ、經ハ經倫ナリ、布  
 ヲ織ニ縱ヲ經ト云、横ヲ緯ト云、經營ニ取リ、濟ハ濟度ノ義ニテ、河ヲ濟テ崖ニ到ルニ取レリ、余按  
 ニ、經ハ常也、故ニ聖人ノ書ヲ經ト云、政ハ常アルヲ貴ブ、先王ノ政ニ、異事ハ君子ハ好マズ、濟ハ  
 調救ト訓デ、民ヲ救フ事也、論語「如有博施於民、而能濟衆如何、可謂仁乎」、又東坡ガ韓文公碑  
 ニ「道濟天下之溺」是等ニテ字義分明也、聖經ニ廸ヒ、衆人ヲ濟フヲ云ナリ屈、宣白云、「爲國家者、

不變故、不易常」ト云、今治世二百餘年、天下ニ凡二百六十餘封、明君智士モ既ニ出レバ、國毎ニ仕組ノ事ハ最早究ルトミユ、又珍シキ良術モ有ベカラズ、今改テ典政ヲ企レバ、國民異心ヲ生ジテ信義ヲ失ヒ、還テ毛ヲ吹テ劍ヲ求ル事有リ、是故ニ建國祖宗ノ舊典ニ從ヒ、妄ニ自意ヲ以テ新法ヲ建ズ、依然トシテ賞罰ヲ明ニセバ、四民恒ノ心ヲ失ハズ、各職業ヲ勵テ上下和平シ、天地感應シテ、災害遂ニ降ラズ、封内自富饒也、何ゾ必シモ他ニ心ヲ移サンヤ

○客云、國家困窮ニ及ビ子錢家ニ借所モ無ク、急用ニ蹙ルトキハ、如何シテ急難ヲ救ハンヤ

答云 此ヲ戰國ニ喩フレバ、死地ニ入ル時ニ同ジ、必心ヲ動スベカラズ、心顛倒スレバ、益窮迫スベシ、今諸國ヲ見ルニ、斯ル時ニ臨デハ仕組者出ズ、千金有レバ仕組ハ付ク、一萬金有レバ事成就致スト、唯隸フ所ノ急財ニ目ヲ餌ルハ、凡慮ノ小見也、斯時ニハ縱千萬金加ヘテモ、江海ニ棄ルガ如ク、事足ルト云事有ベカラズ、自古借銀ノ爲ニ國ヲ渡セシ者有リヤ、「深山ニ有寶、無心者得之」ト云事アリ、譬バ林泉ヲ築タニ、即時ニ山野ニ行テ、此彼地ニ目ヲ張テ、奇石珍樹ヲ探レドモ、心急グユヘ一モ氣ニ應ズル木石ハ有ル者ニ非ズ、適漫遊シテ從容ト巡徊スルトキハ、不圖奇妙ナル木石ヲ撫フ者也、心急ゲバ鍋沸ズ、急ガバ迂レトハ此事也、楠公ノ壁書ニ、物ヲ貯ヘンヨリ、人ニ物借ルナト記セリ、借分別ヲ付ンヨリ借ラザル分別ヲ主意トセヨ、急迫ニ臨デ此地ニモ借ラン、彼地ニモ借ラント、唯借ル工夫ノミ付ルユヘ、商估曹其虛ニ乗テ益商利ヲ取り、雜費甚多ク、利ニ利ヲ重ネテ、結句雪上

ノ霜ト爲ル、是則好色ノ者ヲ、狐狸ノ美女ニ化ケテ誑騙スガ如ク、他邦ノ鑿空師ドモ、種々ノ國益ヲ  
工ミ、事半ニシテ夜逃スル者間多シ、縱商賈ノ徒諛諛ヲ以テ興利ヲ説トモ、必聞事勿レ、是一時ノ苦  
痛ニ甘キ毒ヲ與ユル者ニテ、五年ヲ逾ズ大害ヲ徵メ、元ニ歸ル事中々以テ難カルベシ、斯時ハ利財ニ  
目ヲ懸ズ、先國計ヲ量リ、上ニ儉法ヲ立テ、質素ヲ主トシ、家臣ニ文武ヲ勵マシ、民ニ精力ヲ勸メ、  
賞罰嚴明ニシテ、君ノ美號ヲ遠近ニ響ク様ニスベシ、是則賄財モトデ費本ナリ、商人ハ思慮深キ者ニテ、後  
榮ヲ特ンデ銘々仕方ヲ立テ、是方ヨリ求メズ、向ヨリ借財ノ仕組ヲ付ケクレ、下低ノ利息トナル者也、  
六韜「無取於民者、民利之、無取於國者、國利之」、是語ヲ必忘ルベカラズ、財匱キトキハ、動ス  
レバ臣下ノ俸祿ヲ減耗シ、庶民ニ賦斂ヲ賸シ、或ハ父子萬人講・產物仕入・獻金・人別錢様々ノ事ヲ工夫  
シテ、國民ヲ虐ル事間有リ、領地ハ四境限リアリ、一步出レバ、他邦ノ者ハ一錢モ出サズ、井ノ水モ  
地中ヨリ出ル所限リアリ、此ヲ計ラズ、日ニ數千荷汲ムトキハ、井底濁ルノミナラズ、遂ニハ乾涸ス  
ベシ、故ニ其出水ヲ量ツテ汲ムベシ、民ハ國ノ本也、本枯テハ枝葉自ラ枯ル、ユヘ、縱困窮ニ迫ルト  
モ、必下ヲ貪ル事勿レ、「可畏非民」ト、聖王ノ言ヲ堅守ルベシ、黃道周云、「人君治世、大要有三  
焉、生財有道、取財有義、用財有禮而已」亂世後細川ホド匱乏ノ家ハ無シ、然ドモ遂ニ民ヲ貪ラ  
ズ、慶長年中伏見ノ金庫開封ノ時、事逼ツテ調儀ナラズ、老臣馳行テ神君ニ謁シ、三千金ヲ借用ス、  
寛永ノ比、豐前小倉十二萬石ヲ領ス、一年凶饑ニテ、農民群集シテ愁訴スレドモ、官庫乏ク救濟ナラ

ズ、三齋侯甚心痛シ、密ニ重代ノ名器ヲ侍臣ニ持セ、京都ニ往テ賣<sup>ハ</sup>斥ヒ、其估ヲ以テ菜穀ヲ買メ、領民ヲ救ヒ玉フ、是事漸々世間ニ洩聞エ、頓テ台聽ニ達スレバ、大猷公大ニ感ジテ諸侯ノ規鑑ト、遂ニ肥後五十四萬石ヲ賜フ、是意ヲ考ヘ財ヲ微<sup>モトメ</sup>ンヨリ、道ヲ徼ルベシ

○客云、國ハ諸官局甚多シ、君ノミ徒儉約シテモ、他ハ如何スレバ、儉法行ルルヤ

答云 孔子曰、「欲<sup>ニ</sup>政之速行<sup>ニ</sup>也、莫<sup>ニ</sup>善<sup>ニ</sup>乎以<sup>ニ</sup>身先<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>」ト云、君先儉約ヲ行ヒ玉ハバ、臣下皆儉也、臣下儉ナラバ、庶人之ヲ見テ豈耻ザランヤ、國家ハ廣大ユヘ、其費弊定テ多カルベシ、坐シテ之ヲ計ルハ、門外ヨリ家ノ栖居ヲ計ルガ如ク、事ニ當テ碎ケズンバ、致知格物ノ功ハ不成、若其内ニ入テ心ヲ附レバ、譬<sup>バ</sup>玄關次ノ間ニ槍ヲ懸ルニ、穗ヲ表口ニ向、出口ヨリ右ニ懸置ケバ、時ニ臨テ便用アリ、或ハ勝手臺所ハ見渡ス様ニ致シ、灶<sup>カマド</sup>ヲ左ニ圻<sup>ヘ</sup>リ、水甕ヲ右ニ置バ、若不慮ノ火起ルトキ直ニ用達ス、斯事此ニモ費アリ、彼ニモ費アリ、其家ニ入ラザレバ見エザルナリ、故ニ君ノ家ヲ我家トスル忠義ノ者其職掌ト爲テ、一役毎ニ銘々氣ヲ付ルトキハ、一處ニ十兩省テモ、百處ニ千兩ノ益アレドモ、斯忠臣ト云者ハ古ヨリ無キ者也、故ニ一騎當千ト云也、大猷公久世大和守ニ官ヲ授ケ玉フトキ、固辭シテ命ヲ受ズ、故ニ躬筆ヲ執テ一首ノ和歌ヲ賜フテ勸メ玉フ、「人多キ人ノ中ニモ人ゾ無シ人ニナレ人人ニナセ人」故ニ上タル人、唯人ニナセ人、人ニナレ人ノ語ヲ守ラバ、各其職ヲ守テ、儉法ハ自ラ立ベシ

○客云、大學、「財聚則民散、財散則民聚」ト云ハ古ノ事也、今封境ヲ頒チ、黃冊ヲ以テ其民數ヲ改

ルエヘ、縱國ニ仁君在トイヘドモ、之ヲ慕テ共ニ住事叶ハズ、何聚散有ンヤ

答云 身體ハ一心ノ尊ク所也、縱身體去ズトイヘドモ、其心ハ去レリ、心去トキハ、若不虞ニ臨マバ、乍他邦ニ屬ス、若君ノ美名他邦ニ響カバ、天下ノ人皆之ヲ慕ヘリ、然バ年貢ハ取ズトイヘドモ、乃我民ニ同ジカラズヤ、治亂ハ天地不順ノ如ク、青天白日トイヘドモ、須臾ニ暴風洪雨ニ變ズ、治世ト思ヒ、民ヲ侮レバ民數減ジ、甚シキハ凶賊起テ、千載迄耻辱ヲ受ク、若他邦ヨリ入來テ、民數相益サバ、是國家ノ盛嫩也、出奔者多ケレバ其者ヲ惡マズ、政事ノ邪正ヲ考フベシ、太田道灌ノ和歌ニ、「春ノ野ニ角グム澤ノ蘆邊ニハ繫ガス駒ゾ放レザリケル」夫南面ノ君是和歌ヲ忘ルベカラズ

○ 客云、民服スル本ハ如何ナル法ゾ

答云 宋薛文清云、「爲國通於下情爲急」下情ニ通ゼズ政事ニ與ルハ、盲者ノ書ヲ書ガ如シ、古ノ明王ハ坐シテ天下ノ事ヲ知リシハ、始下情ニ達スル故也、堯帝ハ民ト共ニ康衢<sup>チマヅ</sup>ニ遊ビ、周公ハ市中ニ下ツテ毎日天下ノ士ヲ待ツ、殷ノ高宗帝ハ幼時民家ニ在ス事凡六年、本朝ノ顯宗天皇<sup>人皇二十三代</sup>仁賢天皇<sup>四代二十</sup>幼時民家ニ潜ミ、收豎ト成玉ヘリ、是以テ能下情ニ通達シ、聖賢ノ君ト仰ガレ玉フ、武田信玄ノ時、農民ドモ艸刈ニ爭論シテ訟ニ及ベバ、倉方衆ヨリ今度ノ起ハ、鎌トヤラ云物ヲ奪シヨリ興リシト奏ス、信玄愠テ延喜帝ノ御製ニ、「賤ノ女ガ鹽筍<sup>シホ</sup>ノ塵ヲ拂フホド皎明ニ照セ山ノ端ノ月」夫天子ノ御身ヲ以テサヘ、斯卑キ民ノ產業ヲ知シメシ玉ヌニ、武士トシテ鉦鎌<sup>シヤ</sup>ノ器サヘ知ズシテハ、弓箭ハ執レズト諭セリ、

治世久ホド上臈ニシテ下遠クナリ、公伯ノ行路ニモ蹕警先後ヲ拂ヒ、庶民ハ惡臭ノ如ク、影ノ見ザル  
マデ追退、專威勢ヲ示スユヘ、小吏徒胥マデ之ニ見倣、公威ヲ鼻ニ掛テ下ヲ侮ルユヘ、下敢テ親附セ  
ズ、唯威ニ警テ而從スルノミ、若不虞ニ至ラバ危キ事也、二百年以前ヲ觀ヨ、大國ノ主ハ一人モ無ク  
滅ビ、卑賤ヨリ興ツテ天下國家ヲ艸創セシハ、僉下情ニ達シテ民心ヲ得ル故也、唐太宗侍臣ニ向ヒ、  
「自古艸創之主、至于子孫多亂何故、」房玄齡云、「此爲幼主生長深宮、少居富貴、未嘗識人間情  
僞、理國安危、所以爲政多亂」ト答フ、物情ヲ知ルハ、一々其物ニ當テ、碎ケザレバ分別シ難シ、  
觀世左近京都ニ出デ興行スレバ、素ヨリ高名ユヘ諸人群集ス、一日木賊刈ヲ舞ヒシニ、田舎ノ者兩三  
人盧胡シテ呢喃者アリ、左近之ヲ察シテ、樂屋ニ招キ子細ヲ問ヘバ、吾曹ハ藝ノ好惡ハ知ラズ、然シ  
吾曹ハ信州篠原ノ産ニテ、木賊ヲ植テ職業トス、今吾子ハ鎌ヲ以テ穫レドモ、斯致セバ根ヨリ拔ルユ  
ヘ、庖丁ヲ以テ向ニ僇テ伐ルト云ヘバ、左近手ヲ拍テ感ジ、吾能ニ心ヲ竭ス事凡四十年、始テ知レリ  
ト重謝シ、是ヨリ江戸ニ歸テ是振ヲ致セバ、益名高ク成レリ、是則木賊刈ト名クルユヘ、刈モノト心  
得シハ、俗云書物ノ丸出トハ是事也、或學者破古紙ノ藥種ヲ用ユルニ、反故ヲ以テ爲シ事モ是ニ類セ  
リ、又或邦ニ市街ノ側ニ公林アリシニ、市人屢盜ムユヘ、贖金ヲ懸ルニ、時ノ官吏地名帳ヲ調子テ、  
市町ニハ山林見エズト、其隣村ニ懸シ事アリ、左レバ村民モ其情ヲ認ルベキニ、一旦上ヨリ命ノ下レ  
バ、大概ノ事ハ逆キ得ザルハ、下民ノ情也、是故ニ上タル人ハ常ニ忠恕ノ二字ヲ服膺シ、白冰ヲ履ガ

如ク憤ズンバ、民ノ蝸蟲ト成ルベシ、又下情ニ熟達セズンバ、仁ヲ施シ却テ不仁ト爲事アリ、或邦ニ德音ヲ行ヒ、負者除<sup>レ</sup>之ト古例ニ從ヒ、郷村上ニ舊借ノ債ヲ悉拾玉ヒシニ、始拜借ノ時、庄屋ノ徒配當スルニ、貧農ノ輩ハ期日ノ不納ヲ恐レテ、富農ヲ擇ミ貸置シニ、是時ニ至テハ、富農ノミ不圖利ヲ得テ、貧農ハ分毫ノ潤ニモナラズ、之ヲ美ミ大ニ上ヲ怨ミシト聞ク、是等ノ事慈ハ慈ナレドモ、元來正キ道ニ非ズト云ヒ、畢竟時ノ官吏士俗下情ニ疎キユヘ、君上ノ慈仁ハ無ニ成テ、還テ怨民生ズル媒トナレリ、斯事世ニ甚多ケレドモ、下ニ居テ視ザレバ、其情ハ知レ難シ、又小身者ハ下情ニ達スト云ハ、席上ノ理談也、千石取ノ大身モ、五人扶持ノ小身モ、共ニ下情ハ知ルベカラズ、其心懸ニアリ、其故ハ五人扶持ノ者モ、其身ハ乃武士ト思フユヘ、唯士情ヲ知テ庶民ノ情ヲ知ラズ、民情ハ大圖ハ同ジトイヘドモ、細ニ説ケバ農工商各異ナリ、茲ニ一ノ良説アリ、或農民田畠ニ小鳥ノ懸ルユヘ、案山子ヲ立レバ、小鳥此ヨリ來ラズ、之ヲ見テ工夫ヲ加ヘ、鼠害ヲ殿ハント、猫ヲ塑テ柵ニ置シニ、衆鼠之ヲ翫ビ、咬嚙リシト云事アリ、是事愚トイヘドモ、理ニ於テハ少モ違ハズ、今世ノ俗更新法ヲ建ルハ、多ハ是等ニ類スル事アリ、人ヲ使フ者ハ先使ハレテ見ザレバ、其使ヒ様ノ耦合<sup>グアヘ</sup>ハ知レ難シ、令ヲ出ス者ハ、唯令ヲ出スノミニテ、令ヲ受テ見ザルユヘ、其受ル所ノ情ニ疎シ、由<sup>ナ</sup>是唯席上ノ理ニ據ルノミ、故ニ「高議而不可及、不<sup>レ</sup>若<sup>レ</sup>卑論有<sup>レ</sup>功」ト云、人ノ才<sup>チ</sup>詔ハ物ニ當テ違ク成者也、槍刀ヲ秉レバ腕強ク成リ、歩行スレバ足強ク、物ヲ荷ヘバ肩強ク成ルハ、難行スル故能人情ニ徹シテ、才智違ク成ルハ自

然ノ理也、上ニ居ル人ハ常ニ深宮ノ中ニ坐シ、接ル所ハ侍臣ノミ、曾テ爭友モ無ク、御氣ニ碍ヌ様ニ  
ト譚<sup>アシ</sup>フユヘ、遂ニ世間ノ事ヲ知り玉ハズ、朝廷ニ臨ミ下ノ告訴ヲ詔諭スルニハ、紙上ノ文意ニ據テ、  
多クハ始取り入リ申セシ事ヲ正實トス、故ニ上下齟齬スル事モ間有リ、故ニ一條天皇ハ躬民訴ヲ請ケ、  
北條泰時ハ自出テ訴人ヲ譚<sup>ト</sup>メ玉フ、梧憲漫筆ニ、下ノ言事ヲ取舉レバ、政事ヲ誹ルト云、言ヌガ善、  
抑付ルハ、小人ノ態也、大學ニ、他ノ技無ク、其心休々焉ト、容ル有ヲ大臣ノ職ト記セルハ、國家ノ  
針砭ト云ベシ、書經、「舜稱堯曰、稽<sup>ト</sup>于衆、舍己從人」ト云、夫聖人トイヘドモ斯政務ヲ重ジ、衆人ニ  
聽玉ヘリ、唐太宗蕭瑀ニ向ヒ、朕少年ヨリ弓ヲ好ミ、良弓數張ヲ求メ、此ニ勝ル弓ハ有マジト思ヒ、  
弓工ニ見セシムルニ、木理正カラズ、故ニ矢ヲ發ニ直ナラズト云、朕久シク弓ヲ執ドモ、弓ヲ知ル事  
未盡ス事能ハズ、況天下ノ政務ヲヤ、豈自足レリトセンヤト宣フ、是以テミレバ、下ニ問ニ如ズトイ  
ヘドモ、若下ニ問ハバ、今時ハ先其者ノ家職ヲ知テ問ザレバ、多ハ私欲ニ由テ答ヘ、剛直正言ノ者稀  
也、故ニ古ハ賢良直諫ノ士ヲ民間ヨリ舉玉フ、又理ト實ト差フ事アリ、譬バ刀劍ヲ寒中ニ劔ハ理ナリ、  
然ドモ今時ノ灑<sup>ト</sup>創<sup>シ</sup>工ハ湯ヲ以テ劔グ者多シ、是實ナリ、斯事世ニ多ユヘ、民間ノ實地ヲ踐ズ、徒ニ人  
ノ奏スル儘ニ議決スレバ、大ニ相違スル事有者也、魏文公云、「耳聞之、不如目視之、目視之、不  
如足踐之、足踐之、不如手辨之、人始入官、如入晦室、久而愈明、明乃能治行」ト云リ、北條時賴  
ノ如ク微服潛行スレバ、隨分下情ニ熟達シ、民ノ難澁ニモナラザレドモ、後世ノ君ハ所詮其先蹤ヲ踐

ム事ナフザルニ、唯下情ヲ知ル爲ト、餘多ノ衛士ヲ引具シテ村里ノ廻リ、或ハ鵜鷹道遙等屢催セバ、却テ下ノ憂トナル、或諸侯鯉一尾ヲ受玉ヘバ、大盆ニ水ヲ入テ、其鯉ヲ生ケ座ニ持來レト命ジテ、近習ヲ皆坐セシメ、生簀ヲ以テ右ノ鯉ヲ挾ントシ玉ヘバ、乍チ磔々ト鱗振テ、盆水座中ニ進ル、此時左右ニ向ヒ、汝等<sup>ニ</sup>是ヲミヨ、鯉ハ我ナリ、壘ハ庶人ナリ、我田獵野遊ヲ嗜ザルニ非ズ、然ドモ妄ニ動カザルハ、壘ヲ汚スヲ恐テナリト諭シ玉フ、巫馬期ハ星ニ出テ星ニ歸テ治ム、宓子賤ハ高堂ニ琴ヲ彈ジテ治ム、其治方ニ於テハ何レモ同ジトイヘドモ、兎角下ニ良智ノ小吏ヲ得ズンバ、善治ノ方ハ見ヘザルナリ

○客云、古書ニ人ノ遇不遇ヲ論ジテ云、「有明於事情、不合於人心」者、有合於人心、不明於事情<sup>者</sup>」トミユ、又制度ヲ建ルニ、理ニ合テ業ノ屈カヌ事アリ、業ハ屈ク事易クシテ理ニ通フ事アリ、斯時ハ何ニヨランヤ

答云「政正也、下所<sup>レ</sup>取<sup>レ</sup>正也」ト云、正道ヲ以テ致サバ、人ハ木石ニ非ズ、何人カ信ゼザランヤ、私ヲ生ズルユヘ信服セズ、信服セザルニ、公威ヲ以テ苛酷ニ致サバ、罪人益多カルベシ、斯時ニハ官吏ヲ倍蓰シテ加テモ益足ザルナリ、是大ナル耻辱也、理ニ逆テ業ノ屈クハ、暴威ト云ベシ、理ハ木ノ理ナリ、試ニ逆木ニ鉤ヲ突セテミヨ、一寸モ突レズ、我意ヲ以テ突時ハ、カンナ折テ板ハ裂ケ、兩方共ニ用ニ立ズ、故ニ法ニ背理ハ有レドモ、理ニ背ク法無シト云、蓋唯理ノミニヨレバ、偏固ニシテ一事ニ拘泥シ、活

斷ナラズシテ下ノ難儀ニ及ブ事アリ、故ニ古ノ賢者ハ、其事ニ應ジテ權變ヲ用ユレドモ、權道ト云ハ、之ヲ斷ズル世俗士ノ及ブ所ニアラズ、動スレバ了簡違ニテ、正理ニ違フ事アル者也、由<sup>レ</sup>是聖經ヲ規矩トナシ、實地ヲフンデ人情ニ愜フトキハ、下敢テ服セザルナシ、余田園ニ多ノ櫻欄ヲ植シニ、數年ヲ經レドモ曾テ延ズ、或老農皮ヲ剥バ太ラズト云、因テ衆人ニ問ヘバ、皆皮ヲ剥バ枯ル、ト云ユヘ、尤理ニ當レリト、其儘ニシテ數年ヲ過セドモ少モ易ラズ、始教ヘシ老農重ネテ、我ハ明試シテ之ヲ知ルト云、由<sup>レ</sup>之皮ヲ剥バ、是ヨリ漸々太レリ、衆人ノ謂所ハ理言也、老農ノイフ所ハ實論也、是意ヲ考ヘヨク自試ミテ法ヲ立ベシ、橘憲茶話ニ、「凡欲<sup>レ</sup>行<sup>ニ</sup>新令<sup>一</sup>者、須<sup>ニ</sup>以<sup>ニ</sup>自試<sup>一</sup>、法可<sup>ニ</sup>以<sup>ニ</sup>行<sup>ニ</sup>於天下<sup>一</sup>、未<sup>レ</sup>試之法、不可<sup>レ</sup>行<sup>ニ</sup>於家庭<sup>一</sup>」ト云、寔ニ政事ヲ執ル確言也、王陽明ガ語ニ、理ハ究メ難シト云理ハ、利口辨才ニ由テ、如何様ニモ立者也、故ニ民ノ内情ヲ主トシテ、正法ニヨラシムベシ、國ハ千百世來續ユヘ、一朝一夕ノ事ニ非ズ、民事ニ係ル事ハ、始制法ヲ立ル時、十二九分届クト見込トモ、又モ再思シテ工夫ヲ加ヘ、彌民情ニ叶フ事ヲ能試ミ、下ニ不信ノ惡名ヲ受ザル様ニ、千載不易ノ法ヲ出スベシ、若クニ七八分ハ届クト疑ハハ、始ヨリ思ヒ立事勿レ、唯儉約々々ト質素過テ立レバ、必久ク傳ラズ、又文華ヲ專ニ寬緩ナレバ、後ニハ困窮ノ基也、是耦合<sup>ゾアヒ</sup>ヲ能々查ヘ、中節スベシ、改革仕組ナド思立時代ハ、上ニモ賢良ノ君興リ、忠良ノ臣モ出レバ、國民モ共德澤ニ懷キ、一時ハ隨分風俗モ變ズレドモ、人心ハ移リ易シ、賢君・良臣モ又數代續ク者ニアラズ、故ニ後世ヲ考ヘ、不朽ノ法ヲ思慮致シ、必目前苟且ノ

事ヲナスベカラズ

○ 客云、法ヲ出スニ、先一番ニ何事ヲ出スベキヤ

答云 先法ヲ求ンヨリ、先人ヲ求メヨ、人ヲ求レバ法自ラ立ベシ、聖王ハ人ニ任セテ、法ニ任セズ、人ヲ恃ンデ、法ヲ恃マズ、故ニ人ヲ得ル事、治亂共ニ國家第一ノ先務也、然ドモ人ヲシルハ聖賢モ難シトスルユヘ、千里ノ馬ハ常ニアレドモ伯樂ハ常ニアラズト云、加藤清正常ニ人ヲ知ル明無ヲ憂ヒ、餘リノ事ニ人相マデ稽古セシト聞ク、近年肥後銀臺侯モ、晝夜是一條ニ心ヲ苦メ玉ヘリ、人ヲミルハ上ヨリミヘ難シ、下ニ問フベシ、下ノ視ル所ハ、天ノミル所也、故ニ古ノ君ハ、人ヲ舉ルニハ萬民ニ訊ヒ、又卜筮シテ天地ニ問ヒ玉ヘリ、君ハ縱賢良トイヘドモ、良臣無レバ、上ハ遠キ者ユヘ、蔽鄣セラレテ下情否塞シ、其德下ニ渡ラズ、故ニ蘇轍云、「天下治亂、出於下情之通塞」ト云、賢君ハ始人ヲ求ルニ勞スルユヘ、後事ヲナスニ甚逸シ、閭主ハ始人ヲ求ルニ逸キ故、後事ノ成ニ甚勞ス、子游武城ノ宰ト爲トキ、孔子モ發語ニ人ヲ得シヤト尋ネ玉フ、衛靈公ハ無道トイヘドモ、良臣多ユヘ喪ビズト孔子モ宣ヘリ、神祖ノ語ニ、國家ハ重荷ユヘ、縱大力ノ肩輿カキ僂トイヘドモ、介副無テ叶ハズト仰ラル、權家大臣ノ言出セル事ハ、多ハ喔咻シテ逆ハザルハ人情故、必一孤ノ了簡ニ任ズベカラズ、一言ニ由テ萬人ノ憂トモナリ、權トモナル者也、論語、「爲<sub>レ</sub>命裨諝草創之、世叔討論之、行人子羽修飾之、東里子產潤色之」ト右ノ四人ハ、鄉國ノ良臣ニテ、各其長ズル所ニ由テ一事トイヘドモ能切瑳琢磨ノ功ヲナ

ス、是則民ヲ重ズル所也、今時ハ治世久キユヘ下ヲ侮リ、令ヲ下スニ高才高タル事間有テ、民情ニ齟齬  
スル事モ自然ト生ズルベシ、易云、「失之毫釐、差以千里」ト、其始ヲ能々慎ムベシ、大學ハ「初學入  
德之門」ト程子モ記セシガ、本ノ一字ヲ專ラ説シ書也、四民ノ風ヲ改ント欲セバ、先士風ヲ一番ニ正  
ニアリ、本ヲ正セバ末ハ自ラ治ルベシ

○ 客云、仕組ヲ立ルニ、何年ト限ツテ下ニ令スベキヤ

答云 法ヲ立ルニ奈何ゾ年限有ルベキヤ、唐韓偓云、「士不用詐巧」今諸國儉約ノ令ヲ下スニ、始ヨリ  
永年ト云ハ、庶人定テ厭倦有ント推量シテ、五年十年ト年限ヲ立レドモ、倘五年ヲ過レバ法ヲ類シテ  
宜キヤ、彌五年ニ風俗變ズル見込アルヤ、若見エズンバ又五年ト令セン、斯表裏ヲ以テハ信義ヲ失ス、  
信ハ國ノ大寶ト云、國寶ヲ失ヒ、國何ゾ富ムベキヤ、是故ニ始千百年不易ノ法ヲ立テ、永年ト令スベ  
シ、斯事ハ畢竟下ヲ謾ルヨリ生ズル所也、莊子云、「名實之實也、豈可汚哉」是語身ヲ修ルモ、國ヲ治  
ルモ、第一緩ルベカラズ、身ハ父母ノ遺體ナリ、我名ヲ人ノ名ト念ヒ、賓客ノ如ク大切ニ思ハ、汚  
スト云事有ベカラズ、我名ト思フユヘ、身ヲ自惜落ニ保チテ、遂ニ名ヲ汚セリ、國家モ先君ノ遺物ト  
思ヒ、又領領ノ如ク思ヒ、民ヲ賓客ノ如ク恭敬ノ心アラバ、人皆尊シデ君ト稱ス、我領國ト思フユエ  
下ヲ輕シ、正道ヲ失フナリ、「君猶天也、繆然而善謀」明史ニ出ト云ヘバ、心緩ニ治メテ、必年限等ヲ立ル  
ベカラズ、速ヲ欲スレバ大事ハ成ラズトミユ

○客云、恢復ニ精神ヲ懲サバ、十年ニシテ成ルベキヤ、又市街鄉村何ガ治メ易キヤ

答云 其ノ士ニ由ルト雖モ、大國ヲ以テ論ズルニ、市町ハ商賈ノミ多シ、商賈ハ決斷鋭キ者也、故ニ治メ易シ、農民ハ至テ愚鈍ニシテ、私欲一逞成者ユヘ、商賈ニ徒黨ト云ハ減多ニ無レドモ、農民ハ聊ノ事ニモ群黨ス、故ニ賢才ノ者其郷ニ平生細カニ諭ストキハ、人氣モ亦一變スベシ、其次ハ工職也、工人ハ獐獐成者トミユ、一國一郡ノ中ニモ、二三處ハ風俗人氣ノ惡キ士ハ、何ノ地ニモ有者也、難ヲ先ニシ、得ヲ後ニスト、先共人氣惡キ處ヲ一番ニ改ムベシ、蓋風俗ハ改メ易ケレドモ、人氣ハ卒爾ニ變化シ難シ、之ヲ改ルハ法ヲ出シ、唯威ヲ以テ抑ユレバ益暴ク成ドモ、氣質ノ變化ハ決シテナシ、故ニ仁德ヲシキ、時々利害ヲ説テ諭スニシカズ、次ニ四方ノ界目ハ、何レノ邦ニモ大形大氣ハ惡キトミユ、是ヲ第一ニ改ムベシ、隣國ト不和ニ及モ、皆其根元ハ界目ノ土民ヨリ起ルベシ、又治國ニ年數ハアルベカラズ、終身國事ニ抛チ、氣ヲ弛ムル事勿レ、鄕子產云、「政如農功、日夜思之、思其始、成其終、朝夕而行、行無越思、如農有畔、其過鮮矣」ト、農民ノ耘耔ヲミヨ、身體ヲ勞スル事、穀一顆ハ汗一滴ト云、斯辛苦シテ始田畠ヲ能冀培シ、種播トイヘドモ、少怠レバ穠草生ジテ、竟ニ荒穢シ、田ニハ蝗蝻螽蟴生ジ、畠ニハ菜・蕪菁・菰・荻等ニ蠛蠹・滑蟲生、或ハ地中ニハ螻蛄・土龍・蟻蝦等ノ害アリ、上ニハ野雀・鳶・鵲・鳩・雁・鴨ノ害、又ハ野鼠・鹿・兎・猪・狸ノ害、身ニハ蝨・蝨・蜚・蠅・蚊・蜂ノ刺毒、或ハ日蝕・洪水・暴風・旱魃ノ天災、斯天地禽獸蟲類ノ毒害有テ、終歲一時モ油斷成難シ、斯

艱難シテ輸メシ穀祿ヲ空シク坐シテ食スベキヤ、嘉草良蕘ハ日ニ手ヲ入ザレバ衰枯スレドモ、惡キ穠  
莠ハ種播カズシテ自生スルガ如シ、邦モ人民衆キ故、善者ハ憚ラズ、時々賞セズンバ終ニ盡キ、惡人  
ハ漸々起リ易シ、是意ヲオモヒ、終食ノ間モ國事ヲ忘レテハ、盛政ハ遂難シ、國ヲ興スモ家ヲ興スモ、  
其創業ノ艱難ニ至テハ異ナラズ、庶民ノ家ヲ興ス、身ハ須臾モ職事ヲ忘レズ、夜トイヘドモ熟睡セズ、  
官局徒胥ノ十人ハ、一人ニテ事ヲ勉ムトミユ、「夫賢臣之事君也、受官之日、以主爲父、以國爲  
家、以士爲兄弟、故苟有以安國家利人民<sup>ト</sup>」云、官吏是語ヲ監ミ、夙夜不懈、終身治ラズト思  
ヒ、必心ヲ怠ル事勿レ、「良醫不<sup>レ</sup>必康健、儒師不<sup>レ</sup>必篤行、是皆知爲人、而忘<sup>レ</sup>修己者也」ト產語ニ見  
タリ、故ニ官ヲ受レバ、人ヲ正サンヨリ、先我身ヲ正スニアリ、書云「兢兢業々、一日二日萬機」夫  
聖王ノ大智ヲ以テサヘ、如<sup>レ</sup>是治國ニ心苦メ玉フ、況後世ノ君片時モ怠ルベケンヤ

○客云、仕組ヲ立ルニハ、事多忙ニシテ、又國產ヲ立ルニハ、職掌兼行シテハ届キ難シ、故ニ又官  
局ヲ建ルハ如何有ンカ

答云 官局ヲ廢シ官吏ヲ加ユルハ、先代ニ對シテ甚耻辱也、之ヲ減ズルハ當君ノ蠲トスベシ、故ニ古  
ヨリ官ヲ增ヲ禁法トス、聖人四職ヲ立テ、各身ヲ保チ、敢テ上ヲ冒サズ、君ハ民ノ養フ所也、故ニ產  
業無シ、士大夫モ俸祿有身ユヘ產業無シ、是古今ノ常道也、魯ノ公儀休ハ國相爲ルトキ、其妻能布ヲ  
織レバ、是庶民女工ノ妨ト、乍<sup>レ</sup>機ヲ燔棄、是以テ各其職ヲ守ル事察スベシ、然ルニ民ヨリ養ハレ、又

民ノ職ヲ奪フテ自利ヲ得ルハ、人君ノ道ニ於ハ無キ事ナリ、縱官庫ヲ富スーイヘドモ、君子ノ綱義ニ  
遭フベシ、然バ財ヲ以テ汚名ヲ沾ト云者也、奈何ゾ人君ノ名ヲ千萬金ニ替ルベケンヤ、欲ハ限無者ニ  
テ、義ヲ以テ抑ズンバ、遂ニハ邪暴ニ陷ルベシ、故ニ「君子恭儉、取下有義」ト云、國ニ由テ一向  
產物無土アレドモ、依然トシテ永續スル處多シ、又國產仕入レテ上ニ利益ノ國有レドモ、格別拔デタ  
ル上國ニモ非ズ、又代々富ルニモ非ズ、文武功名ノ者興ルニモ非ズ、却テ無產物ノ國ニ劣ル處アリ、  
廉ト義ト捐ザレバ利ハ得難シ、廉義ヲ捐レバ武士道ハ廢ル者也、故ニ財利ヲ専ラニスル國ハ、弱國ト  
思フベシ、「不富無爲仁」ト上富ザレバ、治亂共ニ用ヲ遂ズト云ドモ、國家ノ富ハ產物興利ノ小利ニ非  
ズ、斯所ニ日ヲ附テ利ヲ貪ルハ、小ヲ視テ大ニ聞シ、貢賦ハ祖宗ヨリ究アリ、官庫ヲ富ス其本ハ、上ノ  
儉約ニアリ、年ノ始ヲ元年正月ト云モ、其本ヲ正ス誠メナリ、昔或人妻ヲ娶リシニ、姑其婦ニ命ジテ  
堅固ノ桶ト櫛ヲヨセ、又破タル桶ト櫛ヲ副、先堅固ノ櫛ヲ以テ、破桶ニ水ヲ入レシムルニ、櫛ハ隨分  
一盃ヲ汲メドモ、破桶ユヘ百度汲テモ一滴溜ラズ、勞シテ功無シ、姑是度ハ破櫛ヲ以テ堅桶ニ入シム  
ルニ、破櫛故ハカドラズ、然レドモ終日汲マシムレバ、一滴ヅ、霽<sup>ソダ</sup>リテモ、終ニハ桶ニ溢レ充ツ、是時姑  
ガ諭ニ是ヲ能監ミヨ、家ノ盛衰モ如是、夫ハ破櫛也、妻ハ堅桶也、夫家職ニ艱難シテ、日ニ千金ヲ入  
ルトイヘドモ、内ニ儉約ヲ立ズンバ、破桶ニ水ヲ入ガ如シトイフ、是事ハ民家ノミニ非ズ、王侯大夫  
ノ第一守ルベキ語也、假令十萬石ニ又十萬石加テモ、儉約ヲ知ラザル君ハ、祿益バ奢モ又益スユヘ、

破桶ニ水ヲ入ルニ似テ、官庫ニ留ルト云事有ベカラズ、内ニ儉約ヲ守レバ、國計微小トイヘドモ、一滴ノ水モ積レバ、遂ニ桶ニ充ルガ如シ、羽州米澤ハ今十五萬石ニテ、昔ノ三十萬石ノ時ヨリ、家臣ニ至ル迄還テ富饒ト聞ク、大形大國ノ大名ハ乏ク、小國ノ主ハ却ツテ富ミ、大祿ノ大夫ハ貧ク、小身者ハ乏カラザルハ、皆ナ祿ノ多キヲ恃ム故也、始民ノ納ル一粒一汗ノ艱難ヲ、我身ニ體認シテ、一錢ト云トモ妄ニ費スベキニ非ズ、大樹吉宗公ハ、諸國代官ヨリ年貢皆納ノ目錄ヲ献ズルニ、之ヲミテ落涙シ、我不肖ニシテ天下ヲ治ル大任ヲ受、未一條モ庶民快樂ノ法ヲ出サズ、却テ庶民ヨリ貢ヲ供ユル事、頗ル本意ニアラズ、上ヨリコソ惠ムベキニ下ヨル惠マル、事、聖賢ノ懍トセザル所也ト、一首ノ和歌ヲ詠ジ玉フ

受ケツギシ國ノ司ノ甲斐ゾ無キ、惠マヌ民ニ惠マル、身ハ

唐ノ太宗ハ一食毎ニ稼穡ノ艱難ヲ念ヒ、一衣毎ニ紡織ノ艱苦ヲ思玉フ、神君坐シ玉フトキ、俄ニ風來テ、懷紙一枚庭園ニ吹飛シヲ、自立テ拾ヒ玉ヘバ、侍臣皆笑ヲ含メリ、神君云、我ハ是ヲ以テ天下ヲ治ムト宣フ、是則始民ノ難澁ヲ知玉フ故也、黒田如水侯ハ癰疽ヲ疾ミ、膿血ヲ拭ヒシ紙ヲ集メテ屏風ヲ張り玉フ、今ニ於テ重寶トス、是偏ニ子孫ノ訓誡也、國家本無「賡乏」之理、而至「子匱乏」者、未知先王量入爲出之道ト云、國家ノ貧富ハ無他、唯是四字ニ決スル也

○客云、「四維張、則君令行」然バ臣下サヘ禮儀靡恥ヲ行バ、君ハ行ハズトモ、下モ服スベキヤ

答云 君ハ勿論ノ事ナレドモ、君ハ遠ク官吏ハドニ近ク、日ニ民ニ接ル故也、孔子云、「令不行者臣之罪也」令ヲ下シテ、民行ハズンバ民ヲ責ズ、先官吏ノ四維ヲミルベシ、四維ヲ有メズ唯民ヲ責ルハ、我民ヲ惡ムト云ベシ、特ニ今時ハ第一恥ヲ知ルヲ主トセコ、恥ヲ知レバ餘ノ禮儀廉恥ハ自生ズ、治世久ク上ニ逆フ者無ユヘ、下ヲ侮リ賦歛役力ヲ賸シ、或ハ自意ヲ以テ民間ノ煩憂タル事ヲ致スモアリ、是他國ニ對シテ大恥辱也、故ニ恥ヲ知ルヲ主トスベシ、又制度ヲ立ルニ、今苦ドモ後チ好事有、今ハ好ミユレドモ、後害ト爲ル事アリ、管子、「儉度利、而後有儉度、樂而有憂者、聖人不爲也」ト云、德政ハ勿論民ニ一時ノ苦ヲ除カント後害ヲ求ル事、俗智ノ者ハ問々有者也、一家ノ事ハ家主一人ニテ計ユヘ、一旦過ツトイヘドモ、惡トミルトキハ、一時ニ消易ケレドモ、國天下ハ大ナル者ユヘ、事過テハ俄ニ頽シ難シ、是故ニ始能々念ヲ入レ、儉度ノ利ニ迷フ事勿レ、又國產ヲ興スニ樹木・菓實・藥艸、其外一切ノ器具等、他邦ニ價金ヲ出サヌ様ニト自國ニ仕立ルハ、縱一道ヲ領ストイヘドモ、全屈ク事ニ非ズ、況一國二國ニ於テヲヤ、「非其土、樹之不生」ト聖人ノ語アリ、天地ノ間ニハ土ニ磽肥有テ、各其業穀ニ應ズルナリ、因「是唯兵備ノ用タル物ヲ撰ンデ仕立ルベシ、今時ハ小才ナル者經濟家ト唱ヘ、天地ノ道理ヲ知ラズ、自意ニ任セテ様々ノ事ヲ工ミ、後害ヲ招ク事間有リ、深慎ムベシ、尙委ハ田賦ノ部ニ出ス

○ 客云、「倉廩實、則知禮節」トハ、誠ナル哉、先家ヲ富サズンバ、文武ノ稽古モ成ラズ、是故ニ先

貨殖ノ術ヲ學バンカ

答云 世間皆是語ヲ以テ窮スルトキハ、不信不義ハ有者ノ様ニ心得バ、甚以テ了簡違ナリ、此句ハ管子牧民ノ篇ニ載テ、民ヲ牧フ人君譴責ノ語也、首ニ「凡有地牧民者、務在四時、守在倉廩」ト云ハ、專上ニ儉約シテ、賦斂役力ヲ減ジ、國民ニ倉廩ヲ充シムレバ、禮節ヲ知ルト云事也、然ニ後世是句ヲ取違ヘテ、王侯ハ先倉廩ヲ實シメント、商人ノ職ヲ奪フテ產物ヲ仕入レ、或ハ賦斂ヲ厚フシ、一圖ニ財ヲ賄<sup>オウ</sup>ント欲シ、官吏ハ收斂シテ民ヲ虐ゲ、士ハ利財ニ目ヲ觸レテ、禮儀廉恥ヲ忘ルレハ、管仲却テ後世ノ賊言ト爲ルハ、實ニ嘆息スベシ、余案ニ、此句ヲ轉倒シテ、知禮節則倉廩實ト心得ヨ、禮ハ天理ノ節文ニテ、第一驕奢ヲ禁ズ、謹身節用、是君子ノ道也、奢ラズンバ倉庫實ズト云事無シ、武侯云、「以儉興、以奢亡」、自古天下國家ヲ亡ス者ハ、皆庫廩ニ金銀寶ザルハ無シ、中華歷代ノ帝王ニ、隋ノ文帝程財ヲ蓄ヘシ者無シ、財多ユヘ其子煬帝稀代ノ驕ニテ、唐太宗ノ爲ニ滅サル、是時太宗云、隋文帝ハ儲積可供五十五年、其子煬帝富饒ヲ恃ミテ天下ヲ失ヘリト云、近世大坂ノ城儲積百七十萬兩、然ドモ奢ニ長ジ禮節ヲ知ラザルユヘ、遂ニ滅亡ス、朱子云、「財者人之所同好也、而我欲專其利、則民有不得其所者矣、大抵有國有家、所以生起禍亂、皆是從這裏來、今ニ於テ庶人トイヘドモ、豪富ノ徒禮節ヲ知ラザルユヘ、縱其身一生ハ全フスルヲ得ルトモ、其子ヲ生ニ至テハ、大形病身者カ、夭札スルカ、愚鈍ノ者カ、是三ヲ免レ難シ、富貴ノ子ニ賢才ナル者ハ減多ニ無者ナリ、財多

ユヘ、不知不識漸々奢侈ニ長ズ、財無ンバ、驕ラント欲スレドモ得ベカラズ、故ニ貧ハ身ヲ苦ムレドモ、天ヨリ禮儀ヲ守ラセ玉ヘリ、「漢疏廣上疏乞骨骸、宣帝許之、賜黃金、既歸領與之族人、故舊相與娛樂、不爲子孫立產業、曰、賢多財、則損其志、愚而多財、則益其過、且富者衆之怨也、吾不欲益其過而生怨」ト云、富ハ衆ノ惡ム所ニテ、今民間ニ於テモ已ニ富メバ、士人ヲ始トシ、衆人猜シデ皆誹謗ス、況王侯ノ身ニ於テヲヤ、若上窮スルトキ、民苦ニ爲ル事ヲ企ズ、默シテ居ラバ、衆民固ヨリ君ハ大切ニ思フ者ユヘ、躬求メズシテ心ヲ副ル者也、仁德天皇ハ三年ノ租稅ヲ免シ、宮殿朽テ雨漏ルトキハ、桶ヲ据テ坐シ玉フ、皇后ハ敝衣ヲ衣玉ヒ、甚賤乏ヲ憂ヒ玉ヘバ、天皇諭シ玉フテ、朕已ニ富メリ、天子ハ天下ヲ以テ家トス、天下ノ倉廩ハ輒我倉庫也、今百姓已ニ富メリ、是朕ガ富ナリト一首ノ御製アリ、「樓ニ登リテ視レバ煙立ツ、民ノ竈モニギハヒニケリ、」是時庶民皆君ハ斯宮殿壞レシ中ニ在シ玉フニ、我々何ゾ安宅スベキヤト、男女老弱五歳ノ子ニ至ルマデ、手ヲ携ヘテ土ヲ運ビ、材木ヲ荷ヒ宮殿ヲ造營ス、大聖王ノ德ハ、躬貢ラズジテ自成レリ、禮節ヲ守ラズ、倉庫ヲ實シメント欲スレバ、無止事民ヲ厭賤ニイタル、君怨レバ、倉庫實テ何カ爲ン、奈何ゾ財ト民ト濫ルベケンヤ、民ハ輒寶也、故ニ四民ヲ御寶ト云、夫獨富ントスルハ、匹夫ノ志也、高臺ヲ築クニハ、土臺廣カラザレバ、傘ヲ立タルガ如シ、故ニ易云、「損下益上謂損、損上益下謂益」、朱子云、「在人上者、施其澤以及下則益也、取其下以自厚則損也、譬諸壘土、損於上以培厚其基本、則上下安固矣、

豈非益乎、取於下以增上之高、則危墜至矣、豈非損乎」夫易ハ天地ニ象ル聖經也、易ヲ觀テ天地同體ナレバ聖人ト同德ニシテ、天地感應シテ天下ニ敵無シ、是則聖王ノ大武ナリ、「魯哀公問政於孔子、孔子對曰、政急者、莫大使民富且壽也、公曰、爲之奈何、孔子對曰、省力役、薄賦歛、則民富矣、敦禮教、遠罪疾、則民壽也、未有子富而父母貧者也、」是語ニテ思當ル事アリ、二三十年以前、民戸十餘萬許ノ大國ニ、上窮シテ無<sub>レ</sub>已事<sub>二</sub>時ノ官人、上金ヲ勸メシニ、凡五六千兩ニ至ル、又三四萬戸ノ小國ニ、是モ上窮シテ上金ヲ勸メシニ、凡二三萬兩ト聞及ベリ、土地民數ハ廣大トイヘドモ、財ハ十分ノ一ニシテ大惣ノ違ナリ、左レバ千金ノ身代ヨリ、十兩ハ毎年欣ンデ獻ズレドモ、百兩ノ身代ヨリ一兩ハ苦ンデ納ム、其納ムル員數ハ同フシテ、欣苦アルハ下ニ財寡ユヘナリ、上寛宏ノ政ヲ布ズ、小泥トキハ、財貨ハ他邦ニ散テ虛國ト爲ル、天地ノ間ハ皆陰陽有リ、陰陽ハ兩立セズ、上モ富ミ下モ富ミ、兩方全ト云事ハ無者也、故ニ財上ニ集レバ、下ハ必槁ルベシ、上ハ一人ノ畜財、下ハ萬人ノ蓄財ユヘ、其集ル所大ナリ、由<sub>レ</sub>是上ノ蓄財ハ、俗云小欲大損也、邨文侯城ヲ還ントスレバ、民ノ爲ニハ利アレドモ、君ノ爲ニハ凶ト云、文侯云、我ハ民ノ父母、民ノ爲ニ利アラバ、死ストイヘドモ厭ハズト、竟ニ城ヲ還セシニ、果シテ卒ス、夫命ハ天ニ在リ、縱城ヲ還サズトイヘドモ、死ハ避レ難シ、民ノ爲ト云シユヘ、數千載ノ今ニ至テ、和漢共ニ仁君ト稱美ス、諸國世間ノ俗詳ニ、王侯大夫ハ生質大量ナレドモ、批政小狭ナルハ、畢竟小身者ヨリ生ズト云ハ、左モ有ルベキ事カ、筭子「以家爲郷、郷不

レ可爲也、以郷爲國、國不可爲也」トミユ、一家ヲ治メ一二ノ奴僕ヲ使フ小心ヲ以テハ、廣大ノ國天下ヲ治ル事ハ、稀代ノ英雄ニ非ズンバ成難シ、故ニ小船ノ舵工<sup>カゴ</sup>ハ大船ニハ雇ハズ、其驅引小ナレバナリ、庶人ハ富有ヲ以テ譽トス、武士ハ文武ヲ以テ譽トス、財貨ニ富ムハ賤シ、文武ニ富ムハ貴シ、今世間ヲ觀ルニ、文武ニ達セシ士ハ、人皆尊崇スレドモ、財貨ニ富ム士ハ、相卑シズル事庶人ニ倖シ、貧士之常也ト云ハ、最貴キ語也、今時ノ經濟家ト云ハ、經濟ノ字ヲ心得違フテ興利ト思ヒ、鷄ヲ多畜テ卵ヲ取レドモ、五年ト續カズ、或ハ蜂蜜・柑櫨・櫻櫚・格等ヲ裁テ財ヲ貯ヘント計ルハ、經濟家ノ以呂波也、一家ノ事ニハ隨分可也、國天下之政事ニ與ルニ至テハ、目附所尙小狹也、蘇轍云、「方今之計、莫如豐財、然所以豐財者、非求財也、益之也、去事所以害財者而已」ト云、是句ヲ萬事ニ附テ、一々心ヲ附レバ、國家ハ廣大ナル者ユヘ、一事ヅ、儉約シテモ、積レバ塵モ阜トナル故ニ、弊ヲ除ク事ハ小些トイヘドモ棄置ベカラズ

# 經濟問答秘錄卷一終

## 經濟問答秘錄卷二

### 經濟要論

○客云、國ニ貧民無キ様ニ致ス法アルヤ

答云 司馬溫公云、貧ハ自爲ス所ナリト、是言誠ニ然リ、大福在天、小福在勤、持グニ貧乏追付ズト、日月ノ運行ヲ見テ働サヘスレバ、貧乏ト云事決シテ無シ、蓋晝夜不寢働イテモ、庶民ハ文牒ユヘ、上ヨリ仁義忠孝ノ道ヲ教ザレバ、動スレバ天道ニ盪ル事有テ、天誅ヲ受テ貧窶ニ及ブ者モアリ、特ニ今時ノ者ハ、二日ノ儲給ハ一日ニ取ント利ニ走り、高利ヲ賖ル<sup>ムサホ</sup>ユヘ、二日持ゲバ一日休ミ、或ハ大酒博賭・美食・華奢ヲ好ムユヘ、竟ニ貧窶スルハ、全自貧ヲ願フ者也、故ニ貧富ハ彌情精ノ二ニ決ス、其精情ハ偏ヘニ上ノ政ト教ニ有リ、「君猶器也、人猶水也、方圓在<sub>レ</sub>於器、不在<sub>レ</sub>於水也」ト云、是語ヲ思ヒ、日ニ月ニ能教諭シテ、良民ヲ賞シ情民ヲ罰スレバ、自然ト相化シテ精力シ、貧民定テ盡ン、鄉村市町宿弊ニ化セラレ、困窮ニ及ベバ、姦猾備宗ノ者ドモ、拜借施米產物仕入等種々ノ事ヲ工ミ、上ニ難澁ヲ願ヘドモ、斯事ハ始良民ノ思立事ニ非ズ、元一兩輩ヨリ驅催ス所也、夫禽獸トイヘドモ他ニ食ヲ受ズ、自働イテ子ヲ育、況ヤ萬物ノ靈ニシテ、四職ノ業ヲ受ナガラ、自妻子ヲ育ム事ヲ得ズ、上

ノ力ヲ假テ身ヲ保タントスルハ、人ニ生レテ禽獸ニモ及バズ、「仁君不能愛不軌之臣」ト、何ゾ不軌ノ者ヲ惠ンヤ、楠正成河州ヲ治ルトキ、極貧ノ者有テ、里正ヨリ救濟ヲ乞フ、正成告誡ヲ聞テ、病身カ、老夫カ、父母妻子有ルカト問ヘバ、壯年ノ獨夫ト奏ス、正成怒ア、斯ル輩ヲ惠マバ、天誅我身ニ降ラン、早罰セヨト命ズ、上ノ賑救スルハ、鰥寡・孤獨・癯疾・盲人等ノミ、是古ノ正制也、蓋兵・飢・疫ノ三厄ハ國禍ト云テ、君子ノ身ニモ免レズ、故ニ上ヨリ濟ハズンバ叶ハズ、酒色・奕ノ三惡ハ自滅ボス所ユヘ、上ヨリ天ニ代ツテ誅スベシ、然ルトキハ國中潔清ニ爲テ、盛ニ及ブ事必定也、是モ衆民ノ規標タル官吏ユヘ、其職ニ與ル者若碁・將碁・或ハ酒宴怠惰ニシテハ、下此ニ慣フテ自然ト精力致サズ、孔子ノ云、生財有時、力爲之本、信州松代領大ニ窮スル時、恩田木工仕組ヲ附ケシニ、花奢禁制儉約等ノ事ハ姑ク其儘ニシテ置キ、先一番ニ精勤ヲ勵マセリ、其目ノ附ケ所能下情ニ達ス、故ニ富國ノ法ヲ求ント欲セバ、恩田氏ノ先蹄ニ從フニ如ズ

○ 客云、我封内偏小ニテ產物寡ク、穀計微少ユヘ、他邦ノ財貨自國ニ入ラズ、故ニ富饒ノ方ハ見難シ

答云 大樹吉宗公ノ和歌ニ、「事足レバ足ルニ任セテ事足ラズ、足フデ事足ル身コソ安ケレ」、是句ハ貴賤共ニ守ルベキ誠ナリ、「薰蕕不同器而藏、堯舜不共國而治、以其類異也」、孔子秦穆公ヲ美テ、秦ハ偏小トイヘドモ其政大ナリ、天下ヲ保ツモ可ナリト宣フ、寬廣ノ政ヲ布キ、國民精力スレバ、縱

邦ハ偏小トイヘドモ、天下ノ財ハ自集ルベシ、人皆社家ヲ頼ミ祈禱スルニ、中臣祓ヲ讀ム、臣ハ富ノ意ニシテ、民ノ轉語也、臣ハ民ノ長也、良民多ケレバ國必富ト云神ノ語ナリ、六韜云、「大農大工大商謂之三寶、農一其鄉則穀足、工一其鄉則器足、商一其鄉則貨足、三寶各安其處、乃不慮無亂」其鄉無亂其族ト云、領國ノ廣キヲ望ムハ凡情也、縱二十萬石ノ邦トイヘドモ、土俗不信念情ナレバ、十萬石ニ劣レリ、十萬石ノ國モ四民信義ヲ守リ、士ハ文武ニ勉強シ、農工商ハ家職ニ精勤セバ、其生ズル所ハ二十萬ニ充チ、不虞ニ臨マバ必勝ノ利アリ、又邦ニ大酒・博奕・遊樂ヲ禁ジ、僧徒・朱驢・其外遊藝・雜戶ノ者、無職徒口ノ民寡ケレバ、其生穀尙ツテ邦ニ留ルベシ、僮徒口ノ民多ケレバ、縱豐年續イテ生穀多トイヘドモ、彼等ガ爲ニ喰盡サレ、邦ニ蓄積ト云事有ベカラズ、是意ヲ考ヘ富國ノ法ヲ希ハバ、先徒口ノ民ヲ禁ゼヨ、左無ンバ壞堤ヲ修理セズ、天ニ害スルガ如シ、其譯委ハ國用考、及僧道部ニ出ス

○客云、今時ノ諸侯地ヲ領スルニ、諸處ニ點々シテ有チ、或ハ自國ニ他領夾ルハ、萬事ニ付テ障リアリ、何レ一國ナラザレバ、仕組モ附易カラズ、甚ダ不便利也

答云、吾子ノ言所ハ、地ヲ領スル者ノ皆嗜メル所也、蓋小見ニテ君子ハ拘ラズ、善ヲ好ミ惡ヲ惡ムハ古今ノ人情、今天下封建ト爲テ、諸國ノ政律其治亂驟雨ニ似テ、一封ハ青天白日、界ヲ一步越レバ、陰雲暴風有ガ如シ、諸國ヲ巡リ巷説ヲ聽テ考ヨ、倘仁君在セバ、百里ヲ隔トイヘドモ、瞻望スル事父

母ノ如シ、其邦ニ在ルトイヘドモ、苛政ナレバ惡ミ懟ム事寇讐ノ如シ、一國ニ領スレバ官吏自然ト下ヲ侮リ、自放ノ氣生ズ他領夾マレバ、相愧テ政務ヲ勵ムベシ、若他領ニ勝ツテ仁政ヲ施シ、賦歛ヲ薄フシ、役力ヲ省キ、賞罰明ナレバ、土人ノ身體ハ他領ニ在レドモ、心中ハ我民也、故ニ不虞ニ臨マバ乃我領ト爲ル、此意ヲ考ヘ他領ニ拔ヅル仁政ヲ布クニ如ズ、何ゾ邦ノ廣狹ヲ恃マンヤ

○客云、邦ハ廣キ者ユヘ、其中良臣智士無ニモアルマジ、然ドモ時變ヲ考ヘ、默觀スル者モ有シ、又官ニ入り費弊ヲ見テ、今年改シ、明年革ント狐疑怡愜スル者モ有シ、斯事ハ何ヲ善トス

答云「聖明在上、野無遺賢」ト云、「明々揚々側陋」トハ、堯帝廣ク賢ヲ求メ玉フ語也、然バ何ゾ聖賢ノ世ニ、良臣智士默シテ居ル者アランヤ、隱士多キハ國家ノ大耻辱也、又邦ノ惡事ト見ルトキハ、縱官ニ入ラジトイヘドモ、自進デ奏セヨ、是忠臣也、若用ラレズンバ、其罪ハ上ニアリ、若善事ト見ルトキハ、時ヲ遷サズ行フベシ、殊更利財ニ取テハ、欲ハ限無者ユヘ、勇ト義トヲ以テ思ヒ切ルベシ、治亂共ニ狐疑アルハ、是武士ノ大病也、武田信玄或夜諸士ヲ集メテ雜話セシニ、列座ノ者思々ニ語レドモ、譚談タル言ノミニテ、此ゾト感心ノ體モ無キニ、末席ヨリ新參者トミエテ、臣ハ元參州ノ產也、ヤクダ、スヘナシ故鄉ニテ老婆共ガ麥ヲ杼トキ、「思切ル手力無フテ、唯無爲トハ心カラ」ト謳ヘリ、臣此歌ヲ一度聞シヨリ肺肝ニ徹シ、今ニ於テ忘レズト云、信玄暫手ヲ授キ、マモズ睨目シテ思案シ、實ニ貴モ賤モ思ヒ切ルト云心無ユヘ、前後ニ迷ヒ利欲ニ溺ルナリ、余モ此ヨリ其心得アリ、此歌ヲ聞テ心ニ染シト云ハ、其氣ノ

附所尋常ノ者ニ非ズト、即座ニ祿ヲ増シ、足輕隊將トナス、信玄是ヨリ寡欲ト爲ツテ士ヲ慙ミ、又軍中ニ見切ノ早キ事神ノ如シ、或邦ニ百四五十年以前、家臣祿多ケレバ華奢ヲ嗜ムト、悉定額ヲ減ズレバ、是ヨリ衆臣大ニ窮シテ、文武ニ精力セズ、唯興利ヲ主トシテ妻子ヲ育マントス、君家モ祿ヲ賸セバ富ムベキニ、漸々匱ク成テ、却テ前代ニ劣レリ、信州松代至極困窮ノ時、恩田木工ハ仕組ノ始ニ、一番ニ家臣ノ減米ヲ當秋ヨリ現米ニテ渡スト令シ、是ヨリ段々制度ヲ立テ、國大ニ富メリ、是世ノ仕組者トハ黑白ノ違ニテ、其度量明智ナル事、庸士ノ及所ニ非ズ、是ヲ以テ觀バ、租税ノ多少ニ由ラズ、儉奢ノ二ツニ決ス、譬バ十萬石ノ定額ハ八萬石ト思切リ、殘二萬石ハ邦内ヲ官庫ト爲バ、四民悅服セズト云事無レドモ、是思切リ、仲々聖賢ノ君ニ非ズンバ成難シ、軍備ノ蓄積ハ、百萬金モ五十萬金モ易ル事無シ、財寡キトテ勝ツベキ軍負ルニ非ズ、勝負ハ財ノ多少、兵ノ衆寡ニ在ラズ、輒主將ノ德ニ在リ、仁者無敵ト云ナリ、國富メバ、不虞ニ臨メバ一時ニ集ル者也、官庫ニ在レバ、我物ト思ヒ、少ノ事ニモ費ヤセドモ、國內ニ在レバ、必止ト窮ニ有ザレバ妄ニ使ハズ、自然ト儉約ニナル者也、又王侯ノ家ニハ様々ノ變事起テ、大厦ニハ太キ風當ルト云テ、費財多キ者也、故ニ千萬金禪リテモ、子孫ニ至テハ大形ハ耗ル者也、此故ニ子孫ヲ思ハ、下ニ恩澤ヲ施シ置事、第一ノ兵備也、子孫ニ禪リ置ク財貨ヲ國民ニ譲リ置ケバ、君ハ民ノ父母ユヘ、子孫ニ禪リ置ニ異ナラズ、之ヲ陰德ト云フ也、溫公云、萬卷ノ書ヲ子孫ニ譲ルトイヘドモ、子孫讀ズンバ用ニ立ズ、萬金ヲ譲リテモ、子孫花奢ヲ好メバ

必盡ク、陰德ヲ冥々ノ中ニ施シ、以テ子孫永久ノ計ヲ爲スト云フハ、遠大ノ明智也、今時ノ仕組者ト云ハ、卑キ商賈ノ腸ニテ、上ヨリ物ヲ出サズ、下コリ取テ改革雜用ヲ致サント巧ムユヘ、却テ下ヨリ該調ニ遇フベシ、國ハ君ノ國ニ非ズヤ、萬物一切ノ品修復シテ新鮮ニ爲スハ、皆其給金無テハ出來ズ、刀劍ヲ劔ニモ劔キ貸掛リ、衣服ヲ洗濯スルニモ給金アリ、破屋ヲ修理スルニモ大鉤<sup>ワ</sup>ノ給金アリ、故ニ之ヲ沽ニモ其直相増ス、況國家ノ舊染汚俗ヲ洗濯スルニ、其主タル者給金ヲ出サズンバ、誰カ之ヲ償ハンヤ、汚俗ヲ改革致セバ、上國ト爲ツテ永世君ノ寶也、此意ヲ考ヘ、若上ニ財無ンバ、卒爾ニ仕組改革坏ハ思立事勿レ、却テ手ヲ出シテ疵ヲ微<sup>ミ</sup>ムル事有ル者也

溫知政要云

尾州宗春卿著

人ノ難儀ニ爲ル様ナ事ハ過ニ革メ、公事・沙汰・訴訟・日用取扱ノ事、終食ノ間モ遅々

セザル様ニト存ゼズシテハ、人ノ迷惑甚シク、無益ノ費下ニ出來ス、先年井中ニ落ル人アリ、近處ノ

者ドモ井ノ際ニ立集リ、色々談合シテ居ル内ニ死タリ、理屈詰ニテ片意地ニ覺タル人ノ上ニハ、是等

ノ事ハ多ク有者也、又云、改メ直ス事善トバカリ心得テハ、大ナル違必出來ル事アリ、左迄ノ事モ無キ所マデニ重ク生ジ、國法モ輕々シク成リ、手厚キ事ノ無様ニモ成行ベシ、兎角私一人ノ思慮分別バカ

リニテハ危キ事ナレバ、諸人ノ智ヲ假リ用ヒ、理非問答ノ善キ輔佐無シテハナラヌ事也、百姓町人サ

ヘ、善子カ善手代ヲ持タル者ハ、萬事ハカ行ク事ニテ知ベシ、又云、萬ノ法度號令多ナルニ從ヒ、自

背ク族モ多出來テ、彌法令繁ク煩シキ事ニ成行キ、數十年ヲ經ナバ、後ニハ高聲ニテ話ス事モ、遠慮アル

様ニナルマジキモノニモ無シ、其外一切作法、諸役所ノ執扱迄モ斯ナレバ、上向ニハ夜寐ル間モ無キ様ニ成行シ、第一法令多ク過レバ人心勇ミナク、狹キ路ヲ行ニモ、跡先ヲ視ル様ニナツテ、常ニ述懷ノミニテ暮シ、自然ト忠義ノ心モ薄クナルマジキ者ニテモナシ、由テ其品々ヲ考ヘ、人ノ難儀差支ニナルベキ瑣細ナル事ハ、除キ止ル様ニ仕タキ者也、萬ノ取扱少ケレバ、勤ル事モ守ル事モ爲易ク、法度ノ數減ズレバ、違ク者稀ニシテ、心モ優ニ諸藝モ勵ム様ニ成ベシ、法度滋キハ宜シカラズト宣ヘリ

○ 客云、下民ノ情ハ能知ルトイヘドモ、國ニハ各々掟ト云事アリ、其憲法ヲ一々ニ知ラズシテハ、仕組ハ立ガタカラシ

答云 古郡縣ノ時ハ、天下一制也、今又將軍家ヨリ政令ヲ出シ、封毎ニ之ヲ受行フハ勿論ノ事ナレドモ、諸國又其土俗ニ由テ禁誡ノ制法ヲ建テ、國法ト名クルハ、無<sub>レ</sub>已事ユヘナリ、蓋其中天下ニ不通ノ制度有ル事モアリ、是ハ元是時ノ官吏古法ニ據ラズ、唯<sub>レ</sub>視前姑息<sub>ヲ</sub>ノ事ニ眼ヲ觸レテ、斯シテハ他邦ニ耻辱ニハ成マジキヤ、或ハ古ノ例有ル事カ、或ハ後世ノ害トナランカト、思慮分別モ無クシテ、全下ヲ慢ルヨリ致ス所也、若善ナラバ天下ハ皆愚ニシテ、我一國ノミ善ナリ、倘惡ナラバ天下皆善ニシテ、我一國ノミ惡ナリ、一國ヲ以テ天下ヲ推事ハ叶ハズ、人情ハ和漢共ニ古今一轍易ル事ナシ、大學「君子民之父母、民之所好好之、民之所惡惡之、此之謂民之父母」、譬バ飲食ニシテモ、古來ノ料理ニ由ラズ、新々ニ珍キ料理ヲ致テモ、旨カラザル饌ハ、人皆食ザルユヘ、腐餒スルヨリ外ナシ、

若古例ニ因テ制宜シ、其中ニ好ザル者ハ、其罪ハ渠ニ在リ、一座ノ者好マザレバ其罪ハ制憲人ニ在リ、威ヲ以テ無理ニ喰スレバ、一座舉テ病ヲ生ズ、治國ノ大法ハ、古天地同德ノ聖人已ニ立テ玉フ、今更メテ國法ト云ハ其量狭シ、輒天下通用ノ法ニ據ルベシ、時ノ權勢ニ乗ジ、聖經古轍ヲ棄テ、自意ヲ以テ國法ト稱シ新制ヲ建テ、好マザル者ニ無理推ニ喰スレバ、病ル事甚シク、遂ニハ上ノ憂トナルベシ、故ニ一條トイヘドモ、先人ノ陳跡ヲ踐ミ、妄ニ新制ヲ國法ト名クル事無レ、又下情ニサヘ委ケレバ、政事ニ善ト思ヘドモ、餘リ民間ノ事ヲ知り過シ、不學ニシテ聖賢治國ノ法ニ拙キ者ハ、商賈ノ風ニテ姦智ヲ生ジ、僞偽ニシテ其所爲、廣大ノ國務ヲ燐箱ヲ潤ルガ如ク成テ、其刻剝貪狼ナル事、庶民ニ眴瞋セラレ、竟ニハ其君ノ汚名ト爲ルベシ、苛政ト云ハ、苛ハ細ト註シテ、瑣碎ニシテ小泥事也、民間ノ事細密ニ當レバ、國人針ノ席ニ坐スルガ如ク、敢テ手足ヲ措所無シ、苛政猛子虎トハ是也、六月炎天ノ往來モ、一里二里ニ木蔭モ無レバ堪ラレズ、是故ニ政務ノ官ヲ授ルニハ、小吏トイヘドモ、先度量寬廣ナル者ヲ擇ミ、小利ニ泥ム者ヲ舉ル事勿レ、或邦ヲ過シニ、往還表道ノ松ヲ、貧民共之ヲ割テ燈火ト爲ス、旅人之ヲ見テ寬量ノ邦ト感心ス、斯事ハ僅ノ寡欲ニテ、諸國ノ者ニ國ノ美ヲ示スニ非ズヤ、是意ヲ考ヘ、必ズ小事ニ眼ヲ附ル事母レ

○ 客云、人ヲ御スルハ、固ヨリ剛柔兼備ヲ善トスレドモ、緩急剛柔ハ天性ニテ、變化スル事寔ニ難シ、若二ヲ執ラバ、緩急何レガ善ヤ、又剛柔何レガ善ヤ

答云 緩急ハ天性トミユ、牛ニ策チ馳スレドモ走ルベカラズ、西門豹董安子ガ帶絃帶韋ノ事ハ、古ノ賢人ノ事也、庸人ノ身ニ於テハ、所銓變化スル事能ハズ、合戰ニ臨マバ、兵貴神速、緩ハ兵迫ノ大害也、治世ニ於テモ、急ナル者ハ徒勞ヲ使フニ、二人ハ一人ニテ事足り、又事ヲ計ルニ、十二一ハ仕損ズル事モ有ドモ、緩ナル者ハ十二六七ハ損アリ、裁判ニ緩氣怡儀スレバ、下ノ難澁限無シ、畢竟緩氣ハ不勇ニシテ、果決無故也、「董安子問 政於蹇老、蹇老對曰、忠信敢忠於主、信於令、敢於不善人、董安子曰、此三者足矣」ト云、偕剛柔ヲ論ズルニ、剛ハ堅強不屈ニシテ、最人所難能ト云、今世ニ所謂剛トハ、刻薄暴悞也、書經、「剛而無虐、簡而無傲」ト云、註ニ、剛之失入虐ト記セリ、剛驕ノ者ヲシテ民駭ヲスレバ、下必人氣暴ク成ルベシ、牛馬トイヘドモ其飼フ人ノ剛柔ニ由テ善惡ト爲ルハ、今目前ニ見エシ事也、人ヲ使フ者能柔順ナレバ、下是ニ見習ヒ、自然ト柔順ニ成テ爭鬪起ラズ、「剛之失入虐」ト云ニ思當ル事アリ、先年余大坂ニテ大鹽平八ト云者ニ遇ヒ、暫對話セシニ、自身ハ陽明學ト云共、言語舉動甚矜慢剛邁ニシテ、宛モ狂夫ノ陣頭ニ臨ムニ髣髴タリ、人ノ氣質ハ學ニ由テ變化スベキニ、王守仁ハ明末戰國ノ武將ユヘ、其風ニテ習フ事カ、溫良恭儉ノ體少モ見ザリシニ、後年大惡無道ノ事ヲナシテ人民ヲ害ヘリ、是者始小吏ト爲テ市中ヲ治メシニ、庶人虎狼ノ如ク嚙テ、一時ハ謐レドモ程無ク類ル、固ヨリ德ヲ以テ爲ザルユヘ、信服セザルハ尤也、江戸ニ中山勘解由猛剛ヲ以テ治メシニ、久シカラズ類レシト政談ニモ出セリ、呂氏童蒙訓云、「當官者、先以暴怒爲戒、事有不

可、當詳處之、必無不中」ト云、前漢嚴延年河南太守ト爲リ、多ノ罪人ヲ殺シ慘酷ナレバ、母之ヲ聞テ大ニ悲ミ、汝ガ墓ヲ築キ置ント云シニ、果シテ殺サル、風俗大ニ頹廢スルトキハ、一時ハ酷吏モ可トイヘドモ、長ク在官セシムルベカラズ、自古猛剛ノ者、身ヲ喪サル者未有ラズ、故ニ殺伐ヲ主トスル兵法ニモ深ク戒ム、近世治ニ及ンデモ、猛剛ノ君不慮ノ難ニ死ヲ遂ゲ、或ハ小吏ノ剛悍コリ、其君ノ死ニ及ブ事モ有リ、故ニ武王書銘、「忍之須臾、乃全汝軀」ト誠メ玉フ、夫武士ハ易ノ地水師ニ象リ、面ハ五陰ノ柔順ニテ、内ニ一陽ノ剛氣ヲ含ムベシ、政ニ與ル者ハ、誠敬ノ二字ヲ以テ爲バ人敢テ服セザルコト無シ、薛文清云、「於人之微賤、皆當以誠敬待之、不可忽慢也」、因テ官ヲ授ルトキハ才智ヨリ先誠敬ヲ擇ムコト第一也、誠敬ナラバ才智ハ入ザル也、人皆學テ才智ハ授クルベシ

○ 客云、宿習ヲ改ルニハ、何ヲ先ニ爲ベキヤ

答云 何事モ先其本ヲ探ルベシ、醫ノ病ヲ療スルモ、其病根ヲ斷ズンバ全愈難シ、國ノ宿習費弊モ其起ル所ノ根本ヲ査ヘ、輕重ヲ計テ其重事ヲ止ムレバ、輕事ハ一遍ノ令ニテモ止ルベシ、其重キト云ニ四條アリ、先其三條ハ大酒・博賭・姪亂也、自古沈湎習色ト云テ、喪家亡身者ハ、貴賤共ニ酒色ヨリ生ズ、然ドモ之ヲ禁ズル事、仲々容易ニ届ク事ニ非ズ、左レバ大人ハ縱大酒トイヘドモ、其身ニ愧テ威儀ヲ慎メドモ、賤キ者ホド醜陋皆蠶シ、貴人ノ飲酒ヲ見テハ、酒ヲ飲ンデモ、斯コソ有タシト云所ニ目ヲ附ズ、一盃吞ンデモ、態ト百盃飲タル風ヲ爲シ、友ヲ呼デ人ヲ邪道ニ引入レ、一村ニ四五輩

有レバ、様々ノ事ヲ催シテ、鄉村・統テ化セラレ、喧嘩モ姪亂モ皆是ヨリ生ズ、毎日ノ酒價一年ニ幾何  
ゾヤ、或ハ暇日ヲ費ス事限無シ、博賭モ此ニ同ジ、次ニ僧徒・朱噓・姪聲ノ遊民無様ニスベシ、縱豐年  
續テ國計豐トイヘドモ、飲酒ニ潰サレ、無職ノ者ニ喰盡サレテハ、破桶ニ水ヲ入ルガ如ク、少モ富饒  
ノ邦トハ爲リ難シ、其譯委ハ法令考・國用考・僧道ノ部ニ載ス

○ 客云、當今斯風俗ヲ、古ノ質朴ニ恢復スル方ハ如何シテ届クベキヤ

答云 仕組ヲ附ザルヲ、却ツテ仕組ノ上首ト云ハンカ、今時ノ仕組嗜ハ、作事好ノ様ナル者ニテ、一  
軒ノ厦ヲ持扱ヒ、仕直シテハ又仕直シ、此ヲ作リ替ヘ彼ヲ改メ、又モ改メ、遂ニ柱モ梁モ鑿孔ニテ、  
一度大風ニ遇ヘバ倒ルガ如シ、能民間ノ情ニ熟セズ、品水練ニテ批政ヲ行ヒテ、民服セズンバ、又モ  
法ヲ改メナド致セバ、終ニ民ヲ反故ニシテ、手ヲ習フ様ニ移リ行キ、下侮ツテ驟雨法度ト唱フベシ、  
今諸國ニ於テ一官局ヲ建テ、仕組所ト名クルハ、他邦ニ對シテ耻辱タルベシ、建國ノ祖宗ヨリ憲法已  
ニ究レリ、先人ノ遺轍ヲ蹈ミ、政律ヲ明ニセバ、四民共ニ職ヲ守リ、國家依然ト安寧也、何ゾ仕組ヲ  
建ルニ及バンヤ、老子云、「治」大國、如「烹小鮮」、カキマゼ小魚ヲ烹ルニ拌攪ルトキハ、遂ニ碎ケテ用ニ立  
ズ、故ニ國ヲ治ルモ唯無爲ニ如ズ、由「是國守一名ハ、烹鮮之職ト云ナリ、是名ヲ思ハズ、様々ノ事ヲ爲  
セバ、煩ク成テ下堪ズ、書云、「無<sup>レ</sup>作聰明、亂<sup>レ</sup>舊章」ト云、是語後世才智ナル者ノ能監ル事也、今川了  
俊ノ和歌ニ、「子ヨ孫ヨ己賢シト思フトモ、親ノ愚ニ猶ヤ劣ラン、」人ノ子タル者必是和歌ヲ乖クベカラ

ズ、後世ニ生レテハ、君臣トモニ先人ニ及バザル事此ニアリ、祖宗ハ戰國ニ生レテ、時々賤家ニ救  
寒ヲ食シ、或ハ山野枕塊テ臥シ、梳風沐雨ノ艱難ヲ得テ能下情ニ徹シ、一切悉當テ碎ケ、我身ニ體認  
シテ民ヲ治ム、明太祖ハ元農民也、天下一統ノ后、子孫ニ知シメント、始躬鉞ヲ執リシコト、其后戰  
伐ノ功勞ヲ盡イテ、一軸ト爲シテ貽シ玉フ、刑罰ハ身ニ受ルガ如ク、賦歛ハ自出スガ如キハ、聖賢ノ  
道ナレドモ、後世ハ君臣共ニ、躬稼穡シテ租稅ヲ出ザルユヘ、其出ス所ノ情ヲ知玉ハズ、開國ノ臣モ  
元草莽卑賤ヨリ起テ、忠恕ノ道ヲ辨ヘ、身ヲ棄テ能仕ヘ、四境ハ皆敵虜ノミナラズ、領内トイヘドモ時々  
叛クユヘ、常ニ慈仁ヲ以テ相親睦スレドモ、治世久キユヘ、民乖カズト慢ツテ、小吏徒胥ニ至ルマデ、  
民ヲ觀ルコト犬馬ノ如シ、況上下共ニ上麓ナルコト、寬永以前ニ比ブレバ、今ノ一萬石収ハ昔ノ十萬  
石、今ノ百石取ハ昔ノ萬石取ニモ勝レリ、此時代ハ伺候大名衆ノ中食ニハ、適于魚ナド持參スル人ア  
レバ、是珍物ト箸ヲ取替ヘテ食シ、伊井俵ハ握飯ヲ紙ニ包テ袖ニ入レ、其紙ヲ以テ鼻ヲ取リ玉ヘリ、  
其臣岡本半助ハ留主居ヲ勤メシニ、疊二枚ヲ敷テ居リ、終身酒肉ヲ嗜マズ、適來客ノ時燒鰯ナド供ヘ  
シニ、今ノ江戸トハ大ニ異ナリ、是自然ノ理ニシテ、亦怪ムベキニモ非ズ、又後世ノ士風ト云ハ、武  
義廢レテ唯利ニ喻ク、諸國ノ士官ヲ聞ニ、彼ハ結構ナル役ニ附シト云、定テ國家ノ難事ヲ引受ケ、武  
士ノ面目ナル所カト思ヘバ、役給多ク、音物衆ク物取所ヨシ、此役ハ合ズ、彼役ハ合ント云ハ、舉財  
貨ノ多少ニ由ルヲ云フトミユ、是天下一般ノ士情ト成レリ、斯衰世ユヘ、悉更始スル事、一二ノ賢才

ニテハ、仲々以テ届キ難シ。大樹將顛、非一縷之所繫トハ是也、漢武帝老儒申公ニ、安車駟馬ヲ以テ迎ヘテ遭ヒ、治亂ノ事ヲ問ヘバ、申公答テ、「爲治者、不在多言、願力行何如耳」ト云ヘリ、是故ニ古ノ淳樸ニ移サント思ハ、先我身ニ祖宗ノ儉約ヲ行ヒ、臣ノ祿モ祖宗ノ時ニ從ヒ、民ノ租庸モ祖宗時代ノ如ク減ズベシ、祖宗ハ民ニ仁志ヲ垂レ玉フニ、後世ノ君一粒トイヘドモ、賦斂ヲ賸シテハ、祖宗ノ仁ヲ無ニスルユヘ、不孝トスルナリ、其後祖宗ノ遺典ニ由テ法令ヲ出サバ、民モ祖宗時代ノ如ク淳樸ニナリ、祖宗時代ニ少モ易ラズ、斯致スニ於テハ、當今潤濁ノ世ニ、一國挺然ト拔出シ、他邦ヨリ瞻望セラルベシ、之ヲ眞ノ恢復ト云者也、蓋今數百年ヲ歷レバ俄ニ屆マジ、故ニ此心持ヲ以テ、眞實ハ莖葉ニ包ムノ俚言ニ據リテ宜シ、肥後堀氏ノ云レシニ、宿習ヲ改ル事ハ、一城ヲ降スヨリ難シトハ、其身職掌ニ當テ、難キヲ知レル實情也、賢者ハ難トスルユヘ能治ル、不肖者ハ易シト思フユヘ治ラズ、更始改革等ハ、古今絶代ノ賢才ニ非ズンバ、其終全カラズ、大抵ノ才智ニテハ思立ベカラズ、唐太宗云、亂世ト治世ト何カ難キヤ、魏徵對テ、治世久キ民ハ驕佚也、驕佚ナルトキハ、道ヲ教ユル事難シ、亂世後ノ民ハ愁苦スルナリ、愁苦スレバ教易シ、譬バ飢タル者ハ食ヲ爲シ易ク、渴セル者ハ飲ヲ爲易キガ如シト云、是言ハ的當セリ、余先年囚縛ノ時、民風ヲ合見テ知レリ、故ニ改革等ハ凶年後コソ附易シ

○客云、「カ可<sub>レ</sub>以得天下、不可<sub>レ</sub>以得<sub>二</sub>匹夫匹夫之心<sub>一</sub>」ト云、細川銀臺侯・上杉鷹山侯ノ代ニハ、國人

皆酒ヲ釀シ糯ヲ搗キ、殿樣祭ト云コトヲ致スト聞ク、他邦ニ於テ未聞ズ、如何シテ斯民心ヲ得ルヤ

答云 是他無シ、寡欲ユヘナリ、銀臺侯

越中守  
諱重賢

ハ在位中ニ下ニ施ス事、凡四十餘萬石ト聞ク、委コ

トハ銀臺遺事翹楚篇ニ、兩侯ノ事蹟ハ見エタリ、貞觀政要「御史權萬紀上言、宣饒二州諸山、大有銀

坑、採之極是利益、每歲可得錢數百萬貫、太宗曰、朕貴爲天子、凡事無所少乏、惟須納嘉言、進

善事、有益於百姓者、且國家朕得數百萬錢、何如得一有才行人、不見卿推賢進善之事、又不

能按舉不法、震肅權豪、惟道稅鬻銀坑、以爲利益、昔堯舜抵璧於山林、投珠於深谷、由是崇名、

美號見稱千載、後漢桓帝・靈帝、好利賤義、爲近代庸暗之主、卿遂欲將我比桓靈耶、是日勅放

令萬紀還第、」若之ニ從ハ、國民ノ祭ハ勿論、天下ノ人皆尊崇シ、又却ツテ富ベシ、故ニ大學ニ

モ、「德者本也、財者末也」ト云、北條泰時釋明惠ニ、天下安全ノ道ヲ問ヘバ、明惠對テ、寡欲ニ成玉

ヘ、君先寡欲ナラバ、天下ノ人皆寡欲ト成ル、亂ノ本ハ欲心ヨリ生ズト諫ム、泰時感心シテ、之ヨリ

寡欲ト成テ仁政ヲ施シ、天下大ニ治ル、楠公モ財ヲ貪ルヲ忠ト思フハ亂相ト云、上一人利ヲ好メバ、

臣下皆利ニ走リ、聚斂ヲ專トシテ、一錢タリトモ上ニ増ヲ忠ト思ヒ、手ニ付ケ足ニ付ケ、唯下ヲ虐ル

ヲ心ニ懸ク、其術ノ狡猾貪狠ナル事、魚賈ノ市ニ臨ガ如シ、董仲舒ガ賢良策、「上之化下、々從上、

猶金之在鎔、惟冶者所爲也」ト云、下民ハ直置熾欲ナル者ニ、上タル人ヨリ躬致シテ見スレバ、是

ゾ走リ馬ニ策テ數副見倣ヒ、信義ヲ棄テ姦智ヲ生ジ、商賈ハ假構ノ物ヲ以テ人ヲ誑ヲ主トシ、物價ハ

口カラ出次第ニ賣リ、諸職ノ賃、奴婢ノ給銀ニ至ルマデ、減多無性ニ高ク言ヒ、諸物統テ相競フテ高昂ニ及ビ、又高利ヲ取ルユヘ、遠ヒ方荒ク爲テ、一錢モ賄ユル事無ク、國中益窮シ、信義脫洒廢リ、小盜並起リ、口事訴訟益多ク、罪人囹圄ニ充ツベシ、民俗利欲ヲ一ニスレバ信義ヲ失ヒ、物估高昂トナルハ、古來皆然リ、中華嶺右ハ民風淳樸ニシテ物價甚賤シ、宋欽宗靖康年中蔡條ト云者、是地ニ至マデハ虎豹多ケレドモ、盛政ノ德ニ由テ人ヲ害セズ、其後漸々風俗衰ユレバ、物價大ニ高ナルニ及ンデ、虎豹益惡クナツテ人ヲ啖フニ至ル、風俗ノ淳醇禽獸迄追ブト、鐵圍叢話ニ載セタリ、是意ヲ考ヘ、上ヨリ先利ヲ棄ズンバ、俗ヲ變ズル事如是、明劉基云ク、「有積財、而不能教者、君子謂之愚、知散之、而不要諸道者、爲愚一也」故ニ衆ヲ使フ者ハ、錢ト偶人ハ遺様ト云事ヲ知ラズシテ叶ハズ、「天道布順、人事取予、多藏不用、是謂怨府、故物不可聚也」ト云、寡欲ハ第一不虞ニ至テ必勝ノ利アリ、故ニ武ヲ學バント欲セバ、韜略ヨリ先寡欲ヲ主トスベシ、元弘ノ亂ヲ觀ヨ、南朝ニハ正成在レドモ、天皇多欲且賞罰不正也、尊氏ハ智略正成ニ十倍劣レドモ、寡欲ユヘ竟ニ一統ノ功ヲ遂グ、世間ニ唱フヲ聞クニ、王侯大夫ハ左迄小欲貪狼無ケレドモ、神ハ<sup>正</sup>魂次第ト、興利ノ説ハ、畢竟小吏ノ小心ヨリ起ルト云、國窮スルトキハ、必利ニ走ルハ人情也、漢武帝ノ時、營財ハ商賈ニ如ズト、東郭・咸陽・桑弘羊等利ニ喻キ商估ドモヲ徵庸シテ、九卿ノ列ニ加ヘ、天下ノ利權ヲ執ラシメシニ、興利ハ士大夫モ及バザレドモ、後ニハ國害トナルコト多ク、天下已ニ壞レントス、華城ハ卑キ商賈トイヘドモ皆文

學ニ達ス、然レドモ利ニ放ユヘ其終不全、剩我邦不學文牒ノ商賣ヲヤ、家ハ利ヲ先ニ爲ザレバ富ズ、邦ハ利ノ先ニ爲ルハ却テ壞ル、近年諸國窮スル處ハ、貨幣ノ商賣デモ様々ノ仕組ヲ企テ、國益ヲ勸ムル事アリ、必之ニ免ズベカラズ、畢竟財ヲ官庫ノミ貯ヘントスルハ小量也、臣下ヲ祿士ノミト想フモ小見也、孔子云、「封内皆臣也、故ニ各其馴タル者ニ致サスルハ、合戰ニ得物ヲ執ラスルガ如ク、鳥銃手練ノ者ニ槍ヲ秉ラセ、弓ノ達人ニ刀ヲ執ラスレバ、驅引不自由ニテ勝利ヲ得ズ、武家ニ生レシ者ニハ文武ヲ致サセ、商人ニハ手習シ貨殖ヲ致サセテ、天下ノ財ヲ自國ニ引寄せ、工人ニハ器物ヲ製シテ他邦ニ鬻ギ、農民ニ精力サセテ、一年十石生ズル地ニハ二十石登ラバ、一萬石ノ國產ハ二萬石モ蓄息スベシ、然トキハ一國ヲ領ストイヘドモ、亦二ヶ國モ三國モ領スルニ當レリ、一人ニテ集ル財ハ限アリ、衆民ノ集ル財ハ限無シ、是國家ヲ治ル度量ト云ベシ、國天下ハ廣大ナル者ユヘ、政事ニ與カル者ハ、其胸間江海ノ如クナラズンバ、衆ヲ容ル事能ハズ、如何ゾ匹夫ノ一家ヲ治ル小利ニ泥ミ、厘々タル伎倆ノ心ヲ持ベキヤ、」王者藏於天下、諸侯藏於庶人、農夫藏於庾、商賈藏於篋、」是語ヲ守ラバ、一國ノ殷樣祭等ハ猶小也トスベシ、其美名ノ響事、我日本ハ勿論、遠異域マデ至リ、千百載其德ヲ慕フ事君父ノ如シ、試ニ三國志ヲ見ヨ、曹操ガ負ル所ニ於テハ人皆懼ビ、玄德ガ負ル所ニ於テハ嘆慨ス、數千載ヲ阻シ異國ノ事ニテ、曹操ハ我仇敵ニ非ズ、玄德ハ吾主家ニ非ズ、然ドモ性本善ナルユヘ、人心自然ト仁德ニ歸スルハ人情也、今ニ於テモ諸國ヲ徧歴シテ、其邦ノ悲說ヲ聞テミヨ、先君何代目ハ賢君、

何代目ハ暗主、正卿大夫士人ニ至ルマデ、何代目ハ仁慈、何代目ハ刻薄ト、縱紀史ハ無トモ、上古文字無トキ「口々相傳、前言往行、存而不<sub>レ</sub>忘」トハ是事也、是故ニ後世ヲ恐レテ、一潤ニ目ヲ觸レテ必其君ニ汚名ヲ與ユル事勿レ、民ヲシテ君ヲ謗ラシムルハ、弑逆ニモ次グベキ大不忠ト心得ベシ

○客云、國ヨリ國家ヲ恢復スルヲ見ルニ、皆良臣アリ、細川ニ堀勝名アリ、備前ニ熊澤了介、上杉ニ竹股美作・土佐ニ野中謙山、信州眞田ニ恩田木工、豫州ニ橫園環アリ、是等ノ人皆經濟ニ達ス、倘之ヲ學バ<sub>バ</sub>其術ヲ得ベキヤ

答云 非常ノ君アレバ非常ノ臣アリ、賢君有テ後良臣起ル、虎嘯イテ風生ズルガ如シ、然レドモ後世ノ君ハ縱聰明トイヘドモ、上臈ニシテ致知格物ニ疎キユヘ、人ヲ知ルニ至テハ、古ノ君ニ比ブレバ甚劣レリ、水府義公諸官人ニ向ヒ、或酒肆ニ醇酒ヲ賣シニ、人皆爭テ買メ家大ニ富リ、然ル所ニ是家ニ犬ヲ畜ヒシニ、此<sub>ニ</sub>監屢人ヲ咬ユヘ、酒ハ美ナレドモ、猛ニ恐テ一人モ到ラズ、其家竟ニ衰微ス、汝曹必人啖ヒ<sub>イダ</sub>ニナラザル様ニ致セト宣フ、蓋犬ハ居ザレドモ、酒惡ケレバ人買メズ、酒美ニシテ<sub>アタヒヤス</sub>估低ク、犬モ居ザレバ、幽僻トイヘドモ、遠方ヨリ群來テ買シメ、家大ニ富ムベシ、古ノ英雄時ヲ計ラズ進出デ、災害ヲ得ル者舉テ數ヘ難シ、又名ヲ執ルカ、利ヲ執ルカ、若官祿ニ目ヲ舐レバ其終不<sub>レ</sub>全、名ハ萬世不朽也、富貴榮耀ハ浮雲ノ如シ、今諸國ニ行テ視ヨ、何ノ邦ニモ放潁ノ者ハ年ヲ追テ昇進シ、威勢甚熾ナレドモ、其身壹代ノミ、其子ニ至テハ遂ニ困窮ス、是怪ムベキニ非ズ、天道ノ常理也、故ニ天地ノ道

理ヲ辨ヘ、官祿ヲ干メズンバ、善願アレバ天之ニ與スルユヘ、事必成ラン、夫萬人ニ拔デントスル者ハ、萬人ニ越テ苦心セズンバ、拔群ノ士トハ成難シ、兵書不勞心思、不能厚事、不悉見物情、不能成名」ト云、依テ先學問シテ心志ヲ勞シ、其後物ニ當テ其情ヲ知ルベシ、魏主問李先<sub>二</sub>曰<sub>一</sub>、天下何物、可以益人神智、對曰、莫若書籍」ト云、假令天性敏才有ルトモ、天下ノ事理ハ、博覽多識ニシテ旁通洞達セズンバ、事物無期ノ變ニ至テハ、疑惑謬誤ノ患ヲ免ルコト能ハズ、今泰平ニテ下ニ咎ル者無ユヘ、事ヲ計ルニ自身ハ隨分善ト想ヘドモ、古人ノ規轍ニ愜ハザルトキハ、後世迄君子ノ嘲笑ニ遭フベシ、學問ニモ段々有ユヘ、無益ノ書ヲ看ズ、歷史ヲ主トシ、先孝經・四書・五經ハ勿論能讀誦シ、其後左氏傳・周禮・國語・家語・說苑・白虎通・管子・晏子・荀子・韓非子・呂氏春秋・淮南子・孔叢子・貞觀政要・諫史・又史記・漢書等ノ歷史ヲ讀ミ、治亂興亡ヲ能考ヘ、深ク文義ニ拘泥セズ、讀メザル所ハ其儘ニシテ、唯大意ヲ明ラメ、流水ト讀ンデ苦マザル様ニスベシ、又右ノ書數ハ格別多キコトニモ有ラザル也、本朝ノ書ハ延喜式・令義解此モ能覺テ、律令・格式古ノ國政ノ事ヲ能知リ、武家ト爲テ政律ノ掣紙モ無レドモ、鎌倉家ノ式目モ讀ミ、又制度通モ經濟家ニ益有ル書ナリ、又官中秘策ヲ讀デ、公儀ノ政律モ知リ、又自國ノ憲錄、及年譜モ覺テ居リ、又佛書・神書モ少ハ知ズンバ、時ニ臨ンデ迷フコトアリ、佛書ハ梵網經・心經・翻譯書・翻譯名義四十二章・遺經、此五部ニテヨシ、神書ハ神代藻鹽艸・古今神學類編・神社啓蒙、是三部ニテヨシ、本朝歷史ハ近年山陽外史・逸史・國史略等世ニ行レ、儒者ハ之ヲ讀デ、

軍書ハ稗史ト賤ンデ讀ザレドモ、漢文ハ軍書ノ様ニ細ニ實意ヲ盡サズ、歴史ハ固ヨリ時代ト興亡ヲ知ル爲ナレバ、文章ニ拘ラズ、軍書ニ致セバ心氣ヲ勞セズ、又解スル事モ早ユヘ、前々太平記ヨリ島原陣マデ悉讀ムベシ、蓋浮屠氏ノ作多キユヘ謬誤太シ、能斟酌スベシ、其外經濟トナルベキ書、或ハ裁判ノ書、棠陰比事・大岡政要錄・板倉政要、或ハ落穂集・明良洪範何品ニ由ラズ、益用ノ書ヲ讀ミ、彼ニ當リ是ニ觸レテ體認スベシ、兎角書ヲ多見ザレバ、孤陋ニシテ活斷出來ズ、又博覽シテ物ニ當テ其情ヲ得ズンバ、偏固ニシテ俗云鮑魚也、世ニ學者ハ偏屈ナルト云ハ、一道ニ泥ム故也、故ニ書ヲ讀マバ、颯ト看テ必染着スベカラズ、文獻通考「閭里之情僞、雖賢且智者不能周知也」ト云、今世ノ學者ト云ハ、隨分詩文ハ拔ヅレドモ、唯紙上ノミニシテ、世間ノ事ニ碎ケザル故人情ニ拙シ、法令ハ下ニ居テ受テ見ザレバ、其耦合ハ分リ難シ、譬バ獻立ヲ爲スニ、割烹人自試テ座ニ出サネバ、其味鹹ヤ淡ヤ知難シ、人情ヲ知ラズ法ヲ出スハ、自嘗テ試ズ客ニ出スガ如シ、又獻立ハ善トイヘドモ、之ヲ煮立ル下ニ膳夫倘不辨ナレバ、其味甚惡シク、物ヲ入レテ却テ誹ニ遇フベシ、若經濟ニ志サバ是喻ヲ能考ヘ、浪士ト稱シテ密ニ家ヲ出デ、農家ニ三年計身ヲ賣リ、又市中ニ三年、其後國中隅々マデ巡行シ、近國及諸國ニ周流シ、他邦ト自國ト其制度ノ好惡ヲ併考ヘ、其後國政ニ與リ仕組ヲ立ルトキハ、畠水練ト云コト無ク、大江ヲ濟テ眞ノ水練ユヘ、姑息ノ事無ク、民人一心ヨリ服シ、永世不朽ノ法ニシテ、若合戰ニ臨マバ百戰百勝也、之ヲ勤ルヲ苦勞ト思ハバ、必始ヨリ思立ルコト勿レ、惣ニ事ヲ起サバ、

却テ其君ニ汚名ヲ與フ、肥後稻津彌左衛門ハ大身ノヨシ、十六歳ノ時父ニ暇ヲ乞ヒ、密ニ家ヲ出デ、國中ノ大庄屋毎ニ六年奉公セシト聞ク、斯難行苦行スルユヘ、後年大功ヲ立ツ、夫天ノ大任ヲ受ケント想ハバ、其心志ヲ苦メ、其筋骨ヲ勞セズンバ大業ハ遂難シ、英雄ノ國功ヲ立ルハ、一朝一夕ノ事ニ非ズ、始身ヲ勞セズンバ、後事ヲ爲スニ勞シテ功無シ、又衆ニ拔ンヅル者ハ、喬木風ニ折フル、者ニテ、多ハ讒聞ニ遭ヒ、或ハ自功ニ誇テ其終ヲ克セス、野中謙山ハ國功ヲ施セドモ天年ヲ得ズ、熊澤蕃山モ才過テ其終全カラズ、昔云「汝惟不矜、天下莫與汝爭能、汝惟不伐、天下莫與汝爭功」ト云ハ、帝舜ノ天下ヲ禹王ニ讓リ玉フトキ誠メ玉フ語ナリ、才智有テ時ノ權勢ヲ得ル人、深ク是語ヲ監ルベシ

此ニ經濟ノ要 四條ヲ出ス、一令毎ニ是ヲ併監ナバ、民服セズト云事無シ

元耶律楚材爲相曰、興一利、不<sub>レ</sub>如<sub>レ</sub>除一害、生一事、不<sub>レ</sub>若<sub>レ</sub>滅一事、後世以稱名言

右出ニ多氣集經濟論一

楚恭王出遊、亡烏號弓、左右請求之、王曰、止、楚王失弓、楚人得之、又何求之

右出ニ說苑一

孔子弟子、有宓子賤者、仕於魯爲單父宰、齊人攻魯、道由單父、單父之老請曰、麥已熟矣、今齊寇至不<sub>レ</sub>及、人々自收其麥、請<sub>レ</sub>放民出、皆穫傅郭之麥、可以益糧、且不<sub>レ</sub>資於寇、三請而宓子不<sub>レ</sub>聽、俄而齊寇逮於麥、季孫魯大夫聞之怒、使人讓宓子曰、民寒耕熟耘、曾不得<sub>レ</sub>食、豈不<sub>レ</sub>哀哉、不<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>猶可<sub>レ</sub>聽、以告者三、而子不<sub>レ</sub>聽、非<sub>レ</sub>所以爲<sub>レ</sub>民也、宓子曰、今茲無<sub>レ</sub>麥、明年可<sub>レ</sub>樹、若使<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>耕

者穫、是使民樂有寇、且得單父一歲之麥、於魯不加強、喪之不加強、若使民有自取心、其創必數世不息、季孫聞之愧、右出左語夫聖賢ハ遠慮ノ明智、如此國家ハ千百世永續ユヘ、日前ニ觥レテ姑息ノ事ヲ爲セバ、其疵數世マデ不息、越ニ受繼グ官人其餘毒ヲ消ス事幾難シ、故ニ是文意ヲ監ミ、萬事ニ就テ後世ヲ恐レ慎シムベシ

有郭橐駝者、業種樹、賣業者皆爭迎取之、視駝所種樹、或遷徙無不活且碩茂、蚤實以蕃、他植者雖窺伺倣慕、莫能如也、有問之、對曰、駝非使木壽且孳也、以能順木之天、以致其性焉爾、凡植木之性、其木欲舒、其培欲平、其土欲故、其築欲密、然已勿動勿慮、去不復顧、其時也若子、其置也如棄、則其天者全、而其性得矣、故吾不害其長而已、他植者則不然、愛之太恩、憂之太勤、旦視而暮撫、已去而復顧、而甚者爪其膚、以驗其生枯、搖其本、以觀其疎密、而木之性日以離矣、雖曰愛之、其實害之、雖曰憂之、其實害之、故不我若也、出古文吾居鄉見長者、好煩其令、若甚憐焉、而卒以禍、且暮吏來、而呼曰、官命促爾耕、勸爾植、督爾穫、蚤織而緒、蚤織而縷、字而幼孩、遂而鵜豚、鳴鼓而聚之、擊木而召之、吾小人具殽饔、以勞吏者、且不得暇、又何以蕃吾生安吾性耶、故病且怠、若是則與吾業者、其亦有類乎、出古文夫唐柳宗元ハ刺史ノ貴ニ居ルトイヘドモ、下情ヲ知事、是文章ヲ以テ察スベシ、今千載ヲ歷レドモ、人情ハ古今一轍、毫釐モ差ハズ、官ニ服ク人、深此文意ヲ味フベシ

光陰者百代過客、浮世若夢、五年十年ハ瞬息中也、豈蹉跎トシテ空一塊ノ土ト成シヤ、文選ニ、君子恥當年而功不立、疾沒世而名不稱、古之志士、悼年齒之流邁、而懼名稱不建也、勉精勵操、晨興夜寐、不遑寧息、經之以歲月、累之以日力、且以西伯之聖、周公之賢、猶有日昃待旦之勞、トミユ、晉范士何迎魯叔孫問曰、「死而不朽、何謂也、」豹聞之曰、「太上有立德、其次有立功、其次有立言、雖久不廢、此之謂不朽、若保姓受氏、世不絕嗣、無國無之、祿之大者不可謂不朽也」ト云、若夫賢君良臣タラバ、其善行嘉言、竹帛ニ載テ、英名萬世ニ遺リ、僅一郡ノ主トイヘドモ、天下ノ人瞻望スル事、君父ノ如シ、況後世諸邦ノ君共記ヲ覽テ、又吾邦ノ民ニ德澤ヲ布施セバ、其德ハ天下ニ充ツト云者也、然バ縱天下ヲ領セズトイヘドモ、其尊事帝王ニ侔シカラズヤ、是意ヲ考ヘ君タル者ハ後世ヲ懸テ、一年トイヘドモ諷諭ノ術ヲ爲サズ、深ク慎ミ議ルベシ、特ニ不虞ニ臨メバ、旗旌ノ向所民人訝ヘズト云事無シ、於是時ニ國ニ界ト云事無レバ、民ノ服スル處ハ舉吾領國也、然文德ハ武備ノ柱礎ナラズヤ、二百年前戰國ノ事蹟ハ既ニ歴史ニ舉レバ、人ノ善惡晰然ト顯レドモ、治世ト爲テ今天下ニ二百六十餘封ノ主、及衆臣ノ賢不肖世間ニ稱スル者幾ド稀也、竹帛ニ載タル賢君子ハ僅數十人ニ過ズ、松平越中侯陸奥白川城主、子孫伊勢桑名ニ轉封ス云、寛永ノ始天下ノ諸侯ヲ評スルニ、四君子・十善人ト稱スル者有リ、四君子ハ紀伊大納言賴宣卿・松平新太郎光政諡公二・阿部豐後守忠秋諡公二・板倉内膳正重矩、十善人ハ水戸黃門光國卿諡公二・保科肥後守正之諡公二・久世大和守廣久・松平日向守信之・相馬

長門守忠胤・板倉東市正重<sup>アト</sup>太・服部備後守・鈴木伊兵衛・野村權右衛門・五味藤九郎等也、吾モ彼人々ノ  
行儀ヲ想ヒ之ニ習ハント、日夜心頭ニ懸ル所ト宣ヘリ、其後享保ノ比大樹吉宗公、寶曆年中肥後銀臺  
侯・羽州上杉鷹山侯・信州松代眞田侯・豫州大洲加藤侯、其他ハ今世間ニ唱ヘズトミユ、是等ノ諸君皆  
學問ヲ好ミ、文德ヲ以テ國家ノ衰弊ヲ改革シ玉フ、夫治世以降既ニ二百餘年、天下ノ人數幾億萬ゾ、  
屈指僅十六人、是ヲ以テ觀レバ、名ヲ後世ニ舉ル事、仲々容易ノ事ニ非ズトミユ、然<sup>ドモ</sup>陽氣發處金  
石亦透、精心一<sup>ニ</sup>到何事不成、一石諸君ノ紀ヲ觀テ德ヲ同フセバ、其ニ竹帛ニ載テ其名世ト俱ニ朽ズ、蓋  
君ノ賢不肖ハ臣ニ在リ、「君如舟、臣如水、々能載舟、水能覆舟、」織田公・豐臣公ニハ、輔弼直諫ノ  
臣無キユヘ其終ヲ克セズ、神祖ハ直諫ノ臣多シ、故ニ永世ノ肇基ヲ建玉フ、書云、「木從繩則直、人從  
諫則聖」、夫聰明睿智ノ聖王トイヘドモ、斯諫ヲ好ミ玉ヘリ、「擊劍圍碁反自眩」ト云テ、  
ノ人トイヘドモ、瞞目八目ト云ガ如ク、助言ヲ得レバ益勝レル者也、然<sup>ドモ</sup>諫ハ易ク、容ルハ難シト  
古人ノ語アリ、中庸ニ云、「舜其大知也與、舜好問而察邇言、隱惡而揚善、執其兩端、用其中、民  
其斯以爲舜乎、」夫舜ハ聖人トイヘドモ、天下ノ人ノ善惡ヲ受ケ容レ、惡ヲ去テ善ヲ用ヒ玉フ、今世  
ノ人ハ我心ニ濟ヌ事アレバ善惡ヲ擇マズ之ヲ棄ルハ、其器小ナレバナリ、或士遠矢ヲ試ミ、數百矢ヲ  
發チ、一放毎ニ矢取ニ尋ヌレバ、舉正鵠ニ中レリト云、故ニ懽シデ益放チ、終ニ至テ白堊ニ往テ見レ  
バ、一矢モ正鵠ニ中ラズ、士大ニ怒リ主ヲ欺ク曲者ト叱リケレバ、僕罪ヲ謝シテ、君ハ平生何事モ囑

呪シテ隨意ヲ嗜玉フユヘ、的ヲ自往テ見玉フトハ計ラス斯云ヘリ、以來直言ヲ好ミ玉ハバ、僕モ亦其心得アリト云、臣ハ衆キ者ユヘ其中不得心ノ者モ有ベケレドモ、君臣ノ間ニ於テハ、遠慮シテ其非ヲ言ザルハ人情也、古今ノ歴史ヲ觀ルニ、戰國ニハ人臣ノ威強ク、治世ニハ人君ノ威強ナルハ自然ノ理ユヘ、治世ノ君タル者、其心得無レハ叶ハズ、唐太宗ノ如ク、日夜躬諫諍ヲ求メスンバ、諫臣進ムベカラズ、又民ノ服否ハ大形中程ヨリ下ニ在ル者也、譬バ君ハ斯致サバ宜シカラント宣ヘドモ、中程ニテハ斯致セト命ズ、小吏ニ至テハ斯致サネバ鞭撻スト、公威ニ誇ル様ナル世間ノ風也、是意ヲ推量シテ、先小吏徒胥等ニ至ルマデ、下ニ對スルニハ、能恭敬和順ニシテ、禮讓ヲ竭スヲ諭ストキハ、君德旁ク下々ニ行渡リ信服スベシ、故ニ心ヲ萬事ニ配リ、民情ニ應ジテ民ノ毀讚ヲ坐シテ知ルヲ明君ト稱ス、豈片時モ心ヲ弛ム可ンヤ

## 經濟問答秘錄卷二終

# 經濟問答秘錄卷三

## 學校考

○客云、古之王者、建國君民、教學爲先、（世説新語）文學ハ國天下ヲ治ル柱礎也、然レニ今諸國ヲ觀ルニ、寥々タル處モ有リ、又無キ處モ有レドモ、治ル様ニミユ、然レバ無クトモ亦可ナランカ

答云 學校無クシテ治マラバ、人皆生知ノ聖人カ、一切ノ事稽古セズシテ成ルト云事決シテ無シ、生レナガラ知ル者ハ聖人也、學デ知ル者ハ其次也、聖人ハ日本ニ未ダ出玉ハズ、學ンデ知ル者ハ古來寡シトセズ、諸國ニ於テ眞ノ武道ヲ試ミント思ハバ、先ヅ其學校ノ盛衰ヲ觀ヨ、縱ヒ武藝ノミ熾ン也トイヘドモ、勝敗ハ元信義ニ在リ、故ニ不學無義ト云、迺チ其信義ヲ稽古スル學校也、不學ノ者ハ文武ハ兩道ト心得レドモ、文道ハ本體ニテ、武道ハ手足也、又劒術ノミ武道ト思ヘドモ、是ハ武ノ小技藝ニテ、文武ト云トキハ、武ハ軍法ノ事也、自レ古武ノ一道ヲ恃ミ、文德ヲ修メズ、其終リヲ克セザル者舉テ數ヘ難シ、木曾義仲ハ岐嶺山中ニ育チ、學ブニ師無ク、猛勇驍剛ニシテ、兵勢一時熾ナレドモ、既ニ京都ニ出テ驕暴太甚ク、遂ニ敗死ス、豊公ハ其銳智敢テ敵無ク、一統ノ功ヲ遂レトモ、聖人ノ智ヲ假ザルユヘ武ニ耽ケ、又武ヲ以テ喪ヒ玉フ、軍法武士鑑ニ、（紀實武臣）太閤不學ユヘ驕兵貪兵ヲ知ラズ、

朝鮮ヲ攻ント西國ニ在リシニ、秀次俄ニ放肆狂暴ト成ル、因テ其子二人侍姫三十餘人誅戮シテ、畜生  
塚ト名ツ、其子畜生ナラバ、其父モ畜生也、「父<sup>カ</sup>子隱、子爲<sup>レ</sup>父隱」ト、聖經ニ載<sup>セ</sup>ルト云ハ、席論也、方  
次始メ暴惡ノ人ニ非ズ、卒然ト斯ク惡業ニ至ルハ、兵ヲ翫ブ天誅下ル所ニテ、未ダ三年ノ喪終ラズ、變  
臣叛逆シテ、天下大亂ト爲ルハ、全く文德無キ故也、甲州武田モ武ニ於テハ、當時敵ル者無シ、故ニ  
是時代武勇ノ者ヲ甲州武士ト稱ス、然レドモ家臣ノ徒其君ニ勸メテ父ヲ放チ、諏訪頼茂ヲ殺シテ其女  
ヲ君ニ娶ハセ、其女ノ生シ勝頼ノ爲ニ家系ヲ絶ツハ、己レヨリ出己レニ入ル者ニテ、一朝一夕ノ事ニ  
非ズ、己ニ危キニ臨メバ、始メ數萬ノ大衆逃失セテ、僅カ四十四人ト成ル、其不義不信如<sup>ク</sup>、不學  
無義トハ此事也、此皆聖經ヲ學バズ、武ハ本文道ニ在ル事ヲ知ラザルユヘ、終身冒矢石ノ功勞一時  
ニ盡キ、勞シテ功無シ、然レバ銳智ハ還ツテ愚痴ナラズヤ、是故ニ眞ノ武士爲ント欲セバ先ヅ文學シ  
テ賢智ヲ假ベシ、不學ナレバ第一事ニ臨ンデ裁斷ニ昧ク、又蘊籍ナラズ、剛愎ニシテ事ヲ執ルニ慘酷  
也、一隊ノ長トイヘドモ、古人ノ使ヒ様ヲ稽古無クテハ、一孤ノ了簡ニ任セテハ、準繩ニ合ハザル事  
多シ、大石良雄ハ近世ノ勇士也、不學ヲ憂ヒ、當一年ト密メシ齡ヲ以テ、山科ヨリ三里ノ行程、毎日  
京都ニ出デ、伊藤仁齋子ノ講釋ヲ受ク、夫天地ノ性ハ人ヲ貴シトス、苟モ人トシテ道ヲ聞ザレバ、昏  
愚ニシテ虛ク一生ヲ過了リ、禽獸ニ異ナル事ナシ、何ヲ以テ貴シトセンヤ<sup>出初學知要</sup>人ハ氣質ヲ變ヘルヨ  
リ難キハ無シ、之ヲ爲スニハ、學問ニ非ズンバ成ラズ、程子云、「學宜<sup>レ</sup>變<sup>ニ</sup>化氣質、方是有<sup>レ</sup>功」ト云、

顏涿聚ハ始メ梁父ノ大盜賊ナリ、孔子ニ學ンデ君子ト成レリ、太田道灌モ素曉驛ノ將ナリ、賤女ニ耻ヲ受ケ、學問シテ天下ノ名將ト爲ル、是故ニ學ンデ後文質彬彬ノ君子ト爲レバ、治亂共ニ其功遂ズト云事無シ、古王代ハ政教ヲ專ニ、文學大ニ隆ニシテ、學校ハ最上ノ重職ニテ、八省ノ中式部卿ヨリ司リ、親王四品以上ヨリ任ジ、公卿ヨリハ叶ハズ、國家ノ典章皆是官ノ所統ニテ、文官ノ除授考選ノ事ヲ掌リ、毎年於ニ本省ニ行ニ諸國一分召一分召者任諸國史生之名也

京都二條ノ南、朱雀大路ノ東、神泉苑ノ西ニ大學校ヲ建テ、紀傳・明經・明法・算道ノ四道ヲ立ツ、大學寮ノ東西ニ二曹有リ以言詞治獄曰曹又云、群牧之處也、東曹ハ菅原氏、西曹ハ大江氏兩家ニテ司リ、博識ニシテ詩文

ヲ專ラニシ、異國贈答ノ文簡ヲ掌ル、是ヲ紀傳道ト號ス、次ニ文章博士二人、同ク助權・大少允・大少屬アリ、明經道ハ十三經ヲ司リ、大博士ト號シ、清家中家ニテ掌リ、今ニ於テ天子ノ侍讀タリ、次ニ助教二人、直講二人、音博士二人、書博士二人、明法道ハ律令格式ヲ業トシテ、坂上中原ノ兩家ニテ司ル、算道ハ算數・曆書・天文ニテ、三善・小槻ノ兩家之ヲ司ル、又勸學院・弘文館ヲ建テ、文武ノ百官悉ク學バセ玉フ、桓武天皇勅諸學生等、年不レ滿三十、不レ得ニ任用ニト宣フ、其後天長年中ニ太政官奏曰、唯論ニ人才、何拘ニ年齒、勅依レ請、由之人ヲ勸ルニハ始メノ勅制ヲ善トスベシ、又六十六ヶ國ニ、一ヶ處ヅ、國學ヲ建テ、博士・醫者各一人、學生ハ大國ニ五十人、上國ニ四十人、中國ニ三十人、下國ニ二十人、醫生ハ五分ノ四ニ定メテ、大國ハ四十人、上國ニ卅二人、中國ニ二十四人、下國

ニハ拾六人ト定メ玉フ、學問ハ人ニ道ヲ教ユル故也、譬ハ人命ヲ救フ故也、古ヲ以テ觀レバ、領主トシテ學校ヲ立ザル、舊典ニ背クト云モノ也、古ハ民ヲ善道ニ導ク爲ニ、斯ク治教ヲ主トシテ、文學盛ナリンニ、保元平治ノ比ヨリ漸々亂レテ、指紳ノ徒モ東西ニ奔走シ、年中ノ行事節會ニ斷ルホドニ爲ツテ、學校モ竟ニ廢シ、文武ノ臣モ學問ノ暇無ク、武士ハ日ニ戰ヲ求ルヲ主トスルユヘ、文道茲ニ盡キ、書ヲ讀ム者ハ徒浮屠氏ノミナリ、故ニ是處ニ乘テ佛道ヲ勸メ、諸宗始メテ興レリ、是弊習天正迄延テ、異國贈答ノ文簡ハ、五山ノ僧ヨリ記ス、天文ノ比江邑專齋京都ニ往テ、山科殿四條ニ入門シ、四書ノ素讀ヲ受ケシニ、論語迄教ヘ、孟子ハ知ラズト辭シ玉フ、然シ源平ノ時代迄ハ、王代ノ餘流ト云者ガ武家トイヘドモ學ニ志ストミユ、未曾義仲填生八幡ノ願文ハ、覺明ガ席上ノ作也、或ハ義經腰越狀・熊谷狀・壽慶狀・經盛返狀、其外是時代ノ文簡書錄、今時ノ武士ハ假名附無テハ讀メモセズ、元弘年中ヨリ楠正成・今川了俊・細川頼之、其外ノ諸將モ、廣ク群書ニワタリシトミユ、昔ハ合戰最中ニモ、志有ル武士ハ如是出精セシニ、今治世久ク、武士モ至極ノ閑暇ナルニ、却テ書簡等滿瀝野俗ニ陷ルハ、昔ノ武士ニ對シテ耻ベキ事ナリ、應仁以降ハ開闢ヨリ始テノ大亂ニテ、干戈一日モ輟マザレドモ、其中名有ル勇士ハ、小笠原貞宗ヲ始メトシテ、諸國ノ陪臣ニ至ルマデ、經學詩文ニ達スルモノ甚ダ多ク、奥平信昌ハ周易ニ通達ス、齋藤利三ハ人皆勇驍ノミト思ヘドモ、死刑ノ場ニテ、即時ニ七絶一首、和歌一首ヲ詠ズ、今時ハ儒者 イヘドモ、一時モ二時モ肱ヲ折り、眼ヲ閉デ、韻礎ヲ看テ

モ、容易ク成ラザルニ、死ニ臨ミ劍下ニ賦スルヲ思ヘバ、昔ノ武人ハ今ノ文人ニ勝レリ、古ノ名將智士ト云フハ、皆文武ヲ兼備シ、兵起レバ武ヲ以テ戰メ、治ニ入レバ文ヲ以テ治ム、眞ノ兵道是也、和漢共ニ國天下ヲ失フ者ハ、咸文學ヲ嫌ヒ、創業ノ主ハ皆學問ヲ好ミシハ、歴史ニ分明也、聖賢ノ書ハ善言嘉行ヲ記セシユヘ、聖賢ト意ヲ同フセバ、迺チ同氣相應ジテ、之ヲ好ムトイヘドモ、闇主ハ其意黑白ニテ、我身ニ蹙ルユヘ之ヲ忌ミ嫌ヘリ、賢君ハ同德相求ルユヘ、聖經ヲ看テ我身ニ行ハン事ヲ欲スルユヘ、文學ヲ好メリ、神君文學ヲ好ミ、惺窩子ヲ迎ヘテ屢々經義ヲ聽キ、又羅山子ヲ徵庸シ、常ニ書ヲ講ゼシメ、諸士ニ聽セ玉ヒ、左右ニ向ツテ、人トシテ道ヲ知ラズンバ叶ハズ、應仁以來君臣相虐シ、父子相害フハ、唯利ニ由テ道ヲ知ラザル故ナリ、苟モ道ヲ知ラント欲セバ書ヲ觀ルベシ、人ノ上トシテ天下ニ書ヲ弘ルハ仁政ナリト、有司ニ命ジテ周易・家語・貞觀政要・武經七書ヲ翻刻シテ、普ク天下ニ施シ玉フ、天正ノ季年ニ至テ、海内兵氣已ニ謐ルユヘ、志有ル諸將ハ、幼少ヨリ槍刀ヲ執テ讀書ヲ得ザレドモ、治ニ入テ國ヲ治ルハ、文道ニ在ル事ヲ悟リ、前田利家・淺野幸長・加藤清正其餘ノ諸將モ、惺窩子ニ學ビ玉ヘリ、小早川隆景ハ筑前ニ封セラレ、直ニ學校ヲ建テ、足利ノ學校ヨリ、白文老人ノ門人玄修軒白嶋洲ト云儒帥ヲ招待シテ諸士ヲ勵マシ、又釋奠ヲ設ケ玉フ

吉備公遣唐使ノ時、聖像ヲ齎歸リ 太宰府ノ學校ニ安置ス、兵亂ニテ學校廢シ、戒壇院ニ在リシニ、今ハ大鳥井ニ在リ、孔子・顔子・閔子爲シ祭ルハ古ノ敬命ナリ、右ノ三體金像ニテ、皆劍ヲ帶シ玉フ、

世ニ有ル聖像ト異ナリ、小早川氏ノ祭ル所ハ、是聖像ナルヤ

夫戰國トイヘドモ、良將ハ如是、今太平ニ至テハ格別ノ事ナレドモ、未ダ聖廟モ建ズ、釋菜モ無キ處モ有リ、治亂ノ用ヲ爲ス其稽古タル文學ヲ爲ザルハ、人主タル者自職ニ<sup>モトル</sup>懣懣スベシ、今ノ世ハ武士

ト云ヘバ、武藝サヘ致セバ、文學ハ無クシテ可ト思フハ、是時代ヲ知ラズ、從頭カラノ相違也、源平以

前ノ武士ト、今世ノ武士ハ大ニ殊ナリ、其譯ハ王代ニハ文官武官ヲ分チ、大將・中將・少將・將監ハ武官

ナリ、又八省ノ中ニハ中務卿ハ文官ト云ヘドモ劔ヲ帶シ、其餘ハ兵部卿ノミ武官ニテ兵器ヲ掌リ、侍

ハ諸大夫ノ次ニテ甚ダ卑シ、天下ノ政務ハ大小トナク、皆文官ヨリ掌リ、諸國ニハ學才器量ノ者ヲ

撰ンデ遣ハシ、民ヲ撫育ス、此ヲ國造又國司ト云、又分憂ノ官トモ云、民ト憂ヲ分チ同フスル故ナリ、

又烹鮮ノ職ト云、小泥カズシテ大量無爲ニシテ治ルヲ云、後ニ國司ヲ守ト改ム、然レドモ刑政制律私シ

ニ<sup>コセツ</sup>讞ルコトヲ得ズ、皆禁廷文官ノ議定ニ從ヘリ、然ルニ今ハ封建ニテ武家ト爲リ、一國毎ニ各々政律

ヲ議ルユヘ、名目ハ侍トイヘドモ、實ハ文官ナリ、今禁廷太政官ヨリ左右ノ辨官ニ至ル迄、統テ文官

ナリ、國ニ於テハ陪臣ユヘ、官爵ハ無ケレドモ、其職ハ少シモ易ルコト無シ、然レバ文官ニ居テ文學

セザルハ、甚ダ不了簡也、政ノ文字ヲ分レバ文正ト書ク、文德ヲ以テ正ク治ルコト也、故ニ政ハ正キ

也ト云、又武ハ戈ヲ止ムルト書ク、斯ク文字ヲ以テ誠シメ置キ玉フ、政事ニ與ル者其身職根元ノ道理

ヲ辨ヘズ、武士ハ學問ハ不用ト云ハ、如何ナルコトゾヤ、唐書云<sup>儒學傳序</sup>「舉ニ天下ニ一ニ之於仁義、莫レ若儒、

儒待其人、乃能光明厥功、宰相大臣是也、蓋學而後入政、未聞以政學者、人君トシテ臣下ニ政事ヲ執セ、民ヲ撫育セント欲セバ、是語ヲ監ミ玉ヘ

○客云、諸國ヲ觀ルニ、土俗ノ風壤トモ云ベキ者カ、曾テ文學流行セザル處モアリ、其中ニハ亦學ニ志シ有ル者モ在レドモ、風俗ニ化セラレ、又貧ハ諸藝ノ妨ゲト、貧ニ絆レ志シテ遂ザル者寡カラズ答云、風俗ニ惹ルト云ハ、賤キ庶人ノ身ニテ、武士ニ於テ無キコト也、世ニ流行ト云テ、髮ノ結樣、衣裳ノ模様、一度上方ノ者仕初レバ、皆之ニ仿倣スルハ、心氣反覆波瀾ノ徒ニテ、元來不信ヨリ爲ス所也「故雖祖褐裸裎於我側、爾焉能浼我哉」ト云、他山ノ石ハ玉ヲ錯クベシ、天下小人多キユヘ、君子ノ德自光明也、斯ル處ニ生レテコソ、挺然ト獨リ拔ンデ、天外一峰ヲ瞻ルガ如シ、學問ト云テ、四書・六經ノミニ非ズ、人ハ其志ヲ貴ブユヘ、假名本ニテモ草双紙ニテモ、身ニ益アル書ヲ看ルベシ、人ニ暇無キ者アラズ、酒宴・碁・將碁等ニ白日ヲ偷マンヨリ、其暇ヲ以テ書ヲ讀マバ、其樂ム所ハ同フシテ、身ニ德ヲ得ルベシ、武田信玄云ク、人ハ良友ヲ求メテ善事ヲ聞クベシ、日ニ一事ヲ聞テモ、一年三百六十ヶ條、一善ニ進メバ一惡自ラ去ルトハ、定ニ名言也、偕習俗トハ、元國家ニナキハズナリ、其政教ニ在リ、貧ニシテ志シテ遂ストハ、世俗ノ實情也、桓武天皇詔云、「古之王者、教學爲先云、其先天平元年、所置大學、寮田二十町、生徒稍衆、不足供費、宜更加置越前國水田一百二町、通一百二十餘町、名曰初學田」出三類聚國史一是諸生料ナリ、是ヲ監ミ、學校ニ初學田ヲ大惣ニ附テ、家臣ノ

徒貧士ハ其々ニ見次ヲ致シ、悉ク學校ニ入ルベシ、田園モ始メ能ク糞シ置カバ、秋ニ至テ能ク登ルコト相違ナシ、錢ト偶人ハ使ヒ様ニテ、國家ハ手廣キ者ニテ、能ク考レバ、此彼無益ノ弊ヘ多カルベシ、斯ル處ニ財ヲ用ユル事第一ノ礎ナレドモ、厩々タル事ニテ、却テ寺觀ニ大祿ヲ<sup>アタ</sup>配ヘ、我臣ニモ非ザル衆僧ヲ養フハ、本ヲ薄クシ末ヲ厚クスルト云者ナリ、未來ハ抑末ノコトニテ、成佛ヲ願フハ迂遠ナリ、今日前生徒ヲ惠フバ、則チ我子ヲ能ク育ルニ少シモ差ハズ、治亂共ニ股肱耳日ト爲ルベシ、古來歷史ヲ見ルニ、國ノ興亡ハ縱ヒ堂塔伽藍百千ヲ建テ、莫大ノ財穀ヲ費セドモ、聖人ノ教、仁義ノ道ニ非ズンバ、天地神明ノ擁護ハ無キトミユ、後周ノ武帝ニ蜀郡ノ衛元禪師上書シテ、僧徒ノ猥濫ヲ告レバ、武帝詔シテ天下ノ寺堂悉ク廢毀ス、其後隋ノ文帝大ニ佛ヲ信ジテ再建シ、莫大ノ財ヲ費シテ佛像ヲ作レドモ、其子煬帝ニ仁義ノ道ヲ教ヘザルユヘ、煬帝又佛ニ淫スルノミナラズ、西苑ニ酒池ヲ造ツテ、古今希代ノ驕リニ長ジ、剩ヘ其父ヲ弑シテ天下ヲ一時ニ失ヘリ、近世我國唐津岸岳ノ城主波多參河守ハ、大諸侯ニテ家系凡ソ廿五六代、行狀惡キ君ニ非ズ、莫大ノ財穀ヲ費シ、領中ノ廢寺或ハ新造ニ、過分ノ田祿ヲ施ス、然レバ其洪福モ有ルベキニ、文祿年中不圖無實ノ難ニ遭ヒ、常州筑波山ノ麓ニ禁錮セラル、是時家臣ノ徒不學ユヘ、酬酢ノ良智無ク、節ニ臨ンデ裁斷成ラス、唯一勇ヲ恃ミ、君ヲ迎ユレドモ事不<sup>レ</sup>成、生身落魄シテ遂ニ民家ニ卒シ、斷絶ス、是興廢全ク臣下ノ智術ト見ユレドモ、兼テ書籍ヲ觀テ、古人ノ明智ヲ假ザルユヘ、時ニ臨ンデ如此自眩ス、故ニ不<sup>レ</sup>學而驕、蒞<sup>レ</sup>事惟煩

ト云<sup>出典</sup>是條ヲ能ク考へ、諸事無益ノ塵ヲ拾フテ、學校ニ祿ヲ賦テ、衆士ニ仁義忠孝ノ道ヲ教誨シ、臣下統テ文武ニ達シ、國盛ンニ及ンデ、長ク祚胤ヲ保タバ、建國祖宗ノ喜悅ハ、僧徒萬卷ノ讀經ニモ勝ルナラン

○客云、古註ノ書ハ宋ニ至テ絶ルトミユ、眞宗咸平年中、日本之僧<sup>京都青龍寺祖</sup>蔚然<sup>（奇カ）</sup>以鄭玄註孝經來獻

ズト宋志ニ載タリ、明ニ至テ王守仁・郝京山・毛龜齡等唱鳴シ、本朝近世徂徠閻齋等一派ヲ立ツ、又近年

心學ト云卑俗ノ派起レリ、<sup>石田勘平・近江屋嘉右衛門等爲祖</sup>古王代ヨリ數千載古學ナリシニ、元弘ノ比ニ至テ、墮水廣信

釋ノ玄慧始メテ程朱學ヲ興シ、其後漸々天下ニ滋蔓ス、徂徠ガ論語徵ヲ視ルニ、程朱ノ意ト大ニ齟齬

シテ朱註ヲ譏刺ス、又朱學ノ徒ハ甚ダ頗僻ニシテ、古註ノ書籍目前ニ有レドモ、手ニモ執ラズ、互ニ

忌ミ惡ム事寇讐ニ似タリ、或ハ何某ハ表向ハ朱學、內心ハ陽明、彼ハ折衷ト、思々ニ自意ヲ立ツ、是

後援群ノ儒師興ラバ、又モ派ヲ起シ、佛法ニ諸宗起ツテ、始メ釋迦ノ建シ眞法ハ消ルガ如キニ至ルマ

ジキヤ、我等如キ不肖ノ身ニテハ、何レノ派ニ據テ道ヲ究ムベキヤ、甚ダ迷ヘリ

答云 抑學問ハ道ヲ行フ爲ナリ、德行ヲ本トセバ、派ハ人フザルナリ、諸子百家ノ說、縱ヒ不正ノ言

トイヘドモ、本ニ竹ヲツグ様ナルコトハ無ク、善ヲ惡ニ説ク事モ有ルマジ、何レニテモ、一説ニ由テ

我身ニ體認シテ行フベシ、互ニ譏刺スルハ、其度量ノ狭キ故ナリ、耳底記ニ、學者ハ乞食袋ノ様ナル

ガ善ト云、公羊傳序疏云、「博覽群書曰洪儒、」大儒ニ學派ト云ハ無キ者ナリ、我等如キノ淺智ニテ

ハ、何レガ善キヤ裁判ハ遂難タシ、然シ孰レノ學ニテモ、其業ニ掛テ視ザレバ、其學功ハ顯レズ、唯書篋ヲ讀ムノミニテハ、所謂蠹魚ニテ何ノ益ニモ立ズ、明ノ太祖ハ始メ農民ナリ、文學ヲ好ンデ至孝ノ人ナリ、一タビ兵ヲ興シテ、大統終ニ成レリ、學派ノ好惡知ラザルグライニテハ、大亂ヲ治ムル事ハ叶フマジ、已ニ學校ヲ建テ玉フニ於テハ程朱學也、續テ今ノ清朝モ元夷狄ヨリ興テ、中革ヲ一統セシ者ナリ、是モ程朱學也、本朝固コリ自レ昔古學ナレドモ、慶長年中神君加州林郷ノ處士林又三郎ヲ徵庸シテ祭酒ト爲シ玉フ、神君ハ天下ヲ治ル明智ユヘ、乃神君ノ意ニ從フコト宜カフン

○ 客云、世俗ノ評ニ、日本ハ伊呂波ニテ萬事不足ナシ、漢字ヲ學ブニ及バズト云者多シ、左モ有ルベキ事カ

答云 文牒ユヘ古ノ事ヲ知ラズ、今ヲ視テ謂フ所ナリ、自レ古今ニ至リ、禁廷ノ勅書等ニ伊呂波ト云フ者一字モ無ク、舉テ漢文ナリ、神道家モ我邦ニ國字有リト云ハ僞說也、天神七代・地神五代ノ神名、皆後世學者ノ說トミユ、其譯ハ神代藻彙艸、其外ノ神書ヲ見テ神號ヲ考ヘヨ、伊呂波ハ中葉釋ノ空海漢字ヲ約省シテ、偏畫ヲ取リ作りシヨリ權輿レリ、是則甘キ毒ヲ後世ニ食ハスル者ナリ、左レバ本書ヲカナニ書クトイヘドモ、少モ暇ノ費ヘニモナラズ、却テ短文ニテ紙ノ費ヲ惜フベシ、又日本ノ學者ハ伊呂波有テ卑俗ノ文ト成ユヘ、華域ノ學者ト比ブレバ、十増ノ力無ンバ、華域ノ儒者ニ并ビ難シ、華域ノ者ハ假名ナキユヘ、文章ハ我邦世俗ノ平世カキ馴レシ書簡ヲ書クニ同ジ、故ニ左マデ心ヲ勞セズト

ミユ、今ニ於テモ尙本字ヲ用ヒズ、假名ノミニテハ、文字ノ間違ニテ爭論起ル事少カラズ、姦猾ノ輩ハ起請文ナドニテ、字ノ紛冗ニ眼ヲ紙ル者ナリ、下ニ教ユル法令ナドハ、假名書ニ非ズンバ解セズト云ハ、席上ノ理談ナリ、本字ヲ以テ記ベシ、衆民ノ内讀メル者有ツテ論ベシ、カナハ民害ト云フ譯ハ、或人榮菰ヲ贈レト云フ、假名ニテ「ナ、タカナ」ト書キシニ、鉞<sup>ナタカサ</sup>斬ヲ遣セリ、又或人紺屋ヘ蒲團地ヲ頼ミシニ、模様ハ蔓<sup>ハヒブ</sup>蒲<sup>ゼウ</sup>荷ヲ染メ、葉青ク蔓ハ赤クトカナニテ記セバ、不動明王ノハラハフタルヲ畫キ、齒ハ青ク塗リ、面ハ赤ク染マテ遣セシト、士林夜話集ニ載タリ、斯ル假名舛錯<sup>アヤマリ</sup>世ニ甚ダ多ク、民害トナル事如<sup>レ</sup>之、モシ假名無ンバ、後世ノ者出精シテ書ヲ讀事モ銳ク、又衆人モ中華ノ如ク、始コリ本字ヲ習フベキニ、人ヲ愚ニナス毒氣ヲ後世ニ吹懸ルト云者ナリ、近世尼州ノ僧諦忍ガ著セシ伊呂波辯解ニ、今幼童ノ數ヲ算フルニ、一二三四ヲ比・不・美・世ト云ハ、上古ノ國字ニテ、伊呂波ヨリ以前ニ有ト云モ、後世ノ作トミユレドモ、假名モ吉備公本字ノ略制也、此モ後世ニ餘毒ト云ベシ、應神天皇迄文字無キ事ハ、齋部廣成ノ古語拾遺、大江匡房卿ノ箱崎記ニ炳然ト見ヘタリ、今ノ古ヲ知り、後ノ今ヲ知ルモ、偏ヘニ文字ノ德ニ非ズヤ、席上ニ坐シテ千里ノ外ニ、一封ヲ以テ用達スルコト、文字ノ庇ナラズヤ、古文字無キトキ、手覺ニ指ニ繩ヲ結ビシ其難儀ヲ思ハバ、一字トイハトモ仲々忽ニ爲ベキ事ニ非ザレドモ、我邦ノ土俗ハ斯ル所ニ氣ヲ附ケズ、古曆ヲ蹈ム所ノ澁紙ニ糊リ、或ハ反故ヲ疊ノ縁ニ用ヒ、或ハ便所ニ懸守ト云テ和歌ヲ糊リ、或ハ髮結手拭ニ致シ、或ハ往來ノ路道、又ハ塵處ニ捨テ、

或ハ鼻ヲ取テ庭ニ捨テ、其汚蔑スル事甚ダ恐ルベキ事ナリ、實ニ文字ハ衣食ニ繼ベキ大寶ナリ、今長崎唐館ニハ竈ヲ造リ、數百人ノ散リ紙ハ、一字ヲ書セシ物トイヘドモ悉ク一處ニ集メ、期日ヲ定メテ燔盡スハ、文明ノ國ユヘ、文字ノ大切ナルヲ知ルトミユ、我邦文字ノ始テ傳リシハ、應神帝ノ世ニ、百濟國ヨリ易・論語・山海經ヲ貢ス、使者ノ阿直岐能ク經書ヲ讀ムユヘ、太子菟道稚郎ニ學バセ、又王仁ヲ招キ、太子及ビ難波ノ皇子ノ師ト爲シ玉フ、皇子深ク文道ニ志シ、位ニ<sup>仁</sup>天皇<sup>天皇</sup>即玉フテ、旁ク天下ニ學校ヲ建テ玉ヒ、四海大ニ治リ、本朝絶代ノ聖帝ト稱ス、是コリ世世ノ天子天下ヲ治ルニ紀律無キユヘ、遣唐使ヲ立テ、屢中華ニ遣ハシテ學バセ、禮樂刑政統ベテ漢土ノ制ニ從テ法ヲ立テ玉フ、藤原淡海公ノ律令、右大臣夏野卿ノ令義解、藤原忠平公ノ延喜格式、大納言冬嗣卿ノ弘仁格式、清和天皇ノ世ニ貞觀格式等、今ハ過半亡レドモ、國家ノ掟帖ハ皆漢文ナリ、今武家ト爲テヨリ、俗文ニ變ズルユヘ古ノ事ヲ知ラズ、下吏ノ徒縦ヒ之ヲ讀ムトイヘドモ、仲々容易ク解スルコトモ協ズ、政務ニ與ル者右等ノ記錄ヲ見テ、古ノ政事ニ與ル人ニ身ノ及バザルヲ耻テ、尙モ相勵ムヲ忠勇トスベシ、其外歷代書ノ舊事記・古事記、六國史皆漢文ナレドモ、後世卑俗ノ野史ニ陷リシハ、全ク假名ノ害毒ニヨル所也、應神帝ヨリ嵯峨帝迄凡五百餘年、假名無クテ事濟リ、今ヲ以テ古ヲ考フルニ、王代ニハ文學上ニ在リ、武家ト爲ツテヨリ、文學下ニ在ルトミユ、昔ノ文章ハ體裁字義謬多ケレドモ、近世ヨリ眞文ト成テ、中華ニモ耻ザル様ニ成リシハ、我邦ノ黷トスベシ、不學ノ者ハ、日本ハ中華ノ事ヲ用ユルニ及バ

ズト云者有レドモ、今日用ノ曆モ、論語ニ行夏時ト出ルユヘ、和漢共ニ建宙ヲ以テ定ム、今華域ノ時憲書ト分毫モ差ハズ、其外官位・冠服等ニ至ルマデ、一切ノコト統テ中華ヲ師トシテ禮ヲ立玉フ、醫書モ大己貴命<sup>神</sup>少彥名命<sup>神</sup>是二神ヲ醫藥ノ神トスレドモ<sup>出二日</sup>其藥方知レズ、大同類聚方百卷ハ、上代ノ遺書ト傳語ス<sup>安部員貞信關廣貞奉レ勅撰</sup>余之ヲ閱ルニ、用達セズト思ヘリ、世ニ行レザルハ尤ナリ、欽明天皇ノ世ニ王有陵院始メテ來テ醫術ヲ傳ヘ、又孝謙天皇醫師ニ命ジテ、素問脈經本艸其外ノ醫書ヲ學バセ玉ヘリ、武家ノ的用タル兵書モ、醍醐天皇ノ世ニ、大江ノ維時勅ヲ受テ中華ニ往キ、武經七書ヲ授ツテ歸リ、後世合戰ノ規範トス、今時目附ノ規則トスル無冤錄ヲ見ヨ、原元ノ東甌ガ作也、後世不學ノ俗智ヲ以テハ、一代腸ヲ練ツテ工夫スルトイヘドモ、所詮胸中ヨリ出ルコトニ非ズ、國家ノ制度モ本十二律ヨリ割出セシ者ナリ、後世ノ政ニ與ル者ハ、下ヲ慢リ政律ノ難キコトヲ思ハザレドモ、古ノ官人ハ天道ヲ恐レ、政道ヲ重ンズルコト、仲々以テ容易キコトニ非ズ、秤モソノ斤目ハ元泰ヲ升ニ入レ、此ヲ掛テ斤目ヲ定ム、斯ク古人ハ萬事ニ心ヲ苦メ、後世ニ益アルコトヲ示シオカレシユヘ、後世ニ生レテ書ヲ看ル者、能ク恭敬シテ心ヲ潛メ、古人ノ艱難ヲ察シ、繼ヒ稗史卑俗ノ艸紙トイヘドモ、必能忽ニ視ルコト勿レ、國家ノ大要タルコトハ、統テ中華ヨリ傳リ、我邦ニテ始テ工夫セシ者ハ無キトミユ、尙諸物ノ濫觴ハ事物紀原・漢事紀・和事紀等ニ精ク載タレドモ、視テ無益コト也、今世間ノ者學問ハ文字ヲ知ルコトト思ヘドモ、右條ヲ能ク考フベシ、齊家修身其稽古ヲ爲ント欲セバ、書ヲ見

ズンバ何ニ據ランヤ、聖人ノ道行ハル、處ハ、我邦朝鮮琉球皆中華ノ文字ニテ、人倫ノ道正シキ上國也、餘ハ世界廣シトイヘドモ、外夷ハ天空ヲ始メトシテ、飯ヲ食スルニ手撮ミニ致シ、或ハ夫婦ハ婦ヲ頭ラトシ、或ハ夫死レバ、十日ヲ過グレバ他家ニ嫁シ、或ハ人死スレバ親族集ツテ之ヲ食ラヒ、様々ノ風俗ニテ禽獸ニ異ナラズ、聖人ノ教ハ君臣・父子・夫婦・兄弟・朋友ノ五倫ヲ立テ、孝悌・忠信ノ道ヲ以テス、楊龜山云、「學以聖人爲的」ト云、古聖人ノ言行ヲ紀セル書物ヲ觀テ、吾身ニ行フコト也、玉不琢不成器、人不學不知道、我邦ニ聖人未ダ出玉ハズ、古堯舜文德ヲ以テ天下ヲ治メ、其後夏ノ禹王・殷ノ湯王・周ノ文王・武王・周公・皆聖人ニテ天下ヲ安寧シ、就中湯王武王ハ干戈ヲ執テ暴亂ヲ戢メ玉フ、後世ノ武人武ハ別段ノ様ニ心得ルユヘ、右聖人ノ神武ノ合戰ヲ觀テ、武道ハ彌々文道ニ非ズンバ、其終全カラザルコトヲ察スベシ、尼子經久ハ徒猛勇ヲ以テ一時國郡ヲ得レドモ、學問嫌ヒニテ甚ダ誹リシニ、子ニ忠孝仁義ノ道ヲ教ヘザルユヘ、其子叛逆シテ父ニ刃向ヒ、或ハ骨肉ノ親戚ドモ、剛愎驕奢ニシテ不和ニ及ビ、一代ニ滅亡ス、聖人ハ天地同體ユヘ、聖經ヲ識ル者ハ天地ヲ誹ルニ同ジ、天地ノ間ニ居リ、天地ノ恩ヲ知ラズ、何ヲ以テ永久スベキヤ、天地ノ道理ヲ知ラント欲セバ、聖人ノ書ヲ見ルベシ、無學ニシテハ所銓知ルコト能ハズ、兵道モ天地ニ代ツテ、兵器ヲ執ルユヘ、武ノ起リヲ知ラズシテハ、眞ノ武人トハ名ケ難シ、文道ハ武備ノ根元也、文ヲ學ベバ武ハ自ラ其内ニ生ズル故ニ「有文事者必有武備」ト云、源ノ義家古今ノ武將ナル事、人皆知所ナリ、常ニ家臣ニ諭シテ、

武士ト爲ント欲セバ、先ヅ文道ニ入ルベシト云、今川伊豫守モ其子ニ遺訓シテ、「不<sub>レ</sub>知<sub>ニ</sub>文道、而武道竟不<sub>レ</sub>得<sub>ニ</sub>勝利」ト記セリ、加藤清正ハ賤家ニ生レ、十歳餘ヨリ秀吉ニ仕ヘ、日夜槍刀ヲ秉ツテ、曾テ學問ノ暇ヲ得ズ、已ニ諸侯ト爲ツテ無學ニシテハ國家ハ治ラズト發明シ、老年ヨリ惺窩ノ門ニ入テ、終身手ニ論語ヲ釋玉ハズ、其自筆ノ書今ニ遺レリ、清正ハ楠公以降ノ忠臣ト稱セラル、斯質素賢良ナルユヘ、聖經ヲ好ミ玉フ、其子廣忠學問嫌ヒニテ、唯武術勇力ヲ嗜ミ、不智ニシテ家系遂ニ斷絶ス、陳忠肅云、「氣質之用小、學問之力大、」神祖ノ歩士ニ伏見彦太夫ト云者アリ、擊劍ニ達シ、勇力衆ニ拔ンヅ、或日ノ敗ニ三尺五寸ノ長刀ヲ帶ビ、山壑馳迴ルコト平地ノ如シ、神祖之ヲ觀テ拔テ見ヨト仰セユヘ、鞘ヲ拔テ打振レバ、其音風ヲ生ズ、因テ五百石ヲ賜フ、松平甚兵衛ハ神祖ノ從弟ナリ、是日ノ行粧伏見ニ類ス、神祖一覽有テ、汝ハ大家也、威儀正々禮讓ヲ本トスベキニ、今ノ有様ハ槍持口執ニ倅シ、何ゾ宰相主將ノ器ニ當ランヤ、汝匹夫ト爲ルベシ、是汝ガ好ム所ト、遂ニ祿ヲ放チ黜ケ玉フ、是ヲ以テ人ニ上下ノ別チ有ルコト察スベシ、古語、「唯知<sub>レ</sub>貪<sub>レ</sub>程、不<sub>レ</sub>覺<sub>レ</sub>錯<sub>レ</sub>道」ト云、學問ハ譬ヘバ道中記ヲ看ルガ如シ、旅行スルトキハジメ道中記ヲ讀テ、能ク程ヲ覺ヘテ出レバ、其地ノ土人ニ一言ヲ聞ケバ、細カニ尋ルニ及バズ、直ニ自心ニ分ルナリ、治亂共ニ博ク書籍ニ涉獵セザレバ、縦ヒ才略有テ腸ヨリ練出ストモ、少シ無津加志幾コトニ當リ、一節即斷ノ場ニ臨ンデハ、偏狹固滯ノ病有テ、疑惑疎謬ノ患ヒラ免レ難シ、譬ヘバ玆ニ三尺ノ刀ヲ衆人ノ前ニ出シテ何尺有ルヤト問フニ、或ハ三尺、或

ハ二尺九寸、又ハ八寸ト梁口區々ニテ水懸、而テ度レドモ、斷モ無レバ更ニ決セズ、是ハ聖賢ノ制シ玉  
ヘル規矩ヲ出シテコレノ度レバ、分毫モ差ハズ相決ス、履ヲ三尺トヨシ者ハ勝ツトイヘトモ、偶中ユヘ  
人皆服セス、是故規矩ヲ學バザレバ、人ヲ服スルコトハ能ハジ、水府義公云、世間ノ者我ヲ學問嗜ニ  
テ、武藝ハ不<sub>レ</sub>嗜ト批判セルコシ、武藝ハ武士ノ常ナレバ、不<sub>レ</sub>勸トモ皆嗜ムベキコト也、學問ハ多ク  
ハ人ノ好マザルコトユヘ、人ノ人タル道ヲ少シナリトモ知フセタノ思フユヘ、家中ニ悉ク學問ヲ勸ム  
ト宣フ、朱子云、「學者立志、須<sub>レ</sub>教勇猛、自當有<sub>レ</sub>進」ト、勉強セザルハ元不<sub>レ</sub>勇ヨリ生ズ、勇無キ者  
ハ治亂共ニ國家ノ用ニ立チ難シ、今試ミニ見コ、孩兒コリ手習讀書ヲ嗜サル者ハ、年長ジテ終ニ良者  
無キハ、目前ニ見エシ事也、學校ニ勤ル事ノ苦シサニ、我ハ武藝執心ニ退學スルハ逃日ナリ、斯ル者ハ  
情精ニシテ、馳々武術モ勵ム者ニ非ズ、文學ハ人道ノ稽古ナリ、藝ハ六藝ト云テ、乃矢モ馬術モ、古  
ヘハ學校ノ内ニ加ヘテ、文武トモニ込テ有リ、故ニ先ヅ文學シテ人倫ノ道ヲ辨ヘ、其後諸藝ヲ稽古ス  
ル事、次第ヲ蹈ンデ行クト云ベシ、俗士ノ徒不學ニシテモ、官ヲ勤ルト云ハ、政務ノ重キコトヲ知フ  
ズ、治世ニテ下達ハザルユヘ自得スレドモ、是則工人不由<sub>レ</sub>規矩準繩、而學般僅ニト云者ニテ、君子  
ノ嗤笑ヲ免レズ、蓋シ學問シテ惡キ者モアリ、是ハ學ビシユヘ惡クナルト云ニハ非ズ、學バズンバ尙  
モ惡キ者也、故ニ其者ヲ譏ルハ可ナリ、學問ヲ誹ルハ人道ヲ害ン賊トスベシ、故ニ斯ル者ニ必ズ官ヲ  
授クベカラズ、又士庶人トモニ學問ヲ誹ルコト堅ク禁令スベシ、左無<sub>レ</sub>バ後々ニハ朦朧ト成テ、仁義

忠孝ノ道ハ遂ニ盡ルベシ、是事治國ノ根源也

客云 士ニ役才ト云者有テ、不學トイヘドモ萬事速カニ捌クレドモ、學者ハ書ヲヨムコトハ達シテモ、役儀ニ於テハツタナシト、世間ニ評スルハ如何ナルコトゾ

答云 試ニ本因坊ヲ觀ヨ、圍碁ニ於テ其智慮ハ天下無ニナリ、然レバ其智惠ハ萬事ニ取テモ斯ク有ルベキニ、他ノコトニ於テハ至テ愚鈍ナル者ナリ、是他ナシ、唯圍碁一藝ニ固滯スル故ナリ、學問ハ固ヨリ其役才ヲ徵ル爲ナレドモ、文學一道ニ拘泥スル故ナリ、學者モ其志ス所段々有ツテ、經學者有リ、經濟家アリ、文章家アリ、詩人家アリ、歷代家アリ、古ハ一經ヲ主トスレドモ、後世ノ學者ハ悉ク研究セント欲スルユヘ、多キ物手ニ留フズ、一ツモ究メ盡スコトヲ得ズ、詩文ニ志ス者ハ、圍碁ノ如ク世間ニ疎ク經濟ニ拙シ、孔門ニ於テモ四科アリ、子游・子夏ハ文學ニ勝レ、冉有・子路ハ政勢ニ勝レタリ、唐ノ沉重大學ヲ講ズルトキ、授業凡ソ千人ニ及ベリ、徐廣一度其門ニ入テ、數日ナラズ辭シテ去リ、先生ノ説ク所ハ紙上ノ話ノミト云、丘瓊山云、「通天地人曰儒、一物不知、儒者所耻」ト云、經學ハ固ヨリ經濟ノ本ニテ、大學八條目ノ如ク國天下ヲ治ル教ナレドモ、後世ノ者ハ聖經ヲ擴メテ、活用ル事ハ能ハザル者、十二八九人ナリ、韓信高祖ニ向ヒ、我ハ兵士ノ將タリ、君ハ將ノ將タル者ナリト云、儒者ハ將ノ將ト思フベシ、孔子ハ蒔物師ニテ顏淵ヲ鑄玉フト云フコトアリ

出太平御覽

人ハ氣質ヲ變化スルコト、無學ニテハ爲ラザルユヘ、衆士ヲ學校ニ入レテ鑄直シ、之ヲシテ衆民ヲ善道ニ導カシ

ム、人ノ才智ハ天性ニテ、出家ヲ致セバ高僧ト爲リ、醫者ト爲レバ名醫ト成リ、庶人ナレバ豪家ト爲ル、何ゾ當役才ノミ才智有ランヤ、一切ノ事何ニ取テモ其才アリ、然レドモ其才智ヲ其儘自放ニ置ケバ邪智ト成ルユヘ、聖人ノカヲ假テ仁義ノ才ニ引移ス爲ノ學問ナリ、惜カ斯ル才有ル者ニ、之ニ知ユルニ學才ヲ以テセバ、虎ニ翼ヲ副ユベキニ、上才ニ非ルユヘ、自負シ終身發明セズ、學問ハ則チ人ノ諫友諫臣也、人ニ諫ヲ容ル事仲々難キ者ナリ、故ニ書ヲ看レバ、古人ノ言行・善惡・邪正・存立・廢亡我身ニ體認スルユヘ、諫誨ヲ受ルニ異ナラズ、子路初テ孔子ニ見ユルトキ、孔子何ヲカ好ムト問ヒ玉ヘバ、子路對テ長劍ヲ好ムト云、孔子其上ニ又學問ヲ爲ヨト宣フ、子路云、學ンデ益アルカ、孔子對テ、人君ニ諫臣無レバ則チ正キヲ失フ、上ニ教友無レバ則チ聽クコトヲ失フ、木モ繩ヲ受レバ則チ直ナリ、人モ諫ヲ受レバ則チ聖トナル、學ヲ受テ重ネテ問ヘバ、孰シカ順ナラザランヤ、子路又云、「南山有竹、不揉自直、斬而用之、達于犀革、以此言之、何學之有」、孔子云、「括而羽之、鏃厲之、其入之不亦深乎」、子路再拜云、「敬而受教」、夫聖賢ハ一言ノ教ニ由テ發明ス、其果決大勇如是、小人ハ語言ヲ聞ケバ懽ビ、善言ヲ聞ケバ惡メルハ情欲ナリ、君子小人是ヲ以テ分ツナリ、上ニ學校ヲ建ルハ、譬ヘバ碁石細工肆ノ如シ、碁石ヲ作ルニハ、先ヅ白キ貝殻ト、黒キ石ヲ買メテ之ヲ細カニ割リ、砥ヲ以テ磨キ、成就ノ上ニテ上中下ト十段ニモ撰揚ゲ、最上ノ石ハ直一石十五六文・其次ハ十文・七文・五文ヨリ、下々ハ一二文迄ニ至ル、磨カザレバ元ノ石貝ニテ、空シク山野海岸ニ

棄テ、人ニ躡ル、ノミ、此ヲ拾フテ手ヲ入ル、ユヘ、至極下品トイヘドモ、估一錢トモ成レリ、又之ヲ賣ニモ能ク高下ヲ詔シテ其直ヲ究ムルユヘ、人皆承服シテ買ム、若シ詔違ヘバ再ビ買メズ、學校ヲ建ルモ衆士ヲ集メテ性質ヲ磨キ、其才器上中下ノ次第ヲ頒チ、其器ニ應ジテ其職ヲ授クル事、全く人君ノ詔ニ在ルベシ、倘詔違ヘバ下服セズ、俗吏ノ役才ハ凡智ニテ天道ヲ知ラズ、俗ニ云フ世間上手ニテ唯利ニ喩ク、姑息ノ事ニ日ヲ觝テ世ニ街フハ、野巫醫ノ輕重ヲ査ヘズ、即功ヲ取ルガ如シ、是則街女不貞、街士不信ト云者也。出處總書文吏ハ古ノ聖智ヲ假リ、遠キ慮リ有テ世ニ街ハザルユヘ、俗眼ニハ迂遠ニ觀ユレドモ、藥種陳皮ノ如ク、年ヲ歷ルホド其功顯ハル、民ヲ帥ユルニ先ヅ五倫ノ道ヨリ教ヘ、忠信孝悌ノ風ニ化シ、邦ニ冤民無ク、獄中ケル穢ヲ生ズルヲ主意トス、是ヲ迺チ社稷ノ臣トス、第一學者ハ謙退辭讓ヲ本トスルユヘ、下之ニ化シテ謙讓ト成ル、故ニ罪罰訴訟必ズ興ラズ、文牒ナレバ剛愎ニシテ威勢ニ誇ルユヘ、下之ニ見倣ヒ、自然ト風壞暴ク成テ、罪罰殆ンド多シ、學者ニ一失有レバ人皆誹ルハ、善ハ學者ノ常ト思フ故也、庸人ノ一失ヲ咎メズ小善アレバ大ニ讀ルハ、惡ハ常ト思フ故ナリ、是却テ學者ノ得ト云者ナリ、人ヲ相ルニ、始メ惡ンデ觀レバ、繼ヒ善行有リトイヘドモ、却テ惡ク見込ムハ凡夫ノ情ナリ、常ニ學者ヲ猜ムユヘ、衆善ハ目ニ見エズ、一惡ヲ學ルナリ、試ニ學者ノ惡キ者ト、世俗ノ惡キ者ト方ベ、又學者ノ善キ人ト、世俗ノ善キ人ト方ベ見ヨ、互角ニシテモ文學ノ一道ハ勝ルニ非ズヤ、南子云、「星之昭々者、不如月之皚々」ト云、甲斐庄飛驒守ハ常憲廟御代町奉行ヲ勤メ、

當時裁判ノ名人ト稱々、或時親母ト女ノ訟ヘヲ蒙ラレシニ、中黒道隨陳誨シテ、貴賤ノ裁判我毎事  
承ルニ、一々尤ナレドモ、父子ノ間ニモ理非一偏ニ決斷有ルハ、必竟不<sub>レ</sub>誤ニハ批判準シト云ヘバ、甲  
斐庄大ニ感心シテ、是ヨリ學問ニ志シ玉ヘリ委見貴、兩者終ヒ其學トイヘドモ、身ニ仁義ヲ保ツ者ハ必ズ學  
者ヲ尊ブベシ、學ヲ精ム者ハ、其心ニ仁義ノ道ヲ好マカユヘ、大抵其者ノ胸中ハ思シテ知ルベシ、若  
シ學問ヲ惡キト見ナバ、古ヨリ和漢英ニ賢聖ノ君、郷國ニ至ルマデ學校ヲ建テ、下庶人ニ學問ヲ勸メ、  
民間ヨリ學者ヲ舉玉ハンヤ、世俗凡慮ノ知ル所ニ非ス、親ノ李典ハ元無學也、破虜將軍ニ遷リ學問  
ヲ嗜ンデ、儒業ヲ貴ビ經讀ト成テ、遂ニ諸將ト功ヲ爭フコト無シ、軍中其德ニ服シテ長者ト稱ス、神  
君京都ニテ林又三郎ヲ迎ヘテ書ヲ讀ジ、諸將ニ聞シメ玉フ、禁裏ノ儒官舟橋維方詩原、神君ニ向ヒ、林  
氏ハ無位ノ賤キ者ナリ、諸侯ノ上座ニテ講ズルハ如何ト云ヘバ、神君笑テ、斯ク云フ吾子コソ賤シケ  
レ、道アルヲ以テ尊シトス、其業トスルハ如何ナル心ゾヤ、道ノ行ハル、ヲ共ニ悦ブベキコトナリト  
宣フ、今時ノ様ニ僧徒ト俗士ト、共ニ譏刺スルトキハ、誰好ム者無ク、文道漸々廢レテ、佛法益々熾  
シニ及ビ、君臣・父子ノ道モ終ニハ胡狄ニ陷ルナラン、畢竟學問スレバ、其役才ハ自ラ生ズベキニ、  
今ノ學者ト云フハ、過半風流人ニテ、世間ノ者ヨリ俳人同様ニ思ハレ、又俳人ハ芭蕉モ孔子モ一樣ニ心  
得テ居リ、遊惰ノ風人トモ句帖ヲ作り、俳人・狂歌師・茶人等ニ墨跡ヲ乞フニ、儒者モ之ニ加ハリ、  
又近年癡癡師ドモ諸國ノ諸儒ヲ訪ヒ、合作ト名ヅケテ聯句會書ヲ乞ヒ、コレヲ鬻テ財ヲ貪ルコト世ニ

寡カラズ、寛永以前ニ比ブレバ、儒者ノ見識大ニ變ズルトミニ、朱文公足病ヲ疾ミシトキ、道人來ツ  
テ針砭ノ術ヲ施セシニ、苦痛少シク止メバ喜ビニ堪ヘズ、因テ謝フ厚フシテ、又一詩ヲ與フ

幾載相扶舊瘦筇

一針還覺有奇功

出四放杖兒童笑

不<sub>レ</sub>是從前勃窣翁

出鶴林玉露

是者大儒ニ吾療効ヲ美ラレメルヲ懼ビ、之ヲ持テ直ニ去ル、其後文公不日ニ再發シテ、苦痛前ニ勝レ  
リ、文公彼ヲ尋レドモ往方知レズ、因テ大ニ歎キ吾彼者ヲ罪スルニ非ズ、但與ヘシ詩ヲ取り還サンガ  
爲ナリ、是詩ヲ持往イテ他ノ人ヲ失ラン事ヲ恐ルト云ヘリ、斯ル事今ノ世ニ甚ダ多シ、古ノ儒ハ其高  
節大操如此、今時風流ヲ以テ儒トスル者、之ヲ監ミルベシ

經濟問答秘錄卷三終

## 經濟問答秘錄卷四

## 學校考

○客云、「孔夫子百世帝王之師、又用兵萬世之師」ト云、然ルニ諸國多クハ聖廟無シ、今日前ニ聖人ノ遺教ニ從ヒ、刑政ヲ以テ國家ヲ治メ、却テ治亂共ニ無益ノ佛寺ニ莫大ノ財ヲ費シ、又其驗効目ニモ見エザル祈禱ニハ、財ヲ用ユルハ如何ナル事ゾ

答云 戰國ノ餘弊今ニ於テ盡キズトミユ、我邦釋奠ノ祭ハ文武天皇人皇四十七代大寶元年ヨリ、後花園天皇

九十三代寛正五年迄廢セズ、天子ハ佛神ニ供ヘシ物ヲ食シ玉フ事決テ無シ、然ルニ釋奠ノ昨ヲ翌日朝餉ニ

躬ラ食シ玉フ、其尊崇如是ハ、乃チ帝王ノ師タル故ナリ、應仁ノ大亂ヨリ禁廷ノ儀式モ行レズ、豐臣

太閤一時ノ治功有トイヘドモ、武ニ耽テ一代合戰輟ズ神君文學ヲ好ミ、林羅山子ヲ徵庸シテ祭酒ト爲

シ、古王代ノ例ニ從ヒ、林氏ノ宅中ニ聖廟ヲ安置セシニ、元祿ノ比昌平坂ニ、新タニ聖廟ヲ建テ大成

殿ト號シ、家綱公躬ラ額ヲ書シ玉ヒ、側ニ大學校ヲ建ラ昌平覺ト名ケ、天下ノ士ヲ學ベセ玉ヘリ、中

華ハ文明ノ邦ユヘ、其中餘程亂世ニテ、帝王易レドモ釋奠絶ヘズ、又孔子ノ子孫今ニ於テ諸侯ノ位ヲ

落イデ、今清朝ニテハ郡縣ノ政ニテ、大名ハ無レドモ孔子ノ子孫ヲ衍聖公ト稱シテ世々諸侯也、又天

子一代毎ニ、躬ラ魯國ニ往テ祭り玉ヘリ、世界廣トイヘドモ、子孫連綿ト百世絶ヘザルハ、我邦神武  
天皇ト孔夫子ノミ、聖人ノ盛徳是ヲ以テ察スベシ、明朝ニハ毎年四季上丁ノ日大牢ヲ牛羊以テ祭り、  
天子ノ聖廟凡ソ五百六十餘ケ處、春秋二祭ニ牲ヲ用ユル事、牛六疋・猪二萬七千餘疋・羊五千八百餘疋・  
鹿二千八百餘疋・兔二萬七千餘疋・幣帛二萬七千六百餘反・其殺牲一年ニ總テ六萬二千六百餘匹ニ及ブ、  
今清朝ニ至テハ尙モ盛ンニシテ、十一月四日ハ孔子ノ誕生日ユヘ、是日ヲ以テ定日トシ、天子ヨリ庶  
人迄四百餘州皆祭レリ、人ハ皆下職ノ祖タル者ヲ祭ルハ當然ノ理ナリ、古ハ郡縣ニテ、天下ノ政ハ禁  
廷ヨリ出レドモ、今封建ト爲ツテ、每國其主タル人天子ニ代ツテ禮樂刑政ヲ行ヘバ、古ヘ天子ノ釋奠  
ヲ繼デ祭ルベキニ、忠信孝悌ノ教ニ非ザル佛寺ヲ立ルハ、必竟其本ヲ糺サバル故ナリ、我藩ハ大夫ノ  
邑トイヘドモ聖廟ヲタテ、春秋兩度釋菜ヲ設ク、未來ヲ願フ寺堂ヲ建立スル思ヒヲ爲サバ、一廟ヲ立  
ル事僅四百兩、諸侯ノ身ニ於テハ、何事モ無キ事ナリ、由是聖廟ヲ造營シ、伶人八軒ヲ立テ、一家  
ニ田地五段ヅ、合セテ、共ニ四丁ヲ各自耕致サセ、武臣ノ組ニ加ヘズ、帶刀ノミ免ジ、春秋兩祭ニ樂  
ヲ奏シ、又領中諸處ノ神祭或ハアマゴヒ零等リ、皆彼等ヲシテ樂ヲ奏セヨ、又領内ノ遠壠ニ神社アラバ、其下  
社家ニ樂ヲ習ハシ、其郡村ノ祭リニハ樂ヲ設クルベシ、今諸國ヲ見ルニ、零ト云ヘバ郷里市街群集シ  
テ、鉦太鼓ヲ搥チ、或ハ踊狂言角力等ヲ催シテ、莫大ノ物人ノミナラズ、後ニハ喧嘩口論ニ暇ヲ費シ  
テ失墜多ク、或ハ訟ニ及デ上ノ難題トナルハ今觀前ノ事ナリ、是則チ淫祀ト云者ナリ、神明焉ゾ欲玉

ハンヤ、神ハ大地ト同體ナリ、天ハ晴天靜カナキベキニ、衆民斯ク騒喜ムルハ、天ニ迅雷烈風有ルガ如シ、大坂天滿ノ祭ニ、夜神輿ノ幸行ヲ觀ルニ、衆民騒喜ムレモ、樂ヲ奏スルユヘ、其靜閑ナル事無人ノ如シ、人民群集ノ場ニハ、官ヨリ警固ノ吏出レドモ、樂ニ致セバ是モ減ジテコシ、樂ヲ聞テ惡心起ル者決シテ無シ、音曲ホド人ノ心ヲ移ス者アラズ、今現ノ證據ニ、世間ノ者ニ雅樂ト三絃トヲ聞セテ試ミヨ、心無キ田夫トイヘドモ雅樂ヲ聞ケバ、縦ヒ喧嘩ヲ仕懸テ來ルトモ、忽チ其心靜ニ成テ善心ヲ生ズ、三絃ヲ聞ケバ、平生坐禪ヲシタル老僧モ、忽チ淫情起ルハ人情ナリ、小人ハ其心浮氣ナル者ユヘ、常ニ靜閑ノ法ニ導クベシ、樂記ニ云ク、大樂與天地同和、又孝經ニ、移風易俗、莫善於樂、ト云、故ニ樂ニ致セバ、第一神慮ニ撫ヒ、風俗ヲ變ジ、國家ノ大益是ニ在タル事無シ、由是古王代ノ治教專ツ之ヲ用ヒ玉フ、夫レ國家ヲ治ムニハ、禮樂刑政一ツモ闕ベウラズ、神樂モ元ト王家ノ俗樂ナレドモ、武家ニ於テ又一變シテ申樂ト爲ルハ、昔戰國ノ時傳ヲ散ズル突ヲ催爲シテ、俳優ノ戲事ニテ、人心ヲ協和スル爲ニハアラズ、今治世久ク、諸國政ニ與ル士ハ皆吏官ユヘ、治教ノ法ヲ純ラニシテ、人民協和ヲ本トスベシ、幸ヒ唐朝ノ樂我邦ニ傳ハリ、中華ハ遠ニ廣スレドモ、今ニ於テ廢セザルハ、古今不易ノ敬トスベシ、後世奈良家・王家・天王寺家ノ三派ニ分レ、諸國大抵天下寺派多シ、治民ハ姑メ制度ヲ立テ、本ヲ治レバ末ハ自然ト無爲ニシテ、上下安寧ナリ、本ヲ治マサレバ、末ハ事繁ク煩ク成テ、艸ノ穢ヲ殖テ又耘ルガ如シ、故ニ官吏益々多キニ至ルベシ、是法世俗ハ學者臭様

ニ思ヘドモ、古聖賢、君明試シテ建國玉ヘバ、上天心ニ應ズル事必定ナリ、天心ニ應ズレバ天災必ズ降ラズ、是意ヲ考ヘ、縦ヒ俗士ノ徒之ヲ拒ムトモ、思切テ此法ヲ建ツベシ、後ニ至テ其効必ズ顯レン

本朝諸國釋奠式

令義解曰、凡大學國學、毎年春秋二仲之月上丁釋奠於先聖孔宣父、具饌酒明衣、所須并用官物、註曰、釋釋菜也、奠奠幣也、祀共先聖、以示敬聖、嵯峨天皇弘仁十一月二月甲戌朔丁丑釋奠於先聖延喜式曰、釋奠二座

先聖文宣王・先師顏子、但太宰府者、先聖・先師顏子・閔子騫二座

籩十六 豆十六 簋四 簠四 俎六 樽罍四 杓四 第二爵八 玷一 昨完俎一 籩一 罍一

杓一 洗一 爵巾 簠一 幣帛二條 巾二條 楸版二枚 簋二合 炭一斗鹿祭文 松明拵把

油一升鹿代 盥四口鹿代

凡盛物籩實石鹽五顆、乾魚乾菜栗榛人菱人茨人各一升、鹿脯一斤八兩、豆菜羹一升、醢醢五合、菁一升、鹿醢九合、芹一升、菹醢五合、筍一升、魚醢五合、簠簋實稷飯用六合、黍稻梁飯各用米六合、樽罍皆一斗爲量、牲者皆載右胖、前脚三筋、肩臂臠節二段皆載之、後脚三節節一段去一節、載上臠骼二筋、又取正脊臠脊橫脊短肋正脇各二骨、以并餘皆不設、若上無者皆以其類充之

○客云、論語「民可使由之、不可使知之」ト云ハ、誠ニ然、庶人學問スレバ利口ニ爲ツ

テ、口事訴訟ヲ好ムノ本ト云フ者間々在リ

答テ云出家俗士ノ徒、嫉妬ヨリ云所ナラン、「不可使知之」トハ、之ノ字ハ人道ヲ指テ觀ルベシ、數萬ノ人ナレバ、一人毎ニ喻シ曉スコト能ハズ、故ニ其長タル人學問シテ、先ヅ躬ラ之ヲ行ヒ、其後民ヲ之ニ帥ヒ由ラシムベシト云コト也、事ヲ論議裁判スルニハ、先ヅ其大體ヲ考ヘ、向フニ的ヲ懸ヨ、左無ンバ方角ヲ知ラズ、途ヲ急ゲガ如シ、生質魯鈍ノ者ハ其中ニ少々過失アルトモ、日指所の善ナルトキハ、遂ニハ其的ニ中ルベシ、人ニ善事ヲ教ヘテ、惡キト云コト決シテ無シ、明ノ劉基ハ太祖ヲ輔ケテ、天下ノ大亂ヲ治メシ武將也、太祖初迎劉基、劉基云、今欲應天行道、伐暴救民、其要唯在不貪欲、不嗜殺人而已、仁莫大於教人」ト云、惡性ノ者ニ教ヘズシテ置ケバ益々放縱シ、雪上ニ霜ト爲ル、試ミニ田地ヲ視ヨ、一面ノ平地ニモ、畦ヲ阻テ二石登ル處アリ、一石五斗登ル處アリ、其土ハ易ザレドモ、土性肥礪ニ由テ斯ク損益アリ、其下田ニ上田ト齊ク二石ヲ收ント欲セバ、能ク手ヲ入レテ糞培スレバ、土性ハ惡ケレドモ、精力ノ功ニ由テ、其登リ上田ニ異ナラズ、人ハ元性善トイヘドモ、私欲ニ由テ晦ムナリ、是故ニ聖智ヲ假テ、其昏キヲ破リ明カニ成ス爲ノ學問也、人心ヨリ移リ易キ者無シ、門徒・法華モ同ジ國民ナリ、然レドモ僧徒ノ教ヘニ由テ、法華ハ執拗剛強ニ成リ、門徒ハ凝固頑辭ニ爲レリ、文學ハ忠信孝悌ノ教ユヘ、若シ之ニ帥ユルトキハ、門徒ノ祖師ヲ信ズルガ如ク、國民統テ信レ佛心ヲ引替ヘテ、君上ヲ尊ビ、父母ニ能ク仕ヘ、忠孝ノ道ニスルコト必定ナリ、韓魏

公曰、「天與人性不一、聖人欲牽焉而一之於善、非學不能也、故三代之夏殷興也、自國家以達鄉黨、必有學、以教其民人、導其性、使一之於善、以明乎君・臣・父・兄・弟・夫婦・婦婦之道、然後人安其分、而享國永久、大矣哉、學之有功於治也如此」、學問シテ小利發ニ成リ、口事訴訟ヲ嗜ムト云ハ、畢竟未ダ上ノ德化行ハレザル故ナリ、虞芮ノ民周ニ入テ畔ヲ讓ルヲ見テ、自ラ耻ルヲ視テ案スベシ、又下ヲ惡ム事勿レ、又一ハ上々ヨリ教導ノ制度無キ故ニモ由レリ、世俗咸文字ヲ知リ、手跡ヲ能ク書クヲ學問ト思ヘリ、故ニ手習ト云、又童兒ヲ手習子ト云フ、古王代ハ鄉村庠序ノ學館モ有リシニ、戰國ト爲ツテ已ニ廢リ、民人皆寺ニ往イテ僧徒ヲ師トシ、手ヲ習フ事今ニ於テ盡キズ、故ニ入塾スルヲ登山ト唱ヘ、歸省スルヲ下山ト云、鄉市ノ師家ヲ寺子家ト名ク、是皆以テ戰國ノ餘言ナリ、呂東來云ク、「教ニ小兒、先以恭謹、不輕忽、不躑等、讀書乃餘事」ト云、植木モ小天ノ時屈伸セザレバ、大樹ト爲ツテハ成リ難シ、人モ幼少ノ時教ヘ込ザレバ、年長ジテハ私欲生ジテ教ヲ用ヒズ、然ルニ今時寺ニ行ケバ、唯佛ヲ尊ブ事ノミ教ヘ、人倫ノ道ハ勿論、禮容モ教ヘズ、途ニ官者ニ頭卷ヘチマキヲ脱ギ、老人ヲ貴ビ酒賭ヲ禁ズル事一古モ無ク、酒ハ自ラ飲ンデ見スルユヘ、子ドモ皆之ニ倣ヘリ、是故ニ益々佛法盛ンニ及ビ、忠孝ノ道ヲ教ヘズシテ、何ヲ以テ知ルベケンヤ、又寺子家ノ師ハ、始メ實語教・童子教等、佛道主意ノ書ヲ教ヘ、其後庭訓往來・辨慶狀・義經狀・風月往來・江戸往來等、庶民ノ身ニ何ノ益ニモナラザル者ヲ、唯案文ヲ主トスルユヘ、年長ジテ案文ニ工ミニシテ口

事。孟子・中庸、是ヨリ書經トヲ讀シ、大學ノ法ヲ堅ク守レトモ、是亦丁蘭達ナリ、大學・孟子・書經等ハ、天下國家ヲ守ル王侯大夫ノ書ナリ、庶人ノ身ニシテ之ヲヨミ、等ヲ論テ何ノ益有ルコトゾ、中輩ハ及第ノ法ヲ立テ、學才アレバ民間ヨリ宰相ノ官ニモ陞ルユヘ、右等ノ書ヲ素讀スレドモ、我邦ハ容易ノコトニ非ズ、蓋シ下ヨリ出デ、王侯ノ師ト爲ル儒者アリトイヘドモ、是ハ稀ナルコトナリ、衆人ヲ師ユルニハ、諸人一般ノ情ニ就テ誨ユベシ、其中奇才ノ者出レバ、自己ノ才力ヲ以テ讀モスベシ、孝謙天皇猶タ天下ニ詔シテ、人民ニ孝經ヲ讀、習ハシメ玉ツ、孩兒ノ覺ユシコトハ、一生忘ル、者ニ非ズ、故ニ先ヅ孝經ヨリヨミ始メ、次ニ論語・小學・家範、是四部ヨリ外、決シテ讀マセズ、ヨミ終ラバ又操返し讀ゼサスルヲ學則ト定メ置キ、手本ニハ國ノ法度條目ヲ習ハセ、實語教或ハ庭訓等案文雜書ヲ禁制シ、一郷ニ一館、市町ニハ三百戸五百戸ニ一館ヲ建テ、是處ニ子ドモヲ舉テ集メ、寺觀ニ至ルコトヲ禁ジ、其餘ノ師家モ免許無テ叶ハザル法ヲ立置キ、郷學ノ師ハ手跡ハ惡筆ニテ苦シカラズ、又僅三部ノ經書國字解假名本ニテモ、隨分事足ルベシ、左迄學力無クトモ宜シ、第一下戸ヲ撰ムベシ、倘師タル者飲酒スレバ、子共見習ヒ、一村悉ク酒徒ト成リ、還テ惡弊ヲ勸ムル困トナルベシ、故ニ學ノ淺深ヲ論ゼズ、先ヅ德行ヲ紂スベシ、今諸國毎ニ鄉村ニ横目ト云者アリ、或ハ庶人ヨリ勤メ、或ハ小給下士ヨリ勤ム、下士コリ勉ル役給ハ上ヨリ出ヅ、庶民ヨリ勤ル役給ハ下ヨリ出ヅ、今ノ庄屋ト云

ハ、年貢ヲ取立雜務ヲ計ルヲ自職ト心得テ、風俗ヲ改メ賞罰ヲ正ス政道ノコトハ、思ヒモ寄ザルコトト見ユ、由<sup>レ</sup>是横目役ヲ省キ、右ノ郷學ニ下士<sup>ノ</sup>輕輩ヨリ遣ハシ、是ニ横目役ヲ命ジテ、一郷ノ目附ト爲スベシ、或ハ其郷市ニ在テ師範ハル者、ヲシヘ方モ能致シ德行ノ者ナツバ、此ニ命ジテモ善シ、是者ヨリ庄屋ノ郭正ハ勿論、郷民ノ善惡ヲ聞見シテ諒誨ヲ致シ、若シ用ヒズンバ朝堂ニ送ヘ、或ハ孝子良民等ヲ奏シ、其教導ニ因テ風俗一變セバ、文翁ガ蜀郡ヲ變ズルガ如ク、國家ノ大功ユヘ、重ク賞ヲ賜フベシ、童子ハ私シ無キ者ユヘ、郷中ノ事毎日稠密ニ聞キ取ルコト易シ、故ニ細川賴之執政タル時、足利義滿ニ孩兒ヲ近習トス、國家ニ長トシテ衆人ヲ使フニハ、第一本末ヲ知ラズンバ、無益ノ事甚ダ多シ、飛驒ノ匠ガ家ヲ造ルニ、<sup>ノリ</sup>枳一本ニテ堅ムコト云ハ、無用ノ所ニ打ズ、其要ノ處ニ打ツコトナリ、官ヲ授ルモ、其要處ニ用ユレバ事繁カラス、空ク人ヲ費サズ、又役給ノ損モナク、上下ノ益ト爲ルユヘ、能ク工夫ヲ遂テ本末ヲ探ルベシ、左無ンバ偏手大鈞ノ其要處ヲ辨ヘズ、釘ヲ惜メズ減多無正ニ打ツニ似タリ、末ニ多ク用ユル官ヲ本ニ置ケバ、末ニ多ク用ユルニ及バズ、獄訟繁キハ、根元民ノ愚ニシテ無義ヨリ生ズ、喧嘩・口論・訴訟等始ヨリ自身ノ惡ト知テ致ス者ハ、珍シキ極惡ナリ、皆自身ニ理有リト、非ヲ是ト思フ愚ヨリ起レリ、罪ニ處シテ鞭刑ニ逢フトイヘドモ、竟ニ自悟セズ、還ツテ上ヲ怨ルハ一般ノ凡情ナリ、阿波ノ山家ト云處ニ、斧ヲ以テ親ヲ殺ス者アリ、捕ヘテ德島ニ引來ル、廷尉之ヲ責レバ、上ハ當ラヌコト云ヒ玉フ者カナ、吾ハ人ノ親ヲ殺スニ非ズ、吾親ヲ殺セバ、人ノ咎

メヲ受ルニ及バズト云、又或郷ニ大酒内損ニテ早世ス、其子又大酒スル故、或人之ヲ見テ、父ハ大酒ニテ死ヲ得ルユヘ、此ヲ監ミ憤ムベシト諫ムレバ、之ヲ拒ンデ、父酒ヲ嗜シニ、子トシテ父ノ好メル物ヲ嗜マザレバ、親ノ意ニ背ク故、是孝ニ非ズト益々沉湎シ、遂ニ酒ノ爲ニ家ヲ喪シ、又早世ス、此等ノ事君子一タビ之ヲ聞カバ、撮眉蹙額コトナレドモ、庶人ノ愚情ハ大抵如此、是意ヲ考ヘ右ノ法ヲ立ル時ハ、第一師タル者其地ニ居ルユヘ、生長者モ自然ト風俗改ラバ、他邦ノ者其軀ニ入テ感服シ、威名四方ニ響クベシ、是則チ武備ノ大要也、武國ト云ハ、擊劍槍馬ノ小技ハ末ナリ、四民信義ヲ守リ、君德海内ニ耀クヲ大武ト稱ス、諸國ノ風評ハ天下ノ人能ノ知レリ、譬ヘバ水府ハ古來文國ト唱ユルユヘ、彼邦ノ者來レバ、定メテ學者トラント思フ、若シ不學ナレバ、水府ノ産ニ不似合ト云、又江州ノ商人來レバ、豪富ナラント思フ、江州ハ古來鄉村ニ富有多キ故ナリ、或ハ大坂ノ人來レバ、定メテ遊藝ハ上手ナラント云、大坂ハ嬌聲ニ於テハ天下無雙ユヘナリ、能ク是ヲ考ヘ、民ヲ信義ニ移サント思ハバ、唯敦ルニ如ザルナリ、今試ミニ觀ヨ、下ニ居テ書籍ニ志ス者、左迄姦猾ノ族ハ有ルベカラズ、縱ヒ行狀惡クトモ、一言ノ諫誨ニ由テ耻ル所アリ、故ニ教ヘテ施シ損ト云事決シテ無シ、「善政、不如善教之得民也」ト云ハ、民情ニ合セ考フルニ毛髮モ差ハズ、是故ニ政務ニ多ク用ユル官吏ヲ是所ニ用ユルトキハ、末ノ十人ハ本一人ニテ事足レリ、民間ニモ親タル者其志有ルモノ多レドモ、實ハ貧ニ逼ツテ其子ニ學バスル事ヲ得ズ、今寺子屋ニ行クニ、毎月米錢ノ謝儀、且ハ筆紙墨書籍代ニ

苦シムナリ、故ニ郷學ヲ立レバ、横日ノ役給ニテ謝儀ニ及バズ、又卓ヲ一二百宛、又孝經・論語・小學・家禮一二百部ヅ、官印シテ置キ、貧家ニ貸シ附ケ、其法則ニハ能ク諳ズル者ニハ、筆紙墨其甲乙ニ從フテ賞ヲ與ヘ手跡ノ善ニハ與ユル勿レ、錢ト偶人ハ使ヒ様ト、今目前國人ヲ善道ニ導ク法ニ財ヲ施スベシ、國毎ニ凶年救急ノ官財アリ、其財茲ニ用ユルトキハ、後ニハ救急ハ入ラザル様ニナルベシ、偕是法ヲ建ルニハ、始メ嚴法ニ爲サズンバ、後年必ズ頽ルベシ、由是學則ヲ上ヨリ立テ壁書ニスベシ、其譯ハ毎月十銅ヅ、塾疊料ヲ納ベキ事、一年ニ百二十銅ナリ、是事無ンバ、一向無謝ニテハ來ラザル故ナリ、歳暮ノ餅、五節句ノ祝儀物不相叶事、出精ノ者ニハ可有賞事、孩兒ニ能ク教ニ禮儀事、孝子順孫、次ニ精勤ノ良民有ラバ、可申達事、第一怠惰ニシテ田地ヲ荒ス事、鄉村農民五人ト集會醲飲致サバ、庄屋ト談ジ可訟事、惰民及姦亂大酒博奕ノ者ハ一應遂異見、若不用トキハ可訟事、鄉村旅人ノ百化ドモ巡廻セバ、庄屋ニ申シ聞ケ追拂事、僧徒村中ニ入テ、說法或ハ奉加事、其外一村ノ非常、悉ク條目ヲ書シ授ケ置クコト大ニ宜シ、民ノ盛衰ハ全ク宰尹ト庄屋ニ在ルコトナレドモ、今時ノ庄屋ト云ハ、政事ハ重キ者ト心得ル者曾テ無シ、故ニ是法ヲ建テ教導シ、其中勝レタル者ヲ庄屋村役ト致セバ、自然ト一人教ヘ成テ十人ニ教ヘ、十人教ヘ成テ百人ニ充ベシ、何ゾ治ラズト云コト有ラシヤ、國ニモ家ニモ、善ト見立テ大損無キコトハ、兎角何事モ致シテ靚ルコト善シ、又茲ニ一術アリ、販メ一局ニ金五十兩ヲ庄屋ニ渡シ置カバ、年二割ニ貸附ケ一年十金ノ利息、是ニテ永代役給足リ、謝

儀ハ一錢取ルニ及バズ、謝儀無ンバ、貧民悦ンデ子ドモヲ入塾サスベシ、北蕃ニハ幼院・學院・病院アリ、病院ハ我邦古ノ悲田院ナレドモ、尙又良制アリ、譬ヘバ難病ニテ終身不具者ハ、一町ヲ立テ家ヲ作り、其者ニ應ジテ様々ノ細工ヲ授ケテ職ニツカシメ、或ハ盲目ニハ音曲等ヲ稽古致サスルヲ法トス、幼院ハ棄子ヲ養育シ、後年其捨タル親ドモ其子ヲ乞ヘバ、棄タル年月時刻符合スレバ之ヲ賜フ、或ハ女子ハ嫁セシメ、男子ハ養子トモ成ル、學院ハ中華ノ對策及第ト同ク、民間ヨリ選舉スルナリ、右ノ給用ハ商舶ノ輩出帆ノ時、海上無難ノ祈禱ニ、是三院ニ金銀ヲ奉納シ、我邦ノ様ニ寺堂ニ奉納セズト或書ニ見エタリ、是事反テ佛神ノ意ニ愜ヘリ、今世間ノ者法華般若ヲ寄進スル心ヲ持テ、書籍ヲ鄉學ニ寄進セバ、未來ヨリ先今日前生タル者ヲ引導スル事ユヘ、其功德ハ大ナレドモ、民ハ昏愚ユヘ、始メハ發明致スマジ、然レドモ鄉學ニ良師在テ道理ヲ諭サバ、漸々發明シテ、終ニハ三院ノ如ク、學校ニ寄附スル様ニ成ル事モ有ランカ

○ 客云我藩古來高名ノ儒者起ラザルハ、他邦ニ對シテ耻ヅベキ事也

答云 儒者ニ限ラズ、小技藝トイヘドモ天下ニ名ヲ成ス者ハ古今幾稀ナリ、儒者ハ詩文ニ達セザレバ佗國ニ響カズ、蓋シ詩文ハ名利ノ學ニテ、國家ノ益ニハナラズ、故ニ高名ノ學者一兩輩起ランヨリ、衆士舉テ四書五經ヲ讀ジ居ル事大ニ國益ナリ、文武高名ノ士ハ、無賞ノ國ニハ滅多ニ興ラズ、儒者ハ勿論、武術ノ達人起レルハ、其國ノ盛事ナリ、若シ俳人・角力・能師・淨瑠璃・芝居等遊藝高名ノ族

起ラバ、却ツテ其國ノ耻辱ナリ、故ニ耻ヲ耻テ、唯文武專用ニスベシ、又書ヲ教ユルニ、儒書ハ經音ニ讀ム者ト心得テ、論語ヲリシヤ論語卷九キウ、或ハ卷六ト讀ム者アリ、是ハ頗僻ト云者也、佛書ハ吳音、儒書ハ漢音ニ讀ムベシトハ、古桓武天皇ノ勅制ナレドモ、幾久ク吳漢雜駁ナリ、兎角書ハ世間ノ者之ヲ聞テ、早ク聞取ル法ニ讀ム事、人ヲ導クニ便利ナリ、故ニ駁ヘテ讀モ大事ナシ

○客云、近年文運漸々盛シニ及ブトミユ、其證ハ大坂ノ書肆ニ聞クニ、佛書ハ一向賣レザルユヘ、至極ノ下直ニテ職業ニナラズ、儒書ハ夥シク賣レ、四書五經ノ素本ハ、板本年ヲ逾ズ潰ルト云、又諸國過半學校盛シニシテ、衆士咸學ベドモ、大儒ト云者容易ク興ラザルハ、如何ナル故ゾ

答云 山林ニ往テ良材ヲ擇ムニ、數萬木ノ中ニ床柱ト爲ベキハ、二木ト得難シ、霪雨頃蝦蟇ノ子ヲ見ヨ、途上足ヲ容ル隙モ無シ、然レドモ眞ノ蝦トナルハ、僅一二疋ト言傳フ、拔群ノ者モ亦是ニ似タリ、世ニ藝術甚ダ多ケレドモ、讀書ヨリ心苦ハ無シ、然ルニ當今諸國ノ教ヘテ觀ルニ、衆士ヲ悉ク學者ニ爲サントスル教ヘ方ユヘ、還テ文道行レズトミユ、又今時ノ儒者ハ文人ト稱シ、詩ヲ賦シ文ヲ作り、足下ト云ヘバ不佞ト對ヘ、陽春白雪ヲ謳ヒ、風流ヲ主トスルユヘ、世間ノ者ハ諺ニ云フ南面情落ノ風ト思ヒ、信仰スル者寡キトミユ、眞ノ聖學ハ左ニ非ズ、古ハ文官武官ト分レドモ、武人モ文學ヲ爲ザレバ、武道ノ本意ヲ明ラメザルユヘ、皆文學ヨリ入ル、今時學問不嗜ノ士ハ、吾ハ武人ニ爲ラント、五經ノ素讀モ耽ト覺エズ、武場ニ入テ槍刀ヲ執ルハ、發端ヨリ相違ナリ、文學ハ仁義忠孝ノ稽古也、武

術ハ陣ニ臨ンデ敵ヲ挫クノ稽古ナリ、故ニ先ヅ聖賢ノ武則ヲ明ラメ、其後ニテ武藝ヲ稽古スル事、前後本末ヲ亂サズト云ベシ、武家ニ生レテハ幼少ヨリ多用ノ者ニテ、甫七八歳ヨリ素讀シテ四書五經二十五六迄ニ及ビ、是ヨリ武藝ニ掛リ、並陰箭ノ如ク、兎ヤ角スル中、已ニ廿四五ニ至レバ妻ヲ娶ル、妻有レバ子アリ、家事ノ心配ニ讀書モハカ取ズ、役儀ニ掛リ、彼レ是レノ苦心ニテ、始メ習ヒシ四書ナドハ、點々ニ覺エテ居ル所モ有ランカ、五經ニ至テハ瀟灑忘<sup>サッパリ</sup>レルナリ、經書ハ解セズンバ、僧徒ノ亡者ニ佛經ヲ讀ムガ如ク用ニ建タズ、故ニ始メ素讀セシ艱難ハ、勞シテ功無シ、今ノ武士ハ前ニ述タル通り、武士ハ名曰ニテ、實ハ文官ユヘ、治教ヲ主トスレバ、學問無クテハ決シテ叶ハズ、大儒ト爲ルニハ及バネドモ、聖經一通リハ、大體文義ヲ諷ト解セズシテハ治教ニ昏シ、今學校家塾ニ入ルニ、朱學ノ法則通り、大學ヨリ始マリテ、論・孟・中庸或ハ小學・五經ヲ素讀シ、已ニ禮記ヲ讀ムトキハ、始メノ詩經ハ處々ハ最早忘レテ居リ、又十一二歳ヨリ詩作ヲ致サセ、又小學臨講ヲ致サセルユヘ、子共ハ退屈シテ學業博カラズ、學問ハ融會貫通ト云テ、嚴寒ニ池ノ水ヲ融ントスルトモ得ベカラズ、陽春ヲ迎ユレバ漸々融ルガ如ク、學問モ解セザル所ハ暫ク置イテ、又次ヲ讀ミ佗書ヲモ看ルトキハ、池ノ氷ノ春風來テ彼岸ヨリ融ケ、此ノ端ヨリ融ルガ如ク、自然ト會得スベシ、幼少ノ者ニ小學ヲ解セヨ、之ヲ講ゼヨト云ハ、嚴寒ニ池ノ凍ヲ融ント、一桶ノ熱湯ヲ灌懸ルガ如ク、些共一處ノミ、詩ハ又樂ニ致ス者ユヘ、好メル者ハ年三十四ニ爲テモ遅カラズ、又孩兒ヨリ辯舌能ク説キ習フトイヘドモ、終

身舌耕スルニモアラズ、斯ク詩作臨講等ニ、孩兒ノ身ニシテ心氣ヲ勞スルユヘ、一方ニ主トスベキ經書ノ諳誦ニ懈ルナリ、是所謂「見<sup>レ</sup>卯而求<sup>トキツクル</sup>時夜<sup>ニ</sup>」ト云者也、又十七八歳ニ及ベバ、四書ニ眼ヲ晒シテ、明德ハ斯者、浩然之氣ハ彼様ナル者、仁說ハ此様ナ者、蒙引ニハ斯見ユル、直解ニハ如此ク、揚氏ノ說ニハ斯ク謂ヘル、程子ハ斯ク、張氏ハ斯ク註アリト、唯論義ニ聲ヲ嗶シ、心氣ヲ費シ、諸說ノ諸役ト成テ、纔六十年ノ齒ヲ空ク過スハ、豈無益ナラズヤ、武士ハ多用ノ者ユヘ、斯ク一道ニ偏固スベカラズ、又四書ノ意味ヲ極究メ盡サズンバ、修身治國ニ至ラザル所モ有ルヤ、僅四書一部ニ數年眼ヲ囓ス暇ヲ以テ、廣ク群書ヲ觀テ、古人ノ言行ヲ身ニ體認シ、斯ル時ニ臨ンデハ、聖賢ハ斯ク致セシ事アリ、斯ル場ニ至テハ、カク宜ヒシ事アリト常ニ聖經ヲ諳ジ居テ、衆クノ書ニ涉獵セバ大ニ益有ルベシ、涉獵トハ、河ヲ涉リ田ヲ踰テ獵ヲスルガ如ク、其精詳ナルヲ眞ノ儒ト稱スル也

○ 客云、士ハ固ヨリ無學ニテ叶ハズ、然レドモ學問ハ難キ者ユヘ人皆好マズ、家臣統テ大抵聖經ヲ讀ムニ、捷ユク法ハ有ルマジヤ

答云 無キニシモ有ツズ、聖人モ各々志ヲ云ヘト宣バ、吾不肖トイヘドモ此ニ愚意ヲ述ン、古コリ大儒ト云ハ、大形處士ニ在リ、如何ントナレバ、處士ハ自ラ嗜ンデ學ブ、士大夫ハ勤テ學ブ故ナリ、上ヨリ命ヲ受ケ、已ム事無ク學校ニ入ルトイヘドモ、不勤ノミ多シ、斯ク心ニ染ザル事ヲ、長々引留メ成就サセントハ、斧ヲ礪テ針ニ致スガ如シ、是故ニ捷徑ヲ脩ヘテ、益ヲ得ル法ニスベシ、其業ハ先ヅ

三十ヨリ以上ノ者ヲ素讀師ニ立テ、一組ノ孩兒二十人ヲ預リ、十五ヨリ内ハ臨講詩作ヲ禁ジ、素讀一遍ニ致スベシ、今ノ様ニ同年ノ者ヨリ段々教ヘニシテハ、褻慢シテ記憶セズ、故ニ長年ヨリ教ユベシ、偕二十人ノ孩兒ニ一人ヅ、教ユル事、仲々心勞ナル者ユヘ、官給最モ重クスベシ、其次第ノ方ハ、先ヅ孝經ヨリ始メ、次ニ大學・論・孟・中庸、次ニ中士ヨリ以上ニハ孫子ヲ教ヘ、次ニ春秋・次ニ書經・詩經・禮記・周易ト次第ヲ立テ、秀才トイヘドモ、始メハ五六字、孟子・中庸ニ至テモ、紙半枚ヨリ以上ハ教ユベカラズ、朱子モ唯是貪多、故記不得ト云、總ジテ其日ノ素讀教ヘテ受テ、四書・五經一卷毎ニ初ヨリ何卷モ、四五枚ヅ、返讀百遍ヅ、致サスベシ、讀書百遍理自通スト、唯誦讀ニ誦讀サスルニ不如、華域ハ今ニ於テモ孩兒ニ教ユルニハ、背面ト云テ其書ヲ師ニ預ケ、師ニ背向テ誦ヨミスルナリ、本朝モ古ハ是法ヲ用ヒ、帖ト云テ字ノ上ニ物ヲ安キ誦ズルナリ、如是嚴ニ教ユルユヘ終身忘レズ、僧徒ノ佛經ヲ誦ヨミスルハ、孩兒ノ時ソレノミ一圖ニ教ヘ誦誦スル故ナリ、今時ノ教ヘ方ユヘ士トシテハ皆四書・五經素讀セザル者無ケレドモ、已ニ退學スレバ悉ク忘失ス、孩兒ノ時能ク覺ヘ込ンダルコトハ、一生忘ル、者ニ非ズ、清原真人ハ歳七十ニシテ、後醍醐帝ニ六經ノ說ヲ口ヅカラ授ケ奉レリ、是全ク幼少ノ時誦誦セシ功ニ由ル所ナリ、偕孩兒ニハ背面ノ法ニ由テ、始メ教ヘシ孝經力大學ヲ、無本ニテ十枚誦ズル者ニハ、筆紙墨ノ賞ヲ賜リ、一卷誦ズル者ニハ何品ト、甲乙ヲ立置クベシ、又孝經・四書ヲ一章又ハ二三章ヅ、席上ニ無本ニ書セテ試ミヨ、若ノ本書ニ相違無クンバ重ク賞ス

ベシ、斯ク致セバ、第一文章ハ白ラ作ル様ニ成ルベシ、又講師ヲ立テ、毎日孝經・小學・四書・五經ヲ講ジ又兩部ニ致シテ、一方ニ家語等ヲ講ジ、毎度ニ三四十枚ヅ、講ズベシ、今ノ様ニ三八九ノ日ナド究メ、僅ヅ、講ジテハ、四書・五經ハ何レノ年迄ニ終ル事ゾヤ、其中ニハ多クハ退學スベシ、解セズシテハ益無シ、太宰氏ハ講釋ハ肩輿ニ乗テ途ヲ往クガ如シト云ハ、儒者トナルノ身ヲ云、衆士總テ儒者ト爲ルハ、中華ニ於テモ無キコトナリ、人ヲ導クニハ一般ノ情ニ就テ計ルベシ、故ニ右ノ法ヲ立テテ、十五歳迄ニ成就致シ、其後ハ文學ニ志ス者ハ長ク學校ニ勤メ、詩力文力志ニ任セ、武術ニ志ス者ハ武場ニ入テ、各心ニ任セテ稽古シテヨシ、右ノ聖經孩兒ノ時諳ンジテサヘ居レバ、終身必忘レズ、治亂共ニ二君子ノ道ニ遵レザルベシ、是勵士ノ捷徑也

○ 客云、朱學ニハ必ズ大學ヨリ始ムルニ、孝經ヨリ始メ、又孫子ハ兵家ノ法ニテ儒道ニ無シ、春秋モ是迄五經ノ始ニヨマズ、家語ハ疑說ト云テ取ラズ、然レバ程朱學ニハ背クニ非ラズヤ

答云 朱子ノ說ニ據バ、輒朱子派ナラズヤ、素讀ノ前後スルヲ、何ゾ派ニ背クト云ベキヤ、吾子ハ未ダ事務時變ヲ知ラズ、夫子ヲ見ヨ、其邦其人ニ由テ說玉ヘリ、我邦ノ人ハ華域ニ比スレバ瘴氣ナリ、特ニ伊呂波ト云文字有ルユヘ、漢文ヲ讀ムコトヲ嫌ヘリ、試ミニ見ヨ、史記・漢書ハ中華ノ歴史ナリ、太平記・太閤記ハ我邦ノ歴史ナリ、太平記・太閤記ヲ讀ムニハ面白クシテ、晝夜ニ五卷モ拾卷モ讀ムナリ、史記・漢書ヲ讀ムニハ、既ニ二三十枚讀ムトキハ睡リヲ生ジ、仲々一日ニ一卷讀ム事ハ、務メ

テ見ザレバ誦ミ盡サレズ、中華ノ者ノ之ヲ讀ムハ、乃チ我邦ノ假名本太平記ヲ讀ムニ異ラズ、又文章ヲ作ルモ、漢土ノ者ハ白國ノ文字ユヘ、我邦ノ者俗文ヲ書クニ、少シモ差ハズ、何ノ苦モ無キ事ナリ、是以テ觀レバ、我邦ノ儒者ハ、漢土ノ儒者ニハ大ニ勝レリ、學問ハ道ヲ知ル爲ナリ、道ヲ知ル爲ナラバ、道ヲ行ハズンバ、書ハ益ニ立ザル也、是故ニ時變ヲ考ヘ、今ノ人氣ニ從テ教ヲ施ベシ、大學ハ和訓ノ傍註・<sup>カフツテ</sup>テニヲハ多ク、又還點多クシテ、孩兒ノ身ハ甚ダ覺エ惡ク、又口吃テ素讀ニ氣ヲ屈スルベシ、

一卷讀ミ終レバ相馴レテ、左マデ辛苦ニモナラズ、故ニ覺エ易キ孝經ヲ教ユベシ、是事余ハ明試シテ知レリ、素讀ニ於テハ前後ニ拘ラズ、朱子モ素讀ニ大學ヨリ必教ヘヨト云ニハ非ズ、「初學入德之門也」

ト云ハ、學問ノ次第ヲ云ナリ、又孝經ハ決シテ讀ムベカラズト禁ズルニモ非ズ、自身モ七歳ノ時初テ

孝經ヲ讀ミ、「人而不見此書、不可以爲人」ト帙上ニ大書ス、<sup>出ニ朱子語類一</sup>文公家禮、「七歳讀孝經論語」

ト記セリ、又孝經ニ手ヲ入テ、今文孝經元董が大義、其外朱派ノ孝經ノ註モ段々アリ、今ノ生徒ハ頗

僻ニシテ、孝經ハ有ルヤ無キヤモ知ラズ、大學ハ本ノ一字ヲ主トス、人倫ノ本ハ則チ孝經ニ在リ、故

ニ孝ハ「萬善之長、百行之本」ト云、孟子「堯舜之道、孝悌而已」論語「孝悌者、爲仁之本」トミユ、又孫

子ヲ素讀スルハ例無コト、思ヘドモ、古王代ノ學校ニ、算道ニ孫子ヲ教ユ、況ヤ今ハ武家ト爲ツテ、

諸國皆武士ト稱ス、武道ヲ知ラズンバ自職ヲ忘ルト云者也、特ニ合職ハ死生ニ懸ルユヘ、再タビ仕直

シト云事ナラズ、故ニ常ニ兵書ヲ讀ジ居ザレバ、機ニ臨ミ變ニ應ジテ、瞬目思案シテ居テハ間ニ合ハ

ズ、其暗ズルコトハ十二三歳ヨリ内ニテ、素讀シテ誦ゼズンバ、年長ジテハ必ズ忘失スベシ、已ニ十五六ヨリ上ニテヨミシ書ハ、大形忘レ易キハ、多クヨム故ナリ、今時ハ諸國朱派ノ學校ニ兵書ヲ禁ズレドモ、宋朝ニモ學校ニテ兵書ヲヨムトミユ、七書註解甚ダ多ケレドモ、講義最モ善トス、其講義ハ宋ノ施子美書生ノ時、學校ニテ註解セリ、橫渠先生モ一方ニ兵書ヲ講ズ、故ニ朱子ノ贊ニ「蚤說孫吳、晚逃佛老」ト見ユ、今時ノ武士ハ文武ハ殊ナル様ニ心得テ、孔子ノ道ハ怯弱ト云フハ、取ラヘ所無キ謬ナリ、孔子ホド大勇ナルハ無シ、「陳成子弑簡公、孔子沐浴而朝、告於哀公曰、陳恒弑其君、請討之」、是時衆士皆默觀セシニ、夫子先ニ進ンデ討ント宣フ、其大勇ナルコト、此一條ヲ以テ推量スベシ、春秋ハ撥亂反正ノ書ニテ、百王ノ法度萬世ノ準繩ナリ、人ノ臣トシテ春秋ノ義ヲ知ラザル者ハ、必ズ弑逆ノ罪ニ陷ルベシ、公羊傳序云「孔子有云、吾志在春秋、行在孝經、此二者、聖人之極致、治世之要務也」出五經朱子註是故ニ人君人臣共ニ孩兒ノトキ、誦誦シテ覺エ居ルベシ、又經書ト史類等兩書ヲ講ズベシ、三略モ宜シ、宋ノ馬端臨云、「三略先秦、書雖非應揚云、自作要必其遺法、予深味之、其言治國法度、與儒者指意不悖」ト云、或人書ヲ講ズルハ、一方ヨリ講ジ終ルコト宜シト云ヘドモ、衆士ニ教ユルニハ、二部モ三部モ一度ニ講ズル事、有益ノ捷徑ナリ、故ニ右ノ學則ヲ建テ、孩兒ニ忘リ無ク、誦讀ニ讀セテ誦誦サスルベシ、朱子云ク、「橫渠教人讀書、必欲成誦、眞是學者之第一義、須是如是、方有著力處也」又溫公云、「書不可不成誦、或在馬上、或在中庭、不寐時、誦其

文、思其義、所得多矣」

○客云、武家ニ生レテハ、縦ヒ博學ト成ルトモ、武術ヲ知ラズンバ、一亂ニ至テハ如何爲スベキヤ  
答云 士トシテ斯ル僻言アルユヘ、必ズ學バズンバ叶ハズ、一人相手ノ爭鬪ニハ可也、大衆ヲ帥ユル  
合戰ハ、槍炮ノ術ハ抑末ノ事也、大武ト云ハ、藝術ニテハ届キ難シ、「文德者、帝王之利器也、威武者  
文德之補助也、夫文之所加者深、則武之所服者大也、德之所施者博、則威之所制者廣」出漢書刑法書ト云  
ヘリ、又六韜ニ、軍中七十二人ヲ立ツ、各其功ヲ成スニハ勝劣殊ナラズ、士トシテ學バザレバ、第一  
天道ニ昏シ、「夫君如舟、臣如水、」古ヨリ君ノ興亡ハ、大率其臣ニ由レリ、保元ノ亂ニ、源義朝ニ父  
爲義ヲ殺セト勅命アリ、義朝忍ビス、之ヲ臣下長田忠致ニ詢レバ、殺シ玉ヘト勸ムルユヘ、遂ニ父ヲ殺  
シテ永世禽獸ノ名ヲ受ク、是事惡キト知ツテ勸ルニ非ズ、聖經ニ昧キユヘ、時ニ取テ裁判成ラザル故  
ナリ、又治水ノ亂ニ、畠山重忠關東ニ住ス、時ニ賴朝勃興シテ兵勢甚ダ熾ナレバ、重忠始終ヲ考ヘ、  
其臣榛澤成清ニ向ヒ、父ハ京都ニ在リ、父ヲ排テ賴朝ニ降ルハ、人臣ノ道ニ非ラズ、降ラズンバ滅亡  
目前ニ在リ、降レバ父ニ負<sup>ツル</sup>ノ嫌アリ、甚ダ迷ヘリト云、成清對テ、父子敵國ニ在ルハ古ヨリ多シ、源  
家ハ君ノ四葉ノ主ナリ、過カニ降ルニ如ズト勸ムルユヘ、竟ニ降テ屢々勳功ヲ施シ、久シカラズ讒言  
ニ遭テ死ヲ遂グ、今成清ガ一言ニ由テ、君ノ善惡劃然ト分ツベキニ、不學ユヘ聖人ノ禮ヲ知ラズ、後  
年讒口ノ死ヲ遂ンヨリ、今忠義ノ死ヲ致サバ身ヲ潔クスベキニ、時ニ臨ンデ裁斷出來ザルハ、全ク文

朦ニ由ル所ナリ、斯ク臣下ノ不決ニ由テ、君ヲ不義ニ陷ル、事、古今舉テ數ヘ難シ、故ニ一隊ノ將トイヘドモ、不學ニテハ叶ハズ、増テヤ正卿大夫ノ身ニ於テヲヤ、織田信長京都ニ出テ、三好ノ賊徒ヲ平ゲ、高札ヲ建テ、學問ニ志ス者アラバ巾シ出ヅベシト令リ下ス、公ハ無學トイヘドモ、天下ノ英雄ユヘ、治亂共ニ其要領ハ文學ニ在ル事ヲ知り玉フ故ナリ、其故ハ稻葉一徹齋ハ已ニ死ニ究リシニ、彼ガ文學アル事ヲ知り、吾以後苦心ヲ含マズ、是後我ヲ輔翼スベシト宣フ、神君大坂陣中ニ、林羅山子常ニ侍座シテ軍制ヲ議ル、故ニ林氏一人ハ兵卒千人ニモ充ト稱シ玉ヘリ、合戰ハ内治ヲ主トス、故ニ孫子ニ、始計ヲ初發ノ題目トス、吳子ニ、「内修文德、外治武備」トミユ、漢ノ蕭何ハ戰場ニ臨ミ、蒐・殿・奮烈ノ者ニ非ズ、然レドモ高祖一統シテ其功ヲ賞スルニ、七十餘ヶ所ノ創ヲ受シ曹參ガ上ニ出デ、丞相ノ官ニ陞ル、近世士井侯モ戰場ニ勲績有リシ者ニ非ズ、常ニ帳中ニ在テ、遂ニ大老ト爲ル、不學ニシテハ宰相元帥ノ職ニ居リ難キハ、古今歴史ニ分明ナリ、王榮二陣ノ圖云、「文臣在聰明器量、鹽人別材、故曰武雄、可以爲將」ト云、武雄ト稱シ將トナルトモ、其俊傑決斷、學バザレバ分リ難シ、故ニ治亂共ニ大功ヲ遂ント思ハ、必ズ不學ニシテハ成ラザルユヘ、勇ヲ奮フテ學ブニ如ズ、才智ノ大駒ト雖、規矩無ンバ大厦ヲ造ル事能ハザルハ、人皆知ル所也

## 經濟問答秘錄卷四終

## 經濟問答秘錄卷五

## 學校考

○客云、天子ノ學校ヲ辟雍ト名クルハ、如何ナル故ゾ

答云 辟ハ壁ナリ、壁ハ圓物ユヘ、天ニ象リ、雍水ノ側ニ、水經云、四方有水曰雍、於ルハ、教化ノ流行スルニ象

レリ、又辟ハ積ナリ、天下ノ道德ヲ積ナリ、雍ハ雍ナリ、天下ノ殘賊ヲ雍グナリ、故ニ辟雍ト名ク、

王制云、一天子曰 辟雍、諸侯、曰ニ泮宮者、半於天子宮也、明ニ尊卑有差、所化少也、半者象

レ璜也、古ハ年十五ニテ、大學ニ入ルハ、八歳ニシテ毀齒シ、始テ識知アリ、故ニ學ニ入テ書ヲ學ブ、

十五ニシテ、陰陽備ルユヘ、大學ニ入テ經術ヲ學ブ、學ハ覺也、知ラザル所ヲ悟ルナリ、學ンデ性ヲ

治メ、慮ツテ情ヲ變ズ、故ニ「玉不磨不成器、人不學不知道、四記ニ學」ト云、古ハ「庠、里曰

庠、庠者庠トシユル禮義也、序者序夏云校、殷云序、周云序長幼也、

爾、舍明令、必次外、然後前民也、未見於仁、故必庠序以導之也、教民者、皆里中之老、而有

道德者爲ニ右師、教ニ里中之子弟、以道藝孝悌忠信、立帝德、朝則坐於里之門、弟子皆出、就農而復罷、

示ニ如レ之皆入而復罷、共有入不レ時、早晏不節、有過故使語之、言ニ心無ニ由生也、若既收藏、皆

入ニ教學、立春而就中、其有賢才美質、知學者足以聞其心、頑鈍之民、亦足以別於禽獸、而知人倫、故無不教之民、夫古聖人ノ天下ヲ治ルニ、教ヲ先ニスルコト如此、故ニ今ニ於テ善治ルヲ聖代ト稱ス、人心ハ日ニ月ニ山川ト同ク、古今易ル事無シ、時ノ政教ニ由テ變易アリ、今面前試ミニ觀ヨ、門徒僧ノ日ニ月ニ、我法ヲ教ユルユヘ、一心ヨリ信服シ、其疑固甚シク、佛恩ヲ知テ君父ヲ知ラズ、適孝心ノ者有テ、父母ノ墓ニ參レバ、黨類ヨリ大ニス、胸臆<sup>ゴロウ</sup>是一條ヲ以テ察スベシ、由是觀之、仁義ノ道ニ引レナバ、豈此ヲ知ラザランヤ、俗吏ノ儔、人民ニ學ヲ勸メザルハ、如何ナルコトゾヤ、教學ヲ好マズ、善治ヲ欲スルハ、川源ヲ清メズ、下流ノ淨ヲ欲スルガ如シ、前條ヲ深ク考フベシ

○ 客云、師ハ道ヲ教ユル者也、白虎通曰、「生而知之者上也、學而知之者次也、是以雖有自然之性、必立師傳焉、堯帝師<sup>レ</sup>務成子、舜帝師<sup>レ</sup>尹壽、禹王師<sup>レ</sup>國先生、湯王師<sup>レ</sup>伊尹、文王師<sup>レ</sup>呂望、武王師<sup>レ</sup>尚父、周公師<sup>レ</sup>虢叔、天子・太子・諸侯・世子、皆就<sup>レ</sup>師於外、尊師重<sup>レ</sup>先王之道也、禮曰、有<sup>レ</sup>來學者、無<sup>レ</sup>往教者也、トミユ、夫聖人トイヘドモ、師ニ就テ、道ヲ問ヒ玉ヘリ、然ルニ今時ハ、學問ハ文字ヲ知ル事トノミ思フユヘ、田舎ノ士ハ學校ニモ入ラズ、近邊ニ一封ノ書狀等ヲ書ル、不學ノ者ニモ手習ニ行キ、書簡一通ヲ書ケバ一生足レリトス、又師ニ就テ教ヘヲ受レドモ、退學スレバ終身一封ノ消息ヲ問ハズ、又佗國高名ノ塾ニ暫ク留マレバ、始ノ師ヲ隱シ、渠ガ弟子ト師名ヲ以テ世ニ街ヒ、始ノ師ニハ一遍ノ信ヲ通ゼズ、問ニハ識ルモアリ、或ハ學校ニ入ル者ハ師トハ名クレドモ、上ノ役目ニ由

テ教ユルユヘ、眞ノ師ニ非ザル様ニ思ヒ、弱年ニシテ不面ニテ師ノ名ヲ捨詞ニ云フ者モアリ、君・父・師ニ、自名云ハ古禮ニテ、最モ尊キ事ト聞シニ、後世人道衰フル故カ、如是師道ノ廢ルベキ者カ、若シ仁君出玉フテ、人道一變セバ、斯クマデハ有マジト思ヘリ

答云 時代ニ在ラズ其人ニアリ、周ノ季、人道廢ルトイヘドモ、七十子ノ徒夫子ニ仕ヘシユヘ、君父

ニ仕ヘテモ父忠孝アリ、是故ニ位無キ人ナレドモ、今ニ於テ和漢共ニ王侯ヨリ廟祭ニ遇ヘリ、「民生」於三、事之如一、父生之、君食之、師教之、非父不生、非君不食、非教不<sub>レ</sub>知」ト云、出二國語一

故ニ君父師ニ仕ユルヲ禮ノ三本トス、道ヲ貴バザル者ハ必師ヲ貴バズ、師ヲ貴ブ者ハ君ニ仕ヘテ必忠アリ、師家ニハ勿論、舊友ニ信義無キ者ハ、官ニ入テモ唯面前ノ勤メニテ、眞ノ忠仕ニ非ザル事試ミテ分ルベシ、故ニ一小吏トイヘドモ、父母ニ孝養シ、師ニ能ク仕ヘ、朋友ニ信アル事ヲ、體カニ見究メ、唯才智ノミ愛シテ授クル事勿レ、夫學者、事之如父兄<sub>一</sub>、故稱<sub>二</sub>弟子<sub>一</sub>、出釋氏要覽前漢ノ曹敞ト云者

吳章ガ門ニ在リ、常ニ時風ノ輕薄ナルヲ斥ル、後年吳章逆臣王莽ガ爲ニ殺サルレバ、衆クノ門人王莽ガ威ニ恐レ、敢テ收葬スル者無ク、皆姓名ヲ更テ他ノ師ニ從フ、此時曹敞ハ司徒ノ掾ト成シニ、進ミ

出デ吾ハ吳章ガ弟子也ト、自ラ死骸ヲ厚ク葬ル、天下ノ人舉其忠義ヲ感嘆シ、平陵ノ書生之ガ爲ニ碑文ヲ作り、吳章ガ墓側ニ建テ、其德義ヲ後世ニ遺ス、出二西京雜記一又我國唐津鏡明神ノ合殿ハ、藤原ノ廣嗣

也、君ヲ諫メテ容ラレス、却ツテ釋ノ玄昉ガ、南都東大寺神譏ニ因テ筑紫ニ謫セラル、吉備公ニ其實否ヲ勅

問アルニ、公ハ先年玄昉ト入唐ノ親ミニ因テ同意ス、再ビ藤原ノ古人ニ問ヒタマヘバ、此モ玄昉ト同類ナリ、廣嗣憤怒ニ堪ズ竟ニ叛ケバ、官軍馳降ツテ擊取シニ、死後神靈現ハレテ止ズ、因テ吉備公勅使トシ、冤魂ヲ慰メント神號ヲ賜ヘバ、靈魂目前ニ現ハル、吉備公洵ニ謝スレドモ去ラズ、此ノ時吉備公一字ヲ受レバ、一字ノ恩ト云ヘバ、忽然ト消ユ出三松浦風土記夫師ヲ貴ブ事如是、或人師死シテ服無キヲ問、曰、「師友無服、非不爲服、義恩厚薄不等故也、如七十子於孔子、以父喪之可也、然而不可爲常、」出三五雜類蓋シ刑典ヲ以テ論ズルトキハ、君・父・師更ル事無シ、神君御遺狀ニ、「弑親與師、弑主人、依法外之暴惡、又可當法外之刑、勿論從類ニ至ル迄、可沒收事」トミユ、「夫青出於藍、而青於藍、冰水爲之、而寒於水」トイフ、出三荀子出精シテ師ニモ勝ルヲ、師ニ報恩ト云フ者ナリ、特ニ儒學ハ聖人ノ道ヲ學ブユヘ、縱ヒ文才有リトイヘドモ、其ノ德備ラズンバ、却ツテ聖人ヲ瀆スベシ

鄭成功

明隆武帝、賜同姓朱、故稱國姓

元ト我ガ國平戸ノ産ナリ、

和漢三才圖會ニ、長崎ノ産トハ誤也、平ト島河内浦ノ産ニテ、其外賊ノ者今ニ於テ在リト聞ク

七歳ノ時中華

ニ渡リ、文學ヲ好ミ、勇力衆ニ拔出シ、其ノ忠義古今絶代ノ人ナリ、三代ノ奏舍ニ至ツテ、兵亂レテ遂ニ清ニ降レリ、是ノ故ニ清朝ニ諸侯ト云ハ無ケレドモ、鄭成功ノ忠節ヲ感ジ、今ニ於イテ漢軍侯ト號スル諸侯也、始メ父芝龍清ニ降ルユヘ力諫スレドモ聽カズ、「又痛母死非命」敵徒芝龍ガ居城ヲ攻シ、母遂ニ節ニ死ス、迺悲歌慷慨、謀起師、携所着儒巾欄衫、赴文廟焚之、四拜先師、仰天曰、昔爲孺子、今也爲孤

臣、尚背去留、各有作用、謹謝儒服、唯先師昭監之、高揖而去」出古麓藏書 儒學ヲナス者は能ク監ルベシ

世俗皆仁義・忠孝ノ名ヲ知レドモ、仁ハカ、ルル事、忠ハカ、ルル事ト、學バズンバ分明セズ、取違ヘルコト甚ダ多シ、師說云、「古之聖人、出人也遠矣、猶且從師問焉、今之衆人、其去聖人也亦遠矣、而恥學於師、是故聖益聖、愚益愚、聖人之所<sub>レ</sub>以聖、愚人之所<sub>レ</sub>以愚、其皆出於此」ト云、出文夫師ハ弟子ノ仰イテ瞻所也、「師、範也、教之以道稱也、禮記、文王世子篇、出則有師也者、教之以事、而諭諸德者也」トミユ、大樹家光公稻富一無ニ烏銃ヲ稽古シタマフニ、一無ガ小指屈タルマデ、眞似玉ヒテ、躬ラ屈クマヘバ、近習コレヲ見テ、一無ガ小指ハ癢疾ナリ、然ルニ御眞似タマフテハ如何ト諫レバ公聞召レ、汝等ハ物ノ道理ニ昏キユヘ斯ク思ヘリ、萬事物ヲ習フ者ハ師匠ノ不具マデ似セザレバ、至極ノ意味ハ移ラズト上意アリ、夫小技藝トイヘドモ如此尊信シ玉フ、況ヤ人倫大道ノ師ニ於テヲヤ、故ニ「人之患、在好而爲人之師」ト云、今諸國家塾ノ師、多クハ弟子ノ行狀ニ目ヲ觸ズ、唯舌耕スルノミ、生徒ヲ導クニハ、讀書ヨリ先ヅ當用ノ行狀ヲ諭スニ如ズ、目ヨリ入ルモ耳ヨリ入ルモ、易ル事無シ、古聖人ノ教ハ皆話ナリ、能ク譬ヘテ取テ、道理ヲ細カニ諭ス事、誘引ノ捷徑也

○客云、大學ハ入學初發ニ素讀スレドモ、餘程ムツカシキ書ナルヨシ、問ニハ秘傳ノ書ト云者モ

有リト聞ク、聖經ニモ斯ク淺深アル者カ

答云 聖人ノ書ニ秘傳ト云事無シ、故ニ經ヲ常ト云、論語「吾無<sub>レ</sub>隱<sub>ニ</sub>於爾<sub>一</sub>」トミユ、我邦ハ假名有テ漢文詰訓ニ劣リ、數千載ノ古書ヲ推シ量ル事ユヘ、註ニ註ヲ憾<sub>マ</sub>シテ、ムツカシク膽<sub>ト</sub>ケバ、何處マデモ限リ無シ、斯ク講說スルユヘ、學問ニ志ス者寡ク、漸々文道衰微ニ及ベリ、今ノ禪家ヲ見ヨ、教外別傳、不立文字ナドト見識高ク、至ツテ無急解人ニ聞セ解モ爲ズ、雪竇カ碧巖ヲ讀ユヘ、一生大悟徹底ノ場ニ至ラズ、宗旨年々衰ヘ、還テ俗ニ陷ル、門徒ハ日ヲ追テ盛也、和歌ノ道モ、古詠シ者ハ時ニ應ジテ情ヲ述ベ、詞ハ時代ノ通言也、後世ノ和歌者流、枝葉ヲ微<sub>ツ</sub>テ事繁ク、奥深ク評スルユヘ、竟ニ衰微シ、談<sub>ニ</sub>俳諧天下ニ滋盛ス、聖人ノ道ハ、衆人ヲ忠信孝悌ニ導ク教ユヘ、斯ク難キ事ニ非ズ、若シ左程難キ事ナラバ、誰カ聖門ニ入ンヤ、一切ノ道藝堅ク固<sub>ナッ</sub>ンデ固滯スルトキハ、頗僻ニシテ却テ愚トナルハ凡情也、故ニ讀書講說モ、所不知ハ闕如シテ、深ク文義ニ拘泥セズ、唯大義ヲ曉ル迄ニ致シ置ベシ、諸藝ノ中ニ深ク耽テ善事ハ唯武術ノミ、此一條ハ何程耽テモ善シ、抑大學ハ、原禮記ノ中ニ在テ、漢ノ鄭玄ガ註ニテ、紙數僅七枚ナリ、右ニテ漢朝ヨリ唐朝マデ、凡一千餘年ガ間、大儒并ビ起レドモ、隨分用達シ、特ニ唐ノ太宗一統ノ後大ニ文德ヲ布キ、學校ノ盛ナルコト古三代ニ劣ラズ、十八學上ヲ始メトシテ、三百年間大儒夥シク出レドモ、皆古註七枚ノ大學ニ一字モ加ヘズ、修身・齊家・治國・平天下ノ功業ヲ達シヲ見レバ、右ニテ事足り、秘傳モ無シトミユ、韓昌黎ハ古今ノ大儒ナ

リ、進學解文曰、「周諮殷鑒、佶屈聱牙、春秋謹嚴、左氏浮誇、易奇而法、詩正而葩」ト有テ、禮記評  
セズ、昌黎固ヨリ博識ユヘ、大學・中庸ヲ數千卷ノ中ニ取ヘ置テモ、限ノ附ガル人ニ非ズ、然レドモ  
古來ノ儘ニテ置シハ、量ノ廣キト云者カ、又不明ト云者カ、余ハ甚ダ惑ヘリ、後世ニ至テ、古ノ古註  
七枚ヲ、按抄シテ別卷ニ爲ス、章句モ原本ト前後アリ、今大全ノ紙數百二十枚計リ、尙ホ未ダ意ヲ盡サ  
ズ、又或問一百枚、襟註凡四十餘人、集錄凡二十人、元鄭玄一人ヲ斯ク多人ニ及ビ、中庸モ禮記ニテ  
古註十七枚、是モ新註一百餘枚、或問一百餘枚、舊本兩部、紙數都合二十四枚ヲ、四百餘ニ勝註ス、  
又論語ハ漢ノ鄭玄、魏ノ何晏ガ註、孟子ハ後漢ノ趙岐ガ註、冊數合テ十七卷計リ、新註ハ蒙引直解・精  
言正解・存疑異同・定辨注・無曹大全・鰲頭大全・三魚堂大全・性理大全・諸儒輯要・緒言要纂・集說・集註・  
題鏡・呂晚村講・松陽講義・日講解義・典林圖識合考・明孟精義等、又近年我邦ニ於テモ諸說ノ集出來ス、  
古ハ十四卷ニテ不自由無キニ、斯ク莫大ノ書籍僅四書一部ニ不辨ノ者ハ、其理ヲ窮メント、一生眼ヲ  
晒サネバ叶ハズ、縱ヒ精魂ヲ竭シ、右ノ書數ヲ悉ク讀ンデ究理スルトモ、所詮聖人ト成ル事叶フマ  
ジ、宋朝ハ遂ニ天下ニ一統ト云事無ク、戰國ノ間ニ諸儒皆閑ヲ得テ著書セシニ、後世ノ事ヲ慮ト思ヘ  
リ、朱子モ其君ヲ得ナバ、隨分學力ノ功モ爲スベケレドモ、古ヨリ君子ハ世ニ遇ハザル事皆然リ、寧  
宗ノ世ニ韓侂胄政ヲ專フニシテ用ヒラレズ、紫陽山下ニ隱レ、又室ヲ建陽ニ築テ雲谷老人ト號シ、又  
考亭精舍ニ在テ滄洲病叟ト名ケ、又遜翁ト號スル隱士ニシテ、閑暇ノ身ユヘカ、著述古今無雙ナリ、

大儒タラント欲セバ、右ヲ悉讀マズンバ叶ハザレドモ、今時ノ武家ハ諸藝繁キ身ユヘ、一部ノ書ニ黏附キ居テハ、何レノ日カ武藝ヲ鍛練スベキヤ、國ヲ廻ルモ、一國ヲ細密ニ巡徊センコリ、其日數ヲ以テ五ヶ國モ十ヶ國モ大體ニ歴觀スレバ、人物風俗モ方併セテ、大イニ益ヲ得ルベシ、此意ヲ考ヘ、大學・中庸ハ、我邦元弘以前ニ生レシト思ヒ、諸子百家ノ衆說ニ久ク眼ヲ睨サズ、集註一遍ニテ濟シ、其隙ヲ以テ常用ノ書ニ魂氣ヲ竭ス事宜シ、譬ヘバ大學、「欲平天下者、先治其國、欲治其國者、先齊其家、欲齊其家者、先修其身、」是文意ハ論語、「不能正其身、如正人何」ト、大學二十八字ハ九字ニテモ其理ハ通ズベシ、佛書ハ數千卷トイヘドモ、釋迦存生ノ時阿難ガ紀セドモ、儒書ハ夫子死後記者各々異ニシテ、亦史氏ニ學力淺深モアツテ、文體・短長・優劣モ有ラン、尙ホ委シキハ性學文章精義ニモ見ヘタリ、大學ハ本ノ一字、中庸ハ誠ノ一字ヲ主トシテ説ケドモ、其ノ末ニ至テハ諸經ニ易ルコト無シ、宋ノ趙普ハ終身唯論語一部ヲ誦シ、太祖ヲ輔ケテ干戈ヲ戢メ天下ヲ治ム、大學一卷ヲ以テ國天下ハ隨分治マレドモ、今ノ世ニ生ル、吾ハ、博ク萬事ニ當ラザレバ碎ケザルナリ、大學ニ「先誠其意」ト有ルヲ、如何シテ意ヲ誠ニスルト云事晝夜思案シテモ想ヒ當ルト云事有ルベカラズ、故ニ融會貫通ノ法ヲ以テ心氣ヲ屈セズ、博ク群書ニ涉リ、古人ノ言行ヲ一々我身ニ體認スルトキハ、其期ニ臨ンデ古人ハ斯ク致セシ事アリ、斯ク云ヒシ事アリト其規轍ヲ踐ンデ、言ヲ發シ行ヒヲ慎マバ、則古ノ君子ニ異ナラズ、「困知於一物、羣疑ニ陰陽之變」ト云事有リ、武士ノ學問大概如

是

○客云、王制云、「大學在郊、天子之太子、群后之太子、公卿大夫之元子嫡子、皆造焉、是古ノ法也、小人學道則易使」ト云、輕輩小者ハ民ニ接ル事多キユヘ、士大夫ヨリ尙キ學問スベキニ、唯官ニ入ルヲ的トシテ、筆算サヘ達スレバ官ニ入ルト心得テ、手習ヲ主トシ、且ツ士大夫ト共ニ學校ニ入ルヲ頼リ、學問スル者曾テ見エズ、之ヲ學問ニ引入ル法ハ有ルマジキヤ

答云 肺肝ニ徹スル確論也、是法ヲ建ルニハ、先ヅ都下ニ小學校一館ヲ建テ、其教ノ法ハ郷學ト同ク、孝經・四書・小學ヲ十五マデ誦讀ニ諸誦致サセ、其後鳥銃・弓箭・擊劍ノ稽古スル事宜シ、夫穀祿ヲ受ル身ハ、一石トイヘドモ帶刀致スユヘ、庶人ノ敬禮ニ遇ヘリ、然レバ庶人ニ拔ンヅル、其德備ラズンバ、何ヲ以テ帶刀センヤ、故ニ先ヅ仁義忠孝ノ道ヲ學バズンバ臣道立ズ、「仁君不能愛不益之臣」ト云、若シ文武ヲ頼ラバ穀祿ヲ還スベシ、是故ニ輕輩小者、一石タリトモ祿有ル者ハ、悉ク小學校ニ入レ、着到ノ人衆ヲ小學校ニ於テ數ヘ、若不入ノ者ハ其隊長ヨリ吟味スル事宜シ、然レドモ入塾ニ於テモ筆紙墨書籍代等ニテ、五石ヤ七石ノ身ニシテハ、學問モ出來兼ルハ世間ノ情也、故ニ君トシテハ是ヲ能ク知ラズンバ、衆ヲ使フ事能ハズ、國計ハ廣大ユヘ、細カニ事々ニ當レバ、無益ノ弊ヘ有ル者也、此彼ヨリ省約シテ是處ニ用ヒ、貧窮ノ生徒ニ穀祿ヲ助ケテ勵マサバ、後ニハ却テ國家ノ大利トナルベシ、是則大仁政ニシテ、富國強兵ノ礎也

○客云、「盡信書、則不如無書」ト云、然レドモ余未ダ書ノ眞僞ヲ分ツ事能ハズ、何ノ書ヲ證トスベキヤ

答云 聖賢ハ其人ニ由ツテ説キ玉ヘリ、故ニ右ノ次章ニ、「吾於武成、取二三策而已矣」ト云、一部ノ書ニ於テモ、其要目ノ所ニ心ヲ潛メテ深ク味フベシ、聖人ハ貴賤等級ニ由テ教ヲ設ケ玉フユヘ、人君ハ其人君ニ説キ玉フ所ニ就テ、躬ラ之ヲ問フト思ヒ、其答ヲ我身ニ體認シ、大夫モ士モ如レ是、庶人モ如レ是爲スベシ、庶人トシテ王侯ニ説キ玉フ語ハ聞クニ及バズ、或重蒙余ニ「論語八佾舞於庭」ノ説ヲ問フ、余ハ未熟ユヘ解セズト辭ス、士庶人ノ身ニハ、不用ノ事ニ何ゾ舌ヲ勞スベキヤ、重ネテ「貧而無怨難、富而無驕易」ノ説ヲ問フ、余淺學トイヘドモ、於是近ク譬ヘテ取テ千變萬化ニ諭セリ、書ヲ讀ムモ講ズルモ大抵此心得ニテ、和漢ノ人氣年歷ノ差ヲ考ヘ、其時代ヲ知り、我分量ヲ知ラザレバ却テ蟬蟲ト成ルベシ、孟子時代ニハ、書籍今ノ世ニ方レバ萬部一也、然レドモ尙書武成ノ篇ニハ、「取二三策而已矣」ト宣フ、中華宋朝ノ比ヨリ漸々書數重リ、明朝ニ至テハ寔ニ汗牛充棟、我邦モ寛永以後著書限リナシ、所詮百歲二百歲ノ書ヲ以テハ悉ク讀ミ盡サレズ、讀書ハ服藥ノ如ク、藥ニ良・毒アリ、妄リニ服スベカラス、吾心ニ甘キ書ヲ看ズ、苦キ書ヲ看ルベシ、學功ニ由テ發明スレバ、後ニハ甘ク成ルベシ、故ニ有益ノ書ヲ撰ミ博ク覽ルベシ、荀子曰、「一日之羅、無時得々焉矣、道雖要也、非博無以通矣」ト云、武士ハ國政ニ與ル身ユエ經濟ヲ主トシ、又不虞ニ臨メバ武道ヲ主トスルユヘ、文

武全備無クテハ叶ハズ、故ニ四書・六經ヲ誦シ、其後大概見ルベキ書ハ、武經七書講義ヲ觀ヨ、前ニ記タル通り、武家ハ第一左傳ヲ明ラメズンバ叶ハズ、兵鏡云、「孔子用兵萬世師、自將林之盛、春秋爲最、而兵法之變、左氏爲詳、故漢關羽宋岳飛、好讀左氏、忠勇古今一轍、而杜預射不穿札、精通左傳、爲古今名將」ト云、是故ニ兵家ノ巨擘タル吳起モ是經ヲ受ケ繼グ、左丘明ヨリ魯甲ニ授ケ、魯甲ハ吳起ニ授ケ、吳起ハ子期ニ授ケ、其後虞卿荀子ニ傳リ、是ヨリ段々漢ニ至テ、公孫弘・胡毋生・董仲舒等春秋專門ニテ、皆思勇ノ者也、今時ノ武士ハ俸祿ヲ受ケ、腰ニ兩刀ヲ帶ベバ、自ラ武士ト思ヘドモ、武士ト稱セバ、其武德ヲ胸間ニ藏メズンバ、是レ燕石ノ徒ニテ、眞ノ武士トハ名ケ難シ、次ニ國語・周禮・儀禮・家語・白虎通・管子・晏子・說苑・呂子春秋・荀子・韓非子・楊子法言・史記・漢書・孔叢子・資治通鑑・文獻通考・杜氏通典・貞觀政要・宋名臣言行錄・大學衍義補・忠諫事對・唐諫諍集・諫史・產語・武侯心書・拳壇必究等、深ク文義ニ拘泥セズ、其要目ノ所ニ心ヲ潜メテ、事々我身ニ體認スベシ、儒ハ王道ヲ說ハ勿論ノ事ナレドモ、衰世ニハ亦法名刑術ヲ用ユルモ可也、孔明ハ申韓管子ヲ先主ニ勸メシニ、先主甚ダ信仰ス、故ニ朱子ハ孔明霸道ヲ專ラニスルト謗リシニ、明ノ張栻ハ朱子ノ誤也、孔明ハ三代以下ノ人ノ睥睨スベキ人ニ非ズト云、孔明固ヨリ博識ノ大儒ニテ、詩文モ亦當時ニ轍轢タリ、王道ヲ知ラザルニ非ズ、然レドモ是時天下大亂、漢室已ニ絶ントス、故ニ霸ヲ以テ起サントス、若シ一統ノ績成ラバ、直ニ王道ヲ行フベキカ、故ニ書ヲ讀ムモ講ズルモ、其時代其人ノ氣質ヲ考ヘズンバ、頑夫

蘭婦ニ二典ヲ講ズルニ同ジ、倭和史ハ日本史・文德實錄・延喜式・令義解等ヲ讀ベシ、歴史ハ軍書、前太  
 平記ヨリ大坂陣マデ讀ム事宜シ、時代ニ味ケレバ事務ニ拙シ、又國政ニ與リ僧巫ヲ御スレバ、其意味  
 ヲ能ク知ラザレバ、事ニ當ツテ裁判ナラズ、故ニ佛書ハ遺經・四十二章經・梵網經僅三冊ユヘ之ヲ看ル  
 ベシ、佛經天竺ヨリ始テ中華ニ渡ルトキモ此經也、百濟國ヨリ始メテ我邦ニ渡ルモ此經ユヘ、人皆佛  
 德ヲ感ジテ信仰セシトミユ、是經ヲ見テ今ノ僧徒ト併セ者フベシ、神書ハ古今神學類編一部ヲ讀テヨ  
 シ、貝原氏云、「凡讀書之法先以四書・六經爲本、而小學・近思錄、及周程張朱之書、輔翼於經義者  
 不可闕、讀史法、先看左傳、次看史記・漢書・通鑑綱目、及本朝律・令・格・式・六國史・諸傳記、讀諸  
 子、先管子・淮南子・荀・楊・劉向・文中子等、須循序漸及其他、如其餘群書、苟有餘力、則看之可也  
 ○客云、今諸國ヲ觀ルニ、諸士ニ官ヲ授クルニ學校ニテ選ミ、文學ニ達セシ者ハ、縱ヒ弱年トイヘ  
 ドモ政事ニ與レリ、學校ハ固ヨリ諸氏出身ノ處ニテ撰ムコトハ古ノ例ナレドモ、今時ノ學者ト云ハ、  
 下情ニ疏ク、政務ニ於テ酬酢ノ才略無ク、或ハ大酒ユヘ下敢テ服セズトミユ、聖人ノ道ハ斯ル者カト  
 俗士ノ徒學者ヲ譏刺スルハ尤也、聖教ハ斯ク誹リニ遭フテモ善キヤ  
 答云 故ニ聖賢ノ尊キコト顯ハル、也、今我邦ニ佛道・儒道兩立シテ行ル、ニ、僧徒凡ソ百萬人ニモ  
 充ツベキカ、一小村トイヘドモ僧徒居ザルハ無レドモ、眞ノ佛法ヲ行フ僧ハ一人モ無シ、然レドモ人  
 皆格別譏リモセズ、尊敬シテ居ルハ、畢竟無益ノ者ニテ、有テモ好シ、無クテモ好シ、齒牙ニ足ラザ

ル故也、世ノ人儒佛ハ共ニ異國ノ法ト思ヘドモ、佛道ハ天竺ヨリ起テ方外ノ者ユヘ、僧徒ノ服ヲ見ヨ、今ニ於テ天竺ノ胡服也、然レバ儒者モ漢土ヨリ傳レバ漢服ヲ着ベキニ、天子ノミ古聖人ノ制服、袞冕十二章、其餘ハ侯卿大夫士庶人ニ至ルマデ舉<sup>ミナ</sup>儒ヲ學ベドモ、各々其位格ニ由テ日本制ノ服ニテ、別ニ異服ト云者無シ、是則聖人ノ道ハ自ラ行ハル證據ナラズヤ、一儒外無<sup>レ</sup>人、人外無<sup>レ</sup>儒、以ニ近讓ニ爲レ儒、以ニ剛猛ニ爲レ儒、儒ハ元濡ノ字也、先王ノ道ヲ以テ身ヲ濡ス事也、縱ヒ文字ヲ知ラズトイヘドモ、仁義忠孝ノ道ヲ行フ者ハ是皆儒也、其教ヲ施ス學者ユヘ、善ハ常ト思ヒ、小瑾有レバ必ズ誹リニ逢フ、是却テ學者ノ勵ミト爲ル所也、夫人タル道ハ、一小藝トイヘドモ、己ニ勝ラバ必ズ敬フベシ、善ヲ猜ムコリ罪大ナルハ無シ、若シ此心ヲ棄ズンバ、縱ヒ佛神ヲ拜シ祈禱スルトモ、却テ佛神ヲ蔑如スル者ニテ必共罰ヲ受ク、故ニ佛經ニモ、善人ヲ惡ムハ天ニ向テ唾ハクガ如シト云フ、必竟學者ヲ謗罵スルハ、俗士ト僧徒ニ在リ、庶民ハ然ラズ、士ハ及バザルヲ恥ヅル偏執ヨリ生ズ、僧徒ハ佛道ノ本ヲ見ラレテハ身ノ行狀ニ碍リ、又民ヲ愚ニ成サレバ貧術ナラズ、故ニ間々書ヲ好ム孩兒出レバ、僧徒之ヲ厭フテ父母ニ含メテ廢セシム、斯ル宿弊ノ時代、何ヲ以テ聖人ノ道盛シナルベキヤ、全く衰世ノ兆ト見ユレドモ、實ハ上タル人ヨリ其制令無キニ由レリ、儒師タル者斯ル時ニ遭テ、先賢ノ道ヲ擴メント思ハバ、今一變工夫無クテ叶ハズ、夫文人ト稱セラレ、俳人同輩ト思ハレテハ益々衰微シ、遂ニハ文武ノ道モ地ニ墜ン、士ハ民ノ長タル者ユヘ、忠孝ノ道ハ學バズンバ會得ナラズト思ヒ就キ、自身ハ不學トイヘドモ、庶人

ニ學問ヲ勸ル士風ト成ラバ、國ハ自ラ治マリ、固圉ハ建ルニ及バザルベキニ、其人ニ諉<sup>カコツ</sup>ケ道ヲ非ルハ甚以テ惡ムベキ事也、今天下一般女童ニ至ルマデ酒ヲ嗜マザル者ハ百分一ナラン、酒ハ固ヨリ聖人ノ惡ム所也、其聖人ノ道ヲ教ユル學者トシテ、躬ラ之ヲ嗜ムハ善トスベカラズ、蓋シ情ヲ以テ推量スルニ、武藝ヲ稽古シ、刀ヲ取り馬ニ乘リ弓ヲ控<sup>ヒラ</sup>ハ、氣ヲ散ジテ強勦ニ成レドモ、讀書ハ必ズ鬱氣倦勞シテ、頭痛齒疼心下堅滿シ、或ハ聲・眼病・齒脫・脫肛・痔漏、甚ダシキハ瘡病ト成リ、一人トシテ右ノ症ヲ免レズ、是故ニ時ニ由テ飲酒スルハ鬱散ノ爲ユヘ、強テ咎ムルベキニモ非ザレドモ、全體酒ヲ好ムハ眞ノ學者ニ非ズ、如<sup>レ</sup>是難キ者ユヘ、世人舉テ好マズ、天下廣シトイヘドモ、指ヲ屈テ儒師ヲ數ヘナバ、僅ニ凡四五百人ニモアツベキカ、是等ノ人無病ノ者ハ寡カラン、學問ハ固ヨリ能安<sup>レ</sup>人能服<sup>レ</sup>人教ヘナルニ、弱年ユヘ拙シトハ、瓜ノ未熟ヲ食スルガ如シ、南瓜ニ非ズ、胡瓜ニ非ズ、眞瓜ニ違ヒハ無レドモ未ダ時至ラズ、能ク糞培シテ六七月ニ至レバ、能ク熟シテ其味格別ニ甘ク、人皆食フテ食スベシ、弱年ニテモ學力有レバ、政務ニ可ト想フハ從頭カラ相違也、政務ハ民情ヲ知ルヲ本トス、學力深キホド人情ニ疎シ、其故ハ諸稽古ニ於テ、文學ヨリ難キ者無シ、故ニ晝夜書籍ニ眼ヲ晒シ、高風ガ麥ノ流ル、ヲ忘ルガ如ク、出精セザレバ上達セズ、若世間ニ接リ人情ヲ知り居ツテハ、懶<sup>アシコウ</sup>嬾者ト云、書籍ハ民心ヲ知ル教ユヘ、年長ジテ家督モ繼ギ妻子モ育ミ家事ヲ計リ、又懼ビモ來リ憂モ生ジ、段々世間ニ揉合ヒ、聖賢ノ言行ヲ我身ニ體認シテ、致知格物ノ功重ツテ、思慮勘辨モ附キ、溫古而知<sup>レ</sup>新

其學功大也、故ニ古歲五十ニテ官ニ服ク、今壯年ノ者官ニ服クハ、古聖人ノ法ニ背クユヘ、瓜ノ未ダ熟セザルヲ與ユルニ似タリ、春分ヨリ數月艱難セシ物ヲ、零ルヲ拾ハズ、僅一月ヲ待ズシテ饑リヲ受ルハ、豈急速ナラズヤ、華域ハ及第ノ學ニテ、民間ヨリ卿相ニモ陞ルユヘ、民心ハ疾知レドモ、斯ク五十ニ及ンデ官ニ附ク、本朝ハ世祿ニテ、武士ハ代々武士ユヘ、下情ヲ知ルベキ様無シ、是意ヲ考ヘ、壯年ノ者ハ學者ニ限ラズ、俗吏トイヘドモ、小者徒胥ニ至ルマデ、四十歲ニ至ラザレバ、必ズ小官トイヘドモ授クベカラズ、四十曰ニ強化、是古禮也、古聖賢ノ制度ニ少シモ惡シキト云事有ルベカラズ、後世ノ者ノ所詮及ブ所ニ非ズ、聖賢ノ法悉ク守ラバ、則チ聖賢ニ異ナラズ、然レドモ悉ク守ル事能ハザルユヘ、其成ルベキダケヲ守ラバ、則チ聖賢ノ次トスベシ、又學問モ始メヨリ經濟ヲ的ニシテ志ス事宜シ、宋ノ王安石ハ文學ニ達シ、死後孔廟ニ配享セラル、程ノ者ナレドモ、政事ニハ甚ダ拙ク、學問ヲ其儘政事ニ引當テ、様々仕組ヲ立テ、遂ニ天下ノ衰端トナル、曩我藩ニ泰長院ト云寺主東都ニ在ルトキ、或士ヨリ馬術ノ傳書ヲ頼マレ、之ヲ募シテ熟覽シ、馬術ハ是ニテ成レリト、歸國ノ後ニ乘リシニ、一散ニ驅出シ已ニ危キメニ及ベリ、今ニ於テ諺ニ泰長院ノ馬乗ト云、武王筆銘云、「蹈水可脱、蹈火不活」ト云、沈溺ト云ハ、酒ノミニ非ズ、一切ノ事深ク耽ルハ皆沈溺也、讀書ノ者必不<sub>レ</sub>蹈<sub>レ</sub>文様ニスベシ

○ 客云、今ノ武士ハ、文學ハ柔軟ニシテ勇武ニ拙シト思ヒ、敢テ嗜マズ、如何シテ衆士ヲ文道ニ引

入ベキヤ、一好勇不好學、其蔽也亂、好剛不好學、其蔽也狂」トアレドモ、其門ニ入ラザレバ、宮室ノ美ヲ知ラザルハ尤ナル事ナリ、中人以下ノ質ニハ、驟ニ太高キ事ヲ語レバ入ル、事能ハズ、「夫子循々然善誘人」トハ、次序アルヲ云也、聖經ニモ、教語ト行狀トヲ紀シテ有リ、聖賢ハ固ヨリ德行ハ身ニ在ルユヘ、經書ニモ多クハ教語也、大學・中庸モ教語也、衆人ヲ帥ユルニハ、言語ヨリ先ヅ行狀ヲ以テ諭ス事ヨシ、余愚意ヲ以テ當時ノ士風ヲ推重スルニ、一方ニ家語ヲ講ジ、孔子夾谷ノ會ノ如キ勇武ヲ示シ、ソレヨリ左傳等ヲ講ズベシ、家語ハ耳近キ書也、蓋シ疑說衍文モ有シカ、其所ニ至テハ闕如シテヨシ、次ニ劉向ガ說モ宜シ、兎角其時代其風ニ應ジテ、人ヲ善道ニ導ク事、時ニ取テノ智慮ト云者也、材木ヲ作ルニ、始メヨリ鉋ハ附ラレズ、切磋シテ後琢磨スル事、次序トスベシ

○ 客云、近世新安姚首源際恒ト云者、古今僞書考ヲ著シテ、易傳・子夏易傳・閔朗易傳・焦氏易林・古文尚書・尚書孔氏傳・子夏詩傳・周禮・大戴禮・孝經・忠經・家語・孔叢子・西京雜記・汲冢周書・晏子春秋・小爾雅孔鮒撰・六韜・司馬法・吳子・孫子・尉繚子素書・武侯新書・莊子・列子・管子・黃帝・素問・靈樞經・金匱・玉函・傷寒論等皆僞書ト云、近年太田錦城モ書經ヲ僞書ト曰ト記ス、千載ノ後ニ生レ、如何シテ其眞僞ヲ知ルヤ、定テ周・秦・漢ノ時代ニ作者有テ、物取リニ作り出シテ之ヲ賣ル事、斯ル世ニ益有ル書ヲ他人ノ名ヲ假ンヨリ、自身ノ著述ニ致スベキニ、高名ヲ人ニ讓ルハ、其本人ニ勝ルベキ人カ、我々々迷ヘリ答云 江戸京都ニ極所ト云テ、刀劍ハ本阿彌、甲冑ハ妙珍、古筆ハ了意、細工ハ後藤、茶器ハ樂吉

ト諸國ヨリ極ヲ賴ミ、一器ニ謝料百疋ヲ用ヒ、是迄賤ズル鈍刀モ正宗ノ折紙ヲ得レバ、忽チ錦繡ニ襲ミ、或ハ重代ノ名刀モ僞物ト云ヘバ、忽チ之ヲ投與フ、或ハ茶器ハ猫ノ碗モ、祥水・古唐津・井戸ト云ヘバ數百金ノ估ヲ受ク、國家ヲ治ルモ、諸者ノ一言ヲ信ズルガ如ク、命令ヲ守フバ、千百世必無事ナラン、諸者モ其出所ヲ知ラザル事アリ、古唐津・井戸ヲ高麗ト云、實ハ我邦唐津ニ於テ高原ト云者ノ作也、然レドモ天下舉テ諸者ガ言ヲ證トス、茶器書畫等ハ無益ノ翫物ユヘ、眞僞ハ何ト云テモヨシ、刀劍ニ至テハ人命ニ係ルユヘ、妄リニ相スベカラズ、況ヤ萬世人ノ規本トスル書籍ヲヤ、源際恒ハ書籍ヲ詔スル者ナラン、蓋シ莊子ヲ眞ノ莊子ガ作ニ致サバ、益有ルコトモアリヤ、若眞僞ヲ論ゼバ、其人ノ德行ト其著述ト符合スルヲ以テ論ズベキニ、莊子ハ異端ニテ、國家ニ無益シテ仁義ヲ賊フ者也、故ニ彼書ノ如キハ、君子ノ拘ル書ニ非ザルユヘ、何ト云テモ障リナシ、然レドモ右ノ書籍統テ僞書ト云ハ、西漢ヨリ近世マデ、王侯大夫士英傑并起レドモ、舉官人ニテ、源際恒一人ノミ明智ナルヤ、素問・靈樞等ハ醫者モ強チ證トセザルユヘ、僞書ト云テモツカヘ無シ、金匱・傷寒ハ古來醫者ノ眼目トスルユヘ、僞書ト云ヘバ、庸醫ハ疑念ヲ生ジテ信服セズ、仲景ガ傳後漢書三國志ニ載セズ、隋ノ經籍考ニ少シ記セリ、故ニ後世ノ醫ドモ様々評論シテ、文章ハ古體ニテ、漢朝ノ作ニ非ズト云、文ニ古今ノ體有ルハ、其人ニ在テ時代ニ在ラズ、今ニ於テモ古體ヲ書ク者モアリ、蓋シ年ヲ歷テ漸々大ニ變ズレドモ、西漢迄ハ左迄大變トモ見エズ、仲景ハ醫術ニ妙ヲ得ルユヘ、後世醫家ノミ尊崇スレドモ、畢竟當時ノ庸人

トミユ、故ニ范曄モ紀傳ニ載サル事カ、傷寒論自序ニ、漢長沙太守南陽張機著ト記セシニ、脈症式ニ漢ノ字有ルユヘ、古來僞作ト唱フレドモ、拘ラズト云シハ尤ナリ、全體漢ノ字ヲ添ヘシハ意味有ル事トミユ、其故ハ此時ハ漢室已ニ衰ヘ、國號遂ニ絶ントス、故ニ漢朝ノ節義ヲ失ハザル證ト爲シカ、高節ノ士ニ於テハ左モ有ルベキ事也、又後世ノ記者添シモ計リ難シ、漢ヨリ以後ノ序跋ハ、其後ノ記者ハ國號ヲ記セシ事モアリ、斯ル著作ノ人名ニ拘泥スルハ庸人也、其要目ニ眼ヲ附テ、必ズ作者ニ係ハル事勿レ、又素書・司馬法・尉繚子・西京雜記等ハ讀マザルモ可シ、故ニ何ト云テモ宜ロシ、ケダシ兵書モ漢ノ初ハ百八十二家有リシヲ、其肝要ノ處ヲ舉テ三十五家ト成ス、後漢ノ成帝任宏ニ命ジテ、天下ノ兵書ヲ集メ、此ヲ擇ンデ正本ヲ取シニ、七書モ是中ニ加ハル、唐ノ世ニ三十五家ノ正キ兵書、天子ノ四庫ニ藏レドモ姓名ヲ紀サズ、然レドモ七書ノ姓名ハ已ニ知レタリ、宋ノ元豐年中ニ子業朱服之ヲ選ンデ七書ト號ス、是時著作ノ人ヲ分明ニス、特ニ孫吳ハ兵家ノ眼目ニテ、唐ノ太宗モ兵書ハ孫・吳ニ出ルコト無ト稱美アリ、孫子前後ニ孫子ナシト云ホドノ書也、六韜・管子モ治亂共ニ的ノ用ノ書也、周ノ始ニ三略・六韜ヲ著ス者、太公ニ非ズシテ、何人カ之ヲ編ム者有リヤ、蜀ノ先主云、可讀漢書禮記、閑暇、歷觀諸子及六韜・商君書、益ニ人意智聞、諸葛亮爲寫ニ申韓・管子・六韜一通ト劉志ニ見ヘタリ、又清ノ康熙帝ハ夷狄ヨリ出デ中國ヲ一統シ、殊ニ大儒ニテ、書籍ノ僞作ニ目ノ附ザル人ニ非ズ、然レドモ管子ヲ信ジ玉フユヘ、字典御製ノ序ニ、「讀管子」ト見ヘタリ、孝經モ唐ノ玄宗皇帝御製ノ序有リ、若

シ僞書ナラバ、天子躬カラ筆ヲ取り玉フハ重キ事ユヘ、數百ノ文官洪儲ノ儔之ヲ諫メテ止ムルベシ、又宋ハ朱子モ疑文ト云テ取ラズ、由<sub>レ</sub>是於<sub>レ</sub>今古學者大ニ朱子ヲ謗罵ス、儒書ハ上世ヨリ三墳・五典・八索九丘ノ書有レドモ、夫子之ヲ取玉ハズ、其正本ヲ舉玉ヘリ、夫子ノ言行ハ死後ニ紀シ、又記者ニ才不才有ルユヘ、文章ノ好惡モ有ラン、特ニ秦火ニ遇ヒ、漢ニ至テ諸處ヨリ燼本ヲ集メシユヘ、闕義衍文アルハ必定也、然レドモ一部悉ク僞書トハ名ケ難シ、司馬遷史記ヲ著スニハ、天下ヲ周觀シ、明試シテ紀セシユヘ、僂忽ノコトハ無キトミユ、孔子七十子ノ傳ヲ紀セシハ、家語ニ據ラズシテ何ヲ引用セシヤ、又二帝・三王ノ本紀皆尙書ニ原リ、今ニ至テ堯舜ノ聖代ト稱スルニ、其德行書籍ニ見エズンバ如何ナル人ナリヤ、其名ノミ聞テハ信仰シ難シ、其行狀明カニ尙書ニ著ハルユヘ、後世聖帝ト稱ス、史記、「夫學者載籍極博、猶考<sub>レ</sub>信於六藝、詩書雖<sub>レ</sub>缺、然虞夏之文可<sub>レ</sub>知也」ト記セリ、虞夏ノ文トハ、尙書ノ堯典・舜典・大禹謨ノ篇ヲ云フ也、中庸、「文武之政、布在<sub>レ</sub>方策」ト云、其方策ハ周書ニ非ズンバ別ニ由ランヤ、漢ノ文帝ニ至テ、幸ヒ濟南ノ伏生、年九十ニ過ギ、本經ヲ失フテ之ヲ口授ス、張生歐陽等ニ傳リ、其後聖孫孔安國之ニ註ス、是時聖人ヲ去ルコト未ダ遠カラズ、聖孫タル者如何ゾ看僞書ニ心氣ヲ勞シテ註解スベキヤ、是註ヲ證トシテ、千載ノ後ニ至ルマデ、世々ノ天子侯伯國天下ヲ治ル規範ト爲シテ、萬機ノ政ニ之ヲ徵トス、我邦トイヘドモ天子ノ詔書、二典ノ文ニ據リ玉フ、蜀志ヲ觀ヨ、先主其皇子皇孫ヲ戒ル遺詔、皆二典ヲ徵トス、若刑政不決ニ及ババ、何ニ由テ準繩トスベキヤ、

今眞僞ヲ糾サント欲シテモ、千載ヲ隔ツレバ、孰ニ訟ヘ詳獻スベキヤ、無益ノ事ニ心氣ヲ損ジテ、古  
書ノ詔致サンヨリ、世間ノ害ニナラザル茶器書畫ノ詔コソ大ニ勝レリ、必ズ僞書考ヲ信ズルコトナカ  
レ

○客云、贅頭大全ニ、公冶長ハ、鳥語ヲ譯スルトハ實說トスベキカ

客云 書ヲ石ルニ小説ニ泥ムトキハ、事ヲ計ルニモ小泥イテ活斷ナラズ、世間コリ書畫ト云ハレテ  
談噺セラル、故ニ小徑ニ由フズ、大道ヲ往クガ如ク、大度ノ心ヲ以テ其要目ノ處ニ心ヲ潛ムベシ、孟  
子アルナル吾於武成、取二三策而已矣」ト云ヲ堅ク守ルベシ、斯ル鳥語ノ如キハ、左傳ニ、「介葛盧牛吠」ヲ譯

スルコトアリ、我藩多久氏朝鮮ノ役ニ、童子ヲ召シ連レ歸リ玉フニ、能ク鳥語ヲ譯ス、斯ル奇事纖言  
怪語異相ハ古來枚擧ニ遑アラズ、委キコトハ淮南子・五雜俎・酉陽雜俎・本朝奇異雜談等ニ見ヘタリ、  
蓋シ之ヲ讀ムトモ、徒目ヲ勞シテ更ニ益ナシ、又近世久ク太平ユヘ、書肆等ツキヤ費本ノ爲ニタマシ數割上梓シ、  
多クハ釋氏ノ書、或ハ曲學者流ノ作、江戸ノ赤本等、皆杜撰孟浪ノ雜書、或ハ三世相・圖本ナド、様々  
ノ書冊流行シテ人ヲ蠱惑シ、事ニ由テハ不和ヲ結ブ媒トナルコトアリ、若シ都下ニ書肆ヲ立ルトキハ  
之ヲ改メ、人ヲ迷ハス雜書ハ悉ク禁ズベシ、又之ヲ買テ寶臺ニ置メ、子孫ニ遺シテモ我ガ愚ヲ遺スト  
云者也、張魏公戒子以四德、無益之言勿聽、無益之事勿爲、無益之文勿觀、無益之友勿親、是  
語ヲ守ラバ必ズ君子ノ人タルベシ

本朝學令

淳和天皇長十年冬勅制

凡博士助教、皆取明經堪爲師者、書算亦取學術優長者、

凡學生在學、各以長幼爲序、初入學、皆行束脩之禮、於其師、各布一端、每人皆用二端、皆有酒食、其

分束脩三分入博士、二分入助教、

案、職員令、博士一人、助教二人、然則摠計所有、以作七分、三分入博士、其餘四分均入助教、其

士、亦皆有束脩也

凡經、周易、尚書、周禮、儀禮、禮記、毛詩、春秋左氏傳、各爲一經、孝經、論語、學者兼習之、

凡教授正業、周易鄭玄王弼註、尚書孔安國鄭玄註、三禮、毛詩鄭玄註、左傳服虔杜預註、孝經孔安國鄭玄

註、語鄭玄何晏註

凡禮記、左傳、各爲大經、毛詩、周禮、儀禮、各爲中經、周易、尚書、各爲小經、通二經者、大經內通

一經者小經內、若中經、卽併通大小經者、大經中經小經並通、孝經、論語、皆須兼通、

凡學生、先讀經文、通熟、然後講義、每旬、十放一日休暇、暇前一日、博士考試、考校也、共試讀者、每

千言內、試一帖三言、三言三字講者、每十千言內、問大義一條、摠試三條、通二爲第、通一及全不通、

斟量決罰

考期以七月爲二年終、此稱二年終、亦與考同、何者爲定博士考課之故也

大學頭・助・國司、藝業優長者試之、試者通計一年所受業、問大義八條、得六以上爲上、得四以上爲中、得三以上爲下、頻三下、謂三年頻下也及在學九年、不堪貢學者、并解退、其從國向大學者、年數通計、服闋重任者不在計限、カハラ 服終重任者、居喪之年不在通計之限

凡博士・助教、皆分經、教授學者、每受一經、必令終講、所講未終、不得改業

凡博士・助教、皆計當年講授多少、以爲考課等級、凡學生通二經以上、求出仕者、聽舉送、其應舉者、試問大義十條、得八條以上、送太政官、若國學生、雖通二經、猶請願學者、在學未滿九年者也申送式

部、考練得第者、進補大學生

凡學生、雖講說不長、而閑於文藻、才堪秀才進士、亦聽舉送

凡算經・孫子・五曹・九章・海鳴六章・綴術三間皇・差周髀九司・各爲一經、學生分經習業

凡國郡司、有解經義者、即令兼加教授、國博士外兼令教授若訓導有成、即宜進考

凡學生請暇者、謂緣身及父母患、臨時請暇之類、其休暇及田衣等暇、不在此限

大學生經頭、國學生經所部國司、各陳牒呈給

凡學生、自非行禮之處、謂釋奠及束脩之類不得輒使

凡學生、在學不得作樂及雜戲、惟彈琴習射不禁、其不率師教、不受正業好爲雜戲及一年之內、違暇滿

百日者、並解送

凡學生、年二十五以下、遭喪服闋、求還入學者聽之、在學不滿二九年一者也

凡大學國學生、每年五月放田暇、九月放授衣暇、謂九月霜始降、婦功成、可以授冬衣

其路遠者、仍酌量、給往還程

凡學生被解退者、皆條其合解之狀、申式部、下本貫、其五位以上子孫者、皆限年二十一、申送太

政官、準蔭配色

凡學生、公私有禮事處、令觀儀式、謂元日及公卿大夫喪之類

### 本朝貢舉

令義解曰、凡秀才試方略方大也、略要也、策二條、文理文辭也、理義也、俱高者爲上上、文高理平、理高文平爲上中、文理

俱平爲上下、文理粗通爲中上、文劣理滯、皆爲不第

凡明經試周禮・左傳・禮記・毛詩各四條、餘經各三條、孝經・論語共三條、皆舉經文及注爲問、其答者、

皆須辨明義理、然後爲通、通十爲上上、通十四條、通八以上爲上中、通七爲上下、通六爲中上、

通五及一經、若論語・孝經、餘不通者、皆爲不第、通二經以外、別更通經者、每經問大義七條、

通五以上爲通

凡進士、試時務策時治國之要也、二條帖、所讀文選上帙七帖・爾雅三帖、帖安也、言於書上安物、讀讀令調也

其策、文詞、順序、義理、懷懣、當并帖、過者爲通、事義有滯、詞句不倫、及帖不過者爲不第、帖策全通爲甲、策通二帖、過六以上爲乙、外皆爲不第

凡明法、試律令十條、律七條、令三條識達義理、問無凝滯者爲通、粗知綱例、未究指歸者爲不第、全通

爲甲、通八以上爲乙、通七以下爲不第

凡試貢舉人、皆卯時付策、當日對畢、策簡也、所以書文詞者也、於秀才進士、付此簡第一令其書對也

式部卿監試不訖者不考、考畢對本司長官、定等策、唱示

凡貢人、皆本部長官、貢送太政官、若無長官、次官貢其人、隨朝集使、赴進至日、皆引見辨官、付

式部卿、已經貢送、而有事故、不及試者、後年聽試、其大學舉人具狀、申太政官、與諸國貢人

同試、試訖得第者奏聞、留式部卿、不第者、各還本色、

凡秀才、取博學高才者、博學者、博涉群書、舉其大體、即通、舉博學、文義稍殊也

明經、取學通二經以上者、進士、取明閑時務、并讀文選、爾雅者、明法、取通達律令者、皆須方

正清脩、方正也、俗整也、名行相副

凡秀才出身、上上第正八位上、上中正八位下、明經、上上第正八位下、上中從八位上、進士、甲第從

八位下、進士、甲第從八位下、乙第及、明法、甲第大初位上、乙第大初位下、其秀才明經、得上中以

上、有蔭及孝悌、被表顯者、加本蔭本第一階、叙其明經、通二經以外、每一經通加一等

## 學校

通考曰、古之教者、家有塾、黨有庠、術有序、國有學、所謂學校至不一也、然惟國學、有司樂司、成事主教事、而州閭鄉黨之學、則未聞有司職教之任者、及考周禮掌官、黨正各掌其黨之政令教治、孟月屬民而讀法、祭祀則以禮屬民、州長掌其州之教治政令、考其德行道藝、糾其過惡、而勸戒之、然後知黨正即一黨之師也、州長即一州之師也、以至下之爲比長閭胥、上之爲鄉遂大夫、莫不皆然、蓋古之爲吏者、其德行道藝、俱足、以爲人之師表、故發政施令、無非教也、以至使民興賢、出使長之、使民興能、入使治之、蓋役之則爲民、教之則爲士、官之則爲吏、鈞是人也、秦漢以來、儒與吏始異趨、政與教始殊途、於是曰郡守、曰縣令、則吏所以治其民、曰博士官、曰文學掾、則師所以教其弟子、二者漠然不相爲謀、所用非所教、所教非所用、士方從學也、曰習讀、及進而登仕版、則棄其詩書禮樂之舊習、而從事乎簿書期會之新規、古人有言、曰吾聞學而後入政、未聞以政學者、後之爲吏者、皆以政學者也、自其以政學、則儒者之學術、皆空歸也、國家之學官芻狗也、民何由而見先王之治哉、又況榮途捷徑、旁午雜出、蓋未曾由學、而升者滔滔也、於是所謂學者、始視爲粉飾太平之一事、而庸人俗吏、直爲無益於興衰治亂之故矣

禮記經解、孔子曰、入其國、其教可知也

觀其風俗、則知其所以教也

其爲人也、溫柔敦厚、詩教也、疎通知遠、書教也、廣博易良、樂教也、潔靜精微、易教也、恭儉莊

敬、禮教也、屬辭比事、春秋教也。屬猶合也、春秋多紀諸侯朝聘會同、有相接之辭、非辨之事。

故詩之失、愚、書之失、誣、樂之失、奢、易之失、職、禮之失、煩、其爲人也、溫柔敦厚、而不愚則深於詩者也、疎通知遠、而不誣則深於書者也、廣博易良、而不奢則深於樂者也、潔靜精微、而不賊則深於易者也、恭儉莊敬、而不煩則深於禮者也、屬辭比事、而不亂則深於春秋者也。

袁樂劉氏曰、此經言周之衰之時、諸侯之國、雖不能逮文武之時、猶能各通一經、以化其民、故孔子歷聘之時、入其國、而其教可知。

山陰陸氏曰、不言失之、而言之失者、六經無失也、學者之失而已。

金華應氏曰、醇厚者、未必深察、情僞、故失之愚、通達者、未必篤確誠實、故失之誣、寬博者、未必嚴立繩檢、故失之奢、沈潛思索、多自耗蠹、且或害道弄筆、褒貶易案、是非、且或召亂、樂正、崇四術以訓士、則先王之詩書禮樂、其設教固已久、易雖用於卜筮、而精微之理、非初學所可語、春秋雖公其紀載、而策書亦非民庶所得盡窺、故易象春秋、韓宣子適魯、始得見之、則諸國之教、未必盡備六者、蓋自夫子刪定讚繫、筆削之餘、而後傳習滋廣、經術流行、夫子既廣其傳、而又慮其所蔽、故有此言、然入其國、即知其數、非見遠察微者不能也、觀其教、即防其失、非慮遠防微者不能也。

### 選舉考

通考云、古之用人、德行爲首、才能次之、虞朝咨采、亦有九德、周家賓興、考其德行、於才不居屑也、兩漢以來、刺史守相、得以專辟召之權、魏晉而後、九品中正、得以司人物之柄、皆考之、以里閭之毀譽而試之、以曹掾之職業、然後俾之入、備王官、以階清顯、蓋其爲法、雖有愧於古人德行之舉、而猶可以得才能之士也、至於隋、而州郡僚屬、皆命銓曹掾紳、發軔悉由於科目、自以銓曹署官、而所接者資格而已、於是勘籍小吏、得以司升沉之權、自科目取士、而所試者詞章而已、於是操觚末技、得以階榮進之路、夫其始進也、試之以操觚末技、而專主於詞章、其既仕也、附之於勘籍小吏、而專校其資格、於是選賢與能之意無存者矣、然此二法者、歷數百年、而不可以復更、一、或更之則蕩無法度、而僥倖者愈不可澄汰、亦獨何哉、又古人之取士、蓋將以官之、三代之時法制雖簡、而考核本明、毀譽既公、而賢愚自判、往々當時士之被舉者、未有不入官、初非有二途也、降及後世、巧僞日甚、而法令滋多、遂以科目爲取士之途、銓選爲舉官之途、二者各爲防閑檢柅之法、至唐則以試士屬之禮部、試吏屬之吏部、於是科目之法、銓選之法、日新月遷、不相爲謀、蓋有舉於禮部、而不得官者、不舉於禮部、而得官者、而士之所以進身之塗、亦復不一、不可比而同之也

周官大司徒卿、以三物教萬民、而賓興之、一曰六德、知・仁・聖・義・忠・和、二曰六行、孝・友・睦・婣・任・恤、三曰六藝、禮・樂・射・御・書・數

以「飲酒之禮」賓客之既、則獻其書于王、

卿大夫三年、則大比考其德行道藝、而興賢者能者、鄉老及卿大夫師、其吏與其衆寡、以「禮賓」之、厥

明鄉老、及卿大夫群吏、獻賢之書于王、再拜受之、登于天府、天府掌三祖廟之寶藏者內史貳之退、而以鄉射

之禮五物、詢衆庶、一曰和、二曰容、三曰主皮、四曰和容、五曰興舞、當射之禮、民必觀焉、因詢之也此謂「使民興

賢、出使長之、使民興能、大使治之、王制命鄉論秀士、升之司徒、曰選士、州長二十五百家爲州各

掌其州之教治、政令之法、正月之吉、各屬其州之民而戒之、以歲時祀祭州社、則屬其民、讀法

亦如之、三年大比、則大考州里、以贊卿大夫廢興、黨正各掌其黨五百家爲黨之政令教治、及四時之孟

月吉日、則屬民而讀邦法、以糾戒之、春秋祭禘亦如之、正歲屬民讀法、而書其德行道藝、以歲時

臨之、比及大比亦如此、族師百家爲族師族長各掌其族之戒令政事、月吉則屬民而讀邦法、書其孝悌嫺

有學者、

閭胥二十戶爲閭各掌其閭之徵令、凡春秋之祭祀、役政喪紀之數、聚衆庶既比、則讀法書其敬敏任恤者、

國語齊桓公內正之法、正月之朝、鄉長復事、君親問焉曰、於子之鄉、有「居處好學、慈孝於父母、

聰慧賢仁、發聞於鄉里者、有則以告、有而不以告、謂之蔽明、其罪五、有司已於事而竣、公又問

焉曰、於子之鄉、有「奉養股肱之力、秀出於衆者、有則以告、不告謂之蔽賢、其罪五、有司已

於事竣、公又問焉曰、於子之鄉、有「不慈孝於父母、不長弟於鄉里、驕躁淫暴、不用上令者、

有則以告、不告謂之下比、其罪五、有司已於事而竣、是故鄉長退、而修德進賢、公親見之、遂使役官、及五屬大夫復事、公問之如初、於是退而修屬、々退而修縣、々退而修鄉、々退而修卒、卒退而修邑、々退而修家、是故匹夫有善、可得而舉也、匹夫有不善、可得而誅也

漢高祖詔曰、蓋聞王者、莫高於周文、伯者莫高於齊桓、皆待賢人而成名、今天下資者智能、豈特古之人乎、患在人主不交故也、士奚由進、今吾以天之靈、賢士大夫、定有天下爲一家、其長久世々、奉宗廟亡絕也、賢人既與我共平之矣、而不與吾共安利之可乎、賢士大夫、有肯從我游者、吾能尊顯之、布告天下、使明知朕意

文帝詔諸侯王公卿郡主、舉賢良能直言、極諫者

董仲舒對策曰、臣愚以爲、使列侯郡守二千石、各擇其吏臣之賢者、歲貢各二人、以給宿衛、且以觀大臣之能、所貢賢者有賞、不肖者有罰、夫如是、諸侯吏二千石、皆盡心於求賢、天下之士、可得而官使也、後遂令州郡舉茂材孝廉、皆自仲舒發之

漢孝宣帝本始元年、地震、詔內郡國、舉文字高第各一人

地節三年、詔令郡國、舉孝悌有行義、聞於鄉里者各一人

建武六年、詔舉賢良方正各一人、重舉茂材四行者、四行、謂淳厚、質樸、謙遜、節儉也韋彪上議曰、夫國以簡賢爲務、

賢以孝行爲首、孔子曰、事親孝、故忠可移於君、夫人才行少能相兼、孟子綽優於趙魏老、而不

可爲滕薛大夫、忠孝之人、持心近厚、鍛鍊之人持心近厚、三代所以直道而行者、在其所以磨之故也、宜以才行爲先、不可純以閭閻也、功狀然其要在於選二千石、二千石賢、則貢舉皆得其人矣、帝深納之

元和二年、令郡國上明經者、口十萬以上五人、不滿十萬三人

晉武帝詔州郡舉勇猛秀異之才

傳玄皇甫陶以爲、政教頽弊、風俗不淳、上疏曰、近者魏武好法術、而天下貴刑名、魏文慕通達、而天下賤守節、其後綱維不攝、而虛無放誕之論、盈於朝野、使天下無復清議、而亡秦之病、復發於今、陛下聖德、化鄰唐虞、唯未舉清遠有禮之臣、以敦風節、未退虛鄙、以懲不恪也、帝乃使玄草詔進之、玄奏曰、臣聞先王分士農工商、以經國制事、各一其業、而殊其務、自士以上、子弟則爲之、立大學以教之、選明師以訓之、隨才優劣、以授用、農以豐其食、工以足其器、商賈以通其貨、故雖天下之大、兆庶之衆、而無遊人在其間、漢魏不定其分、百官子弟、不修經藝、而務交遊、未知蒞事而坐享天祿、農工之業多廢、或逐淫利而離其事、徒繫名於大學、然不聞先王之風、今聖政滋始、而漢魏之失未改、散官衆而學校未設、遊手多而親農者少、工器不盡其宜、亟定其制、前皇甫陶、上事欲令賜拜散官、皆課使親耕、天下享足食之利、禹稷躬稼、祚崇後代、是以明堂月令、著帝藉之制、伊尹古之名臣、耕於有莘、晏嬰齊之大夫、避莊公之難、亦耕於海濱、昔者聖

帝明王、賢佐俊士、皆嘗從事於耕農矣、王人賜官、冗散無事者不督、使學則富、使耕、無緣放之使坐食百姓也、今文武之官既衆、而賜拜不在職者又多、加服役爲兵、不得耕稼、常農者之半、南面食祿者、參倍於前、使冗散之官爲農、收其租稅、家得其實、而天下之穀、可以無乏矣、虞書曰、三載考績、三考黜陟幽明、是爲九年之後、乃有遷叙也、故居官久、則念立慎終之化、不久則爲一切之政、六年之限、日月淺近、不周黜陟、陶之所上、義合古制、惟陛下裁之、略唐制取士之什、多因隋舊、然其大要有三、由學館者、曰生徒、由州縣者、曰鄉貢、皆升于有司而進退之、其字有明算、有一史、有三史、有開元禮、有道舉、有童子、而明經之別有五經、有三經、有二經、有學窮一經、有三禮、有三傳、有史科、此歲舉之常選也、其天子自詔、曰制舉、所以待非常之才焉、舉選不繇館學者、謂之鄉貢、皆懷牒自列於州縣試、已長、更以鄉飲酒禮、會屬僚、設賓客、陳俎豆、備管絃、牲用少牢、歌鹿鳴之詩、因與耆艾叙長少焉、既至、省皆疏名、列到結款、通保及所居、始由部集閱、而關于考功、員外郎試之

開元二十四年勅曰、進士以聲韻爲學、多昧古今明經、以帖誦爲功、罕窮旨趣、自今明經、問大義十條、對時務策三首、進士試大經十帖

天寶六年、上欲廣求天下之士、命通二藝以上、皆詣京師、李林甫恐草野之士對策、斥言其姦惡、建言舉人、多卑賤愚憤、恐有佞言污濁聖聽、乃令郡縣長官、精加試練、灼然超絕者、其名送省、委

尙書覆試、御史中丞監之、取名實相副者聞奏、既而至者、皆試以詩賦論、遂無一人及第者、林市乃上表、賀野無遺賢。

代宗廣德二年、賈至爲侍郎、建言、歲方艱歉、舉人赴省者、兩都試之、兩都試人、自此始。江陵頂氏曰、風俗之弊、至唐極矣、王公大人、巋然於上、以先達自居、不復求士、天下之士、什伍々、戴破帽、騎蹇驢、未到門百步、輒下馬奉幣刺、再拜以謁於典客者、投其所爲之文、名之曰求知己、如是而不問、則再如前所爲者、名之曰溫券、如是而又不問、則有執贄於馬前、自贊曰、某人上謁者、嗟乎風俗之弊、至此極矣、此不獨爲士者可鄙、其時之治亂蓋可知也。

梁太祖開平九年勅、近年舉人、當秋薦之時、不親試者、號爲拔解、今後宜止絕。

宋太宗興國三年、上御講武殿、試禮部貢士、舉人進士、加論一首、自是以三題爲準。

明太祖洪武二十一年、命禮部給賜國子生鈔、遠國之人、在監三年以上者人五錠、二年人二錠、俾製冬衣、復命工部于國子監前、造別室一區、凡百餘間、具炷釜牀榻、以處諸生之有疾者、令膳夫二十人給役、太祖曰、諸生去鄉土、離親戚、遠來、務學日久、衣必敝、或有疾、無人具湯藥、朝廷作養之、必使之得所、然後可必其成材、蓋天生人材、皆爲世用、人君育才、當有其實、惟能有以養之、則本有不成材者也、命禮部頒書籍于北方學校。

又詔曰、農夫舍耒耜、則無以爲耕、匠氏舍斤斧、則無以爲業、士子舍經籍、則無以爲學、朕

嘗念北方學校、缺少書籍、士子有志於學者、往々病無書讀、向嘗頒與四書五經、其他子史諸書、未賜予、宜於國子監印頒、有未備者、遣人往福建購與之

太祖諭中書省臣曰、學校之教、至元其弊極矣、使先王衣冠禮樂之教、號爲夷狄、上下之間、波頽風靡、故學校之教、名存實亡、況兵變以來、人習於戰鬪、惟知干戈、莫識俎豆、朕恒詔、治國之要、教化爲先、教化之道、學校爲本、今京師雖有大學、而天下學校未興、宜令郡縣皆立學、禮延師儒、教授生徒、以講論聖道、使人日漸月化、以復先王之舊、以革污染之習、此最急務、當急行之

又詔曰、須先擇國子學官師、得其人、則教養有効、非其人、增廣徒多何益、蓋警者不能辨聲色、聾者不能辨聲、學者而無師授、亦如聾瞶之於聲色、朕觀前代學者、出爲世用、雖繇其質美、寔亦得師、以造就之、後來卒無實、今民間俊秀、子弟可以充選者雖衆、苟無端人正士爲之模範、求其成材、難矣、故曰、務學不如求師、今祭酒乏人、卿等宜爲朕詢采天下名士、通今博古才德兼備、宜爲人師者以名聞

又諭曰、致治在賢、風俗本乎教化、教化行雖閭閻可使爲君子、教化廢雖中材或墜于小人、近北方喪亂之餘、人鮮知學、欲求方聞之士、甚不易得、今大學諸生中、年長學優者、卿宜選取俾往北方、各郡分教、庶使人知務學、人材可興、於是選國子生林伯雲等三百六十六人、給廩食、賜衣服而遣之

又諭禮部尙書劉仲質曰、孔子明帝王之道、以教後世、使君君、臣臣、父父、子子、綱常以正、彝倫收叙、其功參于天地、今天下郡縣、廟學並建、而報祀之禮、止行京師、豈非闕典、卿與儒臣、其定釋奠禮儀、頒之天下學校、令以歲春秋仲月、通祀孔子<sub>上</sub>

經濟問答秘錄卷五終

## 經濟問答秘錄卷六

## 法令考上

○客云、古王代ハ天下ニ一制也、封建ト爲ツテ、州郡其ノ俗ニ因テ、制度ニ異同有リ、其ノ中寬猛有テ、民ノ服否モアリ、法令能ク行ル、ハ、固ヨリ人君ニ在リト雖モ、亦簡易ニシテ、守リ易キ事ハ無キヤ

答云 法ハ古今ノ常道ナリ、人情ハ萬古易ラズ、堯舜ノ民モ、今時ノ民モ其實情ハ變ル事無シ、管子ニ「法不レ法、則令不レ行、令而不レ行、則令不レ法也」トミユ、法ノミ建テモ、不レ行トキハ、勞シテ功無シ、故ニ民情ニ能ク通ジ、忠恕ヲ以テ建ルベシ、民情ニ逆キ、席上ノ理ニ倚テ法ヲ出シ、執拗シテ犯ズ者ヲ罰スレバ、刑戮之民不レ受テ教ト、固圉市ヲ爲スベシ、是レ刑ヲ樂フト云フ者ナリ、法令ハ民ノ爲ニ建ルユヘ、下ト爲ツテ受テ其耦合ヲ視ザレバ、其情ハ會得シ難シ、治平久ク、大厦深宮ノ中ニ長ズル人ハ、令ヲ出ス情ヲ知テ、令ヲ受ル情ニ疏シ、「禮知爲人臣、然後可<sub>レ</sub>以爲人君、知事人、然後能使<sub>レ</sub>人」ト云、建國ノ祖宗ハ人臣ナリ、階テ人君ト爲リ、人ニ使ハレテ後、人ヲ使ヒ玉フユヘ、能ク其實情ニ通達ス、由<sub>レ</sub>是令ヲ受ル者信服セザル事無シ、是意ヲ考ヘ、後世私意ヲ以テ謾ニ法ヲ建ツベカラズ、神君云、明君ハ先人ノ仕置セシ善事ハ、縱ヒ仇敵ノ致セシ事モ、直ニ其法令ヲ用ユレバ、治平早

クシテ領民モ騷動セズ、賴朝奥州平治ノ時、秀衡ガ仕置ノ通リト、諸處ニ制札ヲ建ラレシニ、其奥ニ自身ノ花押有ルヲ、我レモ睇シ事有リト宣フ、易云、「苟非其人、道不虛行」、賢聖ノ君ハ、人ヲ恃デ法ヲ恃マズ、賢明上ニ在セバ、其德ニ化シテ、人倫ノ道行レ、制法ハ建ルニ及バズ、堯舜ノ世ニハ司徒ノ官有テ五常ノ道ヲ教ヘ、民和睦シテ法ヲ犯サズ、故ニ法令ノ條目ト云者無シ、本朝モ欽明天皇<sup>三代</sup>迄ハ、法度ケ條無シ、是時厩戸皇子十七ヶ條ノ憲法ヲ建ツ、然レドモ仁義忠孝ヲ諭スノミニテ、今ノ様ニ制法煩瑣ナラズ、故ニ法度ヲ繁ク立ンヨリ、先ヅ人ヲ求ルヲ專一ニスベシ、古聖王ノ治方是ニ過ズトミユ

鄭叔向云、「國將亡必多制」、北條氏政ノ時、一僧小田原ヲ過ギ、制札ヲ囑テ、北條ノ滅亡モ近キニ在ラント云、傍ノ人此ヲ奉行ニ告レバ、吏ヲシテ追シメテ其子細ヲ訪ヘバ、彼僧對テ、我三十年以前是地ヲ過ギテ、制札ヲ囑シニ、條目僅七八條、今三十條ニ及ベリ、政道衰レバ民風崩レ制度必ズ多シ、政廢レテ如何ゾ永續スベキヤト云、制法ハ國初ヨリ常典アリ、新制ヲ以テ、民ヲ迷ハシムベカラズ、或大名始メテ國ヲ賜ルトキ、諸官民ニ示ス條目ヲ詢ヘバ、君頓テ法令ヲ出セシニ、偷懶ヲ構ヘテ農業ニ怠ルベカラズ、庄屋・組頭ノ申ス事ヲ背クベカラズ、右ハ百姓中ニ油斷スベカラズト下知致シ、庄屋中ニハ私スベカラズト申シ渡シ、其ノ外ハ年々米穀豐凶ヲ檢テ、年貢運上或ハ輕クシ、或ハ除クベシ、其餘ハ何事モ無シト、右三條ノミ、漢ノ高祖秦關ニ入ルトキモ同ジ、度量寬宏ト云ベシ、大史公

云、「法令所以導民也、其尊く法ハ、法度條件ヲ減ジテ、賞美ノ條目ヲ多ク建テ、衆ニ示サバ、善治ノ捷徑ナリ、其譯ハ次ニ出ス、諸國皆條目已ニ究レドモ、是篇ハ治道ノ大要ヲ記スユヘ、必ズ迂遠ト思フベカラズ

法常也、又偏也、而使有所限也」ト云、「令法也、又告戒也」ト云、洪容齋隨筆曰、「法令之書、其別有レ四、勅・令・格・式是也、小ナルヲ命ト云、大ナルヲ令ト云、令ト云ハ天下ニ一通リノ掟ニテ、斯ク致セ、斯ク爲ス勿レト號令ノ事也、又令ト云書有リ、晉刑法志漢時決事集、爲令甲以下三百餘篇、又唐ノ開元年中、朱景等刪定シテ、三十卷五百四十六條アリ、是ヲ唐令ト云、<sup>出玉</sup>令甲・令丙・令己乙・

令金・布令・功令・秩祿令・官律令・品令・禮令・祠令・齋令・公令・廷尉令・光祿掣令・樂浪掣令・廷尉板令・甲令・水令等ナリ、律ト云ハ、罪罰ヲ裁判スルニ、斯ル罪ハ流罪、斯ル罪ハ徒罪ト、其差ヲ明著スル事ナリ、杜預律序「律以正罪名、令以存事制」ト云、又杜氏通典「違令有罪、則入律」ト云、元戰國ノ時、魏ノ李悝ヨリ發軔シテ、法經六篇有リシヲ、秦ノ商鞅改メテ律トナス、唐六典註李悝集諸國州書造法經六篇アリ、其中ニ、盜法・賊法・內法・捕法・上計律・大樂律・尉律・田律・酎金律・賊律・奴努律・相座律・挾書律・誹謗律等有リ、漢律不傳、<sup>出玉</sup>唐有十二律、一名例、二衛禁、三職制、四戶婚、

五廩庫、六擅興、七盜賊、八鬪訟、九詐僞、十雜律、十一捕亡、十二斷獄ナリ、格ト云ハ、代々天子ノ命令ニテ、律令ニ少シ易リタル事アリ、律令ヲ叮嚀ニ爲ス事モ有テ、臨時ノ觸ナリ、或ハ百官ノ官

府ニ行フ、次第作法等官ニ依テ類スル事アリ、延喜式ノ體是ナリ、唐ノ玄宗ノ時、此ヲ定テ開元格ヲ作ル、武后ノ時垂拱格、文宗ノ時大和格ヲ作ル、是皆時ノ年號ニ由テ名ク、式二十卷、格七百條、是ヲ合テ律令格式ト云、神宗聖訓云、「禁於未前、之謂勅、禁於已然、之謂令、設於此以待假之至、謂之格、設於此使彼効之、謂之式」、大學衍義補云、「唐刑書有四、曰律・令・格・式、令者、尊卑貴賤之等數、國家之制度也、格者、百官有司之所常行之事也、式者、所常守之治也、凡邦國之政、必從三事於此三者、其有所違及人之爲惡、而入于罪戾者、一斷以律」ト云、右ハ制度通ニ委ク見タリ、本朝ノ律令ハ、舉唐朝ニ循ヘリ、天智天皇ノ世ニ、近江律令有リ、文武天皇ノ世ニ藤原淡海公奉勅律令二十卷ヲ作レドモ、今大半亡ビ、僅令義解ニ載ス、嵯峨天皇ノ世ニ、大納言冬嗣卿所勅、弘仁格十卷・式二十卷ヲ著セドモ、共ニ亡ビ、序文ノミ遺レリ、清和天皇ノ時、貞觀格十卷・式十二卷ヲ作レドモ、共ニ今ハ亡ビタリ、醍醐天皇ノ時、藤原忠平公延喜格十二卷・式五十卷ヲ撰ム、格ハ亡ビ、式ハ今世ニ行ハル、保元以降、戰國ト爲ツテ、治教ヲ撒テ、武道ヲ第一ニシ、公家ノ禮制ヲ用ヒズ、賴朝卿惣追捕使ニ命ゼラレ、天下ヲ統御スレドモ、久シカラズ滅ビ、北條代ニ成敗式日貞永年中ヲ作テ、法則ト致セドモ、世絶エテ竟ニ行レズ、足利代モ戰國絶エズ、其中伊勢・小笠原等、武家ノ禮式ヲ撰ム、神社登極有テ、百ヶ條ノ遺訓アリ、其後諸家ノ法度、十七ヶ條ヲ出シ、海内ニ示シ玉フヲ、條目ト稱ス、古ヘ公家ノ法律ヲ以テ、今諸國ニ併セ觀ルニ、仁恕ノ制律幾ンド薄シトミ

ユ、令義解ヲ見テ併セ勘フベシ、古ハ双子ヲ産ニハ、乳母ニ帛繩金銀ヲ賜フ、今諸國ニ於テ、其例無  
ニモ有ラザレドモ、厯々タル事ノミ、今昇平久キユヘ、古ノ律令ヲ觀テ、王代太和ノ治教ニ沿フ事宜  
シ

法令ハ、易ノ風水渙ニ象ル、「渙汗其大號、言發號施令、若汗於體、一往而不反也」出三又一出

令、如出汗、汗出而不反也、出而反之、是反汗也、出三今俗ニ、リンゲン如汗ト云ハ是也、又

「慎乃出令、令出惟行、弗惟反」ト云、出三又「一令逆、百令失」ト云、出三如是至極重キ事ユ

ヘ、能ク民ノ事情ヲ知テ令スベシ、蓋後世ハ政ニ與ル者、上臈ニシテ、席上ノ理ニ倚リ、過ツテ令ヲ

下ス事無キニモ有ラザレドモ、多クハ執拗シテ、法令ハ信ナル者ト之ヲ改ル事ヲ得ズ、永ク民ノ憂ト

爲ル事モ有ル者ナリ、君子ノ過チハ蝕ノ如シ、斯ル時ハ一時ノ不信ユヘ、速カニ改ルヲ君子トスルナ

リ

台德廟ノ世ニ、城地經營ノ事、諸家ニ令命アリ、是時井伊侯、之ヲ聞テ、頻リニ諫メ奉ル、由是重ネ

テ諸家ニ一旦ノ令トイヘドモ、掃部ガ諫ニ由テ止ルト觸レ玉フ、夫明君ハ美號ヲ人ニ讓リ、以テ諫ヲ

衆ニ求ル事如是、法令ハ信ヲ主トス、信、國之大寶也、故ニ兵ヲ去テ食ヲ去テモ、民ニ信無レバ立ズ

ト云、「周武帝六幸ニ大學校、北面訪道、于謹對曰、爲國本存ニ于忠信、古人去食去兵、信不可失」

ト云、天ハ至信ナルユヘ、不言ナレドモ、人皆信服ス、信ハ古字ニ、人ノ口ト書ク、一タビ口ヲ聞ケ

バ、仰ヲ以テ僞ザルヲ誠ム、古ハ禁暴氏ト云官有テ、「民作言語、而不信誅之」トアルニ、今時ハ虛ヲ言フハ常ト成ル、特ニ商賈ハ虛ヲ言フハ、商道ト思フハ大ナル誤リナレドモ、上タル人ヨリ道理ヲ教ヘザル故ナリ、備前芳烈公ノ言ニ、惡事ハ上カラトアルハ尤ナリ、祖宗ノ舊制ヲ崩スハ、大形上カラトミユ、秦ノ商鞅民ニ法令ノ信ヲ示メサント、一柱ヲ北門ニ遷サセテ五十金ヲ與フルハ、則チ民主ノ軌範タリ、諸國皆舊典アリ、舊令尹ノ政依然トシテ承ケ繼グヲ、忠信トイヘドモ、時ニ由ツテ新法ノ政事ヲ出スユヘ、民心惑フテ肯テ法ヲ守ラズ、上ヨリ下ヲ給ケバ、下又上ニ詐リ、上下和順セズ、竟ニ國政弊ルナリ、民古法ニ因循シテ、信義ニ化スレバ、不虞ニ臨ンデ必勝ノ利ヲ得、治平ニハ賭酒・荒嬉・穢惡ノモノ無ク、租調ハ衷メズシテ自ラ輸メ、貸借ノ訴訟モ無ク、姦猾竊盜盡キテ、官局靜閑ト爲ルユヘ、官吏衆ク用ユルニ及バズ、是國計ノ大利ナラズヤ、是故ニ上タル人ヨリ、先ヅ信義ヲ以テ教導スベシ

觸狀ヲ廻スニハ、大庄屋ニ配下ノ諸村、其員數ニ合セテ狀籠ヲ作り、籠ノ面ニ其村名ヲ記シ置キ、觸達ノ時ハ、一村毎ニ小庄屋ニ配リ、大小ノ事ニ由テ、伍長又ハ村中悉ク召テ、右ノ法令ヲ讀テ諭シ、之ヲ摹シ置テ、又是籠ヲ大庄屋ニ返スベシ、斯ク敬愼ナラズンバ、衆人恭敬ノ心無シ、恭敬ナラザレバ其令行レズ

庶民ハ無祿ノ身ニヘ、寸陰ヲ愛ム者ナリ、「使民以時」ト云ハ、徭役ニ限ラズ、法令ニ依有ル事ナリ、

火急ノ令ニ非ズンバ、其ノ時日ヲ考フベシ、市町ハ極月ハ多忙ニテ、サハサハ汲汲スル半ニ令スル共、心氣顛倒シテ會得セズ、故ニ古ヘハ孟春ニ治教ヲ示ス、農民ハ四月中旬ヨリ五六月マデハ寸暇ヲ得ズ、其ノ後ハ九月季ヨリ十月十一月マデナリ、極月正月二月中比迄ハ閑日、三月モ少シハ隙アリ、二八月兩彼岸中ハ男女共ニ遊日トス、商人ハ兩彼岸ハ多用ナリ、十二月五月五節句前ハ多用ナリ、大鈞日儲ハ、二月三月四月ハ多用、又八九月モ多用ナリ、鄉村ノ鍛冶ハ、六七月ハ閑日トミユ、是ヲ辨ヘズンバ、以レ時仁恕ニ至ラズ、令ヲ下シテ愁ウレミヲ求ル媒妁ナリ、或邦ノ觸狀ヲ觀ルニ、其文中ニ能ク利害ヲ説キ、下ヲ慢ラズ、丁寧恭謙ノ文面ユヘ、人皆感服シ、上トシテサヘ如レ是ト有リ難ク思ヒ、自然ト恭敬ノ心ヲ生ズ、是否ヲ費サズ、民ニ恭敬ヲ行ハシムル者ナリ、又一邦ノ觸狀ヲ觀シニ、抑柄ナル文面ナリ、尤ナル事トイヘドモ人皆心ニ懾トセズ、宋ノ富弼ガ、契丹ケイタンニ使シテ、獻納ノ二字ヲ論ズレドモ、民叛キ兵盡キテハ、文字ノ尊卑モ無クナリ、是全ク量ノ狭キ故ナリ、治亂共ニ民心ヲ得ルヲ喜トスベシ、屯角觸狀等ハ丁寧ニシテ、紙モ至極ノ上品ヲ用ユベシ、紙佔アタノ昂下ハ一年ニ積リテ聊ノ事ユヘ、小利ニ泥トムベカラズ、終ニハ却テ大利アリ、特ニ免狀・監札等ハ、上製ノ紙ニ改シ、下ニ恭敬ヲ示スベシ、言語ノ令ハ恃ミニナラズ、德義ヲ以テ服セシムベシ

○ 客云、民ヲ善道ニ導クニハ、何レヨリ始ムルヤ

答云 孝道ニ如ハ無シ、孝ハ萬善之長、百行之本也、是故ニ先王ノ國ヲ治メ玉フハ、必ズ孝ヲ先ニ

ス、孝悌ノ道ハ天地ニ充塞シ、神明モ感應ス、聖人ノ德モ孝ニハ加ユルコトナシ、孝道行ハルレバ、天下和平、災害不<sub>レ</sub>生、禍亂不<sub>レ</sub>作、人ノ君トシテ孝子ヲ貴バズンバ、天誅其ノ身ニ降ラン、舜ハ匹夫ト雖モ、堯帝天子ノ位ヲ遜リ玉フ、夫レ聖人ノ尊<sub>レ</sub>孝、是ヲ以テ察スベシ、本朝元正天皇ノ世ニ、四十代女帝美濃多藝郡多度山ニ、小左治ト云貧夫有リ、薪ヲ採テ親ヲ孝養セシガ、父日ニ酒ヲ嗜、故ニ醴泉出レバ、一瓢ニ入レテ日ニ捧グ、頓テ是ノ事寂聞ニ達シ、御感有テ美濃ノ太守ト爲シ、躬ラ臨幸シテ、養老ノ瀑水ト名ケ、旁ク天下ニ語テ養老ト改元シ玉フ、古ノ聖賢ノ君ハ、稱孝ノ重キコト如レ此、古書「王者敬<sub>レ</sub>養耆老、則甘露降於松柏」、尊<sub>レ</sub>崇賢者、則降<sub>レ</sub>於竹葉」ト云コトヲ、今時ノ者ハ、醴泉甘露ハ妄説ト思ヘドモ、余慥ニ視シコトアリ、寛政年中、我藩秦國廟ノ代ニ、甘露時々降ルコト凡ソ五六年、樵夫ドモ木葉ヲ齧<sub>セ</sub>シ孩兒ニ與フ、余是時三四歳、此ヲ嘗ルニ甘キコト室ノ如シ、郷人甘露ヲ嘗レバ壽ヲ得ルト、老弱皆之ヲ採シコト、今既ニ四十五六年ニ及ベバ、老タル者ハ知ル所ナリ、仁德下ニ充ツレバ、醴泉甘露ノ祥瑞見ハレ、苛政ヲ布バ山川崩レ靈風起ルハ古史ニ晰然タリ、近世天和年中、駿州富士郡今泉村ニ、五郎右衛門ト云富有ノ孝子アリ、常憲廟ヨリ田地九十石永代免除ノ御白筆朱印ヲ賜フ、郡國ノ領主是ヲ監ミヨ、感狀等ハ卑民トイヘドモ、賢德ノ者ニハ自書シ玉フベシ、近年我藩藤津郡猶崎村ニ孝女有リ、官コリ黄金ヲ賜リ、秦國廟躬シ文章一篇ヲ作リテ孝德ヲ表シ、以テ家臣ヲ誠メ玉フ、水府義公孝子ヲ賞スルトキハ、躬ラ其家ニ臨ミ或ル時ハ金子ヲ兩手ニ掬<sub>キ</sub>シテ、孝子ノ額ニ載テ、天ヨ

リ孝德ヲ賞シ、我ヲシテ與ヘ玉フ、我ガ與ユルニ非ズト謙退シ、其後村長ヲ召レ、彼ハ魯鈍ノ者ユヘ、人ヨリ賄<sup>ズ</sup>サレ、又盜難ノ憂アリ、汝右ノ金子ヲ以テ田地ヲ買<sup>フ</sup>メクレヨト示シ玉フ、一代ニ孝子ヲ賞スル事甚ダ多シ、然レドモ一人モ殿中ニ召シ玉ハズ、舉其ノ家ニ臨ミ玉フハ、天爵ノ重キ事ヲ知リ玉フ故ナリ、今時ハ人臣タル郡代ノ身ニ於テモ爲ザル所ナリ、備前芳烈公モ、孝子良民ニ免地或ハ俸祿ヲ賜ハリ、自筆ノ感狀其ノ子孫今ニ於テ所持スル者間々有リ、其人數都テ三百餘人、之ヲ集メテ孝子傳ト命ケテ上本シ、今世ニ行ハル、肥後銀臺公モ、孝子良民ヲ賞シ、其德義ヲ儒臣中村忠亨ニ命ジテ記シ、肥後孝子傳ト名ケ上本シ、今世ニ流布ス、上杉鷹山公モ、十九年ノ間ニ、孝子良民ヲ賞スルコト、凡ソ八十五人、筑前ハ國初ヨリ稱孝ヲ主トシテ、賜田一町一段一畝十五歩ヲ定例トシテ、間賜ルヨシ、元祿ノ比、宗像郡竹丸村ニ正助ト云孝子アリ、永代免地ヲ作り、今ニ於テ四世、上ヨリ祠堂ヲ建テ木像ヲ安置ス、余モ往イテ拜セシ事アリ、豊前中津往還ノ傍ニ、上ヨリ孝婦ノ碑ヲ立テ、其ノ德行ヲ表セシハ、古ノ例ニテ至極ノ善政ナリ、孝子・順孫・良民・義婦並ビ興ルハ、盛政ノ勲事、訴訟罪罰繁多ナルハ、國家ノ耻辱ナリ、故ニ坐シテ自國ノ衰盛ヲ知ラント欲セバ、賞罰ノ多少ヲ以テ昭カニ分ツベシ、畢竟下ニ賢德起ラザルハ、無賞故ナリ、田宅僅カ數十町免租スルトモ、左迄目立テ國計匱乏ニモ及バザレドモ、時ノ官吏思ヒ切リノ無キ故ナリ、庫廩ノ虛實ハ全ク上ノ奢侈ニ在リ、斯カル事ニ田祿ヲ減ズルハ天心ニ協フユヘ、亦一方ニ水害旱災無クシテ田畠ヲ損ゼズ、數年ノ國計所務ヲアハセテ勘定ス

レバ、却ツテ利ヲ得レドモ、後世ハ遠大聖智ノモノ無キユヘ、マンアデリ觀前上ニ功有ルモノノミヲ賞シ、民間ニ潛ム賢德・孝子・義婦等ノモノハ、日ニ視テ國功無キ身ユヘ時々ヤサ擦リモセズ、重賞モナケレドモ、深ク慮ヘバ彼等ホド國家ニ大功ナルモノハ無シ、斯カルモノヲ天ヨリ時々降シ、衆人ニ示シタマハズンバ、漸々陵夷シ、人道廢レテ終ニハ禽獸ニ陷リ、弑父弑君、酷速ヲ愧トセズ、亂臣賊子並ビ起ラシ、是ノユエニ一善トイヘドモコレヲ遺サズ、以テ衆ヲ勵マサバ、第一領主ノ美曉天下ニ響キ、武備頗ル強シ、書、「式・商容閭」ト云ツテ、聖帝明主ハ皆賢者ノ在ル處ニハ車馬ヲ下レリ、政ニ與リ、若シ斯ル者ヲ賞セズンバ、我ガ君ヲ愚ト爲シ、衰國ヲ樂フト云フモノナリ、齊ノ桓公魯國ヲ攻メ、兵士疆ニ入ルトキ、一婦我子ヲ棄テ、姉ノ子ヲ抱イテ逃ゲ、齊ノ大將高溪、コレヲ見テ子細ヲ問ヘバ、子ハ私ノ恩ナリ、姪ハ公ノ義ナリ、是邦ハ禮儀ノ邦ユヘ、義ヲ忘レテハ國君容レタマハズ、大夫モ憫マズ、何ノ面目有ツテ世ニ居ランヤト云、高溪大ニ感嘆シ、魯國ハ政事正ク、令命下ニ行ハルト、直ニ兵ヲ退ク、天地ノ士ハ私シ一人ノ士ニアラズ、天ニ代テ賞罰ヲ正ス身ユヘ、坐シテ貢賦ヲ受ク、仁徳天皇ノ詔ニ、天ノ君ヲ立ツルハ百姓ノ爲ナリトイフ、然レドモ後世ノ君タル人ハ、千百世我土ト思ヒ、天爵ノ者ニハ一畝ヲタシ怙ミ、無益ノ信徒ニハ、讓災ノ爲メトテ莫大ノ田祿ヲアタ賜ヘ、目前我ガ領内ニ生レタル、佛神ト同德アルモノニ與ヘザルハ、如何ナルユエゾ、天爵ヲ賞スレバ、天心ニ應ズルユヘ、佛神ニ祈ラズトイヘドモ、自ラ擁護シテ、武運長久ハ必定ナリ、又田祿家臣ノ外ハ無用ナリト、兵備ノ

爲ト致スレドモ、縱銳卒百千有リトイヘドモ、合戰ハ第一天運ヲ得ズンバ、必勝ノ利有ラズ、其ノ天運ヲ得ルハ、即チ天爵ノ人ヲ尊ブニ在リ、是ノ道理ヲ慮ヒ、身躬ヲ服食宮室ヲ儉約シテ、天爵ノモノヲ賞シ、天運ヲ祈ルベシ、若シ後世轉封ニ逢フカ、又ハ戰國ト爲ツテ、敗亡ニ及ブトモ、彼等ガ賜田ハ、千百年不轉ニシテ、君ノ仁德遺ルベシ、寺勸ノ賜田ハ不易トハ見ザルコト、歴史ヲ讀ンデ知ルベシ、豐臣太閤ハ、畿内ノ僧侶ニモ、恩澤ヲ施シ置キタマフコト鮮シトセズ、然レドモ已ニ落城ニ至テハ、豐家ノ勝利ヲ祈リシモノ一僧モ無シ、河州ニ太郎作ト云フ義夫ニ田宅ヲ賜ヒ置キシニ、大坂合戰始レバ、舊恩ヲ知テ糧兵ヲ獻ジ、家族ヲ帥キ死ヲ以テ報ズ、是ノ故ニ桃李藏刺ノ古事ヲ思ヒ、唯ダ世祿ノミ股肱ト思フベカラズ、官ヲ授ルモ才智ヨリ先ヅ親ニ仕ユルヲ試ムベシ、「欲求忠臣則於孝子之門」ト云

令義解曰、

文武天皇勅制

「凡孝子・順孫・義夫・節婦、志行聞於國郡者、申太政官表聞、表其門閭、於其門閭

築立之礼、云ニ孝子門若輩一

ニ同籍悉免課役、有精誠通感者、別加優賞」ト云、古ハ和漢共ニ、孝子・順孫・德行・

力田ノ者ニハ、何年限或ハ終身公役ヲ免スコトアリ、此レヲ蠲復ト云フ、蓋シ今時ニ於テハ宜シカラ

ズ、又年限ヲ以ツテ免租スルモ善シトイヘドモ、孝子ト云フモノハ多クハマヅシク田畠無キモノナリ、

故ニ孝子・孝婦トモニ田宅ヲ賜ハリ、右ニ限ラズ上ヨリ免地ノ田宅ハ、賣斥ハテヒニ及ビ、右引當等ニ他

ヨリ貸スコトヲ禁制シ、マタ大抵ノ孝養オヨビ力田・德行ノモノニハ、年限ヲ以ツテ毎歲資糧ヲ賜ハ

ルコトヨロシ

風俗ヲ改ムト欲セバ、先ヅ民間ノ大體ヲ知ルニ在リ、譬ヘバ千戸ニ於テ、大賢才ナル者、大姦惡ナル者、大呆子ト云者ハ、滅多ニ無キ者ナリ、大賢ナル者ハ、「聖明在<sup>レ</sup>上、野無<sup>レ</sup>遺賢」ト云ツテ、明君出レバ下ニ居ザルナリ、大惡性ノモノハ、縱ヒ醜陋シテモ、慈悲ヲ垂レテモ、所詮殺サズンバ善心ヲ起スベカラズ、大呆子ハ、人ノ爲ニモナラズ、又害ニモナラズ、唯空ク食ヲ費ス迄ナリ、其餘ハ大抵良民ナル者數十人、惡心ナル者數百人、最モ上ノ政事ニ由ツテ多少ハ有レドモ、其餘ハ一般ニテ、水上ノ胡盧子ノ如ク、良民善ヲ誘レバ善ニ移リ、惡人惡ヲ勸ムレバ惡ニ傾キ、何レニモ因ルモノナリ、蓋シ多クハ惡キ方ニ寄タガルベシ、是天下一般ノ情トミユ、古ハ一郷ニ三老・嗇夫・游徼ト云官ヲ建テ、嗇夫ハ訴訟年貢ヲ職リ、游徼ハ賊盜ヲ職リ、三老ハ教導ヲ職レドモ、今時ハ三老ノ官闕ルユヘ、風俗改マルト云フ事會テ無シ、良民ハ家業一遍ニテ世ニ接ハラズ、惡キ者ハ非常ノ事起ラザレバ、利ヲ得ル便リ無キユヘ、平生事ヲ望ンデ居レリ、酒ヲ嗜ム者四五人有レバ、今日ハ願成就日、來月ハ佛事講、或ハ神祀寺觀ノ奉加角力・狂言様々ノ術ヲ企テ、失墜<sup>ツイ</sup>ヲ村中ニ懸ケ、或ハ酒會ヲ設ケテ、酒債ヲ鬪分シテ一村ニ充ルユヘ、下戸トイヘドモ小民ノ習ヒテ、酒ハ飲マザレドモ釀<sup>ワラ</sup>合<sup>ヘ</sup>ヲ出スユヘ、飲マザルハ我身ノ損ト、終ニ一村舉テ酒徒ト成ル、市中ニ於テモ、豪家一人大酒遊藝ヲ嗜メバ、手代別家出入ノ者ニ至ルマデ、嫗媚ニシテ此レニ見倣ヒ、其ノ風ニ移ルハ俗情ナリ、譬ヘバ珍花嘉草ハ時々培養シテ、油斷

無ク手ヲ入レザレバ、必ズ枯槁シ易シ、稂莠惡艸ハ棄置テモ自ラ蔓延テ、終ニハ禾稼ヲ傷フ、善者良民ハ興リ難キ者ユヘ、時々懈ラズ心ヲ付テ是レヲ賞シ、罰ヲ後ニシ賞ヲ先キニスレバ、善者ハ競ヒ興リ、惰夫ハ黨盡キテ、風俗大ニ盛ンナリ、「農夫拂草、嘉穀生、忠臣除姦、王道清」ト云也「明君政、先レ德後レ刑」ト云事アリ、只惡キ者ヲ捕ヘテ誡ムレバ、遂ニハ治マルト思フハ小見ナリ、獵スル山ニ猪絶エズト、罪人ノミ目ヲ附ケレバ益々繁ク、罪刑多キニ氣ヲ附ケズ其ノ職分ニ在ルハ、循吏トハ稱シ難シ、明ノ太祖ノ詔ニ、「有小善亦不棄、人孰無過、論小過而廢大善、則爲善者怠、亦孰無才」ト云、風俗ヲ移サントセバ、先ヅ小善ヨリ賞セヨ、小善ヨリ誘レバ大善興リ、惡人慙テ罪罰自然ト盡テ、國家無爲ト成ルベシ、齊ノ桓公ハ躬ラ郷長ヲ召シテ、汝ガ郷ニ學ヲ好ム者、或ハ父母ニ孝養シ、或ハ聰慧賢仁ノ者在ラバ之レヲ告ゲヨ、若シ告ゲズンバ汝是レ明ヲ蔽フ罪アット、郷長ニ悉ク令シ、其次ニ汝ガ郷ニ、父母ニ孝養セズ、悌順ヲ竭サズ、驕躁淫暴ニシテ、上ノ令ヲ用ヒザル者在ラバ告ヨ、告ズンバ汝是惡ニ與スル罪有リト、賞ヲ先ニシ罰ヲ次ニ令ス、後世ハ法度ノ令ノミニテ、褒賞ノ條目曾テ無キトミユ、「十室之邑有忠信、十步之澤有香草」ト云ヘバ、心ヲ附テ之ヲサグラバ、亦無キニシモ非ザレドモ、玆ニ心ヲ竭ザルユヘ觀エザルナリ、僅是レ無キニ於テハ至極ノ惡弊ト思フベシ、間ニハ其宰尹モ令スル事有レドモ、里正伍長モ善ヲ嫉ム傲ニテ、小瑕ニ託ツケ揚モセズ、又諸國舉目附有テ善惡俱ニ點檢スル職ナレドモ、唯非ノミニ目ヲ附ルユヘ、曾テ善行ニ心ヲ附ケズ、故ニ探

善察事卒ヲ立ルモ可ナリ、又郡郷ノ長ドモ出朝列席ノ時ハ、年ノ老弱ニ拘ラズ、賞民多キ郷長ヲ上座  
カクシメツク  
トシ、罰人多キ郷長ヲ下座ニシテ、賞罰ノ多少ニ因ツテ席ヲ定メ、賞多キ長ニ褒美ヲ賜ラバ、進善ニ  
相ヒ勵ゲミ、風俗一變シテ遂ニ罪罰無キ様ニ成ルベシ、縦ヒ一郷一村ニ一二ノ善者有リトイヘドモ、  
士俗ニ化セラレ、有レ始靡終身ヲ浼サズト云フ事無シ、故ニ今時一善ヲ守ル者ハ、古ノ賢君子ニ並ブベ  
シ、論語、「今之孝者、是謂ニ能養、至ニ於犬馬、皆能有レ養、不敬何以別乎」ト云ハ、人ヲ識ル聖賢ノ語  
ナレドモ、今世ハ能ク養ヲ以ツテ先ヅ孝トスベシ、今時ハ子ハ美服ヲ衣テ親ハ僇服、子ハ上煙艸、親  
ニハ下品ヲ與ヘ、既ニ妻ヲ娶レバ共ニ親ヲ惡ミ、或ヒハ父子兄弟利ヲ爭テ不和ト爲リ、女ハ嫁スレ  
バ姑ニ不順シ、寡婦ニ貞操ノ者幾希レナリ、斯ク穢濁ノ世ニ拔ンヅル者ヲ、天ニ代レル君トシテ、  
豈默シテ居ルベキヤ、故ニ先ヅ一小善コリ是レヲ賞シ、自ラ大善ニ移スベシ、其法術ハ三年ニ一回、  
孟春ニ褒美ノ簡條ヲ書シ、若シ條目ニ洩レタル所ハ、小些トイヘドモ早ク奏スベキコト村長ニ令スベ  
シ、諺ニ云フ善キ事ハ眞似テモ爲ヨト、眞似ル者ヨリ賞スレバ、遂ニハ眞ノ善者ト成ルベシ、我藩祖  
ノ代、別館ノ傍ニ西峰院ト云フ小庵アリ、庵主毎日曉天ニ鉦ヲ扣キ誦經ヲナス、藩祖之ヲ聞キテ、人  
ハ斯クコソ職ヲ勉ムベシ、賞スベシト、人ヲシテ視セ玉ヘバ、彼僧未ダ起キズ、撥ヲ足ニ振リテ鉦  
ヲ扣キ、臥シテ經ヲ讀ム、使者歸テ罰シ玉ヘト其ノ容態ヲ訟ノレバ、公莞爾トシテ、苦シカラズ、善  
事ハ眞似テモ爲ロト云コト有リト、竟ニ祿ヲ賜フ、天下國家ヲ治ル者ハ、其度量寛宏ナル事如是ナ

ラズンバ、民ヲ服セシムルコト能ハズ、國政ニ與ル者はヲ鑒ミ、必ズ小事ニ泥ムベカラズ、人各暇無キ者有フズ、小暇ヲ以ツテ大善ヲ棄ツベカラズ、蓋シ善惡ノ輕重ヲ研覈剖分スル事ハ、衆庸ノ及ブ所ニ非ラズ、譬ヘバ博奕<sup>局</sup>飲酒シテ親ヲ養フモノハ、モトヨリ不孝トイヘドモ、輕重ヲ糺セバ孝ハ重シ、故ニ疎業ノ者トイヘドモ、孝心ナル者ヲ賞スレバ、行狀自ラ改ルベシ、大抵其條目ハ、父母ヲヨク養フ者、親ノ言ニ違ザル者、虛ヲ言ザル者、女ハ舅姑ニヨク仕フル者、寡婦ノ貞操ナル者、後妻ノ前妻ノ子ヲ愛スルモノ、子ヲヨク育ルモノ、多ク子ヲ産ミ墮胎セザルモノ、夜ハ勿論妄リニ寺堂群集ノ中ニ往ザル者、物見狂言ニ往カザル者、女飲酒セザル者、家内和睦ノ者、男女トモニ主君父母ノ喪ヲヨク勤ル者、志ヲ立ル者、兄ニヨク事ヘル者、弟ヲヨク慈ム者、親酒ヲ嗜メドモ其ノ子嗜ザル者、奕賭ヲ止ル者、奴婢ノコク仕ユル者、舊恩ヲ忘レザル者、家職精勤ノ者、力田スル者、正直ナル者、堪忍強キ者、大酒ノ村ニ下戸ノ者、道路<sup>イシトヒ</sup>征橋自カラ以テ修理スル者、物ヲ拾フテ取ラザル者、聞墾スル者、朝興スル者、村中酒會ニ加ハラザル者、慈悲心深キ者、角力狂言遊藝不嗜者、其郷ニ稱セラル者、文學ヲ好ム者、竊民ヲ拯フ者、借財銳ニ返ス者、利安ニ金ヲ貸ス者、早ク租ヲ納ル者、時ヲ遑サズ公役ニ出ヅル者、其外凡ソ一切ノ好事、其郡ノ風壤ヲ得ト見聞シ、輕重ヲ校量シ、賞ノ多少ヲ頒ツベシ、諸國舉早ク租ヲ輸ス者、篤實ノ者等ヲ官署ニ召シ、酒盃ヲ賜フヲ定例トス、是給用大抵一人ニ三百錢ニ充ルナラン、蓋シ錢ト人形ハ使ヒ様トイヘドモ、貴キ者ハ卑キ情ヲ知ラズ、富メル者ハ貧キ



シ、善ヲ視テ内ニ自ラ省ミ勵デム輩ハ、今世ニハ天下ニ稀ナリ、筑前上座郡ニ貧民有テ、夫婦能ク老母ニ仕フ、先子年大饑ニテ母妻共ニ養育ナラズ、妻ニ諭シテ離別致シ母ヲ養フ、其後官ニ聞エ、米三十俵ヲ賜リ、村中ニハ舉テ酒役ヲ賜ル、時ノ宰尹能ク下情ニ通ゼシ良制ナリ、其郷ニ善者起ルハ其郷ノ盛事、庄屋宰尹ノ功名、是又其賞無テ叶ハズトミユ

禮曰、「食ニ老五更、更更也

大學天子袒而割牲、執醬而饋、執爵醕

醕、果、而以酒虛レ口也

郷里有齒、而老窮不遺、

強不犯弱、衆不暴寡」ト云、養老ノ禮ニ四アリ、三老五更トハ、天ノ三台五星ニ象ル、天子親祖イ

デ割烹シテ饗シ玉フ、次ニ其子孫國家ノ事ニ付テ死スレバ其父祖ヲ養ヒ、次ニ致仕セシ老人、次ニ庶

民ノ老夫ヲ養フ事、一年ニ七回、春夏ハ飲酒ヲ用ヒ、秋冬ハ食醕ヲ用ユ、五十歳ノ者ハ郷學ニ於テ饗シ、六十ノ者ハ國中ノ小學校ニ於テシ、七十ノ者ハ、天子ノ大學校ニ於テ饗シ玉フ、九使一人受ト云

ハ、君ノ賤有タマモシレバ人ヲ以テ受ケ、享食ヲ賜ルトキハ我家ニ在テ受ク、八十ノ者ハ、公門ニ入テ朝廷ニ

杖ク、九十ニ至レバ、天子勅問有レドモ召シ玉ハズ、勅使其家ニ臨ミ珍物ヲ賜ル、百歳ノ者ハ、天子巡狩ノ時ハ躬ラ其家ニ臨幸シ玉フ、古ハ人皆長壽ナレドモ、五十歳ヨリ賞ヲ受ク、夫明王ノ老ヲ尊ミ

玉フ事如是、下トシテ孰カ老ヲ尊バザランヤ、子曰、「欲民速服、莫善乎以道御之、」口ヲ以テハ信服セズ、行ヒヲ以テスレバ、令セズトイヘドモ心服スベシ、民尊老ノ心ヲ生ズレバ、忠臣孝悌ノ道

行ハレ、天下無事ニ治マルベキニ、後世ハ人臣タル宰尹ノ身ニ於テモ、斯ル事會テ無シ、故ニ小吏徒

行迄、老夫ヲ視事犬馬ニヒトシ、下又見働ヒ、壯者ハ耆老ヲ慢リ、姦智ハ魯鈍ヲ欺ク風俗ト成ル、唐ノ白樂天ハ六十以上ヲ饗シテ、尙齒會ト名ク、趙宋ノ間ニハ耆英會ト云、本朝ニハ大納言年名卿、是例ヲ以テ洛中ノ庶老ヲ招キ大ニ享セラル、米簡ノ權與ハ、天文年中油ノ小路大納言隆繼卿、八十八歲勅ヲ奉テ、米字ヲ書テ、諸家ニ與ヘ玉フ、備前芳烈公家臣ノ老人ヲ殿中ニ召レ、公族ヲシテ酌ヲ執ラセテ敬禮ヲ竭シ、金銀衣服ヲ賜リ、民間ノ老人ハ自ラ其郡ノ官署ニ往テ、鄉村ノ老夫ヲ悉ク召レテ饗應シ、一人毎ニ躬ラ盃ヲ酢ケ、又躬ラ酌ヲ執リ給仕ヲ致シ、宴訖ツテ金銀米穀ヲ賜リ、翌年ヨリ屢々召サバ、却テ彼等ガ難澁ナラント、其後ハ毎年米穀ヲ賜ル、肥後銀臺公モ七十以上ヲ饗シ、孟ニ壽字ヲ書テ、萬歲盃ト名ケテ引手物ニ致シ、貧民ニハ財貨ヲ添ヘ、老婆モ同席ヲ許シ玉フ、上杉鷹山公モ是例ニ從ヒ、家臣ハ殿中ニ召レ、庶民ニハ其郷ノ官署ニ自ラ往テ饗シ、翌年ヨリ金銀衣服ヲ贈リ與ヘ玉フ、或邦ニ領主歸國ノ時、家臣ハ城外道路ニ於イテ拜謁シ、庶民七十以上ノ者ハ、式臺コリ昇リ殿中ニ於テ拜禮ヲ遂グ、又或邦ニ毎歲正月、七十以上ハ殿中ニ於テ享宴ヲ賜リ、城中乘輿ノ免許アリ、是皆民ノ長タル身ユヘ、身ヲ以テ老ヲ尊ブ事ヲ衆民ニ示シ玉フ、國ヲ善ク治メント欲セバ、右ノ先蹤ヲ踐ベシ

男女異途ハ古ノ禮ナリ、男ハ道ノ右ヲ歩ミ、女ハ左ヲ往クベシ、牛馬モ中央ヲ通サズ、中央ハ官人ナリ、斯ル事今ノ世ニハ曾テ知ラザルユヘ、得ト論スベシ、大樹吉宗公ノ上意ニ、豊前小倉ハ男女異

途ト聞キ及ビシト大ニ稱美シ玉ヘリ、於今行ハル、ヤ未ダ審カニ承ラズ、「道路不拾遺」トハ聖賢ノ世ナリ、今時ハ物ヲ拾ヒ取ルハ天ノタマモノト思ヒ、少シモ耻トセズ、若シ隱シオカバ、竊盜ニ次グベヤコト嚴令スベシ

明太祖詔云、「禮法國之紀綱、禮法正則人之志定、上下安、建國物は爲先務」トハ、人君ノ鑒トスベシ、其法ノ本ハ冠婚葬祭ヲ大禮トス、我邦ノ民俗、漢土ニ暨ザルニト茲ニ一條アリ、今長崎唐館ニ在ル舶客ドモ、弱年ノ者迄朝夕兩度三拜ス、其信仰スル佛神ヲ聞クニ、佛神ニハ非ズ、朝ニハ天子ヲ拜シ、暮ニハ先祖ヲ拜ス、中華ハ一統童子ニ至ルマデ皆如是、是事私シノ釀災ニ非ズ、報恩ノ爲ニ拜禮スルナリ、又唐曆ヲ看ルニ、卷首ニ天子皇后初代ヨリ忌日ヲ記セシハ、天下ノ人ニ愼マセン爲ナリ、中華ハ郡縣ニテ主ト云者無ク、君ハ天子一人ノミ、我國ハ天子・大樹・領主アリ、其國ニ生レテハ、其國主ハ勿論右ノ三君ヲ拜スベキニ、之ヲナス者曾テ一人モ無ク、朝ニ一度佛神ヲ拜ムニハ、家内安寧、消災延命、又未來ハ極樂往生、二世安樂ト、唯己レガ私欲ヲ以テ祈ルハ、中華ノ民俗ト大ニ異ナリ、中華ハ今ニ於テ正月、又三月清明ノ日ニ墓ヲ祭リテ酒筵ヲ設ク、之ヲ踏青<sup>グライデン</sup>ト云、本朝モ上古ハ三月ニ墓祭ス、中葉ヨリ七月ニ祀レリ、又士庶人共ニ遠祖ヨリ位牌ヲ安置シテ、朝夕香花ヲ供ヘ、其中ニハ絕世古主ノ神主ヲ置ク者モアリ、是等ハ其忠義感慨スベシ、我國ハ神聖ノ國ニテ、胡狄ニ差ヒ仁義忠信ヲ守ルニハ、異國ヨリ君子國ト稱セラレシニ、源平時代ヨリ一向ト云宗旨始リ、卑俗ヲマドハシ、國

風一變シテ、彌陀一佛ニ染着シテ位牌無レバ、先祖ハ勿論省父母ノ改名モ知ラズ、忌日年回祭祀モ致サズ、墓祭モ爲ザルハ宗旨ノ教ニ由ル事トイヘドモ、本朝開闢ヨリ凡ソ二千年、忠孝ノ道絶エザルニ、六百年來人倫ノ大道ヲ棄テ、胡俗ニ陷ルハ甚以テ歎息スベキ事ナラズヤ、是宗旨漸々年ヲ歷テ滋蔓スルヲ以テ後世ヲ考レバ、遂ニハ天下統テ蠻貊ト成ラン、今蘭人長崎ニ死スレバ、如眞寺ノ境内ニ掘瘞<sup>ウツ</sup>メテ再ビ祭ラズ、位牌モ無ク禽獸ニ異ナラズ、胡狄ハ擧テ如是、若シ百世ニ仁德ヲ布ク憂世ノ賢君興ラバ、責テ其領内ナリトモ民俗ヲ復古シテ、禮儀ヲ守ラセ、胡俗ニ陷ザル様ニ、門徒ノ民家ニ四代以來ノ位牌ヲ作ラセ、他宗同様ニ朝夕香花ヲ供ヘ、七月ニハ祭祀ヲ致サスルベシ、蓋シ斯ク頗僻癡固スルユヘ、制令嚴酷ナラズンバ容易ニハ革マラズ、良吏受ケ繼ギ數代ニ至ラバ變ズベキカ、他宗ノ寺ハ皆斯ク致シテ相續スレバ、門徒寺トイヘドモ相續セザル事モ有ルマジ、民皆人倫ノ道ヲ守リ、王道盛ンナラバ、僧徒トモ平生云フ如ク、王法佛法共ニ盛ンナリ、今庶民祭祀孝道ヲ廢ルハ、王法破滅ト云者ナリ、是事ニ限ラズ、凡後世ノ害トナル技術ハ、皆戰國ノ餘弊ナリ、源平以來近來迄合戰輟ズ、民ノ長タル者モ日ニ戈ヲ秉テ、我一身ヲ全フスル事ヲ得ズ、何ヲ以テ衆ヲ治ムル政教ニ心ヲ練ルベケンヤ、故ニ是虛ニ乗ジテ、種々ニ惑、妖言勃興ス、今ハ久ク治ニ入り、武士モ至極ノ閑暇ナル身ナリ、無祿ノ庶民家職ニ艱難スルヲ思ハバ、縱ヒ其職掌ニ與ラザル身トイヘドモ、其事ニ因リ類ニ舐レテ、常ニ諸人ニ教諭致シ、其見ル所ノ舊弊ヲ革ムコト、天下國家ニ大功ト云者ナリ、武家ハ唯合戰ノ時ト

思テ、蹉跎トシテ虚シク光陰ヲ偷ムハ、何ヲ以テ太平ノ國恩ヲ報ズベキヤ、尙委キハ僧道ノ部ニ記  
ス、大村領ハ門徒ノ家、荒神并ニ神棚ヲ架ヘ、香酒榊ヲ供ヘズンバ上ノ戒ニ逢ヘリ、毎年山伏神主ヨ  
リ配札シテ廻檢スルハ、寔ニ良制ト云ベシ

禮曰、「夫婦禮者、將<sub>下</sub>合ニ二姓之好、上以事宗廟、而以繼<sub>レ</sub>後世<sub>上</sub>、故君子重<sub>レ</sub>之」、古ハ男ハ三十歳ニテ娶  
リ、女ハ二十歳ニシテ嫁ス、合セテ五十天命ヲ知ル歳トナル是禮ナリ、然ルニ今時ハ、女ハ十四五ヨ  
リ十七八ニ至リ、已ニ二十ニ及ベバ、縁遠ト云テ甚ダ相賤ンズ、男ハ十八九ヨリ二十三四ヲ限リトシ  
テ、已ニ二十七八ニ至レバ之ヲ愧トス、此皆禮ヲ知ラザル故ナリ、世間ノ事ハ一概ニ論ジ難ケレドモ、  
世ノ諺ニ弟房邦益ト云テ、段々季ノ子ホド才敏ナルハ、年老ニ及デ産ユヘナリ、十五十六迄ハ未ダ思  
慮勘辨モ付カズ、胎教養育ノ方モ知ラズ、何ヲ以テ良子ヲ生ムベキヤ、又舅姑ニ仕ヘモ疎トク、家内  
ノ治メ方モ知ルベカラズ、夫トテモ右ニ同ジ、又色欲ニ耽ルユヘ、諸藝モ出精出來ズ、勢州桑名ノ掟  
ハ、三十歳迄ハ婚ヲ許サズ、藝術專一ニ致スヨシ、房事ヲ過セバ、精氣脱シテ記憶スル事無シ、弱年  
ヨリ妻ヲ娶ルユヘ、多クハ長壽ノ者寡シ、或ハ嬌風行レテ、動スレバ淫奔シ、故有ル女ヲ奪ヒ、或ハ  
召シ使フ婢ヲ奪ヒ、又ハ乳母ニ通ズル事ドモ、其罪重シトイヘドモ、全ク上ノ不嚴ヨリ之ヲ愧トセヌ  
習俗トナレリ、家中ニ限ラズ、庶人ノ家ニテモ、召使フ奴婢等密通ハ、斬リ捨テ不苦ハ公儀ノ掟ナ  
リ、夫婦ハ人道ノ始メニテ、最モ大切ナル事ユヘ、禮儀ヲ以テ迎ユル事堅ト嚴令スベシ、始メ禮ヲ以テ

正フセバ良子生レテ、後々ハ自然ト國家モ安靜トナルベシ、婚儀ノ式、北國邊ハ至テ野鄙ニシテ、西國ト大ニ異ナリ、足利家ノ禮式ハ、今ニ於テ九州ニ在テ、民間皆之ヲ勤ムル事善トイヘドモ、「禮與奢、寧儉」ト云事ヲ知ラズ、今時ハ酒食ノ奢侈ニテ、身代之ガ爲ニ衰微スル者多シ、「奢儉之中、以禮爲界、田漢馬是語ヲ鑑ミ中節スベシ、邦ニ由テハ貴キ士大夫ノ婚座ニモ、半酣ニシテ亂舞ト云テ、痛飲嘔笑謳歌陶酺シテ正席ヲ亂ス事有リ、始メ期日ヲ撰ミ、今日ハ重日寅ノ日、或ハ十死往亡、五墓日ナドト日ヲ忌メドモ、亂舞ト云亂ノ字コソ大ニ忌ムベキニ、其譯更ニ通ジ難シ、亦民間ニハ宴終ルマデ禮服ヲ脱ズ、威儀正肅ニ勤ル事アリ、感心スベキコトナリ、古王家ノ制律ハ、舉テ唐朝ニ原ケドモ又遺洩モ有リ、人情モ亦古今ノ差別モ有リ、明朝ハ後世ニシテ、今ヲ去ル事遠カラズ、治平モ久クシテ、今ノ世ニ符合スルユヘ、法ヲ取ルニハ軌範トスル所多シ、故ニ明律數條ヲ茲ニ出スユヘ、今ノ世ノ衰變セシヲ併セ考ヘ、是條ヲ衆人ニ示シ、人道ノ重キ事ヲ諭スベシ

一 同姓爲<sub>レ</sub>婚者、各杖六十、離異

ヒキハナラズ

今ノ世ハ同姓ノ從弟、婚ヲ結ブヲ緣繫ト云テ、之ヲ爲スコト一般ナリ、若シ一間セバ、禽獸ノ如ク兄弟聚<sub>レ</sub>座ニ至ラン、或ハ他家ニ養子ニ遣ハセバ苗氏違ユヘ、同姓ニ非ズト思ヒ縁ヲ結ブ事アリ、夫禮ハ天理ノ節文ナリ、天理ニ逆フユヘ其子孫全カラズ、下ハ矇<sub>レ</sub>キ者ユヘ、是禮ヲ示サバ民ヲ善道ニ導キ、天道ニ協ハシムル濫觴ナリ

一 妻在、以妻爲妻者、杖一百、改正、若有妻、更娶妻者、杖九十、離別

是條世ニ間有リ、庶人ハ一夫一妻ナリ、富有ノ者ドモ驕憚ニ長ジ、別宅ヲ造テ妾ヲ置キ、或ハ賣女ヲ受出シテ妾トナシ、若シ其妻石女ナレバ、同姓ノ者ヲ養子トスベキニ、子孫ノ絶ユルハ不孝ナドト、言ヲ誣テ妾ヲ置キ、或ハ他ノ女ニ密通シテ、孝婦ヲ追ヒ出ス者寡カラズ、一夫吁嗟スレバ王道虧クト云、斯ル婦女竊夫天ニ號泣スレバ、天誅國家ニ降ルベシ、古史ハ見ズトモ、今百戸ノ村ニ於テモ、人ノ一生ハ五十年ノ始終ヲ考レバ、家ノ興廢明カニ分ルナリ、不義ノ婚ヲ致シ、其家傾カザル者曾テ有ラズ、故ニ上ヨリ禮ヲ守ラセナバ、大仁政ト云ベシ、縦ヒ租ヲ免シ財ヲ惠ミ、或ハ產物費本ヲ貸シ玉フトモ、是ヲ考ヘズンバ、破桶ニ水ヲ入ル、ガ如ク、唯勞レテ功無キノミ

一 兄亡收嫂、弟亡收弟婦<sup>シメコロス</sup>者、絞刑、若收父母妾、及伯叔母<sup>キリコロス</sup>者、各斬刑

是條如レ是死刑ノ重罪タルニ、今時ハ政教無キユヘ禮ノ様ニ思ヒ、少シモ慙トセズ、剩ヘ兄在テ弟姦通シ、弟アルニ兄トシテ通スル事モ有リト聞ク、是刑ハ重クスベシ、故ニ聖人ハ肉刑ノ制アリ、刑輕ケレバ必ズ下法ヲ犯スベシ、故ニ是制ヲ諭シ、若シ冒ス者ハ、是ヲ殺シテ衆ニ徇ヘナバ、一遍ニテ止ルナリ、又ハ一等ヲ減ジテ遠ク流罪モヨシ、刑輕キハ婦人ノ仁ト云ベシ

一 居父母及夫喪、而身自嫁娶者、杖一百、若男子居喪娶妻、妻女嫁人爲妻者、各減二等、若居祖父母・伯叔父母・姑・兄・姉喪、而嫁娶者、杖八十、妾不坐、若居父喪・舅・姑・及夫喪、而與應嫁娶

人主婚者、杖八十、其夫喪服滿、願守志、非女之祖父母・父母、而強嫁之者、杖八十、期親強嫁者、減二等、婦人不坐、追歸前夫之家、聽從守志娶者、亦不坐、追還財禮、

是條今世ニ甚ダ多シ、死ハ人ノ終リニテ、最モ愼ミ守ルベキコトナリ、昔ハ父母ノ喪中ニ、他人ノ婚儀ヲ世話スルサヘ、如斯八十杖ナルニ、今時ハ上ヨリ其論シ無キユエ、何ントモ思ハズ、父母死シテ未ダ二十日モ過ギザル中ニ、墮胎致サセ、子ヲ殺ス者モ有リ、又夫ノ喪ハ三年ナルニ、今時ノ寡婦ハ、僅一年ノ喪ヲ勤ル者モ稀ナルトミユ、北狄ノ邦ニ夫死スルニ其妻十日ヲ過セバ他ニ嫁スル處アリ、夷狄ハ禮無クシテ禽獸ニ類スル故ナリ、本朝後世如何ノ故ニ喪服定目ヲ約メシヤ、甚ダ以テ惡キ事ナリ、服忌ヲ減ズルヨリ禮法廢レテ、人倫ノ道益々薄ク成レリ、今時モ若シ忌ト云事ヲ棄テ、服ヲ正實ト致サバ、少シハ愼ムベキカ、唯忌ヲ知テ服ト云事ヲ知ル者一人モ無ク、無用ノ事ト思ヘリ

一 前夫子女、與後夫子女、苟合成婚者、以娶同母異父姊妹、律條科斷

是條人皆好トシテ世ニ甚ダ多シ、人生レナガラ知ル者ニ非ズ、能ク道理ヲ説テ教ユレバ、人木石ニ非ズ、自ラ慙ルナリ

一 娶同宗無服之親、及無服之妻者、各杖一百、若娶總麻親之妻、及舅甥妻者、各杖六十、徒一年、小功以上各以姦論、小麻三日、總功五日

是條今世ニ甚多シ、古モ天子ノ身トシテ婚禮ヲ亂ス事アリ、雄略天皇中カナン帶姫ハ、伯父大草皇子ノ室

ト爲ル、天武天皇ハ天智天皇ノ弟ニシテ婿ト爲リ、其姪廣野皇女ヲ葛城娶リ玉フ、大女皇子ハ天智

天皇ノ子ニシテ、叔父天武天皇ノ婿ト爲リ、聖武天皇ハ叔母光明ヲ后トス、桓武天皇ハ繼母ヲ后ト

ス、武家ト爲ツテハ戰國ノ世ニ於テモ幾希ナリ、且ツ人ハ嫡子ノ絶ルヨリ惡キハ無シ、今世間ヲ視

ルニ、民間ニハ養子ト云ハ十戸ニ一戸ト視ユレドモ、士人ノ家ハ過半有リ、天其子孫ヲ絶ツハ重キ

事ユヘ、別シテ官ニ入ル身ハ、夙夜其德義ヲ慎ムベキ事ナリ、士庶人皆女子有レバ、女モ血筋ト思ヒ、

異姓ノ者ヲ婿トスレドモ、女ハ決シテ血脉ニ非ズ、故ニ先祖ヲ念ヒ、子ノ愛着ニ溺レズ、我子ハ他

家ニ嫁シ同姓ヨリ養子スベシ、周ノ世ニ、鄒ノ國君女ヲ莒國ノ君ニ嫁セシニ、我家ニ男子無キユヘ、

莒國ヨリ我外孫ヲ迎ヘテ嗣トス、是事春秋ニ、「莒人滅鄒」ト書ス、異姓ノ子ヲ養子トスルハ夷狄ノ俗

ニテ、聖人ノ邦ニ無キ事ナレドモ、賴朝代ヨリ始リテ、今ニ於テハ天下一般ナリ、蓋シ武士ハ譜代

君祿ヲ以テ祖孫ヲ養ヘバ、同姓ニ敏才ノ者無キ時ハ、已ム事無ク、異姓トイヘドモ、賢才ノ子ヲ撰

ミ世ヲ繼シメテ、國家ノ用ニ立ル事、堯帝ノ子ニ禪ラズ、匹夫ノ舜ニ譲リ玉フニ類スルユヘ、最モ

善トイヘドモ、多クハ同姓ノ良子ヲ棄テ、富貴ニ目ヲ舐レ、匹偶ニ負キ財貨ヲ貪ル事アリ、今士庶

人ニ故實ヲ諭サバ、少シハ自ラ慙テ慎ムベキカ、非禮不義ヲ以テ嗣スル者、其家後榮ナル者希ナル

トミユ

一 逐<sup>ニ</sup>婿嫁女、或再招<sup>レ</sup>婿者、杖一百、其女不<sup>レ</sup>坐、男家知<sup>レ</sup>娶者同罪、不<sup>レ</sup>知者亦不<sup>レ</sup>坐

是條モ亦世ニ少カラズ、始メ婿ヲ迎ユルトキ、能ク其人ヲ查點致シ、若シ相損ズルトキハ、家ノ不遇ト思ヒ切ルベキニ、始メ得ト之ヲ匡サズ、少シ氣ニ合ハザレバ逐出シ、或ハ老シテ子ヲ儲レバ、愛ニ溺レテ始メ婿ヲ逐出ス事間有リ、又妻ヲ娶ルモ是ニ同ジ、始メ能ク查點ヲ遂ゲ、後年妄リニ離別無キ様ニ示スベシ

一 外姻有<sup>レ</sup>服、尊卑幼共爲<sup>ニ</sup>婚姻、及娶<sup>ニ</sup>同母異父姉妹、若妻<sup>ニ</sup>前夫之女<sup>一</sup>者、以<sup>レ</sup>姦論、其父母之舅姑、兩姨姉妹及姨、若堂姨母之姑、堂姑己之堂、姨及再從姨堂、外甥女、若女婿及子孫婦之姉妹、並不得爲<sup>ニ</sup>婚姻<sup>一</sup>、違者各杖一百、若娶<sup>ニ</sup>己之舅姑、兩姨姉妹<sup>一</sup>者、杖八十、並離異<sup>ハナス</sup>

是條モ人皆愧トセズ、世ニ少カラズ、曾我兄弟復讐ノ起リハ、狩野四郎家繼<sup>號ニ叔心一</sup>妻死スルユヘ、

八田八郎宗基ガ後室一女子有<sup>ル</sup>ヲ、共ニ迎ヘテ娶リシニ、程無ク死ス、是女子至テ美麗ナリ、<sup>水艸ト名</sup>家繼之ヲ慕フテ又妻トス、程ナク一男ヲ生ミ之ヲ嗣トセシト、陰惡ヲ工ミ前妻ノ嫡子祐家ヲ毒

殺シ、是ヨリ段々變事起ツテ、家系遂ニ斷絶セシハ、發端聖賢ノ禮法ニ乖クユヘナリ、是意ヲ考ヘ是等日ヲ旁ク布キ施シ、衆民ヲ禮義ノ道ニ引入レナバ、人皆後ノ災害ヲ免カル基ユヘ、大仁政ト云者也

一 男女定<sup>ニ</sup>婚之初、若有<sup>ニ</sup>殘疾老幼庶出房乞養<sup>一</sup>者、務要<sup>ニ</sup>兩家明白通知<sup>一</sup>、各從<sup>レ</sup>所願寫<sup>ニ</sup>立婚書<sup>一</sup>、依<sup>レ</sup>禮聘

嫁、若許<sup>レ</sup>嫁<sup>レ</sup>女、己報<sup>ニ</sup>婚書、及<sup>レ</sup>有<sup>ニ</sup>私約、謂<sup>ニ</sup>先<sup>ニ</sup>已知<sup>ニ</sup>夫身殘疾老幼庶養之類<sup>一</sup>而輒悔者、笞五十、雖<sup>レ</sup>無<sup>ニ</sup>婚書、但會<sup>ニ</sup>受<sup>ニ</sup>聘財者、亦同<sup>ニ</sup>是、若再許<sup>ニ</sup>他人、未<sup>レ</sup>成<sup>ニ</sup>婚者、杖七十、已成<sup>ニ</sup>婚者、杖八十、後定娶者知情與同罪、財禮入<sup>レ</sup>官、不<sup>レ</sup>知者不<sup>レ</sup>坐

是條ヲ觀ルニ、中華ハ婚姻ヲ爲ニハ、枝葉ノ族迄告ゲ、其上婚書ト云フ證文ヲ互ニ取り替へ、約束至テ嚴密ナルニ、我邦婚書ト云事會テ無ク、始メ事ヲ究ムルニ至テ危忽ナリ、今時妻ヲ撰ムニ、父母ハ我曹ハ偶フ者ニ非ザレバ、我子サヘ承諾スレバ可ト、先ヅ其子ニ諾否ヲ伺ヒ、子ノ隨意ニ致スユへ、後ニ至テ父母氣ニ應ゼズ、遂ニ中惡シク爲ツテ家内不睦トナレリ、男女私合曰<sup>ナレハヒ</sup>姘、又腐合ト云テ聖賢ノ尤戒ル所トイヘドモ、今世ハ是ノミユへ、其家繁昌スル事決シテ無シ、是故ニ上ヨリ是條ヲ諭シテ、婚儀ヲ正フシ妻ヲ娶ラバ、父母ノ心ニ應ジテ、夫タル者私シニ諾否有ラバ、其罪ニ處スベキ事ヲ示スベシ、右本文ノ如ク、古ハ老幼癡疾迄查點スルニ、今時ハ唯色ニ耽テ七八歲乃至十歲モ勝レル妻ヲ娶リ、剩ヘ天刑家モ撰マズ娶ルユへ、惡疾ノ家益々滋蔓ニ及ベリ、是國家第一ノ大害ナリ、玆ニ財禮ト有ルハ我邦ニ稀ナリ、蓋シ化粧田・土產銀ト云事、徂徠子ガ政談ニモ譏刺スレバ、關東ニモ有ル事トミユ、又養子ヲ致スニ土產銀ヲ取り、後ニハ追出シ金ヲ返サバル事有リ、右等ニテ貧家ノ子ハ、秀才トイヘドモ世ニ出ズ、富有ノ子ハ不肖ニシテ他姓ヲ冒ス風俗ト成ル、若シ是ヲ禁ゼバ、國家盛隆ノ基ナリ

一妻無<sup>レ</sup>應<sup>レ</sup>出、及義<sup>ニ</sup>絶<sup>ニ</sup>之、娶<sup>レ</sup>而<sup>レ</sup>出<sup>レ</sup>之者、杖八十、雖<sup>レ</sup>犯<sup>ニ</sup>七出<sup>一</sup>、七出者、謂<sup>テ</sup>不<sup>レ</sup>順<sup>ニ</sup>父母<sup>一</sup>去、無<sup>レ</sup>子<sup>一</sup>去、姦<sup>レ</sup>有<sup>ニ</sup>三不  
去<sup>一</sup>、而<sup>レ</sup>出<sup>レ</sup>之者、減<sup>ニ</sup>二等<sup>一</sup>、謂<sup>テ</sup>有<sup>レ</sup>所<sup>レ</sup>聚、無<sup>レ</sup>所<sup>レ</sup>歸也、與<sup>テ</sup>共<sup>ニ</sup>更<sup>ニ</sup>三追還<sup>ニ</sup>完娶<sup>一</sup>、若犯<sup>ニ</sup>義絶<sup>一</sup>、應<sup>レ</sup>離<sup>レ</sup>而<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>離者、亦  
杖八十、若夫妻不<sup>ニ</sup>相和諧<sup>一</sup>、而兩願<sup>レ</sup>離者、不<sup>レ</sup>坐、若妻背<sup>レ</sup>夫亡逃者、杖一百、從<sup>レ</sup>夫嫁賣、因而改嫁者、  
絞刑、其因<sup>ニ</sup>夫逃亡<sup>一</sup>、三年之内、不<sup>レ</sup>告<sup>ニ</sup>官司<sup>一</sup>、而逃去者、杖八十、ホシイマ、擅<sup>ニ</sup>改嫁<sup>一</sup>杖一百、妾各減<sup>ニ</sup>二等<sup>一</sup>、若婢  
背<sup>ニ</sup>家長<sup>一</sup>亡逃者、杖八十、因而改嫁者、杖一百、給還<sup>ニ</sup>家長<sup>一</sup>

是條上タル人ヨリ教令無キユヘ、舉テ違クトミユ、妻ハ能ク仕ユレドモ、夫他ニ心ヲ移シ、無理ニ  
逐出シテ嬌婦ヲ娶ルモアリ、或ハ夫疎業ユヘ外舅ヨリ引取レドモ、夫態ト二年三年去狀ヲ渡サズ、  
外舅大ニ難澁スル事アリ、或ハ七去ノ女ハ夫ノ父母是ヲ去ントスレドモ、夫色ニ耽テ去ラズ、竟ニ  
父母不和ト爲ツテ家内大ニ亂ル事アリ、或ハ三不去ニテ、外舅始メハ富有ノトキ娶リ、其庇蔭ニ由  
テ己ガ家ヲ富シ、其後外舅貧窮ニ至レバ、其妻ヲ去テ縁ヲ絶チ又他ノ富家ヨリ娶ルモアリ、或ハ舅  
姑ノ大病數年ノ看護致シ服忌ヲ勤シ妻ヲ他ニ嬌シテ之ヲ去ルモアリ、或ハ始メ貧フシテ夫婦出精シ、  
已ニ富有ノ身トナレバ、其妻ヲ去テ美婦ヲ娶ルモアリ、或ハ奉公ノ奴婢未ダ年期充ザルニニゲ去リ、  
或ハ妊娠シテ嬌養スルモアリ、斯ル事世ニ多キハ、全ク上ノ制律嚴刻ナラザルユヘ、終ニ習俗ト成  
レリ、夫仁政ト云ハ、國ニ怨民無ラシムルヲ云、卑シキ婢女トイヘドモ、天ニ呪泣セザル様ニスベ  
シ、大陽ノ下土ヲ照臨スルガゴトキヲ明君ト稱ス、若シ人君賞罰ナクンバ、遂ニハ天ヨリ賞罰有ル

ハ、今目前ニ見エシコトナリ、故ニ人君タルモノハ必ズ後レヲ取ラズ、天ニ先ダチ賞罰ヲ明ラカニスベシ

一 妻毆<sup>ウツ</sup>レ夫者、杖一百、夫願<sup>ユル</sup>レ離<sup>ル</sup>者聽<sup>キ</sup>

是條俗ニ男勝リト云テ、口<sup>マ</sup>誠<sup>マ</sup>ニシテ夫ヲ侮リ、常ニ瞋目者多シ、又問ニハ女ノ身トシテ、大酒醉醺シテ其夫ヲ毆ツ者モ有リ、本文ニ夫願<sup>ユル</sup>レ離<sup>ル</sup>者有ルハ古ノ事トミユ、今時ノ者ハ色ニ耽テ、縦ヒ妻ヨリ毆レテモ蹈レテモ、其心泥ノ如ク自慙ルト云事無ク、願<sup>ユル</sup>レ離<sup>ル</sup>者ハ有ルベカラズ、民家ハ舉テ俗ニ云フ妻大將ナリ、人倫ノ道廢レタル事是以テ察スベシ

一 奴婢罵<sup>シ</sup>ニ家長<sup>シ</sup>者、絞刑<sup>シメコロス</sup>

是條斯ク死刑ノ重キニ、兼テ法令無キユヘ左迄重罪トハ思ハズ、忠ニ貴賤ヲ分ツノ二字ハ無シ、年期ノ奉公トイヘドモ、一日モ主從ノ契約致セバ則チ主君ナリ、法ヲ立ルニハ先ヅ小ヨリ誠ムベジ、小ヨリ勤ムレバ大ハ自ラ行ハル、九里八町ノ富士ニ登ルモ、麓ノ一步ヨリ始ムトミユ

一 子孫毆<sup>ニ</sup>祖父母・父母・及妻妾毆<sup>ニ</sup>夫祖父母・父母<sup>ニ</sup>者、皆斬、罵<sup>ニ</sup>兄弟<sup>ニ</sup>者、杖一百、罵<sup>ニ</sup>伯・叔・父母・姑・外祖父母、各加<sup>ニ</sup>一等、弟妹毆<sup>ニ</sup>兄弟<sup>ニ</sup>者、杖九十、徒罪二年半、傷者杖一百、徒三年

是條ヲ觀ルニ、今ノ世ハ妻トシテ夫ノ兄弟及ビ嫂等ヲ罵リ、男ハ伯父伯母等ニ惡口スル者多シ、是ヲ愧ズ漸々衰弊トナルハ、偏ニ教導無キユヘトミユ

一 鄉黨序<sup>タガフ</sup>、違者咎五十

是條今世ニ多シ、富ル者或ハ輕輩弱年ニシテ、貧キ老人ノ上ニ坐スルアリ、又村里ノ若者ニ老人ヨリ異見ヲ致セバ、汝ヨリ食祿ヲ受ケズ、我ニ拘ハル事勿レト言ヲ復シ、舉テ壯年ハ老者ヲ抵挺スル風俗ナリ、由<sup>レ</sup>是三十以下ノ者ハ、六十以上ノ者ヨリ、縱ヒ無理ナル事言レテモ一言ヲ返サズ、直ニ庄屋横目ニ訟ヘテ裁判ヲ請フベシ、若シ老人ト喧嘩ヲ致サバ、壯年ノ者理有リトイヘドモ、非分ト爲ルベキ事兼テ令ヲ下シ置クベシ、是能ク下情ヲ知ルト云ベシ

右數條ノ制律、俗吏ハ迂遠ト思ヘドモ、人皆脩身齊家ノ道立ズンバ、治國平天下ノ功ヲ得ズ、其本ヲ棄テ末ヲ取ラントスルハ、妾ヲ曲ゲテ影ノ直ナルヲ願フノミ、仁君出デ賦斂ヲ薄フシ役力ヲ減ジ、民ヲ撫育セント欲スルトモ、民禮義ヲ守ラズンバ毎戸ニ衰微シ、唯勞シテ功無シ、是理ヲ考ヘ、是條目ヲ諭シテ法律ニ隨フベシ

明太祖詔ニ「治道必先<sup>ニ</sup>於教化、民俗之善惡、即教化之得失也、太祖ハ元民間ヨリ出玉フユハ、能ク民ノ實情ニ委ハシ、教化ヲ棄テ犯法ヲ罪スルハ、刑ヲ樂フト云者ナリ、孔子曰、「鄭子產、猶<sup>ニ</sup>衆人之母也、能食而不能<sup>レ</sup>教也、」故ニ能ク民ヲ惠ムトイヘドモ、教ヘズンバ毒蛇ヲ愛スルガ如ク、却テ恩ヲ仇ニテ報ユルベシ、古ハ適人ト云官有テ、今ノ鹿島現<sup>キト</sup>ノ如ク木鐸ヲ振ツテ法令ヲ唱ヘ回レリ、民ハ小兒ノ如ク、政教ニ由テ如何様ニモ成ルナリ、「不<sup>レ</sup>教誅、謂<sup>ニ</sup>之虐、不<sup>レ</sup>戒責、成、謂<sup>ニ</sup>之暴、」若シ國家ノ無爲

ヲ欲セバ教化ニ如ズトイヘドモ、今ノ世ニ教導ト云事會テ無シ、何レニ就テ、人倫ノ道ヲ知ランヤ、門徒ハ庶民ニ親ミ、日ニ月ニ法ヲ説クユヘ染着シテ、萬里ヲ隔テシ元像モ無キ彌陀有ル事ヲ知テ、目前ノ君父有ル事ヲ知ラズ、或里ニ仲冬下旬父腫氣ヲ疾ンデ、命旦夕ニ逼ル、醫者鯉魚ヲ食ハハ効驗ヲ得ント云ヘドモ、祖師ノ御忌中ト肯テ諾セズ、親ノ病ヲ見ナバ、我命ヲ捐テモ時ヲ移サズ濟フベキニ、斯ク親ヲ棄テ佛ニ爍ルハ、全ク僧徒ノ教化ニ由ル所ナリ、是ヲ以テ觀レバ、古聖代ノ如ク司徒ノ官ヲ建テ、教導ヲ專ラニ致サバ隨分相化スルベキニ、是官ヲ建ザルハ國家ノ大缺典ト云フベシ、今諸國毎ニ郡代自ラ郡村ヲ廻リ、威儀嚴格ニ憲錄ヲ喝喇<sup>アイ</sup>シテ、流水讀<sup>サラク</sup>メドモ其威ニ恐レ、心茲ニ在ラザルユヘ聽ケドモ聞エズ、家ニ歸レバ一條モ會得セズ、試ミニ觀ヨ、士人ハ庶人ニ差ヒ穎敏ナルベキニ、學校ニ在テ日夜聖賢ノ書ヲ誦讀スレバ、之ヲ我身ニ行フベキニ、能ク德ヲ懋<sup>ウツム</sup>ル者ハ幾稀ナリ、況ヤ愚<sup>トシ</sup>苴ノ庶民憲錄一遍聞クトイヘドモ、何ヲ以テ身ニ行フベキヤ、倘シ一言ヲ聞テ之ヲ守ラバ、領中統テ君子ノ人ニテ、重ネテ法令ニ及ブマジ、是意ヲ考ヘ、恠<sup>ヤハチカ</sup>ニ小兒ニ諭スガ如ク、能ク近ク譬ヘテ取テ教ユベシ、書經「敬敷<sup>ニ</sup>五教<sup>ニ</sup>」<sup>五常</sup>在<sup>ニ</sup>寬<sup>ニ</sup>」ト云ハ、舜帝契ト云者ニ司徒ノ官ヲ命ジテ、民ニ五常ノ道ヲ教ヘ玉フニ、務メテ寬ニ致セ、寬ニ致セバ人心ヲ失ハズト宣フ、猛剛ナルトキハ民惑<sup>ウツシ</sup>デ、我民トイヘドモ我民ニ非ズ、故ニ心安舒<sup>ニ</sup>ニ教誨スレバ、隨分心服シテ善道ニ移リ、風情自然ト改マルベシ、余ガ郷ニ商賈四五人、毎年北陸東山ノ諸州ニ販<sup>ヒサグ</sup>者アリ、彼ノ地何レノ所カ、最モ信義ニシテ法ヲ守レルト問フ

ニ、羽州米澤ニ如ズト云、又諸國巡歴ノ者ニ問フニ、諸國ハ馬子トモ酒代ヲ乞ヘドモ、米澤領ニ於テハ與ユレドモ法度ニ背クト決シテ受ズト云、是一條ヲ以テ萬事已ニ見ヘタリ、彼邦風情一變セシハ、寛政年中應山侯聖學ヲ崇尚シ、文德ヲ以テ治メ、教化ヲ先ニシ利欲ヲ捐テ、仁政ヲ布シユヘ、一代ノ中ニ入牢ノ者一人モ無ク、國民信義ニ化スル事、今ニ於テ五十餘年、文德ノ餘光盡キザルハ、全ク受繼官人信義ニシテ、堅ク舊典ニ因循スルニ由レリ、抑改革ノ發端ハ、尾州ノ處士細井德民招待セラレ、教諭ノ功ニ因テ一變ス、故ニ於レ今國民祭祀ヲ爲ス、又諸藩ヨリ、瀧鶴臺・澁井孝德・南宮大湫等ノ儒士ヲ招テ、日ニ月ニ諸士ニ講習セシメ、其中下情ニ達セシ秀士十人ヲ撰ミ、教道官ヲ建テ、領中ヲ顧ツテ廻講ス、就レ中小川源右衛門ハ廉潔ニシテ、食ハ一菜ヨリ外用ヒズ、民ニ一飯ヲ受ケズ、儉約ヲ衆ニ示ス、鰐淵治兵衛ハ支配所小松村ノ農民、金子傳五郎ト云儒學ノ者ヲ師トナシテ、兩人ニテ教道セシユヘ、是郷特ニ風情改メレバ、餘ノ九人モ文學ヲ羨ミ發明シテ、朝ニ願フテ十人共ニ、一月ニ一回城下ニ出デ、執政竹股美作ノ座ヲ借り、神保容助ニ講義ヲ受ル事一晝夜、翌日ハ我家ニ倚ス、直ニ二十三里ノ外支配所ニ歸ル、於レ是民皆其忠力ニ感服シ、今ニ至リ能ク其教令ニ背カズ、蜀郡ハ古來風俗惡キ土ナレドモ、文翁ノ教化ニ由テ一大變ス、是ヲ以テ觀レバ、風俗ハ教ニ因テ變ズル事必定ナリ、故ニ善政ハ不レ如「善教」ト云、蓋シ文翁在リトイヘドモ、亦一方ニ政難ノ有司利ニ放テ事ヲ行フ者有レバ、吾ヲ費シ勞シテ功無シ、假ヘバ樂ヲ奏スルガ如ク、八音舉能ク調ハズンバ、一器ノ爲ニ願ルナリ

教道官ヲ建ルニハ、五六十以上ノ者ニテ、第一禁酒謙讓ナル者ヲ選ムニ在リ、倘行狀惡シケレバ、却テ下ノ談嘲ニ遇フベシ、是官卒爾ニ視テハ輕ケレドモ、最モ重任トスベシ、其故ハ本治マレバ末ノ官吏ハ衆キニ及バズ、其功績見ハレナバ重賞スベシ、二八月兩彼岸ハ、庶人寺詣シテ遊日トス、故ニ春秋ニ男女ヲ別ツテ、二月彼岸鄉村ニ往キ、毎戸老弱共ニ集メ、人數ヲ改メズ、唯戸籍ノミ改ムベシ、講ズルニハ經書ヲ其儘ニ説クベカラズ、中華ハ假名文字無キユヘ、卑民トイヘドモ常ノ言語モ經書ニ同ジキユヘ、解スル事我邦平話ノ如シ、我邦ノ者ニ聖經ヲ其儘講ズルトモ、文牒ユヘ卒爾ニ通曉セズ、倦屈シテ睡リヲ生ジ、敢テ進マズ、故ニ聖經ヲ和解シテ、五倫ノ道ヲ得ト會得致サセ、又冠婚葬祭ヲ説キ、第一喪ヲ能ク勤ル事ヲ教ヘ、或ハ廿四孝・本朝孝子傳・諸國ノ孝子傳、筑前庄助ガ行狀記等、又世ニ有益ノ書ヲ撰ミ、能ク近ク假令ヲ取テ諭スベシ、八月ニハ又戸籍ヲ改テ、婦女ヲ召シ烈女傳・和國玉桂或ハ孝女節婦記等、貞順操節ノ道ヲ説キ、其中姪婦有ラバ、帖ニ記シテ村長ニ詢リ、貧家ノ婦ハ救済スベシ、其法術ハ版籍ノ部ニ載ス、「夫女如也、如<sub>レ</sub>夫之教<sub>レ</sub>」トイヘドモ、今世ハ俗ニ云フ妻大將ニテ、大形妻ノ言ニ從ヒ善惡ニ成リ、又奢花儉約モ皆妻ニ由ルトミユ、市中ハ正月中旬、又ハ三月初旬ヨリ始ムベシ、講習ハ孝子傳・家職訓・廢體俚諺抄<sub>（ヒキ）</sub>・都鄙問答・翁問答、其外色々有益ノ書アリ、余モ自ラ勤メテ實情ヲ記シ、家職要道八卷ヲ著シ置ク、婦女ハ八月彼岸過ギテヨシ、講書ハ前ニ同ジ、又女大學モヨシ、兎角職業ノ妨グニナラザル様ニ定日ヲ究メ、食給一錢トイヘドモ民ニ掛ケザル事專一ナ

リ、今天下ニ於テ風情大廢スルハ、一ニ僧道、二ニ女道ナリ、中華朝鮮ハ乳房ヲ露スヲ大ニ愧ルト聞クニ、旅人通行ノ官道ニ、裸體ニテ前垂ノミ致シ、茶屋ノ衛衛ハ女ノ有前ナレドモ、都下ノ市町商賈等婦女ノ交易ハ能ク質<sup>ウル</sup>モノト、店毎ニ在テ賣買シ、我女ヲ囿<sup>オトリ</sup>約トシテ利ヲ得ルハ甚ダ耻辱ノ至リ、是全ク風化ノ未ダ郭中ニモ暨バザル不徳ト云者ナリ、特ニ一般飲酒ヲ致シ、間ニハ醢<sup>ハチ</sup>醬スル者モアリ、又三四十十年以降十五六ノ小女迄、武家ノ者モ蕘<sup>カス</sup>艸ヲ吞ミ、腰ニ美妍ナル蕘<sup>カス</sup>艸ヲ挟ミ、宛モ腰子ノ風ニ異ラズ、面ニ美麗ヲ嗜ハ、内ニハ必ズ姪ナル者ナリ、婦道正シカラザレバ良子ハ生レズ、今日前ニ姪婦葬禮ヲ見レバ生子<sup>ホクロ</sup>黒子ヲ生ジ、火災ヲ睚<sup>ハ</sup>レバ赤癩癩生ズト、皆能ク知テ之ヲ忌ミ避レドモ、只是ノミ知テ胎教ヲ知ラズ、夫聖人トイヘドモ夫婦交合有テコソ生レ玉ヘリ、古ヨリ惡女ノ良子ヲ産シ事嘗テ無シ、女ノ身ニシテ酒ヲ飲ミ、口談<sup>フタ</sup>ニシテ夫ヲ姪<sup>コナ</sup>シ、或ハ夫婦喧<sup>イカ</sup>嘩絶エズ、或ハ不義ノ財ヲ以テ子ヲ育ミ、或ハ耳ニ淨留利三絃ノ姪聲ヲ聞キ、眼ニ博奕狂<sup>キヤウ</sup>等ヲ觀テ、夫妻共々ニ邪道ヲ踐テ子ヲ生ムユヘ、狐ノ親ハ狐ヲ生ミ、漸々子狐生レテ、遂ニハ國中ニ滿チ、獵師益々多ク加ヘテモ不足トナルベシ、是理ヲ考ヘ國ヲ善ク治メント欲セバ、先ヅ其根源ヨリ正スベシ、本正シケレバ末ハ自ラ直シ、必ズ一朝一夕ノ事ニ非ザルユヘ、速ヲ欲スル事勿レ、又下ハ愚鈍ニシテ保養ノ法ニ疎キユヘ、不慮ノ病難<sup>ワカシニ</sup>天札、或ハ流產墮胎ニテ死ヲ得ル者甚多シ、姪身ハ男ヲ近ケザル事、鳥獸ヲ以テ諭スベシ、鳥獸ハ孕バ雄牡ヲ近ケズ、故ニ難產ト云事無シ、其生ム子モ壯健ナリ、玆ニ足利義滿公代梶川性全ガ著セ

シ萬安方ヨリ拔書シテ出スユヘ、婦女ドモニ示スベシ

一 婦人時々熱キ物ヲ食ヒ、汗出デ乳房ヲ露セバ、終ニハ腫ヲ發ス、是ヲ吹乳ト名ク

一 月水毎ニ蓼<sup>ワグアツ</sup>ヲ食ヘバ、遂ニ血淋トナル

一 生姜ヲ食ヘバ、生ル子指太シ

一 桑椹<sup>クワシミ</sup>ト鴨ト食ヘバ倒子ヲ生ム

一 魚頭ヲ食ヘバ胎ヲ損ズ

一 妊身酒ニ酔ヘバ、生ル子癲癇<sup>ナン</sup>ヲ生ズ

一 鳩ヲ食ヘバ、產門肥テ難產スベシ

一 母ノ涙子ノ眼ニ入レバ、睛<sup>ヒトミ</sup>ヲ破ル

一 乳飲中ニ生菓<sup>ナマクワモノ</sup>ト合飲スレバ、虻虫<sup>ワグイ</sup>ヲ生ズ

一 妊身惡臭ヲ嗅ゲバ、生ル子育タズ、惡キ物ヲ視ルモ同ジ、右ヲ鹽ミ、角力・狂言・遊藝ノ場及ビ寺堂

群集ニ往クベカラズ、又一錢トイヘドモ不直ノ事ヲナセバ、其子盜心有ルト心得ベシ

### 小兒禁法

一 小兒ニハ新シキ綿ヲ衣ル事勿レ、必ズ氣ヲ損ズ、古綿ヲ用ユベシ、人氣有ル物ハ益々ヨシ

一 小兒ノ衣ハ厚ク多キヲ欲ヒズ、常ニ寒ニ忍ブヲ善トス、溫レバ多ク病ヲ生ズ

一 大麥・大豆ノ粉ハ、一歳ヨリ十歳迄ニ與ユル事勿レ、氣塞デ死ヲ得ル事アリ

一 黍ヲ與ルベカラズ、時々食ヘバ歩行ヲ能クセス

一 蕨ヲ食ヘバ足弱ク成テ、早足ナラズ

一 七歳迄鮒ヲ食ヘバ、疳蟲ヲ生ズ

### 大人禁法

一 魚ノ無腹ノ物ヲ食ヘバ、多クハ毒ニ當テ死ス

一 魚頭ノ中無 腮物ヲ食ヘバ死ス

一 魚鱗ノ逆ニ生タルヲ食ヘバ死ス、解毒ニハ大豆ヲ煮タル汁ヲ飲ムベシ

一 多ク精ヲ洩セバ短命ナリ

一 冷物ヲ食ヘバ病ヲ生ズ

一 久ク臥レバ精氣離ル

一 大ニ凍レバ肌肉ヲ傷リ、大ニ溫ムレバ、骨髓消ス

一 多ク唾ヲ吐バ乳汁ヲ失フ

一 久ク事ヲ案ズレバ、志シ恍々タリ

一 久ク哭泣スレバ、神氣ヲ傷ル

一 冬ハ極メテ不<sub>レ</sub>溫、夏ハ極メテ涼クセズ

一 眠ル中ニ側ヨリ扇グベカラズ

一 人ト曲直ヲ爭ヘバ壽ヲ縮ム

一 朝ニハ怒ル勿レ、臘月ニ歌舞スベカラズ

右ハ荒マシ出スユヘ、尙又急濟方其外ノ醫書ヨリ拔抄シテ示スベシ、或邦ニ食醫ヲ立ツ、古ヘノ法ニ

テ最モ善シ、九十有餘ノ老醫ノ話シニ、我弱年ノ比迄ハ、鄙舍ニ虻蟲ト云病ハ少ナリ、鄉村ニ商賈雜

居セシヨリ漸々花奢ニ及ビ、農家ノ子ドモ餅・飴・饅頭・砂糖類ノ甘キ物ヲ食スル故カ、小兒ノ疾十二八

九ハ虻蟲トミユ、又古ヘハ膈症疳積モ寡キニ、稍々盛ンニ及ベリト云、今時ハ野巫醫モ童子ハ虻蟲、

婦人ハ血症、男子ハ疳積トサヘ云ヘバ、中ラズトイヘドモ遠カラズ、是全ク時變ニ因ル所ニテ、其病

根ハ多姪・大酒・美食ニテ、且ツハ家ノ出入ヲ量ラズ、驕奢ノ風俗ニ化シ、體ヲ勞セズ唯氣ヲ勞スルヨ

リ生ズ、人生七十古來稀トハ古ノ事ナリ、今時ハ五十ノ壽ヲ得ル者ハ幾希ナリ、河越正叔ガ傷寒論評

ニ、天地間無<sub>レ</sub>邪ト云シハ、保養ノ誠言感心スベシ、毎年瘟疫・利疾流行スレドモ、平生飲食房事ヲ慎ミ、

保養ニ心懸ル者ハ多クハ免ルベシ、故ニ小兒ニ種痘法ヲ以テ、慈仁ヲ施トイヘドモ、又保養ノ法ヲ誨

ヘズンバ、五穀ヲ糞シテ其實ヲ穫ザルガ如シ、是理ヲ考ヘ制度ヲ立テ、大酒・疎業・姪亂・花奢ヲ禁ジテ

天心ニ契ハシムレバ、長壽・富饒ノ二福ヲ保チ、始メテ慈惠ノ種痘ノ功モ見エテ、善ノ善ナル者也、又

茲ニ二首ヲ出ス故、衆人ニ示スベシ

短命ハ大酒・大食・朝寐シテ、晝ハ遊ンデ夜ハ二人寐

長命ハ禁酒・飧飯ニ朝起シ、晝ハ働キ夜ハ獨寐

人ノ無病・長壽ハ是二首ニ止ルユヘ、壁間ニ糊置ベシ

市町・鄉村・乙名・庄屋ノ徒ニ、孝子傳、或ハ善言・嘉行ヲ紀セシカ假名本ヲ四五部ヅ、官印シテ渡シ置キ、或ハ富有ノ者ドモヨリ印施シテ納ムルモヨシ、毎月日待・月待ヲ致ス者ニ貸サバ、大ニ治道ニ益アリ、無益ノ雜話ニ長坐シテ人ヲ譏リ、酒宴博賭等ヲ致スヨリ外無シ、今時江戸赤本・淨留利本等流行スルハ、姪風ニ醞釀スル者ナリ、或邦都下ノ町家ニ、上ヨリ心學ノ書等、民ニ有益ノ本ヲ貸シテ見セラルル事アリ、是ヲ旁ク領中ニ配當セバ大ニ益アリ、國ヲ善ク治メント欲セバ、刑罰ヲ用ヒズ廟堂ニ坐シテ、安泰無爲ニ治ムル工夫ニ日夜心ヲ竭スベシ、平生心ヲ勞スレバ、身ヲ苦ムルニ及バズ、強ヒテ官ト法トヲ恃タシニハナスベカラズ

# 經濟問答秘錄卷六終

## 經濟問答秘錄卷七

## 法令考下

民之爲<sub>ニ</sub>姦邪・竊盜・靡法・妄行者、生<sub>ニ</sub>於不足、不足生<sub>レ</sub>於無<sub>レ</sub>度、上有<sub>ニ</sub>制度、則民所<sub>レ</sub>止<sub>一</sub>ト聖言アリ、當今治平久シテ、士庶人漸々花奢ノ風ニ移テ、家ノ出入ヲ量ラズ、諸物ハ年ヲ逐テ昂直ト成リ、家給不足ト爲テ、無<sub>ニ</sub>已事<sub>一</sub>姦邪妄行ヲ爲シ、訴訟罪罰繁キニ及ブハ、全ク制度不<sub>レ</sub>嚴ユヘナリ、然レドモ今遽ニ儉法數百條ヲ出シ、悉ク改革恢復セント欲シ、犯ス者ヲ拘捕シテ慘酷ニセバ、俗ニ云フ遽磨<sub>アタマ</sub>ハ血出ルト云ヲ以テ其苛政ニ堪ヘズ、敢テ手足ヲ措<sub>オク</sub>所無ク、却テ民心ヲ失ヒ衰國ノ端ト爲ル、是故ニ衰弊ノ輕重ヲ斟酌シ、民情ニ契フヲ主トシテ漸々ト融會スベシ、試ニ視ヨ、家ニ畜フ犬馬猫雞ヲ日ニ呵責打擲スレバ、其性惡ク成テ、遂ニ人ヲ唆<sub>ウツ</sub>ヤウニナレリ、追ニモ<sub>コ</sub>柔ニスレバ、相馴テ親睦シ、我心ニ從フ者ナリ、召公君陳ガ領内ニ往テ其政德ヲ見ルニ、雖ノ孩兒ト遊ビ、鵲ノ鳩ニ巢ヲ貸セシヲ觀テ察スベシ、是ヲ嚆<sub>ミ</sub>儉法ヲ建ント思ハ、先能ク教諭シテ、其後刑ヲ加ユルベシ「見曰明、聞曰聰」衆ヲ馭スル者ハ聰明ニシテ、惡ハ小事トイヘドモ時ヲ移サズ、根ヲ截ズンバ遂ニハ天下ノ大害ト爲ル事アリ、寛永年中蠻國ヨリ<sub>タヌバ</sub>薦艸<sub>ハシ</sub>觶メテ渡リシニ、公儀ヨリ禁制有レドモ、嚴刻ナラザルユヘ終ニ海内

ニ滋蔓シ、於<sup>レ</sup>今ハ届キ難シ、今時婦女ノ羽織ヲ衣ルハ、五六十年以前ハ商家ノ嬢婢トモ、適<sup>ガ</sup>衣<sup>ル</sup>事  
ドモアリト聞シニ、於<sup>レ</sup>今ハ大夫ノ婦人迄之ヲ用ユル風俗ト成ル、又十年來頓袍繻帛ト云物ヲ肌着ニ  
致シ、寒ヲ凌グ便利トス、始メハ卑キ日傭ノミ用ヒシニ、數年ノ間ニ士庶人男女共ニ用ユ、昔ハ是衣  
ヲ唐人ト名ケ孩兒ニ衣セシニ、今ノ模様ヲ以テ後ヲ稽ルニ、今ハ肌着ト致セドモ、竟ニハ上着ト爲サ  
シカ、偕是服ハ胡狄ノ服ナリ、中華モ近世胡俗トナルユヘ是服ヲ用ユ、我邦ハ上古ヨリ衣服ヲ變ゼズ  
是日本ノ蠟事ト云ベシ、故ニ唐ノ王維ガ安部仲丸ヲ送ル詩序ニ、日本ハ君子ノ風ニテ、正朔ハ夏ノ世  
ニ本ヅキ、衣服ハ漢朝ニ同ジト、古風ノ變ゼザルヲ大ニ稱美ス、庶人ノ絹布ハ天下ノ大禁ニハ非ズ、  
諸國各儉法ニ由テ建ルユヘ異同有リ、異服異形ハ風俗ヲ亂スユヘ古ヨリ大禁ナリ、由<sup>レ</sup>是右ノ二品ハ  
嚴ニ禁止スベシ、頓袍ハ隨分防<sup>レ</sup>寒便利トイヘドモ、十年以前迄ハ是品無クシテ足レリ、今俄ニ寒氣  
烈キニ非ズ、衣服ハ身ノ章ナリ、最慎ムベシ、物事ハ唯便利々々ト利ニ倚レバ、遂ニ禮義ノ道ハ廢ル  
ベシ、或邦ニ新制ヲ出シテ、農民ハ酒ヲ飲ムニ茶碗ニテ飲ミ、瓶子ハ小鍋ニ致セト令ス、夫人ヲ侮リ輕  
ンズル事犬馬ノ如シ、天地ノ性ハ人ヲ貴シトス、其貴キハ禮義有ル故ナリ、器ハ禮ニ由テ制法アリ、  
故ニ農民ニ平生ノ獨酌ニモ、隨分叮嚀ニ膝ヲ立テ、大盃ナドニ致サズ飲ベシト論スベシ、禮義ヲ亂ス  
ユヘ醜陋齷齪ニ及ベシ、撝儉法ヲ建ルニ、其土ノ產物ハ届キ難シ、峴山以<sup>レ</sup>璞拋<sup>レ</sup>鳥<sup>イヅリ</sup>ト云ハ倅ニ非ズ、備  
後蘭表ハ、諸國ニ於テハ富貴ノ家ノミ用ユレドモ、備後ニ往テ視レバ、田野ノ窮民迄之ヲ用ユ、我鄉

ノ陶物ハ世界最上ナレドモ、郷人之ヲ取扱フ事瓦石ニ倖シ、西海ハ關東北陸ニ比スレバ、農家マデ伙儉衣服ノ花奢ヲ竭ス風壤ハ、畢竟舶客來着ニ由レリ、故ニ唐物羅紗ナドノ三得巾着・煙草入等ノ品ハ、左迄美妍ニ非ズンバ、始ヨリ大量ニ免シ置ベシ、凡國家ノ事ハ餘リ小泥トキハ、必永續スベカラズ、又女ノ髮飾櫛笄ヲ鼈甲水牛爪ヲ禁ジ、竹木ヲ用ル事尤ナレドモ、竹木ノ笄ハ其喪服ノ品ニテ不占ト云ベシ、又後年ニハ紫檀鐵刀木等ニテ作り、金銀ノ蒔繪ヲ爲ス様ニ成リ、其估百倍シ、儉法ヲ建テ却テ花奢ヲ勸ル媒トナル、今時ノ水牛爪鼈甲ハ學名ヲ假ノミ、實ハ牛馬ノ爪ニテ至テ卑穢ナル物ナリ、故ニ估ハ一貫、二貫ニ限り、正眞ノ唐物ハ其直七八兩ヨリ、二十兩三十兩ニ及ブユヘ、縱ヒ免許有レドモ、衆人ノ買ラル品ニ非ズ、硝子ハ庶人ハ日ニ働キ、且ツ頭ニ物ヲ載ルユヘ折レ易ク、傷ヲ受ル事多シ、斯ル下情ヲ考ヘ水牛鼈甲ヲ免ジ、第一金銀ノ細工ヲ嚴刻ニ禁ズベシ、金銀ハ天下通寶ノ幣財ナリ、一孤ノ飾ニ通財ヲ過ルハ、天下ノ大害惡ナリ、又民弊ヲ除クニ輕重大小ヲ考ル事アリ、費弊ニ日用有リ、月用アリ、年用アリ、是三條ヲ工夫シテ寬猛有ルベシ、是ヲ分タズ悉ク革ントセバ、却テ一條モ行レズ、年用ノ費ハ十年積ンデ、日用一年ノ費ト爲ル、櫛笄等ハ一ツ作り置ケバ、二代二代モ朽ズ、故ニ年用ナリ、酒食・衣服・蔦草等ハ日用ナリ、日々ノ事一年ニ積レバ、是程高ク揚ル者ハ無シ、故ニ日用ノ儉約ヲ第一ニ示スベシ、昔無キ事ハ今ノ世ニ、男ハ十四五歳ヨリ蔦草ヲ吞ミ、女ハ十六七ヨリ吞ム事ハ、妓娼腰子等ノ態ヲ思ヒシニ、武家ノ者ニ至ルマデ流行スルハ、風俗水破ニ視ニテ甚ダ惡キ者ナリ、

由<sup>レ</sup>是男ハ士庶人共ニ三十歳、女ハ五十歳ヨリ内ハ<sup>キツ</sup>佐<sup>ト</sup>嚴禁スベシ、是ニ就テ<sup>キセ</sup>煙管・蔦草袋ノ費幾許ゾ、  
 百七八十年以前ノ人ト思ハバ、何ノ苦モナキ事ナリ、衣服ハ一品作レバ一兩年ハ用達スレドモ、酒食  
 ハ毎日ノ事ニテ、美食大酒ハ一二時ノ間ニ弊ヘアリ、酒ハ元合<sup>ヨロフビ</sup>權ノ物ニテ、賀宴ニコソ用ユベキニ、  
 侈<sup>オゾ</sup>ニ長ジテ勿體ナクモ日酒ヲ吞ミ、又モ夜宴ヲ致セリ、朔望ハ月用ナリ、五節句ハ年用ナリ、婚葬祭及  
 ビ家作等ハ年用ナリ、是ヲ分別シテ歳暮年始五節句等ハ、主家師友一族ニハ、度ニ過ギテ花奢ナク費  
 ヲ贈リ、三月上巳ハ籬祭、五月端午ハ兜偶人・木綿幟布旗、是モ一度作レバ一代用達シテ、再ビ作ル  
 ニ及バズ、七月七日ハ乞巧奠、十三日ヨリ十五日迄ハ百事ヲ棄テ、隨分丁寧ニ祭祀ヲ勤メ、八月朔日  
 ハ田面、九月重陽ノ佳儀等、親族朋友睦ク、大酒醺<sup>サカ</sup>醺セズ、禮儀正ク、賀宴ヲ催スベシト令スベシ、「賜  
 也爾愛<sup>ニ</sup>其羊、我愛<sup>ニ</sup>其禮<sup>ニ</sup>」ト、萬事大小ノ差別ナク、只儉約ヲ建テ禁ズレバ、下ハ儉約ト<sup>リシヨク</sup>忼<sup>ト</sup>畜ノ分  
 チヲ知ラザルユヘ、遂ニハ人倫ノ道ハ廢ルナリ、民ハ<sup>マド</sup>的<sup>ト</sup>無レバ精力セズ、來月ハ正月物入り、追々ハ  
 盆祭ト是ヲ<sup>カヒ</sup>的<sup>ト</sup>ニ拵<sup>グ</sup>者ナリ、<sup>カヒ</sup>的<sup>ト</sup>ナキ様ニナレバ、却テ情氣ヲ生ジ、竟ニハ姦惡ヲ爲スベシ、是故ニ飲  
 食衣服日用ノ儉約ヲ專ニ禁ズベシ、婚葬ハ大禮ユヘ丁寧ニ致ス事當然ナレドモ、天下東西ノ風壤ヲ  
 觀ルニ、西國ハ至テ花奢ナリ、關東北國ノ婚禮ハ甚ダ野卑ナリ、足利代ノ禮容、西國ハ民間迄今ニ於  
 テ廢レザレドモ、近年漸々驕憚ニ及ビ、婚座ニ吹物九腕・十一腕・二ノ膳・三ノ膳、須賀臺・色加摩鉢、  
 引物・引菓子、後段大冷ナド、美饌<sup>ウデモノ</sup>ヲ竭シ、供養毛檀那一僧ニテ事濟ベキニ、他ノ宗ヨリ數僧ヲ招キ、

佛戒ノ酒宴ヲ設ケ、二膳三膳、引菓子盛附等饗應シ、或ハ僧徒ヨリ日ニ月ニ奉加ヲ猛責セラレテ、曾テ蓄積スル術テダテ無シ、故ニ制度ヲ建テ、僧徒ノ貪心ヲ除キ、民ニ出銅ヲ禁ズル事、第一ノ儉法ナリ、尙細キ法ハ僧道部ニ出ス、或ハ店棚ニ上製ノ砂糖菓子、田舎ノ宿驛ニ至ル迄賣弘ム、斯ル上品ハ三都ニ往テモ未ダ見ズ、或ハ餅・饅頭・五色素麪ノ類、種々新鮮ヲ工夫シテ美好ニ致シ、又賣賣屋ニハ魚飯・泥鰌・雞・豕・鯪・鯉等、互ニ美味ヲ賣ルユヘ、目ニ視レバ、心ニ欲スルハ人情ニテ、終身飲食ノ爲ニ身ヲ使ハレ、蓄積スル事嘗テナシ、司馬溫公ノ語ニ、「目養耳視」トハ是事ナリ、故ニ儉法ヲ建シテ欲セバ、第一ニ日用ノ飲食ヲ儉約スル制法ヲ建ベシ、邊鄙ノ者ハ平生麤食ユヘ、凶饑ニ至テモ餓死ト云事無レドモ、都會ノ地ハ常ニ美食スルユヘ、少シ凶歲ニ及ベバ、多クハ餓莩有ル者ナリ、西海ニ於テ士庶人共ニ麤食麤服ノ風ハ、日・隅・薩・豐後邊トミユ、萬事奢花ヲ竭スハ筑後肥前ト思ハル、其故ハ彦山朱驗者諸國ニ檀家多シ、右朱驗ノ中困窮ニ及ビ、檀家ヲ賣斥スルニ、肥後豐後筑前ハ、一家ニ付テ銀四五分、肥前筑後ハ、一家ニ附テ五六錢ト云、是ヲ以テ風土ノ驕慥ヲ察スベシ、絹布法度ノ事、享保年中公儀ニハ、士民ノ婦女ハ皆繡箔ヌヒハク金縷イトノ小袖ヲ禁ジ、農工商ハ絹・紬サヤニ止ル、是時士庶人ノ婦女小袖ノ繡金ヲ解キ箔ノ剥シニ、幾程無ク法度徹レテ、士庶人ノ婦女皆公然ト繡箔ヲ用ユ、經濟錄ニ絹布ハ士人ノミ免シ、唯庶人ヲ禁ズベシトハ、未ダ人情ヲ知ラズ、士人ニ諂フテ謂フ所ナリ、若シ絹布ヲ禁ゼント欲セバ、先ヅ一番ニ士人ヲ禁ズルニ在リ、黒田侯如水ノ語ニ、町人ハ名ヲ求ルノ的ナキユヘ、衣

服家財ヲ飾ルヲ的ニシテ家業ニ精力スト云、是君子ノ目ヨリ賤ズル所ナリ、夫君子以儉爲德、士人ハ仁義ヲ的トスルユヘ、儉約ヲ本トスベシ、論語ニ、「衣敝緇袍、與衣狐貉者立而不耻者、其由也與」トハ、子路ガ勇操ヲ稱美シ玉ヘリ、表ニ美妍ヲ嗜ム者ハ、内ハ必信勇無キ者ト知ルベシ、諸國ニ往テ武ノ強弱ヲ試ント欲セバ、武家ノ男女ノ衣服ヲ觀テ察スベシ、故ニ市町ノ婦女ハ絹布ヲ衣ルトモ、武家ノ婦女ハ美研ノ絹布ヲ禁ズベシ、天明ノ比筑前ニ衣服制度ヲ建テ、士民ハ大抵ノ絹布ヲ免シ、庶人ハ禁止ス、定メテ時ノ官人比黨シテ差等ヲ分チ銜ハントスル者カ、士ハ貸殖スル身ニ非ズ、一年ノ穀祿限リ有ルニ、薄祿卑臣陪臣等ノ婦女迄、庶人ノ富家ニ銜ハント美妍ノ衣服ヲ作ルユヘ、儉約ト云事曾テ成ラズ、庶人ハ耳語シテ、諸國皆公儀ヲ規標トス、公領ハ庶民皆絹布ナリ、自國ハ家臣ノミ美服スルハ、偏頗ノ制ト批判ス、於今屈服スレドモ、一心ニ信服スルニ非ズト聞及ベリ、是民心ヲ失フ者ナリ、「欲令之速行、莫善乎以身先之」ト聖人ノ語アリ、江州彦根領士庶人衣服ノ花奢ユヘ、井伊侯之ヲ憂ヒ、先躬ヲ綿布ヲ着シ、歸國ノ時大夫近習從衛ノ士舉テ綿布ナリ、是時國中ノ衆士絹布ヲ衣テ途ニ迎謁セシニ、君ノ鹿末ヲ睇テ大ニ慙デ、夫ヨリ一家中統テ絹布ヲ禁ズレバ、庶人之ヲ見テ豈愧ザランヤ、一言ノ令無ク、領中勿然ト自ラ綿布ト成ル、是故ニ士庶人共ニ差等ナク一列ニ致サバ、第一士ハ給食足リ、武義モ又張り、諸民ハ令セズシテ信服シ、儉法自ラ行ルベシ、勢州桑名ハ先代樂翁君改革ノ時、大夫モ他出ノミ絹布ヲ免シ、四民共ニ一列ニ綿布ト定メ、於今法ヲ逾ズ、播

赤穗領モ差等無ク一列ノ禁ナリ、蓋シ袖襟羽織ノ裏ナドハ紗綾迄ハ免シ、庶民モ五十以上ノ者ハ右ノ禮ニ遵ヒ、肌着ニハ紬秩交結段等下品ノ絹ハ免シ置テ、下ニ尊老ノ道ヲ示シ置ベシ、儉德ヲ保ツ明君賢

大夫、數代續クベキニモ有ラズ、上ヨリ法ヲ犯セバ、下必ズ倣フユヘ、絹布ハ大夫迄ニ致シ、其餘ハ四

民一列ニ禁ズル事、始メヨリ制度ニ嚴ニ建置ク事宜シ、又近年武家ノ男女共ニ日傘ヲ指事、風俗奢麗

テ甚ダ見惡シ、剩ヘ浮屠氏ノ輩之ヲ用ユルハ、國風ノ耻辱ニテ、昔ハ嘗テ無キ事ナリ、佛ハ元樹下石

上ノ法ナリ、一番ニ先ヅ之ヲ嚴禁シテ、昔ノ如ク竹皮ノ笠ニ致サスルベシ、中國邊或領ノ制ニ、大夫

ノ婦女ハ紺色ノ日傘、士人ハ紺縁ノ白張、庶民ハ惣白張ト定ム、國天下ノ制ヲ建ルニハ、度量小狹ノ

政事ト思ハル、又或邦ニ士人ノ婦女ハ日傘ヲ免シ、庶人ハ禁ズル事アリ、是比黨ノ政ニテ、却テ武家

ニ奢麗ヲ醺釀スル者ナリ、何ゾ寒暑ニ貴賤ノ分チ有ランヤ、七八十年以前迄ハ、遠郷ニ於テハ孩兒

ノ子守ノミ用ヒ、士庶人皆江州水口ノ葛笠ニテ、裏ハ貧富ニ由テ黑縞子、或ハ木綿ノ黑金巾ヲ用ユト

聞シニ、今ニ於テ舊家ニハ秘スル所モアリ、是事古風トミユ、其證ハ源平足利代婦人ノ書ヲ觀ルニ皆

葛笠ニテ、武士ノ婦人日傘ヲ指セシ書ヲ曾テ觀ズ、白張日傘ハ、腰子封問子等ガ用ユル所ナリ、故ニ制

度ヲ建ルニ忠恕ノ道ヲ捐テ、私有レバ萬事如レ斯成リ行クユヘ、深ク慎ムベシ、近年日増ニ嬌風奢麗ニ

陷溺シ、男女共ニ日傘ヲ用ユルユヘ、古風ニ復シテ士庶人共ニ水口笠ヲ用ヒ、日傘ヲ禁ズル事宜シ、

然ルトキハ國風一變シテ、民俗淳美ニ見エテ、他邦ノ者モ仰瞻スベシ、又儉法一切ノ事ハ、士庶人共

ニ一列ニシテ差等スベカラズ、差等有ルハ民心服セズ、心服セズンバ、法ヲ建テモ其功績必虛シ、  
法度ハ簡ニシテ嚴ナルヲ善トス、煩瑣ナレバ民人守ル事能ハズ、譚子云「一人知儉、則一家富、王者知  
儉、則天下富、蓋奢者三歲之計、一歲之用、奢者富不足、儉者貧有餘」、王侯大夫ヨリ下庶人ニ至ル  
迄守ルベキ語ナリ

大學ニ「小人間居爲不善」トハ實ニ人情ニ徹セシ語ナリ、一年ト云テモ長キ事ニテ、朝ヨリ暮マデ毎  
日寸陰ヲ愛ム者ハ萬人ニ一人ナリ、隙有レバ必ズ大酒・博賭・遊稽ヲ致スハ庸人ノ常ナリ、故ニ有益ノ  
方ヲ許シ置ベシ、蓋シ基・將基ハ市中ニハ禁制シ、隱居僧徒ノミ免シ、醫者モ七十以下ハ禁ズベシ、  
人心ノ燦ルハ基局ヨリ甚キハ莫シ、官署ニ催セバ職務ニ懈リ、大ニ民ノ害トナリ、店方ニ催セバ買フ  
者ヲ待セ、家屬ノ事務ヲ尋ネルニハ時ヲ移シテ答ヘ、醫者ハ急病トイヘドモ往カズ、是等ノ事ハ世人ノ  
皆知ル所ナリ、人ハ氣質ノ儘ニシテハ醞藉ナラズ、和歌ハ溫柔敦厚之教ヘニシテ、猛キ武士ノ心ヲモ  
雍ゲ、鬼神モ感ゼシムルハ和歌ニ如ズト、本朝神代ヨリノ國風ニシテ、王侯士大夫庶人ニ至ル迄、皆  
是道ニ入テ溫和ノ心ヲ生ズ、然レドモ後世和歌者流ノ徒、其輿儀ヲムツカシク演ルユヘ、世ノ人舉始  
ヨリ聞訾<sup>オモ</sup>シテ敢テ進マズ、故ニ漸々衰微ニ及ビ、一變シテ連歌ト成ル、偕テ連歌ハ保元ノ比、宇治左  
府ト源賴政ガ聯句ヨリ、發軔ト唱ヘレドモ、實ハ上古皇子日本武命ヨリ權輿<sup>ヘンアリ</sup>リテ戰國ニモ絶ヘズ、近  
世迄行レシニ、元祿ノ比勢州阿野津ヨリ、松尾忠右衛門ト云フ者<sup>名桃青、號芭蕉</sup>出デ、俳諧ヲ始ム、俳諧ハ

本ハ和歌六體ノ中ニ在レドモ、今ノ俳諧トハ其意大ニ殊ニシテ、又音訓ノ差ヒ有リ、本歌ノ俳諧體ハ菅公ノ手向山ノ詠歌是ナリ、桃青ガ俳諧ハ唯其名ヲ假ルノミ、俳諧ハ滑稽ト云テ、酒瓶ノ口ヨリ酒ヲ出スガ如ク、何ノ造作モ無ク、剽路々々ト出ルニ喩フ、俗ニ云フ私意句ニテ、俗談平話ノ嚴語ユヘ、頑夫嚚婦モ戲レテ、今ニ於テハ孤島幽僻迄滋蔓シテ、國雅ノ道竟ニ湮滅シ卑俗ニ陷リシハ、桃青ハ還テ風雅ノ蠱賊ト云者ナリ、是藝固ヨリ溫柔敦厚ノ道ニ非ルユヘ、士大夫ノ所爲ニアラネドモ、風俗ニ惹レテ是派ニ入ルヲ愧ザルハ、畢竟時世衰變シテ、溫雅ノ正心ヲ失フニ由レリ、上代ヨリ公卿武士モ統テ和歌連歌ニ決ス、故ニ公儀ニ百家技藝ノ僚祿ヲ得レドモ、是一藝ニ於テハ決シテ無シ、有德廟出御シテ王子ノ祠ニ入ラセ玉ヒ、多クノ繪馬ヲ台覽シ玉フニ、其中名家連中ノ俳諧集句ヲ挂テ有リ、近習ノ中是ヲ嗜ル者御覽ヲ奏メ奉レドモ、顧眄モシ玉ハズ、御殿ノ中ニ御連歌ノ間アリ、毎年正月十一日連歌ノ御儀式アリ、連俳ノ差別ト云ハ格別易レル事ニモ非ズ、朱紫ノ差ナリ、譬ヘバ「武藏野ハ月ノ入ルベキ山モ無シ」、連歌ニ、「芒花ガ裾ニ懸ル白雲」、俳諧ニ、「草ヨリ出テ草ニ入りケリ」、又連歌ニ、「手ヲ挂テ折ラズニ戻ル櫻哉」、俳諧ニ、「一枝ハ折テモ、トル櫻哉」、斯ク少ノ違ニテ、溫雅野陋ノ分アリ、右兩句ヲ考ヘ、人ヲシテ溫和優雅ナラシムルニ孰レガ益有ルヤ、併セ稽フベシ、古ヨリ詩賦・和歌・連歌ニ賭物ト云事曾テ聞ズ、俳諧ハ笠附前句ト云テ、博賭ヲ致ス事、始メテ俳諧ノ起リシ時ヨリ有ル事トミュ、其故ハ太宰ガ獨語ト云書ニモ誹レリ、俗ニ之ヲ上品白癡ト呼ブ、特ニ他邦ノ遊民モ行

脚ト號シテ、毎歲夥ク來テ領内ヲ廻巡シ、自國ノ穀祿ヲ素餐スルハ、富饒ノ害毒ノミナラズ、第一兵備ノ妨ゲナリ、恢復ト云ハ法律制度ノミニ非ズ、民俗ヲ古ノ淳樸ニ恢復スコトナリ、人氣サヘ變化スレバ、風俗ハ一時ニ改マル者、是レ故ニ近來僧父ノ邇メシ野陋ノ俗ト爲ンヨリ、我邦神代ヨリノ風雅ニ移サバ先人ニ大功ト云ヒ、民ヲシテ優和ニナラシムベシ、左レバ俳諧ヲ詩作ニ致セト云ハ、屈ク事ニモ非ザレドモ、連歌トナスハ最<sup>イトヤスキ</sup>容易事掌ヲ還スガ如シ、連俳共ニ心ヲ練ルハ易ラザレバ、人道ニ益アル事ヲ善トスレドモ、唐人ノ頗僻染着スルハ常ニシテ、是派ニ入ル者門徒ノ佛ニ淫スル如ク、一令ニテハ服スベカラズ、由<sup>レ</sup>是連歌師數人、都會毎ニ一人ヅツ住宅致シ、市中ノ者ドモ一月ニ三回、又ハ五節句或ハ暇隙ヲ以テ詠集シ、師家ニ圈點ヲ受ル法ヲ建テ、民俗ヲ溫淳ノ道ニ誘掖スベシ、庸人ハ所詮遊樂無クテハ居ラザルユヘ、是道ニ引入レテ人氣ヲ一變スベシ、是則遠キ慮リト云者ナリ、今時ハ他邦舉俳諧ヲ嗜ムニ、我國ノミ傀然ト天下ニ拔ンデ、復古ノ風ニ致サバ、領主ノ英名海内ニ響キ、他邦ノ君子瞻望スベシ、正名既ニ他邦ニ耀カバ武ハ自ラ強シ、又自國ニ本歌ニ志ス者有フバ賞ヲ與ヘヨ、目前興利ノ如キハ、卑キ商賈モ爲ス所ナリ、斯ル移風ヲ眞ノ恢復ト云者ナリ、「興ニ一利不如除一害」ト云、一害ヲ除ケバ、一利自ラ生ズ、凡舊來ノ事因循スルハ定法トイヘドモ、年ヲ經レバ漸々模糊シテ、濯滌セズンバ終ニハ國家ノ害ト成ル事モ有リ、故ニ治平久シケレバ、其間ニ賢君興テ恢復スルヲ、之ヲ高宗ト稱ス、庭ニウエテ愛スル姬小松モ、年ヲ經レバ枝葉榮エテ、檐ノ障リトナル事ア

リ、國ノ大事ハ我<sup>オカ</sup>ト祭ニ在リトイヘリ、祭祀ハ事ヲ嚴敬ヲ本トスベキニ、淫祀ト云事有リ、是レハ神ヲ洩<sup>イダサ</sup>スノミナラズ、國害ユヘ過ズンバ契ハズ、茲ニ一條ヲ出スニ、領知異ナレドモ、神祭ニ就テノ惡弊ユヘ其ノ故ヲ述ブ、二月廿望ハ豐前彦山ノ神祭ニ、諸國ヨリ衆人參詣ス、是時雨三日、筑前上座・下座兩郡ノ者トモ、貧富ヲ分タズ、男女老弱數千人道路ニ群集シ、往來ノ者ニ蒔々ト人毎ニ呼ハリ、袖ヲ引キ手ヲ執テ縋リ、立塞ツテ錢ヲ乞ヒ、參詣ノ者大ニ難澁ス、如何ノ事ト問ヘバ古例ト云、余按ズルニ、其始ハ窮民一兩輩ヨリ漸々繁息スルトミユ、其中ニハ美服シテ、富家ノ婦女壯男モ雜沓スルトミユ、四民各其業有<sup>ア</sup>身ヲ養ヘリ、民ヲシテ丐乞トスルハ、君ノ耻辱ヲ他邦ニ售ルト云ベシ、或ハ他邦ノ祇園會ニ、數拱ノ巨木ヲ數百人ニテ運ビ、築山ナドヲ造リ、或ハ綱引ト云テ、二三園ノ大繩ヲ絢セ之ヲ互ニ牽テ喧嘩ヲ致シ、又ハ神輿ヲ翫物ニ致シ、衆人集レバ終ニハ口論爭鬭爲ザル事無シ、又西國一二封ニ於テ、地狂言ト名テ、庶人穢多同様ノ俳優ノ業ヲ致シ、其中親兄弟死スレドモ、三日ノ喪モ勤メズ、爭ヒハ始終絶ヘズ、故ニ四十八喧嘩シテ成就スルト云ヒ傳フ、以テノ外ノ惡弊ナリ、是ヲ催ス土ハ必姦亂ノ風壤ナレドモ、上トシテ禁止セザルハ、淫風ニ醞釀スルト云者ナリ、是等ハ皆淫祀ニテ、未ダ神道ノ本意ヲ知ラザル故ナリ、斯ク無益ノ事ニ民力ヲ費シ、爭鬭ヲ致シ姦風ヲ興スハ、決シテ神慮ニ契ハズ、却テ神罰ヲ受レドモ、民ハ愚ニシテ是ヲ悟ラズ、故ニ上タル人ヨリ禁止シテ神慮ニ協シメ、清潔安靜ニシテ參詣シ、嚴敬ニ爲ベキ事、國家安全ノ法ナリ、周禮ニ、國ノ大祭祀、令<sup>レ</sup>禁<sup>ニ</sup>

無頭「トハ是ナリ

大猷公ノ世ニ、醫者ニ乘輿免許ノ制有リシハ、風雨・泥土・暗夜ニモ、往來無テ叶ハザルユヘ、慈恕ヲ垂  
玉フトミユ、醫ハ賤業也トイヘドモ、今時ハ衣食住ノ行粧宛モ士大夫ノ如ク、轎車ニ乗レバ謝料モ重  
シト心得テ、曾テ謙讓ノ道ヲ知ラズ、邊鄙ノ野巫醫ニ至ル迄、壯年ノ身ヲ以テ一里ノ途ニモ乗轎致ス  
ユヘ、病家ハ輿僮ノ賃、酒食給ノミナラズ、ウレヒイタム恩戚ノ中ニ大ニ繁雜シテ、至極ノ難澁ユヘ、貧家ノ者ハ  
之ガ爲ニ迎ユルヲ得ズ、還テ不仁之術ト云者ナリ、是故ニ縱ヒ救濟ノ術有トイヘドモ、又一方ニ民難  
ノ事ヲ爲セバ、是ヲ銚盾ト云者カ、治國者ハ民難ヲ除クヲ第一トス、故ニ乘轎ハ他邦ニ往クノミ免ジ、  
七十以下ノ者ハ官醫共ニ禁止スル事仁政ナリ、且人ニ害ナル事多シトイヘドモ、醫ニシテ大酒ホド惡  
キハ無シ、司命ノ重職ニ在テ、日ニ酔テ泥ノ如ク泥ハ虫ノ名往處ニ隨ヒ酒宴ヲ設クル、病家ノ難澁幾許ゾ  
ヤ、斯ル舉動ハ民間ニ居ザレバ、貴キ人ハ其實情ヲ知ル事能ハズ、既ニ午日ヲ過レバ熱醉ニテ、急病  
ニモ倂擬シテ、二度三度ノ使ニ及ビ、夜ニ至レバ醉眠シテ往カズ、若シ醉後ニ來テ診候スルトキハ、  
酖醢シテ神氣情燼スルユヘ、望聞問切モナク、一タビ眩ヲ折ル事モナク、唯僥倖ヲ恃ムノミ、病テ藥  
セザルヲ中醫トスルハ確言ナリ、「夫醫之爲言、意也」ト云、出後漢郭玉傳「意謂於ニ無形之所、用心思慮」  
出疏運註是意ノ字ヲ深ク稽フベシ、其思慮ノカハ、先古人ノ意ヲ假ズンバ、喻ハバ大詢ノ規矩準繩ヲ棄  
テ、自ラ思慮スルガ如シ、豈迂遠ナラズヤ、今時ノ者ハ、學精ノ苦シサニ、方術ハ別ニ在トコイ謀言シテ誣

レドモ、生來ノ俗智ヲ以テハ、終身腸ヲ練リ工夫スレドモ、所詮洞達スル事能ハズ、又文學シテ大抵書ノ讀ル程ニ至レバ、自職ヲ忘レテ益ニモ立ザル書法・詩作等ニ志シ、曾テ醫術ニ心ヲ竭サズトミュ、是ハ邦ノ風壤ニモ由ル事ナリ、古人ノ書ヲ著スハ、一編ノ雜書トイヘドモ、天性英才有ル上ニ寢食ヲ安ンゼズ、事々物々ニ當テ心魂ヲ碎キシ人々ナリ、然ルニ今時ノ醫ヲ學ブ者、庸才ノ身ヲ以テ、十七八ヨリ書ヲ看ル隙ヲ愛ミ、酒ヲ吞ム隙ヲ愛マズ、放縱ニ身ヲ保チ、已ニ廿歳ヲ逾レバ、游學ト號シテ祿醫ハ君祿ヲ費シ、郷醫ハ村里ニ<sup>タシ</sup>餽錢ヲ貪リ、京大坂ニ<sup>ブラブラ</sup>蹉跎トシテ空ク數年ヲ過シ、歸レバ直ニ妻ヲ娶リ、開業シテ世間ニ交接ス、何ノ日カ研究センヤ、非儒不<sup>タシ</sup>醫ト云事ヲ知ラズ、學デ術ヲ工夫スレバ、虎ニ羽翼ト云者ナリ、醫ニ限ラズ、文學トイヘドモ淺深ハ土ノ都鄙ニ據ベカラズ、便チ其身ノ精力ニ在リ、余昔三都及ビ諸國ノ名家ニ贊ヲ執リ、明試シテ知レリ、<sup>フシニヤク</sup>蒞莠ト學者ハ田舎ヲ善トストハ、實情ト云ベシ、今世ハ古方ハ類聚方、後世ハ方彙、或ハ雜方、又ハ蘭方ナドハ口先バカリ<sup>マダ</sup>誑ニシテ、文學モ碌々通曉セズ執<sup>サシ</sup>七スルハ頗ル人命ヲ慢ルト云者ニテ、畢竟上ノ制度不<sup>レ</sup>嚴ユヘ、曾テ厭ル所無ク、漸ク醫道衰頽ス、昔ノ醫者ハ縱ヒ放蕩ノ者トイヘドモ、又職分ヲ大切ニ愼ムトミュ、其故ハ地黃・芍藥・牡丹皮等ハ鐵ヲ忌ムユヘ、<sup>シシナウ</sup>舉眞鎗庖丁ヲ持シニ、今時ハ無用ノ器ト、皆棄テ一人モ持者ナシ、適舊家ニハ遺物ト云テ藏メシ所アリ、僅一二味ノ禁忌ニサヘ別ニ庖丁ヲ作り置ヲ觀レバ、人命ヲ重ンジ、恭敬ナルハ、萬事ノ肅愼如此ト思ハル、此事久キニモ非ズ、五六十年前ノ事ト聞ク、又藥製モ酒・酸

鹽・蜜等、古人其功驗ヲ明試シテ置レシニ、今時ハ迂遠ト云テ庖丁藥製等夢ニモミズ、剩ヘ其主功更ニ據所モナキニ、甘草ハ其估十分一ノ甘茶ヲ用ユ、僅カ五六十年ヲ隔テ、斯ク迄人心ノ衰變ストハ、元來衣食住ニ侈リ、資給ノ不足ヨリ無ニ已事ニ正心ヲ失ヘリ、偕今ノ世ニ醫師ト稱スレドモ、師トハ名ケ難シ、醫師ト云ハ古ノ官職ナリ、周禮ニ、天官冢宰ニ屬シ、衆醫ノ長ニテ、醫者中ノ政令ヲ掌ル、故ニ云ク、「凡邦之有疾病者・疢瘍者、造焉則使醫分而治之、歲終則稽其醫事、以制其食、食ハ十全爲上、十失一次之、十失二次之、十失三次之、十失四爲下」、如是醫師ヨリ衆醫ヲ分テ病家ニ造シメ、歲暮ニ各其療治ノ人數ヲ錄シ、全否ノ多少ニ從ヒ、ヒヨリ祿ヲ増減セラル、今細川家は例ニ據ル事カ、國中ノ醫者皆療治セシ人數死生ヲ記シテ、歲終ニ官ニ納ム、蓋シ鄉醫ユヘ祿ノ増減ハ無シ、若シ高名ナレバ庸セラル、然シ大病ニハ二人三人會合シ、又中途ヨリ他ノ醫ヲ恃ム事アリ、斯ルトキハ何レノ方ヨリ書出スヤ未ダ其ノ詳ナルヲ聞ズ、或邦ニ祿醫何十人、一列ニ十二人扶持ニ究メ、其人ノ高名ニ由テ一代加祿スルハ、周制ニ沿フトミユ、公儀ハ以來醫者ヲ撰舉セラル、ニ、年ニ從ヒ漸々衆ク爲テ、凡三百餘人ニ及ビ、其中術ニ達スル者百人ニ一二人ノミ、由是常憲廟ノ世元祿年中、醫員ヲ沙汰シテ、遊惰ノ者ヲ改易シテ減少シ玉フ、大祿ヲ得ルユヘ、祿ヲ恃テ懶惰ナリ、鄉醫ハ七ヲ恃ムユヘ精力セズ、故ニ古來名家ト稱ルハ、大祿ノ者ニハナキトミユ、或鄉醫官醫ニ向テ、吾曹ハ無祿貧生ニテ學ビシニ、祿有テ出精セザルハ<sup>ブシヤウ</sup>嫌懶ナリト云フハ醫ニ限ルベカラズ、今武士ト稱シテ、祿

ヲ得ル者幾千萬ゾ、其中文武上達ノ者幾許カ有ル、天下皆爾リ、蓋シ時ノ政事ニ因テ衆寡有リト云ハ  
實情ナリ、漢朝ニ大醫令後漢書百官志ト云ハ、周禮ノ醫師ニ當レリ、漢律、「至醫巫技藝、各自占所爲、而

計其息十一分之二、以其一爲貢、則是直攫取之耳」通考

ニ出

ト云、占ハ今ノ運上ニ當レリ、是制度ハ猥

リニ與ラザル様ニ致ス事トミユ、今時ハ醫道廢レテ、難キ事ニ非ズト思ヒ、穢多ニ至ル迄俗醫ト呼リ、  
又世業ノ者モ嘗テ學バズ、執七スルユヘ非命ノ死鮮カラズ、由「是先づ俗醫ヲ停止致シ、都下ニ醫學  
寮ヲ建テ、領中ニ高名ヲ搜リ、選舉シテ醫師ノ官ヲ授ケ、領中ノ醫生一人モ遺サズ勤學致サセ、高弟  
ヨリ病家ニ分テ、代脉サセテ謝料ハ頒チ與ヘ、其夜ハ師ノ前ニ出デ、面々ノ藥調、其法證相對ノ病案  
ヲ書キ、文章出來ザル者ハ口演シ、講義討論セバ、術ハ日ニ從テ上達スベシ、塾壁ニ學則禁誡ノ條目  
ヲ上ヨリ懸置キ、若シ媮惰ニシテ大酒ヲ嗜ム生徒ハ、廢業シテ終身執七ヲ禁ジ、農工商ノ版ニ入ルベ  
シ、偕高弟ヨリ段々撰揚テ、已ニ十年ノ期ヲ以テ反省ノ時ハ、僧徒ノ古例ニ沿ツテ度牒ヲ渡シ、故郷  
ニ還テ開業ヲ許シ、其郡ニ禁酒・達術・伎倆ギヤウノ者ヲ醫長ト爲テ教令ヲ致サセ、毎年孟春ニ一會シテ、講  
習スルヲ定例トシ、大酒・博賭・淨留利・三絃等嗜ル者ハ諫誚シテ、聽ズンバ親疎ナク官ニ誣ナバ、醫風  
忽然ト一變スベシ、筑前ニハ一郡ニ醫長有テ、毎年二月比集會シテ講習スルヲ古例トスル事カ、又醫者  
ヲ妊婦ノ目附ト爲シテ、妊娠毎ニ告ズシテ叶ハズ、其郷ノ醫者ヨリ毎年其人數ヲ記シテ官ニ納ム、寔  
ニ良制トスベシ、余先年不圖右ノ會筵ニ遇ヒ、座上ノ舉動ヲ觀ルニ、講義等會テナク、徒大酒會ニ

テ、噉笑譎譎ヲ致スノミ、何ノ益カ有ンヤ、故ニ法ハ立テモ却テ後ノ憂トナルユヘ、始能ク後年ヲ慮テ立ルベシ、右ノ醫學寮モ、倘其師賢才ナラズンバ人敢テ信ゼズ、是理ヲ考ヘズ、上ヨリ法ヲ立テ、執拗スレバ、人皆苛政ト云ベシ、蓋シ食給過分ニ減ズル法ヲ立ナバ、仁慈ニ服シテ必進ムベシ

カマンジヨウ

俚諺ニ云フ、錢ト人形ハ使様ニテ、僅ノ財ヲ以テ大ニ益有ル事アリ、大金ヲ費シ小功有ル事モ有リ、大功ハ國家ニ係ル<sup>カ</sup>事ヲ主トス、右ハ施藥院ヲ建ルユヘ、於今諸國ニ有ル所アリ、最慈愛ノ法トイヘドモ、又右ノ醫學寮ヲ建テ、領中ノ醫生ヲ集メ、食給ヲ二十文餘ニ究メ、其不足ハ上ヨリ惠マバ、一年人數ノ多少ニハ由レドモ、大抵三四百ニ積リ、此ヲ醫學料ニ費シ置カバ、貧病モ欣ンデ入塾シ、領中ノ醫者共其ノ仁恩ニ服シテ、互ニ相勵テ精力ヲ盡シ、學術研究スルユヘ、是迄不學無能ノ<sup>トモガ</sup>治療ヲ爲セシニ殊易リ、其施ス所ノ功大ナレバ、施藥院ノ法ニモ勝ルベキカ、仁君不能愛ニ不軌之臣ニト云事アリ、大祿ヲ受ケ情放蕩ニテ、大酒博賭ノ輩ハ祿ヲ濫ジテ、右寮ノ生徒料ト爲シ、領内貴賤ヲ擇マズ、秀才ヨ大醫令ニ任ジ、領中ノ醫者ニハ統テ度牒ヲ渡シ、繼日毎ニ引替ヘ、若シ度牒ナシシテ業ヲ爲ス者ハ問ニ處シ、大酒・博奕ヲ致サバ度牒ヲ取上ルベシ、是法ヲ建レバ國人非命ノ死ヲ免レ、國家ノ仁政是ニ過ルハ無シ、諸國學家臣ノ徒ニ、日夜武術ヲ勸マテ相勵セドモ、合戰ハ抑末ノ事ナリ、今<sup>フナバ</sup>視前ノ人ノ死生ニ係ル<sup>カ</sup>醫業ナラズヤ、是理ヲ能考フベシ、蓋シ右寮ニ蘭方ヲ加レバ、衆人好マザルユヘ、久シカラズ廢スベシ、又領内ニ他邦ノ醫者ヲ猥リニ入ルベカラズ、名醫ハ召ス事勿論ノ事ナレド

モ、謄ニ云除處ノ正直人ヨリ、所ノ盜人ヲ良トス、左モ有ルベキ事カ、醫ニ限ラズ、四民共ニ其人ヲ撰マズンバ、旅人ヲ止メテ善事ハ減多ニ無キ者ナリ、世間ノ唱ヘニ大醫空師ト云ハ、僧醫ノ二ツニ在リト云ハ、左ナル事ト思ヘリ

謝料ノ事、公領ノ地ニハ間ニ施藥院ヲ建玉フ所アリ、唐津水野初代ノ比ハ、家臣ノ謝料ハ悉ク上ヨリ賜フ掟トヒシ事アリ、疫症大流行ノ時ハ、窮民ヲ救フハ有前ナリ、今諸國ヲ觀ルニ、五節句ニ致ス所アリ、盆節季ニ致シ、或ハ極月廿日ヨリ責債スル所アリ、或ハ農家ハ九月ニ致ス所アリ、或ハ翌年正月十二日、神農祭ニ酒會ヲ催シ持參スル所アリ、是法ハ甚ダ惡シ、或邦ニ不納ノ者ハ、一貼二十文ニ定メテ庄屋ニ書出シ、年貢ニ加ヘテ取立テ、五文ヲ雜用トシテ醫者ニ渡ス處アリ、又郷米ト名ケテ、麥米庄屋ヨリ毎戸取立テ與ユル處アリ、今清朝ノ醫者ハ躬ヲ執七セズ、藥法ヲ記シ、藥店ヨリ調合シテ病家ニ遣ハシ、醫者ハ診脈ノ謝儀ヲ收ルノミ、中華ノ醫ハ病人ヲ大事ニ致ストミユ、唐館ニ入テ醫者ノ執ヒヲ觀ルニ、先ヅ紙ニ藥法ヲ記シ、藥ノ分量ヲ一々衡ハカリヲ以テ稱ハカツテ調合シ、右ノ藥法ヲ書シ、一紙ヲ添テ遣ハスヲ見シ事アリ、是ヲ以テ今ヲ觀ルニ、本朝ノ醫者ハ兪忽トミユ、醫ハ富家ヨリ取テ、貧者ニ惠ムハ尤トイヘドモ、亦醫ノ廢カサニ由テ已ニ愈ユ、家業ニ却テ酒食ヲ爲セドモ、一錢モ報ハザルハ恩義ヲ忘却スルユヘ、信義ノ道ニ非ズ、醫業ハ他ヨリ結構ナル職ト思ヘドモ、其情ヲ思ヘバ亦美ム事ニ非ズ、近年藥種ハ昂直ニ及ビ、始メ數十年ノ財ヲ費シ、既ニ開業ニ至テハ、癘毒痔漏或ハ惡瘡ノ

臭氣、血糞ノ汚穢、人皆鼻ヲ掩ヒ忌嫌フ所ナリ、或ハ寒夜ノ暖睡ヲ起サレ、或ハ炎天ニ農家ノ瘟疫痢疾、其臭氣堪難キ事、縱ヒ金錢ヲ予ユルトイヘドモ、人孰カ諾センヤ、醫ハ職分ユヘ無ニ已事之ヲ厭ハズ、手ヲ秉リ腹足ヲ撫ルニ非ズヤ、然ルニ其恩ヲ報ザルハ甚以テ無道ナリ、是情ヲ考ヘ不納ノ者ハ、極貧ノミ惠ミ、其餘ハ每秋庄屋ニ書出シ、庄屋ヨリ五文ノ雜用ヲ以テ取立ル事最宜シ、又或邦ニ穢多ドモ醫業ヲ致ス處アリ、之ヲ禁ゼズンバ、國家大耻辱タルベシ

藥店ニ、甘汞・砒霜・石與・石班猫ハ醫者ヨリ一判ヲ取テ賣リ、其餘ハ一厘トイヘドモ禁制ノ事上ヨリ制紙ヲ渡シ、壁間ニ掛置ベシ、五分迄ハ孰ニ賣テモヨシト心得者モアリ、次ニ輕粉・阿片・登呂志須・丹礬モ右ニ同ジ、俗間ニ瘡毒・腫疽・疥癬等ニ分量ヲ知ラズ、自ラ誤ル事多シ、次ニ牛漆、是モ醫者ヨリ外賣ルベカラズ、孕婦墮胎スルニ專ラ此ヲ用ユル事多シト聞及ベリ

近年民俗盜獵ト成テ、鑿空師ドモ財貨ヲ奪ント偽藥ヲ拵ヘ、天大根ヲ御種人參ニ作リ、牛角ヲ犀角ニ修、桔梗・前胡・防風ヲ廣東ニ作リ、和大黃ヲ唐物ト誑騙シ、紅花ヲサフランニ拵ヘ、烏賊ノ腸ヲ熊膽ト偽リ、其外種々ノ贗物ヲ以テ、國中ニ徘徊シ衆人ヲ欺キ、或ハ質入レト致スユヘ、良民之ガ爲ニ苦ム事喻ユルニ物莫シ、是故ニ一品トイヘドモ藥店ノ印判無レバ往テ販ヲ禁制シ、若シ疑キ物ヲ賣リ巡ラバ、早ク官署ニ訟ベキ令ヲ下シ、之ヲ刑シテ、東境ナラバ西界ニ引廻シ、酷罪ニ處セバ、他邦ノ鑿空人ドモ、嚴刻ノ明政ニ警テ敢テ疆ニ入ル事ヲ得ズ、是衆民ノ難ヲ救フ仁政也

諸店ニ鼠殺蠅殺ヲ賣ル事、堅ク禁止スベシ、人ヲ毒殺スル事アリ、次ニ博奕加留多ヲ賣ル事重ク禁ベ  
ズンバ、己ガ利欲ヲ以テ國害ノ基ト爲ル、若シ禁ヲ冒サバ、闕所ノ罪ニ處シテ官ニ没ルベシ、淨留利  
及ビ三絃ノ者、自國ノ者ニ教ユルハ、風俗ヲ亂ス國害ノ始祖ナリ、彼ガ嗜ミニ從ヒ、俳優ノ版籍ニ入  
ル事宜シ、中華ハ雜戶ノ徒ヲ大ニ忌デ婚ヲ爲サズ、我邦モ俳優ヲ賤ンズル事中華ニ同ジ、然ルヲ況ヤ  
自ラ爲スヲヤ、四民各職アリ、恒ノ業無キ者ヲ雜戶ト名ク、是等ノ事流行ノ士ハ、必風俗惡ク姪色ナ  
ル者ナリ、上ニシテ之ヲ許スハ、我民ヲシテ荒姪ナラシメ、罪人起レバ之ヲ罰スルハ、躬ラ惡草ヲ播  
テ亦耘ルニ異ラズ、亦替者五舌等庶人ヲ弟子ニ致ス事、是又姪風ヲ勸メ媒ナリ、故ニ盲人ヨリ外ニ指  
南スル事堅ク禁ズベシ、銀細工ヲ領中ニ禁ジ、次ニ三絃細工屋ハ一軒ニ致シ、歌三絃ノミ造リ、之ニ  
ハ三絃屋ノ印ヲ居エ置キ、替人五舌等印無キ品ハ買ムベカラズ、諸淨瑠璃・三絃ハ、細工ハ勿論張替ヲ  
モ禁ジ、歌三絃ハ銀五十目以上ノ估ハ禁ズベシ、替者ハ上品ハ用ルニ及バズ、近年士庶人共其子ノ愛  
ニ溺レテ姪色ヲ教ヘ、紫檀・鐵刀木・花欄等ノ唐木ヲ以テ造リ、十兩二十兩大枚ノ黃金ヲ費シ、我子ニ  
姪色ヲ誘ル事、實ハ愛スルニ非ズ、惡ムト云者ナリ、畢竟上ヨリ教令無キユヘ、風俗ニ惹ルニ由レリ、  
下ノ風俗ハ全ク上ニ在事也

或邦旅宿ニ客ノ上中下ヲ究メ、食給フ上ヨリ立テ、壁間ニ糊ル處アリ、最良制ナリ、時ノ豐凶ニモ由  
レドモ、大抵平準シテ究ルベシ、今時ハ人心水破ニ成テ、匱饉ニシテ利ヲ貪ル故、旅人國政ノ届カ

ザルヲ誹ル事アリ、由<sup>レ</sup>是制法ノ一紙ヲ壁間ニ糊セ置キ、第一茶代ヲ取ラザル事、第二洒掃奇麗ニシ  
丁寧ニ會釋<sup>（汁カ）</sup>フベキ事、上客ハ一重一菜ニテ二百文、中ハ一重二菜百五十文、下ハ一重一菜百二十文、  
座敷夜具一切是ニ準ジ、寄錢ハ互ニ申シ談ノ事、右ノ條目ヲ建ルベシ、斯ル定ハ外夷迄有ル事トミユ、  
咬啗<sup>ジャガタ</sup>巴國モ、南方ノ一都會旅舍ヲ三重樓ニ作り、第二重ハ上客ト次席ヲ究<sup>イ</sup>テ、食代ヲ定ルヨシ、右  
ニ限ラズ、工商一切各其職業ニ應ジテ、法度ノ條目ヲ渡シ、舉壁間ニ糊置カバ、平生之ヲ視テ敢テ忘  
レズ、大ニ益有ル事ナリ、條目ノ次席ハ大概征權部ニ出ス

武藝ノ士鄉村市中ニ入テ、擊劍拳法等ヲ指南スルヲ堅ク禁止スベシ、三民ノ與ラザル事ナリ、庶人ハ  
柔和忍辱ナラズンバ貧窮ノ本ナリ、<sup>ソウフ</sup>僮夫<sup>イヤシヤシ</sup>武術ヲ學ベバ、剛氣ヲ生ジテ人ヲ謾リ、常ニ其藝ヲ試ント、聊  
ノ事ニモ爭論ヲ嗜ム者ナリ、或民拳法ヲ稽古シテ試ント思フ折ニ、夫婦喧騰起レバ時至リシト、投轉  
シテ時ヲ移セシ者アリ、武ハ烈キ者ユヘ、武藝ノミ専ラ勵ム國ハ、民ノ氣質荒キ事ハ、其國ニ入テ視  
レバ大體相分ツベシ、故ニ「武不可觀」ト云事アリ、是意ヲ考ヘ、武場ハ學校ノ中ニ建テ、奴僕<sup>ジャツ</sup>丁奚  
ハ勿論庶人ニ決シテ見セズ、一時ノ仕合トイヘドモ、道場ノ外ハ禁止スベシ

世俗ニ燔<sup>ヤシ</sup>太リト云テ、火事ノ後ハ盛エルト云ハ、意味有<sup>レ</sup>事ナリ、諸處ノ火災後ヲ觀ルニ、大率俗說  
ニ差ハズ、其故ハ火後困窮ニ及ビ、必至ニ成テ晝夜精力スルユヘ、再ビ富饒ニ及ベリ、年後モ此ニ同ジ、  
米價下低スレバ必惜ル、是庸人ノ常ナリ、是ヲ以テ觀レバ、人ノ貧富ハ彌々情・精ノ二ニ決ス、「大福在

天、小福在勤」トハ是事ナリ、故ニ初卷ニ紀セル通り、信州松代領恩田氏ノ恢復ニハ、諸法度ヨリ先  
一番ニ精力ヲ勤ム、國人精力スレバ其領地相倍ス、小國トシテ大國タラント欲セバ、地ノ廣キヲ願ハ  
ズ、徒口ノ民・僧・巫・朱・驥・雜戸ノ遊人ヲ減ジ、四民一圖ニ精勤ヲ勸ムベシ、之ヲ誘ルニハ良民ヲ賞シ  
惰民ヲ罰シ、政道明カナレバ、自ラ精勤スル事掌ノ中ニ在リ

大學ニ、「物有本末」ト云ハ、唯修身ノミニ非ズ、一切ノ事統テ本末アリ、國ノ習弊ヲ改ルモ、其根  
本ノ萌ス所ヲ考ベシ、譬バ蔓草田園ニ蔓延スルニ、幾回之ヲ耘ルトイヘドモ、盡ルト云事決シテ無シ、  
其根ヲ搜リ之ヲ截タバ、一遍ニシテ絶エ、再ビ身體ヲ勞スルニ及バズ、古來ノ人皆喪身滅家、凡一  
切ノ惡事ヲ生ズル、其根元ハ即チ酒・色・奕ノ三ニ在リ、盜賊ヲ憂ヒナバ博賭ヲ禁ゼヨ、博賭盡レバ盜  
竊自ラ盡ルナリ、謀言コトバ・謀圖チカラ・圖賴等、恒ノ産アル者ニハ、減多ニナキ者ナリ、上ニ政道衰ユレバ是ニ惡  
流行シ、國郡大ニ衰頹シテ困窮スベシ、姪亂ハ刑律重シトイヘドモ、却テ世ニ鮮シトセズ、備前岡山  
ハ餘程嚴刻ニ沙汰セラルヨシ、稱スベキ事ナリ、聖人ノ教ニハ男女不同席、手ヨリ手ニ渡ス事サヘ  
禁制ナリ、然ルニ僧徒ノ說法ハ、夜中男女膝ヲ重ネテ群居スル事絶エザルユヘ、褻親ミテ竟ニハ戲言  
雜談ノ端ヨリ、不義姦通姪奔致スモ、僧徒口ニテハ教ヘズトイヘドモ、態ヲ以テ爲ニ在リ、故ニ大形  
門徒黨ノ村里ハ流行スルトミユ、姪風行ハル地ハ、士商ノ徒ハ旅行ノミ多キユヘ、油斷モナリ難シ、  
若シ姪風ヲ停ント欲セバ、先ヅ僧徒ノ說法男女同會ヲ大禁シ、夜中ハ格別、兩彼岸・霜月廿八日、右三

度ノ外ハ寺參ヲ堅ク禁ジ、風呂屋ハ江戸ノ如ク男女別屋ニ造リ、田舎ノ宿驛居風呂モ、一人ニテ兩屋ヲ作り得ザル者ハ、男風呂屋一軒、女風呂屋一軒別ニ建テ、女ノ湯錢モ男同様ニ究ムベシ、是ニテ男女分チ有ヲ人皆知ルベシ、又タ賀宴ノ席トイヘドモ難會ヲ禁ズベシ、世間ノ話ニ、息女シカリ呵ノ後家、御凭ト密通ハ免許ノ様ニ思フハ、以ノ外ノ事ナリ、我藩ハ皆共ニ死刑ノ律也、最上ノ明斷ユヘ、旁ク民間ニ話ワザ知ラスル事大ニ善也、「成湯大聖、觀ニ野鳥ニ而有ニ獵逐之失、定公賢者、見ニ女樂ニ而棄朝事」ト云、日ニ視テ其情起ルハ、天下ノ人皆爾リ、蓋シ女色ハ大惡ナレドモ、二人ノ害ニテ、又老ニ及デ止ム事モ有リ、博賭ハ一人ニテ催サレズ、黨ヲ設ケテ良民ヲ引入レ、衆人ノ害ト爲リ、流行スルトキハ其村里數年ヲ歷ズシテ潰ルナリ、故ニ天下ノ禁制トイヘドモ、屈キ難キハ其領主タル人、白臆ニ懈リ不レ嚴ユヘナリ、嚴刻ニ致サバ、上トシテ下ヲ制スルニ、何ノ難キカ有ンヤ、蓋シ怠ル者モ世ニ鮮ラズ、酒欲ニ於テハ一回之ヲ嗜メバ終身止ズ、天下ノ英傑ナラズンバ、ハタ改ムルト云事ナシ、祭主林煥然子ハ弱年ヨリ讀書ニ散レ擣爲ニ酒ヲ嗜ミ、常ニ一友ニ酬酢シテ娛シニ、或時友ニ向テ、酒ハ暇ヲ費シ、財ヲ弊シ、心ヲ亂ス事有リ、我ハ今日ヨリ過ヲ改ルベシト、是ヨリ終身一滴モ飲玉ハズ、余先時謁見セシ時、侍史ヨリ竊ニ是事ヲ聞シ事アリ、夫君子ノ改過如レ之、士トシテ改メ得ザルハ、勇氣ナキ故ナリ、博賭ハ其財ヲ溝壑ニ棄ルニ非ズ、又世間ニ通用スレドモ、飲酒ノ弊ハ始メ稼穡ニ艱難セシ米穀ヲ以テ造リ、一時ノ興ヲ催ス爲ニ腹中ニ棄ルハ、無益是ヨリ大ナルハ莫シ、青砥藤綱ガ十錢ヲ水中ニ

落シ、百錢ヲ以テ投リテ、天下ヲ治ル度量ヲ思ヘバ、大酒ハ其惡博賭ニ過タリ、特ニ暇ヲ費シ徒ヲ呼ビ、ケルヒヨイ酤鬻シテ喧嘩ヲ致シ、親族伍人之ガ爲ニ暇ヲ偷ミ、一村ノ害ト爲ル事多シ、米價高直ニ及ブトモ、

一日モ止ルト云事嘗テナシ、凶年ニハ人皆天ヲ怨ムレドモ、仁德天皇以前ノ如ク、酒ト云物無シバ、大凶年トイヘドモ饑ルト云事有ベカラズ、天地ヨリ五穀ヲ賁ル、天地ノ恩ヲ念ヒ、二盃ヲ一盃ニ減ズル心得アラバ、報恩ノミナラズ、天下ノ人ニ陰德ト云ベシ、殊ニ士人ハ衆民ノ規標ユヘ、君祿ノ重キ事始メ、稼穡ノ勞ル事ヲ推量シテ、一粒トイヘドモ猥リニ費ザルヲ慎マバ、下又上ニ倣フテ慎ムベシ、然レドモ國ノ政道衰ルトキハ、士庶人共ニ酒弊大ニ流行スル者ナリ、故ニ其邦ノ盛衰ヲ知ラント欲セバ、是ヲ以テ察スベシ、一切ノ風俗舉是ニ從フ者ナリ、諸國ノ事ヲ聞ニ、凡諸官署ニ出入ノ商賈等、豪飲シテ動酒ト云、其子細ヲ問フニ、下戸トイヘドモ官吏ニ接ルニハ、勤メテ飲ザレバ親睦セズシテ攀緣ナラズト云、下ハ上ニ倣フ者ユヘ、官吏ニ接ラバ、教ヲ受テ其德ニ化スベキニ、利欲ノ爲ニ行狀ヲ頽スハ甚以テ歎息スベシ、如是自己ノ非ヲ他ニ塗ルユヘ、官ニ入ル者慎ムベキ事ト思ハル、酒ヲ嗜ル者ハ惡キト思フテ、飲ム者ハ曾テナシ、其故ハ聖人ノ宣フ如ク、子ノ愛ニ溺レ、七八歳ノ孩兒ニ酒ヲ飲シム、是愛スルニ非ズ、實ハ惡メル者ナリ、其好惡ヲ試ント欲セバ、暫ク遏テ他アハコフ醇醴ヲ觀ルトキハ慙ニ分ルベシ、アハコフ梧憲漫筆ニ、人ハ閑暇ヲ忌ベシ、日月ノ運行ヲ瞻ナバ、須臾モ休ムベケンヤ、閑有ユヘ大酒ヲ致シ、民ノ妨ト爲ル、陳軫魏國ニ往テ公孫衍ニ向ヒ、君ハ何故ニ飲酒スルヤ、對云、無

事ナルユヘノムト云ヘリ、人酒ニ耽ルハ無事ナル故ナリ、「小人閑居爲不善」ハ細事一云、然レドモ無事ユヘ飲者ハ耽ザル人ナリ、今時ハ百事ノ多用ヲ棄テノムハ一般ナリ、自古君ノ大事ニ至テ事關ク事、敢テ枚舉ニ違アラズ、世間ヲ觀ルニ、小民ハ一日僅ニ二百文ヲ取り、是中毎日酒估寡キハ三四十錢、過レバ百錢ニモ及ブ、飲酒ハ陰晴ノ分チ無シ、日傭ハ晴天ノミ、此勘辨モ無ク、父母妻子ヲ育ム事ハ、勿論一身ヲ養フ事能ハズ、農民ハ秋ニ至レバ先租稅ヲ輸ムベキニ、收納ノ半ヨリ先ヅ釀ヲ釀、或ハ麥梁大豆等收納ノ片端コリ酒肆ニ携ヘ、秋ヨリ夏迄毎戸ノ釀醪四五俵、又奴僕兩三人モ使フ農家ハ日ニ三度ノ飲酒ユヘ、十二俵乃至十七八俵ニモ及ベリ、儲精力スルニ、酒ニ非ザレバ勞ヲ消サズト云ハ、善ヲ誣ル賊言ナリ、下戸ハ如何カナスヤ、仁德天皇以前ノ民ハ、酒ナキユヘ精力セザルヤ、大酒ニ長壽ト云者嘗テナシ、是理ヲ考ヘ、今ヨリ改メテ奴僕ノ給金ハ禁酒ニ致シ、其代ヲ加ヘテ究ル事令ヲ下サバ互ニ利潤ノ法ナリ、一日ニ十五錢ニシテモ、一年ニ五貫四百文、身ヲ賣ル者ハ是ニテ隨分衣類ハ事足レリ、口ユヘ身ヲ勞スルハ無益ノ事ユヘ、余ガ家數人ノ奴僕ヲ使ヒ、是法ヲ試ミル、奴僕等後ニハ大ニ悅服ス、是令一統嚴ニ行レナバ、身ヲ賣ル者領中何レニ往テモ易ラザルユヘ、無<sub>レ</sub>已事<sub>二</sub>下戸ト成リ、口ヲ減ジテ身ヲ暖ルニ非ズヤ、是法風俗ヲ改メ、富饒ヲ闢ク最要トイヘトモ、家主自ラ嗜ンデハ、家僕承服スベカラズ、譬バ、家五段ヲ耕スニ、地ノ礪肥<sub>ヲ</sub>天ノ豐凶、平准<sub>ヲ</sub>テ凡三十苞<sub>ヲ</sub>リ五六苞ニ及ベバ、是ヲ豐作トス、是中本租諸懸共ニ大概十苞、是ヲ中租トス、家屬四口ニシテ、糧モ加ヘ

テ米十六七苞、糞代農具料三四苞、僧徒ノ奉加、及ビ一年ノ資給三四苞、右出入ヲ按量スレバ、何レノ所ヨリ生ズルヤ、況ヤ凶年ニハ其登<sup>ミツリ</sup>右ヨリ減ズレトモ、飲酒ハ止ベカラズ、三年耕、必有ニ年食<sup>ミ</sup>トイヘドモ、百年耕シテモ一年ノ食餘ルト云事決シテ見エズ、凡酒弊ノ多少ハ其邦ニ由リ、又都會ノ地商人黨ハ左迄ハ飲マズトイヘドモ、大抵一國ニ積リ、一戸一日ニ二合五勺ニ平均シテモ、一月ニ七升五合、一年ニ九斗トナル、然バ戸數十萬軒ニハ九萬斛トナル、是ヲ米二斗代ニ致セバ、現米十三萬五千石トナル、是ヨリ下ハ減ゼズトミユ、其土ニ生ズル米穀ハ一年ノ限有リ、飲酒僅一割減ジテモ、二萬四千石ハ白國ニ仍<sup>ナ</sup>リ、是ヲ他邦ニ販<sup>ビ</sup>ゲバ、其估ハ白國ノ富ニ非ズヤ、乃二萬四千石ノ地ヲ他邦ニ求ルニ異ナラズ、大小ノ邦是ニ准ジテ考フベシ、之ハ僅一割ノ事ナリ、況ヤ過分ノ減耗ヲヤ、是理ヲ考ヘ、大酒ノ者各五盃ハ四盃ニ減ゼバ、國家ニ陰功ト云者ナリ、仁徳天皇モ今世ノ酒弊ヲ視玉ハバ、三年ノ租ハ免ジ玉フマジ、古ハ安ニ飲酒スルヲ官吏ヨリ禁ズルトミユ、杜甫ガ詩ニ「吏人橋外少」ト云ハ、尹伯吉丹陽ノ令トナルトキ飲酒ヲ好ミ、友人ニ向テ「可<sup>ニ</sup>同過橋飲、彼處吏人少」ト云ハ、吏人ニ咎ラル、ヲ恐ル故ナリ、酒弊流行スレバ、縦ヒ天災無クトモ、自ラ凶年ニ異ラズ、漢朝ヨリ凶年ニハ酒造ヲ禁ズル事始リテ、我邦モ今ニ於テ是ニ沿<sup>シテ</sup>フ、魏朝ノ制ニ「民三人無<sup>ニ</sup>事飲<sup>レ</sup>酒罰」トハ最良法ナリ、東魏獻文ノ世ニ大酒頻ニ流行ユヘ、釀酤スル者ハ皆死刑ニ處ス、四民各本職アリ、酒肆ハ酒ヲ釀シ、農人ハ耕耘スルハ本職ナリ、民ヲ富サント欲セバ古法ニ沿ヒ、鄉村ハ勿論、士庶人毎戸釀酤スルヲ禁ジテ、酒肆ヨリ

買ル法ヲ建ベシ、是事國家ノ肝要タリ、其術ハ征權部ニ委ク載ス、今世間ノ者自家ニ造レバ利益有ト  
思フハ、小欲大損ト云者ニテ却テ多ク費シ、表ヨリ一物ヲ得テ、裏ヨリ二物ヲ失フガ如シ、故ニ此ヲ  
禁ズレバ民ニ利ヲ與ユル者ナリ、或邦ニ酒肆ヲ鄉村ニ雜居致シ、年ニ從ヒ數副加ユルハ、風俗ヲ汚ス  
ノミナラズ、民ヲ貧シカフシムル者ナリ、畢竟時ノ官吏舊制ニ戻リ、聊ノ運上ニ目ヲ舐テ遠キ慮リナ  
キ故ナリ、又或邦ニ國初ヨリ海岸埠頭及都會ノ地ニ定メ、酒肆今ニ於テ軒數ヲ益ザルハ實ニ良制ナリ、  
備前岡山領ハ大國ニテ封疆尤モ廣シ、然レドモ酒肆ハ古來僅十四ヶ處ニ究リテ

### 岡山

牛憲・下津井・片上・虫明・和氣町・金川・八濱・周迎・建部・天城・西大寺・福岡・鴨方・

埠頭都邑ノミニテ、鄉村ニ雜居サセズ、芳烈公代右ノ酒造ヲ半減ス、抑民ニ儉法ヲ令スルハ、何ノ爲  
ザヤ、奢侈ヲ禁ジテ天道ヲ守フセン爲ナリ、衣服ノ如キハ永ク用ニ達シ、寒氣ヲ凌ギ、又心氣ヲ亂ス  
ニモ非ズ、又他人ノ害ニモナラズ、酒ハ一時ニ米穀ヲ棄ルノミナラズ、心氣煩亂スル者ナリ、一方ニ  
衣服萬事ノ儉ヲ建テモ、酒弊ヲ禁ビズンバ、富國ノ方ハ決シテ見ユベカラズ、政務ニ與ル人ハ昔經酒  
譜篇ヲ覽テ、古聖王ノ治道ヲ監ルベシ、今諸書ヨリ拔抄シテ茲ニ大意ヲ示ス

書曰、文王誥ニ教小子有正有事、無<sub>レ</sub>彝酒、越<sub>ニ</sub>庶國<sub>一</sub>飲惟祀、德將無<sub>レ</sub>醉、厥或誥曰<sub>ニ</sub>群飲<sub>一</sub>汝勿<sub>レ</sub>佚、盡執  
拘以歸<sub>ニ</sub>于周<sub>一</sub>予其殺、又惟殷之迪、諸臣惟工、乃<sub>ニ</sub>酒<sub>一</sub>于酒、勿<sub>ニ</sub>庸殺<sub>一</sub>之、姑惟教<sub>ニ</sub>之<sub>一</sub>、有<sub>ニ</sub>斯明享<sub>一</sub>

東坡云、自漢武帝以來、至于今宋皆有酒禁、刑者有至流、賞或不貲、未嘗少縱、而私釀終不能絕、周公獨何以能禁之、曰、周公無所利於酒也、以正民德而已、甲乙皆咎其子、而甲之子服、乙之子不服、何也、甲咎其子、而責之學、乙咎其子、而尊之食、此周公之所以能禁酒也

漢王莽篡漢始立法、官自釀酒賣之、義和魯匡言、詩曰、無酒酤我、而明語曰、酤酒不食、二者非相反也、夫詩據承平之時、酒酤在官和旨、使人可以相御也、論語、孔子當周衰亂、酒酤在民、薄惡不誠、是以疑而勿食、今絕天下之酒、則無以行禮相養、放而亡限、則費財傷民、請法古今、官作酒、以二千五百石爲均、率閭一廬以賣、廬酒麴也、又釀酒之區也、五十釀爲準、釀用麴米二斛、麴一斛、得酒六斛六斗、各以其市、月朔、米麴三斛、并計其賈、而參分之、爲酒一斛之平、除米麴本賈計其利、而什分之、以共七、入官

東漢和帝永元十六年、詔堯、豫、除冀四州、雨多傷稼、禁酤酒、順帝漢安三年、禁酒、桓帝永興二年、以旱蝗饑饉、禁郡國不得賣酒、祠祀裁足、宋文帝時、揚州大水、沈亮建議禁酒、帝從之、陳文帝時、立權酤之科、唐初無酒禁、後復禁酤、田通考

書曰、「天視自我民視」トハ、天ハ民ノ好メバ祥ヲ降シ、惡メバ禍ヲ降シ、興廢存亡民ノ服否ニ在ル事、影ノ容ニ從フガ如シ、故ニ「王者以民爲天」ト云、後世ノ人君ハ深宮ノ中ニ坐シ、下ハ遠キ者ユヘ、躬ラハ善政ト思ヒ玉フトモ、民ノ毀讚坐シテ知ル事甚難シ、是故ニ堯帝ハ進善旗、誹謗榜ヲ建テ民言ヲ

求メ、又康衢ニ出遊シ玉フ、周公ハ市中茅屋ニ下テ天下ノ士ヲ待チ、齊ノ威王ハ面前ニ誹ル者ニハ上ノ褒美ヲ與ヘ、諫狀ヲ上ル者ニハ中ノ褒美、市町ニ誹ル者ニハ下ノ褒美ヲ與フ、漢ノ文帝ハ淳于意ガ女ノ上書ヲ覽テ、遂ニ肉刑ヲ除キ玉フ、古ノ聖賢諫ヲ求ル事夫如是、實ニ國家ノ盛衰ハ、唯此一事ニ決ス、本朝圓融天皇ハ、儒士ニ命ジテ旁ク天下ニ諫表ヲ搜リ玉フ、又孝德天皇ハ民ノ誹謗ヲ聞テ諫書ヲ得ン事ヲ欲シ玉ヘ、モ、國司長吏等ガ抑ル事ヲ憂ヒ、鐘ヲ禁門ニ懸テ、傍ニ一箒ヲ挂テ詔シ玉フ、其書ニ、諸役人下ノ訟ヲ曲ルトキハ、牒ハコヲ此箒中ニ入テ鐘ヲ撞ベシ、朕占明王ノ民ヲ治ルヲ聞クニ、屋ヲ遠ニ造リテ路行ノ言ヲ聽キ、芻蕘スウダウノ説トイヘドモ、是ニ諮テ師トナス、朕今表ノ人ヲ拜シテ收メントス、願クバ明直ノ心有テ、少シモ隱ス事ナク諫誨スベシト、天下ニ觸レ玉ヘリ、當今ノ人主深ク是詔書ニ監ミ玉ヘ、唐武后垂拱二年、鑄銅匱四、列ニ於朝堂、出唐書百官志今ノ投書箒之ナリ、近江尾州義直卿ノ代、正殿ノ柱ニ投書一封ヲ糊リ、家臣九人ノ姓名ヲ錄シテ、一人毎ニ其惡狀ヲ書キ、畢ニ十人ト記ス、君是ヲ觀テ一人ハ誰ゾト、頻リニ穿鑿有レドモ告ル者ナシ、時ニ祐筆持田治左衛門進ミ出デ、臣能之ヲ知レリト奏ス、因テ其子細ヲ尋ネ玉ヘバ、君ノ惡行十箇條ヲ記シ、近習ニ就テ獻ジ、是事人皆知ル所トイヘドモ、公威ニ恐レテ諫誨ヲ得ズト、敢テ憚ル所無ク内奏スレバ、君大ニ怒テ誅戮スベシト、直ニ執拘ノ者兩三人ヲ造シ玉フ、家老竹腰山城守早ク持田ヲ自館ニ召レ、吾退朝迄ハ爰ニ留、必ズ歸ル事勿レト言ヲ約シ、即時ニ出朝シテ君ニ拜謁ス、君怪デ不時ノ出仕何故ゾト問玉ヘバ、茲ニ賢才忠義ノ浪士一人有

リ、國家ノ爲ニ微庸玉<sup>メシカ、ヘ</sup>ヘト薦ム、君其姓名ヲ訊セラルレバ、持田治左衛門ト云者也ト云、君忽チ氣色ヲ變ジ、彼ハ已ニ死ニ究レリト宣フ、竹腰云ク、臣彼ガ事ヲ聞テ、忠勇節烈人ノ及ブ所ニ非ズ、密奏十條ハ臣固ヨリ知ル處トイヘドモ、是迄竟ニ一諫モ上ゲズ、實ニ人臣ノ道ヲ失ヒシニ、彼今一命ヲ抛チ、先ンジテ諫言セシハ、臣ニ於テモ大ニ愧入リ奉ル、斯ル得難キ國家ノ大寶ユヘ、是非トモ微庸シ玉ヘト、顔ヲ犯シ言ヲ竭シテ爭ヘバ、君乍チ感悟シテ我過テリ、早ク召スベシト仰ユヘ、竹腰大ニ悦ビ朝ヲ退キ、重テ持田ヲ伴ヒ拜顔セシム、卽坐ニ先知ニ加増シテ、重役ヲ命ジ、其後國政ニ與レリ、大猷公ノ世ニ、屢々落領ヲ作リ政事ヲ謗ルユヘ、紕明セント町奉行ヨリ願ヘバ、公許シ玉ハズ、斯ル事ヲ得テコソ、民情ヲ知リ政務ノ輔トナル、以後ハ時ヲ移サズ見スルベシト上意ユヘ、落領ヲ得ル毎ニ直ニ台覽ニ供ヘ、敢テ蔽フ事ヲ得ズ、公又毎日密ニ偵者ヲ市中ニ入レテ、民評ヲ知リ玉ヘリ、板倉侯京都在勤ノ時ハ、市塵ノ茶屋長吉ト云者ヲ召レ、政事ノ民評ヲ聞玉フ、國天下ハ廣大ニシテ、人民衆多ナリ、之ヲ統御スル者ハ一人ユヘ、須臾モ心ヲ佚スベカラズ、「一人之耳、不能盡聽天下、一人之目、不能廣視域中、」之ヲ知ント欲セバ、<sup>カウツウ</sup>鑄笛ニ如ハナシ、<sup>毎爲ニ小孔、可レ久而不レ出</sup>前漢趙廣穎川ノ大守タル時、之ヲ造リテ民情ヲ求ム、今ノ投書匭ナリ、坐シテ世ヲ聽クニハ尤モ便利トス、間ニ不<sup>レ</sup>好者有レドモ、是ハ己ヲ恐レ小量ヨリ生ズ、「人各不<sup>レ</sup>有ニ無過者、過而改爲<sup>レ</sup>善矣、」生知安行ノ聖人トイヘドモ日ニ諫ヲ求メ玉フ、人告テ後之ヲ悟ルハ君子ナリ、「天下有<sup>レ</sup>道、庶人不<sup>レ</sup>議、」改正シケレバ民信服スルハ勿論ノ事ナ

レドモ、治平久シケレバ、自然ト下ヲ侮リ、君ニハ恐レ敢テ諍事ヲ得ズ、或ハ百官賢不肖有テ、各事ヲ執ルニ善不善有レドモ、奮發スル者幾鮮ク、相迭ニ世ト共ニ浮沈スルハ、一般ノ官情トミユ、故ニ是法ヲ建ルトキハ、天ノ視ル所、人ノ指ス所、断然ト分ルナリ、其中縦ヒ纒説マヤク和厄ヤクノ妄説有レドモ、其心大海ノ如ク、小事ニ怒ラズ、正キ道ニ迪ヒ、分斷取捨スベシ、此法ニハ第一下ニ於テ益有ル事アリ、凡民間ニ賭酒・荒姪・姦惡・撒潑等有テ、一類伍人モ手ニ及バザル者在ルニ、斯ル族ハ固ヨリ上ニ訟ユルベキハ、定法トイヘドモ、庶人ノ情ハ然ラズ、若シ訟ヘナバ、遺恨ヲ含ミ後害有ント、臭クサキ物ニハ蓋ヲ爲ヨト、人皆之ヲ忍ブユヘ、益々放縱ニシテ厭フ所ナシ、庄屋等モ又之ヲ恐レテ、唯上ヨリ執拘ノ時ヲ待ドモ、遂ニ其事無キユヘ、却テ上ヲ讞ウケミ、偕一村ニ於テ、渠ハ斯ル惡行モ何事ナシ、儼ハ是事致シテ何力有ラント、唯惡キノミ招イアテトシテ、互ニ放恠シテ竟ニハ習俗ト成レドモ、郡代モ土着ノ人ニ非ザルユヘ、巨細ニ届クベキニアラズ、此意ヲ考ヘ、郷村市街大庄屋毎ニ一誦ヲ懸テ、歳ノ終リニ君前ニ開封セバ、坐シテ民評ヲ昭ニ知ルベシ、防州吉川領ハ政治正ク、民乖ムカズト聞ク、今ニ於テ誦箴ヲ挂テ、側ニ書標ヲ建ツ、其文ニ云ク

一 領内ノ輩、自今仕置、諸人ノ善惡、總テ時務ノ助ニ相成可クカ、又ハ諸役人若ハ役儀ニ誇リ、私曲ヲカマヘ、下々ニ迷惑ノ筋有カ、或ハ頭人ニ押ヘラレ、下ノ情ヲ通ジ得ズ、或ハ纒者ニ妨ラレ、愁眉ヲ開ニ便ナキ者等、其外何事ニテモ、筋ヲ得難キ訴訟アラバ、人柄ノ高下ニヨラズ、其レヲ書

記シ、各判ヲ加ヘ、此箱ニ入置ニ於ヘ、速ニ理非ヲ糺シ、明白ニ沙汰セシムベシ、若又無益ノ事取計ニタラズトモ、咎ニ及ベカラズ、權威ヲ立ズ、傍輩ヲ憚ラズ、直路ニ訟ヘ可ク者也

備前芳烈公國中ニ觸レテ、國政仕置ノ事評判致ス事ヲ、禁制ノ様ニ心得ルヨシ、我等承テ心得ニ爲ル事ユヘ、少シモ苦シカラズト文書ナリ、又政事ニ於テ、上下齟齬スルコトモ有ン、余ガ心得ニ爲ル事ハ、皆申シ聞スルベシト、城外下乘馬場ニ一笥ヲ建置キ、定日ニ躬ヲ開封シ玉フ、或時一封ヲ入ル者アリ、君此ヲ視テ答書ヲ立ラル、八月二十日此諫文アリ、其始メニ、螢飛去ル例モ爰ニ有ル事ナキヤト有リ、又極月初ニ一通アリ、其中ニ譬ヘバ良キ猿樂ヲ、樂屋ノ外ニテ聞居タルニ似タリト云、又十月十五日・霜月朔日・極月十五日、一人ニテ三度ノ上書有之通、其名字其處ヲ詳ニ記シテ、又此笥ニ入レテ、猶尋問スベキ事アリ、若シ顯ハル、事否ニ思ハバ、近習ヲ以テ密ニ尋スベシ、若シ厭フ心有テ其名ヲ隱サバ、初ノ諫書ハ本意相違セント書シ玉フ、是諫書ノ引用ニ、螢飛去ルト云ハ「荆鞭蒲朽螢空去、諫鼓苔深鳥不驚」ト和漢朗詠集ニ載テ、堯帝ノ仁政ヲ稱ス、是ヲ以テ觀レバ、公固ヨリ賢良トイヘドモ、汙吏黠胥其明ヲ蔽フテ、德澤旁ク下ニ泊バズトミユ、申樂ノ喩モ其意味同ジ、公ノ聰明スラ如是、況ヤ後世ノ君、深宮ニ坐スルヲヤ、故ニ賢君トイヘドモ、百ノ執事舉賢能ナラズンバ、身體健強ニテ手足痿痺ルガ如ク、唯心氣ヲ勞スルノミ、公穎敏トイヘドモ、生ナガラノ君ユヘ、猶下民ノ情ニ疎シ、其故ハ密封ニ其姓名ヲ錄セト云ハ謬リナリ、譜代恩顧ノ臣トイヘドモ、君ノ過失ヲ視テ、

自ラ進ミ折檻スル者古來幾稀ナリ、況ヤ下トシテ自ラ諫書ヲ上ル忠良ノ者焉ゾ有ンヤ、若シ上ニ非有レバ、閭巷ニ囁キ、道路ニ目シテ談嘲スルノミ、萬一忠義ノ志有ル者道理ヲ説ケバ、俗吏ノ徒上ヲ憚ラズト抑ユルユヘ、胸ヲ摩リテ天ニ籲ルノミ、縦ヒ漢ノ朱雲、又ハ持田ガ如キ者有リトイヘドモ、辛慶忌、竹腰ガ蹤ヲ踐者世ニ鮮キナリ、萬民ヲ馭スル身ハ、萬民ノ情ニ處スベシ、由レ是鑑常密書ハ其姓名ヲ糺スベカラズ、其姓名知レストイヘドモ、其言ノ善惡ヲ分斷シテ可ナリ、今諸國法度ノ箇條備レドモ、賞善ノ條目未ダ有ラズ、因テ芳烈公ノ條目ヲ爰ニ舉グ

一 下々ニ居事隱シ候而知ザルノ間申聞セ度候、何レモ書附ヲ封ジ候而、銘々名ヲ書附可レ申候、口限指圖ヲ以テ、此方ニ受取可レ申候

一 上ハ老中ヨリ下百姓町人ニ至迄、善事一ヶ條ニテモ見聞候事殘ラズ書附可レ申候、善事ハ品々有レ之候得共、荒増左ノ書附候

一 日比孝行ナル者、如何様ノ孝行有レ之事

一 子ヲ能育候者、如何様ノ育様有レ之事

一 忠節ナル者、如何様ノ事有レ之事

一 下々ヲ召使ヒ、家齊ヒ候者

一 夫婦ノ間正シク、和睦仕候者

一 兄弟ノ間ヨキ者

一 善友ヲ求ル者 是條ハ感心スベシ、民間  
皆友ニ由テ、善惡ト成ル

一 義理ヲ專ラニ仕候者

一 義理ヲ存候而、人ノ誹ヲカマワズ、一筋ニ義理ヲ立ル者

一 慈悲深キ者

一 武道藝能心掛候者

一 正直ナル者

一 行義能者

一 頼母數者

一 役儀能勤ル者

右十五條ハ善事ノ荒増也、此内一條ニテモ有<sup>レ</sup>之候者ハ書附可<sup>レ</sup>申、右ノ外善事モ色々可<sup>レ</sup>有<sup>レ</sup>之候間  
聞次等ニ殘シ申間敷、書附可<sup>レ</sup>申儀無<sup>レ</sup>之候ハ、白紙ニテモ出シ可<sup>レ</sup>申候 白紙ニテモト有ル  
感心スル事也

右ノケ條證據無<sup>レ</sup>之候共、見分仕候儀可<sup>ニ</sup>申上<sup>一</sup>候

右ノ如ク上ヨリ深切ノ令有ルモ、若シ郷司村長細ニ能ク諭サズンバ、上ノ仁志下ニ通ゼズ、法令能ク  
行ハルハ偏ニ村長ニ在リ、其ノ村長ノ服スルハ、又上ノ宰宰ニ在ル事トミユ

公儀ノ御高札、諸藩皆市町宿驛ニ於テ、或ハ市中ニ建ル處アリ、或ハ町邊<sup>ヘ</sup>ニ建アリ、元來讀ムベキ  
爲ナレドモ、市中ニ於テハ人ヲ憚ルト云者カ、之ヲ知ル者嘗テ無キトミユ、町邊ニ建レバ讀ム者モ衆  
ク、特ニ除災ノ便利トミユ、高ク懸ル處アリ、低ク懸ル處アリ、高キハ尊嚴ナレドモ、餘リ高キハ見ル

者ナシ、後壁ニ梯ヲ横ニ釣リ置キ、側ニ墻ヲ掘リテ石蓋ヲ蔽ヒ置ベシ、若シ火災ニ至レバ、傍ノ者大ニ狼狽ウロダテ梯ヲ尋ネ、置處ヲ探リ過ツ事モ有ル者ナリ、故ニ常ニ用意ヲ致シ置ク事便利ナレドモ、是事嘗テ見エズ、或邦ノ鄉村ニ、國制條目ノ高札ヲ、庄屋ノ宅ヨリ數丁ヲ阻テ、往來ノ傍ニ高サ四尺計ノ小屋厚壁ニ塗リ、鎮火專一ニ作テ懸置キ、往來ノ者看易キ様ニ致セシハ最宜シ、或ハ諸國ニ間マニハ公林ノ麓ニ制札ヲ建テ、竹木猥リニ不レ可レ伐ト書セシ處アリ、是ハ無益ノ事トミユ、其故ハ數里ヲ阻ル者來テ伐ルニ非ズ、近邊ノ者ハ舉公林ナル事能ク知レリ、禁札ヲ建ルトイヘドモ、盜心アル者ハ盜ザル事無シ、立ズトイヘドモ、直心ナル者ハ盜マズ、制札ニ在ラズ、其土ノ風俗ニ在リ、故ニ立ザル邦モ有リ、是ハ寬量ノ政ト云ベシ、又秋ニ至テ往來ニ、當秋皆納無キ中ハ、「諸勸進不レ可レ入」ト制札ヲ建ル處アリ、是ハ他邦ノ者之ヲ視ナバ、小量ノ制ト思フベシ、僧徒丐乞等之ヲ看テ、立チ戻ル者一人モナシ、懶惰ノ者皆未進スベシ、上ノ財ハ皆民ノ納ル所、且ツ民力ヲ勞スルユヘ、唯最要ノ事ノミ致シ、小節ニカハハラズ、一時ノ事トイヘドモ、兎角民役ヲ怨オモイヤリ、僮偶ナサルナシノ事ヲ爲ベカラズ、國家ノ事ハ手廣キ者ユヘ、固ヨリ寬宏ニ致スハ定リナレドモ、唯勞シテ功無キ事、財ヲ費シテ益無キ事頗ル多キトミユ、有司ノ僚君ノ家ヲ我家ト爲シ、財ハ自ラ出シ、公役ヲ自ラ勤ルト思ヒ、逐一ニ心ヲ附ケ儉法ヲ建ルトキハ、一方ニ賦歛ヲ薄フシテモ、上ニ蓄ル所ハ易ル事ナシ、夫兵ヲ強クシテ威名ヲ耀サント欲セバ、一切ノ事、他邦ノモノサカイ驅サカイニ入テ感服スル様ニスベシ、是ヲ大武ト云モノナリ、肥後ニハ諸處ニ制札

ヲ建テ、年貢銀納ノ直段ヲ立テ、米一升代何十文、其外麥・大豆・梁等一切ノ直ヲ記シテ、下ニ詰ゲ知ラスルユヘ、庄屋ノ徒モ私曲ヲ得ズ、民モ疑心ヲ生ゼズトミユ、是事第一ノ制札ナリ、又教導ノ條目最要三四ヶ條ヲ一紙ニ印板シテ、民家壁間ニ糊ル處アリ、是ハ僧巫ノ厭符アヒリニハ大ニ勝レリ、是法ヲ潤色シテ、其邦ノ祖宗廟社ノ神職ヨリ、厭符ニ加ヘ正月配札ニ添ユル事、大ニ國益ナラン、猶工夫スベシ、蓋シ強テ法ヲ恃ミニスベカラス、全ク時ノ官吏ニ在ル事ナリ、孔子曰、「令不<sub>レ</sub>行、臣之罪也」

經濟問答秘錄卷七終

# 經濟問答秘錄卷八

## 國有考上

○客云、國用ハ何ヲ主トス

答云 左傳、「夫民生厚、而用利」、是其本ハ則チ上ニ在リ、魏文公問於李悝曰、寡人聞之、古者三年耕、必有一年之食、何謂也、答曰、君以必耕三年、然後得一年之食、與、斯言也、非斯之謂也、凡制國用、四分一歲之入、而食其三、餘其一、積三年所餘、得一年之食、以爲蓄積、是謂三年耕必有一年之食也、文公曰、四分一歲之入、而餘其一、所餘不已多乎、李悝曰、君何以爲多、夫大風・淫雨・火災・霜雹・傷禾・旱蝗・饑饉、自天者也、地震・山崩・河決・水溢、自地者也、寇盜亂賊、自人者也、此數者、皆國家不虞之患也、雖不必歲有、而三歲五歲一作、當其時也、事之大者、盡三年之食而不足、小者亦有用一年之食、若有幸而久無數者患、然軍旅・征役、國家時有、苟非倉有餘粟、府有餘財、何以供其費用、若臨事無以供其用、則弗能不取諸民、暴斂自是始也、暴斂而不足、則弗能不仰援於人、假貸自是始也、夫假粟市者、歲時納子於其主、不能納者負之、於是子又生子、如鼠生子、蕃息無窮、至積之久也、有以數歲之入、而不能

償者焉、從是以往、有士民而不能畜、有仁義而不能行、有邦家而不能保、有城郭而不能守、夫如此、則封君諸侯、有富名而無其實者也、何以能久哉、故曰、國無九年之畜、曰不足、無六年之畜、曰急、無三年之畜、曰國非其國也、豈不殆哉、古之人共有見於斯、故爲之法制、曰、三年耕、必有二年之食、是其深謀遠慮、非後人所能及者也、今也天下擾亂、國家多故、雖四分歲入、而餘其一、猶恐不能支軍國之用也、況所餘不及四之一乎、而況無所餘乎、是豈不岌々其殆乎、臣以古法於今猶少也、君以爲已多乎、文侯曰、善、謹受教、今世ニ於ル三年耕シテ、一年ノ食有リト云ハ、只農務ノ事ト思ヘドモ、右ノ語ヲ以テ視レバ、全ク上ニ在ル事ニテ、一年ノ租稅ハ是ヲ儉約シテ、四分一ニ致サバ國用充財スベシ、古聖王ノ如ク二年三年免租ト云ハ、後世ニ及ンデハ届ク事ニモ有ルマジ、責テ十ヶ一ヲ仿サバ、富饒必然トイヘドモ、今時ハ先借マデ致シ、民租ハ公廩ニ輸メズ、過半銀主ノ倉ニ納ルノミ、故ニ是李悝ガ説ヲ稽ヘ、先ヅ上タル人ヨリ、三年耕シテ一年ノ食有ル事ヲ躬行ヒ玉ハ、下ハ上ニ視働フ者ユヘ、令セズシテ國民皆如是、然ラバ則國用不足ト云コト、何ゾ是有ランヤ

衛公孫克、問於子貢曰、何以爲國、子貢曰、足財、孫克曰、何以足財、曰、節用、曰、何以節用、曰、省事、孫克曰、請問省事如之何、子貢曰、事之在國家、猶草之滋生也、不芟其蕃、將蕪穢不可爲也、故善治事者、務時省之、省事者、陳衆事而視之、然後省其冗者也、

五年一小省、十年一大省、則無多事之患矣、孫克曰、敢問省其小者、謂之小省、省其大者、謂之大省乎、子貢曰、否、不然、凡省事、省其冗者、然事之冗者、亦有顯微焉、冗而顯者、衆皆睹之、故易除也、至於冗而微者、唯知者知之、衆人不能知也、故難除也、所謂五年一小省者、除其易除者也、十年一大省者、除其難除者也、夫君子惡多事、時視而省之、譬如淘沙、譬如揀菜、大者裁而小之、多者省而寡之、非果斷之至、其孰能與於此、是故苟欲節用、而不省事、猶欲湯滄而加之薪也、此謂不知本、是文意ヲ以テ今ノ世ニ併セ見ニ、釐毫モ差ハズ、政事瑣細煩猥ナルユヘ、冗員繁多ニ成リ、却テ民心一歸セズ、狼狽シテ公威モ輕ク成リ、善治ノ法少シモ見エズ、故ニ不如節用省事也

宋蘇轍云、「方今之計、莫如豐財、然所以豐財者、非求財益之也、去事所以害財而已」、是章前ニ述レドモ、今又茲ニ出シテ、其豐財ニ害有ル事ヲ是部中ニ悉ク舉グ、君ノ用度ハ定リ有テ、租・庸・調ノ三ヨリ外ナシ、是ヲ勘ヘ、量入爲出トキハ、財豐カニシテ產物貨殖、收斂スルニ及バズ、又國用ノ要領ハ、本一日モ無クテ叶ハザル衣食住ニ在テ、富乏ハ儉約ト奢靡ノ風俗ニ係レリ、先ヅ領内出入ニ於テ、大體ノ増減ヲ稽ヘ計リ、田數ト人數ヲ併セ視テ、有餘不足ヲ積ル事肝要ニテ、又武備ノ要用ナリ、譬ヘバ戸十二萬五千有レバ、一戸ニ凡ソ四人ニ充レバ十萬人、其中男女・老幼・貴賤有テ、貴人・老夫・幼稚ノ者ハ小食シ、莊者・僮夫ハ大食ス、富貴ノ人ハ米穀ヲ常食シ、貧窮ノ者ハ雜穀ヲ常

食ス、共ニ準均シテ、大抵一人五合ニ充レバ、十萬人ニハ一日五百石、一年二十八萬石ヲ喰盡ス、味噌・酢・承醬・鹽・綿・麻・油・薪ノ八品ハ海島ヨリ生ジ、上下共ニ一日モ無クテ叶ハズ、田島ハ凶歉有レドモ、食用毎日増シハスレドモ減ト云事ナシ、不時ノ吉凶・賓客・集會等花奢ヲ竭セバ又倍ス、由是其生ズル所ト、其食スル所ト并セ、出入増減ヲ考ルニ、領内田地大抵一萬五千町、尤大量ノ邦ハ餘地有ル者ユヘ、一倍増テ有畝一萬七千町、沃礪豐凶平均シテ、一段實ノリ二石ニ積レバ三十萬四千石、然レバ食用ニ過ル所十二萬四千石、若シ大凶ナレバ餘ル所ナシ、是外正月三月七月毎月糯米凡一萬石ニ充ン、是モ奢レバ又倍ス、門徒多キ處ハ霜月ニ糯米費スユエ右ニ倍ス、又衣服用ハ一人ニ米一石ニ充テモ十萬石、又酒肆百戸ニシテ一戸ニ二百石釀シテモ二萬五千石、又鄉村ハ每戸醪酒ヲ造リ、妻子奴僕ハ勿論、入り來ル人毎ニ、朝ハ起懸ヨリ日三四度、茶水ノ如ク飲ムユヘ、是又二萬石ニモ及バンカ、故ニ酒弊盛ナル村里ハ仍ル所ナシ、或領内ニ年貢六千石餘ノ一懸アリ、酒肆四十八軒、二百三百石造リテモ凡一萬二千石、然レバ年貢ニ相倍ス、國用ニ立ザル事、其地ノ奉行知ルベキナリ、又島一萬五千町、餘地五千町、合テ二萬町ニ積リ、是中五千町ハ蕎麥・荳・芥・麻・野菜ヲ植エ、一萬五千町ハ麥・梁・蕎麥・豆・菽等ノ類、豐凶平均シテ一段ニ二石ニ積レバ十五萬石、卑民ノ食ト成テ米穀ヲ介ルユエ、他邦ニ廻船出糶シテヨシ、是中味噌・酢・承油・豆腐ト成リ、又餅・饅頭・索麪・不托・河漏・餌食・飴麴等奢侈ノ美饌ト成テ無益ニ喰盡スノミ、若儉法行レテ質朴ノ風俗ニ移レバ、其

アマル所民間ニ殘リ、上ハ租税十ゲ一二ヲアマシテ自國ニ入レバ、豐財富饒ノ國ト爲リ、大凶年ニ遇  
トイヘドモ、飢民ト云者一人モ無ク、不虞ニ臨テモ些シモ動ズルコト無シ、此意ヲ念ヒ、平生儉約ヲ  
主トシテ、天物ヲ暴殄セザル事、能々下ニ教誨スベシ、鹽モ一戸ニ三斗ト充レバ、一年ニ七千五百石、  
無海ノ國ニハ、五穀ノ如ク大切ニ遣ヘドモ、海國ノ者ハ日用ノ事、沙土ノ如ク輕ンジ、剩ヘ麥ノ糞ニ  
糞ギ懸ル者モアリ、元來上タル人ヨリ、平生天地ノ道理ヲ教誨無キ故ナリ、竹・木・菜・穀・鹽ニ至ル迄  
足リ、沃土膏腴ノ地ヲ、天府富饒ノ地トイヘドモ、天下幾希ニシテ、皆過不足有ルユヘ、不足ノ物ヲ  
自國ニ植ントセンヨリ、有餘ノ物ヲ儉約シ、是ヲ賣テ不足ヲ補ハバ、又有餘ト成テ國家ノ大益ト爲ル  
ベシ、必ズ玉ヲ以テ鳥ニ撲ツベカラズ、右出入ノ校論固ヨリ據ル所無キ空論トイヘドモ、何事モ大  
體其睦有レバ、假ヘバ東ニ往ニ、向フニ高山ヲ標シトスレバ、人ヨリ西ニ欺ル、コトナシ、故ニ國  
家ノ制法ヲ建ルニハ、先ヅ地理ヲ測リ、山林・江海・原澤・都鄙ヲ熟知シ、人氣・風俗・諸處違フコトヲ  
知リ、地ノ廣狹・民員・田數ヲ校量シテ國計ヲ考ヘ、田畠寡レバ墾闢ヲ肝要トシ、甘蔗・西瓜・蓮、其外  
奢侈ノ食物ヲ禁ジテ五穀ヲ植サセ、鹽寡レバ鹵斥ヲ開キ、竹木不足ナレバ妄リニ墾クベカラズ、蓋  
シ薪・鹽ノ他邦ヨリ買ムルトモ、一管開發ヲ主トシ、其生穀ヲ以テ買ムレバ、其利易ルコトナシ、  
萬物悉ク國產トスルハ、一道ヲ領スルトモ屑キ難シ、況ヤ一藩ヲヤ、故ニ舊來ノ生産ヲ專ラ精力スル  
ニ如ズ、或ハ塢塘・荒原等農民ノ碍障ト爲ラザル處ニハ、黃蘗・漆・肉桂ヲ植エ、尺寸ノ空地無キ様ニ

致シ、日用ノ事ニ不足無ク、國產譬ヘバ四十萬金ニテ事足レバ、殘リ十萬金ハ年々自國ノ蓄積ト爲リ、上ニ有テモ下ニ有テモ、我國用ノ益ト爲リ、今世ニ諸國興利ヲ主トシ、唯國產ノミ工夫スルハ、破桶ニ水ヲ入ルガ如シ、「夫臨河羨魚、不<sub>レ</sub>如<sub>ニ</sub>歸家結網、徒羨魚無<sub>レ</sub>益耳」、故ニ其本ヲ治メズンバ勞シテ功ナシ、上タル人酒ヲ嗜メバ、士大夫モ又君意ニ從ヒ、庶人ハ貴キ人サヘ如<sub>レ</sub>此、況卑キ我曹ヲヤト、迭ヒニ競フテ仿効シ、遂ニ酒弊ノ俗ニ火セバ、故ニ上ニ用ル所ハ日ニ一升トイヘドモ、一國ニ積レバ百千石、然レバ上一人ニテ百千石ノ飲酒ニ異ラズ、濫觴ノ小河モ末流大江ト爲ル、上美妍ノ服ヲ好ムモ下又如<sub>レ</sub>此、上利ヲ好メバ、莫大ノ穀祿有テモ如<sub>レ</sub>此、況無祿ノ我々ヲヤト、民統テ嗜欲ニ走リ、姦智ヲ生ジテ信義ノ風俗自然ト消弭ス、斯ク下ノ風俗ノ上ニ在ルコトユヘ、「爲<sub>レ</sub>君難、爲<sub>レ</sub>臣不易」ト古ノ聖王深ク誠メ置玉ヘリ、王參政伯ガ四留銘、「留<sub>ニ</sub>有<sub>レ</sub>餘不<sub>レ</sub>盡之巧、以還<sub>ニ</sub>造化、留<sub>ニ</sub>有<sub>レ</sub>餘不<sub>レ</sub>盡之祿、以還<sub>ニ</sub>朝廷、留<sub>ニ</sub>有<sub>レ</sub>餘不<sub>レ</sub>盡之財、以還<sub>ニ</sub>百姓、留<sub>ニ</sub>有<sub>レ</sub>餘不<sub>レ</sub>盡之福、以還<sub>ニ</sub>子孫」是ヲ書テ壁間ニ糊リ、以テ自ラ誠メトス、倘王侯大夫此語ヲ守ラバ、國家富饒ノミナラズ、聖主賢臣ノ美睨永ク千載ニ貽リ、天下ノ人瞻望スベシ、我阿每郷ハ孤島ニシテ地形狹ク、人民多ク金銀山モ寡ク、世間ニ財幣拂底シテ潤澤ナラズ、庶人モ勤職シテ、入ル所ト日用出ル所ト不<sub>レ</sub>合ユエ、氣質自然ト小泥ナリ、特ニ無職不產ノ僧侶、其多キ事世界萬國ニ無キコトナリ、近年水府侯ノ著述武家一般鈔ヲ拜見スルニ、日本寺院四十六萬九千六百四十七ヶ寺、禪宗一萬百八ヶ寺、黃蘗九千百ヶ寺、眞言一萬千百ヶ寺、法相五千百三ヶ寺、天台千八百二十ヶ寺、淨土十萬二十ヶ寺、遊行六萬七千六ヶ寺、大念佛千五百ヶ寺、西本願寺四萬五千一ヶ寺、東本願寺八千三百九十七ヶ寺、



華域ハ黃金何斤ト歴史ニ皆記セルハ、手太キ事ナリ、一斤ハ我邦判金目方五十兩ホドナリ、日本ノ紀  
ニ未ダ斤ト記サズ、我邦古ヨリ戰國ニテ、落城ノ趾、或ハ滅國ノ地トイヘドモ、斯ク莫大ノ金ヲ捨置  
ト云事曾テ無キハ、畢竟金銀鑄方少ク、財幣人數ニ不都合ユヘナリ、今治世久クシテ、天下ノ生齒日  
ヲ逐テ蕃息スルユヘ、益々財幣多カラザレバ、民心寛優ナラズ、不信ヲ生ズ、天正以前迄ハ田圃畝數廣  
ク、租モ十ケ一ナリシニ、豐公慳貪ニシテ、民ニ遺害ノミナラズ、諸侯ヲ帥ルニ驕奢ヲ以テス、是又  
其元ハ民毒ト成ル、當今ノ領主、其收納スル處ト、日用ノ給資ト不合スルユヘ匱乏ニ及ベリ、古ヘノ  
十ケ一ナラバ、如何ガ爲ン、今時ハ十ケ三四ヲ取り、又モ收歛シ、或ハ產物商賣色々ノ貨殖有レドモ、  
尙モ不足トスレバ、畢竟治世ニハ民逆カズト、我金庫ノ様ニ思フ驕慢ヨリ起ルコトナリ、「可畏非民」  
又「后非衆」<sup>キミ</sup>「邦」ト云フ聖王ノ語ヲ深ク考フベシ、北條時賴或夜平宣時ヲ招キ、燒味曾ヲ殺ニ飲  
酒セラル時、時賴ハ天下ノ權ヲ執ル身ニシテ如是、然ルニ今時ハ大夫ノ家ニモ、毎日供膳ノ瀋ニ鯉三  
四尾ヲ煮出ニ用ル驕奢ノ風ニ移レリ、是皆其本ハ民ノ汗ヲ流シテ輒ル所ナリ、或ハ假山・花園・茶湯・  
姪聲・中樂等、様々ノ遊藝翫好ニテ賦歛姪役歇ズ、我民ヲ殘虐シ、又國家無益ノ寺觀ニ大祿ヲ賜ヘ、  
莊觀ノ美ヲ竭シ、僧分公威ニ假托シテ、日ニ月ニ祭緣ヲ致シテ虐ゲテ、何ヲ以テ民人富潤ト云事有ラ  
ンヤ、土ヲ肥セバ樹木ハ茂盛ス、故ニ上富マント欲セバ、先ヅ下ヲ富スベシ、大樹淳信廟御元服ノ時、  
祭酒林信篤子御名ヲ勘ヘ奉ルニ、家重功泰ヲ以テス、筵子ニ、「民富則安緝重」家ト有ルニ因リ、以テ

御誠メトス、武田信玄家ヲ治ル制法十ヶ條ヲ以テ掟トス、其中第二ニ、佛神ヲ信仰スルコトハ、心ヲ誠ニシ神慮ニ合ハシ様ヲ專ニスベシ、金銀ヲ費シ堂塔ヲ建立スルコトハ無益ノ事ト記ス、織田信長十六歳ノ時、諸國名將ノ行狀ヲ悉ク聞キ取リシニ、是條目ヲ寫シ取リ、大ニ感心セラル、宋ノ堯王假山ヲ作り、群臣ヲ召テ觀セシムルニ、皆賞美スレドモ、姚坦一人此山ヲ血山ト云ヘリ、又開寶塔ト云大寺ヲ建立スレバ、田錫上書シテ、衆人ノ觀ル所ハ金銀ヲ鏤メ、光リ耀ク様ニ思ヘドモ、吾觀ル所ハ民ノ膏ヲ塗リ、血ヲ釐リテ光耀ト思ヘリト直諫ス、豐公ノ大佛ノ如ク、後世ニ至テハ血寺血宮多シトミユ、唯悔ラクハ姚坦田錫無キ事ヲ

○客云、當今民俗火化ノ頑習、花簪ノ極敵ヲ速ニ改ル術モ有リヤ

答云 先官吏ヨリ始ムベシ、直ヲ舉テ枉ヲ錯カバ必ズ服ス、俗諺ニ、遷磨ハ血出ルト云事アリ、「臨」下以簡、御衆以寛、又無欲速、亦居之無倦、右ヲ服膺スベシ、豺狼ノ麋鹿ヲ獲ルトキハ、麋鹿ハ疾足シテ走ル、豺狼ハ其臭ヲ嗅テ、緩歩シテ終日憩ハズ、其羸斃ル所ヲ獲ルト聞ク、「匹夫慷慨一朝如虎、苟非人傑、如何刻苦」、俗士ノ勇ハ靈ノ如ク、一時ノ事ナリ、人傑ノ勇ハ、忠義ヲ的トシテ、終自倦マズ、刻苦スルナリ、故ニ成ラズト云事ナシ、當今ノ舊染汚俗ヲ蕩滌スルコト、五年十年ニハ届クマジ、先ヅ仁德ヲ布キ、風俗ヲ濫ス事ヲ一番ニ改メ、一度ニ數條ヲ令セズ、一條彌々改ルヲ見テ亦一條ヲ令スベシ、必ズ半途ニ畫リ、衆人ノ嗤ヒヲ求ル事勿レ、茲ニ一ノ說アリ、「薛君田獲ニ大狙如」

人焉、試食之粟、盡大如拳者三十枚、未饜、益之大柿二十枚、然后略飽、薛君曰、偉哉狙、此物而教之舞蹈、豈不可觀乎、於是召狙公、使其視之、狙公曰、此老狙也、不可教也、薛君曰、教狙如何、對曰、臣之教狙也、常迨其種小、取其生數月、斷乳能食者、而勞其筋骨、苦其骨、飢其腹、道之以手、誨之以言、弗惠則箠之、夫既受教、則與之食、紆其箠楚、由是習慣、日就月將、然後應臣命如響、隨臣指麾如景、如斯者豈一朝一夕所致也哉、發其天機、見其天性、非少成不可、若老者、體習安佚、心染嗜欲、弗能受教誡、答之至死不可變也、尤然、多食填腹而坐、又何伎之能、薛君曰、善、遂罷之、夫狙公ガ教ルニ賞罰アルユヘ、獸類トイヘドモ如此、況ヤ人ヲヤ、太閤神君ニ向ヒ、庶人ヲ使フハ狙ノ如ク思ヘト宣ヘリ、人ハ人タルト思ハバ、大ニ相違スルコト有リ、故ニ狙公ガ教ヘノ如ク、賞罰教誨ニ若クハナシ

○客云國用ハ何ヲ以テ湊合ヤ ヒキシムル

答云 夫豐財ハ武ノ七德ノ中ニ在テ、武家トシテハ其道ヲ知ラズシテハ叶ハズ、前ニ述シ通り、豐財ノ術ヲ求ンヨリ、先ヅ其豐財ヲ妨グル者ヲ除クベシ、之ヲ除ケバ財ハ自然ト豐カニ成ルベシ、富國ハ第一徒口ノ民ナキヲ豐財ノ術トス、假令上仁政ヲ施シ、五穀豐充スルトモ、一方ニ空手遊民多ケレバ、渠等ガ爲ニ喰盡サレ、崩堤ニ水ヲ溜ルニ同ジ、天道ノ循環、日月瞬息ウチモ休ミ玉ハズ、天地ノ間ニ人ト生レテ、素餐スルハ人ニ非ズ、今清朝ノ天子ニ隱居ト云事無ク、終身萬機ノ政ヲ聞キ、一帝一號

ユヘ、年號ハ時々改元ナシ、況ヤ無祿ノ身一日モ勉強セズンバ、何ヲ以テ妻子ヲ養フベキヤ、財ハ天ヨリ降ルニ非ズ、食足フザレバ、精民ヲ婪ルヨリ外ナシ、「無恒産者、無恒心」職業ヲ勵マザルヨリ、竟ニ上ノ難澁ト爲ル、故ニ國家安寧ノ法ハ、唯徒口ノ者ヲ禁ズルニ如クハナシ、徒口ノ大ナル者ハ、第一浮屠修驗ノ類ユヘ、中華ノ如ク度牒ヲ渡シテ、其員數ヲ究メ、情落ノ者ハ悉ク減耗シ、國祿多益ノ基ヲ拓、次ニ淫聲・角抵、其外種々ノ遊民、國祿素餐甚ダ多キ者ユヘ、一々査點シテ禁誡シ、聖人ノ立置レシ士農工商ノ四職、各正業ヲ勵ミ儉約ヲ守ラバ、其給用飭レル所ハ何地ニ往クヤ、溝壑ニ捨ル者ハ有ルベカラズ、然レバ國ノ蓄積トナルヨリ外ナシ、楠公云、國郡ノ廣キヲ願ハズ、箇中ノ民安キヲ願ハトミユ、輭情ユハ罪罰繁ク、國安カラズ、人トシテ素餐ヨリ罪重キハナシ、盜賊ニ勤職ノ者一人モナシ、天ニ代リ賞罰ヲ正ス、人主トシテ天理ニ逆ク徒口ノ者ヲ其儘ニ置カバ、天譴若シクハ上ニ降ラン、由是徒口ノ者教令ヲ守ラズンバ徒刑ニ處シ、身體ヲ勞セシムル時ハ、彼等ヲシテ天道ニ叶ハシメ、洪福ヲ與ユルト云者ナリ、浮屠修驗ノ宅ハ及ブダケ縮省シ、且ツ内職ヲ營シムルニ如ズ、中華ノ僧侶ハ民ヲ婪ラズ、皆筆管ニ銘刻ヲ内職トスルニ、今時ノ僧侶ハ空ク白日ヲ偷ミ、酒食ニ溺レ、只寺役繁多ト云ハ遊惰ノ遁辭ナリ、足ル事ヲ知レバ閑靜ナルベキニ、貪婪ニシテ事ヲ好ムユヘ、益々俗事塵務蠅集ノ如シ、僧侶修驗ノ身ハ、躬ヲ不淨ヲ披ハスト、手ニ鐵モ秉ラザルハ端モ無キ妄言ナリ、心サヘ清ケレバ、糞水ヲ掬スルトモ、佛神ノ意ニ協フ事ハ、六根清淨經ニ見エマリ、内職シテ給食

足ラバ、貪婪モ無ク民害ニモナラザレドモ、手ヲ懷ニシテ空ク光陰ヲ偷ムマデナリ、士民モ暇日ハ内職ヲ致セバ、薄祿トイヘドモ隨分事足り、廉耻ヲ失ハズ、遊惰ニシテ其上酒マデ飲ミ、花奢ヲ竭セバ、君ヨリ何程賜ルトモ、足ルト云事更ニナシ、前ニモ述シ通り、羽州米澤ハ元三十萬石ナリ、故有テ半地ニ割レ、臣下ノ祿モ統テ半減スレバ、是ヨリ必死ト儉約シ、皆内職スルニヘ、始メヨリ却テ富饒トナレリ世ノ諺ニ、火事ノ跡ハ榮エスルトハ、困苦ニ逼リ懲忒シテ、儉約精勤スル故也、是故ニ徒食ノ者盡ルトキハ、十萬石ノ領地ハ二十萬ト爲ルユヘ、領地ノ潤キヲ願ハズ、右ノ法ヲ願フベシ

○客云、政道餘リ嚴ナレバ、國民樂ミ無キユヘ苛政ト云ハン、故ニ游藝等ハ許スモ可ナリ

答云 聒々タル民言何ゾ信ズルニ足ンヤ、是頑夫ノ謠言ナリ、「飲レ水曲<sup>カワマヅ</sup>肱而枕<sup>カマヅ</sup>之、樂亦在<sup>ニ</sup>其中<sup>ニ</sup>矣」孤島幽僻ニ居ル者ハ何ヲ樂ムヤ、樂ミト云ハ皆驕ヨリ生ズ、古歌ニ「郭公自由自在ニ聞ク里ハ、酒屋ヘ

三里豆腐屋ニ二里」是句ヲ味フベシ、晝ハ働キ夜ハ索綯<sup>サロワイ</sup>、枕ヲ高クシテ熟睡シ、年貢ヲ銳ニ納メ、人

ニ物負ズ、家内睦ジク光陰ヲ過ス事、一生ノ樂ミ是ヨリ大ナルハナシ、下ハ中節ト云事ヲ知ラズ、手ヲ添ユレバ必ズ肩ニ昇ル者ナリ、周ヨリ「德之流行、速<sup>ニ</sup>於置郵而傳<sup>ニ</sup>命」ト云ヘバ、賢君上ニ在セバ

政令ニ寬猛無クトモ、國人皆法ヲ守レドモ、今時ノ極弊ヲ滌ハ嚴猛ニ如ズ、「膠<sup>ニ</sup>柱鼓<sup>ニ</sup>瑟」ト云事アリ、司馬徽ガ様ニ、此モ好シ彼モ好シト云テハ、片時モ政事ニ與ル事能ハズ、先官既ニ嚴ナレバ、後官又緩トナス、或ハ嚴或ハ緩、下更ニ曲ル所無ク、水上ノ胡盧子ニ似タリ、第一嚴猛ノ邦ニ於テハ、富

有ノ家滅多ニ亡ビズ、不嚴ナルユヘ上ヲ恐レズ、大酒・博奕・淫色・遊藝様々ノ奢侈ニテ一代ニ喪  
ヒ、妻子ニ至ルマデ飢寒ニ堪ヘ兼ルハ、今視前見<sup>アタリ</sup>シ事ナリ、故ニ嚴猛ハ却テ仁政トナルナリ、人ヲ善  
ニ導クハ、譬ヘバ遠ニ迷ヒシ者ニ東ヲ指テ、是途ニ往ケト教ユレドモ、聽ズシテ己レガ意ニ任セテ西  
ニ往キ、其止リハ山嶮・隘路・泥澤ニ陷ルナリ、故ニ教ニ背ケバ、劍ヲ振テ威ヲ示ストキハ、恐讐シ  
テ教ニ隨ヒ、東ニ往テ大道ニ至リ、始メテ其仁恩ヲ知ル、民ヲ帥ユルハ統テ如<sup>レ</sup>是、是ヲ仁君ト云  
ベシ、今時ハ異端及ビ鄭聲色々ノ游藝ノ者ドモ、手ヲ引テ隘路ニ導クユヘ、民ノ父母タル人トイヘ  
ドモ、少間忍ベバ後ハ痛苦ヲ逐ル、猫ハ腥ヲ嗜ムハ天性ナリ、然レドモ寺ニ蓄フトキハ、承知シテ後  
ニハ常トナル、夫武ハ斷ナリト云、明斷果決トハ、俗ニ云フ思ヒ切ナリ、胡文定公曰、「臨<sup>レ</sup>事以<sup>レ</sup>明敏  
果斷、辨<sup>レ</sup>是非、」薛文清云、「處<sup>レ</sup>事有<sup>二</sup>法、以<sup>レ</sup>別<sup>二</sup>可否、義以<sup>レ</sup>決<sup>二</sup>取捨、斯無<sup>二</sup>過舉<sup>一</sup>矣、」二百年前ニ生レシ  
ト思ヒ切ラバ、隨分位ニ誇ラズ、又儉約モ成ルベシ、酒モ仁德天皇前ト思ヒ切ラバ、禁酒モ成ラザル  
事ナシ、坊主モ眞ノ佛道ヲ知ラバ、僅五戒ヲ保ツ事難カラズ、淨留利モ源平前ト思ヒ切ラバ、聞クニ  
及バス、談優<sup>キヤウエン</sup>モ文祿以前ト思ヒ切ラバ、視ズシテヨシ、女モ東坡ガ九相ノ詩ヲ看テ、唯皮膚ニ在リト  
思ヒ切ラバ、醜美ヲ擇ムニ及バス、博賭モ不廉ノ財ヲ求メズト思ヒ切ラバ、樂ミニナラズ、佛法モ欽  
明天皇前ト思ヒキラバ、信仰ニ及バス、彌陀ニ淫ル、モ源平前ト思ヒキラバ、凝固スルニ及バス、薩  
州ノ人ハ死シテ何地ニ往クヤ、是意ヲ考ヘ、果決ヲ主トシテ物ニ耽ズ、四民各々自職<sup>ハヤ</sup>ニ部<sup>マ</sup>リ、他念無

ク其戰道ニ按ンヅル時ハ、財穀國ニ充滿シ、僅一國トイヘドモ、一道ニ双ブナリ、大坂今橋ハ素封十戸ニ滿ザレドモ、其儲蓄市中十萬戸ニ抗ランカ、然レバ財貨ハ人ニ在テ、土ニ在ラズ、蛛虫雖レ巧、不<sup>レ</sup>如<sup>レ</sup>蠶、人モ英才有リトイヘドモ、職務ニ懈<sup>レ</sup>リ天賦ノ穀ヲ素餐シテハ、是ヲ穀蠶ト云者ナリ、是故ニ徒口游民ヲ職業ニ就シメ、天地ニ報恩ナサシムベシ、是則君タル人當然ノ職分ナリ

或邦ニ四民ノ職ヲ分タント、市中毎戸其家主ノ姓名ヲ紙ニ記シテ門戸ニ糊シニ、未ダ半年ヲ逾ズ竟ニ裂レバ、又モ板札ヲ以ス、其雜費舉テドコリ出銅ニレドモ、又一年ヲ歷ズ紛失ス、由<sup>レ</sup>之衆人小兒ノ嬉遊ト譏刺ス、此等ノ事ハ出水練ト云者ニテ、人情ニ疏キ故ナリ、大都會ハ天下幅輳ノ地ユヘ、醫者・俳人・風流者、諸方尋問ノ標ニ表札ヲ掛ルナリ、國家ノ事ハ大ナリ、斯ル戲ノ新制ハ事ヲ好ムモノナリ、溫公曰、士君子處<sup>レ</sup>己、唯應<sup>レ</sup>於多事中、求<sup>レ</sup>省事不應<sup>レ</sup>於無事中、生<sup>レ</sup>有事、是言官吏ノ針砭也

○ 客云、或邦ニ邇<sup>チカ</sup>日天下屈<sup>カガミ</sup>俳人出デ、諸國ヨリ其間ニ入ル者多シ、又力夫ニ大關在リ、又俳ニ一二段ノ者有リ、皆希見ニテ、邦ノ盛事ト云ベキ者カ

答云 子ガ讚ル所ハ君子ノ誹ル所ナリ、一言以テ知トシ、一言以テ不知トス、慎マズンバアルペカラス、君子ハ讚メ、小人ハ誹ラズンバ、眞ノ善治トハ稱シ難シ、上ニ聖明在セバ、國人皆信義ヲ守リ、遊惰ノ者舉テ盡ルナリ、斯ル國家無益ノ者ハ、皆職ニ就ザル者ナリ、富國強兵ヲ求ント欲セバ、先無職・遊藝ノ者ヲ誡メヨ、斯ル無職高名ノ者出ルトキハ、其邦自然ト之ニ見倣ヒ、遊民益繁キニ及ブ者

ナリ、情民多ケレバ三ノ損アリ、空ク穀祿ヲ費ス事一條、其日ノ貨錢ヲ取ザル事一條、農耕不<sub>レ</sub>登事一條ナリ、又大酒モ三ノ損アリ、價ヲ出ス事一條、暇ヲ費ス事一條、脱智スルコト一條ナリ、別卷ニ載セシ通り、信州松代恩田木工改革ノ法ヲ立テ、富國ノ術ヲ行レシニ、始メハ諸遊藝・博賭・大酒等ノ禁令ヲ出サズ、先ヅ第一ニ虚言ヲ云ハザル事、次ニ職業專一ノ法二ケ條ヲ出シテ、嚴ニ精力セシムルハ、實ニ感服スベシ

孫子曰、凡興<sub>レ</sub>師十萬、出征<sub>ニ</sub>千里、百姓之費、公家之奉、日弗<sub>ニ</sub>千金<sub>一</sub>ト云ハ、糧財ノ夥ク費エルヲ示セシ者ナリ、後世ハ人情奢靡ユヘ、猶モ古ニ倍徙スベシ、諸國皆軍用ト究メ、運上銀ヲ秘倉ニ藏メ、之ヲ殖サント利ニ迷ヒ、商賈ニ貸シ置ル、ニ、年ヲ歷テ唯帳面ノミ銀高太リ、虛庫ト成ル、今俄ニ債ヲ責テモ遣シテ届カズ、縱ヒ死刑ニ逢フトモ調ハズ、虚鞘ノミ積立置クハ、名有テ實ナシ、是事元來時ノ職務上ニ利有リトシ、又音物ニ眩ミ、公私二ツノ利欲ユヘナリ、受續ク有司モ父之ヲ改メザルハ、商賈ハ利口ノ者ユヘ、阿媚ヲ以テ年月ヲ延シ、斯ク成リ行ク者ナリ、或ハ租ニ掛ケ、軍糧ト名ケ蓄ユレドモ、用度乏匱ニ逼ルトキハ、多ハ虚倉ト爲ル、在<sub>レ</sub>治不忘<sub>レ</sub>亂ハ、武家ノ肝要ユヘ、縱ヒ借財スルトモ錠鑰ヲ聞クベカラズ、譬ヘバ一千ノ兵卒ニテモ、甲ノ丸加ヘテ、一戸四口ニシテ共ニ五千人、一夫一升、妻子五合ナレバ、一日ニ二十五石、一月ニ七百五十石、一年ニ九千石、又役夫雜兵加レバ、倍シテ一萬八千石、一萬ノ兵ニハ十八萬石ト成ル、金錢モ是ニ應ズ、古聖王ノ世ニハ、三年ノ蓄ヘ無

レバ、其國ニ非ズト視エシニ、今時ハ年ヲ逾エズ、商賈ノ倉ニ入レ、適夏迄米ヲ飭、已ニ八九月ニ至レバ、未ダ新穀ノ豐凶モ試ミズ、新穀出レバ下落スルト、商賈ノ如ク利ニ迷ヒ、心顛倒シテ賣斥シ、或ハ高直ニシテ商賈ニ貸シ附ケ、國民ヨリ高價ノ怨謠ヲ受ク、家臣モ亦治世ニハ衆士無用ナレドモ、軍役ノ爲ユヘ、兼テ上ノ糧食ヲ恃ミトセズ、一年ノ食ヲ蓄フベキニ、是又幾希ナリ、倘國家是心得無ンバ、譬ヒ武術ハ敵無シトイヘドモ、危邦トスベシ

產語曰、「鳥之爲<sup>チニゴ</sup>乳也、有待<sup>ニ</sup>乎母之哺、馬牛之爲<sup>ニ</sup>駒犢也、有待<sup>ニ</sup>乎母之乳、及其能飲啄茹芻也、莫<sup>レ</sup>不知<sup>ニ</sup>求<sup>ニ</sup>食方、唯人子乎、生而在父母之懷、三年、父母之於<sup>ニ</sup>子也、乳哺撫毓、勞莫<sup>レ</sup>甚焉、人子受<sup>レ</sup>之、得<sup>ニ</sup>以爲<sup>ニ</sup>人、則可<sup>ニ</sup>以知<sup>ニ</sup>止焉、然而三年之外、猶且食<sup>ニ</sup>父母之食、衣<sup>ニ</sup>父母之衣、而處<sup>ニ</sup>父母之室、及其長<sup>ニ</sup>也、日有<sup>レ</sup>見、耳有<sup>レ</sup>聞、手能把握、足能行立、口能言語、肩能擔、背能負、一身百體無<sup>レ</sup>不成、無<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>若<sup>ニ</sup>人、大哉父母之德也、人子於是乎可<sup>ニ</sup>以知<sup>ニ</sup>求<sup>ニ</sup>自生之方也、猶且食<sup>ニ</sup>父母之食、衣<sup>ニ</sup>父母之衣、處<sup>ニ</sup>父母之室、曠<sup>ニ</sup>日彌<sup>ニ</sup>久、不能<sup>ニ</sup>自養<sup>ニ</sup>其身、而仰<sup>ニ</sup>給<sup>ニ</sup>父兄、豈不<sup>レ</sup>悲夫、何鳥獸之智、而人之不智也、是誠可<sup>レ</sup>忤也、人之於<sup>ニ</sup>食也、得<sup>ニ</sup>之則生、不<sup>レ</sup>得<sup>ニ</sup>之則死、是食者人之所<sup>ニ</sup>以生<sup>ニ</sup>也、然得<sup>ニ</sup>食之道、亦非<sup>ニ</sup>一端<sup>ニ</sup>也、或以<sup>ニ</sup>力、或以<sup>ニ</sup>事、或以<sup>ニ</sup>功、或以<sup>ニ</sup>德、或以<sup>ニ</sup>蔭、或以<sup>ニ</sup>惠、此數者得<sup>ニ</sup>食之道也、恩澤被<sup>ニ</sup>及<sup>ニ</sup>、之謂<sup>ニ</sup>蔭、賑窮恤<sup>ニ</sup>孤、之謂<sup>ニ</sup>惠、蔭由<sup>ニ</sup>先德<sup>ニ</sup>、惠由<sup>ニ</sup>上仁<sup>ニ</sup>、之二食者、非<sup>レ</sup>由<sup>ニ</sup>己<sup>ニ</sup>也、天也、其它無<sup>レ</sup>不由<sup>ニ</sup>己<sup>ニ</sup>求<sup>ニ</sup>之者也、人非<sup>ニ</sup>盡<sup>ニ</sup>蔭子<sup>ニ</sup>、求<sup>ニ</sup>之而得<sup>ニ</sup>食、不<sup>レ</sup>求<sup>ニ</sup>則不<sup>レ</sup>得<sup>ニ</sup>食、今夫一身百體無<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>成、無<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>

若人、然且四體不勤、餽口游食、耽歲渴日、非鰥寡孤獨癡疾、而與乞人同一其行者、曾何鳥獸之若哉、此其可耻也孰大焉、故夫人不可以不求食、而求之有道、得之與不得、固有命焉、乃若不求、而得之者幸也、幸非福也、食也者、人之所以生也、苟有以生、不知所以食而可乎、自天子以至於庶人、無不有所以食焉、故不知所以食而食焉、謂之素餐者、君子所惡也、小人而素餐、獲罪於君子、君子而素餐、獲罪於天、仲尼曰、獲罪於天、無所禱也、其可不畏乎、雖有賢智者、未嘗飢寒窮困、莫知所以治生、是故飢寒窮困者、人之所以善其身也、何爲惡之耶、夫人必知飢寒困窮之爲可惡、而後能知飢寒困窮之不可惡者也、未知飢寒困窮之不可惡者、雖未嘗飢寒窮困、卒必飢寒窮困、然后知其可惡、則已暮矣、故患至而救之、不若豫防之裕、人之所患、莫近於飢寒、故人之所須、莫先於衣食、一日不治生、雖未見其損、積之則必有一日飢寒、若知一日飢寒之不可忍、何可以一日不治生乎、是故天子以萬機治生、諸侯以一日政事治生、大夫以其官職治生、自士以下、各以其事治生、庶人之業、農工商賈、皆所以治生也、至若入山而樵、入水而漁、羅罾置兔、豢豕牧羊、屠狗解牛、吹竽歛瑟、擊劍弄丸、爲巫爲醫、賣卜占星、滑稽俳優、譚笑壇坫、游說諸侯、或起爲王者師、或教童子書計、其事雖殊、其所以爲生一也、是知自天子以至於庶人、未有不以治生爲事者也、故人事至於治生、斯足貴矣、若作事而不能爲生、非事之罪、以作者之不動也、已有父母、有兄弟、有親

戚、耳目鼻口四體具、而無不如人者、蓋思所以爲生、生乎豈欲無事而食、與鰥寡孤獨廢疾者爲伍與、丈夫之耻、莫大乎游食、男子之事、莫先乎治生、

又曰、有土之君、財用不足、則不免仰給乎市井之人、賢智之士、衣食不足、則不免乞貸乎庸俗之人、夫有土之君尊位也、今廼屈其尊而低頭於市井之人、賢智之士、人之所敬也、今廼屈其節而折腰於庸俗之人、此其故何也、以己不足就彼有餘也、人而若是、豈不亦可耻乎、耻之奈何、足財而已矣、夫天不徒生、必有以養之、孝經曰、因天之時、就地之利、謹身節用、以養父母、庶人之孝也、詩曰、孝子不匱、是故人道、莫先治生、爲政莫先於足財、夫人雖孝、而衣食不足、則不能安父母、君雖仁、而財用不足、則不能安百姓、人有天祿、治生之謂也、民之治生也、農工商賈、所業不同、苟能攻其業、則皆仰可以事父母、俯可以畜妻孥、此民之天祿也、仕官而穀、凶年不飢、父母有甘脆之儲焉、家人無離畔之變焉、衣服時備、祭祀無廢、此士之天祿也、爲家而齊、有宰食力、祭器衣服不假、車甲時修、養親有常珍、宗廟不絕血食、此卿大夫之天祿也、庶官必備、百姓樂業、倉廩實、府庫充、牛馬麋鹿在園、財用無匱、社稷不絕血食、此諸侯之天祿也、三公崇德、六卿分職、朝無廢政、外戶不閉、四海會同、遠夷貢獻、無求不得、無作不成、祭祀不後時、庶類無不得所、此天子之天祿也、人有是天祿、而不能立于世者、皆不能治其生者也、若然者不能保其天祿、天祿必將去其身、天祿一奪、求爲匹夫、且不可得也、豈不

悲乎、故人守<sub>レ</sub>其分、斯治<sub>ニ</sub>其生、治<sub>ニ</sub>其生、斯保<sub>ニ</sub>其天祿也、天子曰、兆民、諸侯曰、萬民、皆君之所<sub>レ</sub>蓄也、大夫以下至<sub>ニ</sub>於庶人、皆有所<sub>レ</sub>蓄、不知<sub>レ</sub>所以蓄<sub>ニ</sub>而可乎、故人苟有<sub>ニ</sub>天祿、而不能<sub>レ</sub>蓄<sub>ニ</sub>人、亦不能<sub>ニ</sub>自養、斯之謂<sub>ニ</sub>竊<sub>ニ</sub>天祿、竊<sub>ニ</sub>天祿者、天誅不可<sub>レ</sub>追也、堯舜之讓曰、四海困窮、天祿永終

○客曰、四民皆不貧ノ法ハ何如

答云、筵子曰、「人情而侈則貧、力而儉則富、」上天子ヨリ下庶人ニ至ルマデ、皆然リ、昔齊國ノ俗奢侈甚キユヘ、晏子之ヲ矯ルニ弊裘脫粟ヲ以テ俗ヲ勵マス、張莊簡ハ風俗ノ奢靡ヲ見テ、益々節儉ヲ崇ビ以テ子孫ヲ卒ユ、此則チ法トスベシ、國富ヲ願ハバ、先ヅ君自ラ儉ヲ行フニ如ズ、君儉ヲ行フトキハ士大夫儉ヲ行ヒ、下又之ニ効フテ皆儉ナルユヘ、貧民ト云者無シ、君躬ラ儉ヲ守ラズ、徒用度ヲ足ラサントスレバ、收歛ノ臣双ビ起ツテ、上下共ニ空乏シ、結局雪上ノ霜トナル、神君常ニ麥ノ糧食シ玉ヒシニ、主膳ノ者見ルニ忍ビズ、御飯ヲ餒ルトキ、麥ヲ斑々ト掛テ奉レバ大ニ怒リ、應仁以來數百年ノ大亂、人民耕耘ノ時ヲ失ヒ、塗炭ノ苦ヲ受シニ、近來稍治平ニ入テ、菜色將ニ消ントスルニ、吾獨奈何ゾ美饌ヲ食ランヤ、汝等ハ阿媚ノ甚キ者ト誠メ玉フ、然ルニ今ノ世ニ於テ、諸國間ニハ撰米ト名ケ、民ニ公役ヲ掛ケテ、盆ニ載セ箸ヲ以テ、一粒ヅツ粟ヲ撰揚<sub>ニ</sub>コト、五斗ヲ三斗トナス、其手間一日ニ一升、一苞ニ三十日ノ公役、十苞ニ三百日トナル、其上侍姬側室等ノ飯ニ及ブノミナラズ、有司ノ者ドモ欠米迄收歛スルヨシ、因テ農民ドモ一粒毎ニ怨<sub>ニ</sub>詈ノ聲ヲ發スト聞ク、左レバ能ク精ケ能フル

ヒ、炊爨スレバ其味少モ易ラザルハ明試シテ知ルコトナリ、齊ノ晏子ハ脫粟ト云テ糲ヲ食シ、唐ノ太宗ハ一食毎ニ稼穡ノ艱難ヲ念フ、治世久ケレバ、人主ノ驕侈、無益ノ事ニ民ヲ役勞スル事如<sub>レ</sub>是、蓋シ尊貴ノ人ハ、飲食ナドニ卑シカラザレドモ、斯ル事ハ時ノ婦臣ヨリ肇ル事ニテ、竟ニ先例トナル者ナリ、其舊弊ヲ改メ民難ヲ蠲ク事、先祖ニ大孝トスベシ、又神君ノ前ニ一士拜謁スルニ、汝ガ袴ハ何ント云物ゾト上意ユヘ、柳條ト申スヨシ答ユレバ、色ヲ變ジテ、汝ハ惡キ奴カナ、國家稍ク謚リ、萬民安キ様ニ見ユルニ、我サヘ知ラザル美衣ヲ着ルハ、不屈者ト即時ニ追放アリ、神君始メ三州一郡ノ主タル時モ、既ニ關八州ノ主タル時モ、遂ニ天下ヲ馭シ玉フ時モ、儉約少シモ易ラズ、故ニ天報アリ、程子易傳、「人欲之無窮也、苟非節以<sub>レ</sub>制度、則侈肆至<sub>レ</sub>傷財害民矣、」豐臣太閤侈肆ニシテ、金銀ノ井戸迄掘ラレシニ、一世ニ滅セシハ、親<sub>マシ</sub>大坂ノ孤城ヲ視テ監ムベシ、或豪富癩症ノ藥ト、黃金ノ茶碗ヲ作リシニ、其子ノ代ニ滅ビタリ、予其家ニ往テ是ヲ視ルニ、分量凡ソ五十目餘リ、太閤ノ井戸トハ其大小ノ分チ有レドモ、貴賤ヲ以テ方ブレバ、其奢肆太閤ニ過タリ、下ノ驕リハ其身一人ニ係レドモ、君ノ驕ハ下萬人ニ懸レリ、風俗ハ其公ニ由テ國中ノ盛衰アリ、趙ノ武靈王ト云者ハ物嗜ニテ、躬胡服シテ騎射ヲ好ミ、之ヲ樂ミトシ、曾テ寶玩ノ物ヲ好マズ、由<sub>レ</sub>之士大夫ハ勿論、國中之ニ化シテ、皆珠玉名器ノ類ヲ賣斥シ、夷狄ノ風ヲ學ベリ、是時邯鄲ニ公乘紇ト云大賈アリ、是風俗ヲ熟觀テ、忽チ千金ヲ捐テ悉ク珠玉珍器ヲ買ヘバ、時人共迂遠ヲ笑フ、武靈王卒シ、其子惠文王立ツ、是君ハ女色ヲ嗜

マズ、珠玉珍器ヲ好メバ、官人皆首飾及ビ嫩妍ノ衣裳ヲ去ルユヘ、國中又之ニ化シテ、其妻女ハ首飾錦繡綵段ヲ賣リ、爭フテ珍玉珍玩ノ品ヲ求ム、公乘時ヲ得タリト、始メ蓄置シ珠玉珍玩ヲ賣テ、又首飾錦繡ノ類ヲ買フ、惠文王卒シ、其子孝成王立ツ、是君ハ甚ダ女色ヲ嗜メバ、宮中ノ姬女美服ヲ競ヒ買ム、是時公乘又蓄ヒ置シ首飾錦繡ヲ悉ク鬻リ、一時ニ數萬金ノ利ヲ得タリ、夫一代毎ニ其君ニ由テ、國ノ風俗相變ズルコト如是、故ニ財用ハ抑々末ナリ、先ヅ直諫ノ士ヲ銓ミ、嗣君ヲ能ク育ルニ在、明君出玉ハバ、財貨ハ求メズシテ自充ツベシ、神君ハ竹千代君ニハ、智仁勇ト三良臣ヲ撰ンデ輔弼ト爲シ玉フ、唐制左補闕六人、左拾遺六人、右補闕六人、右拾遺六人、共二十人掌ニ諷諫、大事則廷論、小事則上ニ封事、斯ク多ク諫官ヲ建シニ、後世曾テ諫人モ無ク、如何シテ君ノ過失ヲ正スベキヤ、又賢君在シテ、父君老ニ及ベバ菟裘ニ移リ、養老ノ爲ト敗獵・田樂・假山・翫弄・奇物様々ノ逸遊・自肆ノ歡樂多ケレバ、附キ從フ者ドモモ阿黨シテ想思ノ心モナク、役ヲ増シテ民ノ憂ト爲ルコト寡ラズ、假ヘバ青天快日ニ、一方ニ靈風降ルガ如ク、民心兩方ニ散リ、敢テ信ズル所無シ、父タル人能其子ニ聖學ヲ教ヘ、之ヲ受續クトキハ、千百世依然トシテ其宗祀ヲ絶サズ

州郡ハ廣キヲ欲セズ、空地遊民無キヲ善トス、孫子廟算ノ意ヲ假テ、茲ニニケ國ヲ方ベ、國益ノ洪纖ヲ試ルニ、或三萬石計ノ封アリ、民數凡ソ十二萬人、又五十萬石計ノ封アリ、併セ方ブレバ十七増倍ノ邦ユヘ、民數二百萬人餘モ有ルベキニ、僅四十萬ニ足ラズ、一封ハ寺院僅四十三ヶ寺アリ、然レバ七

百三十ヶ寺有ルベキニ、一千百餘寺モアリ、一封ハ僧ハ百餘人、然レバ千七百人有ルベキニ、五千餘人、一封ハ酒肆四十二軒有リ、然レバ七百軒有ルベキニ、一千餘軒アリ、一封ハ屠者ハ僅ニ十軒有リ、然レバ三百四十軒有ルベキニ、五六百軒モ有リ、之ニ就テ考レバ、其多カルベキ者ハ少クシテ、其少カルベキ者ハ多ケレバ、土地濶シトイヘドモ、却テ狭キニ劣レリ、其故ハ地廣ケレドモ、之ヲ耕ス者多カラザレバ、土中ヨリ菜穀生ゼズ、山林廣ケレドモ、工人モ又多カラザレバ器材ト成ラズ、海廣ケレドモ、獵人モ又多カラザレバ運上少シ、是理ヲ考ヘ、常ニ心ヲ懸テ其多カルベキ者ヲ多ク爲シ、其少カルベキ者ヲ少ク爲シ、之ニ教ルニ、儉ヲ以テスレバ、國用自フ足ルナリ、商賈モ多キハ國害ナリ、僧侶酒肆ハ論ニ及バズ、醫モ多キハ無益ナリ、游藝ノ者ハ穀蟬<sup>か</sup>ユヘ、一人モ置クベカラズ、屠者モ多キハ無益ナリ、國政頽ルレバ竊盜競ヒ興ルユヘ、屠者猿等ノ役繁クシテ、時勢ヲ得ルハ國家ノ耻辱トス、丐乞多キハ尙モ耻ナリ、北狄ノ地ニハ丐乞ト云者無シト聞ク、長州萩領ハ東西五十三里、南北三十里、三十五萬石ト記セドモ、譯有テ實ハ相倍ス、<sup>七十</sup>萬石寺數千四百二十二ヶ寺、神社千二百四社、民數五十一萬六千三百餘人、屠者村四十二ヶ處、田畠六萬町、酒肆ノ征權銀百四十貫目ト聞ク、是等ノ邦ハ大抵寺院民數屠者相比ブベキ者カ、或ハ六萬石餘ノ封アリ、近年ノ調ベニ、家臣ヲ除テ民數十萬七千九十五人、其内農民八萬八千三十六人、町人一萬八千三百二十一人、僧四百六人、社人百二十三人、山伏百八十一人、陰陽子二十六人、巫二人、其外直人陪臣等加テ、凡十二萬人ニモ及ブベキカ、其中

僧徒僅四百人ハ百分一

〔編者云計算不  
合原本ノマ、〕

ユヘ甚善シ、山伏多キモ亦民ノ患タリ、農人凡九萬ニ、町人一萬八

千ハ四分一ユヘ、最モ國益トイヘドモ、是事ハ上ノ黃籍マ、ニハ證トシガタシ、商賈ノ黃籍ニ農民ト記セシ事アリ、農民ト記シテ鬻グ者モアリ、國家ハ廣大ナル者ユヘ、紙上ノ通リニ屈キ難シ、蓋シ上ニ賢明在シテ、法度能ク行ルレバ、黃籍ノ如ク屈テ國家大ニ盛ナリ、由レ是少カルベキ者ヲ成丈減耗シ、多カルベキ者ヲ蕃息スルヲ工夫セバ、國家自然ト富饒ナリ

六箱ニ、「不富則無<sub>レ</sub>爲仁」トハ收歛シテ富スニ非ズ、收歛ハ不仁ノ甚キ者ナリ、躬儉約シテ富メルヲ云、袖長レバ能舞ト云ハ是ニ同ジ、仁心有レドモ財貨無レバ、志ヲ遂ルヲ得ズ、然レドモ惠ハ小仁ナリ、仁ハ人ニ教ユルヨリ大ナルハ無シ、其故ハ一民二百金ヲ予ヘ、或ハ一命ヲ助ルトモ一時ノ事ニテ、喉ヲ通レバ熱ヲ忘ル俗情ユヘ、年ヲ逾ズ貧窮ス、由レ是教ヲ先トシ、賞罰明ナルトキハ、其政ニ化シテ精力ス、然レバ上ノ惠ヲ受ニ及ズ、上ノ惠ミハ一時ノ榮ナリ、自ラ勤ル財ハ終身失ハズ、故ニ財貨ヲ施サンヨリ、賞罰ヲ正フスベシ、邦政事正キニハ、富家モ永續スレドモ、盛衰速キハ、全ク政不正ニ由ル所ナリ、又政正キ邦ニハ、天罰ヲ受ル者ナシ、人皆ハ天ニ代テ賞罰ヲ正ス職分ニテ、天ニ先ダチ衆民ヲ正スユヘ、終身天災ヲ受ケズ、故ニ政嚴猛ヲ我身ノ良藥ト思ヒ、必君恩ヲ忘失スル事勿レ、左傳ニ、「美疾惡石」ト見エシハ是事ナリ

○ 客云、六箱、「大農大王大商、謂<sub>レ</sub>之三寶」、四民ノ中、士ハ如何ナレバ加ハラザルヤ、然レバ士ハ

國ノ寶ニ有ラザルカ

答云 士ハ三民ノ養フ所ナリ、故ニ三民ヲ寶ト云、蓋シ古ハ百姓ヲ和訓ニ御寶ト云、百姓ハ士農工商ヲ云、先儒ノ說ニ、大ノ字ハ附字ユヘ、泥ムベカラズトミユ、又諸家ノ説色々多シ、次ノ文ニ、「農一ニ其郷則穀足、工一其郷則器足、商一其郷則貨足、三寶各安ニ其處、民乃不慮、無亂ニ其郷、無亂ニ其族」ト云ハ、農工商賈雜居セズ、各々其郷ニ心ヲ留メ、他處ニ往ク事ヲ慮ラズ、常業ヲ專一ニシテ其居處ヲ亂サズ、其族類ヲ亂サヌ様ニ上ヨリ致シ置トキハ、穀器貨財共ニ足り、國必安シト云事ナリ、七書全解云ニ善治國者、必使「吾國之民、分治ニ其業、而有各得ニ之情、又使「吾國之民、皆樂ニ其土、而不有重遷之意、力能人心暢適、不至借人三寶也」ト載タリ、三民ノ大富其國ニ在レバ、其蓄積ハ輒チ國主ノ蓄積ナリ、三國ノ時、中山ノ大賈張世平・蘇雙等、玄德ニ莫大ノ財ヲ予ヘ義兵ヲ舉サシム、我邦元弘ノ亂ニ、名和又太郎後改ニ伯耆守長年南帝ヲ救フ、應仁ノ合戰ニ、畠山左京大夫沈沒セシヲ、左海ノ紅屋何某夥シク財ヲ出シテ兵ヲ起サシム、漢書「貨者國之本也」トミユ、免角財無クテハ、治亂共ニ事ヲ遂ガタシ、故ニ大學ニ、平天下ノ章ニモ、財ヲ爲ス事ヲ說王ヘリ、國家ヲ保ツ人、此道ヲ知ラズンバアルベカラズ、「貧者士之常也」ト云ハ、清廉ニシテ使ラザルヲ誠ムル語ナリ、身儉約シテ蓄積スルハ最ヨシ、本多作左衛門ハ當時ノ豪家ナリ、神祖幼稚ノ時、自ラ庫ヲ開テ蓄財ヲ視セ奉リ、君生長ジテ合戰ノ時、是ヲ軍用ニ致スト云、此家ハ緡錢ヲ堅ニ積置ユヘ、神祖其故ヲ問玉ヘバ、多ク積メバ必

ズ折レ傷ルト云、其後果シテ倉一軒ヲ捧グ後年淺草金庫ニハ、神祖我幼少ノ時、本多ニ聞シ事アリ、  
錢苞ハ堅ニ積メト上意アリ、上杉謙信ノ臣岡野何某ハ、大家ナレドモ至テ偏ナル性質ニテ、平生多ク  
ノ金銀ヲ座ニ双ベ、是ヲ見テ樂ミトス、時人大呆子ト呼ブ、或日公館ニ火災ト云ヘバ、乍チ馳行キテ  
座ニ双ベ置シ金銀ヲ忘レタリ、君或時ノ出陣ニ、永樂錢一萬貫ヲ呈ジテ軍備トス、是時代ハ永樂錢一  
文ハ百錢ニ充ルヨシ、常ニ身ヲ儉約シテ、家中ノ貧士ニハ二十兩三十兩與ヘテ、其難儀ヲ濟フ事寡ラ  
ズ、斯客膏ノ心無ク、身ヲ約シテ國家ノ用ニ立チ、公館火災ヲ聞テ財ヲ忘レルハ一毫ノ私無ク、忠臣  
ト稱スベシ、下サヘ富セテ置ケバ、不虞ニ臨メバ、盜竊ヲ恐レテ上ニ納ル者ナリ、織田清洲在城ノ時、  
藤井父右衛門ハ豪家ユヘ、賊難ヲ恐レテ城内ニ移宅ヲ請フ、勝國ノ時ハ統テ如レ是、大津・浪華・伏見・  
左海等繁花ノ地公領タルハ、財庫ハ彼地ト思召サル、故カ、彼地永續ノ富家甚多シ、浪華天王寺屋ハ  
聖德太子ノ時ヨリ傳レリ、赤馬關鯉問屋ハ土佐ノ長曾加部代ヨリ傳リテ、三百餘年年ヲ經シ鯉ヲ今ニ於  
テ所持ス、遠境ノ富家盛衰速キハ、畢竟士格ヲ受ケ、或ハ獻金繁ク、或ハ種々ノ新制ニ遇ヒ、又ハ游  
藝・大酒・博奕・姪亂ヨリ滅亡ス、故ニ豪家ノ子ドモ行狀惡キトキハ、早ク其子ヲ禁錮シ、季弟親族  
ノ良子ヲ撰ミ共家業ヲ繼シムベシ、是又武備ノ一端ト云ベシ、一兩家は法ニ處スレバ、國中皆魂慄シ  
テ懍ムベシ、是則チ仁政ナリ

雨森ガ恬意茶話ニ、礎濕ヘバ雨降ルト知ルベシ、謳ヒ・亂舞流行ノ處ハ、武備嚴ナラズト知ベシ、酒

色ノ好ミ違者ト覺ユル人ハ、天札ト知ルベシ、物事花魁ノ國ハ、遠カラズ衰微ト知ルベシト云フ、尤

モ確言ナリ

漢賈山至言云「昔者、周蓋千八百國、以九州之民、養千八百國之君、君有餘財、民有餘貲、而頌聲作、秦皇帝、以千八百國之民、自養、力罷不能勝其役、財盡而不能勝其求、一君之身、其所自養者、馳騁戈獵之娛、天下不能供也、然則國之興廢、非財少而國延、財多而國促、其効可觀矣、然自周官六典、有太府、又有王府內府、且有惟王不會之說、後之爲國者因之、南漢財賦曰、大農者、國家之帑藏也、曰少府、曰水衡者、人主之私蓄也、唐既有轉運度支、而復有瓊林大盈、宋既有戶部三司、而復有樁內藏、於是天下之財、其歸于上者、復有公私、恭儉賢主、當損內帑、以濟軍國之用、故民裕而其祚昌、淫侈僻主、至靡外府、以供耳目之娛、故財匱而其民怨、是又歷代制國用者龜鑑也、利息ハ、國ノ盛衰ニ應ジテ高下アル故、妄リニ究メ難シ、國盛ナレバ、法ヲ出サズト雖モ、自下低トナル、衰ル時下低ノ令ヲ下セバ、却テ民間融通セズ、民ノ憂トナル、亦親疎直不直ノ者ニ由テ、銀主ノ酬酢モアリ、大抵月二步ハ天下ノ通用ナリ、上方ハ日歩ナリ、是ハ正キ法ナレドモ、遠垂ハ農工ノ徒算術ニ拙ク、且不便利ユエ行レズ、大都會ハ素封多ク、財貨潤澤ユエ、五六七朱ヨリ八九朱迄ニ至ル、若シ侯國、於テ衆ニ挺デ下低ニ貸ス者ハ、其賞有ルベシ、備前芳烈公是事アリ、自餘モ視効ヒ、萬民ノ爲トナルナリ

都會ノ地ニ車錢ト名ケ、一貫文ニ一日百文ノ利息ヲ取ル、舌ヲ捲クベキ高利ナレドモ、内情ヲ聞クニ、亦窮民一時ノ助救トモナルユエ、強テ咎ムベカラズ、貧賈一錢ノ貲本ナキ時、彼一貫ヲ借テ品物ヲ買入レ、此ヲ販ヒ一日ニ三百文ノ利ヲ得テ、銀主ニ百文ノ利ヲ返シ、殘錢二百文ヲ以テ其日ヲ過ス、斯ル銀主ハ希ナル者ユエ、内情ヲ察シ汪洋ニ視テ居ルベシ、若シ滋蔓スルトキハ禁ズベシ、又富家ノ者過當ノ高利ハ誡ムベシ、利息ノ高低ハ和漢各別易ル事ナシ、今華船ノ者出帆ヨリ歸著マデ、凡一年二割ノ利ト聞キ及ベリ

鄉村ニ斗付ノ米ト云事アリ、是モ國豐ナレバ自然ト下低ス、別卷ニ述シ通り、米一苞ヲ四五月ニ貸テモ、其年極月ニ一斗ノ利ヲ付ク、若不納スレバ元利四斗ト成テ、翌年ハ五斗三升三合三勺トナリ、八年ニ十苞ト成、是高ニ又利ヲ付バ百苞トナル、是ニ又八年積レバ千苞トナル、都合二十四年ニ、元米一苞ハ千苞トナル、今是ヲ禁ジテ利ニ利ヲ副ヘズ、何年不納スルトイヘドモ、元米ニ利ヲ加ル事、令ヲ下スベシ

羽州庄内ニ本間孫四郎ト云者ノ貸方ハ、市町ニ於テハ寔ニ良キ法ナリ、假ヘバ錢六貫文ノ借用ニハ、一年一割ノ利ニシテ、六貫六百文ヲ一日ニ割レバ十九文トナル、是ヲ毎月取立ルユヘ、借者モ逼ラズシテ皆納ス、是ヲ日錢ト名ク、城下ハ勿論、國中過半借リザル者ナシ

長州萩府ニ熊屋ト云富家有リ、大夫及ビ士庶人皆借用ス、上ヨリ金庫ノ番、鎮火ノ吏モ付ケ置カル、

ハ大量ノ法ナリ、貴キ諸侯トシテ、自ラ產物或ハ子錢家ト爲テ蓄積センヨリ、右ノ者ヲ守錢ノ役ト思ヒ、貨殖ノ職務ト致シ置カバ、多クノ官吏モ用ヒズ、何時モ其蓄積上ノ金庫ニ異ラズ、又士人ノ借財スルニ、我領内ノ者ニハ輕侮シテ不信ナル者ユヘ、銀主モ懼シテ心ヲ緩メズ、他邦ノ人ト思ハレ不廉モ無キユヘ、銀主モ安心シテ借スベシ、他邦ニカレバ雜費モ多ク利銀モ散リ、彼此ノ損失有テ、自國不潤ノ本ナリ、自國ノ銀主ハ、好情有テ利モ貪フズ、特ニ公用等ハ又報恩ノ心モアリ、若シ公領ノ銀主ニ不納アレバ、御八判ナド願ハレ、上ノ難題トナル事アリ、故ニ他邦借財ヲ禁ジ、永世安心スル様ニ種々ノ批政新制ヲ出サスンバ、其國家ノ便利ナリ

領主賈乏ノ時、領中ニ貢金ノ令有ル事アリ、是時ハ其職掌ト爲ル者、第一下ノ内情ヲ知ル事切要ナリ、士人ハ貨殖セザル身故、金銀ノ儲ケ難キ事ヲ知ラズ、一金ヲモ益シテ上ニ納ルヲ、忠義ノ様ニ心得テ、汙吏點背ノ徒動スレバ刻剝暴斂シ、若シ命ズル員數ニ背ケバ獄ニ下ス事アリ、斯ル惡政古モ有ル事カ、唐ノ陳子昂ハ富家ナリ、時ノ縣令段簡貪欲ニシテ、事ヲ予ユレドモ、猶慊ラズ、賂薄シトテ捕ヘテ獄ニ下ス、子昂篋ヲ執レバ囚ナルユヘ、驚テ天命不祐、吾死至レリト、遂ニ獄中ニ死ス、吏人獻金ノ者ヲ見聞シテ訟ユルトキハ、能ク勘辨シテ取捨セズンバ、讒ニ隨ヒ謬ル事有テ、最良偏頗、又ハ賄賂ヲ取ルナド、惡名ヲ受ル事有、富ハ衆ノ惡ム所ユヘ、世間ニ唱ル千兩持ハ、内ハ二三兩ト心得ベシ、蓄積ハ外ノ見込ト大ニ相違スル者ナリ、是等ノ事ハ武家ノ知ル所ニ非ズ、故ニ百兩ノ身代ト見込マバ

五兩・千兩ト見込マバ、十兩二十兩ニ致サバ、悅服シテ獻貢シ、時々有リトイヘドモ苦ミモセズ、怨ミモセザレドモ、外見ヲ以テ百兩ノ身代ニ二十兩、千兩ノ身代ニ百兩モ掛ルユヘ、費本ノ障リト成ツテ上ヲ憾ミ、又暴吏ヨリ猛責ニ遇ヒ、身代潰ル、者モアリ、賢明上ニ在ス時ハ斯ル事無レドモ、下ニ貢金ヲ勸ル時代ト成ツテハ、政事モ亂レ良臣モ進マズ、酷吏ノ僚威ヲ得ル者ユヘ、若シ貢金ノ員數日安ヲ捧ル時ハ、其長官タル者仁恕ヲ以テ尙モ減耗シ、必ズ下吏庄屋ノ諂言ヲ證トスベカラズ、蜂蜜ヲ視ルニ、蜜十斤有ラント視ルトキハ、二斤ヲ取レバ蜂衰ヘズ、毎年取リテモヨシ、若慾ヲ去ラズ五斤モ取レバ、蜂怒テ殘ル所ヲ喰ヒ盡シ、悉ク飛去ルナリ、蟲類トイヘドモ如此、是意ヲ考ヘ、有司ハ溫良寛宏ノ者ヲ銓テ命ズベシ、譬バ一人ノ富家百兩ノ貢金ヲ、一村百軒ノ人別錢ニ割附レバ、一人ニ六百七十文ナリ、中々納ル事ニ非ズ、却テ寇讎ノ如ク懟ルベシ、故ニ一潤ノ事ニテ妄リニ富家ヲ猛責スベカラズ、和州柳生領ハ、下富メバ上ノ爲ナリト、國初ヨリ下ニ獻金ト云事ナシ、何レノ邦モ斯ク有ルベキ事ナリ

軒別錢ヲ掛ルトキ、富家ヨリ何百人ト是ヲ救フニ、上ニハ軒別ト見ユ、下ハ富家ノ救濟ヲ知ラズ、是事甚ダ不正ナリ、由レ是庄屋名主コリ、一戸毎ニ其契書ヲ渡シ、是ヲ其救濟ノ者ニ携ヘ往キ、其手札ノ員數ノ分金ヲ請取リ、一人ヅツ庄屋ニ納ル事直道ト云ベシ

上匱乏ノ時、俗例ノ官吏種々興利ヲ說テ勸化講ヲ設ケ、萬人講・千兩富父第一ト云者アリ、皆貪狼不

義ノ伎ト雖モ、其中ニモ第一ト云ハ、博奕同様ナル者ニテ、領中小盜群興スル故、竊盜ノ種ヲ播ト云ベシ、故ニ縱ヒ賈乏ニ逼ルト雖モ、是事ヲ企ル可ラズ、多クハ僧侶ノ徒、寺院再興抔ト願フ者故、必許ス事勿レ、若シ是ヲ許サバ、僧一人ヲ愛シテ國家ヲ亂ス故、却テ佛神ノ罰上ニ降ラン、國家賈乏ノ時、庶人上金スルハ其功薄カラズ、功有テ賞無キハ闇主故、古漢朝ヨリ賣官ノ法、明清マデ盡ズ、本朝モ今ニ於テ皆爾リ、蓋シ格式ヲ授ルハ、甘キ毒ヲ與ユル者ナリ、賢德ハ上金無クトモ、上用ハ固ヨリ君道ナリ、然レドモ小人ハ利ニ喻ク仁義ニ疎キ事、富有ノ者ハ一般也、是等ノ者ヲ武士ト爲シテハ、所謂狙<sup>サル</sup>獐ニ袞服ヲ著スルガ如シ、僇<sup>ヒシヤモ</sup>夫ノ例ヒニテ、俄ニ帶刀ヲシテ世ニ街ヒ、傳來ノ舊業ヲ賤ンジ、家產蕩盡シテ潰ル、者寡カラズ、然レバ其賞ハ眞實ノ愛ニ非ズ、由レ是田地ヲ賜リテ、帶刀ヲ許サズ、市町ノ者ナラバ、右ノ地面ニ上租ヲ取ラスルベシ、京大坂ノ豪家數代永續スルハ、全ク士格無キニ由レリ、蓋シ文武ニ達シ、君祿ヲ耻カシメザル者ハ論ニ及バズ、或邦困窮ノ時、銀二貫目獻上ノ者ニハ、殿中ニ於テ拜謁、一貫目ハ東都述職ノ往來、郭外ニ於テ轎中ニ拜謁、五百目ハ正月飾松免許、何百目ハ免刀、何十目ハ苗字免許ト次序ヲ立テ、或ハ絹布ノ衣裳、或ハ肩衣、或ハ野籬ノ染色抔ト、種々法術ヲ以テ納財セシム、是モ急ニ臨デ一時ノ權道智術ニテ、軒別錢、或ハ楮幣ヲ出スニハ大ニ勝レリ

經濟問答秘錄卷八終

# 經濟問答秘錄卷九

## 國用考下

舜典曰、「協<sup>ニ</sup>時月<sup>ニ</sup>正<sup>レ</sup>日、同<sup>ニ</sup>律度量衡<sup>ニ</sup>」是語ハ舜帝ノ時諸侯ノ國々ニ於テ、曆日律度量衡ノ齊一ナラザル所ハ、是ヲ審カニ同フシ玉フヲ云、度ハ尺ナリ、量ハ升ナリ、衡ハ秤ナリ、古聖王ノ治方ハ、今ノ様ニ種々ノ秕政ハ無ク、萬事ノ根本ヲ正フシ玉ヘリ、右ヲ以テ稽フレバ、度量衡ハ曆書ト共ニ最モ大切ナル事ニテ、海内同一タルベキニ、今ノ世ニ於ル曆書ハ、江戸三島伊勢共ニ分毫モ差ハズ、海内一般タリ、然ルニ量ハ諸國各異ニシテ、國升ト云テ作爲シ、又民間ニハ武佐升ト名ケテ自作ス、武佐升ハ武者升ノ轉語ナリ、戰國ノ時兵卒ニ糧ヲ配ルトキ、大抵一日分見積リテ升ヲ作り、是ヲ以テ量リ渡スヨリ起レリ、今ノ京判ヨリ少シ太シ、升ハ元黃鐘ノ律ヨリ起ツテ、管ニ秬黍一千二百粒ヲ入ル、是ヲ倫ト云、十倫ヲ一合トス、十合ヲ一升トス、十升ヲ一斗ト云、十斗ヲ一斛トス、今一石ト書ケドモ、斛ト書ベシ、公儀御定ノ升ハ、一斗入ハ一尺五分四方、深サ五寸八分八厘、一升入ハ四寸九分四方、深サ二寸七分、一合入ハ二寸一厘四方、深サ一寸四分四厘、是ヲ京判ト名ケ天下通用ス、其中國升ト云ハ、毎國少シジ、差アリ、一升入ハ五寸二分五厘四方、深サ一寸三分、京判ニ比ブレバ些シ太シ、或

邦ニ酒・<sup>シトウユ</sup>・<sup>シトウユ</sup>・油・酸等ノ水物ハ京判ヲ用ヒ、穀物ハ國升ヲ用ユ、農民穀物ヲ以テ酒ニ易レバ、太キ國升ニテ量リ、酒ハ小キ京升ニテ量リ渡スハ、甚ダ不正ノ政ナリ、或ハ魚賣鹽賣及ビ農民ノ取遣、自作ノ武佐升ヲ用ユ、是ヲ禁ジテ封内泄ル、事無ク官印ノ升ヲ渡シ、是迄用ユル所ノ無印ハ悉ク改メ、若シ太ケレバ是ヲ判リテ、寸法ニ合セテ官印ヲ烙キ、小キ升ハ燒キ棄ルベシ、蓋シ是法ヲ行ハント思ハ、貧賈ハ升代ニ困ルユヘ、大抵鄉村市町ニ升ヲ用ユル者ノ員數ヲ計リ、燒印ノ升ヲ庄屋市正ニ渡シテ、貧賈ハ年賦ニスベシ、又市中穀物屋ハ皆藥ヲ用ヒ、手量リヲ禁ズベシ、上方ハ統テ藥ヲ以テスルハ正直ト云ベシ、今時ハ本ヲ棄テ末ニ目ヲ掛ケ、様々ノ制律ヲ立テ、民ノ日々ニ用ユル度量衡ニ氣ヲ附ケ、聖王治國ノ初發ニ正シ玉フコユヘ、最モ重キ事ト思フベシ、徳川清康公・大久保忠武ガ興國ノ大功ヲ立シ其賞ヲ賜レドモ、固ク辭シテ受ズ、海リノ仰セ故、然ラバ國中用ユル所ノ升ノ司トナラント請ヘバ、是ヲ許シ玉フユヘ、即チ分量ヲ正フス、忠臣ノ國ヲ憂ヒ、私慾ヲ去ル事如此

公儀御定ノ直段ハ、壹斗入ハ銀二十六匁、壹升入ハ十四匁、五合入ハ十二匁五分、壹合入ハ壹匁四分、然レドモ侯國ニ於テハ三分ノ一ヲ直トミユ、始メテ改革ノ時ハ、猶ホ減ジテ配當スベシ

本朝律令曰、「凡度地量銀銅穀皆用大、此外官私悉用小者、凡用度量權、官司皆給樣、其樣皆銅爲之」

本朝尺ニ三種アリ、曲尺・竹尺・海鰐尺ナリ、曲尺ハ今大駒ノ用ユル所ナリ、輒チ唐朝ノ尺ナリ、竹尺

ハ吳服ニ用ユルユヘ吳服尺ト云、曲尺一尺二寸ニ當ル、海船尺ハ曲尺一尺二寸五分ニ當ル、是尺ハ錦羅紗類坪賣ニ用ユ、曲尺一通ニテ濟ベキニ、何レノ時ヨリ斯ク三種ト成リシヤ、煩雜ナル故、曲尺一通リニ仕タキモノナリ

衡ハ銓權ナリ、元十二律黃鐘龠ニ黍千二百顆ヲ入レ、其重十二銖、兩龠合セテ二十四銖ヲ一兩トス、十六兩ヲ一斤トス、十分ハ黍ノ重サナリ、十黍ヲ參ト云、十參ヲ銖ト云、八銖ヲ鎰ト云、日本ハ銀四匁三分、金ハ四匁七分三厘、藥ハ五匁ト定ム、一斤ハ唐目百六十匁、今清舶持渡ル一斤包ノ物ヲ試ルニ、百八十目計アリ、我邦年ヲ歷テ人氣直ヲ失フ事カ、當代ニ至テ東都ニ守隨、京大坂ニ神善四郎兩局ヲ立テ、東國ニ神善ヲ禁ジ、西國ニ守隨ヲ許シ玉ハズ、海内皆兩局ノ官印ヲ用ユレドモ、遠國邊鄙ニ至テハ、大坂便利ナク不自由ニテ、年累レバ鍾狂テ差フトイハドモ、改メ直ス者無レバ、已ムコト無ク、面々勝手ニ捷敏之ヲ仕直スハ、甚ダ惡キ事ナリ、前ニ視エシ通り、黍ヲ以テ試シ、其輕重ヲ量テ權輿シ大切ナル者ヲ、今時ノ者何トモ思ハズ倉卒ニ致セルヲ、上トシテ默止シテ居ルハ、政正ノ道ニ非ズ、由是白國ニ神善ガ免許ヲ受テ毎年封内ヲ巡リ、鍾ヲ少差フヲ仕直シテ官印ヲ押スベシ、是制則民ヲ直道ニ導ク根元ナリ

斤量古ハ稽ヘガタシ、今時ハ品物ニ由テ斤目各異ナリ、茶・眞綿・其外種々ノ品、百六十目・百八十目・白目・百三十目・二百十匁・二百三十匁・二百四十目・二百五十目等ナド、唐目一通リニテ濟ベキ者ヲ簡

易ニ致ス事便利ナリ

侯國錢ノ文目ヲ立ツルニ區ナリ、大抵九六ヲ以テ、一百トシ、九百六十文ヲ一貫トス、或ハ二十文・七十文・六十文・八十文・四十文ヲ以テ一匁ト定メ、運上或ハ借財契券ニ記ス、賣買又ハ金銀相場引替勘定ニ就テ、種々ノ事ニテ姦ハ思フ誑ス伎モ生ズ、正直ヲ以テ百文ハ百文、銀一匁ハ一匁ト致サバ、癡痴ノ者マデ早ク會得スベキニ、其譯會テ解シガタシ、錢二文目ト云ハ古無キ事ト視ユレドモ、貫數ハ古華域ニモ有リ、「唐自<sub>ニ</sub>皇甫<sub>ニ</sub>鑄<sub>ニ</sub>爲<sub>ニ</sub>鑒<sub>ニ</sub>錢<sub>ニ</sub>至<sub>ニ</sub>昭宗<sub>ニ</sub>末<sub>ニ</sub>乃<sub>ニ</sub>定<sub>ニ</sub>八十<sub>ニ</sub>爲<sub>ニ</sub>百<sub>ニ</sub>、五代漢隱帝時、王章每<sub>レ</sub>出<sub>ニ</sub>官錢<sub>ニ</sub>、又減<sub>ニ</sub>三錢<sub>ニ</sub>以<sub>ニ</sub>七十七錢<sub>ニ</sub>爲<sub>ニ</sub>百<sub>ニ</sub>、輸<sub>ニ</sub>官錢<sub>ニ</sub>仍<sub>ニ</sub>用<sub>ニ</sub>八十<sub>ニ</sub>」、<sub>出<sub>ニ</sub>和<sub>ニ</sub>爾雅<sub>ニ</sub>」又用<sub>ニ</sub>錢<sub>ニ</sub>之法、自<sub>ニ</sub>五代<sub>ニ</sub>以來、以<sub>ニ</sub>七十七<sub>ニ</sub>爲<sub>ニ</sub>百<sub>ニ</sub>、謂<sub>ニ</sub>之<sub>ニ</sub>省陌<sub>ニ</sub>」、<sub>出<sub>ニ</sub>歸<sub>ニ</sub>田錄<sub>ニ</sub>」</sub></sub>

金銀相場ハ、大藩ハ遠近一般ニハ決シガタシ、蓋シ大抵ハ上ヨリ究メ置カザレバ、姦賣衆ヲ憾マス本ナリ、或人余ニ問テ云、或大藩頃日金銀直段ヲ領中齊一ニ定メラル、是令行ル、ヤ

答云 海岸ノ長キ領内ナラバ隨分行レン、若シ海遠クシテ廣キ國ナラバ行レズ、其故ハ金ハ銀ヲ以テ立ツ、銀ハ錢ヲ以テ直ヲ立ツ、然ルニ他邦ヨリ正錢ヲ取寄スルニ、馬一駄ニ金五兩ヲ負フ

文錢ハ百八十文ニテ一斤アリ、雜錢ハ二百文ニテ一斤

故ニ駄賃四百文ハ金五兩ニ掛リ、一兩ニ八十文ハ高直トナルノ理アリ、海岸ハ船賃僅ナルユヘ、各別金子ニ掛ラズ、是意ヲ考ヘ、大國ハ嚴ニ究ムベカラズ、大坂ノ如キ大都會ハ、相場時々變ズレドモ、

遠國ハ各別高低易ル事ナシ、倘時々變易スルハ、全ク狡黠伶俐ノ商賈等、利ヲ得ント衆ヲ眩惑スルト察スベシ、金銀下低セズンバ、國民潤澤トナラザレドモ、楮幣有ル領内ハ下直ト云事有ルベカラズ古語「一指之交彈、不如合拳之一擊」ト云ハ、亦弊俗銅習ヲ消弭スルノ根源ナリ、弊俗ヲ匡サント日ニ鞭撻ヲ用ユト雖ドモ、其技術ヲ行ハザレバ、草萊ノ根ヲ斷ズ耘ルガ如シ、風俗ヲ濫シ國家ノ害毒ハ四民雜居ニ在リ、故ニ先賢之ヲ誡ムレドモ、後世ノ民主其規轍ヲ踏マズ、唯善治ヲ希フハ、五彩ヲ攪勻テ畫クガ如シ、是實情ハ下ニ居ラザレバ、貴キ人ノ知ラザル所ナリ、若シ四民共ニ富シ風俗ヲ隆ニセント欲セバ、譬ヘバ二十里四方ノ封内ナラバ、都府及ビ公族大夫ノ都邑、又ハ古來繁花ノ市町ヲ撰ミ、鄉村ヨリ一二里ヲ阻絶シ、凡ソ十ヶ所ト究メ、諸所ノ宿驛五十戸百戸ノ處ハ、農民ノミ宅居サセ、其地ノ小商人諸職人ハ惣テ市中ニ聚僦セシメ、海邊モ繁花ノ大埠頭ノミ遺シテ、小湊ニハ一商モ措カズ、其餘ハ魚獵ノ免札、及ビ舟札ヲ授ケ置キ、官道ハ間ノ宿ニ宛茶店一軒モ免サズ、況ヤ鄉村往還ノ茶店菓物店ハ格別ナリ、舖遞ハ、其前ニ草履・屨・茶店等ニシテ一二軒ニ免札ヲ渡シ、御高札場ハ市中ノ外、鄉宿ノ地ニ隣端十四五戸ニ究ムベシ、家數多ケレバ却テ回祿累燒ノ難モアリ、餘家ハ往來筋ニ一軒モ建ズ、若シ舊來ノ家アラバ背向ニ建直シ、皆引入テ點々ニ作ラセ、農業ヲ致サセテ、唯幽僻ト成スニ如ズ、渡江ノ場ニハ涉人一軒ヲ作り、是ニ草履・屨・茶店ノ免札ヲ渡シ、鄉村ノ艇江賃錢・船代ハ聊ノ事ユヘ、民ニ掛ズ上ヨリ出シ、又帶刀ノ者ハ無賃庶人ハ賃有リトハ、小量ユヘ悉ク免ス法ヲ立ルベシ、年ニ積ツテ僅ノ

給ナリ、小寺・小庵・修験ノ宅ハ悉ク其地ノ市中ニ寺町ヲ立テ宅ヲ狭クシテ建ルベシ、我藩當代ニ至テ國中ノ小庵悉ク墮チ玉ヘバ、民害ヲ消シ玉フ仁政ト國民舉悦服ス、市町ニ工商聚鳩ノ街ハ、先ヅ一番ニ酒肆・麴肆、次ニ段物・太物・荒物・小間物・染屋・油絞・質屋・古手屋・骨董肆・肴屋・農具・鹽味噌・酢・承醬・豆腐・蠟燭・油鬢附・附木・燈心等ニ至ル迄、悉ク免職ノ札ヲ授ケ、工職ハ大駒・獲人・斧工・茨工・鍛冶等モ免札ヲ渡シ、其外一切ノ細工ハ、一人トイヘドモ宿驛鄉村ニ居宅ヲ禁ジ、鹽油モ販人ノ者ヲ村ニ入レズ、縦ヒ國界ニテ他領ニ買メニ往ケドモ、宿驛ニ於テハ三四百戸以上ノ市町ニ非ズンバ、商賈ヲ免スナカレ、又小商人等穀物ハ勿論、野菜ニ至ルマデ、村里ニ入テ買フ事ヲ堅ク禁ジ、農人モ自ラ市町ニ携ヘ、問屋ニ就テ賣リ、鹽肴ヲ買フニモ、近隣ノ者モ其者ニ便附テ求メナバ、日用ノ品萬事不自由ユヘ、自然ト質素ニ成テ、官吏口ヲ賣シ法令無クトモ儉約行レ、富饒ト成ルハ掌ヲ指スガ如シ、且ツ百工ノ中ニモ袴匠・砥人・武器工・三絃・袴・肩衣匠等ハ、都會ノ地トイヘドモ城下ヨリ外ニハ免札ヲ渡スベカラズ、斯ク市町ニ百工悉ク僦居スルトキハ、酒肆ハ攝州伊丹・池田・灘等ノ如ク同職集居ユヘ、吾劣フジト上製下直ニ致シ、諸商賈何ニ限ラズ、相共ニ利ヲ減ジ、迭ニ競ンテ相勵ミ、暇隙モ偷マズ、製物自上品下低ハ親視エシ事ナリ、京・大坂ハ皆知レ是、諸國ニ於テハ鄙舍ニ雜居シ、商賈モ一方ニ瞠無キニ由リ、恣ニ高價ヲ婪リ高利ヲ得ルユヘ、又治方驕奢ヲ竭シ、家ノ盛衰甚ダ速シ、農民モ又生質鈍直トイヘドモ、習化シテ伶俐猾黠ト成リ、耕耘ニ心ヲ竭サズ、其實リ多カラズ、士民モ又農家雜棲ニ由テ、

曾テ道ヲ問フ人モ無ク、朝談暮話唯卑言ノミニテ、上ニ恐讐ノ人無ク、自然ト土俗ニ化セラレ、威儀正シカラズ、四維ノ心ヲ失ヒ、竟ニ野人ト成ル、玆ニ一話アリ、昔或領主我封民言語ノ卑キニ由テ、京都ヨリ妓女ヲ數人召サレ、京訛ニ爲ントス、居ル事數年ニシテ、彼妓女ドモ却テ其國ノ訛ニ成テ歸リシト云事アリ、孟浪ノ談トミユレドモ、其情ヲ推セバ左モ有ルベキ事カ、俗ニ云氏ヨリ育チ、孟母ノ三舍ヲ察スベシ、聖賢トイヘドモ如是、況ヤ庸人ヲヤ、又農人ノ爲ニハ、百獸ノ中ニ虎豹ヲ放ツニ似タリ、故ニ鄉民ノ諺ニ、南林ト隣侍・坊主・山伏入ラヌ者ト呼ベリ、是語ヲ以テ其情ヲ推量スベシ、今諸國風俗弊レルハ、全ク是雜居ニ由ル所ナリ、蓋シ數百年來ノ舊宅ヲ遷移ユヘ能ク下情ヲ恕思シ、必ズ公威ヲ以テ暴戾ヲ致サズ、庶人ノ難澁無キ様ニスベシ、善道ニ導ク事ユヘ、天助有テ屈カザル事モ有ルマジ、國家ハ千百年永續ト思ヒ、今ヲ視ズ後ヲ視ルベシ、今ヲ知テ後ヲ知ラザルハ小人ナリ、諸事ヲ計ルニ、士庶人ニ至ルマデ、今日ノ事ハ明日死スルト思フテ計リ置キ、今年ノ事ハ明年死スルト立テ、何事モ跡ニ貽サス様ニ致シ置ベシ、官ニ居ル者ハ各別ノ事ナリ、安佚シテ氣遅ク寛々トシテハ、國家ノ大用ニハ立難シ、諸侯ヲ世家ト稱スレドモ、三代ノ聖主モ百世トハ永續セズ、故ニ後世天下ノ爲トナル事ヲ致シ置トキハ、縦ヒ滅國ニ及ブトイヘドモ、千載ノ後マデ人皆遺德ヲ戴クユヘ、千載民ノ主タルニ異ラズ、加藤清正肥後ニ於テ、諸處ニ要路ヲ架ヘ、武備嚴整ニ致シ置レシユヘ、絕世ニ及ベドモ今ニ於テ其遺德巍然トシテ視エタリ、諸國ニ於テ絶世ノ主、堂塔伽藍ヲ立置レテ今ニ殘レドモ、

國家無益ノ者ニテ、唯自身ノ福ヲ祈ラント民力ヲ費スノミナラズ、後世マデ脩理及ビ僧侶ノ貪婪ニテ民害ヲ遺スユヘ、今ノ世マデモ君子ノ笑ニ遇ヘリ、是意ヲ考ヘ、天下人民ノ爲トナルベキ事ヲ致シ、後世ニ遺德ヲ貽シ置ク事、賢君ノ行フ所ナリ、大猷公田獵ノ時、山寺ニ憩ヒ玉ヒ、八十有餘ノ老僧木ヲ接ヲ御覽ジテ、汝ハ餘命モ無キ身ニシテ、何ヲ恃ニ木ヲ接ヤト台問アレバ、後住ノ爲ト答フ、公大ニ御感アリ、又東叡山ニ累火ヲ恐レ、山下ノ民戸數百軒移遷ノ命アレバ、市中甚ダ難澁ノ旨愁訴スレドモ肯テ聽シ玉ハズ、一日松平伊豆侯參詣ノ時、市中ノ者ドモ統テ往キ、海ニ難情ヲ演レバ、伊豆侯衆人ニ對面シ、汝等ハ無病ノ時定テ熱キヲ堪ヘテ灸治ヲ致スナラン、其返答ヲ聞ント問ヘバ、隨分一年兩度モ致スト答フ、是時伊豆侯其ハ後年病ヲ除ク爲ナラズヤ、市中ノ出火若シ御宮ニ移ラバ、火元ハ死刑ニ處ス、其時何人ニ當ル事モ計リ難シ、故ニ今暫時ノ間熱キヲ忍ビ、轉宅スベシト利害ヲ説玉ヘリ、人皆感悟シ遂ニ遷移スト能近取<sup>レ</sup>譬、可<sup>レ</sup>謂仁之方ニ也

或領内ニ農商雜居禁法ヲ立テ、先鄉村商賈ノ免札ヲ取揚テ、法令ヲ下セドモ行レズ、却テ法ヲ犯ス商賈前年ニ倍ス、由<sup>レ</sup>之市中免職ノ商賈等甚ダ愠リ、鄉村ノ商人ハ無免職ニテ商賣シ、市中ノ賈人ハ運上ヲ納ルハ、偏頗ノ政ト云フハ當然ノ理ナリ、故ニ法ノミ立テモ、之ヲ受續グ吏人忠信ニ非ズンバ、却テ下ノ談嘲ニ遇ヒ、其君ヲ汚蔑スル事、是一條ヲ以テ察スベシ、故ニ唯吏ヲ詮ムニ如ハナシ或埠頭ニ民家數十戸上ヨリ造リ、其雜用ハ年賦ニ致セリ、余一宿シテ亭主ニ是家ハ凡何兩ホドゾト問

へバ、十兩ヲ年賦ト云、余又問、何ゾ其十金ヲ借受自身ニ作ラザルヤ、亭主答ケ、自作ハ叶ハズト云、余又問フ、是近邊ニ公林ノ竹木有リヤ、近キニ有リト云、其外作料夫賃雜用悉ク詢ヒ、之ヲ勘ヘ計ルニ、大概入費八兩トモ見ユ、二兩ハ利息トシテ、合テ十兩ヲ十年賦ニナスハ、慈仁ニシテ上ニ利潤ヲ得ル至極ノ妙術ナリ、若シ官庫ニ財貨モ有ラバ、是法ヲ用ユルベシ

封内諸所三四十戸乃至百戸ノ郷宿、農工商賈雜居、藁茨ノ家ハ一軒造ユヘ、軍法、謂ニ壁間三尺ヅツ隔ツ之小營也

ヲ定法トス、是弊ヘ一町ニ積リテモ夥キ事ユヘ、一國ノ諸町ニハ莫大ノ空地永ク無益ノ弊タレドモ、郷宿ハ如何ントモスル事ナシ、前條ノ通り四民ノ部類ヲ分ツテ街ヲ造ルトキハ、第一此弊ヘヲ消弭スルナリ、新造ハ表三間半、奥入何間、高サ一丈三四尺、二階作り瓦茨ニ致シ、五十間モ百間モ地形ニ應ジ、造込ノ長屋ニ致シ、時々修造無キ様ニ堅固ニ作り、富家ハ自造シ、不足有ラバ、上ヨリ年賦ノ財ヲ貸シ、貧者ハ上ヨリ作りテ、其年賦ハ日錢、又ハ月錢ニシテ取立ルカ、或ハ上方ノ如ク豪家ニ作ラセテ、屋賃ヲ取ラセテモヨシ、縦ヒ家主無クトモ、先ヅ家ヲ作り置カバ、定メテ人皆進デ來ラン、町ハ及ブダケハ阡陌ニ建テ、一町限リニ、闔柱ヲ建テ大板ニ橋標シノ如ク地名ヲ記シ、町界ニハ閭門ヲ建テ、是ヨリ外茶店トイヘドモ一軒モ造ラセズ、農業一職ニ致シ置バ、守職粲然ト分レ、戶籍ヲ改ルニモ捷敏便利ナリ、次ニ肥後熊本・備前岡山ノ如ク、日巡ノ官吏有ラバ、尙モ善制ナリ或都府ニ千戸計ノ民庶アリ、新制ヲ建テ諸商賈一式ト究メ、穀物屋ハ五穀一通リ、吳服屋ハ吳服ノミ

ト、各一種ノ職ト令ヲ下セドモ、月ヲ逾ズ廢レタリ、皆萬屋ナリ、是法制ハ海内ニ於テハ、大坂ナラデ  
屈キ難シ、大坂ハ一切ノ品物、日本中ニ賣弘ル百工ノ地ユヘ、一式ノ町有テ、書籍ハ心齋橋筋、藥種  
ハ道修町、金物ハ藥鐘町、陶器ハ横堀、細工物ハ御堂筋ト、同職僦居シテ、互ニ相勵ミ、敢テ暇隙ヲ  
偷マズ精カス、故ニ餘國ヨリ品物ヲ買メ、自國ノ物價ニ方ブレバ、上工ニシテ下直ナリ、近年廣島製  
産ノ品ヲ賣弘レドモ、下品ユヘ行レズ、諸國ノ市町ニ於テハ、萬ノ品一軒ニ賣ラザレバ、衆人ノ難澁  
ナリ、故ニ其家ハ一式ヅ、ノ免札何枚モ授ケ置ベシ、先年華船日本木履ヲ作ツテ持渡リシニ、彼地ノ  
齊ハ鼻緒無シ、木履ハ鼻緒有テ、一方ハ大拇一ツユヘ、之ニ工夫ヲ附テ、一方ニ偏セテ鼻緒ヲ立ツ、  
崎陽ノ者一人モ買メズ、無用ト爲テ捨シ事アリ、是製方當然ノ理トイヘドモ、日本人ノ情ニ合ザルユ  
ヘ、無用ト成テ廢レタリ、今諸國ニ於テ、伶俐發才ノ者下情ニ達セズ、動レバ品水練ニテ新制ヲ立ル  
ハ、華船ノ木履ニ倣シキ事多シ、慎ムベシ

市町ハ阡陌ニ長短無キヲ最上トスレドモ、城下地形ニ由テ自由ナラズ、筑前ノ福岡・勢州ノ阿濃津等  
是ナリ、又官道ハ一方稻田ナレ<sup>パ</sup>阡長シ、然レドモ宅裏<sup>トシ</sup>ハ田地ヲ填メテモ、豎横短長無キ様ニ立ルニ  
如ズ、又一町ニ戸數多少有ルハ甚ダ惡シ、少キ所ハ大ニ誇テ花奢ニ街ヒ、倣<sup>アトドリ</sup>シテ喧嘩ヲ嗜ミ小町ヲ  
苦ム、古來ノ群黨小里ヨリ起ル事曾テ視エズ、古ヘ王代ハ五十戸ヲ限トスルユヘ、是古例ニ隨フベシ、  
東都ハ一丁ヲ一町トス、諸國ニモ是法有リ、最上ノ良制ナリ、一丁ハ六十間、兩方共二三間口ナレバ

戸數合テ四十軒、其中富家モ在レバ、二三十間トモ爲ル、都會ハ過半借宅故、作リ込ニテ壁間空地ノ費ナシ、富家ハ一丁ニ一二軒ノ所モアリ、江戸駿河丁ハ兩方共ニ越後屋ノ店ナリ、諸神祭マタ等ノ時ハ、一丁宛ニ究メズ、二丁モ三丁モ、一組ニ致ス事、令ヲ下サバ一和シテ、マタ拔錢役夫モ寡シ、又戸數寡キ所モ一丁毎ニ其長ヲ置ベシ、古聖代ニハ州・黨・旅閭・比ト戸數ヲ究メテ、其官ヲ設テ教諭ヲ專一トス、委キ事ハ周禮ニ見ヘタリ

拾芥抄云ニ京都ハ凡一條之内有ニ四坊、一坊之内有ニ十六町、十六町之内有ニ四保、四行爲レ町、ハ尺爲レ行、三十二戸也、四町爲レ保、百二十八戸也、四保爲レ坊、四坊爲レ條、市中ノ割方モ城地ノ繩張ニ異ラズ、先井田ノ法ヲ以テ割出シテ、阡陌ノ條ヲ以テ町ヲ建ツ、蓋シ地形狹ケレバ、其土ニ應ジテ工夫スベシ、市町ハ城地ヨリ澹川通水ヲ難シトス、大坂ハ川村安治ガ工夫ナリ、筑前博多ハ天文年中兵火ノ爲ニ、久ク荒土ト成リシニ、豐臣太閤西征ノ時、石田三成ヲ奉行トシテ市町ヲ建ツ、先ヅ櫛田宮ノ邊リヨ繩ヲ始メシト土人傳語ス、今徘徊シテ能ク稽ヘ觀ルニ、寔ニ功者ト稱スベシ

國界鄉宿ニ、俗例ノ者洒肆店棚ヲ願ヒ、免許無レバ他領ヨリ買テ、自國ノ不潤ト便口捷利ヲ以テ訟ルユヘ、官吏モ國欲ニ惹サレテ尤ト思ヒ、免許スル事間有リ、是等ノ事ニ顧眄スルハ商賈ノ技ニテ、未ダ廣大ノ國政ニ與ル器ニ當ラズ、其者一人ノ小利ニテ風俗ヲ濫シ、千萬人ノ損ヲ知ラズ、永ク國家ニ餘毒ヲ貽ス者ナリ、賣物上品下直ナレバ、十里ヲ遠シトセズ、他領ヨリ來テ買ムモト、若シ高直ナレバ、

近隣親戚トイヘドモ買メズ、故ニ姦黷ノ者ヨリ卑諂辯給ノ語言ニ欺レテ、席上ノ理ニ由テ免スベカラズ

鄉村農民ノ家ニ在テ、味噌・シヤウユ・承醬・油等免札ヲ受ズ、自家ニ造リ賣ル者寡カラズ、農民ハ耕務ノ暇ハ、日傭ノ外一切ノ職務ヲ禁ジ、若シ犯ス者ハ、渠ガ嗜ニ應ジテ市中ニ遷移スベシ、或ハ五穀ノ仲買、其外材木等商賣ス、是又彼ガ嗜ニ任セテ遷移スベシ

侯國ニ<sup>フレワ</sup>嫖院ヲ建ルハ、大埠頭<sup>ミナト</sup>ニテ都府ヲ去事數十里ナラバ可ナリ、其餘ハ必ズ許スベカラズ、諸處此ニ<sup>トヲ</sup>倣ヒ娼優<sup>ヤメセ</sup>妄ハノ類絶エズ、姪風ノ本ニテ、國民良子ヲ生マズ、故ニ年ニ從ヒ罪罰多シ、或海岸ノ都府、郭外ニ埠頭有テ旅船常ニ下碇ス、故ニ昔ヨリ遊女町ヲ建置ル、世俗ノ者ハ他邦ノ財貨自國ニ入テ國家ノ有益ト云、人ヲ獲ントスル士豈ハ人ニ獲ラル、他邦ノ財ヲ得ント、却テ自國ノ散財十倍スルヲ知ズ、士庶是ガ爲ニ酒色ニ溺レ、身代潰ル、者寡ラズ、故ニ法度ノ令時々下レドモ、猫ノ前ニ鮮魚ヲ置キ鞭ガ如シ、鮮魚ヲ置ズンバ、何ゾ鞭撻ヲ<sup>モトイ</sup>須ンヤ、縱ヒ旅船一年ニ千金ヲ棄ルトモ、不潔ノ財ヲ以テ國家ヲ富サンヨリ、清淨無爲ニシテ<sup>ニ</sup>閑<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>如ズ、人皆命ハ惜キ者ユヘ、娼優無クトモ風波ヲ避ル良岸ハ、繫纜スルハ必定ナリ、詩經、<sup>ニ</sup>漢有<sup>ニ</sup>游女、不<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>求<sup>ト</sup>見エシハ、文王ノ化遠ク江漢ノ間マデ、其淫亂ノ俗ヲ變ズルヲ<sup>ホメ</sup>美シ詩ナリ、上ニ明君在セバ、其德澤ニ化シテ、男女ノ姦妍ハ云ニ及バズ、嫖院ニ至ルマデ自然ト衰細ス、妓ト云ハ今ノ舞子ノ類ナリ、古攝州神崎ニ在レル白拍子ニテ、平清盛ノ時祇王祇

女是ナリ、其節操今時ノ妓女ト同日ノ論ニ非ズ、華域モ古代ハ無シ、漢武外史云、「古未レ有、妓、至、漢武始置營妓、以待軍士之無妻室者、其情尤ナリ、三都及ビ大都會ニ建置ル、ハ、天下幅輳ノ地ユヘナリ、開東ハ侯邸皆夫人及ビ側室在スニ、從衛勤仕ノ士ハ、二三年乃至十年皆無妻ナリ、故ニ怨思有テ吉原ヲ建玉フ者カ、後年漸々他處ニ興レリ、京都ハ島原・祇園・丸山、大坂ハ九軒新町其外四隅ニ有テ、土人三分ハ之ガ爲ニ身ヲ過セリ、餘國ハ越後ノ新潟・長州ノ赤馬・筑前ノ稻荷町・長崎等天下幅輳ノ地ハ古來之有リ、其外埠頭ニ自然ト興リシハ、舟子ハ日ニ風波ニ懣シ、妓女歡樂セズンバ、此職分ハ勤ラズト云ハ、固ヨリ頑夫ノ倣ユヘ、湊海ニ花街或ハ衛衛執酌女ナド居レリ、昔ハ嫖院ニ身ヲ賣ルヲ大ニ愧ル風俗ニテ、貧窮ニ苦ミ其子ヲ賣ルヲ大ニ愧ル風俗ニテ、密ニ遠國ニ往シニ、今世ハ青樓有ル地ハ、郷人ドモ勤奉公ト名ケ、爭フテ子ヲ賣リ、偕子ヲ産ニ美女ヲ生メバ、天幸ト悅ブヨシ、今長崎ハ舉テ其町内ノ女ト聞キ及ベリ、古今風俗ノ變替、是以テ察スベシ、我藩東境諸富ト云所ハ、江岸ノ埠頭ニテ旅船絶エズ、昔ヨリ嫖院有テ、繁榮ノ地ナリ、僅江ヲ阻テ向ニ、筑後若津ト云所ニモ嫖院アリテ、互ニ嫖妍ヲ爭ヘリ、我藩當代ニ至テ嫖院ヲ廢シテ、土人各々正業ヲ營シム、「夫兒義不爲、無勇矣」ト大學ノ教タルニ、若津ノ者ドモハ時ヲ得マリト、數副相倍シテ、妓女妄ハ諸方ヨリ呼集メ、一時ハ賑ヘドモ、數十年ヲ經ズ元ノ如ク、國家ノ利潤ト云事モ無ク、君子ノ笑ヒヲ招クノミ、我藩時人ノ評ニ、向後旅客モヨヲ渡リ、僅用他領ニ落チ、自國ノ不潤ト云、偶俗ノ耳ニハ尤ナレ

ドモ、見<sup>レ</sup>小間<sup>ミ</sup>大斗<sup>タ</sup>符<sup>フ</sup>、諸言<sup>ヲ</sup>、天下國家ヲ治ル確論ニ非ズ、奈何ゾ容<sup>イ</sup>玉<sup>タマ</sup>ハンヤ、從<sup>レ</sup>是<sup>レ</sup>領中諸所逆旅ニ潜<sup>ヒ</sup>ミシ<sup>シ</sup>術<sup>ゲ</sup>術<sup>ワ</sup>妓女<sup>キョウニョ</sup>ノ輩自退散シ、乍潔清ニ成リ、士庶人冒色ノ害終ニ盡タリ、是ヲ以テ視レバ、飛驒王<sup>タケミ</sup>匠ガ一本ノクサビニア堅メシト云ハ、僞言ニ非ザルナリ

放<sup>ニ</sup>鄭聲<sup>シ</sup>遠<sup>ニ</sup>佞人<sup>ニ</sup>ト云ハ、人主ノ肝要トスル所ナリ、和漢ノ歴史ヲ讀ムニ、滅國ノ主ハ統テ是ニツヲ兼タリ、佞人ハ能ク人ノ邦ヲ危クスル者ナリ、鄭聲ハ淫樂ニテ、能ク人ノ志ヲ蕩カス者ユヘ是ニツ遠ザク、鄭聲ハ今ノ小謳・猿樂・淨留利等ニ當レリ、左レバ賢君ニハ良臣並ビ進ミ、佞人自退ケドモ、闇主ニハ姦臣嬖幸シ、忠良潜居シ、戰國ナレバ滅亡シ、治世ニハ匱乏スルハ人皆知ル所ナリ、隣國昔ノ事ヲ稽ルニ、筑後田中氏ハ草庵ヨリ出シ人ユヘ、能ク人情ニ通徹シ、行狀正キニ、其子長顯ノ不孝ニシテ又暴威ナルユヘ、天誅降テ竟ニ其孫斷絶ス、唐津寺澤氏モ卑賤ヨリ興リ、身ヲ儉ニシテ百姓ト同ク共ニ麥飯ヲ食シ、士庶人ヲ撫育セシユヘ、領中信服シテ治リシニ、其子兵庫頭酒色ヲ嗜ミ、遊藝淫聲ヲ樂ミ、臣下之ニ火シテ放逸ユヘ、政道廢シ下之ヲ侮リ、凶賊興テ家斷絶ス、鎮西擾亂、兵士ノ死傷幾許ゾヤ、若シ行狀正ク政事亂レズンバ、奈何ゾ賊徒手ヲ動ス事ヲ得ンヤ、「父甘<sup>ニ</sup>糟糠<sup>ニ</sup>、子飽<sup>ニ</sup>膏粱<sup>ニ</sup>、所謂得<sup>ニ</sup>諸憂勤<sup>ニ</sup>、喪<sup>ニ</sup>諸佚樂<sup>ニ</sup>也」トハ、彼兩家ヲ謂ナリ

神君侯國ニ渡シ置玉ヘル御條日ニ、士ハ文武ヲ專一ニ心懸ケ、群飲・好色・博奕ハ堅ク禁制タルニ、今匱乏ノ邦ニ於ル人ヲ治ル官吏トシ、酒黨ヲ設ケテ日ニ月ニ群飲シ、角抵狂言ニハ庶人ニ魁ケシ、書ヲ

讀ミ酒ヲ飲ザル者ハ、時變ヲ知ラズト謂ヒ囃シ、和ヲ失フテ官ニ入ル事モ得ザルユヘ、已事無ク酒弊  
ニ陷ル風俗ト成ル、左レバ躬公儀ノ法度ヲ行フテコソ、下ニ法度ヲ守ラスベキニ、自ラ背イテ誠ムル  
ハ私シト云者ニテ、豈心ニ怙怙タラザランヤ、或ハ碁・象棋・插花・俳諧等ノ遊樂、琴・三絃・淨留利等ノ  
嬌聲流行シ、士大夫モ女子ニ三絃ヲ教ヘテ淫色ニ誘掖ス、下又此ニ効フテ正業ニ懈リ、國政取次ニ成  
テ、上下共ニ彌々窳シ、資財調義ニ逼テ、已ム事無ク貪婪ノ心ヲ生ジ、下ニ獻金ヲ催シテ用度不足シ、  
再三掛テ尙足ラズ、產物貨殖收歛等ニ様々奇術工夫スレドモ、固ヨリ其本ヲ正サルユヘ益々困窮ア  
リ、斯ル時ニ臨ンデハ民間ヨリ鑿空工ドモ、四ヲ與ヘテ五ヲ取ラント、戲場免許有ラバ、運上銀十貫  
目、萬人講ヲ許サバ二十貫目、或ハ彼地ニハ角抵歌舞妓、此地ニハ酒肆・麴屋・肴屋ヲ願ヒ、又ハ何某  
ガ免職五貫目ノ運上ハ、我ハ六貫目納ント、謙退辭讓ノ道モ盡テ、様々上ノ利益ヲ先ニ立テ願フユヘ、  
官吏モ國欲ト私欲ニ眼心眩ミ、是モ免シ彼モ許シ、風俗乍チ大變ス、不肖者政ニ與レバ不虞譽ヲ求ン  
ト、甘キ毒ヲ喰セテ遊樂ヲ致サセ、終ニ虛國トナル者ナリ、余ガ郷ヨリ毎年北國邊ニ賣ル者アリ、諸  
所ノ風俗ヲ問フニ、或領分士庶人舉テ大酒花奢ノ風俗ニテ、美酒嘉穀ニ飽キ、毎年數十ヶ處狂言角抵  
ヲ催シ、西國邊ハ正月ニ蜜柑一枚ハ一錢ナルニ、一枚ニ十七八文、一戸毎ニ四五十枚ヅ、モ買ム、旅  
店モ酒食ヲ馳走シ、食料三百錢モ取り、又家臣射術ヲ爲スニ、金ヲ賭ザレバ迭ニ相勵マズト博賭ヲ以  
テ稽古スルヨシ、若シ合戰ニ臨マバ敵ヨリ槍芒ニ金ヲ振リテ視スルトキハ、疑ラクハ降頭モセンカ、

張也慈、焉得剛夫、弱兵ナル事右ノ一條ヲ以テ概知スベシ、其上楮幣大ニ下落シ、百文ノ札ハ十文ト爲リ、上下大ニ困窮シ、人心姦猾ニシテ、商賣ニ少シモ油斷ナラズ、上杉領ニ入レバ國人信義ユエ、安心シテ商フト告グ、鷹山侯ハ文德ヲ以テ舊染ヲ蕩滌シ、其餘澤今ニ於テ六十年、猶未ダ盡ザル事カ、「甘酒嗜<sup>レ</sup>音、峻<sup>レ</sup>宇彫牆、有<sup>レ</sup>ニ于此<sup>ニ</sup>未<sup>レ</sup>或<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>亡」ト聖經ニ見エタリ、俗吏ノ徒寬量ト心得テ角抵・狂言・遊藝ヲ許スハ、譬ヘバ冬ノ愆陽ニ諸木狂花ノ如シ、花ノミ開テモ實ハ生ラズ、花ノ多キホド、樹木傷テ、來春ノ發生薄クナルナリ、政ニ寬猛アルハ、其時ニ應ズル事ナリ、稅調一切ノ利寬ニ如ズ、弊俗ヲ改ルニハ猛ニ如ズ、鄉ノ子姪其子太叔ニ遺訓セル水火ノ喻ヲ考フベシ、我藩當代ニ至テ政道嚴ニシテ、博賭・角抵・狂言・淨留利等ノ嬌色ハ、國廣シトイヘドモ隅々迄必至ト輟ム、始メ二三<sup>ニ</sup>年ハ國人不服トミエシニ、後々ハ猶ヲ寺内ニ蓄フ如ク、遂ニ信服シテ皆富ム事ヲ知レリ、庶民ニ惡キ心得一條アリ、民ハ上ヨリ救ヘル者、僧ハ民ヨリ救フ者ト思フハ一般ノ下情ナリ、是ハ元來上タル人ヨリ人道ノ教諭無キニ由ル所ナリ、民ハ五穀ノ如シ、能ク糞セバ登<sup>ミ</sup>多シ、然レドモ是ニ蝗生ズ、其蝗ハ浮屠氏ナリ、豐熟ヲ得テ稍<sup>マウ</sup>米一苞ヲ仿<sup>フ</sup>シ、明年ノ糞代ト思ヘバ僧侶ヨリ虐<sup>シイ</sup>ラレ、久風旱ヨリ甚<sup>イナ</sup>シキハ角抵<sup>ケウ</sup>狂言等ナリ、今日ハ麥ヲ糞培セントスル時ニ至テ、一鄉悉ク暇日ヲ偷ミ、酒食ヲ費シ、餘米空ク盡ク、故ニ民ヲ富サント欲セバ、年貢ヲ免サンヨリ、先ヅ右ノ蝗虫風旱ニ勝ル者無キ様ニ工夫スベシ

長崎ハ西海第一ノ大都會ニテ、和漢ノ金銀落ル處ユヘ、儉約スレバ隨分豪家トモ爲ルベキ榮土トイヘ  
ドモ、風俗華奢美妍<sup>ハデ</sup>ニシテ、天下ニ拔ンヅル富家ト云者曾テ無ク、土人金ヲ儲ケ易キユヘ、少シ凶ナ  
ル時ハ將ニ飢ントス、是ヲ監ミ領主タル人ハ、先花奢ヲ專一ニ禁ズルトキハ、封中自然ト富饒ナリ  
九州一二封ニ地狂言ト名ケ、神祭ニ銘々自ラ樂者ト爲テ、歌舞妓ヲ致ス事アリ、淫祠ノ甚キ者ニテ、  
海内ニ於テ幾希ナリ、先數金ヲ出シテ、談優者<sup>トヤウシヤシヤ</sup>ヲ雇フテ師匠ニ致シ、農商ノ少年ドモ三四十日モ稽古  
シテ、白日ヲ偷ミテ酒食ヲ費シ、王侯ノ服ヲ作りテ錦繡綾羅ヲ買ム、其冗費失墜凡二三百金、暇隙彼  
是細算スレバ、五六百金ニモ充ンカ、前ニモ述シ通り、是戲場ニ加ハレバ、父母兄弟死ストイヘドモ、  
連中ニ障ルユヘ三日ノ喪モ勤メズ、髮ヲ剃テ群醜ニ接リ放樂スルハ、宛モ禽獸ニ異ラズ、特ニ二十歳  
内外ノ時分ハ、血氣未ダ定ラズ、善惡何レニモ由ル者ナリ、由<sup>ヨリ</sup>是風俗脱洒嬌色ニ化シテ、婚ヲ結ブニ  
過半嬌奔有リ、華域ハ良人ノ子モ樂人<sup>オシヤ</sup>爲レバ、鞭ル、事一百杖、嫁シテモ右同罪ナリ、日本ニ於テモ  
穢多ノ支配ヲ受ケ、大坂千兩役者トイヘドモ、町人ハ婚姻モセズ、世ノ中ニ樂ミ事多シトイヘドモ、  
自斯至賤ノ者ノ眞似ヲ爲スハ、一向慙ヲ知ラザル者ドモナリ、若シ一變セバ穢多ト類ヲ同スルニ非ズ  
ヤ、是故ニ自國ニ游民ドモ談優・淨留利等ヲ嗜ミ、人ニ教ヲ施ス者在ラバ、彼ガ嗜ニ任セテ庶人ノ一等  
ヲ降シ、河原者ノ版籍ニ入ル、事、政正ト云ベシ、上ヨリ神祇ヲ濁スト云ベシ、今親此ヲ催ス郷ニ入  
テ試ミヨ、風壤浮花ニシテ信義無ク、奢靡淫色ナリ、重キ國政ニ與ル者ハ下民ニ差ヒ、斯ル事ハ其好

惡ヲ知ラザルニモ有ルマジ、定メテ放逸無慙ノ民ヨリ誣誣セラル、カ、若クハ妻子ドモヨリ嗜欲ノ爲ニ勸メラレ、私有事ト覺ユ、天ハ不言ナレドモ、聖人ヲ降シテ教ヲ垂玉ヘリ、故ニ聖人ノ惡ム事ハ天ニ逆クユヘ、天災下ラズト云事ナシ、今侯國ニ樂者村ヲ立テ、其中ニハ御前座ナド、呼ブ處アリ、多クハ豐後邊ニ在リ、是等ハ嬉風ノ種物ヲ賣ル處ニテ、賭博・加留多ヲ賣ル店ニ同ジ、大坂・江戸ハ天下幅帙ノ大都會ユヘ、侯國ニ於テハ此ト一般ニハ萬機齊一シガタシ、上古ヨリ二千餘年は游藝營テ無シ、文祿年中豐臣公、肥前名古屋在陣ノ時、名古屋三左ト云者於國ト云女ト狂言ヲ致セバ、太閤長陣除舊ノ爲ト舞臺ヲ架ヘ、諸將皆芝ノ上ニ居テ視玉ヒシヨリ、芝居ト俗傳ス、其後三左ハ宮中ニ入テ嬖幸セラル、是時迄ハ男女取接テ致セシニ、神君女ヲ省キ、女役モ男ヨリ勤ル様ニナレリ、樂者ハ空也上人ヲ祖トシテ、禮服ニ十德ヲ衣ルナリ、其由來正説未ダ詳カナラズ、我藩モ古來二三ケ村有リシニ、當代ニ至テ嬉聲停止ニ及ビシユヘ、別ニ正職ヲ授リ家業ヲ營ミ、始メヨリ却テ富メリ、民ハ陶甄ノ如ク政ニ由テ善惡貧富ト成ル事揭然タリ

或邦ニ放樂戲場ト名ケテ上ヨリ入費ヲ出シ、或ハ富家ヨリ助金シ、衆人舉テ群觀ス、羽州米澤鷹山侯ノ代ニ、木戶錢百文ヲ上ヨリ補給シテ四十文ト定メラル、是事慈仁ノ様ニ視ユレドモ、實ハ正キ道ニ非ズ、木戶錢高クトモ好メル者ハ往キ、好マザル者ハ往カズ、若シ雅樂カ、或ハ講學カ、善道ニ誘引スル事ニハ補給スルハ可ナリ、斯ル鄭聲ハ善者ノ嗜ム所ニ非ズ、魁頭スル者ハ皆浮氣ノ貪樂者ナリ、

放樂或ハ木戸錢低ケレバ、庶人ハ眼前ノ深欲ナル者ユヘ、毎戸數十日隙ヲ竊ミ遊樂ニ進ミ、自國他邦ノ民放逸遊民集ツテ、賭博・醺會、或ハ婦女姦通シ、風俗一時ニ頹ル、唯酒肆・魚賣及ビ貧樂者モ、時ヲ得ルノミニテ、一郷ハ三絃太鼓ノ聲ニ蕩カサレ、片時ノ營モ爲ラズ、警衛ノ吏モ數日ノ美饌ニ饜セラレ、淫色ニ耳目ヲ穢スユヘ、行儀作法モ頹ル、ナリ

劇場ヲ免サバ傀儡歌舞伎ニ究メ、春秋隔年ニシテ、一年ハ東堺、一年ハ西堺、大藩ナラバ四隅毎年廻ニ致シ、都府ヲ去ル事五六里、運上ハ一日ニ銀五百目ホドニ究メ、晴天十五日許ニスベシ、無運上ナレバ、日ニ三千人ノ中ニ、一千人ハ無賃ノ者有レドモ、運上有レバ、一人モ無札ノ者ヲ入レザルユヘ利モ又有リ、然シテ右ノ運上銀ヲ以テ、其郷ノ隅々ノ小溝マデ杜梁砌石修理料トシ、或ハ貧婦胎胚ノ救金ニモヨシ、木戸錢ハ元方ノ究メ次第ニ致シ、偕自國ノ帶刀者及妻子、出家ノ徒ハ、堅ク禁制スベシ、警衛ノ者小吏一人庄屋ニ究メ置ベシ、又巡太鼓ト云テ、毎日太鼓ヲ撃テ外ヲ唱ヘ徘徊スルハ禁ズル事ヨロシ

九州一二封ニ浮立ト云者アリ、諸國ノ醜物ノ酷烈ナル者ナリ、是レヲ致セバ人氣浮キ立ユヘ、斯ク名ケシトミユ、庸人ハ性質陽氣浮花ナル者ユヘ、常ニ陰ナル事ヲ教ヘ導クベシ、若シ陽氣ナル事ヲ誘ムレバ、渡口ニ船ヲ與ヘ、猿ヲ樹ニ昇ラシムルト云ベシ、昔上野明神ノ社人堀江玄蕃ト云者、始メテ興セシト傳語ス、今ヲ以テ視レバ、遺毒ト云ベシ、惡キ事ハ年ヲ歷レバ、漸々枝葉ノ附ク者ニテ、古ハ

太鼓一笛ニ三管羯鼓四挺ナリシニ、又小鉦三四挺ヲ加ヘテ、段々烈騁ニ成リ、鉦モ渡リ一尺一二寸以上トセシニ、近年諸村相競ツテ三尺餘ニモ及ビ、價凡五六十兩、二三十年以前迄ハ、一郷ノ中僅二三村音器ヲ所持セシニ、漸々滋蔓シ、今ニ於テハ近邦迄流行ス、是曲固ヨリ殺伐ノ音ニテ、人氣剛猛ニ化スルユヘ、余四十年以來ノ事ヲ視ルニ、浮立一度ニ喧嘩ハ二度ハ有レドモ、一度ニテハ濟ズ、是ニ就テ諸村ノ不和甚ダ多シ、國人不和ナルハ、人主ノ手足ニ病有ルガ如シ、音曲ホド人心ヲ鑠ス者無シ、一ツビ是ヲ聞テ氣ノ動カザル者無ク、是ヲ勤メテ怒瞋ノ心起ラズト云事無シ、何フ以テ神之ヲ歎ンヤ、庶人ニハ假リニモ剛邁ノ氣ヲ起サシムベカラズ、上ヲ犯スノ根元ナリ、上トシテ是ヲ許スハ、我ガ民ヲシテ爭論ヲ致サセ、不和ト爲スノ媒妁ナリ、聖人ハ童謡ヲ聞テサヘ天變ヲ察玉フ、重キ國政ニ與レル身ヲ以テハ、是音一度聞カバ、人氣ヲ暴フシ風俗ヲ濫ス事ハ知ルベキナリ、嬉樂ニモ非ズ、雅樂ニモ非ズ、曾テ名クル所ナシ、孔子曰、「夫先王之制音也、奏ニ中聲ニ以爲節、流入ニ於南、不レ歸ニ北、夫南者生育之郷、北者殺伐之域、故君子之音、溫柔居中、以養生育之氣、憂愁之感、不レ加ニ於心、暴厲之動、不レ在ニ於體、夫然者、乃所謂治安風也、小人之音則不レ然、亢厲徵末、以象殺伐之氣、中和之感、不レ載ニ於心、溫和之動、不レ存ニ於體、夫然者、乃所謂亂亡之風也、昔者舜彈五絃之琴、造南風之詩、其詩曰、南風之熏兮、可ニ以解ニ吾民之慍兮、南風之時兮、可ニ以阜ニ吾民之財ニトミユ、夫大聖舜帝民ノ慍ヲ解キ、民ノ財ヲ盛ニスル詩ヲ以テ、聖王ノ民ヲ愛シ玉ヘル事ヲ察スベシ、然ルニ今は淫玄ヲ免シ、民

ノ財ヲ減ジ、民ノ慍ヲ誘ルハ、聖王ノ國ヲ治ルトハ天地懸隔セリ、近年或領主是鉦ヲ悉ク取揚テ、大  
礮ヲ造リシハ、無益ヲ以テ有益ト爲シ、民ヲ和スル仁政ナリ、若シ禁制届カズンバ、鉦ヲ禁ジテ諸國  
ノ雜物ノ様ニ、太鼓・笛ノミ免シ置バ、喧嘩モ無ク不和ニモナラズ、財貨モ弊ヘズ、甚ダ便利ナリ、國  
禁ノ法律ハ、小盜ノ如キハ末ナリ、斯ル風俗ヲ濫ス微事ニ心ヲ竭スベシ、風俗正ク成レバ、竊盜ハ自  
然ト盡ル者ナリ、聖王ノ治律是ニ原ク

大學衍義補、「司馬光曰、書曰、一日二日萬幾、何謂萬幾、幾之爲言也微也、言戒懼萬事之微也、夫  
水之微也、捧土可塞、及其盛也、漂大石、沒丘陵、火之微也、勺水可滅、及其盛也、焦都邑、燔  
山林、故治之微、則用力寡而功多、治之於盛、則用力多而功寡、是故聖帝、皆銷患於未萌、弭  
禍於未形、天下陰被其德、而莫知其所以然也」トミユ、今ノ世ヲ視ルニ、水火盛ナルニ及ンデ治  
ルユヘ、訴訟罪罰盡ル時無ク、官吏益々加増スレドモ「用力多而功寡、若用力寡、而欲功之多、惟  
莫如於銷患於未萌」

世俗九月ニ供日ト云テ、一郷毎ニ日ヲ異ニシ、主客往返酒食ノ美饌ヲ設クル事七八日、其冗費一戸ニ  
二兩三兩ハ入ルナラン、是ヲ領中一日ニ催サバ、一萬戸ニハ二萬兩、十萬戸ニハ二十萬兩、一日ニ喰  
盡スハ、豈無益ノ事ナラズヤ、因テ重陽ノ日ト云ハ、神道ニ於テ無キ事ナリ、神ヲ祭ルニハ、齋戒シ  
テ敬慎スレバ、何レノ日ニテモヨシ

國弊宿習ハ、<sup>ニハカ</sup>猝倉ニ改メ難シト、時々ノ官吏往々ト默止スルハ尤ナレドモ、實ハ忠勇ノ怯キ故ナリ、家ニ宿習ト云事無レバ、國ニモ又有ルベキ様ナシ、券櫛モ萌ス時、早ク根ヲ絶ズンバ必ズ滋蔓ス、珍器奇財ハ、世俗ノ好ム處ユヘ、新製花奢ノ品物賣出サバ、時ヲ移サズ制禁スベシ、時ヲ過シテ年累リ、墮甌不顧ノ心有ルユヘ、遂ニ舊染汚俗ト成レリ、三四十年前或商者薩州ノ都府ニ往キ、行戶<sup>トイヤ</sup>ニ留リシニ、又備後ヨリ國產ノ蘭表ヲ持來リ鬻ントスレドモ、是地古來儉素ノ風壤ニテ、素封トイヘドモ蘭表ナドヲ敷ク者曾テ無ク、皆七島ユヘ、一錢ノ估ニモナラズ、商人モ大ニ困リ、食料彼是ニ數枚ヲ與フ、行戶之<sup>ヲ</sup>席薦ニ用ヒシヨリ、漸々流行ト聞シ事アリ、遠國ハ舉テ古來依然ト節儉ユヘ、信義モ亦厚シ、當時稍驕奢<sup>ヤヤラ</sup>ニ移ルハ、大抵都會ノ商人、販鬻<sup>イリ</sup>コリ生ズ、故ニ時ノ宰尹心ヲ國事ニ抛チ、後世害毒ヲ遺サバルヲ、社稷ノ臣ト稱スベシ

眼前ノ小利ニ迷ヒ、人ノ勞苦ヲ思ハザルハ、忠恕ノ心無キ故ナリ、今時農民苞ヲ結ブニ大繩ヲ用ルハ甚無益ノ事ナリ、先彙ノ損アリ、次ニ一把ノ暇ハ二三把ノ暇取ル損アリ、人夫船上ノ重キ損アリ、古繩ト成テ用達スルコト寡キ損アリ、繩太キトテ直估<sup>アケイ</sup>賞キニモ非ズ、直估ハ米性好ク拵好ク、升目高ケレバ直估ハ自貴シ、斯ル事ハ銀鞘ヲ丹漆<sup>ウヰシ</sup>ニテ塗ガ如シ、故ニ民役勞苦ヲ恕思シ、大抵世間通用ニ致シ置ベシ、他邦ニ拔ンヅレバ却テ課役ヲ増スト、他邦君子ノ嗤笑ヲ受ベシ

王制云、「假於鬼神時日・卜筮、以惑<sup>レ</sup>衆者殺」トミュ、又釋迦ノ遺教經云、不<sup>レ</sup>得<sup>キ</sup>占<sup>ニ</sup>相吉凶、仰<sup>ニ</sup>觀星

宿、推歩盈虛、曆數・算計、又不得參預世事、通致使命、咒術仙藥、結好貴人、親厚嫫媿トミユ、僧徒ハ我日本ハ王法佛法鼎足ノ如シナド、唱フルニ、右ノ二條ハ王法ノ死刑、佛法ノ禁戒タルニ、僧徒修驗、及ビ百化トモ狐狸ヲ假テ、ト箴家相祈咒禱咀シテ、頑夫羈婦ヲ誦惑シテ、財ヲカスメル事其罪輕カラズ、和漢亂根ヲ剋ルニ、多クハ奇法眩術ヲ以テ衆ヲ惑迷スルヨリ興レリ、特ニ日蓮宗ノ俗民千ヶ寺ト號シ、他宗ノ病家ニ往テ數人集リ、服藥ヲ禁ジテ醫者ヲ忌ミ、數十日晝夜太鼓ヲ撃チ拆ヲ拍テ聲カル暖ルホド嘖嘖オモキサケビ、嗽言シテ題目ヲ唱ヘ、拍家之ガ爲ニ熟睡ヲ得ズ、大ニ他ノ厄害トナルノミナラズ、醫術ヲ得ズ死スル者少ラズ、如來ハ祇園精舍ニ施藥院ヲ建ツレ、高弟ニハ普婆ト云名醫アリ、又法華ノ内ニ藥草品アリ、斯ル證晰然タルニ一丁字ヲ知ラザル野人ノ身ニシテ、己レガ職分ヲ勤メズ、僧巫ニ修セ世俗ヲ眩惑シテ、酒食ヲ耽養スルハ以ノ外ノ姦惡ナリ、若シ禁令ヲ冒サバ、渠等ガ嗒ニ任セテ、柔髮シテ寺院ノ奴隸ト爲スカ、又ハ徒ニ入レ職業ヲ勵マスモヨシ、或ハ穢多ノ醫業ヲ致ス邦アリ、守道不ル如守職、四民各自職ヲ守ル様ニ治マレバ、古ノ聖賢ニ何ゾ愧ンヤ、斯ル事ハ畢竟國政不明ユヘ下ヨリ侮ラルトミユ、滄浪ノ水清ケレバ、孰力足ヲ濯ンヤ、國家ノ誣誦之ニ過タルハナシ

○客云、賭・酒・色ノ三惡ハ、家ヲ喪フ本ナレドモ、其輕重ヲ稽ルニ、博賭ハ政道嚴刻ナルトキハ、禁制屈ヤ易シ、大酒嬌亂ハ侯國皆禁法有レドモ、容易ニ屈カストミユ、人情嗜欲ニ厚薄有ル事カ、世間ヲ觀ルニ、譬ヘバ領内諸處ニ衆クノ酒肆ヲ建置ト、衆ク嫖院ヲ建置ト、孰カ風俗ヲ濫シ、國家ノ費

弊タルヤ

答云 一ツヲ取ッバ 嫖院ヲ好トセンカ、嫖院ニ往ク者ハ富有ノミ、貧者ハ屈カズ、富有ハ百人ニ一

人ニテ、其身一人ノ害ニテ、色ニ溺ルレバ身代潰レ、遂ニハ出奔カ、自縊カ、二ノ外ニ出ズ、蓋シ年

老スレバ改ル事モアリ、酒ハ年老スレバ益々耽溺シ、劉伶ガ神ニ假托シテ、其妻ヲ欺クガ如ク、終身

禁ズル事能ハズ、妻子ニ勸メ同類ヲ集メ、僧齋日ニ止ズ、漸々風靡シテ竟ニ一郷火化シ、迭ニ酩酊シ

テ口論絶ル間モ無ク、大ニ良民ノ忠ト爲ル事親視エシ事ナリ、或領分家中豪飲大ニ行レ、渠等ハ三人ニ

テ三升ヲ飲ム、儼等ハ二人ニテ四升ヲ飲ト、互ニ勝劣ヲ方ベ天ヲ恐レズ、世ニ街フ風俗ニ移リ、脫酒

高陽之徒ト成リ、膏醕シテ時々刃傷起レリ、色情モ不醜顔ニテハ起ラズ、衆惡大抵醉醕ヨリ生ズ、故

ニ黃門義公遺訓ニ、色ト酒トハ敵ト思ヘト誠メ玉ユヘ、兩人矢人ノ説ニ由テ其ノ情ヲ考ルニ、ヨイクルイ問子

モ、サカデ帘モ、カルタウリ楊蒲賣モ、座親モ、惡事ヲ勸ル罪ニ至テハ、其律差等有レドモ意味異ラズ、其鄉村嬌風ト

成レバ、姦通シテ人倫ノ道廢レ、其中ニハ梅毒天刑傳染シテ、一家遺病ト成テ、サカデ倚人計ニテ其苦艱假

ユル者ナシ、治國ノ法ハ他ナシ賭・酒・色ノ欲ヲ禁ズレバ、聖代ニ忤ク罪罰モ無ク、財貨豐充スベシ、

故ニ唯是三條禁誡ニ心ヲ竭スベシ、備前ハ芳烈公ノ遺識ニ由テカ、今ニ於テ冒色嚴刻ノヨシ、和漢酒

色ノ多少ヲ詩歌ニ據テ稽ルニ、和歌ニ飲酒ノ句ト云者無ク、男女ノ秀句皆戀歌多シ、漢土ノ詩ニハ皆

飲酒ノミニテ、色情ノ句ナシ、宮怨ノ詩有レドモ、是ハ自己ノ意ニ非ズ、是ヲ以テ觀レバ、漢土ハ酒

弊日本ニ勝レリ、漢朝ヨリ段々禁酒ノ令ヲ下シ、魏蜀モ此制ニ應ジ、其後時代ニ由テ、凶年ニハ禁令アリ、本朝是法制幾希ナリ、別卷ニ述シ通り、備前ハ大藩ニテ、民數モ餘國ニ比ブレバ甚ダ多シ、然ルニ酒肆僅ニ十三ヶ處ニ集ム、一ヶ處ニシテ軒ニ準ゼバ百軒計、一部ニ一箇處餘ニ充ル、釀酒ノ寡キ事概知スベシ、右ヲ芳烈公釀酒半減シ玉フハ、富國ノ善制ナリ、元來色・酒ハ嗜欲ノ驕ヨリ生ズ、求メザレバ隨分吞ズシテ好シ、西域榜葛刺國ハ元摩羯陀國ト云佛ノ生國ナリ、釋迦飲戒ノ法後世迄盡サル事カ、今ニ於テ國中ニ酒ト云者無シト、三才圖繪ニ見ヘタリ、近年大村儉法ヲ立テ、先ヅ酒肆及ビ諸士等、官金舊借ノ者ハ永年賦、或ヒハ罰貨シ、絹布類ハ上下差等無ク、大夫ヨリ士庶人一列ニ禁ジ、飲酒ハ貴賤齊一三献ニ究メ、官吏等庄屋ニ往テ酒盃ヲ禁ジ、家臣ノ婚禮ニモ、五人ノ外集宴ヲ禁ズ、人皆三日法度ナラント危メドモ、若シ法度無レバ傍若無人ノ態ナレドモ、犯法ヲ恐レテ慎ムノ意有ルユヘ易俗ノ良制ナリ、「立<sup>レ</sup>法無<sup>ニ</sup>二制<sup>一</sup>、當<sup>下</sup>與<sup>ニ</sup>百姓<sup>一</sup>一體斷決<sup>上</sup>也」トミユ、上中下士ト衣服絹布色々差等有ルユヘ雜沓シテ煩シク成ツテ、其制令届カズ、松平樂翁君勢別、桑名、絹布衣服ハ大夫庶人迄一列トス、故ニ庶民信服ス、士民朋黨シテ、小吏ノ妻ニ至ルマデ、絹服ヲ衣テ庶民ニ銜フユヘ、亦竊ニ着シテ行レザルハ、全ク實理ニ逆ク故ナリ、是法ト情ト齟齬スルニ由レリ、故ニ法度ハ先ヅ上タル人ヨリ、行ヲ先ニシ、言ヲ後ニセバ、艸偃スルハ必定ナリ、聖賢ノ民ヲ御スルハ、口ヲ噤ンデ行ル、ハ是レナリ文學見衛君曰、吾聞子良醫也、寡人有<sup>ニ</sup>不治之疾<sup>一</sup>、豈能治<sup>レ</sup>之乎、文學對曰、何哉、君所<sup>レ</sup>謂<sup>ニ</sup>不治<sup>一</sup>者、

臣聞之、扁鵲曰、病有六不治、驕恣不<sub>レ</sub>論於理、一不治也、輕身重<sub>レ</sub>財、二不治也、衣食不<sub>レ</sub>能適、三不治也、陰陽<sub>レ</sub>乖<sub>レ</sub>臟氣不定、四不治也、形羸不<sub>レ</sub>能服藥、五不治也、信<sub>レ</sub>巫不<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>醫、六不治也、此六者與死病者、固醫所<sub>レ</sub>不治也、其它無不<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>治者也、故疾可<sub>レ</sub>治也、死不<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>生也、今君生于深宮、而長<sub>レ</sub>于婦人之手、居則<sub>レ</sub>厦屋幽房、食則<sub>レ</sub>甘脆肥醢、衣則<sub>レ</sub>狐貉<sub>レ</sub>絁帛、輕煖<sub>レ</sub>燂燂、出<sub>レ</sub>與入<sub>レ</sub>革、皓齒蛾眉、不<sub>レ</sub>離<sub>レ</sub>左右、緩帶而坐、厚被而寢、雖有金石之質、猶<sub>レ</sub>將<sub>レ</sub>銷鑠而盡焉、臣觀<sub>レ</sub>君之肌膚白皙、筋骨挺解、四體情<sub>レ</sub>竄、起居孱弱、譬如<sub>レ</sub>鄭女<sub>レ</sub>蔓姬、婀娜<sub>レ</sub>綽約、不<sub>レ</sub>勝<sub>レ</sub>羅綺者<sub>レ</sub>狀、意者君疾、得<sub>レ</sub>非<sub>レ</sub>燕安過度、放情縱欲、以致<sub>レ</sub>爾乎、今世貴人、誰獨不<sub>レ</sub>然、雖令<sub>レ</sub>醫治之、以<sub>レ</sub>藥則不<sub>レ</sub>堪<sub>レ</sub>其眩眩、以<sub>レ</sub>砭灸則不能<sub>レ</sub>忍<sub>レ</sub>其痛、飲食則不能<sub>レ</sub>絕<sub>レ</sub>其嗜、居處則不能<sub>レ</sub>適<sub>レ</sub>其宜、而徒責<sub>レ</sub>效於醫、不<sub>レ</sub>効則罵、以爲<sub>レ</sub>下工、夫若是者、雖更<sub>レ</sub>百醫、不能<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>効焉、雖君之疾乎、苟信<sub>レ</sub>醫言者<sub>レ</sub>尙幸可<sub>レ</sub>安也、不則固將<sub>レ</sub>在<sub>レ</sub>所謂不治之數矣、衛君曰、然、余固有<sub>レ</sub>之、雖然寡人非<sub>レ</sub>茲之言也、寡人病<sub>レ</sub>貧、寡人固多病而莫<sub>レ</sub>疾、於<sub>レ</sub>貧之爲<sub>レ</sub>病也、寡人嘗訪<sub>レ</sub>群臣、莫<sub>レ</sub>之能爲者<sub>レ</sub>也、余是以云、文摯曰、摯賤工也、知<sub>レ</sub>治病而已、何能治<sub>レ</sub>貧、雖然以<sub>レ</sub>臣事<sub>レ</sub>觀<sub>レ</sub>之、治<sub>レ</sub>貧亦猶<sub>レ</sub>治病、無以異耳、醫法、虛者補<sub>レ</sub>其母、實<sub>レ</sub>瀉<sub>レ</sub>其子、虛者正氣虛也、實邪氣實也、人身邪氣實、則正氣爲<sub>レ</sub>之虛、醫者瀉<sub>レ</sub>其實、補<sub>レ</sub>其虛、邪氣去、正氣復、其人則安、此臣所<sub>レ</sub>聞<sub>レ</sub>於師也、今夫食者、民之所<sub>レ</sub>天也、穀粟貨財者、國之正<sub>レ</sub>本也、穀粟貨財既<sub>レ</sub>于國、是正氣虛也、穀貨財之所<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>匱<sub>レ</sub>于國者、其君縱欲而諛臣濟<sub>レ</sub>之也、夫君縱欲而諛臣濟<sub>レ</sub>之、是國之邪氣也、

至於廣苑囿汚池、高臺榭、畜禽獸、飾輿馬、峻宇彫牆、姬妾數百、雜濁後庭、倡伎侏儒、出入追隨、是邪氣實也、善治國者、卑其宮室、斥其姬妾、罷其倡伎侏儒、苑囿汚池臺榭之樂、禽獸之利、必與民共、而屏其諛臣、是爲瀉其子愛其民、而使之以時、不妨農務、來百工、而使各盡力於其事、哀鰥寡、恤孤獨、救患難、賑貧窮、是爲補其母、夫人有疾、則急於除其疾、疾去則務在調理、治國家者、亦宜然也、故既瀉其所瀉、補其所補、然後任賢使能、事尚儉素、崇孝弟、興禮樂、是乃調理國家也、夫如是而國不富、君不安者、臣未之聞也、夫醫方自黃帝始、黃帝者、古之聖天子也、彼其治國家也、豈異於治人身哉、人身有元氣、國家亦有元氣、能保其元氣、所以長久也、臣竊謂、治國家、猶治人身也、所治小大之異耳、故曰、上醫醫國、中醫醫人、也哉、雖然、摯也賤工、未學醫國、今君辱下問、不敢不對、惟君察諸、衛君曰、善哉良醫也、重賄之、夫文摯之言至矣、何世主之察、不及此也、是故天下之人、未有不治生產、而能有立者也、故庶民而不治生產、其誅至死亡、士大夫而貧、是竊其俸也、邦君而不能畜其臣妾、假而不歸、雇而不償其值、是竊天祿也、天子而好聚斂、與民爭利、使百姓不得其所、是竊天位也、竊人之財、謂之盜、苟有其祿、而不能蓄其人、有其位、而不能惠其下、是謂之位之盜、小人之爲盜也、人固惡之、君子而爲盜、其謂之何哉、莊子曰、力不足則僞、智不足則欺、財不足則盜、君子之盜、亦豈不由財之不足耶、故人足所履、不過方尺、然行獨梁者、股戰難進、

爲其旁無餘地也、今夫人之所食、不過乎一日粟五升也、所衣不過乎冬溫<sup>トウ</sup>袍一、夏葛衣一也、所居不過乎環堵之室、可以容膝也、過此以外、皆爲無用之物也、然盤無餘<sup>トウ</sup>、不足<sup>トウ</sup>以取飽也、寢衣不長<sup>トウ</sup>、一身有半、不足<sup>トウ</sup>以取<sup>トウ</sup>煖也、堂無東西序、不足<sup>トウ</sup>以取<sup>トウ</sup>安也、由此觀之、無用之爲用也不亦大乎、故人知無用之用、然後可與言治生也、夫知治生者、能取無用於有用之餘、存有事於無事之中者也、人不可以一日無衣食、亦不可以無宮室、此衆所知也、善治生者、於衣食宮室之中、常存其無用、以待有用、所以臨事亡<sup>トウ</sup>匱也、是故勤動趨事、治生之大本也、量入以爲出、守產之大經也、存<sup>トウ</sup>贏餘以備不虞、通變之道也、若夫縱其欲、極其樂、侈其用、以傷其財、率至乏困者、淫<sup>トウ</sup>爲天下皆是、猶且曰、吾不知<sup>トウ</sup>計算也、吾不事<sup>トウ</sup>生產也、所行者仁義而已矣、焉知<sup>トウ</sup>其它、亦愚矣哉、夫及其用不足也、弗能<sup>トウ</sup>不<sup>トウ</sup>乞<sup>トウ</sup>貨以爲<sup>トウ</sup>給、國家聚斂之作、不亦職此之由乎、若然者惡在其行仁義也、世之君子、何其易言<sup>トウ</sup>仁義也、可謂不知<sup>トウ</sup>耻也已、如耻<sup>トウ</sup>之則奈何、制<sup>トウ</sup>節<sup>トウ</sup>謹<sup>トウ</sup>度而已矣、易云、天地節而四時成、節以制度不<sup>トウ</sup>傷<sup>トウ</sup>財不<sup>トウ</sup>害<sup>トウ</sup>民、此之謂也

經濟問答秘錄卷九終

# 經濟問答秘錄 卷十上

## 國用考

○客云、浪華ニ於テ諸國ノ產物運艚ヲ視ルニ、其中ニハ大總ノ價銀モ有リ、今ニ於テハ諸藩ノ產物既ニ究レリ、今大價新製ノ工夫ニ有マジキヤ

答云 抑々產物ヲ仕立ルハ、其價銀ヲ自國ニ徵シガ爲ナラン、然レバ其財ヲ自國ニ永ク留ムベキ工夫  
コソ專一ナリ、其留ムベキ工夫ヲ爲サズ、唯產物ノミ欲スルハ壞堤ヲ修覆セズ、天ニ雨ヲ乞フガ如シ、  
其財ヲ留ル工夫ト云ハ他ナシ、唯上下共ニ儉約ニ在リ、今世間ノ風化ヲ觀ニ、四民共ニ其奢靡一年ノ  
入用、一人ノ身ニ於テ五兩十兩省約シテモ、五十年前ト思ハバ、日用ノ事隨分不自由無レドモ、年  
ヲ逐テ漸々放恣シ、日用ノ酒食器服ハ勿論、婚葬・祭禮・賀宴等上下共ニ相競フテ花奢ヲ盡ス事、老人  
ノ昔話ヲ聞テ併セ考フベシ、由レ是考ルニ、今貴賤貧富ノ家ニ四口ニ平均シ、一戸ニ七兩ヅ、儉約ヲ遂  
テモ、十萬戸ニハ七十萬兩ト成ル、縦ヒ天下無双ノ國產トイヘドモ、其利益十萬金ニハ至リ難シ、十  
里ノ江海ヲ填メ開墾シテモ、其定額七十萬石ニハ至リ難シ、是ヲ考ヘ、様々ノ產物ヲ工夫センヨリ、  
儉約ノ法ヲ行ハバ、官吏ヲ用ヒズシテ政事モ煩ハシカラズ、上下共ニ天心ニ協フエ、安泰無爲ニシ

テ富饒ナルベキニ、上スル人はニ氣ヲ附ザルハ、全ク躬ヲ儉ヲ守ル事能ハザルニ由ル處ナリ、儉約ハ一名惜福ト云、節儉ハ天物ヲ暴殄セザルユヘ必天報アリ、花奢ヲ嗜ム者ハ必信義無シ、信義無キユヘ、上ヲ犯シテ爭亂ト爲ル、第一奢靡ナル者ハ、浮氣ニシテ心氣丹田ニ治ラズ、故ニ不虞ニ至テ一度鼓聲ヲ聞クトキハ必狼狽ス、故ニ遠堦ホトリ幽僻ノ者ハ、大抵信義勇敢ノ兵ト察スベシ、五穀ニ美花無ユヘ、人皆目ニ付カズ、牡丹櫻桃ノ類ハ、美妍ユヘ人皆賞スレドモ、實卑ミヅリ無レバ國家不益ノ物ナリ、花實大ニ盛ナレバ翌年必盡、是則陰陽ノ常理ナリ、治究ツテ亂ニ入り、亂極ツテ治ニ入ルト云ヲ、天地循環ノ様ニ思ヘドモ、然ルニ非ズ、治亂ハ千萬歲極マリト云事有ルベカラズ、乃チ時ノ人君自ラ微ムルトコロナリ、一揆凶賊ノ發起スルモ、其根源ハ上ニ在リ、倘シ異賊等來テ寇スルトモ、兼テ政道正シクシテ、儉約ニ化シテ信義ニ移レバ、何ゾ憂ルニ足ンヤ、明朝ノ夷狄ヨリ奪ハルハ、太平久キユヘ、上花奢ニシテ政道敗レ、内亂ル、ニ由リ自ラ滅亡ス、我邦已ニ二百五十年ノ太平ハ稀代ノ事ニテ、天下一般漸々奢靡ノ風俗ト成ルハ、耆老ノ人ハ皆知ル所ナリ、今天下ノ人民皆亂世モ追ツカント悲説スルハ、定メテ富貴ノ人其驕奢ナルヲ羨ミ惡ンデ云フ者カ、今時ノ奢風其儘ニシテ年ヲ經ルトキハ、盛ナル者必ズ衰フ、疑ラクハ百年ノ永續モ計リ難シ、神祖ノ上意ニ、治世ヲ亂世ト思ヘバ、則治ルト宣ヘバ、今天下ノ領主其祖宗ノ流風沐雨ノ艱難ヲ念ヒ、各更始シテ先ヅ身躬ヲ儉約ヲ守リ、士庶人之ニ肆フテ相化シ、一變シテ元和ノ風俗ニ復ラバ、又數百歲ノ太平ニ浴スル事必定ナリ、近年

天變地妖屢々現ル事、頑夫トイヘドモ甚ダ恠メリ、民ノ長タル人慎ミ玉ハズンバアルベカラズ、是等ノ事固ヨリ余ガ與カル所ニ非ズトイヘドモ、漆室ガ河潤九里漸汝三百歩ノ語ヲ思ヒ、其志ヲ述ルノミ儉約ノ法ヲ行ハント欲セバ、先ヅ害富ノ輕重ヲ得ト考ヘ、其重キ事ヲ專一ニ誡ムルトキハ、輕キ事ハ一令ヲ下シテモ直ニ改マレドモ、今時ノ職掌ハ唯輕キ事ノミ目ヲ懸ルハ、小ヲ知テ未ダ大ヲ知ラズ、縱バ獵人ノ野雀百羽ヲ獲ンヨリ、雁一羽獲ルトキハ、其勞無クシテ價八十倍ス、國家ノ富害ヲ除クモ亦如是、費弊之第一タル者ハ大酒ナリ、其弊金はニ敵ル者有ルベカラズ、此ヲ禁ズル事士民ヨリ瓶ルトキハ、最易キ事ナレドモ、庶民ノ規範タル士民禁ズル事能ハザルユヘ、下又此ニ視恠ヒ、遂ニ酒國トナル、況ヤ下ニ近ク吏ノ豪酒スルユエ、下ノ輸ル所ノ租税モ、又多ク民ノ傷トナレリ、才智ノ士ハ固ヨリ身ニ害アリト知ルトイヘドモ、三寸ノ舌ノ爲ニ輟ル事ヲ得ザルハ、畢竟眞勇無キ故ナリ、特ニ武士ノ大飲ハ、節ニ臨ンデ大事ヲ敗ル事、古ヨリ和漢舉テ數ヘ難シ、左傳ニ「周甘飲敗我于邲垂、乘其餘酒也」トミユ、故ニ酒ハ軍中ノ大禁ナリ、小野木三左衛門ト云者ハ織田公ノ小姓ナリ、江州安土ニ往シ迹ニテ主君生害ト聞ケドモ、病ニ由テ山崎ノ合戦ニ遇ハズ、主君ニ槍ヲ附シ者ハ安田作兵衛ト聞キ、君仇ヲ報ゼント諸國ニ流浪スル事數十年、生質酒ヲ嗜ミ名ヲ酒袋ト更ム、作兵衛ハ天野源左衛門ト易ヘ、京都ニ僑居ス、酒袋モ相遇フ遂ニ親睦ス、時ニ肥前唐津ノ寺澤志摩守ヨリ微庸セラレテ共ニ祿ヲ受ク、數年ヲ經テ初テ作兵衛ナル事ヲ聞キ、時至レリト大ニ悅ビ、源左衛門ニ向ヒ、汝本名ハ作

兵衛ト聞ク、我ハ織田家ノ臣、實名ハ小野木三左衛門ナリ、君仇ヲ報ゼント諸國ヲ巡リ、汝ヲ搜ス事  
已二十年、君父ノ讐ハ時ヲ移サズトイヘドモ、今寺澤氏ニ共ニ祿ヲ受ケ、是地ニ於テ接戰セバ、主君  
ニ對シテ不忠ユヘ、我ハ茲ヲ去テ何地ニ於テカ刃ヲ接ヘント云ヘバ、天野モ承知ス、小野木ハ其夜遣  
書ヲ記シ、我御重恩ヲ知ラドルニ非ズ、永ク仕ヘント思ヘドモ、止ム事無キ事出來スルユエ、當家ヲ  
辭スルト認メ置テ、其夜直ニ家ヲ捨テ出奔シ、東道ニ於テ待シニ、翌年寺澤述職ノトキ、旅宿ノ戸ニ  
表札ヲ視テ復讐此時ト立出テ、酒肆ニ寄リ立ナガラ、酒一升ヲ吞盡シ、天野ニ向ヒ接刃、僅カ五六合、  
躓キ倒レテ遂ニ殺サル、惜ヒカナ年モ若ク力モ強シテ、廿年ノ艱難一時ニ盡シハ、全ク平生ノ酒癖ニ  
由レリ、斯ル忠臣トイヘドモ、一失有ルユエ其志ヲ遂ズ、如是事故學ニ追アラズ、是ヲ監ミ、縦ヒ忠  
勤スルトイヘドモ、酒失有リテハ、大事ニ至テ誤ル事多キユエ、平生懍ミ深ク唯三献ニ過ベカラズ、  
次ニ民害ヲ除ク仁心有テ、富民ノ法ヲ欲セバ、浮屠氏ノ徒日ニ民ニ親ミ飲酒スル事、國家ノ大害  
是ニ過タル事無シ、特ニ飲酒女犯ハ佛ノ大禁ナレドモ、今時之ヲ守ル者百人ニ一人ナラン、斯ル民害  
ノ情ハ、民間ニ住ザレバ、士大夫ノ知ル所ニ非ズ、水府公聰明ニシテ公伯ノ貴キニ居玉ヘドモ、能下  
情ニ通ジテ、民ノ害毒タル事ヲ知り玉ヒ、遠キ慮リマシ／＼テ、仁德ヲ千載ニ遺サント、封内ノ寺觀  
ヲ墮チ、僧侶ヲ還俗サセテ、悉ク四職ニ就シメ玉フ、海内ノ人は事ヲ傳ヘ聞キ、感服シテ思慕スルハ  
全ク僧侶ドモ惡行ニシテ、日ニ月ニ殘虐セラル、ニ堪兼テ美ム所ナリ、夫レ殷湯周武ノ大聖トイヘド

モ、世統千載ヲ逾ル事ヲ得ズ、然レドモ「文武之政、布在方策、」後世賢聖ノ君興テ、其方策ヲ觀テ之ヲ布キ施スユエ、縱ヒ世統絶ルトイヘドモ、海内其德澤ヲ受ルユエ、聖王ノ仁德ハ世ト共ニ盡キズ、是則異端ト不同スル所ナリ、我邦既ハ皇子蘇我馬子異端ニ倭シ、遠慮ノ明智無ク、私ヲ以テ天下ニ廣メ、後世ニ害毒ヲ遺シ、永ク賢者ノ誹謗ニ遭ヘリ、故ニ天下國家ヲ保ツ者ハ、後世ヲ考ヘ、姑息ニ目ヲ懸ズ、遠慮ナキトキハ千載ノ後ニ至ルマデ、人口ノ膾炙ニ遇フユエ、其好惡尤モ愼ムベキナリ

○客云、今時ノ僧侶、酒色ハ勿論、娼聲博賭ヲ致シ、少シモ慙愧セザルハ、上リテ禁誡ナキユエナレドモ、如何ナレバ斯クマデ情落スルヤ

答云、元來ハ門徒宗起テ、肉食妻帯スル者モ、佛衣ノ僧ト稱スルユエ、他宗モ之ヲ羨ミ、自然ト戒業頽レ、又ハ其種ノ惡キニモ由レリ、牛馬トイヘドモ其牡ヲ選ム、長曾我部元親ハ、良子ヲ生ムハ其父ニ在レドモ、又其妻ニモ在リト云ヒ、遠ク濃州ノ稻葉伊豫守ハ、美名知レタル人ト其孫ヲ娶ル、一休藏主ノ狂歌ニ、「鉦扣キ金ガナキユエ鉦扣ク、金ガ有ルナラハ鉦ハ扣カヌ」是句能ク天下ノ人情ニ徹ス、士大夫等菩提ノ爲ト其子ヲ釋門ニ入ル、ハ幾希ニシテ、十二九分ハ皆卑賤窮民ノ子ナリ、其親タル者疎業ユエ、貧婁ニ逼リ子ヲ棄ル所ナリ、良子ニ非ザレバ、何ヲ以テ佛戒ヲ保ツ事ヲ得ンヤ、且ニ月ニ民間ニ親ミ、我物入ラズニ豪飲シ、様々ノ姦智ヲ巡ラシ衆人ヲ墮虐シ或ハ婦女ニ通ズルモ、是皆民間ニ近ヅキ親ムニ由レリ、中華ハ今ニ於テ妄リニ山門ヲ出ル事ヲ禁ジ、適人家ニ來レドモ女子ハ應對

セズ、是ヲ以テ當時ニ併セ視ルベシ、人ハ窮シテ亂ヲ生ズ、富饒ニシテ惡心起ル者希ナリ、是故ニ是後千載ノ昇平ヲ願ハント欲セバ、富民ノ害毒タル僧徒ノ飲酒ヲ禁ゼバ、第一彼等ヲ佛心ニ協ハセ、衆民ノ害ヲ除キ、富國ノ本タリ、前ニ述シ通り、儉約ノ大重タル者ハ、大酒ト僧徒ニ在リ、故ニ及ブ丈ハ酒肆ヲ減耗シ、寺觀ヲ十分一ト成シ、僧侶ハ中華ノ員數ニ視方ベ員數出僧道部百分一ト成サバ、天下檢法ノ本トイヘドモ、是事大樹家ノ制令ニ非ズンバ、侯國ニ於テハ屈キ難シ、近世備前芳烈公仁術ヲ行ヒ玉ヘドモ、又漸々澁蔓ス、古王朝ノ餘弊如何トモスル事ナシ、年ヲ逐フテ益々寺觀華奢ヲ飾リ、民害限り無キユエ、群后ノ中下情ヲ知リ、嘆慨ノ君モ有ラン、然ドモ我一邦ノミ其法モ立難シ、茲ニ少シナリトモ民難ヲ除ク一術アリ、先ヅ古ヘノ例ニ從ヒ、庶民ヨリ立家スルヲ大禁シテ、中士ヨリト定メ、若假親ヲ致サバ、其名曰ヲ假セシ武家ハ、格祿ヲ放ツ法ヲ立テ、嚴令ヲ下スベシ、次ニ諸所ノ寺堂ヲ三五里阻ツトイヘドモ、同宗ハ一所ニ集メ、家造ハ江都ノ侯邸長屋ノ如ク作り込ニ致シ、大小無ク一割三四間計リニ五間位ニ作リテ、二十疊計ト究メ、本堂一ヶ所立テ、面々是迄持來ル本尊ハ、彌陀觀音モ、釋迦藥師モ、悉ク右ノ堂ニ置キ、是迄檀那ノ多少有ルハ一列ニ成シ、本堂ハ輪番勤ニシテ、葬禮供養等ハ月々ニ輪番ヨリ勤メ、譬ヘバ禪ナレバ、臨濟・洞家モ共ニ集メ、門徒ハ東・西・高田モ共ニ致シ、眞言ノ新古派、其外一宗ノ者ハ、縱ヒ其派異ナリトイヘドモ、拘ラズ一所ニ集ルトキハ妄リニ貪ラズ、其寺堂ノ趾ハ田畠ト成シ、左スレバ泉水築山モナク、修葺モ少ク、彼等モ至極ノ儉約ト成

ル、僧ノ儉約ハ則衆民ノ儉約トナル、願クバ廣地ヲ撰ミ、修驗モ門徒モ加ヘテ、八宗共ニ集メ、一ツノ本堂ヲ建テ一處ニスル事、是國民富饒第一ノ制ナリ

○客云、當時窮民ノ子ドモ僧ト成ルユエ益々蓄息ス、若シ之ヲ禁ズルトキハ乞食ト爲ルヨリ外ナシ答云 佛ハ元乞食ナリ、然ルニ今時ノ僧ハ、轎車ニ乘テ物ヲ乞フガ如ク、殊ニ貧富共ニ混ジテ貧リ、笠押ニシテ緩帶ナレドモ、乞食ハ富人ノミ予ヘ、貧人ノ妨ゲニモナラズ、又衆人ヲ蠱惑セズ、寺堂モ作ラズ、樹下ニ臥シ身ニ儼樓ヲ衣テ、人ニ腰ヲ屈メテ乞ヘドモ、僧侶ノ物ヲ貪ルハ公租ニ異ラズ、畢竟耶宗門改役ト心得ルユヘ、戒業モ保タズ、驕慢ナルノミナラズ、惡業トイヘドモ上ヨリ左迄咎ニモ逢ハザルユエ、人皆之ヲ羨ミ僧ト成サント思ヘリ、耶宗ヲ改ムルハ神職ニ命ジ置バ、尙モ能ク改ムルナラン、是事又彼等ガ驕慢ヲ挫キ、臂一ヲ折ル仁端ナリ、故ニ僧徒多キヨリ、乞食多キハ大ニ勝レリ、又眞ノ佛道モ盛ンニ及ブベシ

侯國ニ於テ、勅願所御朱印地ノ寺觀夾ルハ、善治ノ妨ナリ、異端ニテ刑政ノ道無キユヘ、寺領ノ民ハ褻慢シテ犯法多ク、奢靡・美服・嬌聲・博賭絶エズ、隣國法度正シケレバ、一步ヲ起テ寺領ニ催シテハ誘引出シ、或ハ千兩富・無盡講ナドヲ企テ、侯領之風俗之ガ爲ニ弊ル事多ク、或ハ王法ニ假托シテ、侯領ノ者ヲ<sup>ゴナス</sup>低<sup>アタ</sup>挺<sup>ナス</sup>コト問有リ、夫佛神ニハ私欲無シ、僧侶諸侯ヨリ祿ヲ賜ヘテモ、普天ノ下ハ諸神菩薩皆寶祚長久、天下安全ハ守リ玉ヘリ、若シ其地ノ領主ニ刑政ヲ附囑アラバ善風ノ本ナリ

○客云、諸國ヲ巡ルニ、間ニハ領主日ニ月ニ猿樂ヲ催シ、多クノ近臣皆阿媚シテ之ニ化シ、文武ニ怠ル所モ有リ、抑々猿樂ト云ハ、雅樂カ淫樂カ

答云 其音ヲ聞ケバ晰然ト分ルナリ、野俗小人ノ耳ニ樂シキハ猿樂ナリ、賢人君子ノ耳ニ樂シキハ雅樂ナリ、猿樂ハ人道ニ益アリ、雅樂トイヘドモ日ニ月ニ催セバ放逸ニ成リ、却テ害アリ、増テヤ猿樂ヲヤ、夫求「富莫」善於治生、求「貴莫」善於修德、生者天祿也、德者天爵也、二者求之則得之、不求則不得」トミユ、人生ノ治生ハ則チ政事ニ心懸ル職分ナリ、民人治生ヲ専ラニ、炎暑嚴寒ヲ厭ハズ、艱難シテ輸メ菜穀ヲ以テ養ハレ、唯一孤ノ耳目ヲ欣バセント、笛太鼓ノ聲ニ日夜心ヲ懸サシ、此ニ加ハル餘多ノ樂人ニ暇日ヲ費スハ、天道ヲ畏レズト云者ナリ、斯ル國ハ必置ラシテ風俗弊ルベシ、上猿樂ヲ嗜メバ、下又之ニ化シテ、淨留利・小謳・三絃ヲ嗜ミ、遊蕩流行スレバ必ズ大酒流行スベシ、大酒流行スレバ、又一方ニ博賭流行シ、風俗大ニ亂レ、虛國怯弱ノ兵トナルナリ、人主タル者ハ常ニ人ヲ役セザル事ヲ思ヒ、諸藝ノ樂ミノ中ニモ、身一人ニシテ樂ム事ヲ樂ムベシ、讀書ハ云フニ及バズ、和歌カ書法カ、或ハ茶湯、此モ實ハ美トスベキ事ニ非レドモ、獨樂ムユエ猿樂假山・田獵ノ如ク、多クノ人ヲ役セルニハ勝レリ、然レドモ餘リ嗜過セバ、下又之ニ視倣ヒ、富有ノ者モ之ガ爲ニ潰ル、者モ有リ、抑茶ハ唐ノ陸羽之ヲ嗜ミ、茶經三篇ヲ著ス、李季卿陸羽ヲ召シテ無禮ナルユエ、陸羽毀茶碗ヲ著ス、後世著燕ヲ嗜ム者、陸羽ガ像ヲ陶作シテ、楊突ノ間ニ置テ祀リ茶神ト崇ム、

左レバ國家ニ大功ヲ立テ、民其德澤ニ沿スルコソ、崇祀スルヲ禮トスベキニ、遊逸無益ノ者ヲ神ニ崇

シヤガハ

ムル事、全ク文牒ヨリ興ル事ニテ、物ニ嗜過セバ、百家ノ藝術統テ如<sub>レ</sub>是、我邦茶ノ發軔ハ、釋ノ榮西  
宋ヨリ歸ルトキ、我藩背振山ニ於テ始テ植ユ、今之ヲ世ニ岩上茶ト唱フ、其郷ノ民衆ハ挽茶ヲ用ヒ、  
灌子茶筌ヲ以テスル處アリ、榮西其後梅尾ニ住職シテ之ヲ植エ、又宇治ニ植ユ、此ヲ天下ニ廣メシハ  
足利義政公ナリ、其後豐公大ニ嗜テ、是コリ海内ニ滋蔓シ、今ニ於テハ卑キ商賈モ、少シ家富メバ染  
着シテ其業ニ怠ル、家産蕩盡スルハ、是又豐公民害ヲ遺スト云ベシ、況ヤ骨董大ニ珍重シ、古唐津・  
井戸・祥水ナド、大枚ノ金錢ヲ費ス事、器貴新。人貴古一ト聖人ノ語ニハ相反ス、余ガ近村ニ昔  
ノ陶工ドモ正直ナル故ニ、少シ竄ミ、或ハ少シ瑾瑜有レバ之ヲ賣フズ、悉ク溪間坎中ニ棄メ棄ツ、然  
ルニ近年之ヲ掘リ出セシニ、高掘出シト稱美シテ、都會富家ノ輩高估ニテ買ルユエ、士民ヲ爭フテ大  
總ニ掘出シ、今ニ於テハ間ニハ賸物ヲ新製シテ賣ルト聞及ベリ、左レバ右ノ一椀代ヲ以テハ、麗都ノ  
新椀ハ百モ二百モ買メ、又茶ハ器ニ由ラズ新古少シモ易ラザレドモ、賸物喪志ノ理ニテ神氣眩ム故ナ  
リ、又名器ヲ下直ニ買ヘバ、掘出物ト大ニ悦ブハ、賤キ牙僧ノ心ナリ、小早川隆景ハ初メハ執心ナレ  
ドモ、下賤ノ心ヲ生ズト竟ニ擯棄ス、泰ノ國ニ古物ヲ好ム者アリ、氣ニ應スル時ハ價ニ拘ラズ之ヲ買  
ム、或日一人ノ牙僧敗席一枚ヲ持來リ、此席ハ昔魯哀公席ヲ設ケテ孔子ニ問フトキ、夫子ノ坐シ  
玉フ席ト云ヘバ、主人心ニ愜ヒ、至極ノ名物ト、竟ニ負郭ノ田ト交易ス、又數日過テ枯竹、本ヲ持來

リ、夫子ノ席ハ今ヲ去ル事遠カラズ、然ルニ足下良田ト易ヘシト聞ク、此杖ハ古太公狄雍ヲ還ケ、策ヲ杖<sup>ツ</sup>テ邪ヲ去ル時、操ル所ノ箠<sup>ムチ</sup>ナリ、夫子ニ先ダツ事數百年、何ヲ以テ之ニ易シヤ、主大ニ喜ビ、費本ヲ傾ケテ悉ク之ヲ還ル、既ニシテ又陶甌一雙ヲ持來リ、足下買メシ所之席杖ハ、皆未ダ舊シトセズ、此甌ハ乃チ帝舜庶民タル時造シ器ナリ、故ニ周ヨリ遙カニ遠シ、何ヲ以テ我ニ償ハンヤ、主人愈々古物トシテ、竟ニ居宅ヲ虚フシテ之ニ予フ、三品已ニ得テ、田宅資用モ竭果テ、遂ニ衣食ニ乏クナレドモ、古物ヲ好ム心猶盡キズ、是三品ヲ持テ市中ニ丐テ、太公ノ九府錢有ラバ一文ニ易ント云、是事一嗤ニ堪タルト思ヘドモ、今ニ於テモ茶道ニ耽テ、家産蕩盡スル者世ニ寡カラズ、大内義隆ハ天性聰明トイヘドモ、武ノ本職ヲ忘レ、詩歌・管絃・禪學・茶道・風雅ニ淫溺シテ滅亡ス、人君宰相其嗜所ニ由テ、百僚諸官阿黨シテ善惡ト成ル、元ノ順帝ノ時巖々ト云者、帝ニ學問ヲ務メ玉ヘト勸ムレドモ敢テ好マズ、唯古畫ヲ好メリ、巖々頓テ郭忠恕ガ畫シ比干圖ヲ進メ、紂王ノ比干ガ諫ヲ聽ズ、天下ヲ失ヒシ事ヲ説ク、帝或時宋ノ徽宗ノ畫ヲ閱テ、甚ダ稱美ス、巖々之ヲ視テ、徽宗ハ多能ニシテ、唯一事不能アリ、帝何事ゾト問ヘバ、對云、獨君タル事能ハザルノミ、其身辱メラレ天下ヲ失フハ、皆君タル事能ハザル所ニ由レリ、凡人主タル者ハ、能ク君タルヲ貴ブノミ、他ハ尙ブ所ニ非ズト云、帝巖巖ガ諫ヲ容レズ、遂ニ明ノ爲ニ亡サレ、家系斷絶ス、王侯大夫タル身ハ、諸藝ニ多能發才ナルハ、却テ治國ノ害ナリ、巖々ノ確言唯其君道ヲ知テ、之ニ心ヲ練ル事尙ブベキ所ナリ、易曰、天地節而四時

成、節以ニ制度、不<sub>レ</sub>傷<sub>レ</sub>財、不<sub>レ</sub>害<sub>レ</sub>民。一 貝原先生尙儉論、「儉約者、人君治<sub>レ</sub>世之大用而大臣經<sub>レ</sub>國之要務也、非<sub>ニ</sub>儉約<sub>一</sub>、則不<sub>レ</sub>能<sub>ニ</sub>守<sub>レ</sub>身保<sub>レ</sub>家、厚<sub>レ</sub>親救<sub>レ</sub>之、治<sub>レ</sub>國安<sub>レ</sub>民、故自<sub>ニ</sub>天子<sub>一</sub>、以至<sub>ニ</sub>庶人<sub>一</sub>、不<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>行<sub>レ</sub>之何也、儉約則用<sub>レ</sub>之有<sub>ニ</sub>節制<sub>一</sub>、而財恒豐矣、財之豐歉、是家之盛衰、民之休戚、俗之貪廉、兵之強弱、世之治亂繫焉、」是故ニ儉法ノ令有トイヘドモ、先上タル人ヨリ、行ヲ先ニシ言ヲ後ニセズンバ、刑戮之民不<sub>レ</sub>受<sub>レ</sub>教ト、却テ罪罰ヲ樂フ者ナリ、兵道教戰ノ法ニ、一人ヨリ伍ニ教ヘ、伍ヨリ閭ニ教ヘ、段段ト千萬人ニ迄ンデ熟練ス、治國ノ法令モ亦如此、其長官ヨリ先ヅ行フヲ視セバ、下吏徒胥等之ニ見慣ヒ、庄屋名主等官署ニ出入シテ自然ト觀習ヒ、慙悔感服シテ自ラ勤メ、村役小役ノ者ドモハ、又庄屋ニ出入シテ又觀習ヒ、村落ニ至迄又是ニ真似テ、遂ニハ一郷一郡相共ニ火化ス、故ニ風俗ハ全ク上ニ歸スベシ、「宋李若谷爲<sub>ニ</sub>長杜令<sub>一</sub> 日、懸<sub>ニ</sub>百錢於壁<sub>一</sub>、用盡即止、又與<sub>ニ</sub>李公擇<sub>一</sub>書曰、口腹之欲、何窮之有、每加<sub>ニ</sub>節儉<sub>一</sub>、亦是惜福延壽之道、醇釀飽鮮、昏<sub>ニ</sub>人神志<sub>一</sub>、若<sub>ニ</sub>疏食菜羹<sub>一</sub>、則腸胃清虛、無<sub>レ</sub>滓無<sub>レ</sub>穢、是可<sub>ニ</sub>以養<sub>レ</sub>氣也、惜福可<sub>ニ</sub>以養<sub>レ</sub>神也、奢則妄取苟求、志氣卑辱、從<sub>ニ</sub>儉約<sub>一</sub>、則於<sub>レ</sub>人無<sub>レ</sub>求、於<sub>レ</sub>己無<sub>レ</sub>媿、是可<sub>ニ</sub>以養<sub>レ</sub>氣也、惜福ハ陰德ニモナレリ、陰德ハ人皆施シ惠ムコト、思ヘドモ、第一我身ヲ慎ミ、儉約スルコトナリ、儉約ハ天物ヲ暴殄セザルユエ、天道ニ應ル者ニテ、必天報有テ延壽ヲ得ルナリ、口腹之欲ヲ縱ニシテ、大酒美食ヲナス者、長壽ヲ得ザルハ今親視ル所ナリ、又杜祁公ハ客ヲ享スルニ總テ匱器ヲ用フ、客稱嘆ジテ、公ハ宰相ノ高位ニ在レドモ、清貧ナル故カト云ヘバ、公直ニ重臣ニ命ジテ、白銀ノ器ヲ夥シク

取寄セテ前ニ陳ネ、我此等ニ乏キニ非ズ、自ラ好マザルノミト云、客彌々自慙感服ス、是人足ルコトヲ知り、常ニ施シヲ好ミ、卒ニ蓄ユルト云コトナシ、故ニ其使フ所ノ者、皆相化シテ儉約ヲ守レリ、又周黨ハ閔仲叔ガ食ゴトニ、菜無キヲ見テ生薑ヲ遣レバ、仲叔ガ云、我ハ煩シキノ省ノノミ、今更煩ハシキヲ作ンヤト受テ食ハズ、寔ニ口腹ノ縱欲ユエ、色々二町三町ト煩ハシニ及ベリ、僅ニ三寸ノ喉ヲ通レバ、何事モ無シト悟テ視レバ、飢ヲ凌グハ、一藩ニテモ事足レリ、寇萊公ハ嘗テ油燈ヲ燃サズ、廁洞ノ間ニモ燭淚堆クナス、杜祁公ハ官ヲ勤ルニ、嘗テ官署ノ燭ヲ燃サズ、後世ニ人ノ事ヲ聞キ、寇萊公ハ之ヲ惡ムコト寇讐ノ如ク、杜祁公ハ之ヲ敬フコト君父ノ如シ、驕奢ハ其身ハ快シトイヘドモ、天ノ惡ム所ユエ災害子孫ニ及ブ、儉約ハ其身ハ苦ムトイヘドモ、天ノ助ル所ユエ餘慶子孫ニ遺レリ、後魏ノ甄珍賭棊スル時、奴僮ニ燭ヲ秉セシニ、瞋眠スレバ怒テ打擲ス、奴ガ云、君若シ書ヲ讀ムハ、燭ヲ秉ルコト敢テ辭セズ、今博賭ハ何事ゾヤト面折スレバ、大ニ慙テ乍々感悟シ、是ヨリ勸テ經史ヲ讀ム、卑キ家僕ノ一言ニテ發明スルハ、實ニ人傑ナリ、蓋シ聖人ハ儉約ノ本トス、其聖人ノ書ヲ讀ムニ油燈ヲ用ヒズ、懽奢ニシテ蠟燭ヲ用ユルハ、未ダ宿弊ヲ改メ得ズ、今ヲ以テ考ルニ、賭棊ニ燭ヲ用ユルハ可也トスベシ、富貴ノ人ハ無用ノ安坐ニモ終夜蠟ヲ燃シ、一兩輩ノ親客酒宴ニハ、油燈ニテ事濟ムベキニ、既所奴婢ノ用ニモ蠟燭ヲ用ヒ、官署ニハ公私共ニ、聊ノ事ニモ十挺懸リノ大蠟燭ヲ屋ノ如ク耀シ、家僕ノ市中ニ往クニモ、我物入ラズニ提燈ヲ消サズ、長話ナド致シ、出入ノ庄屋モ又此ニ

視習ヒ、彼此小事ニ皆蠟燭ヲ用ヒ、其入費ハ止ル所農民ニ懸ルヨリ外ナシ、今時一兩輩ノ來客酒宴ノ坐ニ、若シ油灯ナドニ致サバ、吝嗇者ト唱フル風俗ト成レリ、是事全ク上タル人ヨリ、自ラ行フテ視スル故ナリ、「宋王文正公、晩年官重、毎ニ家人出賀、立令止之、因語其弟曰、遭遇如此、愈増患愼、何可賀也、公每有賜予、見家人置於庭下、乃瞋目而歎曰、生民膏血、安用許多、」夫官高キホド患苦益々多キニ、庸士ハ常ニ立ツ所以ヲ患ヘズ、位無キヲ患フルユヘ、一度加祿登級スレバ欣ビニ堪ズ、賀宴ヲ設ケテ餘多ノ客ヲ招キ、若干ノ財ヲ費シ大ニ欸待ス、是ヨリ日ニ月ニ門前市ヲ爲シ、美酒嘉餼堂下ニ積ミ、奴婢ハ勿論、犬猫ニ至ルマデ肉食ニ飽キ口腹便々タルハ、愚俗ハ皆羨ムトイヘドモ、君子ノ眼ヨリ大ニ賤ンズル所ナリ、人皆玉帛ノ多キヲ受テ悅ベドモ、眞ノ禮ハ其人ヲ尊信シテ恭敬スベキナリ、古ノ禮ハ其定リアリ、天子ノ贊ニハ鬯ヲ用ユ、鬯ハ百艸ノ本ト云、酒ヲ釀ルニ黑黍ヲ用ユレバ、其匂芬々ト馨キユエ、天子タルノ德ニ表ス、天子ニハ固ヨリ客禮ナシ、若シ弔臨シテ諸侯ニ適バ、必其祖廟ニ客ル、是時廟神ニ禮シテ鬯酒ヲ用ヒ、德ノ馨キヲ視スナリ、諸侯ノ贊ニハ圭ヲ用ユ、圭ハ玉ナリ、薄シテ撓マズ、廉ニシテ剛レズ、内ニ取有レバ必ズ外ニ見ル者ユエ、天子ニ朝スルニ心中僞無キヲ視ス爲ニ贊トス、卿ハ圭ヲ用ユ、圭ハ群集シテ黨ヲナサズ、卿ノ職ハ忠ヲ盡シ、下ヲ牽キテ徒黨ヲ爲サルヲ視ス、爲ニ贊トス、大夫ハ雁ヲ用ユ、雁ハ飛トキ行列ヲ爲ミテ、長幼ノ禮有リ、大夫ノ職ハ、君命ヲ奉テ四方ニ適キ、常ニ正キ道ヲ以テ、君ニ事ル者ユエ、雁ヲ以テ贊トス、士ハ雉

ヲ用ユ、雉ハ美食ヲ以テ饒ニ狎ルトイヘドモ、服セズシテ山野ニ歸ル、士ノ行ヒハ節ヲ守リ、義ニ死シテ移ラズ、縱ヒ他ヨリ召ア侯伯ノ位ヲ與ルトモ、心ヲ變ゼズ其君ニ事ル者ユヘ、雉ノ山野ヲ忘レザルヲ視ス、庶人ハ鶩ヲ用ユ、此鳥羽有レドモ遠ク飛バズ、庶人ハ遠行セズ、唯耕耨ヲ守ル故ニ、此鳥以テ賛トス、賛ハ質ナリ、又士大夫ニ贈ル、酒樽ノ臺ヲ拵禁ト云、孟臺ヲ禁ト云、皆酒ヲ禁ムル誠メナリ、古ハ如<sup>レ</sup>是其制禮ヲ立テ、各職誠トセシニ、後世ニ於テ用ヒザルハ、國家ノ大典故ト云フベシ、今時風壤ニ由テ、官家ハ勿論富有ノ商家等迄、歲暮ニハ大鰯、中元ニハ鯖ト、左迄上魚ニモ非ザレドモ、是ヲ嘉例ト稱シテ、出人ノ者ドモ之ヲ贈進ス、禮奢寧儉ト其時ニ應ジテ、鯖少キ時ハ鰯ヲ用ヒ、鰯ナキ時ハ鰯・デモ市濟ベキニ、嘉例トシテ禮ニ限リ、一尾ノ估二貫三貫、敢テ高キヲ問ハズ贈呈シ、魚賈之ガ爲ニ僥倖ノ財ヲ得ル、嘉例ト云ハ、王侯大夫其先祖興國肇基ノ時分、吉祥有ルヲ以嘉例トス、蓋シ是モ實ハ偏ナル事ニテ、祥瑞禍福ハ其時ノ人ニ在ル事ニテ、縱ヒ古例ニ從フモ、後孫不賢ナルトキハ、吉變ジテ凶ト成ル、後裔先人ノ吉祥ト唱ヘテ、美麗ノ事ヲ致スハ、富貴身ニ餘レル故ナリ、貧ニシテハ如何ニ嘉例ヲ用ヒント欲スレドモ、財無クテハ屈キ難シ、松永久秀ハ始メ貧苦ニ逼リ、元朝ノ雜煮モナシ、野邊ニ往キ懸リ、新葬ノ團子ヲ取テ雜煮ノ餅ニ用ヒシニ、是年ヨリ徵庸セラレ、遂ニ公方家ノ執權ト成リシユエ、是ヲ嘉例トス、是ヲ以テ觀レバ、吉凶祥兆ハ、強テ勤ムルニ及バズ、又嘉例ハ其家ノミナリ、他ヨリ其魚ヲ以テ賀スルニ及バズ、由<sup>レ</sup>之其時ノ宜キニ從ヒ、鰯ニ限ラズ、餘ノ

魚鳥ヲ用ユル事旁ク教ヘ諭サバ、一年若干ノ費金ヲ除クベシ、諸藩ノ都府、其戸數ニ應ゼズ、酒肆魚屋ノ多キハ懽奢ノ地ナリ、増テヤ五色ノ上菓子有ルハ、美食ニ侈コト知ルベシ、長崎ハ三都ニ超タル上製ナルハ、唐蘭夥ク砂糖ヲ運ブユヘ、崑山璞ヲ投ルニ同ジ、是除風近邦ニ滂流シテ、西國ハ上方ニモ勝ルハ、甚ダ惡ムベキ事ナリ、余近年或城下ニ往シニ、上製ノ菓子ヲ出シ、邇日始テ是製店アリト、怡然トシテ自慢ス、余盧胡シテ、小人ノ美ル所、君子ノ誹ル所ナリ、國初ヨリ質朴淳美ノ士ニ、今艱テ奢靡ヲ興スハ、當主ノ愧トスベシ、服食美麗ニ淫スルハ、義ニ嚮ハザルユヘ武モ亦弱シ、世ニ飲食ノ滋味多シトイヘドモ、色菓子ヨリ無益大ナルハ無シ、溫公ガ目食ト云ハ是ナリ、由レ之近年或邦ニ禁法有テ、唯公用菓餌屋一軒色菓子ヲ免許シ、餘ハ悉ク禁止アレドモ嘗テ行レズ、益々新製ノ色菓餌、今ニ於テハ遠境郷宿ニモ色菓餌屋アリ、由レ之觀レバ、法度儉約ハ元公コリ先行ヒ、衆ニ示サズンバ國民不服トミユ、若シ淳朴ニ恢復セント欲セバ、先ヅ一番ニ日食ヲ禁ジ、菓餌ハ落雁・糯米・河砂香・煎餅等ニ致ス事ヨロシ、他邦ヨリ來テ之ヲ食シ、其邦ノ素朴ニ感心スベシ、偕時ノ權勢ヲ得ル者ハ、酒魚菓餌等贈進スルハ定レルコトナリ、平生酒肉ニ飽歷スレバ、延壽ヲ得ザルノミナラズ、生子モ又多クハ天札ナル者ユヘ、諸品市中ニ花主ヲ立テ賣斥スベシ、是事愚俗ノ見ニハ吝嗇トモ思ハン、然レドモ君子ノ美ル所ナリ

大樹家ニ諸藩コリ朝貢ノ品物ハ、市中ノ商賈之ヲ受ク、天物ヲ暴殄セズ、儉德ヲ慎ミ玉フ處ナリ、黒

田如水ハ、至テ儉德ヲ守リシ君ナリ、一年同國幸佐志ニ入湯ノ時、或日千石取ノ士自ラ干菜一抱ヲ携ヘ來謁ス、侯大ニ喜悅ス、翌日七百石取ノ士、是モ自身一升樽ヲ提テ來ル、侯悅デ應對ス、翌日百石取ノ士、生鯛ヲ白片木ニ載セ僕ニ擔セ來ル、侯慨然トシテ、汝ハ小祿ノ身ニシテ斯ク懽喜ナルハ、定テ人ヲ賅ルナラント譴責アレバ、是者汗ヲ握リ、大ニ恐テ地ニ匍シ、御答メ當然トイヘドモ、有リ様今朝市中知音ノ者ヨリ貰ヒシユヘ、失禮ナガラ献上シ奉ルト陳謝スレバ、侯モ尤ト思召シ、然ラバ其片木ハ汝ガ家ニ留メ置クモ無益ユエ、携ヘ歸テ早ク片木屋ニ賣斥スベシト諭誨アリ、古歌ニ「炭薪米麥豆ニ至ルマデ、賤山夫ノ汗ト思ヘバ」縦ヒ財ヲ出シテ買ムトイヘドモ、此和歌ヲ服膺セバ、天理ニ愜ヒ家運必榮盛ナリ、況ヤ祿有ル身ヲヤ

○客云、楊貴妃嗜ニ荔枝、當時以ニ馬遞馳載、七日七夜至京、人馬多斃於路、百姓苦之ト唐書ニ記ス、斯ク驕侈ニシテ民役ヲ勞ス、我日本ニ於テモ、六月極暑ニ水ヲ捧ルニ晝夜兩三日、是モ片時ノ事ニ、何ノ味モ無キ物ヲ珍重シ民ヲ勞スルハ、豈無益ナラズヤ

答云、噫木ニ竹ヲ接グ言ナリ、自ラ微メズ人ノ獻呈スルハ、其德ヲ以テ受ルユエ禮ナリ、自ラ好シデ取ルハ賅ルナリ、周禮天官「凌人共凍、秋刷冰室、冬藏春啓、夏頒冰」トミユ、由之我邦ニモ古王朝冰室アリ、明皇玉殿ノ中ニ坐シテ民ノ艱難ヲ知ラズ、長舌ヲ信ズルユヘ、彼ガ爲ニ天下大亂ヲ起シ、貴妃モ竟ニ馬嵬ニ於テ絞殺セラル、是則天戮ナリ、明皇ハ支那四百州、我邦ニ十増倍ノ主ナリ、其奢

貴賤分量ヲ以テ論ズレバ、今ノ世ニ侯國ニ於テ、無益ノ玩好ニ、晝夜三日五日ノ徭役ハ、猶多カラズトセズ、或領内都下ヨリ六七里ヲ阻テ大河アリ、七八月ノ間毎日通夜シテ、鱸魚ヲ持運ブ事アリトキク、口腹ノ欲ニ凡ソ四五十日民役ノ艱難、設令財ヲ以テ買ルトイヘドモ、仁君ノナス所ニ非ズ、是ヲ以テ明皇ノ七日七夜ト、豪奢併セ考フベシ、「後後漢和帝時、嶺南獻生荔支、十里一置、五里一候、晝夜傳送、唐雋上書曰、臣聞、上不<sub>レ</sub>以<sub>二</sub>滋味<sub>一</sub>爲<sub>レ</sub>德、下不<sub>レ</sub>以<sub>二</sub>貢贍<sub>一</sub>爲<sub>レ</sub>功、伏見、交趾十郡、獻生荔支・龍眼等、南州土地炎熱、惡蟲猛獸、不<sub>レ</sub>絕<sub>二</sub>於路<sub>一</sub>、至<sub>二</sub>於觸犯死亡之害<sub>一</sub>、此二物升<sub>二</sub>殿<sub>一</sub>、未<sub>ニ</sub>必延<sub>レ</sub>年益<sub>一</sub>」詔勅大官、勿<sub>ニ</sub>復受<sub>レ</sub>獻<sub>一</sub>」今ノ世ニ於テモ侯國ニ御用々々ト民役寡カラズ、一孤ノ口ユヘニ人ヲ使フハ、人主ノ道ニ非ズ、全體美服美食滋味ハ大形侍姫・詔臣等ヨリ勸ムル所ニテ、遂ニハ君ノ汚名ト成ル、事<sub>レ</sub>君者ハ言語ヲ慎ムベキナリ

○客曰、溫公訓儉文曰、「古人以<sub>レ</sub>儉爲<sub>二</sub>美德<sub>一</sub>、今人以<sub>レ</sub>儉相<sub>二</sub>詬病<sub>一</sub>異哉、近世風俗、尤爲<sub>二</sub>侈靡<sub>一</sub>、走卒類<sub>ニ</sub>士服<sub>一</sub>、農夫躡<sub>二</sub>絛屨<sub>一</sub>」ト云、是時代ハ亂世ナレドモ如是、況ヤ太平久キ時代ヲヤ、天下ノ奢侈極ル時ハ天必禍ヒヲ降シ、大饑又ハ兵亂ト成ルハ、歴史ニ明カニ見エタリ、方今天下風俗花奢ニ移リ、士庶人皆木屨ハ漆塗、艸履ハ天鵝賊綠、雪踏ハ一足銀四五匁、一年若干ノ估ユエ、皮緒ノ木屨・雪踏ハ士民ノミニテ、庶人ハ停止致サバ、自國ノ散財ヲ留ムベキカ

答云 是事届クマジ、「立法無<sub>ニ</sub>二制<sub>一</sub>、當<sub>レ</sub>與<sub>二</sub>百姓<sub>一</sub>一體斷決<sub>上</sub>也」トミユ、近年諸國ノ新制ヲ立ルヲ觀ルニ、

固ヨリ制ヲ立ル者士民ユヘ、比黨シテ手前勝手ヨキ偏頗ノ事ノミ多キユヘ、庶民服信セズ、國家ノ儉法ハ斯ル小費ニ目ヲ懸ズ、先ヅ大費ヲ誡メヨ、身ハ綿服<sup>カズミ</sup>シテ足ノミ絹<sup>キヌ</sup>ヲ用ユル者ナシ、四民共ニ絹服ノ禁法行ハル時ハ、塗下駄<sup>ツラサイ</sup>絹緒ノ草履ハ自盡シ、制令過度瑣細ナレバ、下激シテ行ハレズ、近年四國或領内ニ、民人ハ皮緒ノ木履ヲ禁ズレバ、其夜市中ノ者ドモ、古下駄ヲ悉ク頭職ノ屋上ニ投棄シト聞キ及ベリ、斯ル僂<sup>ニセウ</sup>事ハ大臣タル人ノ心ヅク事ニ無レドモ、大形卑臣俗利ノ者、大ナル國家ノ事ヲ己ガ小屋ヲ治ル窺管<sup>ニセウ</sup>ノ智慮ヨリ計較出セル所トミユ、履物ハ昔コリ大抵天下一般定リテ、諸侯ノ規式ニハ、緒太ノ金剛草履、又白布裏付ノ草履、今ハ長貫草履、家中ノ者ハ簾<sup>バケツ</sup>ノ裏無長貫枯草履、市中ノ者ハ雪踏、在郷ノ者ハ角結ノ藁草履ト、古來皆之ヲ用ユ、雪踏ハ千利休始テ造リ、勝手ノ物ユエ市中皆之ヲ用ユ、商賈ハ終日奔走シテ座ニ上ルユヘ、長貫ニテハ一日一足ヲ費シ、少シ土地濕ヘバ、足汚レテ座ニ上ラレズ、其弊ヘ日ニ幾計ゾヤ、故ニ諺ニ勝手ノ雪踏、世上例ノ藁艸履ト云、然ルニ家中ノミ雪踏ニシテ、庶人ニ禁ズルハ如何ノ事ゾヤ、又上下ノ差別ヲ分ツニモナラズ、甚以テ無益ナリ、今世間ヲ觀ルニ、商賈長貫ヲ履ケバ、家中ノ眞似スルト誹リ、帶刀ノ者、僧巫ノ徒雪踏ヲ履ケバ町ノ風ト胸<sup>コロウ</sup>嘖ス、此ニテ事情分明ナリ、由之天下通用ニ隨ヒ、武士僧巫ハ長貫裏ナシ、市中ハ雪踏、鄉村ハ藁草履ト究メ、塗下駄ハ四民共ニ制禁シ、領内ノ穢多ドモニ雪踏皮緒ヲ作ラセナバ、估銀他邦ニ出デズ、蓄積ノ方ナリ、筑前博多ノ穢多村數百軒、皆雪踏ヲ作り產物トス、其中ニ豪家モ在リ、攝嘉渡邊

村ハ雪踏ヲ名産トシテ諸國ニ賣ル、其估銀莫太ナリ、蓋シ裏ニ金ヲ當ルヲ禁ズルトキハ、一國ニ於テ  
モ一年數千斤、鐵ノ利益ト成ルベシ、我藩寛文年中丐乞ドモ雨露ニ洒ルユヘ、免地ヲ賜テ廠ヲ作り置  
玉フ、此ヲ雜小屋ト云、是者ドモ正業ヲ勤メ、機杼節等ヲ製作シ、今ニ於テハ皆富潤シ、其中ニハ拔ン  
デ富有ノ者モ有リ、故ニ儉勤ノ二ヲ守レバ、丐乞トイヘドモ人ヲ貧ラズ、身ヲ潤スコト如是、況ンヤ  
四民ヲヤ、是事全ク上ニ在ルコトユヘ、法度ヲ嚴ニシ、儉勤ノ二ヲ守ラシムベシ

宋羅大經ニ、「自ニ大舜稱禹、不過勤儉兩家、況下於禹者、可ニ以不勤乎、余於乙編、嘗論儉  
有ニ四益、勤亦有ニ三益、蓋民生在勤、々則不匱、一夫不耕、必受其飢、一婦不蚕、必受其寒、是勤  
可以免飢寒也、農民晝則力作、夜則頽然甘寢、故非心淫念、無從而生、晉公父伯之母云、瘠土之  
民、莫不嚮義勞也、淵明詩云、田家豈不苦、弗獲辭此難、四體誠乃疲、而無異于思、是勤可  
以遠淫僻也、戶牖不蠹、流水不腐、周公論三宗文王之壽、必歸之無逸、呂成公釋之云、主靜悠  
遠、博厚自強、則堅實精明、操存則血氣修軌而不亂、收亂則精神內守而不浮、是勤可以至壽考  
也

宋仁宗即位、溫公上疏、論修心之要三、曰仁、曰明、曰武、治國要三、曰官人、曰信賞、曰必罰、  
帝曰漢帝守蕭何法、不變更可乎、溫公曰、何獨漢也、使三代之君、常守禹湯文武之法、雖至今存可  
也、武王克商曰、乃及商政、々由舊、然則雖周亦周商政也、書曰、無作聰明亂舊章

○客云、宋羅大經ガ語ニ、「近習畏ニ宰相、則爲ニ盛世、宰相畏ニ近習、則爲ニ衰世。」ト云ハ、古今ノ名言ナリ、古ヨリ天下國家ヲ濫<sup>ミダ</sup>ス者ハ、皆内官姦臣ヨリ起ル、是ヲ鷹頭ノ蠅、廟社ノ鼠ト云、其君寵ヲ得ルハ巧言令色佞倖興利ノ者ニ在リ、苟卿云、「下臣事<sup>レ</sup>君以<sup>レ</sup>貨、中臣事<sup>レ</sup>君以<sup>レ</sup>身、上臣事<sup>レ</sup>君以<sup>レ</sup>人」、人ヲ以テスルハ、賢能ノ者ヲ上ニ薦ルコトナリ、今時ハ諸賈乏ユヘカ、貨ヲ以テスル下臣ノミ專用トス、紀州ニ金澤彌右衛門ト云興利ノ者アリ、始メ手代ヨリ累進シテ、竟ニ國政ニモ與リ、興利ヲ專ラトス、家老三浦長門守之ヲ快トセズ、我藩ハ祖宗ヨリ貢賦ヲ以テ、國計究リ有テ事定レリ、何ゾ他ニ貪ランヤ、下ヲ虐ゲ上ニ忠トスルハ、余ガ好ム處ニ非ズト、終身彼ニ面謁ヲ許サズ、「小人識<sup>レ</sup>其小者近者、君子識<sup>レ</sup>其大者遠者。」ト云、其志操大實濶達ナル事、實ニ宰相ト稱スベシ、國家賈乏ニ至レバ、燕石ノ徒種々ノ利ヲ興シ、自ラ權道ト思ヘドモ、古人ノ繩墨ニ合スレバ、舛差スル事間有リ、正權ノ二道ヲ分斷スル事、仲々難キ事ニテ、庸俗ノ成ル所ニ非ズ、唐太宗云、「直臣立ニ朝廷、姦邪爲<sup>レ</sup>之寢謀、」是故ニ侍臣内官ハ勿論、外様ノ官ニ至ル迄、唯正直ノ人ヲ銓ムニ如カズ、直ヲ以テ事ヲ議レバ、第一天道ニ協ヒ、又民人信服セザルコトナク、人ヲシテ直ト爲サシム、然レバ何ゾ刑罰ヲ用ンヤ、故ニ「政正也、下所<sup>レ</sup>取<sup>レ</sup>正也。」ト、苟且ノ事ヲ爲スニ、正直ト云ハ寡キ者ナリ、「細人之愛<sup>レ</sup>人也、以<sup>レ</sup>姑息。」ト云、是語ニ就テ思ヒ當リシ事アリ、夫子モ過タル事ヲ云ハ、後ノ爲ト宣ヘバ、後世ノ誡メニ之ヲ語ラン、先文化年中、或領分ニ富國ノ基業ヲ開カント佞倖ノ者ヲ召ス、是者利口捷敏、日ニ月ニ興利ヲ説

クユヘ、諸吏モ誦惑セラレ、君寵ヲ蒙リテ竟ニ内官ノ列ニ加ハリ、萬事ノ仕組ヲ計ル、或時密議シテ  
今已ニ賈<sup>ニ</sup>及ベリ、故ニ「富<sup>レ</sup>之教<sup>レ</sup>之」ト云聖語ニ循ヒ、先民間ノ貸借ヲ廢棄シテ、其後教令ヲ施サバ、  
上ノ仁恩ヲ感戴シテ、必ズ信用スベシ、然レドモ一時ニ令ヲ下サバ、恐ラクハ穩ナラズ、先ヅ五年延  
債ノ令ヲ下シ、田畠ハ永代生租ノミ拘ラズ、年限ノ田畠或ハ質入ハカヘシ、五年ノ期至テハ、又五年  
十年ト誣<sup>ゴ</sup>駁テ、漸々人氣ヲ弛メテ念ヲ絶シメント奏スレバ、同僚モ小ヲ殺シ大ヲ助ル良術ト俱ニ同意  
ス、其中ニ義心ノ士ハ不服スレドモ、當時社鼠ノ立法ユエ、口ヲ噤<sup>ツ</sup>ンデ嘆息ス、是時清廉ノ高士、竊  
ニ之ヲ聞テ席ニ進ミ、國ニ學校ヲ建テ、我等ヲシテ教ヘ玉フユヘ、古人ノ書ヲ看ルニ、「觸<sup>ツ</sup>情縱<sup>レ</sup>欲、  
謂<sup>ニ</sup>之禽獸、苟可<sup>レ</sup>行、謂<sup>ニ</sup>之野人」トミユ、「殺<sup>レ</sup>小助<sup>レ</sup>大」ト云ヘルハ、是從<sup>テ</sup>頭カラノ間違ナリ、人ハ萬物ノ  
靈、均ク是人也、卑シキ丐<sup>ト</sup>イヘドモ殺スベキニ非ズ、然レドモ衆人ヲ害フ者ハ、已ムコトナク之  
ヲ殺シテ、衆ヲ救フノ謂ヒナリ、武王ノ紂王一人ヲ殺シテ、天下ノ人ヲ救ヒ玉フ是ナリ、何ゾ不辜ノ  
良民ヲ潰シ、以テ衆ヲ濟ノ理有ランヤ、「夫信者、國之大寶也」論語「去<sup>レ</sup>食去<sup>レ</sup>兵、自<sup>レ</sup>古皆有<sup>レ</sup>死、民  
無<sup>レ</sup>信不<sup>レ</sup>立」朱子云、「寧死而不<sup>レ</sup>失<sup>ニ</sup>信於民、使<sup>テ</sup>民亦寧死、不<sup>レ</sup>失<sup>ニ</sup>信於我」トミユ、夫聖人ハ縱ヒ死  
ストイヘドモ、信ヲ民ニ失フコト勿レト誠メ玉フハ、民人信有レバ、食モ足リ兵モ強キユヘ、其本ヲ  
堅クスルノ教ナリ、晉帝ハ其臣羊玄保ト奕ヲ爲スニ、一郡ヲ賭ニシ之ニ員レバ、宣城ノ太守ニ封ジテ  
一言ノ信ヲ示ス、周ノ成王桐葉ヲ以テ戲レ、唐ニ封ズルモ是ニ同ジ、人君ノ信ヲ守ルコト斯ク有ベキ

ハヅナリ、「夫士不<sub>レ</sub>用<sub>二</sub>詐巧<sub>一</sub>」ト云、一旦年限ヲ約シ、又モ五年十年ト詐誑セバ、不虞ニ及デ幽王ガ烽臺ナラン、國家ノ耻辱此コリ大ナルハナシ、禮義廉耻ハ士ノ大綱トス、我領民ハ如何ナル苛刻暴政ヲ行フトイヘドモ、公威ニ懼レテ上ニ向テ謗罵ハナサバレドモ、後言ハ勿論永ク他邦ノ嘲笑ニ逢シ、今學校ヲ立テ衆士ニ聖經ヲ教ヘ玉フハ、抑亦忠信ノ道ヲ行ハセン爲カ、將文字ヲ知ラセン爲カ、若シ文字ノミ知ラシメン爲ナフバ、字引一卷ニテ事足レリ、我藩享保・天明ノ大饑トイヘドモ、斯ル天下不通ノ制未ダ有ラズ、況ヤ當時無事安寧ナリ、若シ大饑ニ及ババ、假令上コリ命令無クトモ、貸借自ラ延ルナリ、姑息ノ小惠ニ眼ヲ舐レ、洗<sub>レ</sub>垢永<sub>レ</sub>其癰瘡ト云ニ迄バン、人主世ヲ嗣トキハ、宿負通貸ヲ悉ク除キ、又年貢運上ヲ一年二年、又ハ五年十年モ放<sub>レ</sub>玉<sub>二</sub>フコト<sub>一</sub>、中華ニハ甚ダ多シ、此ヲ大赦ト云テ、古ヨリ有ルコトナレドモ、庶民ノ財ヲ棄サセルコトハ、仁君ノ道ニ於テナキコトナリ、吾曹ハ辱クモ君祿ヲ以テ、妻子眷族能ク安養スレドモ、庶人ハ利ヲ以テ祿トス、其利財ヲ棄サスルハ、慨チ吾曹ガ祿ヲ放ツニ異ラズ、聖經モ私意ヲ以テ解スレバ、大ニ相違スルコトアリ、大内義隆ハ無<sub>レ</sub>友不<sub>レ</sub>如<sub>レ</sub>己者ト云語ヲ取違ヘテ、僧侶・歌人・伶人等ヲ友トシテ、日夜歡樂ヲ事トシテ、自職ニ懈リ遂ニ滅亡ス、「富<sub>レ</sub>之教<sub>レ</sub>之」ト云ハ、賦斂役力ヲ薄フシテ、富饒ナラシメ、其後忠信孝悌ノ道ヲ教ヘント云コトナリ、如何ゾ他ノ財ヲ以テ我子タル民ヲ富スベキヤ、不廉ノ者ハ天道ニ乖クユヘ、古ヨリ天災ヲ受ザル者ナシ、然レバ彼等ニ一時甘キ毒ヲ予ヘテ天罰ヲ受シメ、却テ貧苦トナス手段ナリ、溫公モ貧ハ自身ノ所爲ト云、

人情ニ古今ナシ、廉直ノ者ニ榮エザル者ナク、不直ノ者ニ富メルコトナシ、國ヲ騷スコトハ最モ重キコトユヘ、先ヅ試ミニ貧キ者數十人ニ、上ヨリ買<sup>モト</sup>賫<sup>ザ</sup>ヲ貸シ、五六年ヲ經テ得ト其貧富ヲ明試シ、其後衆人令ヲ下シテモ遅カルマジ、特ニ彼等ハ先代用度賁キ時、上銀人別銀等、上下ノ爲ニ國功ヲ立シ者ドモナリ、今其賞コソ有ルベキニ、却テ報ユルニ苦ヲ以テスルハ、君道ニ於テ決シテナキコトナリ、又天下希代ノ異制ユヘ、我藩ノミ人民蠲<sup>ク</sup>蠲<sup>ク</sup>ト見エ、家臣ノ徒ハ己ガ借財ヲ除カント工ミシナラント、他邦ノ疑念ヲ受ルノミナラズ、後世天下虎政ノ微ニセラレン、彼此ニ付テ宜シカラズト諫誨スレドモ、彼者我意ヲ振ツテ拒ミ、却テ銀主ノ最良ノ様ニ譏刺スルユヘ、顰<sup>ヒ</sup>眉嘆息シ、世ノ形態ヲ默觀ス、唐李德裕云、「正人指<sup>レ</sup>邪人爲<sup>レ</sup>邪人、邪人亦指<sup>レ</sup>正人爲<sup>レ</sup>邪人、辨<sup>レ</sup>之甚難、臣以爲、正人如<sup>ニ</sup>松柏、特立不<sup>レ</sup>倚、邪人如<sup>ニ</sup>藤、命族附<sup>ニ</sup>他物、不能<sup>レ</sup>自起、故正人一心仕<sup>レ</sup>君、而邪人競爲<sup>レ</sup>黨トハ、是等ノ事ナリ、偕内議又變ジテ德政ト名ク、未ダ令ヲ發セザルニ、遽然ト洩レテ、姦猾無<sup>レ</sup>慙ノ族、驅<sup>レ</sup>剋<sup>リ</sup>テ親好ノ富家、或ハ僧坐ニモ往キ、急難起テ死セントス、何兩貸クレナバ、救所ノ大恩終身敢テ忘レズ、期約ハ時ヲ延サズト潜々ト賦<sup>スカ</sup>シ欺キ、借ル者甚ダ多ク、數日ヲ過サズ都府中閭<sup>ヒシ</sup>キ、質屋ニハ、我先ニト衣類・刀劍・雜具ヲ齎<sup>モト</sup>往ケバ、主人モ甚ダ不審ニ思ヒ暫ク辭ス、或ハ古衣・穀物・酒・肴屋一切ノ店方ニモ、借取リスル事ユヘ、蘿非親縁ノ差別ナク、無理ニ推借致事少カラズ、既ニ令命下レバ、質屋ニ往テ徒取者引モキラズ、亭主モ悅<sup>トロ</sup>ケテ夢ノ如ク執掌シテ、終ニハ勞瘁、或ハ狂狷<sup>キョウケン</sup>ノ者モアリ、質屋ナドノ職

ハ、血糞汚穢ノ品物、穢多汚乞ヲ撰マズ、或ハ疫症痢疾ノ衣、未ダ懊溫アル品物ヲ手ニ取ルユヘ、傳染スル事多シ、斯ル賤キ事ヲ勤メ、徒取ラレル事ユヘ憤怒ニ堪ズ、發狂鬱悶スルモ尤ナリ、或ハ危急ヲ救ハレ、喉ヲ通<sup>ド</sup>レバ熱ヲ忘レ、銀主ニ往テ契券ヲ取戻ス者限リナシ、由<sup>レ</sup>之憤怒胸ニ痞<sup>アサガ</sup>リ死スルモアリ、天ニ號泣スルモアリ、諸所群黨起テ領内鼎<sup>テガタ</sup>ノ湧ガ如ク、親類朋友モ喧嘩口論夜白ニ絶エズ、間ニハ銀主モ悲ニ堪ズ債ヲ責レバ、法度ニ背クト入牢スル者モ有リ、訴訟・罪罰、告狀限リ無ク、赭衣門ニ充ツレバ、廷尉モ絶食ノ間モナクシテ惘然タリ、左レバ是ヲ是ト獄ルハ難カラズトイヘドモ、是ヲ非トセザレバ法令ニ逆フユヘ、裁判ニ甚ダ困リ、後ニハ取擄ゲズ、風俗一時ニ僞僭スル事、開國未聞ノ一大變トイヘドモ、固ヨリ上ヨリ起セシ事ユヘ、賢臣良士モ之ヲ如何トモスル事ナシ、其條件譚ジ盡ス事一朝一夕ニ非ズ、因テ四五條ヲ演シ、或農夫家貧ク、夫婦身ヲ賣ル事數年、給金十餘兩或富家ニアヅケ、兩三年ノ内ニ農具ヲ求ント思シニ、此令ニ由テ、數年ノ艱難モ忽チ水ノ泡トナルユヘ、其者ニ往テ身ノ艱難ヲ歎ケバ、吾ハ固ヨリ正直ヲ本トスレドモ、上ノ法度ヲ破ルト云ヘバ、是者鬱悶シテ竟ニ口眼唱斜ス、由<sup>レ</sup>是觀レバ、中風ハ氣ヨリモ起ルトミル、又盲人毎日門ニ立テ數金ヲ貯ヘ、官金用ト人ヲ撰預ケ置シニカヘサズ、又農民牛ヲ買メテ估銀間ニ合ズ、親友ニ往テ五日ニカヘスト約スレバ、其情ヲ聞テ飯料ヨリ米六苞ヲ渡セバ、欣ビニ勝ズ是ヲ取テ自分ノ庭ニ置シニ、翌日此令ニ由テ彼ガ家ニ往、其米ヲ視テ取カヘサントスレドモカヘサズ、又大金ヲ借り田畠ヲ求テ家富、銀主ハ潰レテ

家宅ヲ賣ル身トナレドモ<sup>ミ</sup>腦<sup>ミ</sup>願<sup>ミ</sup>モセズ、又一人ノ農夫終歲一日モ休ハズ、手足胼胝酒肉モ食ハズ、唯儉約シテ<sup>カセジ</sup>擡<sup>ミ</sup>ユヘ、穀類凡百苞餘ヲ儲ヘ、之ヲ同村ニ貸配シニ、此令ニ由テ數十年ノ辛苦<sup>ヒマツギ</sup>乍チ盡ルユヘ、或ハ<sup>カセジ</sup>瞋<sup>ミ</sup>リ、或ハ悲ミ、宛モ狂人ニ似タリ、親族ドモ之ヲ慰<sup>ナグサ</sup>メ、平生我曹ガ言ニ差ハズ、人生僅カ六十年、寸陰ヲ惜ミ、寺ニ詣テ後生モ願ハズ、旨酒<sup>ムサキ</sup>ヲモ飲得ズ、肉ヲモ食ヒ得ズ、面白キ角抵倡優モ<sup>ケウケン</sup>觀ズ身ヲ苦メシニ、今斯ク他人ノ爲ニ奉公スルハ、大愚人ト云ベシ、今ヨリ衆人ト共ニ遊樂セラレヨト、精業ノ良民ヲ惰民ト成時代トナレリ、是者モ尤ト是ヨリ耕耘ニ怠リ、放逸ノ身トナル、偕上ハ民間モ定メテ富潤ニ及バン、風俗ヲ改ムルハ是時ト、吏人ハ時々巡村シテ、惰民ト視レバ之ヲ捕フ、或日右ノ者態<sup>ワザ</sup>ト外椽ニ午睡ス、吏人之ヲ見テ眼ヲ瞋シ咎ムレバ、吾ハ生來晝寢ト云コト曾テ知ラズ、子ニ臥シ寅ニ起キ、稼穡一遍ニ上ノ法度ヲ能ク守リ、年貢ハ衆ニ<sup>サキガ</sup>魁<sup>ミ</sup>ケ、一粒ノ宿負ナク、保役ハ他ニ<sup>ミシ</sup>拔<sup>ミ</sup>シテ勤勞シ、家内和睦シ、小福ヲ得テ僅ニ富シニ、知音ノ者ドモ年貢及ビ死亡ノ危急ニ<sup>ミシ</sup>逼<sup>ミ</sup>ルト、頻リニ狀ヲ告ルユヘ、貸財ハ固リ吾好ム所ニ非ザレドモ、已ムコトナク仍ル穀ヲ貸シ置シニ、斯ル無妄ノ災ニ遭ヒ、數十年ノ辛苦乍チ一片ノ煙ト成リ、借財ノ者ドモハ是迄ノ法度ハ一條モ守ラズ、唯守レルハ今不<sup>レ</sup>返ノ一條ノミ、平生<sup>レ</sup>媮<sup>ミ</sup>懶ニシテ大酒博奕ヲ嗜ミ、手ニ<sup>レ</sup>鍬<sup>ミ</sup>ヲ秉ルコトヲ嫌ヘドモ、却テ身ヲ勞セズ、天ヨリ財貨ノ降リ下ル時代ユヘ、吾モ是ヨリ疎業者ト成テ、天幸ヲ得ント思按ヲ易ヘテ如<sup>レ</sup>此ト云ヘバ、吏人モ木石ニ非ズ、一言ニ<sup>クツ</sup>挫<sup>ミ</sup>カレ、默然トシテ去ル、上ハ風俗改替ト思ハレシニ、初ノ計較トハ大ニ

違ヒ、却テ大酒・博賭・益増長シ、衆人ノ意ニハ、人ノ財ヲ以テ父母妻子ヲ葬リ、身ヲ投ルベキ命ヲ救ハレ、其恩ヲ報ゼザル時節ナリ、我曹ハ自身ノ財ニテ勝負スル博賭ユヘ、何事カ有ラント思ヒ、又我金ニテ酒ヲ飲ミ、人ノ恩無レバ、是ヨリ廉潔有ルマジト互ニ放肆シ、盜心アル者ハ、人皆顔ヲ合セテ、財ヲ取ル時至レリ、忍ンデ取ルモ其罪同ジカラント竊盜蜂起シ、甚キハ稻ヲ盜ミ、梁麥ヲ薊取リ、牛馬ヲ盜ムコトモ有リ、又物ヲ買フテ<sup>ウツギ</sup>贖又ハ預リ證文モカヘサズ、一切ノ事己ガ不信姦惡ヲ上ニ假托スル人氣、領中統テ是ニ類ス、其中僅一兩人廉直ノ者有テ、恩義ノ財ユヘ、縱ヒ犯法ノ罪ニ逢フトモ、恩ヲ報イズンバ義ニ於テ叶ハズト、元利ヲ本主ニカヘセバ、禁法ト肯テ收メズ、互ニ辭讓シテ事決セズ、里長モ信義ヲ立レバ法ヲ犯スユヘ、裁判ナラズ、希有ノ時變ト嘆息ス、「夫報恩者、事<sup>レ</sup>君忠、事<sup>ニ</sup>父母孝」ト云、君子ハ難ニ臨マズンバ、其節義見ハレズ、惜カナ斯ル者官ニ入ラズ、監察ヲ副ルニモ及ブベシ、明々揚々側陋ト、聖明上ニ在サバ、奈何ゾ草莽ニ空ク一塊ノ土ト成ランヤ、倅精昏ノ良民ドモハ、斯ル時代ニ生レテ身ヲ苦メ、他人ニ予ヘンヨリ、自ラ娛ムニ如ズト放蕩者ト爲ルモアリ、又貧者ノ金ヲ富家ニ預ケ置シ者、或ハ正直魯鈍ノ富人等、過半亂心又ハ僣症ニテ死スル者寡ラズ、嗟乎刃ヲ以テセズ、言ヲ以テ不辜ヲ殺スト云者ナリ、或ハ後年是令又モ出ント妄リニ貸サズ、金銀竟ニ融通セズ、利息高聳ト成ツテ必止ト逼ル、窮民ハ兼テ貸ス者ナキユヘ是僥倖ヲ得ズ、却テ上ヲ怨、上ヨリ視ル所ハ貧人ノミカル者ト思フハ、席上ノ理ナリ、借財多キ者ハ中戸ノ富人ドモナリ、是ハ

身代喻分ノ商賣ユヘナリ、因テ偶中ノ福ヲ得ルハ中富計リトミユ、「君子周急不繼富」トハ背腹ナリ、民情ハ豚犬ニテ、後ニハ上コソ惠マルベキニ、人ノ物ニテ仁義ヲ致シ、年貢運上ハ一錢モ免シ玉ハズト、上ヲ懟ル人氣ト成ル、是全ク「不愛桃李、愛茉莉」ユヘナリ、是惡弊ニテ一切ノ製物ハ専ラ假構物計リニテ、三年ノ用ハ一年ニ損ズ、是國用第一ノ害ナリ、「金以火試、人以財試」ト云、今上ノ一言ニ因テ萬民ノ胸中推量スベシ、不義ノ富貴ハ浮雲ノ如シ、未ダ三年ヲ逾ズ、元ノ如ク貧苦ト成リ、鄆郡五十年ノ夢ニテ、唯迹ニ遺レル者ハ姦邪ノ風俗ノミ、今ニ於テ凡ソ四五十年、動スレバ姦民有テ、近キ中ニ又モ年賦平談ノ令有リト流言シ、人心ヲ惑スユヘ、借財ノ者ドモ不直ノ心ヲ生ジ、銀主モ枕ヲ高クセズ、相共ニ協和ノ風會ヲ視エズ、其中ニハ忠良ノ士モ出デ、舊染汚俗ヲ滌ント思ヘドモ、「大樹將顛、非一縷之所繫、」一二ノ賢才ニテハ届クコトニモアラズ、五六十年前加州ニモ、是ニ類スル新制有リシト聞クニ、今ニ於テ商賈ドモ分散スル事毎年絶エズト聞ク、分散ハ世間ニ狐狸ト名ケテ、竊儉同様ニ唱ヘ、大ニ耻ル事ユヘ、諸國ニ於テ滅多ニナキ者ナリ、若シ是有ル處ハ不信ノ風俗ト知ルベシ、彼地是ヲ慙ザルハ、全ク密制ノ宿弊、已ニ五六十年ヲ歴レドモ、猶未ダ改ラズトミユ、橘憲茶話ニ、德政屢々有ルハ亂根ト記ス、「夫禍亂之源、其由不報恩矣」今此不義信ノ風俗ヲ視レバ、亂根ト云ハ讖言ナリ、例年教令ノ條目ニハ、喧嘩・口論・大酒・博奕ヲナサズ、能ク和熟シテ家業一圖ニ勤メヨト云、故ニ其命令ヲ守リ、家業一遍ニ精昏スル者ハ必富ミ、其教令ニ逆フ者ハ皆貧

シ、然ルニ其賞ベキ良民ヲ潰シ、罰スベキ惰民ヲ悅バシムルハ、民ヲ坎穽ニ陷レ喧嘩ヲ致セ、不信ヲ做セ、恩義ヲ忘レヨト法ヲ出シテハ、遂ニ亂根ト做ルハ必定ナリ、天下羞惡ノ心有ル者、孰カ之ヲ譏ラザランヤ、天下ノ人情金銀ヲ重寶トセザル者一人モナシ、君父ノ爲ニ命ヲ棄ル者ハ稀ナレドモ、金錢ニ蹙ツテ命ヲ捐ル者ハ數ヘ難シ、斯ク一命ニ懸テ慳<sup>チン</sup>ル金錢ヲ、主君ニモ非ズ、親族朋友ニ非ズシテ、何ヲ以テ惠メル理有ランヤ、夫君ノ文字ヲ分レバ、尹ハ正ナリ、口ヲ尹サレバ、一言ニ由テ斯ク一大變トナル、故ニ妄リニ嘔<sup>シニトウ</sup>吸スベカラズ、唐太宗云、「言語者、君子之樞機、談何容易、凡在衆庶、一言不善、則記之成其耻累」ト云、國政ニ與ル者、薄冰ヲ履ガ如ク慎ムベキナリ、是時ノ君固ヨリ闇主ニ有ラズ、然レドモ久シク太平ニテ深殿ニ坐シ、唯官々ノ奏言ニ據リ、躬ヲ吐提ノ勞ナキユヘ、是騷亂嘗テ知ラズ、依然トシテ安泰無爲ト思ヒ玉フハ尤ナリ、制度ノ事ハ朝堂ニ於テ隨分純正トイヘドモ、中途ヨリ上下齟齬スルコト間有リ、薛方山紀述ニ「禹有九目九足」ト云ハ、禹王我同心ノ者ヲ銓<sup>ス</sup>ミ、九州ニ頒チ治ムルユヘ、躬ヲ往テ治ルニ差ハズ、俗ニ云神ハ現次第ニテ、世ニ賢君在シテ下服セズ、譏刺スルコト間有リ、是騷亂固ヨリ君ノ知ル處ニ非ズ、卑臣一人ノ發言ヨリ起テ、遂ニ百歳ノ憂ヲ遺セリ、上ヨリ道ニ背キ、下又道ニ背クハ的然ユヘ、奈何ゾ令ヲ受クベキヤ、風俗益不信ト成ル、斯ル舊染ノ極弊ヲ改替スルハ、如何ナル術ヲ用ユルヤ

答云 韓文公云、「善醫者、不<sub>レ</sub>視<sub>二</sub>人之瘠肥<sub>一</sub>、察<sub>二</sub>其脉之病否<sub>一</sub>而已矣、善計<sub>二</sub>天下<sub>一</sub>者、不<sub>レ</sub>視<sub>二</sub>天下之安

危、察<sub>ニ</sub>紀綱之理亂<sub>一</sub>而已矣、天下者人也、安危者肥瘠也、紀綱者脉也」ト云、肥瘠ハ富饒匱乏ナリ、紀綱ハ信義ナリ、一時ノ富饒ヲ欲シ信義ヲ棄ルハ、野巫醫ノ虛病ニ即功ヲ取ント劇劑ヲ用ルガ如ク、竟ニ死ヲ招クノミ、人皆信義ヲ守レバ、天下ハ千萬載太平ナルコト必定ナリ、今信義ノ紀綱弊レテハ容易ニ速功ハ遂難シ、「善人爲<sub>レ</sub>邦百年、亦可<sub>ニ</sub>以勝<sub>レ</sub>殘去<sub>ニ</sub>殺矣<sub>一</sub>」、倘元ノ風俗ニ復サント欲セバ、忠恕寡欲ノ賢者ニ任ジ、二三十年ヲ經テ必舊染ヲ滌ガン、夫人ハ忠恕ノ心無テハ一日モ下服セズ、「夫子之道忠恕而已矣」聖人ノ道ハ是二字ヲ以テ一貫ス、文字ヲ分レバ、中心ト云私シナキコトナリ、恕ハ心ノ如シト書ク、人モ己ガ心ノ如シ、己ン寒ケレバ人モ寒シ、己レ欲有レバ人モ欲アリ、故ニ己ヲ推テ人ヲ知ルベシ、宋范純嘗曰、「我平生所<sub>レ</sub>學、唯得<sub>ニ</sub>忠恕二字<sub>一</sub>、一生用不<sub>レ</sub>盡、以至<sub>ニ</sub>立朝事<sub>レ</sub>君、接待僚友<sub>一</sub>親睦宗族<sub>一</sub>、未<sub>ニ</sub>嘗須臾離<sub>レ</sub>此、又戒子弟曰、又雖<sub>ニ</sub>至愚<sub>一</sub>、責<sub>レ</sub>人至明、雖有<sub>ニ</sub>聰明<sub>一</sub>、不<sub>レ</sub>恕<sub>レ</sub>己則昏、但常以<sub>ニ</sub>責<sub>レ</sub>人之心<sub>一</sub>責<sub>レ</sub>己、恕<sub>レ</sub>己之心、不<sub>レ</sub>患不<sub>レ</sub>至<sub>ニ</sub>聖賢之地位<sub>一</sub>也、「古之君子國政ニ與レバ如是、今斯ク稀代ノ異制ヲ立ルハ、全ク忠恕ノ二字ヲ思ハズ、下ヲ侮ルヨリ生ズ、若シ君ノ用度乏ク成テ、自己ノ俸祿ヲ剝<sub>レ</sub>ナバ、縱ヒ口ニハ出サズトイヘドモ、其心ニ慊トスルヤ、心ニ間ハ<sub>ニ</sub>何ト答ヘン<sub>一</sub>、或士家ニ數代出入ノ得意店有テ、諸色其家ヨリ買フ、一日僮僕彼隣家ヨリ買ヒ來リシニ、其直少シ賤ケレバ、此後其家ヲ花主トス、小利ニ由テ、舊好ヲ絶ツノ情欲、我身ニ於テハ如是、若シ租稅ニ於テ僅カノ未進トイヘドモ、刻剝猛責シテ一放等マデ代納スルモ、元是上ノ利欲ヨリ生ズ、又任官ノ者其役

給音物ノ多少ニ由テ、其心ニ快否有ルハ一般ノ情ナリ、是ヲ推テ忠恕ノ心有ラバ、庶人ノ財貨廢棄スベキニ非ザレドモ、君祿有テ庶人貨殖ノ艱難ヲ知ラザルハ、全く忠恕ノ二字ヲ失ヘリ、今ノ德政ト云ハ毒政ナリ、抑德政ト云ハ大赦ノコトニテ、又德音トモ名ク、一負者<sup>ツケ</sup>罰<sup>ツケ</sup>之ト云テ、年貢未納拜借等ヲ棄ルコトナリ、是ハ民ノ父母ニテ、毎歲貢ヲ輸シテ養フユヘ、下又窮スル時ハ救恤アルハ當然ノ理ナリ、庶人ノ身ハ我一家ヲ治メ、孥妻ヲ養フ迄ノ職分ニテ、他人ヲ救フハ其人ニ由テ致スコトナリ、上ノ穀祿ハ今年不納トイヘドモ、明年又土中ヨリ生ジ、千百年盡ルコトナシ、庶人ハ資本一度盡レバ再ビ生ゼズ、蓋シ國恩ヲ受ル身ユヘ、若シ國家賈<sup>カ</sup>ニ臨ミ、自ラ蓄積有テ默止スルハ、亦子タルノ道ニ背クユヘ、大因ニ至テ官庫虛ケレバ、其債財取ルベキ物ハ其者ニ取ラセ、其財ヲ官ニ納メサセテ窮民ニ施シ、銀主ニハ其賞有ルコト輒正キ道ニシテ、國家モ騷動セズ、風俗モ弊レズ、窮民モ悅ビ、上戸下戸共ニ信服スベキニ、遠慮勘辨モナク、唯席上ノ一言ニ倣シ、國體ナラザルハ、「失之於毫釐、差以千里」ト云ベシ、唐ノ太宗ハ窮民ノ子ヲ賣ル者ハ、官庫ノ財ヲ問イテ悉ク償ヒ、父母ニ歸シ侍臣ニ向ヒ、「比觀<sup>ヒ</sup>百姓、漸知<sup>ヒ</sup>廉耻、撫<sup>ヒ</sup>之以<sup>ヒ</sup>仁義、示<sup>ヒ</sup>之以<sup>ヒ</sup>威信」ト云、又宋ノ英宗ノ時旱スレバ、溫公上疏シテ富有ノ輩ニ、上ヨリ受判ヲ以テ借財シ、利息ハ上ヨリ出シ、豐熟ノ時ヲ以テ必ズ信ヲ以テシ、誑騙ベカラズト云、溫公ハ實地ヲ踐シ眞君子ト稱ス、又北條泰時モ寛喜元年饑饉ユヘ、借書ヲ調ヘ自ラ判形ヲ加ヘ、富家ノ者ドモニ米穀ヲ借り、百姓ドモニ自約シテ、明年豐熟ナラバ元米ノミ返スベシ、利息

ハ我ヨリ副ルベシト命ジ、明年ニ至テ約束ノ如ク、自利息ヲ償ヒ信義ヲ示ス、故ニ人民共德ニ化シ、天下大ニ治ル、當時天下ヲ御スル尊キ身ヲ以テ、卑キ商賈ニ自印セラルハ、偏ニ萬民救済ノタメ、且ハ躬ラ信義ヲ行ヒ衆ニ示ス所ナリ、隋ノ世ニ李士謙ト云陰德ノ者アリ、穀數千石ヲ貸置シニ、凶年ニ當ツテ借主ヲ悉ク召シ、食ヲ設ケテ目前ニ借券ヲ焚棄ル、明年豐熟スレバ、彼者ドモ舊報ヲ忘レズ、爭ヒ乘テ返セドモ竟ニ受取ラズ、隋朝ハ上闇ク苛政ノ時トイヘドモ、兆民ノ信義、今ノ世ニ併セ考フレバ顔厚忤怩タリ、「六指有ニ八徵、曰、使<sup>レ</sup>之以<sup>レ</sup>財、以觀<sup>ニ</sup>其廉<sup>一</sup>」ト云、古來廉ナル者ニ不信不忠ナル事曾テナシ、神君伊勢ノ御師青木大夫ニ向ヒ、神道ハ如何ト問ヒ玉ヘバ、神道ハ信義ヲ主トスト答ユレバ、御感有テ三千石ヲ賜フ、聖賢ノ君ハ其言ヲ聞テサヘ其賞祿ヲ賜フ、況ヤ身ニ行フ者ニ於テヤ、是故ニ味方ヶ原敗績ノ時、我師ノ士戰死ヲ視テ、馬場美濃守終ニハニ統ヲ遂玉フ事ヲ察ス、今時ノ武士ハ強兵ハ唯練武ニ在リト、專ラ武藝ヲ勵メドモ、小ヲ知テ大ニ昧シ、夫兵ノ本ハ信義ナリ、越王吳フ伐ント兵ヲ練ル事三年、既ニ發セントス、其時范蠡之ヲ留メ、士民未ダ信義ヲ知ラズト、又敦ヘヲ施ス事三年、若シ富國強兵ヲ欲セバ、先士庶人ヲ信義ノ風ニ移スベシ、是國家第一ノ一要務タリ、斯ル不信ノ俗ト成ツテハ、不虞ニ至テ敵ヨリ財ヲ予ヘ、或ハ減租ト云ハ、忽然ト變心セン、故ニ危邦ト云者ナリ、「莫<sup>レ</sup>使<sup>ニ</sup>援懼<sup>一</sup>」ト云事アリ、直置熾欲ノ民情ニ、又モ邪心ヲ介テ、手ヲ添ルユヘ、益々貪猥姦智ヲ生ジ、時ニ偶中ノ倖ニテ徒取ル財ユヘ、俄ニ奢靡ヲ竭シテ數年ヲ逾ズ、始ヨリ倍シテ困窮

ス、江州湖邊ニ捨苗ト云事アリ、旱年ニハ豐熟ヲ得テ、兩年ニハ大凶ヲ得ル、先年三四年旱魃ニテ、不圖豐熟ヲ得テ鄉民大ニ富榮エ、俄ニ衣服器財ヲ買メ、家屋ヲ造リ、寺堂ニ寄進シ、酒食ニ奢リシニ、又凶年ニ逢フコト三四年、鄉民宿習ノ花奢卒ニ改マラズ大ニ窮シ、衣服ハ勿論、身ヲ賣リ丐乞トナツテ出奔スル者甚多ト記錄ニ載タリ、貧ハ自身ノ所爲ユヘ、悉ク富スト云コトハ屈キ難シ、蓋シ之ヲ富サント思ハバ、明政ニシテ賞罰ヲ嚴ニスベシ、賞罰明ナラズ、唯富饒ヲ願フハ、青衛ガ鳥名大海ヲ填メ、愚公ガ王屋ヲ穿ツガ如シ、足利義政代ニ德政ヲ行ヘバ、京師内外乍チ騷亂シ、乞食衢ニ充チ、是ヨリ人心不信ト爲テ、終ニ應仁ノ大亂トナル、義政ハ閭主ユヘ、其臣山名細川ヨリ權ヲ奪ハル、神祖モ義政ハ虛氣者ト宣ヘリ、斯ル閭主ノ法制、奈何ゾ徵トスベキヤ、「天無私照、地無私載、」天ニ代レル人君ユヘ、賢主ノ國ヲ治ルハ、斯ク中風症ノ如ク偏固麻痺セズ、乃チ太陽ノ下土ヲ照臨スルガ如ク、時雨ノ草木ヲ濡スガ如ク、一點ノ私シ無ク、國ニ怨民無ク、五倫ノ道行ハレ、忠孝信義ヲ守リ、士ハ溫良恭儉讓、耕ス者ハ畔ヲ讓リ、市賈ハ懸直セズ、購者ハ直減ラズ、借リタル者ハ時ヲ違ヘズ返シ、老ヲ尊ミ少ヲ愛シ、互ニ途ヲ讓リ、夜ハ戸ヲ鎖サズ、途ニ遺タルヲ拾ハズ、<sup>フシギ</sup>囹圄ニ草ヲ生ズ、是古明王ノ治方ナリ、人情ニ古人ノ差別無レバ、今ニ於テモ隨分成ラザルコトニ非ザレドモ、<sup>ヒトヤ</sup>唯其人無レバナリ、「臣如レ水、君如レ舟、」是故ニ能ク治教ヲ施シ、其君ヲシテ堯舜ノ世ニ遡洄シ、君ノ美號ヲ萬世ニ遺スコト、社稷ノ聖臣ト稱スベシ、說命曰、「昔先正保衡乃曰、<sup>伊予</sup>予弗<sup>レ</sup>克<sup>レ</sup>俾<sup>下</sup>厥后爲<sup>中</sup>堯舜<sup>上</sup>、其心愧

耻」ト云、君ニ事ユル者、深ク是語ヲ考フベシ

○客云、徂徠ノ政談ニ、更始ト云テ借財ヲ廢棄シ、士農ノ二民サヘ盛ナレバ好ト云、然レバ工商ハ國家ニ無<sub>レ</sub>益ノ者カ

答云 先生ハ大都ノ江戸ニ住シ、未ダ諸國ノ風壤ヲ知ズ、實地ヲ踏ズ、紙上ノ理ニ據ルユエ、彼書中ニ頗ル辟說謬誤アリ、其故ハ飛驒ノ匠ガ細工ハ、貫孔<sub>マキアナ</sub>内牝<sub>フクラ</sub>ニ致ユヘ堅固ト記セリ、是事未ダ大駒ノ法ヲ知ズ、内フクラニ鑿ルヲ盜細工ト云テ、姦工ドモ受合物ノ捷細工ニ造ルコトナリ、斯ク相違ノ事間アリ、通考云、「立富家」者、閑ニ本末之塗、通有無之用、故易曰、通其變、使<sub>ニ</sub>人不<sub>レ</sub>倦、故工不<sub>レ</sub>出則費用之、商不<sub>レ</sub>出則寶貨絕、費用之則穀不<sub>レ</sub>殖、寶貨絕則用匱」トミユ、封内皆我子ナリ、若シ利ニ倣テ愛憎有ルトキハ、武田信虎ガ盲人ハ無益ノ者ト悉ク坑ニスルガ如シ、聖賢ノ治國ハ黔首<sub>シヤウ</sub>ニ限ラズ、牛馬ニ至ルマデ其德澤ヲ受ク、水府黃門義公ハ、窮民ノ盲馬ヲ以テ耕スヲ觀玉ヒ、直ニ良馬ニ易テ賜リ、其盲馬ハ終身廐ニ蓄置玉フ、文王靈臺ヲ造ルトキ、枯骨ヲ掘出セシニ、吏人是ヲ奏スレバ、文王更メテ葬ルベシト命ジ玉フ、吏人今ニ於テハ其主ナシト云、文王ノ云ク、天下ヲ有ツ者ハ、天下ノ主ナリ、一國ヲ有ツモノハ一國ノ主ナリ、主ハ我ナリ、何ゾ他ニ主ヲ求ンヤト、吏ニ命ジテ衣棺ヲ以テ厚ク葬リ玉ハリ、聖王ノ民ヲ重ンジ玉フハ、枯骨ニ至ルマデ如是、況ヤ生タル者ヤ、豐臣太閤ハ臣下ノ外ハ我爲ニハナラズト心得テ、民ヲ愛スルコトナク、唯家臣ノミ愛セシニ死後ニ至レバ、天下皆

畔キ滅亡セシハ、全ク天道ニ味キ故ナリ、更始ト云ハ、歴史ニ多クハ見エズ、漢ノ宣帝十三年、（一）與士大夫、勵精更始（二）ト云ハ、舊弊ヲ悉ク更メ始シコトナリ、先生ハ海内第一ノ大都會ニ居リ、素封ノ奢侈ヲ惡ンデ云フ所ナリ、蓋シ一天下ヲ治ルト、一國一部ヲ治ルトハ、廣狹ノ分量ヲ斟酌セザレバ、大綱ヲ以テ小池ニ張ルガ如ク、割雞牛刀ト云者ナリ、譬ヘバ一部ヲ治ルニ、戶數一萬ナレバ、士民千人、僧巫五十人・雜戶五十人・工商千五百人計リ、餘ハ農民七八千人ト立レバ好シトスレドモ、天下ヨリ見ル所ハ、一國ハ工商八千人・農民二千人有テモ、又一邦ニ農民多キユヘ、一般ニ見ルナリ、是ヲ一部ノ例ニ到サント欲スルトモ得ベカラズ、萬事統テ如是、若シ其丁簡無レバ、一國ハ能ク治ムレドモ、其ノ器小量ニシテ、天下ノ宰相ニハ昇リ難シ、大都ノ素封ハ海内ノ侯伯ニ萬贏ヲ貸シ、數百年ノ利息モ收メ、又秩祿モ受ケ、特ニ諸侯ノ借財ハ、國乏シケレバ萬民ノ忠タルユヘ、極窮ノ時ハ公朝ヨリ德政ト云コトモ有ン、皆富人ト思フハ尤ナレドモ、貧者富家ニ預ケ置クコトモアリ、通財ノ好ミニテ無利息ニテカスコトモアリ、相俱ニ迭ニ急難ヲ濟ヒ親睦ス、若シ年貢ニ逼ル時銀主無レバ、數年入牢スルトモ、一錢モ納ラズ、故ニ貸借ノ道絶テハ一日モ治ラズ、然ルニ銀主ハ富家ト視テ一般ニ法ヲ立ルハ所謂臺ヲ視テ馬トスルガ如シ、方孝孺云、（三）己溫思人之寒、己安思人之難（四）トハ、仕官ノ者能ク稽フベシ、天下國家ハ廣大ナル者ユヘ、僅カ四五輩ノ官者廟堂ニ坐シテ、高議有テ一決スルニ、其ノ中ニハ亦微生高己ガ橋下ニ死テ信ト思ヒ、若吾嬖ガ婦ヲ兄ニ讓リテ禮トスルガ如ク、十日ニ併スレバ仁

義ノ道ヲ取違ヘルコトモアリ、莊子、「跖之徒問於跖曰、盜亦有道乎、跖曰、何適而無有道邪、夫妄意室中之藏、聖也、入先勇也、出後義也、知可否知也、分均仁也、五者不備、而能成大盜者、天下未之有也、」是事竊盜ニ於テハ尤ナレドモ、大體盜業ナラズヤ、故ニ裁判ヲ送ルニハ、先ヅ大體ノ是非ヲ考ヘ、此ヲ睭トシテ、枝葉ノ得失ヲ計ルベシ、國ヲ富サント欲セバ、正直ヲ本トスベシ、其ノ正直ノ法ハ日用貸借ニ在リ、庶民ノ身ニ於テハ、彼ハ仁、此ハ義ト知ル者ニ非ズ、唯日夜褒貶スルハ、正直不正直ト云ニノミ、故ニ貸借ニ上コリ色々ノ仕組ヲ付ラルレバ、民心姦ヲ生ジ、却テ不潤ノ本ナリ、唯人情ニ任セテ置キ、斯ル姑息ノ小事ニ日ヲ厭レズ、賞罰ニ日ヲ附クベシ、賞罰正シケレバ、人心自ラ信義ヲ守リ、貸借ハ盡ル様ニ成ルベシ、年賦・年談・疊置ナド、其名ハ異ナレドモ、人心不信ノ風ニハ移リ易キ事ナリ、時ニ不義ノ遺毒子孫ニ及ベリ、牛馬トイヘドモ其牡ニ由テ善惡アリ、他ノ財貨ヲ徒取リ、不潔ノ殺ヲ以テ夫婦ノ身ヲ養ハバ、生ミタル其子何ヲ以テ良子タルベキヤ、其子孫惡行ニシテ、竟ニハ國家ノ害トナルベシ、祖君諸士ニ向ヒ、汝等ハ金ノ生ル木ヲ知ルヤト、金ノ生リタル一樹ヲ拾キ、是木ハ正直ト云木ナリト宣フ、細川三齋又朝興、勸ト云二枝ヲ副ラル、三浦忠右衛門ハ經濟ニ達シ、本田侯政武ニ仕フ、侯播州姫路ニ封セラレシニ、是地古來不信ノ風俗ニテ、一時店物ヲ借テ返サズ、三浦是事ヲ聞及ビ、先ヅ貸借ノ方ヲ嚴ニ致シ、時々教誨シテ信義ノ風俗ニ移シ、是ヨリ段々國產興利ノ技術ヲ爲ス、是ヲ經濟ノ規範トスベシ、貸借ノ方嚴ナルトキハ、人皆恐懼シテ

而且假車馬衣服乎、母曰、吾豈謂爾假車馬衣服乎、女不見乎、今士大夫居家、自車馬衣服、以至凡百器用、或令工人作之、或取諸商賈、未還其直、而先服用之、是其所服用、非其家財、乃商賈工人之財也、夫非其家財、而服用之、非假而何、王孫賈曰、敬聞命矣、敢不奉教、自是厥後、每置車馬衣服、未還其直、弗敢即乘服也

楚囊瓦爲令尹、奢侈、諸大夫効之、競儼其服、飾與馬、盛驕從、伍奢使於齊、而歸見囊瓦、瓦問曰、齊大夫之富、孰與楚大夫、伍奢對曰、楚大夫特行路之富耳、曷若齊大夫之富、瓦曰、何謂也、奢曰、楚大夫競儼其服、飾與馬、盛驕從、是以行路之間、觀者爲之雷連莫不歎美其富貴、然奢嘗竊觀其在冢也、倉廩無來歲之儲、府庫無重器之藏、舊債未償、而新債日加、且暮所需、水火之外無非假諸人、歲時責者盈門、於是乎、諸尹縣公之貴、而謂屈商賈、歛襟謝不償之罪焉、是患在其爲富貴也、齊大夫則不然、夫齊在晏平仲、其處己也恭、其治家也儉、衣敝衣、乘樸車、以朝、然齊貧士待晏子、而舉火者百有餘家、國人以爲儼譚、諸大夫効之、舉崇儉德、與馬不飾、馭從不盛、是以齊大夫、人見諸道路、則或嗤其儉素、然問其居家也、則倉有餘粟、府有餘財、費用無匱、內外飽德、此所謂大夫在冢之富也、由之觀之、楚大夫殆乎不若、瓦撫然有愧色

### 蠲貸

漢文帝二年、民貸種食、未入未備者救之

十二年、賜天下民田租之半

十三年、除民之田租

武帝元朔元年、諸逋貸、在孝景後三年以前、皆勿收連前下  
也

昭帝始元年詔、所賑貸種食、勿收責

宣帝元康元年詔、所賑貸、勿收

神爵元年詔、所賑貸物勿收

元帝永光四年詔、所貸貧民、勿收責

四年、逋貸勿收

成帝河平四年詔、諸逋租賦、所賑貸、勿收

後漢章帝元年詔、以大旱、勿收、兗豫徐州田租

和帝永元四年、詔郡國、秋稼爲旱蝗所傷者、什四以上、勿收田租

順帝永建元年詔、以疫癘水旱、令入半輸今年田租、其傷害什四以上、勿收責、不滿者、以實除之

靈帝熹平元年、皆有是詔

魏陳留王景元四年取蜀、赦益州士民、復除租稅之半、自曹操八  
世曰元帝

吳大帝嘉禾三年、寬問民逋賦、勿復督課

晉武帝泰始元年受禪、復天下租賦、及關市稅、一年逋債宿負皆勿收

太康元年、吳將更渡江、復十年、百姓及百工復二十年

二年詔、四方水旱甚者、無出田租

五年、減天下戶課三分之二

六年、以歲不登、免租貸宿負

惠帝永平元年、除天下戶調絹綿

成帝咸和四年詔、遭賊州縣、復租稅三年

孝武太元四年、郡縣遭水旱者、減租稅

五年、以比歲荒歉、大赦、自太元三年以前逋租宿債、皆蠲之

十七年、大赦、除逋租宿債

宋武帝卽位、大赦、除逋租宿債、勿收自是至隋稱三六朝

齊高帝卽位、大赦、除逋租宿債、梁陳受禪皆然

魏道武帝大興元年詔、大軍所經州郡、皆復費租一年

二年、又除州郡租賦之半

太武帝延和三年詔、以地顯年征伐有事西北、運輸之役、百姓勤勞、天令郡縣、括貧富以爲級、富

者租賦如常、中富者復二年、下窮者復三年。

孝文帝天和六年、分遣大使、巡行州縣、遭水之處、免其租賦。

隋文帝開皇九年、以江表初平、給復十年、自餘諸州、並免當年租賦。

十二年詔、北河東今年田租、三分減一、兵減半、功調全免。

唐高祖武德元年、卽位、詔義師過給復三年、其餘給復二年。

四年平王世充、竇建德、大赦、百姓給復一年、陝·鼎·幽·虢·虞·芮·七州轉輸勞費、幽州管內久隔寇

戎、並給復二年。

太宗卽位、免民逋租宿負、又免關內、反蒲·芮·虞·秦·防·鼎六州二歲租、給復天下一年。

貞觀元年、以山東旱、免今年租。

中宗卽位、免民一年租賦。

睿宗卽位、免天下歲租之半。

玄宗開元五年、免河南北蝗水州今歲租。

八年、免水旱州逋負。

十七年、免今歲租之半。

二十七年、免今年租庸半。

天寶十四年、免今年租庸半

肅宗乾元二年、免天下租庸、來歲三之一、踏賊州、免三歲租

代宗卽位、免民逋負租宿負、次年又免之

憲宗元和四年、免山南・東道・淮南・江西・浙東・湖南・荆南今歲稅

十四年、大赦、免元和二年以前逋負

武宗會昌六年、以旱免今年夏稅

宣宗大中四年、蠲度支鹽鐵戶部逋負

九年、以旱遣使、巡撫淮南、減土供饋運、蠲逋租、又罷淮南宣歙浙西冬至元日常貢、以代下戶租

稅

懿宗咸通七年、大赦、免咸通三年以前逋負

後唐莊宗天成二年詔、免三司逋負、近二百萬

潞王卽位、以劉胸判三司、鈞考舊逋、必無可償者、請蠲之、詔、長興以前戶部、及諸道逋租三

百三十三萬石咸免之、貧民大悅、三司吏怨之

宋太宗至道二年、秘書丞高紳上言、受詔詣江南諸州、首至宣州、檢責部內逋官物千二百四十八萬、卽

日詔大常丞黃夢錫、乘傳案其事、李煌曰、吏掌郵驛鹽鐵酒榷供軍臺榷等、以鐵錢計其數、逮四十

年、州郡不爲創去其籍、夢錫檢勘合理者、纔三四萬、民貧无以償、乃詔悉除逋籍、

虞宗咸平元年、判三司催欠司王欽若上言、諸路所督連負、并十保人償納未盡者、又今川岸逋欠官物不得估、其家奴婢以償、自是有大赦、必令臺省官與三司同詳定逋負、引對蠲放、天書降放五百八十萬、東封放五百四十九萬、洽陰放五百九十四萬、其後所放、大約準此

選嚴李氏送湯司農歸朝序曰、側聞、眞宗初卽位、王文穆公與母賓古、同佐三司、賓古詔、天下宿逋、自五代訖咸平、理督未已、民病不能勝、將啓蠲、文穆得賓古言、卽夕俾吏治其數、翌日具奏、眞宗愕曰、先帝曷不知此、文穆曰、先帝固知之、特留遣陛下、收天下心耳、眞宗感悟、因遣使四出蠲宿逋凡一千餘萬、釋係囚三千餘人、由是遇文穆甚異、卒用爲相、行宗繼立、推廣先志、亟改追欠司曰蠲納司、施命近臣、詳定應在名物、下諸路轉運使、期以三年悉蠲之、每三年復一次、凡宿逋之總於蠲納司者、苟非侵盜、皆得除洗、列聖相授、率由舊章、所蠲當以數百萬計、究其本原事迹、實自文穆發之、文穆晚繆所爲、要不合古、而眞宗獨加寵待、亦惟文穆早有恤民之言、宜宰相故爾

仁宗大聖六年詔、天下應在物轉運司選所部官期、三年內悉除之、百百以上歲中除十之八者陞陟不及百萬、而歲中悉除者錄其勞、過期者劾其罪、是歲有司言、所蠲二百三十六萬嘉祐四年、蠲三千二百一十六萬、其餘或千萬、或數百萬、推是以知四十餘年之間、以恩釋者多矣

然有司或務聚斂、有嘗以恩除、而追督不捨者、朝廷知其弊、下詔戒飾

英宗治平三年詔、逋負非侵盜、皆除之

神宗熙寧元年、釋逋負貸粮一百六十二萬八千五百石。錢十一萬七千四百緡

元豐五年詔、內外市易務在京、酒戶罰息錢並除之

哲宗元祐五年、人戶積年負欠、以十分爲率、每年隨夏秋料、各滯納一分

徽宗元符三年詔、兩浙轉運司、應舊欠朝廷及他司錢物斛斗總計六百五十餘萬、分作十五年撥還、仍

自建中靖國元年爲始

高宗建炎二年詔、元年夏秋稅租、及應欠負官物並除放

紹興二年建盜范汝爲平、蜀本州路上四州、今年夏秋稅、及夏料役錢下四州

三年除夏秋二稅

二十九年詔、紹興二十七年、前積欠官錢三百九十七萬餘緡、及四等以下、戶係官所欠、皆除之

乾道二年詔、饒州歲進一千兩、特減七百兩、六年戶部侍郎王佐等言、軍興以後、行在省倉諸路、總所

借兌過錢一百九十六萬餘緡。銀三十八萬五千餘兩。度牒五千。道殿步馬軍司過酒本錢二十二萬五千餘

緡、並蠲

七年、池州言、檢放旱苗米四萬五千餘石、共輕總制錢二萬六千餘貫係於苗、上收趙無所從出、詔蠲

之

十年、先是戶部尙書魯懷申請、妄訴災傷、僥倖減免稅租、訴人告依條斷罪、仍沒其田一半充賞、至是江東運副蘓誇奏、昨稱災傷止是規免本年一料稅租、斷罪給賞已是適中、難以拘沒其田、從之

朱子封事、臣伏見祖宗舊法、凡州縣催理官物、已及九分以上、謂之破分、諸司即行住催、版曹亦置不問、由是州縣得其贏餘、以相補助、貧民些小捨欠、亦得遷延以待、蠲放恩自朝廷惠及閭里、君民兩足、公私兩便、此誠不利之令典也、昨自曾懷名人用事、始除此法、盡刷州縣舊欠、以爲隱漏、悉行懷催、於是民間稅物、豪分銖兩、盡要登足、懷以此進取宰相、而生靈受害、冤病日深、得財失民、猶遂身爲不可、況今政煩賦重、民卒流亡、所謂財者、又無可得之理、若不早救、必爲深害

淳熙十六年、光宗受禪即位、蠲救條盡

紹熙五年、寧宗即位、蠲放如淳熙十六故事

慶元五年、又如斯

嘉泰四年、除貧民下戶每歲二稅

明洪武元年、令水旱去所不拘時限、從實踏勘實災、稅糧即與蠲免

成化十九年、被災稅田糧、以十分爲率減、減三分其餘七分  
萬曆十二年議准以後地方災傷撫按從實勘奏、不論有田無田之民通行蠲恤、如有田者免其稅糧、  
無糧免者免其丁口監鈔、務使貧富一體並蠲恤。

# 經濟問答秘錄卷十下

## 國用考

○客云、兵・饑・疫ノ三譴ハ、國禍ト云テ君子モ免レズト云ハ實ナリヤ

答云 尙君子ノ人國家ヲ治ル時ハ、右三難ハ興ルマジ、夫勝敗在朝廷ト云、尙書ニ、「蠻夷猾夏、寇賊姦宄」ト記セバ、大聖舜ノ時モ外夷寇スル事有レドモ、朝廷ノ政正キユヘ何事カ有ランヤ、故ニ「至誠感神、矧茲有苗」ト云、人ノ身體ニ於ル五臟調和シレバ、疥癬ハ恐ルニ足ラズ、古ヨリ和漢ノ亂根、統テ蕭牆ノ中コリ生ズ、弘安四年、元張良弼、兵士十萬ヲ師キ我邦ニ寇ス、一夜暴風ノ爲ニ覆没シ、歸ル者僅ニ三人ト、彼邦ノ歴史ニ記ス、時人之ヲ神風ト稱ス、是時代ハ北條家執權シテ、秦時ヨリ、時賴迄、溫良恭儉ヲ以テ仁德ヲ布施スユヘ、諸侯ハ勿論四海皆歸服シ、安寧ニテ神慮ニ協ユヘ、神風ト云モ亦宜ナル哉、至誠感神トハ是事ナリ、王朝武家ト爲ル、其權輿ヲ稽ルニ、始メ天下昇平ナリシニ、鳥羽院七十代天下ヲ治ル、聖學ヲ好マズ、佛道ニ倣シ、僧ト爲テ袈裟ヲ服シ、釋信西法師ヲ大理トシテ、天下ノ裁判ヲ斷メサセ、淫欲ニ溺レテ長舌ヲ信ジ、皇子崇徳帝ヲ廢シテ庶子ヲ立玉フ、其ノ本亂レテ末治ラズ、果シテ大亂興リ、始メ武將ト稱スル義朝ヲシテ其父ヲ殺サセ、其子ヲ殺サセ、禽獸

ノ名ヲ與ヘ玉フハ、元來其罪ハ朝廷ニ在リ、是皆自ラ戰ヲ樂ムト云者ナリ、後白河院受禪シ、是君モ佛法ヲ信ジ、剃髮シテ僧ト爲リ、殺生戒ヲ守ルト、魚獵ヲ禁ジテ、天下ニ網ヲ廢シム、然シテ叡慮反覆波瀾ノ如ク、堯ニ源平ノ大亂ヲ興シ玉フ、人民死亡幾許ゾヤ、魚虫ヲ殺スヲ禁ジ、萬物ノ靈タル人ヲ殺スヲ催スハ、佛道殺生戒ニ無キ事ナリ、斯ク不徳ユヘ、王室終ニ衰ヘ武家ニ陷ル、后克艱<sub>ニ</sub>厩臣<sub>一</sub>、臣克艱<sub>ニ</sub>厩臣<sub>一</sub>、政乃父、黎民敏<sub>レ</sub>徳、是聖經ヲ監ミ、異端ヲ信ズル叡慮ヲ以テ、堯舜ノ道ヲ信ジ玉ハバ、清盛モ亦臣克艱<sub>ニ</sub>厩臣<sub>一</sub>トスベシ、我邦古今ノ合戰ヲ稽ルニ、保元平治ノ爭鬪ヨリ懸ベキハナシ、九族既睦平<sub>ニ</sub>章百姓<sub>一</sub>ト視ユルニ、父子兄弟互ニ殺戮スルハ、宛カモ禽戰ニ髣髴タリ、待賢門ノ接戰ニ至テハ、義朝義平父子、武勇トイヘドモ、其自旋ヲ執ル、信賴、公卿ニテ曾テ武略ヲ知ラズ、怯弱ユヘ、彼ガ爲ニ敗潰ス、今昇平久キモ、天下封建ト爲テ、武威儼然タルユヘ、下肯テ冒ス事能ハズ、又饑饉モ明君上ニ在セバ、道德天地ニ感應シ、氣候モ違<sub>ス</sub>ハズ、百姓德澤ニ浴シ、昏作シテ五穀豐登シ、儉約シテ食ヲ飢シ、凶歉ニハ、上ニ蓄積有テ救恤有ルユヘ、飢民ト云者無シ、古ヨリ兵ノ起リハ、皆饑饉ヨリ生ズレドモ、是ハ一朝一夕ノ事ニ非ズ、上闇クシテ政道紊レ、蓄積無クシテ賑恤ナラザル故ナリ、明朝ノ喪ルモ飢饉ニ在リ、我邦元弘及應仁ノ大亂モ飢饉ニ在リ、今世ハ糧倉委積ニ心ヲ掛ケズ、武備ノ爲ト士民銘々唯武藝々々ト思ヘルハ、其本ヲ忘レテ末ニ走ル者ナリ、故ニ亂根ヲ鎮ル用意ヲ專一トスベシ、疫症モ政事正シケレバ、天道順正ニシテ妄ニ行レズ、古高陽氏ノ天下ニ玉タル五百八十年、大風・洪

水・旱魃、及兵・飢・疫ノ三難嘗テ無シ、我邦モ神武帝ヨリ景行帝マデ三難無シ、崇神帝ノ世ニ初テ疫疾行ハル、近年、河越世叔ガ著ス永證式ヲ見ルニ、「四時氣候之於レ人也、以レ常論レ之、則必畢ニ於生育之一道ニ耳、豈敢爲ニ戕焉傷焉乎哉、雖然人苟失ニ其其常之調度、則四時之氣、直透ニ徹于軀内、而使ニ血液心氣、紊亂其政令、於是乎、病脈證出焉、故病與ニ不病、我自取焉」、又明吳又何ガ溫疫論ニ、「夫寒熱溫涼、乃四時之常、因ニ風雨陰晴、稍爲ニ損益、假令秋熱必多、晴、春寒因ニ多雨、較レ之又天地之常事、未ニ必多、疫也、傷寒與ニ中暑、感ニ天地之常氣、疫者感ニ天地之厲氣、在ニ歲運有ニ多寡、在ニ方隅有ニ厚薄、在ニ四時有ニ盛衰、此氣之來、無レ論ニ老少強弱、觸レ之者卽病」ト云、溫疫ノ論古來區ナレドモ、天地間無レ邪、自ラ常ヲ失フユヘ邪ヲ受クト云ハ、寔ニ人ヲ誡ム確言タリ、世ノ人天行病ト名ケテ、罪ヲ天ニ歸スレドモ、不時候ハ天ノ常ナリ、山野ニ住ム獸類モ、皆四支九竅備ツテ、人ト體臟ヲ同スル、天地ノ生物トイヘドモ、未ダ天行病ヲ受テ死スルヲ視ズ、又一家五人ノ中三人ハ病ミ、二人ハ病マズ、是等ハ内ニ精神強ク、常ヲ失ハザル者ナリ、病根ハ東洞ガ萬病一毒、南涯ガ氣血水皆尤ナレドモ、周南ガ腎・脾・心三臟ヨリ生ズト云ハ證トスベシ、又萬病自レ氣生ズト云ハ實言ナリ、禽獸ハ第一毎日唯食ヲ求ルノミニテ、外慕ノ心無ク、夜ニ寢ネ夙ニ興ル事分毫モ差ハズ、衣服器財厦屋ノ望ミモ無ク、少シモ心氣ヲ勞セズ、姪事モ春陽ヲ迎ヘテ一遍、敢テ妄リニ交接セズ、又食モ易ヘズ、酒モ吞ズ、何ヲ以テ三臟ヲ傷損センヤ、故ニ時候ニ感ゼズ、人モ上代穴居ノ時ハ如是、故ニ無病ニシテ百歳ノ壽ヲ得タリ、

後世ニ及デ衣食器用ニ花奢ヲ嗜ミテ、益々心氣ヲ勞シ、酒食房事ヲ節ニセザルユヘ、氣血俱ニ虛シ、少シ不時候ニ遇ヘバ、乍チ疾ヲ受クルハ天行病ニ非ズ、躬ヲ招ク所ナリ、精神内ニ守フバ、疾何レノ所ヨリ來ラント素問ニ明ナリ、人事順ナルトキハ、天事モ順ナリ、國政正シカラザルトキハ、必ズ流行病盛シナリ、顏淵云、帝舜巧ニ於使<sub>マ</sub>民、造父巧ニ於使<sub>マ</sub>馬、舜不<sub>レ</sub>窮<sub>二</sub>其民力<sub>一</sub>、造父不<sub>レ</sub>窮<sub>二</sub>其馬力<sub>一</sub>、是以舜無<sub>二</sub>佚民<sub>一</sub>、造父無<sub>二</sub>佚馬<sub>一</sub>、堯舜ノ民ハ壽ト云フハ、下聖德ニ化シテ飲食ヲ節ニシ、役ニ勞セズ、無爲ニ樂ム故ナリ、今ニ於テモ賢聖上ニ在<sub>イ</sub>シテ、其政教ニ化スレバ、人皆流行病ヲ受ケズ、國政亂レルトキハ國人自放ニテ、必ズ流行病熾シナリ、近年或領主、游樂放逸ヲ事トシ、租役ヲ厚クシテ民羸レルユヘ、毎年疫症絶エザルハ、全ク菜色ニ由ル所ナリ、後漢ノ末桓・靈ノ二帝、不君ニテ黃巾ノ賊起リ、王室已ニ傾ク、是時疫癘大ニ流行シ、死スル者天下三分二ニ及ブ、時ニ南陽ノ張仲景長沙ノ大守タリ、醫術ニ達シ、宗族二百餘人ヲ救ヒ、著<sub>ニ</sub>論二十二篇<sub>一</sub>、證外合テ三百九十七、法一百十二方、後世ノ醫者此ヲ規鑑トス、出<sub>ニ</sub>隋經<sub>一</sub> 篇考<sub>一</sub>世ノ醫家仲景ガ傳、後漢書・三國志等ニ見エザルユヘ、疑フハ尤ナレドモ、唯醫術ニ達スル迄ニテ、左マデ拔群ノ人ニ非ザルユヘ、范華・陳壽モ記セズトミユ、是時ノ疫モ兵亂ニ至テ菜食スル故ナリ、又凶年ニ至テ其時ハ死ヲ免ル、トモ、翌年多クハ脹腫ノ病ニテ死スル事アリ、痢疾モ元傷食ヨリ起ルトミユ、高坂彈正ガ甲越合戰ノ迹ハ、痢病流行スルト民語アリト云ハルレドモ、甲越ニ限ラズ、戰場ハ土人皆山林ニ適レ、雨露ニ洒サレ菜食ニ由ル所ナリ、霍亂モ其即時ノ變ニ非ズ、前

日ヨリ食儻有レドモ、世俗保養ニ朦キユヘト曾テ知ラズ、先人霍亂ヲ、古霍國ノ亂ニ流行セシユヘ、假名ト云ハ謬ナリ、是時代ハ霍國ニ限ラズ、諸國皆爭亂ナリ、余按ズルニ、膈亂ナリ、膈トハ胸膈心脾之間ヲ云、釋名云ニ膈塞也、管ニ上下、使<sup>テ</sup>氣與穀不<sup>レ</sup>相亂也、穀氣亂ルトキハ疾ヲ生ズ、故ニ膈亂ト云、聖賢ノ人ニ於テハ、常ニ身ヲ愛スルユヘ、流行病ト云ハ無キ事ナリ、故ニ身ヲ慎ミテ行狀ヲ正フシ、天行病ト必ズ天ヲ怨ル事勿レ、又富貴ノ人ニ間症ト云事アリ、貧民ニハ虺蟲肝症ハ稀ニシテ、日上ノ人ニ向テ肝積ハ起ラズ、元來上臈ニシテ深宮ニ居リ、綖羅ヲ纏ヒ美饌ヲ食シ、寵愛過テ畏ル人無キユヘ、肆縱ヨリ竟ニ肝積<sup>ア</sup>瘕氣生ズルナリ、倍消癰ノ法多ク有レドモ、是證ハ自身ノ心持ニテ愈ザレバ、藥効立チ難キ者ナリ、唯閑行踉蹌徘徊スルヲ療治ノ第一トス、人主ノ身ニハ、阿媚ノ僚<sup>トモガキ</sup>飲酒姪聲等ヲ勸メテ、行狀惡ク成テ、遂ニ闇主ト爲ス事世ニ寡ラズ、人主ノ身ハ下萬民ニ係<sup>カ</sup>ル事ユヘ、食ヲ去テモ禮ヲ守ルニ如ズ、豐臣秀頼卿ハ始メハ幼敏ナリシニ、淀臺寵愛過ギ、侍臣皆阿諂シテ、懽散ノ爲ト種々酒色遊樂ヲ奏メ、放縱ニ生長シ、竟ニ天下ヲ喪セリ、瓦石ト爲ランヨリ、玉ト爲テ碎ルハ、武士ノ本意トスル所ナリ、故ニ君ノ侍傳タル者、龜玉橫中ノ語ヲ念ヒ、社稷ノ臣タル事ヲ願フベシ、孔子曰、「人有<sup>ニ</sup>三死、而非<sup>ニ</sup>其命也、己自取也、夫寢處不<sup>レ</sup>時、飲食不<sup>レ</sup>節、逸勞過度者、疾共殺<sup>レ</sup>之」流行病ニ、貧窮ノ者ドモ服藥屈カズ、死ニ及ブ者多シ、故ニ郡奉行早ク醫ニ命ジテ、毎日怠ラズ診脉シ、死生ニ拘ラズ貼數ヲ上ゲ、一貼四十文宛ニ究メテ渡スベシ、人參・附子・肉豆蔻等ノ唐品ハ別ニ估

ヲ告ルベシ、痼病ノ如キハ各別ニ高估ノ品アリ、極貧ヲ除イテ年賦ニシテモヨシ、諸國大抵施藥院ヲ立ルハ大仁政ナレドモ、斯ル時ハ尙改メテ令ヲ下スベシ、唐津水野侯先代ノ院ニ、家臣ノ徒服藥ハ統テ上ヨリ賜レリ、惜カ封内ト有ラバ、尙モ善ノ善ナルベシ

○客云、近年穀直、騰湧シテ、不耕ノ者大ニ困窮シ、人氣不信ノ風ニ移ル、由レ是凶年ノ爲ニ義倉ヲ建テ、租税ノ高一石ニ粟<sup>モミ</sup>四合ヅ、上下ヨリ出合セ此ヲ蓄ヘ置トキハ、饑饉ノ患無ラン、然レドモ今諸國會テ設ケズ、西國僅三四ヶ處モ有ル事カ、由<sup>レ</sup>之考レレバ、定テ好歹<sup>ヨシナシ</sup>ト云ベキヤ、我未ダ決セズ

答云 古ノ義倉ハ今ノ義倉ニ異ナリ、宋ノ太祖乾德年中、初テ義倉ヲ置ケドモ、久シカラズ罷ム、是事最モ良制トイヘドモ、又下ニ出サスルハ、速ヲ欲テ下情ニ疏シ、上ノミ出シテ蓄ヘ置キ、一年二年ヲ過セバ、其石數易ル事ナシ、下ニ掛レバ不好ノ事色々アリ、凶歉ニ至テ耕ス者ハ飢ズトイヘドモ、工商日傭等不耕ノ者ハ一番ニ飢ユ、然ルニ農民ノミ輸<sup>チサ</sup>メ置キシニ、此ヲ以テ餘人ヲ救フ時ハ、農民ヲシテ我工商ノ徒ヲ濟ハシムルト云者ナリ、農民モ十二七八人ハ貧窮ニシテ、未ダ人ヲ救フカニハ至ラズ、又租バ高ニ掛ルトキハ、僅一段ヲ耕ス貧農モ輸ム、平生人ヨリ救ハル、者ニシテ、後年救濟ノ爲ナリト、一升トイヘドモ永ク公廩ニ預ケ置ク事、更ニ慊トセズ、又始メハ富家ニテ數町ヲ耕シ、若干輸<sup>チサ</sup>メ置シニ、其子ニ至リ零落シテ、已ニ家宅モ賣斥スルモアリ、我飢テ人ヲ救フ理無キユヘ、義倉ニ預ケ置シ米穀ヲ早ク返スベキハ當然ナレドモ、庄屋名主等ハ凶歉ノ用ト心得テ曾テ願向モセズ、又農民ドモ

凶年ノ救饑ハ、兼テ義倉ニ預ケ置シト氣ヲ弛メ、上ノ庇廕ヲ瞞テトシ、平生私ニ蓄ヘント思フ事更ニ無シ、是意ヲ考ヘ、下ニ掛ズ上ノミ出来シテ、五年ヲ十年ト思ヒ切ラバ、石數ハ同フシテ民モ怨ミズ、仁政ト云ベシ、又粟藏ヲ立ルニハ、郡奉行其他ノ官局ニ建テ、出入ノ時ハ庄屋ヲ召シ、借ル者ハ無賃、借ラザル者ハ賃ヲ渡スベシ、粟ヲ納ルニハ無毛ヲ能ク干置ケバ、脫粟六合ニモ成ルベキニ、人氣惡ク倉卒ナレバ、五合ト成ルナリ、偕三年五年入易ヘニ、有司都府ヨリ來ツテ滯宿シ、酒食ノ冗費、或ハ出入ノ欠米、銀納ノ損失、或ハ出納日儲ノ暇隙、倉廩修理ノ雜用等、農民ヨリ出セル事アリ、保養ノ爲ニ灸スル事ハ、今日前熱ヲ嫌フハ俗情ニテ、後年身ノ爲トナル、救急ハ稽ヘズ、親煩雜ナルヲ悅服セザル故カ、諸國會テ設ケズ、若シ造立セント欲セバ、右ノ下情ヲ推量シ、明朝ノ預備倉ノ法ニ原キテ計ルベシ、庖人ハ上手トイヘドモ、煮立ル下膳夫下手ナレバ鶴・鯛ニテモ其味甚ダ惡シ、國家ノ事ハ唯閑靜無爲ヲ善トス、一事加レバ煩ク成リ、下ニ至テハ、事ハ百事ニ係リ、本政ノ障リト爲ル者ユヘ、能ク下情ヲ察シ煩雜ナキ様ニスベシ、是ニ引替ヘ、右ニ五升三升ト收斂增租スル有レドモ、却テ益々匱乏ニ及ブ事アリ、是等ハ全ク其本ヲ治メザル故ナリ、後漢桓帝延熹八年、初令ニ郡國、有田者畝稅斂錢、名ニ之修官錢、久シカラズシテ天下亡ビタリ、粟倉ハ六尺四方ニ三十石ヲ入ル、是ヲ定規トシテ造ルベシ、凡千人一年ノ食糧ハ米五千苞ナリ、粟ニテ一萬苞トナル、早稻中田無毛ヲ撰ミ、能ク干シタル粟ハ、一萬苞ハ米六千苞トモ成ル、大凶年モ三年ト續ク者ニ非ザルユヘ、其冬ヨリ翌秋迄、

凡十二三月ノ用法ニテヨシ、一郷ノ中宿驛ヲ加ヘテ、一萬ノ民數ナラバ、七八千人ニ充テヨシ、大抵右ニ準ジ、領内ニ併セ蓄フベシ、先年薩州高輪邸ヤシキニ造立ノ時、其作法審ナラザルユヘ、棟梁ヲ米澤邸ニ遣ハシ繪圖ヲ徴シ事アリ、余其圖ヲ觀ルニ、柱五寸角・板五寸四分、五間・四間、本家ハ四間ニ三間ナリ、何ノ邦ニモ大畧ハ大抵知ル事ユヘ茲ニ其圖ヲ出サズ、鼠ハ粟ヲ好ム者ユヘ、鼠害無キヲ第一トス、粟ハ蚌生ゼズト唱フレドモ、干目足ラザレバ必ズ生ズルナリ

古昔ニ、惠民ノ法ハ常平倉ヨリ善ハナシ、司馬溫公云、此ハ古三代夏殷聖王ノ法ニシテ、李愷・耿壽

昌ガ始テ作ルニ非ズ、陳止齋云、周禮二年ノ上下ヲ以テ出斂ノ法アリ、年凶ナル時ハ爲サズ、穀高クシテ民ヲ傷フ故ナリ、年豐ナル時ハ斂ム、穀賤クシテ農ヲ傷フ故ナリ、是ヲ常平倉ノ法トス、孟子ニ

「狗彘食人肉、而不知<sub>レ</sub>檢<sub>レ</sub>」是檢ノ字ハ原斂ニ作ル、然レバ三代ノ時ハ、常平ノ名ハ無レドモ常平倉アリ、魏ノ文侯ノ時、李悝云「糧甚貴傷<sub>レ</sub>人、甚賤傷<sub>レ</sub>農」ト云、傷<sub>レ</sub>人トハ工商ヲ云、因テ平糧ノ法ヲ始

メテ立テ、豐凶ヲ三段ニシテ、大熟ノ時ハ三分ヲ買テ一分ヲ免ジ、中熟ニハ二分ヲ買ヒ、下熟ニハ一

分ヲ買ヒ、米價平ナル時ハ止ム、凶年ニ及ンデ、小飢ニハ小熟ノ斂ヲ發シ、中飢ニハ中熟ヲ發シ、大

飢ニハ大熟ヲ發ス、是法行レバ國大ニ富強ナリ、漢ノ宣帝ノ時、豐年續イテ穀價賤ク、農民利少シ、

由<sub>レ</sub>是耿壽昌常平倉ヲ始ム、是法ハ穀賤キトキ貴ク買テ、貴キトキ賤ク賣リ、貧民ヲ救ヘリ、最仁政ナ

リ、其後公廩田ノ法アリ、是ハ未進ノ時價フベキヲ、國司欠負アル者はヲ私ノ物トスルユヘ、唐宋時

代ニ勅シテ官物トス、日本モ中葉以來公廩田アリ、常平倉ハ漢ノ宣帝ニ擬リテヨリ、後漢ノ明帝ノ時又造ル、北齊ノ時、此ヲ富人庫ト名ク、隋ノ文帝ノ時常平監ヲ置キ、又長孫平ガ奏ニ由テ諸州ニ義倉ヲ立テ、凶年ノ時賑恤ス、又民戸ヲ三等ニ分チ、上戸ハ一石・中戸ハ七斗・下戸ハ四斗ト定ム、又社倉ト名ク、唐ノ武德年中、諸州ニ義倉ヲ立テ、凶年ニハ之ヲ賑ハス、高宗ノ時常平倉ヲ建ツ、中宗ノ世ニ義倉盡キ、重テ義倉常平倉共ニ建ツ、宋ノ太祖迄、久ク義倉廢セシヲ再興シ、穀一石毎ニ二斗ヲ稅シテ凶年ノ備トス、其後太宗ノ時、折中倉・惠民倉ヲ立ツ、其後青苗ノ法起テ、常平倉ノ備盡タリ、青苗ノ法ハ、宋ノ神宗ノ時王安石貪婪姦惡ノ者ニテ、色々ノ仕組ヲ立ツ、以前モ其名ハ有レドモ行ハレズ、是法ハ青田アサギノ時分農民ノ願フ者ニ貸シ、返納ハ夏秋二度割ニシテ、半バ二度ノ利息鑊ヲ加ヘテ返シ、或ハ本色ヲ納ル事ヲ願ヘバ免ス、本色トハ元米ノ事ナリ、若シ凶年ナレバ、期月ヲ延テ、利息三分ヲ加ヘ豐年ノ時納ム、此ヲ青苗ノ法ト名ク、翰林學士范鎮ト歐陽永叔ガ奏ニ、三分ノ利ヲ加フ、王安石始メ是法ヲ行ハント蘇轍等ニ示ス、蘇轍云、錢民戸ニ入レバ、良法トイヘドモ妄用ヲ免レズ、其納ルニ及ンデハ、富民モ踰限ヲ免レズ、然レバ後々ハ刑罰多ク、州縣ノ事煩シカラント云、其外富弼・司馬溫公・程明道・歐陽永叔・韓琦・范鎮等或ハ上書シ、或ハ贈書シテ害有ル事ヲ述レドモ、王安石用ヒズ、天下之ニ困ム、通考ニ是ヲ論ジテ、「青苗錢所ニ以爲人害者三、曰徵錢也、取息也、抑配也、」抑配トハ無理ニ割付テ貸事ナリ、始メハ願フ者バカリナレドモ、後々ハ利息ヲ取ラント、一同ニ割附ルユ

へ害アリ、其後司馬光宰相ト爲ツテ之ヲ罷ラル、南宋ノ孝宗淳熙八年、朱文公上書シテ、社倉ヲ立ント請フ、是ハ建州大饑ノ時、文公是地ニ常平倉米六百石ヲ、劉如愚ニ任セテ賑貸セシム、其法ハ夏ノ時分粟ヲ倉ヨリ受取り、冬ニ至テ二分ノ利息ヲ添テ償ヒ、是ヨリ後毎年貸附ケ又返納シテ、已ニ十四年ヲ歷テ、利米多ク積レリ、是内ニテ元米六百石ヲ府ニ返ヘシ、殘米三千アリ、是ヲ社倉<sup>義倉</sup>トシテ、是後再度利息ヲ收メズ、只一石ニ耗米三升ヲ取ル、由レは一鄉四五十里計ハ、凶年トイヘドモ飢ル事ナシ、其後真德秀長沙ニ於テ是ヲ行フ、諸國モ又文公ノ法ヲ用ユ、明朝ハ預備倉ヲ建ツ、是ハ常ニ二年ノ蓄ヘ有テ緩急ヲ需ム、洪武年中ヨリ糶リ、天下ノ縣毎ニ四ヶ所ヲ立テ、上コリ米ヲ收メ貯ヘ、凶年ノ備トス、各々篤實年高ノ百姓ヲ選デ預ラシム、又百姓穀ヲ納ル千五百石ナレバ、勅ヲ請獎テ義民トス、依ツテ其家ノ役ヲ免ス、三百石以上ナレバ、石ヲ立テ名ヲ標シ、役ヲ免ス事二年、其外吏ヲ補シ、或ハ冠帶散官ヲ賜フ、嘉靖六年、昔ノ平糶常平ノ法ニ効フテ、春借テ秋其官所ニ返シ、其利息ヲ取ル同八年、題準ヨリ各々其處ノ撫按官義倉ヲ設ケ立ツ、農民二三十家ヲ一會ニシテ、其内德行ノ者一人ヲ首トス、是ヲ社首ト名ク、又公平ナル者一人ヲ社正トシ、又書算ノ者一人ヲ社副トス、毎月朔望ニ集會シテ、身代ノ差<sup>シテ</sup>ヲ立テ、上等ノ家ハ米四斗ヲ出シ、中等ハ二斗、下等ハ一斗、孰モ一斗毎ニ耗米五合ヲ添テ庫ニ入レ、上等ノ家此ヲ主リ、凶年ニ遭フ時ハ、身分相應ニ之ヲ貸ス、上等ノ家ハ豐年ニ爲テ算用シテ之ヲ返ス、中下戸其儘取り用ヒテ返スニ及バズ、所ニ由リ冊ヲ作リテ撫按官ニ送り、年々一

度ヅ、倉米ヲ查算ス、若シ不足ナルトキハ、會首ヲ罰シテ料代ニ一年ノ米ヲ出サシム、尙委キハ杜子  
通典・文獻通考・制度通ニ出タリ

本朝制古有ニ屯倉・義倉・公廩田、推古天皇十五年冬、河内國作ニ戶州池・依網池、每國置ニ屯倉、是ハ上  
ノ宅ニ米粟ヲ蓄ヘ、屯戍ノ備ヘトス、孝德天皇ノ時、天皇問ニ於臣曰、其屯倉如ニ古代ニ而置、以レ故獻ニ  
屯倉、二百八十一ヶ所、云、義倉ハ、凡一位以下、及百姓雜人等、皆取ニ戶粟、以爲ニ義倉、註云、「親王  
不在此例、分ニ富賑貧、其情合義、故曰義倉也、是法ハ上中下九等ニ分チ、上々戶ニハ粟二石、下  
下戸ハ一斗ヲ出ス、或ハ小麥・大豆ハ二斗、大麥ナレバ一斗五升、小豆ハ一斗ニ准ズ、伊藤東涯子云、  
是粟一斗ノ字疑シ、石ノ字尤ナリト云、蓋シ今ヲ以テ考ルニ、大麥一斗五升ニ準ズルトアレバ一斗ナ  
ラン、小豆一斗ニ準ズルハ、今モ農商交易ニ立ル所ナリ

公廩田トハ、廩ハ役所ナリ、續日本紀桓武天皇延暦九年十二月詔曰、「公廩之設、先補欠負、次割ニ國  
儲、然後作差處分」、又九年十一月勅曰、「公廩之設、本爲填補欠負未納、隨ニ國大小、旣立舉式、而今  
聞諸國司等有欠物、獨得ニ公廩理、須依法科罪、沒爲官物」云、是勅旨ハ、公廩田ハ、本未進ノ  
時償フベキヲ、國司ノ徒欠負アル者ヲ、我物トスルヲ制シ玉フトミユ、中古以來、國毎ニ正稅公廩ア  
リ、譬ヘバ山城國ニハ正稅公廩各十五萬束、大和國ニハ正稅公廩各二十萬束、近江國ニハ正稅三十八  
萬五千束公廩四十萬石ト、諸國大小ニ由テ知レ是、又處ニ由テ救急料有リ、委キハ源順ノ倭名鈔ニミ

エタリ

令義解云、凡一位以下、及百姓雜色人等、皆取<sub>二</sub>戸粟<sub>一</sub>、以爲<sub>二</sub>義倉<sub>一</sub>、上々戸二石、上中戸一石六斗、上下戸一石二斗、中上戸一石、中々戸八斗、中下戸一石二斗、中上戸一石、中々戸八斗、中下戸六斗、下上戸四斗、下中戸二斗、下々戸一斗、若稻二斗、大麥一斗五升、小麥二斗、大豆二斗、小豆一斗、各當<sub>二</sub>粟<sub>モミ</sub>三斗<sub>一</sub>、皆與<sub>二</sub>田租<sub>一</sub>、同時收畢、<sub>レ</sub>右ハ田租十ケ一ニテ、畝數三百六十步、役ハ一年三四日ノ時代ナリ、近世武家ト爲テ三百步ニ縮メ、租ハ十二三四分モ掛レバ、今一升トイヘドモ、増租シテハ民堪ラレズ、今諸國ニ於テ常平所、或ハ救濟料ナドト名ケテ、種々惠民ノ法有ルハ、其權輿ハ仁志ト見ユレドモ、年過テ吏人信義ヲ失ヒ漸々頽レ、其名ヲ假ルノミニテ實ナキユヘ、名ヲ汚シ民ヲ<sub>「誣誑」</sub>ス、故ニ古ノ官名ヲ妄ニ名クル事ナカレ

オタダ

凶歲多<sub>レ</sub>暴トハ聖賢ノ語ユヘ、古今ノ常ナリ、民心ヲ得テ治國安泰ノ法ハ、只米價ヲ下低スルニ在リ、北條泰時ハ一代ノ中、凶歲時々有レドモ穀價ヲ貴クセズ、故ニ天下ノ人信服シテ竟ニ安寧ナリ、近年續テ穀價昂ユヘ、民心益々姦ヲ生ズル風俗ト成ル、自今數十年如<sub>レ</sub>此ナラバ、疑フラクバ亂根タランカ、穀貴クシテ福ヲ得ル者ハ大祿・大賈・大農ノミニテ、哀ム者ハ數十萬人ニシテ、悦ブ者ハ僅百人ナラン、其餘ハ舉テ苦メリ、或邦ニ毎年米ヲ多ク蓄ル者ヲ惡ンデ、彼ガ自詠ニ致シテ狂歌ヲ綴ル、<sub>「風ハ吹ケ田ニハ中ルナ家ニ中レ、諸色易ケレ米ハ貴ケレ」</sub>ト、雜言ヲ云ハ尤ト思ハル、北國ハ平生米一升ハ二十

タカ

四五文、貴クナルトモ二十七八文ニ過ギズ、關西ハ近年一升八九十文ヨリ百文ニ昇レリ、然シテ北國ハ米價ハ易ケレドモ、諸色ノ貴キ事ハ西國ニ易ル事ナシ、然レバ北國武士ノ四百石ハ、西國武士ノ百石取ニ視并ブベキニ、如何ナレバ、西國ノ者ハ貧キヤ、是ヲ以テ觀レバ、北國ヨリ西國ハ日用ノ事甚ダ奢靡トミユ、今時ハ領主タル人皆米ヲ蓄ヒ、貴價ヲ待テ賣斥シ、商賈モ之ニ乗ジテ機變ニ從ヒ、上方ノ相場ヲ伺ヒ或ハ下ゲ、或ハ上ゲ、其貴賤ノ變大坂堂島ノ如ク一月モ平準セズ、國民安堵ノ思ヲナサズ、常ニ躁々トシテ穩ナラザルハ、畢竟上ニ常平倉ノ古例ヲ監ミズ、自利ニ放リ玉フユヘ、却テ下ヨリ利權ヲ取ラル、先ヅ上タル人ヨリ利ヲ去レバ、姦智ノ商モ卒爾ニ穀價ヲ揚ル事ヲ得ズ、民ヲ苦ムル事モ得ズ、國家自ラ閑靜ナリ、君ハ民ヲ食フ所ナリ、農工商賈其封内ニ居リ、統テ租調ヲ輸メザル者ナシ、輸ル穀ヲ以テ貴クシテ、輸メル民ヲ苦メルハ、君道ニ於テナキ事ナリ、松平肥後守正往家臣ニ向ヒ、當時祿有ル者ドモ、心中凶年ヲ欲スルヨシ、以テノ外ノ事ナリ、飢饉ヲ好ム者ハ、盜賊ノ火ヲ付ルニ同ジ、付火ト云者ハ、僅我兩手ニ提ル程ノ財ヲ得ント、衆クノ人ニ難儀ヲ致サスル事幾許ノ弊ゾヤ、米價ノ昂ヲ悅ブモ是ニ同ジ、僅ノ知行ヲ取り、己レ一人ノ利欲ニ眼ヲ舐レ、衆人ノ煩ヒト爲ルヲ知ラザルハ、實ニ附火ニ異ラズ、故ニ是念ヲ斷ツベシト諭シ玉フ、假令行ハズトイヘドモ斯ク善心起ルハ陰德ユヘ、必ズ天報有リ、穀ヲ貴クシテハ、民人面從スルトイヘドモ、穀ハ日用ノ物ユヘ、高價トナレバ毎日上ヲ懟ルナリ、民心服セズンバ、我民ニシテ我民ニ非ズ、然レバ財ヲ以テ民ヲ賣ルニ

倅<sup>ト</sup>シ、「文王不<sup>レ</sup>能<sup>レ</sup>使<sup>ニ</sup>不附之民、先軫不<sup>レ</sup>能<sup>レ</sup>戰<sup>ニ</sup>不教之卒、」是意ヲ考へ、封中ノ農工商賈ノ員數ヲ計リ、大抵其半ヲ蓄へ、若シ一升百文ニ騰ラバ、下直ニシテ開封セバ、姦商俗侗ノ者ドモ之ニ挫カレ、敢テ自放ノ高價ヲ得ズ、國民大ニ悅服スベシ、程明道縣令タル時、座右ニ「視<sup>レ</sup>民如<sup>レ</sup>傷」ト云四字ヲ書シ、每日之ヲ觀テ自ラ愧玉ヘリ、領主ハ勿論、郡代奉行賤キ里正ニ至ルマデ是ヲ監ルトキハ、國家千載安全ナリ

寺澤志摩守國計出入ノ舊帖ヲ竊カニ視シ事アリ、租十三萬苞、但平是内家臣ノ祿ヲ引キ、餘米四萬七百七十三苞、一石代銀六百八十四貫六百目、外ニ銀百八十貫目、魚蠟其外山稅諸運上、共ニ合テ八百六十貫目餘、是内ヨリ出銀ハ軍用武器仕立用、江都往來用、諸役入用、領内諸處普請用、馬應用、諸方付届、並ニ御自身用、御同席御一門附合用、江都邸惣入用、京大坂屋敷用、褒美並ニ不時上下ノ用、御使者旅行用・小遣等、一年ノ雜費量<sup>レ</sup>入知<sup>レ</sup>出トキハ、國用不<sup>レ</sup>匱コト領内皆然リ、右ハ戰國ヲ去ル事未ダ遠カラズ、萬事質素ノ世ト云ヒ、素封ノ徒ニ借財モ無<sup>レ</sup>バ利銀モ出ズ、家臣モ亦寡ケレバ、上ニ納ル所モ多カラシ、後世ニ於テハ花奢ノ風俗ニ移レバ、昔ニ倍スルナラン、然レドモ數百年來開發運上モ夥キ事ユヘ、國計各別多少有ルマジ、穀價ハ關西ノ國ハ、昔ヨリ大抵一石銀四拾目五十目ト建テ、目安勘定ト聞ク、然ルニ近比數十年、八十目乃至百目ニ及ベバ、二年分ハ一年ニ收リ、一萬石ハ二萬石トナル、是偏ヘニ天幸ユヘ、其半ヲ以テ民ヲ惠ムハ當然ナレドモ、米價高直ニ氣ヲ弛メテ、萬事花

奢ナラン、北國ノ領主ハ目安定テ、一石銀二十四五錢ナラン、莫大ノ違ナリ、「獨富耻<sup>レ</sup>之」ト云語ヲ思ヒ、國計目安ヲ君ニ量リ、穀價拔貴スル時ハ、其仿ル所ヲ國民ニ頒チ、米價ヲ下低ニスル事、輒チ分憂職ト云ベシ

李惺謂<sup>ニ</sup>文侯<sup>一</sup>曰、「夫穀價太貴<sup>ハナハゲ</sup>、則害<sup>ニ</sup>工商、太賤則害<sup>ニ</sup>士農、貴不<sup>レ</sup>害<sup>ニ</sup>工商、賤不<sup>レ</sup>害<sup>ニ</sup>士農、是爲<sup>ニ</sup>平價<sup>一</sup>、價平而四民安」ト云ハ古ノ事ナリ、今ニ於テハ生齒益々蕃息シテ、高價ニ苦ム者ハ天下七八分ナラン、故ニ是平價ノ法ヲ立ルベシ、今ノ世ニ米價高昂年ヲ累ルホドニハ、毎年凶作モ無レドモ、疑ラクハ諸國ノ領主、大祿ノ上大夫、數十年穀祿高價ノ利ヲ得テ匱乏無キユヘ、時ヲ計テ賣斥シ、民間ニ融通少ク、秋ニ至テ新古交ル時モ、古米ヲ高價ニシテ抑配シ利ニ慊<sup>アキダ</sup>ラズ、天幸ト思ヘルハ、戰國ニ邇<sup>チカ</sup>ヅク事ヲ稽ヘズトミユ、倭上匱乏ノ時ハ、都府調達人ト云テ、數人ノ商賈ドモ二年租ヲ當ニ借財シ、商賈利息ヲ加ヘテ、秋ニ至レバ米價下低ニ立テ勘定シ、諸所ノ穀倉ヲ我物トシテ、時ヲ計テ賣斥シ、國中ノ穀權ヲ握テ自放ニ致シ、國家ヲ騷ガシ、人民ヲ苦ムル事、孰レノ邦ニモ昔ヨリ有ル事ユヘ、借財セバ銀納ニ究メ、米ヲ渡サズ、倉方ヨリ時々賣斥シ、拔ンデ貴キ時ハ、常平ノ法ヲ以テ開封スル時ハ、僞僭<sup>イッソウル</sup>ノ商賈モ訂<sup>テ</sup>軒<sup>ヲ</sup>ノ智術ヲ抑ヘ付ケラレ、敢テ利ヲ自放ニスル事ヲ得ズ、或ハ主庸ノ賕吏ニ嬖<sup>イッソウル</sup>嬖シテ、米穀ヲ自放ニ致シ、昂低變易ヲ爲ス者ユヘ、必ズ弓斷スベカラズ、余ガ郷ハ一千餘戸不耕ノ土ナリ、天明年中大凶ニテ、米一升百四十錢、窮民既ニ饑ニ迄バントス、時ニ古賀政六ト云穀商ノ者、一千苞ノ

米ヲ、大抵中戸以下ヲ視計リ、九十錢ニテ毎日賣ル事數月、因テ官ヨリ感牒ヲ賜フ、今時富有ノ商賈自ラ耻テ之ヲ監ルベシ

白圭謂齊王曰、「民國之本也、不可不愛也、農民之本也、最不可不愛也、臣竊觀大王之於民也、但愛商賈而不愛農、非所以固國也、王曰、寡人臨百姓、日夜思視民如傷、愛之如子、以爲愛民一而已、豈有差等哉、白圭對曰、王誠有愛民之心、而愛民之政、未徧於邦內、是以百里之外、愁苦之聲未絕、臣請爲大王言之、願大王無怒、而使臣得盡言幸甚、夫民莫勞於農、莫利於商賈、農人以田爲生、竭力耕作、年穀熟則得食、年穀不熟、則不得食、糶賈則得利、糶賈則失利、是食與利二者、得失一懸于天、一懸于政、雖有律者、不能取必於己也、商賈以貢爲生、盡心廢居、與農代食、糶賈則固易於生、糶賈則貴其貨、可以敵穀、是其爲生也、樂歲則固飽、凶年亦不饑、矧乎商賈好用智、儲蓄以待時、乘急而增價、上之人發政以制之、則逃亡隱匿、以避其害、機變百出、無有端倪、欲誅之、則不可勝誅也、酷吏不能禁之、仁人不能懷之、故高賈之於利也、豐年亦得、凶年亦得、治亦得、亂亦得、神禹所不能與鬪智計、然所不能與爭利也、是以商賈不待上之人利之、而無不利、若夫農則不然也、年凶則食不足、糶賈則用不足、治則役、亂則役、國家有事、而無不役焉、且虐政所行、暴斂所加、必於農、豈不哀哉、夫民之事、莫難乎農、利莫薄乎農、故明君之愛民也、必先利農、於商賈、則平其政、

而已矣、今大王之愛民也、特慢法令、輕刑罰、時施小惠、以取其悅耳、夫呿口而煦、不若向太陽、抱甕而溉、不若遇時雨、故小惠非王者所行也、今齊國之民、悅大王之政者十二、而十七八以其居遠國都也、有司不聞知、王亦不恤也已、又云、夫士食君粟者也、飲食之餘、以易貨財、所以足用也、故糶貴則饒於用、糶賤則乏於用、故善治國者、執輕重之權、以平糶糴、貴不<sub>レ</sub>至害工賈、賤不<sub>レ</sub>至害士農、今齊國糶賤非一歲、士之奔走於職事過曩時、然而大王曾不<sub>レ</sub>恤之、此怨望之所由生也、王曰善」

國ヲ富饒ニセント欲セバ、民ノ暇隙ナキ様ニスベシ、農ハ一日一段ノ田ヲ墾テモ、翌日遊バンヨリ十日遊バズ、一日一畝ヅツ墾ケバ、其登大ニ多シ、故ニ公役寡キヲ最上トスレドモ、今時ハ公役ヨリ寺役甚シク、寺用ノ糧ヲ擔ヒ、或ハ菜蔬、或ハ蒸薪、或ハ祭<sup>ホウリ</sup>縁、或ハ掃洒、或ハ修理、或ハ又參詣ヲ勸メラレ、日ニ月ニ輟マズ、公役ヨリ却テ倍蓰ス、貧人ハ山田一二段耕セバ上ニ輸ル租ハ僅一苞ニ過ザルニ、寺院ニハ二苞モ納メ、却テ大切ナル租ヨリ多ケレドモ、僧侶ヨリ猛賁ニ遇ヒ、頑夫ノ身ユヘ如何トモスル事ナシ、是弊他宗ニハ左迄無レドモ、門徒僧等皆爾リ、故ニ上ノミニ仁政ヲ垂レ玉フトモ、大海ニ礫ト成テ僧侶ニ加勢ユヘ、民ヲ富サント欲セバ、先ヅ寺用ノ租役ヲ減耗スル工夫コソ專務タレ或邦ニ村々ノ役ノ者ニ、庄屋ヨリ田賦帳ハ渡シ置クハ、甚以テ不了簡ナリ、田ニ狹濶アリ、沃磽アリ、村内之ヲ知ルトキハ、姦民姦智ヲ運ラシ口事絶エズ、姦夫魯鈍ヲ誑ス甚ナリ、故ニ密ニシテ雷同スベ

カラズ、倘視ン事ヲ頗ハ、一人庄屋ニ來テ調子<sup>シラフ</sup>ベシ、由レ是悉ク取揚ルニ如ズ

吳子曰、「凡兵之所<sup>レ</sup>起者有<sup>レ</sup>五、一曰爭<sup>レ</sup>名、二曰爭<sup>レ</sup>利、三曰積惡、四曰內亂、五曰困<sup>レ</sup>饑、是文體ヲ觀ルニ、右五等名目次第ヲ立テ、段々輕重有テ、饑饉ヲ最モ重シトス、古ヨリ國家ノ亂根、皆凶歉ヨリ生ズ、故ニ人主タル身ハ、第一飢ヲ知ラズシテ叶ハザレドモ、飽食暖衣ニ長ジテ、其情ヲ知ル者幾希ナリ、宋主或日義季ガ歸ルヲ送り、武帳圖ニ錢飲セントス、時ニ諸皇子ニ勅シテ食ヲ止メ、彼地ニ於テ饌ヲ設ケント云、然ルニ日ノ旰マデ饌來ラズ、諸皇子皆饑ル色アリ、帝之ヲ見テ、汝曹少クシテ豐佚ニ長ジ、未ダ百姓ノ艱難ヲ知ラズ、故ニ今饑シメテ節儉ヲ知ラシムト云ハ、誠ニ人主ノ針砭ナリ、何事モ自ラ試ミザレバ、其情ハ知レ難シ、宋眞西山論菜云、「百姓不可一日不知<sup>レ</sup>此味、羅大經云、百姓之有<sup>レ</sup>此色、正緣<sup>ニ</sup>士大夫不知<sup>レ</sup>此味<sup>一</sup>」ト云、板倉內膳正ハ熊澤蕃山ノ門ニ入テ、經濟ニ達セシ賢君子ナリ、始メ本庄ニ在テ躬ヲ錡ヲ執リ玉フ時、右ノ語ニ據テ、咬菜ノ二字ヲ署<sup>ガク</sup>扁ニ誌シテ、座右ノ銘トス、大坂御城代ト爲ル時モ此署扁ヲ提ヘ往キ、其後鳥山ノ城主トナリ玉フ時モ、是書ヲ壁間ニ掛置玉ヘリ、余此頃無盡藏ト云書ヲ看ルニ、昔養和ノ比<sup>八十代高倉院</sup>二ケ年ノ饑饉ニテ、京都一條ヨリ朱雀東ノ邊迄、餓莩<sup>シビレコサベ</sup>ノ骸體四萬三百餘、其外河原・白川・西ノ京ノ埵ニハ限りナシ、況ヤ諸國ヲヤト、加茂長明記シ置ケリ、此時ハ兵亂ユヘ、下民救濟モ届カズ、其後數回ノ凶歉有レドモ、嘗テ傳記無レバ知ル人モ少シ、近クハ寛文八戊申ノ年、諸國大旱、明年飢饉、今年丁未ノ年迄百二十年、是時北野四條川原ニ於

テ、上ヨリ百日ノ救済アレドモ餓死夥ク、當時ニ差ヒ、古ハ諸人用意モナキヤ、若シ餓死スレバ、夜中密ニ野ニ捨テ、或ハ街中ニ斃踏スレバ、郭外ニ運ブトミユ、今京都ノ乾ニ無緣塚ト云テ、船岡ノ麓ニ石碑ヲ建テ、貞享二年ト記ス、其後天和二壬戌年飢饉アリ、今年丁未迄百五年、其後享保十七子ノ年、西國蝗蟲生ジテ、是時迄未ダ油ヲ用ユル事ヲ知ラズ、或老人九州ニ下向シ、道路青田ノ盛シナルヲ見シニ、三日過テ歸リニ視レバ、悉ク枯レタリト云、翌年諸國飢饉ニ及ビ、餓死夥ク骸骨山野ニ充ツ、享保丑年ノ大饉ト今ニ於テ傳語ス、今年迄五十六年ナリ、此時米一石古銀二十日、今ノ文銀ニシテ百八十日餘、凡二百日ナレドモ、春少間高直ニシテ、一切米ヲ賣ル者ナキユヘ、親キ仲モ貸借絶エテ金銀ヲ携ヘテ既ニ死セントスレバ、公ヨリ速カニ令ヲ下シ、日ニ隨ヒ穀價下低シ、格外ニ餓死モナシ、九州ハ小倉ノ領分ニ於テ、諸方ヨリ集來スル餓民ハ、ヤライヲ結び賣ル舗キ、饘粥ヲ予ヘ、男ハ二合、女ニハ一合ノ救恤有シト聞ク、其後兩三年ハ、九州ニテ交易ノ事絶テ、衣類諸道具捨賣ナレドモ、買人ナシト聞及ベリ、其後<sup>カ</sup>臺ル凶饉モナク、米價文銀百目ニ至レドモ、暫時ノ事ニテ餓死ニモ至ラス、寶曆六丙子ノ年、奥州不作ニテ、農家ノ人々モ丐乞ト爲テ、京都迄モ來レルヨシ、其後ハ格外ノ不作モ無レバ諸人安堵シ、今ニ於テハ金銀ヨリ外ニ寶ハ無キ様ニ心得、特ニ太平ナレバ、何事モ不自由無ク、士庶人及ビ出家・山伏迄、相競フテ衣服ニ花奢ヲ竭シテ壯觀ナルハ、天地剖判セシヨリ未ダ有ルマジ、是全ク米穀潤澤ニシテ、饑饉ノ事ヲ忘レル故ナリ、天運循環、無往不復、近年不作ノ兆

有リトイヘドモ、驕ニ長ジ眼心闇ムユヘ、孰モ觀ル人モ無シ、果シテ安永七戊亥ノ比ヨリ、竹ニ病有テ枯レドモ、是ニ氣附ズ、若シ竹ニ病有ル時ハ、必ズ饑饉ト云事古來傳語スレドモ、人皆虛言ト思ヒ、其凌<sup>レ</sup>飢ノ備ヘモセズ、特ニ穀價大ニ下落ユヘ、一年二年一粒不<sup>レ</sup>生トイヘドモ、格別ノ事モ有<sup>マ</sup>ジト、世間一般安心セシニ、享保ノ大饑出來シ、京都ハ西國ノ米穀ヲ以テ養フ處ユヘ、是難必至ト逼レリ、又安永九年迄ハ、米價至極下低ニテ、白米一石四十日ヨリ五十日、天明元年迄ニ及ベバ、乞食ナドモ米ヲ乞テモ、錢ニ易ヌユヘ、草履ヲ造リテ錢ニナサント云、是年五月、今宮神祭ノ翌日余他出シテ雨ニ遇シニ、鮮飯ヲ家々ノ軒先ニ捨シ事堆シ、同六月十四日祇園會ノ後、辻々ノ間際ニ鮮飯ヲ棄、踏テ腐レルヲ觀テ、彌々凶饑近キニ在ト思ヘリ、其故ハ祇園會ニ酢飯ヲ捐ル風俗ト成レバ、必飢饉ノ前表ト老人ノ話ヲ聞ケリ、其上街ニ米ノ翻ル事ノ砂ヲ散スガ如ク、寔ニ米穀ノ德ヲ失ヒ、美饌ヲ食シ、衣服家宅ヲ飾ルヨリ、他事ナキ時節トミユ、然ルニ茲年ノ秋作凶ナルユヘ、米價六七十目ト成テ稍<sup>シロ</sup>々ト昇リ、天明二寅年七月九日、大風ニテ田畠大ニ傷ミ、極月末ヨリ翌年卯正月始メニ至リ、諸民當惑シ困窮ノ者モ多シ、同七月六日、信州淺間山頽レ、奥州邊大饑ニテ、金銀ノ貯ヘアル者ハ、稍<sup>ヤウヤ</sup>ク草餅ト云物ヲ買メテ食ヒ命ヲ助リ、或ハ犬猫牛馬ヲ喰ヒ、犬一疋ハ鳥目五百、猫一疋ハ三百文ニ賣買ス、或僧奥州ニ住職セシニ、早ク立退ント旅裝シテ、或村里ノ豪家ニ往テ一宿ヲ請フ、亭主安キ事ナレドモ、耻ラクハ食物ナシ、僧重テ一飯モナキヤト問ヘバ、漸米二合アリ、出家ノ事ユヘ一合モ薄饑ニ舉テ供ヘ

ント、是一合ヲ家屬ト俱ニ啜レリ、僧亭主ニ向ヒ、明日ハ何ヲカ食スト問ヘバ、片端ヨリ皆死ス、我曹モ頓テ死ニ近シト云、其中ニ十五六歳ノ童子有リ、不便ニ思ヒ、是子ハ愚僧ニ予ヘヨ、助ケ見ント云ヘバ、亭主落涙シテ有難キ仕合、責テ是者一人ナリトモ助ケタク思フユヘ、願クハ召シ連レ玉ヘト、翌日一合ノ米ヲ再ビ薄饘ニシテ、彼僧ト子息ニ饌メ離別ヲ爲ス、時ニ亭主、貴僧ハ旅金ノ用意モ有ンナレドモ、我又少シ餞別セント云ユヘ、其員數ヲ問ヘバ金子四百兩所持ス、死ニ臨ンデハ無用ユヘ、是ヲ貴僧ニ囑ヘント云、僧モ大ニ愕キ、其金子ヲ以テ何トテ米穀ヲ買ザルヤ、亭主云ク、金銀ニテ買ルノ米穀ナラバ、何ゾ死ニ至ランヤ、是邊五里十里往テ、米一合賣ル者一人モナシ、故ニ所詮捨物ノ金子ユヘ何程ナリトモ、御氣次第ニ齋玉<sup>モテ</sup>ヘト云ヘバ、僧モ重荷ハ難澁、且ハ盜賊ノ恐レ有リト、五十金ヲ受テ子息共ニ出レバ、父モ是世ノ別ユヘ、遙カニ見送り涙雨ノ如シ、僧ハ是ヨリ數十里往テ一飯ヲ買ル處ナク、兎ヤ角シテ漸饑ヲ凌テ京都ニ來リ、金銀ホド重寶ハナキ物ト思ヒシニ、斯ル時ニ臨ンデハ、益ニ立ズト委シク余ニ物語レリ、此時東國或諸侯仁德有リシニ、領内穀一顆モ生ゼザルユヘ、江戸ヨリ米穀其外干物類喰物ニ爲ルベキ類ヲ、普ク買ベ救濟有ルユヘ、此封内ニ一民モ饑ル者ナシ、此時分京都ハ西國・北國・江州等中分ノ作ニテ、餓死迄ニハ及バズトイヘドモ、辰年五六月、米價頻リニ貴ク、銀百三十日迄ニ至リ、前年郊ノ秋ヨリ町家諸處ニ施行アリ、烏目四十八文、又ハ三十二文宛持行者モアリ、又五合一升ヅ、交子ヲ出シ引替ル者モアリ、始メハ上ノ思召ヲ恐レ穩議ニ致セシニ、

モカ  
キツ

漸々米價貴シナレバ、公命有テ救ハント思フ者ハ、上ヲ恐レズ心ニ憫ベシト令命ユヘ、施主段々出テ、其中ニ志シ深キ者ドモ集議シテ、今新穀マデハ餘程日數モアレバ、マリス僅ニ致シテ續ケント、千本一條ニ於テ小舎ヲ架ヘ、一日ニ米二百コリ三百五斗ヅ、毎日施行ス、是コリ又寺町・今出川・七條邊ニモ、施行有リシユヘ、是年九月中旬ニ至テ曠ム、是年豐熟ニテ、九月ニハ文銀百口トナル、今年大坂ニ米ヲ販グ商人禁制ヲ侵シ、數萬石ヲ締買シテ隠シ置キ、頓テ露顯ニ及デ獄ニ下リ、米ハ元買入ノ直ニシテ上ニ召レ、京大坂ニ下低ニシテ、七八月兩度ニ賣玉ヘバ、窮民大ニ欣ベリ、翌巳ノ年土用中雨降レバ、諸人トモ五十年ニ一度ハ凶歲アリト、人心慄ナラザレドモ、秋作豐ニテ、文銀七八十目ニ及ベリ、又明年丙午ニテ、正月元日皆既ノ日蝕アリ、初秋ニ雨續テ、七月十七八日此江戸大水ニテ、人民二三日モ絶食ユヘ、上ヨリ救濟アリ、是年不熟ノ上ニ、又八月晦日大風ニテ、米價乍チ揚リテ、六十日ヨリ百二十目ニ至ル、由レ是町家ヨリ粥施行セシユヘ、米價モ自然ト至低トミユ、是ハ麥作熟スル故カ、然ルニ四月霖雨、又雷電シテ、麥作大ニ傷ミ、越前邊ハ二三十日ノ雹氷降り、飛鳥是ニ撲レテ落チ、山林ノ艸木モ枯ル、レニ乘ジテ米價大ニ昂リ、五月ニ一石文銀百五六十目、江戸ハ金一兩ニ二斗ヨリ五七升迄ナリ、是時銀ハ五十八錢計ナリ、凡ソ一石ノ價銀、三百目ヨリ三百八九十日、由レ之コメヤ穀肆モ腐ヲ閉ヂテ圍ヒ、一粒モ賣ザレバ大ニ騒動シ、大坂・左海・南良・伏見・中國・西國邊迄モ騒動シ、京都ニ聽エ、相場日増ニ昂リ、一石二百三十目、五月下旬ヨリ米ヲ賣ル者無ク、富家モ飯米已ニ盡キ飢ントス、

況ヤ窮民ヲヤ、大坂ハ津留シテ京ニ發サズ、金銀ヲ首ニ懸ケ四方ニ奔走シ、價ハ望ミ次第ニ買ントス  
レドモ、更ニ賣ル者無シ、是時關東ニハ、公儀ヨリ若干ノ金穀ヲ出シテ窮民ヲ救ヒ、又京都ニ於テモ  
救濟シ玉フユヘ、世間安穩ナリシニ、八月中旬ヨリ穀價大ニ下落シ、新穀八十目ヨリ日ヲ逐テ二三十文  
ヅ、落レバ、始メ米ヲ圍ヒシ商賈等大損アリト記ス、是書ハ天明ノ年京都上原無休ト云者ノ著述ナリ、  
今時ノ文人己ガ名ヲ售ント、國家無用ノ詩文ニ腸ヲ練ランヨリ、斯ル記事ヲ以テ後世ノ懲誌トスルコ  
ソ、誠ニ孔門ノ實學ト稱スベシ、農諭ニ云ク、古ヨリ數度ノ饑饉諸書ニ載レドモ詳ナラズ、治世以降  
ハ寛永十九壬午年、其後三十三年ヲ歷テ、延寶三年乙卯、是ヨリ五十七年ヲ過ギ享保七子年、又其後  
五十一年ヲ逾テ天明三年癸卯ノ大饑、是ヲ以大抵年數ヲ計ルニ、近キハ三四十年、遠フトモ五六十年ヲ  
距ルベカラズ、然レバ百年ヲ過ギザルユヘ、今ニ於テ何ノ年カ來ルマジキニ有ラズ、故ニ是事ヲ常ニ  
忘レズ、農業ヲ一途ニ勵ミテ、穀ヲ飭シ貯ヘ置ベシ、饑饉ハ人間ノ大變ナリ、當ニ是時人ノ生ルト死  
スルハ、兼テ其用意有ルト無キトニ由ルノミ、天明三年、關八州特ニ奥州白川・三春・仙臺・南部・津輕・會  
津・出羽ノ米澤、及ビ越後等ナリ、郊ノ年ノ天變地妖ハ、寅冬ヨリ氣候例年ヨリ大ニ違ヒ、極月甚ダ暖  
ニシテ菜蔬華キ、又笄生ジ、宛モ三月ニ少シモ差ハズ、明郊ノ年ニ至レバ、却テ寒烈ク唯雨天ノミ、  
稍夏ニ及ンデ、麥作ハ何ノ年ト同ケレドモ、己ニ五月ニ至テ寒氣甚ク、田植ノ時ニ綿入ニテ、爐ニ寄ザ  
レバ堪ラレズ、漸々穀物直長諸國大ニ昂レバ、穀物ヲ貯ヘ置シ者ドモ眼前ノ利ニ迷ヒ、他國ニ賣斥ヘ

ハ舉<sup>ト</sup>倉ト爲ル、七月ニ及デ雨ハ砂ヲ交ヘテ降り、或ハ白キ毛ノ如キ者降り、或ハ地震日夜雷鳴ス、是ハ信州淺間山ノ燒出ル火勢ニテ、二三里ハ黑煙ニテ晝夜ヲ分タズ、火坑ヨリ高サ三間、長サ十三間ノ大石飛出デ、洪水ニテ近邊五十三ヶ村、家千七百八十三戸、民數三千七十八人溺死ス、其外二十八ヶ村人馬ノ死數知レズ、是出水ハ其色赤キユト血ノ如ク、泥水トイヘドモ大熱湯ニテ、是ニ舐レテ生ル者一人モ無シ、其後長雨ニテ、七八月曾テ晴天ヲ看ズ、一切ノ野菜類悉ク腐レ、果<sup>キノミ</sup>藏<sup>ザン</sup>皆熟セズ、二百十日ニ至テ、長ヨリ大風雨起リ、三日三夜止ズ、其後モ嘗テ雨止ズ、六月始ヨリ九月迄、其ニ四ヶ月ノ長雨ユヘ、諸作物孰テ登ラズ、適<sup>タマシク</sup>少シ實入ルヲ收納レテ試ミニ喰ヘバ、酸甘シテ異味アリ、斯ル凶作ニテ穀物無レバ、貧キ者ハ藏根・葛根、其外様々ノ草根木皮ヲ取テ、飢凌ントスレドモ、尙一日ノ食ニ足ラズ、特ニ貸借ノ方モ絶テ、富家トイヘドモ、銘々身ノ要心計シテ、一粒一錢ノ借ベキ處モナク、領主々々ハ、自前限リニ穀物ヲ出サズ、縱ヒ千金ヲ以テ買ムトイヘドモ、米一升賣ル者無シ、當地ハ市町穀物ヲ蓄ヘシ高ヲ計ヘ、大抵人數ヲ積リ、一戸ニ何升、一人ニ何合ト買サセ救濟アレドモ、色々ノ難儀ヲ訟ヘ、悲傷ヲ告ゲシハ實ニ落涙スベシ、偕奥州一國ノ中ニモ、甚キ村々ノ者ドモハ、食フベキ術モナキユヘ、彼地ニハ少シ穀有リト傳聞ケバ、家人ヲ伴ヒ他出シテ途中ニ食盡キ、往斃<sup>カタ</sup>レ死スル者多シ、或ハ川ニ身ヲ投ゲ、或ハ小兒母ノ乳房ヲ嚙切り母子共ニ死シ、或ハ童子ハ親ノ股ニ喰付ユヘ、櫃ニ入レテ死スルヲ待ツモアリ、又ハ徒黨ヲ組ンデ押込亂妨シ、其騷動晝夜止ル時ナク、

是虛ニ乗ジテ盜賊ドモ辻斬・強盜誰憚ラズ放縱ス、當領ハ大抵救濟届イテ餓死ハ無レドモ、種々ノ菜食  
ニテ其餘毒ニ中<sup>アタ</sup>リシ者カ、翌年病死甚ダ多シ、是饑饉ニ命ヲ全フセシ者ハ平生嗜深ノ、毎年秋ノ末ニ  
至テ芋<sup>イモ</sup>ノ葉芋ガラヲ集メ蓄ヘテ、雜穀ニ駁<sup>マツ</sup>ヘテ助リ、又人ニモ予ヘ命ヲ救ヒシ者ナリ、是凶歉關東ハ  
秋作少シハ登<sup>ミ</sup>シユヘ、左迄饑死ニハ至ラザレドモ、就<sup>レ</sup>中奥州ハ共處ニ由テハ、牛馬犬猫ニ至ルマデ  
喰盡シ、家數四五十軒ノ村里、一人トシテ活<sup>イキ</sup>ル者ナク、皆荒土ト成ル處甚ダ多シ、饑饉ノ後、上州新  
田郡ノ產高山彦九郎奥州ニ往キ、諸處ヲ徊徧シテ山路ニ迷ヒ、村里ト見エシ所ニ至レバ、人家ハ統ベ  
テ破レ腐レテ草蔽ヒ茂リ、内ニ髑髏白骨途ニ充バ、高山舌ヲ捲テ人里ニ馳着キ、始メテ心氣靜閑ケ  
ル、又享保十七年、西國大饑ノ時、伊豫松山ノ產正山ト云フ老僧、九州ヲ行脚セシニ道路餓孚夥ク斃  
レ、其中一人衣服帶刀賤シカラズ、郷民死骸ヲ改ムレバ、金子百兩ヲ首ニ掛シト云、是時ニ至テハ、  
握リ飯一ツヲ金百兩ニテ買ントスレドモ、更ニ賣ル者無シト記セリ、此記ハ下野黒羽ノ領主大關氏ノ  
執政鈴木正長ト云者、是饑年ニ遇ヒ、種々ノ術ヲ以テ救濟ノ法ヲ行ヒシユヘ、領中一人ノ餓孚ナク、  
尙又後世人ノ監ト一卷ヲ著シ、今世ニ行ハル、右兩書共ニ、享保九州ノ大饑大抵著ハル、遠國ノ人  
サヘ、斯ク記事シテ世ニ弘ルニ、九州ニ於テハ燈臺本暗シト、却テ一人モ其始末ヲ識ル者ナキハ、如  
何ナル事ゾヤ、定メテ諸家方年譜等ニハ記セ有ランカ、又ハ國家ノ耻ト思ヒ隱セル事カ、又ハ懶惰ニ  
シテ執筆ヲ嫌ヘル事カ、庶民ハ愚惑ニテ、今日ヲ知テ明日ノ事ヲ知ラザルユヘ、斯ル變災ハ其ノ形

勢ヲ鎮密ニ誡シテ後世ニ遺シ、時々諭シテ其難ヲ免レシムルヲ、社稷ノ聖臣トモ云フベシ、今茲ニ鈴木氏ハ小封トイヘドモ、執政ユヘ事繁カルベキニ、三條ヲ以テ是編ヲ著シ置シハ、天下ヲ憂ル君子ナリ、因テ各國民部ノ職ニ居ル者、是農諭ヲ讀デ語リ聽スルベシ

右ノ書ニ竹林枯槁スレバ饑饉アリ、又五六十年一遍トミユ、是事識言タリ、天明ヨリ凡ソ五十餘年、天保八申ノ年ニ當テ、西國飢饉ナリ、以前若竹ニ悉ク麥ヲ生ジテ枯ルレバ、庶人ハ六十年ニ竹ハ枯ル<sup>カ</sup>者ト巷説シテ、曾テ凶歉ノ兆ヲ知ラズ、漢ノ丙吉ハ道路ニ斃死ヲ顧阿ス、牛ノ喘<sup>アヘ</sup>ヲ視テ天地不順ヲ嘆息スルハ、大夫ノ職ユヘナリ、是意ヲ考ヘテ、天變地妖ノ時ハ、其前表ヲ以テ早ク鎮中ニ告諭シテ、其備ヲ爲サシムベシ

享保ノ年マデ油ヲ以テ蝗蝻ヲ除ク事ヲ知ラズ、是年蟲大ニ生ジ悉ク腐ル、時ニ我藩牛津ト云<sup>ナワテ</sup>蝦<sup>エビ</sup>ニ油賣蹟キ倒レ、油ヲ水田ニ覆セバ、其處ノミ蝗蟲死シテ盛ンナリ、農民之ヲ觀テ始メテ知リ、是ヨリ海内一般ト成レリ、天是者ニ托シテ萬世民害ヲ<sup>ツ</sup>滅ヒ玉フハ、天道人ヲ殺サズ、我國ノ美號トスベシ、又一説ニ、太宰府天神燈籠ノ油ヲ田ニ澆ギシヨリ發轉トモ云ヘリ、後世漸々農民ドモ王夫シテ、魚油或ハ木實、近年樟腦ヲ用ヒ、左迄害蟲ナキトミユ

田島多キ國人ドモハ、我邦ハ穀物澤山ユヘ、一年二年ノ凶作ニテモ、減多ニ餓殍ニ至ラズト傲<sup>アガ</sup>僥ス、若シ大饑ニ至ラバ其邦一番ニ餓死有ラン、諺ニ多物手ニ留ラズト云ハ之ヲ恃トスル故ナリ、故ニ豪富モ、

財多キホド潰ル、事速ク、人モ勢多キホド敗レ易シ、稻田多キ處必ズ油斷スベカラズ、奥州ハ米穀多キ事天下第一、穀價平生一苞八九百文ゲライ、是時一升十四五文ナリ、故ニ多キヲ恃ミ、不用意ニテ斯ル大難ニ遇ヘリ、米穀寡キ邦ハ、朝夕飢食シテ常ト成ルユヘ、大饑來ルトイヘドモ、菜葉ヲ啖テモ死ニ至ラズ、市町飲食花美ナル處ハ、飢食ニ逢ヘバ病ノ爲ニ死ス、頃日申ノ凶作ニハ、翌年此地米一升二百文、是直ニテサヘ諸國平生美饌ノ地ニハ饑民アリ、況ヤ上方三百文ノ直ヲ以テハ饑エズト云事有ルベカラズ、已ニ戊年ニ至テ一升百文ニ減直ス、左レバ右ニ懲テ以來愁ムベキニ、喉ヲ通レバ熱キヲ忘ル、庸人ノ常ニテ、最早昨年ノ苦艱ヲ忘却ジ、死ヲ遁レシ祝ト唱ヘ、日夜謳ヒ舞ヒ日増ニ美酒・嘉穀・衣服・器材ニ驕奢ヲ竭ス弊風ナリ、右體ニテ放縱ニ致シ置バ、又モ天災遠キニ非ズト思フ、蟻蟻ハ雲中ノ食ヲ夏日ニ貯ルニ、萬物ノ靈トシテ其心掛モナク、已ニ凶歲ニ逢ヘバ、唯上ノ庇蔭ヲ賴ンデ、開封救濟ヲ請トスルハ、以テノ外ノ事ドモナリ、由レ是國禍ノ降ラザル様ニ、兼テ上タル人ノ儉約ヲ諭シ、賞罰ヲ嚴ニシテ、各不虞ノ備有ルベキナリ

サトウキビ  
甘蔗ハ米穀ニ次グ食物ニテ、之ヲ多ク植レバ饑ニ至ラズ、諸國近年荒野禿山ヲ開キ、甘蔗ヲ作ル事大ニ流行スルハ最モ宜シ、是菜ハ瘦島ニ好キユヘ、其宰升タル人山林曠野尺寸ヲ餘サズ開墾サスル事、國家ニ大功ト云ベシ、享保年間マデハ西國未ダ流布セズ、北方不生ノ物ユヘ、奥州ノ饑饉モ斯ク有ラント思ヘリ、甘蔗サヘ貯ユレバ、米穀無クトモヨシ

小倉ニ於テ男子二合・女子一合ノ救濟ト記ス、蓋シ孔母ハ共食男子ニ勝レリ、故ニ赤子モ共食數ニ加ヘ、男女老稚共ニ二合半、四人ヨリ上ノ家ニハ二合ト究ムル事ヨロシ、斯ル時ハ國家存亡ノ大變ユヘ、時ノ官吏必小欲ニ泥ム事勿レ、民ハ國ノ本ナリ、民多ケレバ穀ハ又明年土中ヨリ出ヅ、欲ヲ去ルヲ大忠トス、先中ノ年或邦ニ一合ヅ、賑恤有リシユヘ、其時ハ死ヲ免レシニ、冬ニ至テ衣服乏ク、寒ニ傷ラレ業食ニ脾胃ヲ損ヒ、翠春コリ夏ニ及ビテ、腫脹痢疾ニテ死亡アリ、饑後ノ病ハ必ズ腫滿ト爲ルユヘ、世ノ醫工共心得有ルベシ、救濟配當米ノ時、其職掌タル者、遲卒ヲ以テ能ク念ヲ入テ視配ルベシ、時ニ由テハ庄屋組頭ノ輩、愛憎有テ洩ス事モ有ラン、或ハ食ハ絶テモ禁酒ハ出來ズト云者世ニ多シ、斯ル者コソ一番ニ饑ユルユヘ、救濟ニ臨ンデ二日分ヲ一日餘シ、酒ニ易ル事モ有ル者ユヘ、一日分渡シ能ク氣ヲ付ケ、發覺セバ立所ニ刑罰シ、酒肆ハ免職ヲ取揚ル事正政ナリ

京都大饑、市町ヨリ密ニ饘粥救恤スルハ感心スベシ、屯角領内富家多カラザレバ、治亂共ニ國家ノ大用ニ立ズ、斯ル時ニ臨デ、窮民千萬人力ヲ併セテモ、ナキ袖ハ振フレズト、日夜寢ズ思フテモ更ニ論ナシ、鎌倉家時代歲大ニ凶ス、北條泰時富有者トモニ自書ノ奥印シテ借券ヲ遣ハシ、米穀ヲ借フセ、明年秋ニ至テ利息ハ自ラ出シ、借主ニハ元米ノミ出サセ玉フ、夫民ヲ重ンジ、信有ル事如是、無盡藏末卷ニ、京都ニ於テ饘粥施行ノ術委ク記セリ、蓋シ一術闕マリ、粥一人ニ付ケ味噌一匁計リヅ、予ユルベシ、味噌無ンバ燒鹽一匁ニテモヨロシ

救饑ノ術色々アリ、其中泥粥ノ法鳩翁道話ニ見ユレドモ、證トシガタシ、諸術皆覺テ居ル事宜シ、大饑ニハ諸國菜穀ヲ出ス、因テ海藻等ヲ多ク貯ヘ置ドモ、享保ノ年海藻ヲ多ク食セシ者ハ夥ク死セシト聞ク、先諸邦ノ藥舖ヨリ茯苓・山藥・天花粉・苡薏仁ヲ買メ置ベシ、是等ハ世人一時ハ氣附ザルナリ

○客云、京都ノ大饑ニ、豪家ノ輩施行ヲ爲スニ、上ニ恐レテ免許ノ後ニ致セシト前ニ視エタリ、善ヲ行フニ何ゾ憚ル所有ランヤ、甚ダ惑ヘリト云

答云 善事トイヘドモ禮ヲ以テ之ヲ節ニ爲ズンバ、俗ニ云フ、理ヲ以テ淵ニ入ル事アリ、昔ヨリ躬ラ善行ト思ヒ、却テ惡ニ陷ル者寡ラズ、斯ル時ニ臨デ一時衆心ヲ得テ、凶賊トナル事モアリ、故ニ惠民ノ志有ラバ、正ニ訟ヘテ施スカ、久ハ其救糧ヲ官ニ納メ、官ヨリ一村一郷ニ配當スル事、當然ノ道ト云ベシ、近年華城雲南飢饉ニテ、民既ニ饑ントス、時ニ豪家朱黔若干ノ米粟ヲ以テ衆民ヲ賑恤スレバ、頓テ官署ニ聞エ、其貧富差別無ラント察シ、其救粟ヲ官ニ輸メサセ、上ヨリ其差等ヲ分ツテ配當スベシト命ズレニ、衆民トモ上ニ私有ラント思ヒ、彼ヲシテ命ヲ拒シム、由<sup>レ</sup>之公命ニ背<sup>レ</sup>ント、彼者ヲ<sup>レイド</sup>囚圜ニ入ルレバ、忽チ數十萬ノ人民群黨シテ官署ヲ顛シ、多ノ吏人ヲ殺シテ、彼豪富ヲ獄ヨリ出シ、之ヲ會長トナシテ兵ヲ興シ、遂ニ八戰ニ及ビ、官軍屢々敗績ス、由<sup>レ</sup>是北京ヨリ王師十萬ヲ遣シ、之ヲ平グトイヘドモ數年止マス、斯ク善行トイヘドモ、規矩ニ隨ハザルユヘ、是ニ災害ヲ招キ、吉變ジテ凶ト爲ル、夫惡ハ己レニ受ケテ、善ヲ君ニ與ユル事忠臣ト云ベシ、是意ヲ考ヘ、倘斯ル時ニ臨デ施行ヲ致サント

思ハバ上ニ納ルベシ、救濟ノ功ハ最モ重キ事ユヘ、上ニ又其賞無テ叶ハズ、今清朝ニハ庶人ヨリ善事ヲ行ハント、官ニ願フテ米ヲ儲ヘ、非常ノ備ニ輸ム、是ヲ捐米ト云、是等ノ者ニハ朝廷ヨリ官ヲ授ケ、若シ受セレバ品級頃帶バカリヲ賜リ、其子孫學問モ有レバ、直ニ官ヲ授ルナリ、北國ノ餓死ニ體諭ヲ視レバ、庶人ノミ死シ士人ハ一人ニ死セズトミユ、士ハ薄祿貧窮ノ者モ、平生其心懸有ル事カ、但シ家臣ノミ救濟有ル事カ、古公ノ邠ヲ去リ、邾ノ支公遷都ノ意ニハ相違セリ、天無私照何ゾ四民ノ差等有ランヤ、國ヲ治ル者ハ、賞罰正ク儉法行ルレバ國富饒ト成リ、救濟糗糒ノ法ヲ立ルニ及バズ、本ヲ捨テ末ヲ計ル事勿レ、荀子云、下貧則上貧、下富則上富、田野縣鄙者、財之本也、垣窳倉廩者、賦之末也、李惺謂文侯曰、夫布價貴於粟、帛價貴於布、金價貴於帛、玉價貴於金、故以價言之、則金玉與布帛、布帛與粟米、貴賤不敵、固非可同日論也、是故天下之人、知金玉之爲貴已、夫人之患莫急於饑寒、寒之於衣不待輕煖、饑之於食不待甘旨、饑寒至身、不顧廉耻、人一日不再食則饑、終歲不爲衣則寒、夫饑不得食、寒不得衣、則雖慈母不能保其子、君安能以有其民哉、夫金玉者、饑不可食、寒不可衣、爲物雖貴、無用於饑寒、是何足貴哉、然而聚貴之者、以上之人好用之故也、其爲物也、輕微易藏、在於把握、可以周海內、而無饑寒之患、此令臣輕背其主、而民易去其鄉、盜賊有所勸、囚逃者得輕資也、粟米布帛、生於地、長于時、聚于力、非可一日成也、數石之重、中人弗勝、不爲姦盜所利、一日不得而饑寒至、是以明君貴五穀

而賤金玉也、故金玉者賢聖所賤、而愚人所貴也、愚人不達物情、以爲有金玉、可以得衣食、殊不知有金玉可以得衣食者語常者也、即有凶年、五穀不登、布帛不成、及天下擾亂、諸侯力爭、商旅不通、鄰國閉關、則雖有金玉、焉所得衣食乎、當其時、雖累鉅萬、何益於饑寒哉、是金玉果寶邪非哉、雖人民所同貴、曷若布帛之冒寒、粟米之療饑乎、然則范國長民者、不可不審取舍之機也、夫民之好惡、從上之好惡、民無智愚、靡不惡饑寒、不知貴穀、不察乎金玉之饑不可食、寒不可衣、舍此取彼、豈惟蛇之愚哉、上之所好尚、而下民効之爾、故聖賢之君、必貴五穀、而賤金玉、貴五穀、在尊農夫、賤金玉、在卑商人、夫民農爲上、商賈爲下、今不肖之君、賤穀而貴貨、故商人兼并農人、賤穀故農人流徙、此危亂之由也、農何君之饑、商何君之視、是謂惡其所愛、愛其所惡、夫士受穀於君者也、農出粟於田者也、方今不肖之君、賤穀而貴貨、是以穀皆入於商賈之藏、君之倉廩、尚不蓄粟、況士人乎、而況農人乎、夫如是、而一旦有故、將何以守國乎、神農之教曰、有石城十仞、湯池百步、帶甲百萬、而無粟弗能守也、是故國無九年之蓄、曰不足、無六年之蓄、曰急、無三年之蓄、曰國非其國也、由之觀之、有國家者、何可以無蓄粟乎、故守國之要、在於蓄粟已

產語曰、管子云、凡治國之道、必先富民、民富則易治也、民貧則難治也、奚以知其然也、民富則安鄉重家、安鄉重家、則敬上畏罪、敬上畏罪、則易治也、民貧則危鄉輕家、危鄉輕家、

則敢陵上犯禁、陵上犯禁、則難治也、故治國常富、亂國常貧、是以善爲國者、必先富民、然後治之、昔年七十九代之君、法制不一、號令不同、然俱王天下者何也、必國富而粟多也、夫國富粟多、生於農、故先王貴之、凡爲國之急者、必先禁末作文巧、末作文巧禁、則民無所游食、民無所游食、則必事農、民事農則田墾、田墾則粟多、粟多則國富、國富者兵彊、兵彊者戰勝、戰勝者地廣、是以先王知衆民彊兵、廣地富國之必生於粟也、故禁末作止奇巧、而利農事、今爲末作奇巧者、一日作五日食、農夫終歲之作、不足以自倉也、然則民舍本事而事末作、舍本事而事末作、則田荒而國貧矣、凡農者月不足而歲有餘者也、而上徵暴急無時、則倍貸以給上之徵矣、耕耨者有時、而不必足、則民倍貸以取庸矣、秋糴以五、春糴以束、是又倍貸也、故以<sub>上</sub>之徵、而倍取於民者四、關市之租、府庫之徵、粟什一廩與之事、此四時亦當一倍貸矣、夫以二民養四主、故逃徙者刑、而上不能止者、粟少而民無積也、常山之東、河汝之間、蚤生而晚殺、五穀之所蕃熟也、四種而五穫、中年畝二石、一夫爲粟二百石、今也倉廩虛、而民無積、農夫以鬻子者、上無術以均之也、故先王使農士商工四民、交能易作、終歲之利、無道相過也、是以民作一而得均、民作一則田墾、姦巧不生、田墾則粟多、粟多則國富、姦巧不生則民治、富而治、此王之道也、不<sub>生</sub>粟之國亡、粟生而死者霸、粟生不死者王、粟也者民所歸也、粟也者財之所歸也、粟也者地之所歸也、粟多則天下之物盡至矣、故舜一從成邑、二從成都、三從成國、舜非嚴刑罰重禁令、而民

歸之也、去者必害、從者必利也、先王善爲民除害興利、故天下之民歸之、所謂興利者利農事也、所謂除害者、禁害農事也、農事勝則入粟多、入粟多則國富、國富則安鄉重家、安鄉重家、則雖變俗易習、毆衆移民、至於殺之、而民不惡也、此務粟之巧也、上不利農則粟少、粟少則人貧、人貧則輕家、輕家則易去、易去則上令不能必行、上令不能必行、則禁不能必止、禁不能必止、則戰不必勝、守不必固矣、命之曰寄生之君、粟者王之本事、入主之大務、有

人之塗、治國之道也  
漢高祖二年、關中大饑、米斛萬錢、人相食、令民就食蜀漢、又以蜀漢民給軍營苦復勿租稅一歲

### 歷代賑恤

周禮、遣人掌邦之委積、以待施惠、鄉里之委積、以恤民之譴阨、門閭之委積、以養老孤、郊里之委積、以待賓客、野鄙之委積、以待羈旅、縣都之委積、以待囚荒、皆以餘財共之、少曰委、多曰積  
景帝令民半出田稅、三十而稅一

文帝六年、大旱蝗、發倉庾以賑貧民

武帝四年、山東被水災、民多饑乏、於是遣使、虛郡國倉廩、以賑貧民、猶不足、又募豪富、人相假貸、尚不能救、乃徙貧民於關以西、及充朔方以南、新秦中七十餘萬口、衣食皆仰給於縣官數歲、

## 貸與產業

河內民傷水旱，萬餘家，沒貲以便宜，持節發河內倉粟，以賑貧民，請歸節伏矯制罪，上賢而釋之。

昭帝元鳳三年，詔曰：乃者民被水災，頗匱於食，朕虛倉廩，使使者賑困之。

宣帝本始四年，詔曰：今歲不登，已遣使者，賑貸困乏，使農移就業，又輸長安倉，助貸貧民。

元帝初元年詔振業，貧民貲不滿千錢者，賦貸種食如貧民。

光武帝建武六年，令郡國有穀者給廩，救高年鰥寡孤獨篤癯無家，不能自存者。

明帝永平十八年，賜鰥寡孤獨篤癯不能自存者，穀人三斛。

章帝建初十六年詔，貧民有田業，而匱乏者貸種，勿收責。

獻帝興平元年，三輔大旱，帝出大倉米豆，作糜食饑人，時穀一斛五十萬，豆麥一斛二十萬，人相食，白骨委積，帝使侍御史侯汶，出大倉米豆，爲饑人作饘粥，經日而死者非故，帝疑賑卹有虛，乃親於御座前量，試作饘，乃知非實，使侍中劉芝，出責有司，收侯汶考實，杖五十，自是之後，多得全濟。

魏文帝黃初二年，冀州大蝗民饑，遣使問倉廩，以賑之。

明帝景初元年，冀·兗·徐·豫四州遇水，遣使循行，沒溺死亡，及失產財者，所在開倉賑之。

吳大帝赤烏三年、民饑、開倉賑貧窮。

晉成帝咸康元年、諸郡饑、開倉賑給。

宋文帝元嘉中、水潦、殺貴人饑、富商蓄米、口成其價、宣班下所在隱其虛實、令積蓄之家、聽留一年儲、餘皆勤使糴、爲制平價、同二十年、水旱大饑、開倉賑恤。

魏孝文帝太和元年、水旱、開倉賑給、七年、詔郡縣爲粥於路、以食之、所活者九十四萬七千餘口。宣武延昌元年、大水、詔開倉賑恤、以京師穀貴、出粟八十萬石、以恤貧民。

隋文帝開皇十四年、閏中大旱、民饑、帝遣左右視民食、得豆屑雜糠以獻、爲之流涕、不御酒、殆將一朞、乃帥民就倉於洛陽、敕斥候不得輒有驅逼、男女參廁於伏衛之間、遇扶老携幼、輒引馬避之、慰勉而去、至艱險之處、見負擔者、令左右扶助之。

唐太宗謂王珪曰、開皇年中大旱、文帝不許賑給、而令百姓就食山東、比至末年、天下儲積、可供五十年、煬帝恃其富饒、侈心無厭、卒亾天下、但是倉庾之積、足以備凶年、其餘何用哉。

唐太宗貞觀二年、山東旱、遣使賑恤饑民、鬻子者、出金贖還之。周世宗顯德六年、淮南饑、帝命以米貸之、或人曰、民貧、恐不能償、帝曰、民猶子也、安有子倒懸、而父不爲解者、安責其必償也。

致堂胡氏曰、稱貸所以惠民、亦以病之、惠者紓其目前之急也、病者責其其他日之償也、或嚴

其期、或徵其耗、或取其息、或予之以米、而使之歸錢、或貧無可償、而督之不置、或行吏  
譴貨、而徵諸編民、凡此皆民之所甚病也、有司以豐取約予爲術、聚斂之臣、以頭會箕歛爲  
事、大旱而稅不蠲、水澇而稅不蠲、蝗蝻蚊蠆、而吏不蠲、長官督稅、不登數則不書課、民  
戶納欠、不被產則不落籍、出於民者尙如此、而況貸於公者、其責償固不遺餘力矣、世  
宗視民猶子、匡救其乏而不責其必償、仁人之心、王者之政也

宋太祖建隆三年、遣使賑貸揚州泗川今屬饑、沉義倫使吳越還言、揚泗饑民多死、郡中軍儲尙有餘  
萬斛、倘以貸民、至秋收新粟、公私俱利、有司沮之曰、若來歲不稔、孰任其咎、義倫曰、國家以  
廩粟濟民、自當召和氣致豐年、寧憂水旱耶、此當斷自宸衷、帝從之

同八年、出米十萬斛、賑城中饑民

太宗太平八年、以粟四萬石、賑饑開州

眞宗咸平二年、出米十萬石、賑兩浙貧民

仁宗英宗、一遇災變、則避朝變服、損膳徹樂、恐懼修省、見於顏色、側怛哀矜、形於詔令、其德  
厚矣、災之所被、必發倉廩賑貸、或平價以糶、不足則轉漕他路粟以給、又不足則誘富人入粟、  
秩以官爵、災甚則出內藏、或奉震庫金帛、或鬻祠部度僧牒、東南則留發運司、歲漕米或數十萬或有  
萬石濟之、賦租之未入、入未備者、或縱不取、或寡之取、或倚搭以順豐年、寬逋負、休力役、賦入

之有「支移折變」者省之、應給「鹽監」、若和糴及科追卒迫、呼不急、妨農者罷之、薄關市之征、鬻牛者免「算利」、有司與民共者不「禁」、水鄉則蠲「蒲魚果蔬」之稅、民流亡者、關津毋責「渡錢」、過「京師」者、分遣「官諸城門」賑以米、所至舍以「官第」、爲「渇糜食」之、或賦以「閉田」、或聽「隸軍籍」、老幼不能自存者、聽「官司收養」、因饑役若厭溺死者、官爲「瘞埋祭」之、厭溺死者、加「賜其家錢粟」、蝗爲害則募民捕、以「錢若粟易」之蝗子一升、至「易」救粟三升或五升、下「詔川郡」戒「長史存折其民」、緩「繹繫」、省「刑罰」、饑民効「困苦」者薄其罪、且以戒「監司傳察」官吏之老疾罷慳、不任職者、間遣「內侍存問」、災甚則遣「使安撫」、其前後所「施」、大略如此

英宗治平四年河北旱、民流入「京師」、待制陳薦、請以「糴使司陳粟貸」民戶二石、從之

司馬光上疏曰、聖王之政、使「民安其土樂其業」、自生自死、莫有「離散之心」、爲此之要、在「放得一人」、以「臣愚見、莫若謹擇「公正之人、爲「河北監司」、使之察「災傷、州縣守宰、不勝者易之、然後多方那融斗斛、各使賑濟本州縣之民、若斗斛數少、不能周徧者、且須救「土著農民、各據版籍」、先從「下等、次第賑濟」、則所「給得限、可以豫約矣」、若富實有「蓄積者、官給印紙、聽其舉貸」、量出利息、候豐熟日、官爲收索、示以必信、不可「訴誘」、則將來百姓、爭務「蓄積」矣、如此饑民、知有「可生之路、自然不棄舊業」、浮游外鄉、居者既安、則行者思反、若「縣縣皆然、豈得復有流民哉」

高宗建炎元年、詔勸誘富豪出粟米、濟饑民、賞各有差

糴及三千石以上、與守闕進義校尉、官一萬五千石以上、與進武校尉、二萬石以上取旨優異、推賞、已有官蔭、不願補援、名目當比順施行

孝宗隆興二年、霖雨害稼、出內帑銀四十萬兩、附戶部、變糴以濟之

淳熙八年、詔文會子二十二萬、併浙東路常平義錢內支一十萬貫、附提舉朱熹、措置賑糴、江東憲臣尤袤召人言、稼荒之政、莫急於勸分、昨者朝廷立賞格、以募出粟、富家忻然輸納、故庚子之旱、不實支吾者用此策也、自後輸納既多、朝廷吝於推賞、多方沮抑、或恐富家以命令爲不信、乞詔有司施行

浙東提舉朱熹、與丞相王淮書曰、今上自執政下及度僚、內而侍從、外而牧守、皆可以交結附託而得、明公不此之愛、而願受此迪功、文學承信校尉十數人之賞、以爲重惜名器之計、愚亦不知其何說也、大抵朝廷愛民之心、不如惜費之甚、是以不肯爲極力救民之事、明公憂國之念、不如愛身之切、是以但務爲阿諛順旨之計、此其自謀可謂盡矣、然自旁觀論、則亦可謂不思之甚也

明洪武十八年、令天下有司、凡遇歲飢、先發倉廩賑貸、然後具奏、定災傷去處散糧、則例大口六斗、小口三斗、五歲以下不與

永樂二年、定蘇松等府水淹去處給米、則例每大口米一斗、六歲至十四歲六升、五歲以下不與、每戶有入口十口以上者、止與一石、其不係全災、內有缺食者、原定惜米、則例一口借米一斗、二口至五口二斗、六口至八口三斗、九口至十口以上者四斗、候秋成、抵斗還官

嘉靖八年、令撫按官、曉諭積糧之家、量其所積多寡、以禮勸借、若有仗義出穀二十石、銀二十兩者、給與冠帶、三十石三十兩者、授正九品散官、四十石四十兩者、正八品、五十石五十兩者、正七品、俱免襍泛差役出、至五百石五百兩者、除給與冠帶、外有司仍於本家、豎立枋牌、以彰尙義

九年令、各處運司、將在庫無碍官銀及贓罰銀兩、趁時收買米穀、別倉收貯、委官守掌、如遇饑饉賑濟事例

十年令、支大倉銀三十萬兩、賑濟陝西、又諭富室、將所積粟麥、先招本家食用、其餘照依時價、糴與飢民、若每石減一錢、至五百石以上者、給與冠帶、一千石以上、表爲義門

## 經濟問答秘錄卷十下 終

# 經濟問答秘錄卷十一

## 田賦考一

○客云、元祿二年、公儀ノ辨士檢地ノ法一卷ヲ諸國ニ受ク、吾是ヲ拜見スルニ、文義解セザル所有

リ、由<sup>レ</sup>是拔抄シテ大略ヲ問フ

一地底之<sup>テ</sup>埒<sup>キ</sup>二尺許者、下田而干旱也

一地底之<sup>キ</sup>埒三尺許者、上田也

一地底之<sup>キ</sup>埒五尺許者、多<sup>シ</sup>濕<sup>ジツ</sup>下田也

## 辨<sup>ニ</sup>土色<sup>一</sup>

一土色白ク壤<sup>ハフ、キ</sup>地緩者、厩田惟中ノ下

一土色黒ク埴<sup>ウ、フモツ</sup>者、厩田惟中ノ上

一土色白ク埴<sup>ハフ</sup>者、厩田惟上ノ下

一土色赤ク埴<sup>ハフ</sup>者、厩田惟上ノ下

一土色<sup>ヌウ</sup>淖<sup>ヌ</sup>色薄黒灰者、厩田惟下ノ下

一土色黃埴者、厥田惟上ノ上

一土色玄疏、而沙錯壤、厥田惟中ノ上

一土色青黎者、厥田惟下ノ上

一土色黃壤者、厥田惟上ノ上

播種土性

一山田丘阜者、陽地而宜<sup>アツ</sup>播<sup>アツ</sup>梁

一野原空間ノ地者、宜<sup>レ</sup>播<sup>レ</sup>稗

一林間凹地者、陰地宜<sup>レ</sup>播<sup>ニ</sup>麥大豆<sup>一</sup>

一處ニ由リ、山上阜開ノ處有<sup>レ</sup>ドモ、永代阜ニハ成リガタシ、一兩年ハ能ク出來ル事<sup>ア</sup>レドモ、後年必ズ廢ルベシ、尤モ廣キ場處ニテ、亦見棄難キ地ハ、其程好キ處ニ替ルベシト、開主ニ申シ渡シ、縱ヒ一段有<sup>ル</sup>トモ、五六畝許リニ寬メテ、上ノ永嘆<sup>カシ</sup>帳ニ記シ置ベシ

一町宅百姓宅<sup>ヤシキ</sup>ノ檢地ハ、町ハ兩方ノ界ハ、寸尺迄モ殘ラズ打詰メ、宅ノ前後ニ然ルベキホド見分テ免スベシ、點々ノ百姓宅ハ四方ニ免地スベシ、特ニ宅ハ田嘆<sup>ハタ</sup>ノ様ニ打詰ニスベカラズ、山<sup>レ</sup>是名主ノ宅倉宅等檢地シテ、先例ヨリ年貢濟ミ、濟ザル所モ可有<sup>レ</sup>之儀也

余云、如是宅地ハ、田阜ヨリモ、竿ヲ寬ム公儀ノ掟ナルニ、今時侯國ニ於テ宅地ハ租高キユ

エ打詰ニ致セルハ、甚ダ無理ナル事ナリ

一田畠ニ由ラズ、竇端川端等ハ可然ホド積ヲ以引キ免スベシ、林薪或ハ大木ナドノ際ニ有ル田畠ハ日陰ノ見積リ、是モ引テ免除スベシ、又田ハ大小ノ畦ヲ見積リ、是モ引テ免除スベシ

一田畠ハ年ノ登ヲ視テ、其地ノ位ハ證トシガタキユエ、稜跡ニ檢地スベシ、然レドモ不功者ナレバ土性分明ナラズ、故ニ功者ヲ用ヒ、土性ヲ得ト考ヘ、永代ノ位付ニ改ムベシ、立毛ノ好惡ヲ以テハ證トハシガタシ、其作人ニ由テ一年ハ能ノ登レドモ、野土ノ處ハ重ネテサル者ナリ

一穂ノ上ニテハ、蒔迹ヨリモ能ク視ユルナリ、土ハ國處ニ依テ色々有レドモ、野土ノ境ニ二色アリ、眞土ハ何色ノ上モ墾テ堅キ者ナリ、大抵眞土ノ田ハ秋ニ至テ無水、野土ハ灰ヲコネタル如ク、墾無ク淡爽トシテ、秋モ水有テ格カズ、又野土トイヘドモ、田ニ依テ格カザル處モアリ、縦格クトモ土輕ク視エ、淡爽カラツク處アリ、眞土ノ田ハ水有ル處モ土堅リテ、人ノ足深ク入ラズ、又赤眞土・黑眞土・沙眞土・紫眞土等、何レモ眞土ハネバル故、能ク氣ヲ付ルベシ、其外種々是アリ、砂眞土ハ黒小石・白小石雜沓ハ好シ、赤小石・赤小砂ノ雜沓ハ必惡シ

一西國ハ表ニシテ、關東ハ裏ナリ、其土ニ應ジテ艸木モ又異ナリ、其土性ヲ能察スベシ

一上田ハ國中ノ廣キ處ニ有レバ、山中ノ中田ノ下ハ、國中ノ廣キ處ノ上田ヨリ増事多シ、因テ國中ノ上田ヨリ、山中ノ中田・下田ニ念ヲ入レテ、檢地スルヲ好シトス、高物成モ山中小村ニ在リ

一上々田眞土ノ田ニモ、塌<sup>ヒナキ</sup>堀口懸リ始メノ田ハ、冷<sup>ミナリ</sup>テ登少シ、故ニ上田ノ位ニ付置カズ、其間通りヲ少シ免除スベシ、同クハ聞キ口ノ田ハ眞土ニテモ、大抵中田ノ位ニ仕立ルヲ好シトス  
一上田ハ一段水二寸許モ有テ、五六七月中モ猪<sup>ブタ</sup>ハ好シ、稻モ大抵登ルト傳語ス  
一中田ハ、一段三寸許猪リ有ルハ、好シトス  
一下田ハ、一段四寸許猪リ有ルハ、好シトス

### 田曠高下

一東高西低ハ、早稻滿作 西高東低ハ、晚稻滿作 南高北低ハ、下作 北高南低ハ、上作

### 檢地ノ法ニ五ノ用捨

一本陰、日常惡キ所ハ、少シ竿ヲ免ズ

一罌、竿ヲ當ル時除ク

一它、四壁ノ分、一間ホドヅツ除ク

一阡<sup>ハナ</sup>陌<sup>セシ</sup>、阡ハ野路ナリ、除イテ帳内ニ記ス、陌ハ道ナリ、是ヲ除ク、畠主一人通ル私ノ道ニテ、  
タノミナヨコミチ  
作場路ト名ク

### 五徳ノ地

一用水多ク、要水仕懸好キ處

一都會近ク糞多ク、蔬菜ヲ賣ル處

一上地ニテ、畝步廣キ處

右ハ作人ノ天幸也、是ニ叛ヲ五損地ト云

一田寡ク、畠多キ地

右ハ民ノ幸ヲ得ザル地ナリ

### 井田ノ法

百畝ハ天子、八百畝ハ耕民

余云、本朝天子ノ供田人糞ヲ用ヒズ、余小魚ヲ田作リト名クルハ、供田ノ糞トスルユエカ

上田者百畝及九石、一步二三升粟也

中田者ニ百畝、反ニ七石、一步ニ二升三合

下田者、三百畝、反ニ五石、一步ニ一升六合七抄

下々田者三百畝、反ニ三石、一步ニ一升

外ニ有レ畠

### 田數

一町ハ、五十間ニ六十間

一間ハ六尺也、昔ハ六十間四方ニテ、三百六十坪ヲ一反トス

一反ハ三百坪

十歩ノ位ヨリ、下ハ三ニテ割ル

一畝ハ三十歩

一步ハ一坪、六尺一分四方

一分ハ長サ六尺一分、廣サ六寸

一厘ハ長サ六寸二厘、廣サ六分

一毫ハ長サ六寸一厘、廣サ六分

一絲ハ長サ六寸一毛、廣サ六分

一忽ハ長サ六分、廣サ六厘

斛・斗・升・合・勺・抄・撮・圭  
セウ セツ ケイ

田畠上中下ノ位ニ、其盛ニ乗ルヲ分米ト云、分米ヲ集メタルヲ高ト云

高

九町百石、十町百石

本朝大概是ヲ中地トス、或ハ五六八町ヲ上地トス、或ハ十二三町ヲ下地トス、然レドモ地ハ品ニ

由レリ、野土ノ處ハ百石ニ當ル所アリテ齊シカラズ、檢地ノ者之ヲ察シ、誤ル事勿レ

是外條目多ク、又檢者トナレバ、清廉專一ニスベキ事、神文按詞ノ記有リ、今侯國ニ於テ檢地ノ官ニ入リ、神文血判等ハ有ルヤ否ヤ、右辨士ノ法願クハ其譯ヲ聞ン

答云 古王代ハ右田文ニ限ラズ、禮樂・刑政皆唐朝ニ原ケドモ、武家ト爲テ武道ヲ主トシ、治教ニ心ヲ竭サズ、文學ハ無益ノ様ニ思ヒ、先哲ノ語力ヲ假ザルユエ、政典ニ暗キ事有レドモ、後更往々ト、其餘澤ヲ仰ギ、敢テ舊章ヲ匡糾セズ、餘々卑俗ニ陷溺ス、右ハ元尙書禹貢ノ篇ニ瞻據スル所ナリ、是ニ

賦有リ、賦ハ其土ニ生ズル物ヲ天子ニ供ユル事ナリ、和漢ハ寒暖同キユエ、土性モ亦異ナラズ、埴ト

云ハ、作土際ノ堅土ニニ、今俗ニ云フ埴ナリ、白ク壤トハ、白ハ色ヲ云、壤ハ質ヲ云、柔ナル土ニテ

塊無ク肥テ、物ノ自ラ生ジ易キ沃土ナリ、黒ク墳トハ、膏腴タル肥地ナリ、赤ク墳ト埴泥土ニテ今ノ

瓦土ナリ、渾色トハ、常ニ濡イシ泥土ナリ、玄疏トハ、赤ク黒ミタル色ナリ、青黎ハ黑色ナリ、土性

ハ一國ノ中、一縣一郷ハ勿論、一村ノ内ニモ陸ヲ阻テ異ナリ、故ニ白フ右ノ五色ヲ辨ズルトモ、其地

ヲ觀テ一々辨ス者ニ諭サズンバ、譬ヘバ天學シテ星名ヲ知ルトイヘドモ、清宵ニ出テ列宿ヲ指シ習ハ

ザルガ如ク、土性モ躬ラ辨シテ其土ヲ試ザレバ、其實ハ知レ難ク、皆空論ナリ、大率土性ヲ知ラン

ト欲セバ、色ヲ以テ證トセンヨリ捷ノ法ハ、先ヅ土ノ輕重ヲ衡ニ懸テ試ムベシ、重キホド上トス、大

體干濕十幾許リ、此ヲ最上トス、輕キ土ハ四百目許リ、是ヲ極下トスルユエ、斯ル所ハ無稅ノ様ニ致

シ置ベシ、又其邊岩石或ハ小石駁<sup>マツ</sup>リノ土ハ、石堅ク重キホド土性モ重ク沃土ナリ、石輕ケレバ礫土ナリ、古聖王ノ世ニハ、草人・稻人・司稼ナド、云官吏有テ、自身モ其職掌ヲ重ジテ、稼穡樹藝ニ精シク、其上ニテ農民ニ撝揮シ、賦歛ハ身ヨリ出スガ如ク思フユエ、民モ信服シテ其命教ニ從ヒ、昏作シテ怠ラザルユエ、其登田一段ハ今時ノ二段ニモ比ブベシ、後世ノ職掌ハ世祿上薦ニシテ、稼穡ノ難行難苦ヲ我身ニ體認セズ、唯一歩タリトモ上ニ益ヲ忠トスルユエ、民心服セズ、國家ハ千百世永續ナル者ユエ、一涸ノ利ニ眼ヲ紙レズ、小利ハ大利ノ殘也ト云語ヲ守ルヲ社稷ノ臣ト稱スベシ

或國ノ檢地錄ヲ閱テ、茲ニ其大意ヲ臆<sup>シル</sup>ス  
古ニ据<sup>ツ</sup>ズ竿ヲ入レ、畝數・位盛新タニ仕立ルヲ檢地ト云

古ヲ見合セ、畝ノ廣狹ヲ平均シ、位ノ甲乙ヲ改メ、竿ヲ入ル、ニ古帳ヲ踐テ改ムルヲ地押ト云

古帳ヲ見合テ、今ノ高盛地味ヨリ細ク、畝モ廣キ處ハ高ヲ倍ス、是ヲ居檢地ト云、右三條皆檢地ノ方ニテ、公儀代官ニモ用ヒ玉フトミユ

### 田場盛<sup>ハタモリ</sup>ノ事

石盛ハ、其他ニ登ル所ノ高ヲ以テ究ムルノヨシ、譬ヘバ上田一段ニ五斗入ノ粃拾苞ハ五石、半磨ニシテ米二百五斗ナリ、此ヲ上田ノ盛ニ究メ、中下田此ニ準ジ、其村ニ由テ耕田ノ遠近、地位ノ甲乙屹ト見分難キ處アリ、能ク理ヲ推テ窮ムベシ、位ノ次第ハ、二斗零<sup>ヲチ</sup>ヲ大法トスルヨシ也、古ハ段ハ三級ニ

過ズ、今ハ五七段モアリ、盛モ一斗零<sup>ナチ</sup>、五升零<sup>ナチ</sup>、或ハ上田モ二斗零、中下田ハ三斗零、下々ヨリ下々下ハ又二斗零ト竈メ、上々田・上田・中田迄ハ二斗零、下田下々田ハ三斗零、下々々田ハ下々ヨリ二斗零、三下田ハ下々々ヨリ二斗零ト、元高ニ次第ニ減ジテ、又右ノ如ク減耕シ、其地味ニ隨ヒ、又并シテ一斗二斗、或ハ二斗五升零ト、其所ニ由テ不同アリ

畠盛ハ、田方ノ位ヲ上々盛ニ竈ルヲ大法トスレドモ、亦證トモシカタシ、見合スベシ、位盛ハ田方ニ同ジ、但シ田方ニ位五六段モ有ル村畠ハ、上中下三段ニ究リタル村アリ、又田方ノ段數同キ所モアリ

古田一段ハ三百六十步、一年ノ日數ニ配ス、日本ノ一步ハ六尺五寸、一步ニ粃一升ニシテ三石六斗、此ヲ脱粟シテ一石八斗、此ヲ男一口ノ扶持ニ充ツ、田ノ十八盛此ヨリ出ヅ、分米ト云ハ是ナリ、畠ハ田ノ變化スル所、一步ニ麥一升成ニシテ三石六斗ナリ、脱皮シテ半減ト成リ一石八斗、此ヲ米ニ代レバ九斗、此ヲ女一口ノ扶持ニ充ツ、畠ノ九ツ盛此ヨリ出ヅ、分米ト云ハ是ナリ

## 問 竿

公儀御竿六尺一分、但シ一分ハ砂入ト云  
諸國六尺三寸、或ハ六尺五寸ヲ宅竿ト云

## 竿 名

本竿・弓竿・車竿・提竿・引繩

南ハ槌コカケ一間、東ハ三尺、西ハ二尺、北ハ無用ナリ、宅竿ハ、竹木榮エタル處ハ、藪林ノ竿ヲ別ニ打置キ、空宅ハ、寛ク打ツヲ法ト云、予按ズルニ、槌モ其高低ニ由レリ、南方ハ一間トアレドモ、二間モ三間モ引ク事宜シ

一年畝物ト云モ、一毛畝物ト云モ、同ジト云人有レドモ、川端・塘端・江子・井溝ノ邊ニ空地ヲ聞キ、二季共ニ所務スレドモ、御普請ニテ土ヲ揚ゲ、又ハ土ヲ取レバ、畝物床崩レテ耕作ナラズ、土取揚シ處ハ、漸々土留ルヲ待テ、手ヲ入ルレバ耕作スルナリ、又川内洪水ニテ洗ヒ剥ギ、暫ク不毛ノ土トイヘドモ、手ヲ入レテ作ル處ハ、徳米ノ竈々雖キ地ハ一年畝物ナリ、又一毛畝物ハ、一年ニ一毛ノ外作リ難キ處ニ、強テ冬作ヲスレバ、霜ニ傷ミ春雨ニ腐ル、類ヲ云、然レドモ一年畝物ト名ケシニ續テ無キ事ナレバ、名目違ヘリ、一毛畝物ニ二季ノ作好キ年モ有ル時ハ、名目叶ハズ、由畝物・海畝物、其外共ニ生ジ出タル處ヲ、名トスルハ是ナラン、是モ其土ニ應ズベシ

古王代ニハ、民ノ納ルニ三條アリ、租・庸・調ナリ、田ヲ耕セバ租ヲ出ス、庸ハ一戸ヨリ絶八尺ヲ出ス、調ハ公役ナリ、後世年貢ノ高キハ、是三ツフ策ネ集メテ取ルユエト先儒ノ説アレドモ、今時ハ公役ハ別ニ勤ムトミユ、右三條ハ皆唐朝ニコレリ

唐太宗時「凡授田者、テイ丁歲輸粟二石稻三升、謂之租、丁隨鄉所出、輸租絹一疋綾繩二丈、布加五

之一・綿三兩・麻三升、非<sup>ナサムレハ</sup>諸鄉<sup>ニ</sup>田輸銀拾兩、謂<sup>ニ</sup>之調、用<sup>ニ</sup>人之力、歲二十日、間加<sup>ニ</sup>二日、不<sup>レ</sup>役者、日爲<sup>ニ</sup>組<sup>ニ</sup>三<sup>ニ</sup>尺、謂<sup>ニ</sup>之庸、有<sup>レ</sup>事而加<sup>レ</sup>役、二十五日者、免<sup>レ</sup>調、三十日者、租調皆免、通<sup>ニ</sup>正役<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>過<sup>ニ</sup>五十日、水旱霜蝗、耗<sup>ニ</sup>十四<sup>ニ</sup>者、免<sup>レ</sup>其租、桑麻蠶者、免<sup>レ</sup>其調、田耗<sup>ニ</sup>十<sup>ニ</sup>之六<sup>ニ</sup>者、免<sup>レ</sup>租調、耗<sup>ニ</sup>七<sup>ニ</sup>者、諸役皆免

代宗詔<sup>ニ</sup>天下<sup>ニ</sup>田一畝稅<sup>ニ</sup>錢十五<sup>ニ</sup>、以<sup>ニ</sup>國用急<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>及<sup>レ</sup>秋、方<sup>ニ</sup>苗青<sup>ニ</sup>則征<sup>レ</sup>之、號<sup>ニ</sup>青苗錢<sup>ニ</sup>

憲宗分<sup>ニ</sup>天下<sup>ニ</sup>之賦、以爲<sup>ニ</sup>三<sup>ニ</sup>、一曰上供、二曰送使、三曰留州

宋德宗代、楊炎作<sup>ニ</sup>兩稅法<sup>ニ</sup>、夏輸不<sup>レ</sup>及<sup>ニ</sup>六月、秋輸無<sup>ニ</sup>過<sup>ニ</sup>十一月<sup>ニ</sup>

日本田數、方六尺五寸爲<sup>ニ</sup>一步<sup>ニ</sup>、三十步爲<sup>ニ</sup>一畝<sup>ニ</sup>、十畝爲<sup>ニ</sup>一段<sup>ニ</sup>、<sup>三百六十</sup>步十段爲<sup>ニ</sup>一町<sup>ニ</sup>、古制孝德天皇紀曰、凡

田長三十步、廣十二步爲<sup>ニ</sup>一段<sup>ニ</sup>、<sup>三百六十</sup>十段爲<sup>ニ</sup>一町<sup>ニ</sup>、中華方六尺爲<sup>ニ</sup>一步<sup>ニ</sup>、步百爲<sup>ニ</sup>畝<sup>ニ</sup>、百畝爲<sup>ニ</sup>頃<sup>ニ</sup>

道路里數、唐六尺爲<sup>ニ</sup>一步<sup>ニ</sup>、三百步爲<sup>ニ</sup>一里<sup>ニ</sup>、古ハ土地ヲ度ル<sup>ニ</sup>ニ弓ヲ用<sup>ニ</sup>、二尺ヲ一肘<sup>ニ</sup>トス、四肘ヲ一弓ト

ス、三百弓ヲ一里トス、三百六十步ヲ一里トスルハ、三百弓ナリ、本朝ハ六尺五寸爲<sup>ニ</sup>一間<sup>ニ</sup>、六間爲<sup>ニ</sup>

一段<sup>ニ</sup>、六十間爲<sup>ニ</sup>一町<sup>ニ</sup>、三十六町爲<sup>ニ</sup>一里<sup>ニ</sup>、古以<sup>ニ</sup>五十町<sup>ニ</sup>爲<sup>ニ</sup>一里<sup>ニ</sup>、或四十八町、或六町、後世封建ト爲

テ、今諸國ノ里數區アリ、東海道ニ六町ノ地少シアリ、中國北國ニ七十町アリ、九州ニ五十町、四十

五町アリ、其地ニ往テ間ズンバ分明ナラズ、今田數ニ何反ト書ケドモ、反ハ錯ナリ、坪ト云ハ少シモ

據所ナシ、噉<sup>ナラデ</sup>ト云ハ、地廣ク道多キヲ云、町ノ字古書ニ見エズ、堤防空間ノ地ヲ町ト云、然レバ度數

ニ用ユル理無レドモ、「又田區之畔略、又田畝謂之町」トモ見ユレバ、用ヒテモヨシ、我國古來頃ノ字ヲ用ヒザルハ、如何ナル譯ゾヤ、十町ヲ頃ト云、故ニ十町ノ時ハ一頃百町ハ十頃ト記ス事ヨロシ、畠曠ハ後世ノ俗字、本書ニ會テミエズ、今ノ畠ト云ハ場・圃・曠ナリ、曠ハ麥ヲ播ク地ナリ、田ハ田畠ノ總名也

本朝穀ヲ始テ殖ヘシハ、神武天皇ノ時、豐天富命・穗風雄命、始播殖穀麻<sup>トヨケトミコトホカセ</sup>ト日本紀ニミユ、崇神天皇十二年、初校<sup>カシゲ</sup>人民調役、十町田奉ニ一町稻百、人民奉ニ一人役

官局ノ本帖ニ、田畠地名ノ書載細密ナキユエ、姦民トモ上ヲ欺キ、或ハ界ヲ侵奪シ、口事爭論絶エズ、由<sup>ナカシユ</sup>是一村ノ内ニモ小名ト云テ、古來言<sup>イシサヲハシ</sup>微ノ地名、何レノ處ニモ有ル者ユエ、本帳ニ細密ニ其小名ヲ記シ置ベシ、國政ハ初メヨリ萬事縝密ニ致シ置ズンバ、罪人ヲ待ト云者ナリ

一村毎ニ祭田ト云テ、四段モ五段モ會排シ、酒食用トスル處アリ、是フ一段限リニシテ餘ハ悉ク取上ゲ賣斥スルカ、又ハ孝子窮民ニ與ユルヲ善シトス、蓋シ同村ユエ、一人ニ與ユルモ、衆民彼ガ名ヲ假テ、内證ハ又祭給トスルナラン、能ク遠慮ヲ廻ラスベシ、一段ニテモ米六七苞生ズルユエ、祭祀ハ隨分事足レリ、祭給多キユエ、生來ノ下戸モ、自然ト飲習ヒ、數十日隙ヲ費シ、喧嘩口論モ致シ、大ニ國害トナルナリ

庶民ハ頑愚ユエ、不根ノ妄言ヲ信ジ、國政ノ障ト爲ルノミナラズ、農業ノ害ト爲ル事多シ、見聞毎ニ

片端ヨリ能ク諭教シテ、消弭スルヲ憂國ノ賢臣ト云者ナリ、聒々々ル民言信ズルニ足ランヤ、淫祀等ニ於テハ格別ノ事ナリ

村里ニ小河大湍アリ、統テフウリコウ江梁ヲ掛置ベシ、大川急流ニハ、初メヨリ瞻慎ムユエ水死モ稀ナリ、小川ハバイウ霪雨ノ比、老人童子、或ハ婦女ドモ稚子ヲ負ヒ、或ハ物ヲカネ弃ゲテ田植ニ往キ、歸路ニ水溢漲スレドモ、黄昏ニ渡テ溺没毎年有リ、或ハ川ヲ阻テ植田モ日ヲ延ス事アリ、稻ハ百日ノ蒔時刻ニ、一日ノ植時刻、麥ハ一日ノ蒔時刻ニ、百日ノ播時刻ト云事アリ、故ニ苗ハ時至ラバ、一時モ延スベカッズ、是等ノ事ニ氣ヲ附ルヲ、仁者ト云ベシ、「君子勤ニ小物、無ニ大患」

田畝畝數ハ、一郷毎ニ野帳・名替帳共ニ二卷有テ、野帖ニハ、初テフシダウ鰥ハジムノ人名ヲ記シ置ケドモ、寛永以後數百年ヲ歷テ、其子孫曾テ知レズ、蓋希ニハ今ニ於テ傳來ノ官民モ殘レリ、是等ノ者ハ一町以上開發セシ家ハ、其後孫ヲ搜リ賞賜スベシ

畝町ノ界、何某ハ何段ト官帖ニハ記シアレドモ、畦界紛擾ユエ、之ヲ分ツ事諸國各異ナリ、角ト云ハ元唐朝ノ制ニ據ル、唐制ニ一畝分爲ニ四角、每角六十歩ト見ユレドモ、今ハ何十角ト次第ヲ立ルハ最善シ、又下ト云テ番附ヲシテ、何百町モ下名ヲ以テ證トスルユエ、時ニ由テ姦民等鈍直ノ者ヲ誣ス事間有リ、又小盛ト云テバテシルシ柵材ヲ建置キ、或ハ樹木ヲ植エ、材ハ五六年ニ建替ルユエ、役夫ノ難澁アリ、樹木ハ茂盛スレバ、其樾田害ト成リ、皆不便利トミユ、余按ズルニ、大畷オウケナラバ作場ノ小徑、又ハ村

境ニ高サ二尺許リ、幅一尺ホドノ標石ヲ立テ、四面ニ第一番、東ハ道限リ、西河溝カギリ南何村カギリ、北山麓カギリト、其處ニ應ジ田何百町、畠何町ト記シ、毎石一番ヨリ何十番ト次第ヲ記シ、本帖ニハ是ニ角ヲ立テ誌シ置カバ、畝數モ分明ニシテ爭端モ無ク、互ニ侵奪セズ、其内ニ自力ヲ以テ畠ヲ田ト成サバ、渠ガ苦勞ニ免ジ田租ヲ掛ズ、水邊ハ始ヨリ町數ニ加ヘズシテ記シ置ベシ

官道ニ並木ヲ植ルヲ表道ト云、古ノ禮ニシテ、往來寒暑ヲ凌グノミナラズ、又守禦兵備ノ一端ナリ、今侯國ニ於テ專ラ松ヲ植レドモ、未ダ民情ヲ知ラズ、松ハ其穢田<sup>コカケ</sup>畠瘦磽ニ成リ、又水田ノ側ハ水氣ヲ吮取リ、或ハ葉ノ隕ル處甚大害アリ、故ニ諸國皆三四間通リハ免除アレドモ、尙モ不足ナルユエ、淺木ニ易テ、黃櫨等ノ落葉ノ樹ニシテ、公木ニ致サズ、路傍持主ノ田畠ニ附置キ、運上ニスベシ、不虞ニ臨ンデ、逆茂木ニハ松モ落葉ニ易ル事無シ、唯枝多キヲ好トス

一里塚ニ松ヲ植ルモ、田畠近キ處ハ其害前ニ同キユエ、石ヲ立ルベシ、中華ノ書ニ、五里ノ封畝ト見エシハ皆石標ナリ

田中ニ小石礫ヲ積立テ、塚ト成ル處間有リ、悉ク地ヲ掘テ埋ムレバ、一郷ニ積レバ其生穀大總ナリ、是則陰德ト云ベシ、蓋シ古墓ハ其儘ニ置クベシ

一尺ノ土ニハ、一掬ノ穀ヲ生ズ、其穀ハ人命ヲ救フ物ユエ、無益ノ事ニ地ヲ費サズ、榮穀ヲ收レバ一方ニ年貢ヲ減ジテモ、國用ニハ不足ナシ、是故ニ古ノ賢君ハ園苑牧坳ヲ崩シ、民ニ與ヘテ耕山トス、

後世ノ君ハ兎裘ノ地、遊觀・假山ヲ諸處ニカマヘ、數頃ノ土地ヲ費事、天ノ畏レモアリ、已ム事無ン  
バ城外要路ニ建ルベシ、下ハ上ニ倣フ者ユエ、素封ノ輩モ又是ニ從慣ス、大村松島ニ昔與五郎ト云者  
ノ、築山蘇鐵ヲ植ル山凡ソ周一里、蹣跚ヲ植ル山、周リ又同ジ、今ニ貽レリ、斯ル驕奢ハ元來上ノ儉  
法制度無キ故ナリ、宋ノ堯王大總ノ假山ヲ築キ世ニ銜テ、諸士ヲ召シ視セシムルニ、姚坦之ヲ視テ獨  
リ讚ス、民ノ膏血ヲ以テ爲ルユエ血山ト名ク、王參政伯ガ四留ノ銘中ニ、「留ニ有餘不<sub>レ</sub>盡祿、以還<sub>ニ</sub>朝廷、  
留ニ有餘不<sub>レ</sub>盡財、以還<sub>ニ</sub>百姓」是句寔ニ有祿 人守ルベキナリ

漢武帝元年、罷<sub>ニ</sub>苑園、賜<sub>ニ</sub>貧民<sub>一</sub>、養馬之花今陽民爲田元鳳二年、罷<sub>ニ</sub>中牟苑、賦<sub>ニ</sub>貧民<sub>一</sub>

鄉村ノ寺觀、三四十年來迄ハ總テ茅葺ナリシニ、漸々花奢ヲ嗜ミ、諸宗相競フテ新造瓦葺ニ致スノミ  
ナラズ、宅地ヲ弘メ、其費ヘ年ヲ積デ民ノ難澁ヲ察セザルハ、全ク上タル人仁心無キ故ナリ、或ハ路  
傍・小徑<sub>ミナ</sub>・畠端等ニ小堂石像ヲ立ル事、年ヲ逐テ益々繁シ、委曲ハ別卷ニ載ス、禁法ヲ速ニ立ルニ如ズ、  
是仁政ト云ベシ

官道駒寄<sub>コウコセ</sub>ハ勿論、在々小徑ニ至ルマデ、漸々刻狹<sub>ケクリセバ</sub>メル事多シ、一村毎ニ其寸法ヲ究メ置テ本帳ニ記シ、  
十年ニ一遍檢地スベシ、或ハ畦ニ高低有レバ、下ヨリ其塘ヲ刻リ落スヲ定法ト心得ルハ甚ダ惡シ、唯  
生草ノミ耘ヲ法トスベシ、古周代ニハ畔ヲ讓リシ事、後世曾テ無シト思ヘドモ、日月・山川・人情ハ古  
今異ナル事ナシ、今ニ於テモ聖賢ノ轍迹ヲ踐マバ、則睦ヲ讓ル風俗ト成ル事必定ナラン

閑田ハ無税ナリ、昔ハ今時ノ様ニ租税細密ナラズ、自力ヲ以テ開發スレバ租ヲ掛ズ、甲州高坂彈正ハ幼名春日源五郎、父ヲ大隅ト云、富有ノ農民ニテ、山林曠野ヲ墾キ、閑田莫大ニ所持スト、甲越軍記ニ見ユ、國家ヲ治ルハ味噌ヲ角ナル搗盆ヘチニテ摺レト、古ノ賢君ハ宣ヘリ、徒黨一揆ハ皆竿ヲ當テ租ヲ増シ、徭役ヲ繁クスルヨリ、遂ニハ天下ノ亂根ト爲ル、是故ニ昇平ヲ願ハ、寡欲ニ如ズ、諸國ニ免地有リ、一郷一村及ビ一人ノ免除モアリ、一村ノ免除ハ閑國ノ祖宗ノ生レシ處カ、或ハ合戰ニ郷民勳功ヲ立シ處、其外様々ノ賞功ニ由レリ、一人ノ免除ハ、孝子良民或ハ國功ノ者ナリ、備前ニハ芳烈公免除白筆ノ感狀、今ニ於テ民家ニ處持ノ者多シ、土地ハ天地ノ賁ダモノナリ、私一人ノ物ニ非ズ、天爵ノ者ニ願アタ與ユルハ天道ニ叶ヘリ、設令聚斂シテ數百石ヲ取ルトイヘドモ、一潤ノ事ニシテ、已ニ兩三年ヲ經レバ、始ノ小祿ニ易ル事ナシ、況ヤ數百年ノ後ニ於テヲヤ、筑後ハ水邊裏町等ニ免地多シ、先主田中氏ヨリ承繼ヨシ、守信ト云ベシ、時ニ由リ賁吏有テ、舊來ノ免地ニ竿ヲ入ルハ、貪婪ノ名ヲ其君ニ與フルモノナリ、蓋シ其土ニ在テ貢セザルハ、人タル道ニ非ザルユエ、免地ノ處ハ其恩澤ヲ知テ、上ノ困窮ヲ救フベシ、長崎ハ町中統テ免除ノミナラズ、其上軒錢ト云テ、一戸毎ニ鳥目ヲ賜レドモ、皆屋主ヨリ取レリ、然レドモ亦八兩銀ト云テ、自分相應ニ八月一日ニ奉行ニ銀子ヲ捧グ、京都ハ明智光秀初テ地子ヲ許ス、一説ニ、豐臣氏ヨリ起ルトモ云、大猷公上洛ノ時、京都・大坂・伏見・左海・大津ハ皆地方ヲ免許シ玉ヘリ、夫君ハ民ノ父母、太陽ハ照ス所私シナシ、太宰氏京都免除ヲ批判スルモ、又一理

無キニモアラズ、免地ノ者ドモ必ズ其君恩ヲ忘レズ、佛寺ニ捨ル財ヲ以テ國主ニ報ズベシ、年貢低キ處ノ民モ亦同ジ

年貢ヲ銀納スルハ、漢ノ昭帝ヨリ始リテ、我邦モ古王代ヨリ傳ル、後漢ノ桓帝延喜八年、<sup>一</sup>初令<sup>二</sup>郡國、有<sup>レ</sup>田者、畝稅<sup>レ</sup>歛<sup>レ</sup>錢一畝十錢、名<sup>ニ</sup>之修宮錢、<sup>三</sup>是ヲ以テ觀バ、昔ハ今ノ様ニ米一升何程ト直段ヲ立ズ、其畝數ニ掛ルトミユ、今ノ世ハ米估時々變易スルユエ、納ル時ノ相場ニ充ルハ當然ニテ、冬ニ至リ近國ノ直段ニ方ベテ建ルヲ、諸國皆定法トスレドモ、又下直ニ致ス國モアリ、下ハ利ニ喻キ者ニテ、邊近國ノ直ヲ知ルユエ、高ケレバ必ズ上ヲ黷ム、因テ一二割モ低ルベシ、是時他國モ下直ト思ヒ切り、欲ヲ去ラバ何事カ有ンヤ、然シ餘リ下ニスレバ、姦智ノ者ドモ米ヲ賣リ、利分ヲ得テ銀納ニスベシ、全體ハ銀納ハ好ムベキニ非ザレドモ、是之禁レバ、上下共ニ難澁ユエ無テ叶ハズ、銀納ニ就テ姦智ノ庄屋名主トモ、私曲有ル者ユエ、時々心ヲ附ルベシ、畢竟一揆勃興、多クハコレヨリ生ズルユエ、銀納直段ハ、十一月初旬領中隅々迄旁ク告ルベシ、肥後ハ諸處ニ高札ヲ建テ、當年ハ米一升何十文、麥・大豆・粟ハ何十文ト記シ置バ、寔ニ安民ノ良制ナリ、諸國秋ニ至テ、鄉村處々ニ制札ヲ立テ、諸勸進入郷ノ禁有レドモ、丐乞・僧座一人モ入ラザル者ナシ、故ニ斯ル不行ノ制札ヲ立ンヨリ、右ノ銀納ノ榜ヲ立ルベシ

僧徒・修驗・虛無僧ノ輩、秋ニ至テ摘綿米粟奉加ヲ致スコト、庄屋村役ヨリ堅ク禁制スベシ、就<sup>レ</sup>中門徒

ノ村ニハ組ヲ立テ、寺公役ト名ケテ、毎日寺ニ菜穀ヲ運ブ事アリ、速ニ嚴禁スベシ、委クハ僧道ノ卷ニ出セリ

○客云、租ハ高クシテ、畝ノ廣キガ好キヤ、畝ハ狭クトモ、租ノ低キガ好キヤ

答云 租ハ高クトモ畝ノ廣キヲ好シトス、一村ノ内ニモ是狹濶アリ、昔或村ニ畝廣キ處アリシニ、姦惡ノ者己レ一人賞ヲ受ント、密カニ上ニ告グ、固ヨリ祖宗ヨリ仁恕ヲ垂レ置キ玉ヘバ、是時上ニ仁君在サバ、斯ル者ハ罰スベキニ、貧吏ノ徒竿ヲ入レテ、畝ヲ縮メ、租稅ヲ増ス、於今數百年、一郷ノ者彼ガ後裔ヲ惡ム事寇讐ノ如シ、或國ニ農民トモ本帳ノ畝數ヲ知ラズ、皆有畝ヲ以テ粟一斗播、二斗播ト云、又賣買スルニモ、沽券證文ニ右ノ如ク記セリ、下トシテ本帳ヲ知ラザルハ、正直ノ風俗ト云ベシ、一斗播ハ大低一段ナリ、我朝王代ヨリ近世マデ、一段ハ三百六十歩ナリ、豐臣太閤貪欲ニシテ天下ヲ檢地シ、縮省シテ三百歩トナス、小田原出陣ノ時、奥州ヲ檢地スルニ、蜂屋兵庫頭和歌ヲ詠ジテ諷諫スレドモ聽サズ、國主此ヲ致サバ凶賊起ラン、今我ニ天下ノ勢ヒヲ以テ是時ニ爲サバ、國人軍威ニ挫カレ普服セント云、太閤以降侯國皆領地、穀祿ノ收納ハ多クナレドモ、昇平花奢ユエ却テ匱乏ノミ多シ、然レバ地ノ狹濶、祿ノ多少ニヨラズ、則チ儉奢ノ二ニ決ス、家語ニ、「孔子曰、薄賦歛則富、哀公曰、若<sub>レ</sub>是寡人貧也、孔子對曰、愷悌君子民之父母、未<sub>レ</sub>見<sub>ニ</sub>子富而父貧<sub>一</sub>也、」是語ヲ深ク考ヘテ下ヲ富スベシ、太閤始メ卑賤ヨリ出シユエカ小事ニ眼ヲ舐レ、曾テ遠大ノ明慮無クシテ下ヲ虐ゲ、

其身一人ノ驕ヲ竭シ、御衆ノ君德無キユエ、永ク人君ノ位ニ在ル事能ハズ、始アツガル、廢卒タル時、織田公薪木儉約ノ爲メ之ガ職掌トナス、藤吉頓テ工夫シテ、一郷毎ニ一木ヅ、歛サセント伺ヘバ、織田公快トセザレドモ、然ラバ民ノ痛マザル様ニ、直ヲ昂クシテ代銀ヲ予ヘヨト命ズ、一切ノ品物、上ヨリ下ニ買ル事、始ノホドハ相違ナク遣ス事モ有ドモ、後々ハ穢吏出デ下ヲ侮リ永ク續カズ、上ヲ誅ル基ナリ、織田公ハ生レナガラノ大名ユエ、氣質寛量ナリ、太閤ハ卑賤ノ人ユエ、斯ク小利ニ眼ヲ附ケ、聚歛ノ氣質、弱年ヨリ已ニ見エシ事、此一事ヲ以テ察スベシ、今ノ世ニ經濟ト稱テ、利ニ由リ民ヲ聚歛スルハ、皆小身者ヨリエムトミユ、大夫タル人必信ズル事勿レ、遂ニハ國家ノ害毒ヲ招クベシ、「夫貪ニ其賦税、不<sub>レ</sub>愛<sub>レ</sub>人、是虞人反<sub>レ</sub>裘、而負<sub>レ</sub>薪也、徒惜<sub>レ</sub>其毛、而不<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>皮盡而毛無<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>傳、」是語ヲ以テ今ノ世ニ仕組咎ノ國ヲ觀ルニ、毫厘モ差ハズト見ユ、カナラズ倉卒ニ事ヲ起ス事勿レ

羅大經云、「仕不<sub>ニ</sub>必達、要<sub>レ</sub>之無<sub>レ</sub>愧、」愧ニ大小アリ、是ノ差別ヲ辨ヘズンバ、小耻ト思ヒ大耻ヲ受ク、國ノ耻アリ、身ノ耻アリ、身ノ耻ヲ知ル人ハ、必國ノ耻ヲ知ルベシ、國ノ耻トスルハ群黨ヲ第一トス、今時群黨起レバ、其會長張本ヲ捕ヘ、刑罰ニ處スレドモ、此ガ始末ヲ糺セバ、其本ハ上ニ在リ、仁君ノ國ニ凶賊ト云者、古來曾テ無キコトナリ、唐ノ陸象山云、「國家元無事、惟庸人擾<sub>レ</sub>之耳」トハ實ニ確言ナリ、故ニ備前芳烈公ハ惡事ハ上カラト云ヘリ、建國祖宗ノ舊典ニ因循シ、利ニ放ズンバ、下トシテ執カ逆ハシヤ、諸國屢々群黨起レルハ、貪婪收歛ヨリ生ズ、神君ノ御遺訓ニ、諸侯隔年ニ交代述職ハ、民家ノ

安否ヲ檢ン爲トミユ、人ハ何事モ其實地ヲ踐ザレバ、其情ヲ知ラズ、情ヲ知ラズシテ民ノ事ヲ計ルハ、皆竹ニ木ヲ接ニ同ジ、闇室ニ物ヲ撈シ、盲人ノ不自由ヲ察スルハ、始テ實地ヲ踏ユエナリ、治世ノ土人ハ座シテ祿ヲ受ルユヘ、稼穡ノ艱難ヲ知ラザルハ尤トスベシ、田圃ニ好惡アリ、其磽确ノ土ハ中華提封田ノ如ク、初メヨリ國計ニ加ヘズ、國家ノ出入ヲ量ラバ、何ゾ是ニ日ヲ觚ンヤ、群黨凶賊ハ固ヨリ苛政ニ在レドモ、古來大抵竿ヲ入ル、ヨリ初レリ、寛政八年ノ冬、勞州藤堂領ニ、凡四萬石ノ奉行茨木治兵衛ト云收斂ノ臣アリ、曩ニ鄉民諸處ニ此ヅ、墾耕ノ地ニ竿ヲ入レテ、租ヲ掛レバ鄉民群黨シテ、我々身力ヲ碎テ聞キシニ、斯ル處マデ租ヲ納メテハ、所詮相續ナラズ、奉行茨木ヲ我等ニ托シ玉ハバ、俱ニ耕シ其難行ヲ知シメント請フ、城代何某、<sup>ヅキ</sup>海リニ鎮レドモ、是者モ兼テ不信ノ風聞ユエ、肯テ服從セズ、數萬ノ人衆死ヲキワム、時ニ道德ノ名ヲ得シ家老馳來テ、望ミニ任セ租ヲ掛ザル證券ヲ渡セバ、竟ニ退散シテ謐レリ、故ニ人臣ハ常ニ美號ヲ得ルハ國家ノ實ナル事、是ヲ以テ察スベシ、又後金屏山ニ籠所ト云處アリ、昔國主匱乏ニ由テ租役ヲ増セバ、諸民起テ彼山ニ集ル、稻葉何某馳往テ之ヲ鎮ルニ、衆民口ヲ揃ヘテ租役ヲ増サズ、次ニ會長ヲ執拘無キヲ願フ、稻葉許諾シテ退カシメ朝議スルニ、執政怒テ増租ハ止ムベシ、會長ハ捕囚セズンバ、後年懲惡ノ道立ズト、竟ニ執拘スレバ、稻葉嘆息シテ、民無<sup>レ</sup>信不立、人ヲ欺キ何ノ面目カ有ラント遂ニ自殺ス、今五穀明神ト崇メ、其壯觀領中第一場メリ、萬治三年下總佐倉ノ城主、堀田上野介ハ十二萬石、老職苛政ヲ行ヒ、國民塗

炭ニ陷ツ、庄屋朝倉宗吾ト云者、一命ヲ捨テ衆苦ヲ救ハント公儀ニ訟ユレバ、暴政發覺シテ改易セラレ、竟ニ一萬石トナル、近年是事ヲ江都戲場ニ致シ、老職彼訴人ヲ拷問スル所ニ於テ、數千ノ見物人ドモ宗五ニ化タル俳優ニ參錢ヲ投與ユルコト、舞臺ニ堆ク積立ルト聞ク、夫惻隱羞惡ノ人情、默止ヌ所トミユ、當代ニ至テ諸侯改易セラル、事凡百五十餘家、多ハ人君ノ貪婪、臣下ノ惡狀、或ハ無嫡ヨリ生ズ、委キ事ハ國朝舊章錄ニ載タリ、「王者以レ民爲レ天、民逆ケバ天ニ逆クユヘ、天譴降レリ、故ニ天道ヲ畏レ、民ヲ侮ルコト勿レ、大坂落城ニ逼リ、秀賴諸士ニ向ヒ、汝等必死ノ功ヲ竭スコト、吾知ラザルニ非ズ、然レドモ賞スルニ尺寸ノ土無シ、故ニ我モ以レ死報ント云、高木寬夢落涙シテ、君ハ仁主ナリ、今滅亡ノ期至ルハ、全ク君ノ故ニ非ズ、輒チ先考ノ餘殃ト云ベシ、其故ハ古來ヨリ定リタル田數ヲ縮メ、永ク天下ノ民毒ヲ貽シ、或ハ無益ノ大佛ヲ建テ、莫大ノ財貨ヲ費シ、伏見・聚樂・大坂・名古屋ノ築城、壯觀ノ美麗ヲ盡シテ土木民力ヲ費シ、或ハ朝鮮出征徭役ニ、人民疲羸幾許ザヤ、是故ニ「積ニ不善之家、有ニ餘殃ニ也」ト云、太閤一代ニ積蓄充滿シ、諸士ニ財ヲ頒チ與ヘルコト兩度、然レドモ、民ニ租ヲ減ズルコト一遍モ無キハ、畢竟私欲ニシテ臣下ノミ恃トシ、臣下サヘ恩服スレバ家喪ビスト思案セシユヘ、又諸家ノ臣ヲ審ニ招キ玉フコト間有リ、是事元來聖賢ノ道ニ晦キユヘ、天下ハ人ノ喪ス事ヲ知テ、天ノ喪ス事ヲ悟ラズ、「夫愛レ民者有ニ天報」ト云、天ノ助ケハ、人力ノ及ブ所ニ非、國民貢ヲ納ノテコソ、君モ臣モ命ヲ繫グニ非ズヤ、自ラ耕シ自ラ食スル事ハ、所詮届クコトニ非ズ、

民ハ土地ナリ、土地肥レバ樹木枝葉ハ自ラ盛シナリ、「可<sup>レ</sup>畏者非<sup>レ</sup>民哉」ト、聖王ハ日夜恐レ慎ミ玉ヘリ、治世ト思ヒ必ズ侮ル事ナカレ、叢ニ馬ノ鼻突ク筈ト云、俚諺アリ

熊貝遺事ニ云ク、備前芳烈公熊澤了介ニ向ヒ、倘國家有益ノ事モ見聞アラバ、吾爲ニ告ヨト云ヘバ、了介答テ、今城下ノ市町ヲ視ルニ、商賈繁昌シテ、家作ノ花美ヲ競ヒ、二階三ガイノ家ヲ造レリ、二階ハ家ヲ二箇建ガ如ク、三ガイハ三軒ニ比ベリ、由<sup>レ</sup>是ニ階錢ヲ課セ、三階ハ之ニ應ジテ、一階ニ何程ト定メテ、年々運上ヲ收メ玉ハバ、上ノ得分ナラント云ヘバ、公大ニ氣色ヲ變ジ、汝ハ是マデ書ヲ講ジ、聖人ノ道ヲ教ヘシニ、今答ルニ仁義ヲ以テセズ、却テ聚斂ノ術ヲ勸ルハ、如何ナル故ゾト詰玉ヘバ、了介席ヲ避テ拜伏シ、君共御心在スハ下民ノ幸福ナリ、君既ニ二階錢ヲ聚斂ノ術トスル事ヲ知リ玉ハバ、當國年貢ノ外ノ諸課役モ、皆聚斂ナル事ヲ辨ヘ玉ハン、代々ノ奢侈ニ由テ、國用不足シ、民ヲ貪リ玉フ事、世々ニ倍ストミユ、上ニ儉約ヲ行ヒ、稅斂ヲ薄クセバ、何ノ聖學カ用ヒ玉ハンヤ、今在ル所ノ課役モ、元年貢ノ外ハ二階錢ニ異ラズト諫諍スレバ、公乍チ感悟シ、是ヨリ了介ヲ尊崇シテ舉用ヒ、國家ノ大任ヲ命ジ、賦斂役力ヲ薄クシ、國政大ニ隆ンニ成リ、近世ノ明君ト今ニ於テ仰レ玉フ、是事熊澤ガ一言ヲ以テ試ミル所ナリ、夫扁舟ハ萬石ヲ載ルコト能ハズ、賢才智術ノ臣有リトイヘドモ、其君庸主ナル時ハ、唯舌ヲ費シ、心ヲ苦メ、返テ災害ヲ徼ルノミ、是故ニ智者ハ其君ヲ知テ事ヲ計リ、君ヲ得ズンバ、舌ヲ結ンデ嘆息シ、時ヲ知テ卷舒ス、今諸國ヲ觀ルニ、二階錢ノ如キ者甚ダ多シ、茲

ニ芳烈公ノ憤怒ヲ省ミ、祖宗ノ時ト併セ考フベシ

杜少陵ガ詩ニ、「擒<sup>トリ</sup>賊須<sup>コニセ</sup>擒<sup>セ</sup>珠」ト云、凶賊ハ財貨ヲ奪フ縱欲ノミ、故ニ賊起ル時ハ、早ク其邊富家ノ

財貨衣糧ヲ守衛スルカ、又ハ城中ニ取寄スルベシ、兵書ニ奪恃ノ法是ナリ、又群黨起ルトキ、捕卒大衆馳向フハ、未ダ上智ニ非ズ、先ヅ兼テ國人稱美セル士ヲ擇ミ、從者一兩人ヲ牽キ、隱便ニ鎮メサセ、其後年ヲ累ネテ、其酋長魁首ハ官吏ノ方寸ニアルベシ、蓋其罪ノ根元ハ自身ニ在ルコトヲ知リ、忠恕ヲ以テ裁判スベシ

諺ニ云フ、手ヲ副レバ肩ニ揚ルト云ハ、士庶人皆知<sup>レ</sup>是、故ニ平牛嚴密ニ武威ヲ示シ置ベシ、滄浪ノ水濁ルユエ、人ヨリ足ヲ濯ハル、者ナリ

「君子群而不黨」群集シテ好キコトモアリ、伊豫大洲加藤侯、文德ヲ以テ民ヲ治メ、講學ヲ始ム、是時都府ヨリ數里ヲ阻シ成能<sup>ナリ</sup>村ト云處ニ、農民二十七軒アリ、村中相集テ、我々ハ隙無キ身ユエ、遠ク都府ニ往テ講學ヲ聞クコトモ得ズ、去トテハ是儘過ンモ口惜ケレバ、各々志ヲ述テ條目ヲ立テ、互ニ堅ク守ラント、村中集會シテ條ヲ記ス、是事頓郡代ニ聞エケレバ、其代官ニ命ジテ條目書ヲ取テ視ラル、ニ、

### 相定ノ覺

一 近年不作仕、難儀ニ及ビ候ニ付、情案ズルニ、何事ニヨラズ、誠薄キユエ、作方モ宜シカラザル

也、此以後ハ心ニ誠ヲ立テ身ヲ慎ミ、我職第一ニ可<sub>レ</sub>仕候

一 御法度ノ儀ハ申スニ及バズ、博奕ハ壹文ノ掛ケニテモ仕ル間敷候

一 耕作念ヲ入レ、其上仕付ケノ儀ハ、打チヨリ相談致シ、時分ヲ考ヘ仕付可<sub>レ</sub>申、諸作ノ下ニ草木等  
鹿相成ル者はレ有ラバ、急度改ム可ク、若シ又病人ナド之レ有リ、作方其外手オクレ仕リ候ハバ、俱  
ニ加勢仕ル可ク候

一 世間ヘ罷<sub>リ</sub>出候トモ、命ジ付ラレ候通り衣類改メ間敷、夏冬ニ洗濯物著ク仕ル可ク候

一 婚禮ノ儀モ、他所出會有<sub>レ</sub>之バ、煖酒仕ルベク、近處ノ取組ニハ、暖酒モ無用ニ仕ル可ク候

一 諸商賣ニ了簡致シ、酒堅ク買間敷候

一 諸無盡會ノ儀ハ相定是レ有リ、酒代ヲ米ニ致シ、有リ切リノ茶漬ニテ相調置ク可ク候

一 年始ノ暖酒ハ申スニ及バズ、只今迄互ニ祝ニ酒五合ヅツ持參ノ儀ハ二三年相延、肴代二十文持參  
可<sub>レ</sub>致、悔ニハ肴代拾壹文ヅツ持參可<sub>レ</sub>致候

一 酒煮賣<sub>リ</sub>致ス者ハ、家内ヘ入<sub>レ</sub>申間敷事

一 親子兄弟ハ申スニ及バズ、其外一家一類諸傍輩睦ジク致ス可ク事

一 御庄屋役人中ハ勿論、諸傍輩ニ至ルマデ口論出入致ス間敷、若不<sub>レ</sub>得<sub>ニ</sub>其意<sub>一</sub>儀候ハバ、傍輩中ヘ相  
談致シ埒明可<sub>レ</sub>申候

右ノ段々堅ク可ニ相守、若一人ニテモ背ク者有レ之候ハ、互ニ改メ可申候、定書如レ件

元文五年庚申二月十八日

村中連判

右ノ如キハ群黨多キホド其君ノ美號ナリ、領主感心シテ賞ヲ賜リ、其外封中孝子良民悉ク褒稱シテ、忠孝好人錄ト命ケ、躬ヲ跋ヲ書キ、上本シテ今世ニ行ハル、右ノ條目ノ發端ニ、人心誠無キユエ不作ト記セルハ、能ク天道ヲ知レリ、今時ノ者斯ル所ニ氣ヲ附ル者曾テ有ラズ、堯舜ノ民モ、桀紂ノ民モ人情ハ易ル事ナシ、時ノ人君ニ由テ好惡ト成レリ、右ノ好人錄、其外筑前孝子傳・備前孝子傳・肥後孝子傳等ヲ見フ、今世間ニ併セ視ルニ、亦無キニシモ有ラズ、十步澤沓草生、搜ラザルユエ見エザルナリ、天ノ君ヲ立ルハ百姓ノ爲ト、仁德天皇ノ宣ヘリ、田祿ハ君一人ノ物ニ非ズ、焉ンゾ私欲有ランヤ

或邦ニ酷吏日ニ誠ムレドモ、徒赭衣門ニ滿チ、曾テ風俗改マラズ、益々怒レバ益々服セズ、「鞭朴之民不<sub>レ</sub>受<sub>レ</sub>令」ト云フ者ナリ、是事元來本ヲ捨テ末ニ走ル故ナリ、先人ノ語ニ、民ハ小兒ノ如シ、教ト政ニ在リト云フハ確言ナリ、先ヅ能ク教誨シテ、後ニ其善者ヲ賞シ、其後教ヘヲ受ケザル者ヲ罰セバ、次序ヲ亂サズ、漸々風俗一變スベシ、「不<sub>レ</sub>教而罰、謂<sub>ニ</sub>之暴<sub>一</sub>」

人君トシテハ、第一下情ヲ知ラズシテ虛ク貢ヲ受テハ、本願寺ノ坊主ニ異ナル事ナシ、能ク下情ヲ知レバ、徒黨凶賊モ起ルコト無シ、古ノ明君ハ能ク下情ニ達シ玉フユエ、國人信服ス、夫信服セザルユ

エ黨ヲ爲ス、大樹吉宗公四月中旬目黒邊ニ出御シ、麥ノ穂ヲ視テ、近習ニ是麥ノ熟否ヲ知ルヤト問ヒ玉ヘバ、皆知ラズト答フ、公莞爾トシテ、稼穡ノ職掌トシテ、榮穀ノ事ヲ知ラズンバ、名有テ實無シ、麥ノ右ニ倚ルハ豐年ノ瑞ナリ、彼ヲ能ク囑ヨ、麥芒ノ舉右ニ倚レリ、定ニ慶幸コトナリ、又農家毎ニ芋倉ト云者アリ、去年ノ芋ヲ土窖ニ埋メ、孰ノ家モ未ダ掘ズト見ユ、是全ク食糧ノ卓山ナル故ナリ、又農民ノ稚子ヲ觀ヨ、顔色ノ艶至テ濡ヘリ、是ハ乳母菜食セザルユエ、乳汁調和ノ證顯レタリ、偏ニ豐年ノ爲ス所ナリ、余ニ於テ何ノ喜ビカ之ニ過ント宣ヘリ、「見曰明、聞曰聰、聰明叡智、謂之聖、」今公日ノ附ケ所ヲ以テ、賢明ナル事ヲ察スベシ、國天下ヲ治ル人君皆斯ク心ヲ盡サバ、千萬年必ズ昇平ナラン、此ニ公稚子ノ顔色ヲ相テ、年ノ豐凶ヲ知リ玉ヘルニ就テ想ヒ當ル事アリ、國政崩レテ困窮シ、人民疲ル時ハ、天不順ナラズトイヘドモ、疫症毎年流行スベシ、僧巫ノ祈禱モ何ノ益ナシ、早ク人民潤澤ノ工夫シテ、穀祿ヲ足ラシムベシ

一村ノ戸數ハ五十軒ト究メ、若シ蕃息スルトキハ、又新村ヲ建ルベシ、民數多ケレバ、衆ヲ恃ンデ、花奢ノ風ニ移リ、種々ノ失墜多キノミナラズ、驕誇暴謾シテ、聊ノ事ニモ喧嘩ニ魁シ、他郷ヲ欺引テ遂ニハ大變ニ及ブ事間アリ、群黨起ルトモ、其萌小村ヨリ出ザルハ、今目前ニ見エシコトナリ、是事新制ニ非ズ、古ヘノ王制ニテ、孝德天皇<sup>三十七代</sup>五十戸ヲ定メテ一在所トシ、是ヲ一里ト名ケ、一里毎ニ里長一人、若シ六十戸ニ及ベバ、別ニ一里ヲ立ツ、十戸ニ滿ザレバ傍ノ村ニ割付ク、夫古樸朴ノ時ト

イヘドモ如是、況ヤ今時澆季濁世ノ人氣ニ於イテヲヤ、又天下ノ郡ヲ三等ニ立テ、四十里ヲ大郡トシ  
民戸ニ<sup>千軒</sup>三十里<sup>千五百軒</sup>以下四里<sup>二百軒</sup>以上ヲ中郡トシ、三里<sup>百五十軒</sup>ヲ小郡トシ、皆大領・小領・主計・主帳ヲ置ク、

<sup>義解</sup>出ス令

中華ハ帝祚迭ニ易ルユエ、政事モ亦自ラ改革スレドモ、日本ハ神武天皇ヨリ今ニ於テ其祚胤易

ラズ、然ラバ先王ノ政典ヲ攷ムベキニ非ザレドモ、武家封建ト成テ、列國皆銘々ノ了簡ヲ以テ、區ニ<sup>マナク</sup>

制度ヲ立ツ、其中ニハ驚才伶俐ノ者興テ、國法ト稱シテ古ニ於テ無キコトヲ工ミ、大ニ民ノ後害ト成

ル事モアリ、是則封建ノ爲ス所ナリ、由<sup>レ</sup>是天下一般、公儀ノ憲條ハ勿論、古王制ノ舊典ヲ熟覽シテ、

的然ト因循シタキモノナリ、今時ノ君タル人ハ、令義解等ヲ看ル者ハ、幾希ナル事ト思ヘリ

或國ニ郡奉行新制ヲ立テ、居民共一村限リニ耕作スベシト命ズ、是ハ度量小狹其任ニ當ラズ、畠水練

ト云者ナリ、人民多ク田畠少キ村アリ、田畠衆ク人民寡キ村アリ、右ノ新法ニ依レバ、人多キ村ハ、

耕田不足シテ食乏ク、日儲ノ身ト爲リ、困窮スレバ必ズ出奔ス、民戸寡キ村ハ田畠漸々荒蕪ス、田畠

ハ民數ニ不足シテ、互ニ爭ヒ作ラザレバ、良田ト成テ登ラザルユエ、他郡ノ者ニモ作ラスベシ、度ニ

過テ民戸衆キトキハ、田畠多キ處ニ遷移モヨシ、若シ國界ニ至テ荒田有ラバ、他國ニモ作ラセ、必一

歩トイヘドモ荒スベカラズ、萬一是事有ラバ是地ノ庄屋ニ於テ、收農致サセ取ルベシ、鄉村ノ界ヲ

分ツニ、河ヲ限トスベカラス、兩村互ニ堰塼半臥等ヲ築キ、爭論絶エズ永ク意恨ヲ含ム、國民不和ハ

君ノ支體ニ疾有ルニ侔<sup>ヒト</sup>シ、故ニ川渚ハ其<sup>ミ</sup>一邑ノ中ニ入レ置ベシ、家臣ノ領地ハ各別ナリ、孟子ニ、齊

ノ桓公ノ盟書ニ無曲防トミユレバ、古ヨリ人情ハ易ラズトミユ

經濟問答秘錄卷十一終

## 經濟問答秘錄卷十二

## 田賦考

○享保年中迄ハ、琉球<sup>イ</sup>甘<sup>モ</sup>諸未ダ天下ニ流行セズ、古宗公始テ食シテ、是菜ハ飯ヲ助ル天下ノ寶ト、種ヲ九州ヨリ取寄テ、諸國ノ代官ニ配リ、農民ニ植サセ玉ヘドモ、異形ノ物ユエ敢テ食セズ、公尤ノ事ト頓テ林信亮ニ命ジテ本艸ヲ調ラベ、無毒ニテ功能アル事ヲ記シテ、之ヲ上梓シテ旁ク天下ニ布施シ玉ヘバ、諸人始メテ信服シ、漸々世間ニ滋蔓シ、今ニ於テハ海内ノ米穀其三分一ヲ助ク、西國幽僻ノ民ハ五穀ヲ食セズ、是ヲ常食トス、或ハ酒ヲ作り、或ハ茶菓子トモ成ル、寔ニ天下ノ大寶ト云ベシ、夫聖賢ノ仁德萬世民ヲ救済アル事如是、漢ノ馬援征蠻シテ薏苡仁ヲ持歸リシモ、憂國ノ志ハ異ナル事ナシ、石州公領ニ代官井戸平右衛門モ台命ニ由テ是時始メテ植シユエ、鄉民其仁恩ヲ想ヒ、後年碑石ヲ立テ、今ニ於テ祭祀ス、是則禮ニシテ直ノ祭ト云ベシ、中華ハ皆國功有ル人ヲ祭り、子々孫々永ク恩義ヲ忘レズ、然ルニ我邦佛法盛ンニ行レ、浮屠氏ヨリ蠱惑セラレ、一毛ノ恩モ無キ、萬里ヲ隔シ西域ノ佛ヲ朝夕拜スルハ、畢竟文牒ニシテ強欲ヨリ生ズ、倘シ佛ヲ念ジテモ行狀惡シケレバ福モ來ラズ、死シテ地獄ニ往ト云バ一人モ拜ムマジ、欲深キ者ニ思ヲ知ル者ハ曾テ無シ「復<sup>レ</sup>恩者、仕<sup>レ</sup>君忠、仕<sup>レ</sup>父

孝」ト云事、今目前念佛信仰ノ民トモニ併セ視ルベシ

或邦ノ田賦簿籍ヲ閱ルニ、田畠ハ武士町人ニ賣ルベカラズトミュ、是以テ昔ハ四民各其職ヲ守ル事ヲ知レバ、國初ハ家臣ハ祿厚クシテ、酒肉ノ奢モナク、給用乏シカラズ、隨分相續シテ外慕ノ心ナク、商賈モ今ノ様ニ花奢ナク、又同職モ寡キユエ給食不足ナク、農人モ今時ノ如ク生齒蕃息セズ、耕田一家ニ足レルトミュ、當今ハ家臣モ祿ハ三分ニ成テ、一石ヲ一苞ト究メ、小身者ハ僅五苞許ニテ、家屬ヲ食フニ足ラズ、故ニ工職ヲ營ムカ、田畠ヲ耕ザレバ、養育ノ法更ニナシ、中華ハ古來官人モ田畠ヲ買フコト王制トミュ、宋ノ韓世忠「營議買官田太宗賜之、又漢張禹買田、至四百頃」今時四トミユ、尙委キハ次ニ載ス、周禮ニ士田・賈田ト云フコトアリ、士田ハ士大夫ノ子ドモ得テ之ヲ耕ス、賈田ハ商人受ル所ノ田ナリ、士ハ近世ニ至テ、倉米俸祿ユエ耕田ナシ、賈人モ受ル所ノ田無キユエ耕作セズ、當今ノ世上ニ於テ、賣田ハ農人ノミトスルハ、齟齬タル制律ニテ、小ヲ見テ大ニ暗ク、國天下ヲ治ル器ニ當ラズ、他邦ニサヘ賣ラズンバ、許シテ置ベシ

和漢ノ農業ヲ稽ルニ、中華ハ穀ヲ尊重スルトミュ、古代ハ草人ト云官有テ、土性十二通リヲ分チ、其土ニ應ジテ純ラ獸ノ汁骨ヲ糞トス、彼田ニハ牛肉、是田ニハ羊肉、此地ニハ麋、彼地ニハ貍ト、草人官ヨリ農民ドモニ指圖ヲナス、是ヲ以テ觀レバ、古聖王ノ世ニハ、百官各自身ノ職分ヲ重ンズルトミユ、是事我邦ニ屆ク事ニモ非ズ、増テヤ今時ノ代官奉行返テ農人ヨリ教ヲ受ルハ、全ク治世上龍ナル

故ナリ、我邦ノ田糞ハ土ノ<sup>シロシロ</sup>礫ニ由レドモ、大便ヲ第一トス、然レドモ一毛ノ功ニテ後々ハ瘦地トモ  
成ル故ニ、市隣ハ米性惡シ、山田ヲ良トス、小便ハ一時ノ効ノミ、<sup>カシキ</sup>糞ハ諸艸木<sup>サツ</sup>糞ナリ、古<sup>チ</sup>糞塵埃<sup>チ</sup>ハ下  
トス、水草ハ昂ニスルレバ、糞エハ田ニ好シ、牛馬ノ藏骨ハ<sup>サトウ</sup>糖黍ニ用ユ、其外<sup>サヤチ</sup>糟粕<sup>カス</sup>・油滓<sup>カス</sup>、又石灰・薪  
灰・<sup>マカ</sup>糖・<sup>マカ</sup>蜃・諸貝・干魚・小魚・魚骨等、其土ニアラザレバ其効寡シ、右ノ糞ヲ用ユレバ、其登<sup>ミツリ</sup>五苞ハ七八苞  
トモナルベキニ、惜哉貧窮ニシテ、艸木ノ<sup>カシキ</sup>糞ノミ用ル者十二八九人、嗟呼毎年土中ヨリ出ル者ヲ取ラ  
ザルハ、實ニ歎息スベシ、是事全ク時ノ人主ニ在ル事ナリ、家ヲ富ス事難キニ非ザレドモ、元來<sup>ブシ</sup>懶<sup>ミウ</sup>惰  
ヨリ困窮也、艸木<sup>ミ</sup>糞穀ホド恩ヲ知ル者無シ、今試ミニ見ヨ、一度<sup>ツタカ</sup>培<sup>ツタカ</sup>ヘバ一度分榮エ、二度糞セバ二度  
分登<sup>ミ</sup>リテ其恩ヲ報イ、石上トイヘドモ穀ヲ生ズレドモ、耕職ニ誠力スル者<sup>ホドシ</sup>幾希ナリ、蓋シ上ニ賢君在  
シテ、仁政ヲ施シ、教導ヲ致シ、賞罰正シケレバ、奮勵シテ良農ト成テ、皆出精ス、民富バ第一空地  
ト云者無ク、又能ク豐登ス、譬ヘバ百町ニ千石生ズルニ、毎年五六割モ増ス事相違ナシ、是所ニ眼ヲ  
付テ<sup>タ</sup>徒地ヲ廣メン事ヲ欲シ、聊ノ事ニ封界ナド爭ハンヨリ、領民ニ精力ヲ勸レバ、一萬石ノ領地ハ、  
一萬四五千石トモ成ルベシ、右ノ餘米ハ孰ノ處ニ止ルヤ、君ハ民ノ父母、子富テ父貧キ者有ラズ、其  
止リハ君ノ物ナリ、故ニ土地ヲ<sup>タシ</sup>侈<sup>タシ</sup>トセズ、人力ヲ<sup>タシ</sup>恃<sup>タシ</sup>トスベシ

諸國ヲ廻リ田畠ノ豐凶ヲ觀テ、領主ノ善惡ハ晰然ト分ル、者ナリ、人主驕侈ニシテ逸樂ヲ嗜ミ、賦斂  
ヲ厚クシ下ヲ虐ル所ハ、民羸レテ其力ヲ得ズ、其登<sup>ミツリ</sup>豐ナラズ、領地ハ廣シトイヘドモ、秋ニ至テ收納

スレバ、國計大ニ減耗シ、上下益々匱乏ニ及、却テ仁政ノ小封ニ劣レリ

鄉村ノ風俗ニ精情アリ、精力ノ村ハ皆盛シナリ、其風俗習弊ノ根ハ、元僅一兩輩ヨリ生ズ、嘉穀ヲ滅  
ス莠稂モ、元一本ノ種ヨリ生ジテ、漸々滋蔓ス、是ニ由テ其一本ノ時早ク根ヲ斷バ、一面ノ田穀盛  
ナリ、故ニ其鄉村ヲ逐一ニ査點シ、疎業惡狀ノ者ハ遷移スルカ、又ハ徒ニ入ル、カ、之ヲ除イテ衆ニ  
徇フベシ

「凶歲多暴」ト孟子語ハ、古今不易ト云ベシ、近年米估高昂<sup>アゲ</sup>ユエ、大祿ノ人ハ權玉<sup>ヨロコビ</sup>ハン、然レドモ國  
中ノ人氣、自然ト姦智攘竊ノ風ニ火シ、孩兒ニ至ルマデ菓藏<sup>アダイ</sup>ヲ盜ムヲ耻トセザルハ、元親タル者邪心  
無慙ナル故ナリ、備前芳烈公ノ時、孝子喜十郎ト云者ハ、其子落穂ヲ拾ヒ來ルヲ見テ、其主ニ乞ハズ  
持來ルハ、盜ムニ同ジト返サシム、落穂ヲ拾フハ、上古ヨリ有ル事ハ、詩經ニモ見エシニ、斯ク廉潔  
ノ者有ルハ全ク上ニ賢明在シテ風化ノ行ル、所ナリ、國風ハ斯クコソ有タキ者ナリ

楚語、「牽牛徑人田、田主奪之牛、惡人其刻薄」是ヲ以テ古ノ風俗嚴ナル事ヲ知レリ、今時ハ健セン  
ト人ノ菜穀ヲ蹢躅シ、是ヲ少シモ耻トセザルハ常ト成リ、或ハ青田ニ鱸<sup>ドジョウ</sup>ヲ撈<sup>サツリ</sup>、或ハ魚ヲ盜マントテ、  
堤<sup>ツツミ</sup>ヲ破リ田害ヲ爲ス風俗ニテ、良民愁歎スルコト甚ダ多シ、況ヤ年少シ凶ナレバ粟麥ヲ竊穫ル者モ有  
リ、去トテ又上ニ訟ユル事モナシ、特ニ窮民トモ種粃ヲ水ニ蘸<sup>ツグ</sup>置クヲ盜ミ、或ハ菜穀ノ種ヲ盜メルハ、  
壁ヲ破テ千金ヲ竊ムニ勝ルトスベシ、是等ノ事ハ此二政道不<sup>レ</sup>嚴ヨリ生ズルユエ、常ニ偵者ヲ鄉村ニ廻

ラシ、時ヲ移サズ執拘シ、輕重ヲ酌メテ其村ニ梟首シ、政ノ嚴ナル事ヲ衆ニ徇フベシ、是仁政ナリ  
博勞ト云遊手ノ者牛馬ヲ交易シ、人ヲ誑騙<sup>ダマス</sup>ヲ職業トシ、就中貧民<sup>ダカマ</sup>トモ誑セラレテ、難澁身ニ逼リ、或  
ハ牛馬ヲ賣リ、期ニ負ヒテ返サズ、農務時ヲ失ヒ、大ニ困ル事多シ、或邦ニ鞭先ト名ケテ役ヲ立ツレ  
ドモ返テ民難トナル事多シ、博勞ノ役ヲ受ルハ乘馬ノミニ致シ、都下一ヶ處ニ立置テ、村里ニハ無用  
タルベシ、若シ不直アラバ、衆民即時ニ庄屋ニ訟ユルベキ事、兼テ法令ヲ出シテ衆人ニ聞セ置ベシ、  
是民難ヲ救フ仁政ナリ

牛馬ヲ盜ムハ、已ニ公儀ノ條目ニ見ヘタリ、然レドモ小科ト思ヒ時々起レリ、是事仲々小罪ニ有ラズ、  
重科ノ旨時々令スベシ、或邦ニ穢多ドモ皮ヲ求ン爲ニ、密カニ馬槽ニ毒ヲ入レシ事アリ、寔ニ舌ヲ捲  
ベキ極惡ナリ、酷刑ニ處シ、一族ハ國界迄逐拂フ事ヨロシ

今時ノ庄屋ハ古ノ里正ト云コトヲ知ラズ、唯年貢ヲ取リ立バカリヲ職務ト心得テ、敢テ風俗ヲ正サズ、  
風俗ヲ正セバ年貢ハ責ズシテ納ルコトヲ知ラズ、由是庄屋ヲ恃ミトナリガタシ、故ニ偵者ヲ置ニ如ズ、  
惡事時ヲ移サズ發覺スレバ、衆人褻服シテ畏敬ス、是事易俗ノ先務ナリ

鄉村叢代ヲ願ハ、金錢ヲカサズ、其土ニ應ゼシ叢ヲ買テ授ケ、秋租ニ加ヘズ、翌年麥租ニ附テ納ルベ  
シ、願クハ官印ヲ添テ富家ヨリ借ラセ、官署ヨリ出ササルヲ好トス、俗ニ云フ借トキノ佛面<sup>ブツメン</sup>、返スト  
キノ鬼面<sup>オニメン</sup>トハ一般ノ情ナリ、上信義ナレバ財貨ハ民間ニ卓山也、不信ナレバ一錢モ出サズ、故ニ信ハ

國之大寶ナリト云、小事トイヘドモ假ニモ民ニ信ヲ失フベカラズ、多クノ財ヲ小吏ノ手ニ舐ルレバ、其情自然ト清直ノ心ヲ失フ者ナリ「君子不<sub>レ</sub>入<sub>レ</sub>市、爲<sub>レ</sub>俸<sub>ニ</sub>四維<sub>ニ</sub>也」ト云、深ク是意ヲ考フベシ不直ノ輩時々金銀賴母子講ヲ設クルコト、多クハ半塗ニ廢シ、庶人ノ難澁甚シ、其身モ甘キ毒ヲ食テ窮迫ス、是コト固ヨリ心正キ良民ノ好ム所ニ非ズ、政事亂ルレバ益々滋蔓スル者也、倘シ危急ニ及ビ調儀ナラズ、已ムコト無ンバ一族親友ノミ一遍親懸ニ究メ、年ヲ累ル講會ヲ禁制スベシ、若シ之ニ加ハラバ、贖金ノ令有ルコトヨロシ、國家ハ兎角煩シカラズ、安泰無事トナラバ、人心正路ニ本ヅクベシ

情民口ヲ糊<sub>ヘラ</sub>セント佛神ニ假托シ、寺庵或ハ民家ニ於テ、念佛講・大師講等致セルハ、飲食暇隙ノ冗費富潤ノ害ナリ、庶民ノ集會ハ一ツトシテ、好キコトハ無キ者ナリ、増テヤ門徒報恩講ヲヤ兩彼岸門徒宗村ハ、毎戶穀物ヲ賣リ、竹木ヲ伐リテ寺納スル、窮民ノ植付前ノ百錢ハ、一貫ニ勝ルベシ、秋ニ至レバ新穀ヲ未ダ君ニ納メズ、初穂ト云テ直ニ寺ニ持參ス、其不參非禮譬ルニ物ナシ、是事全ク吏人ノ教導無キヨリ生ズ、能ク教説シテ、父母ノ正當忌日一年兩度ニ定ムベシ、五月田植ノ時トイヘドモ、月ニ五度ヅツ寺參スルヲ定メトスルナリ

親鸞宗ハ父母死スレドモ位牌モ作ラズ、靈壇モ設ケズ、更ニ喪中トモ視エズ、竟ニ胡狄ノ風ニ陷レリ、夫我邦ハ神聖ノ邦ニテ、上古ヨリ禮義能ク備ルユエ、中華ヨリモ君子國ト稱セシニ、僅五六百年以來、

僧徒ドモヨリ禮義ヲ濫サレ、國權ヲ奪ハレテ、胡俗ト成スヲ、人主トシテミス看默觀シテハ、古ノ人主ニ對シ愧ベキトナラズヤ、若シ之ヲ忍ババ、年累ツテ天下統テ蠻貊トナルハ必定ナリ、是意ヲ考ヘ慷慨セル仁志ノ人在サバ、喪家ハ國憲ノ服忌、中陰ノ内ハ位牌ヲ作り、靈壇祭筵ヲ設ケテ、朝夕能ク仕ユルベキ事、屹ト嚴刻ニ令ヲ下スベシ、僧徒モ先祖ニ孝ヲ竭スヲ禁ズマジ、若シ忠孝ノ道ヲ崩サバ、正法ニ非ザルユエ、其寺ヲ破滅シテモヨシ、宗法ヨリ國法ヲ重シトスルハ、渠等モ必知リツラン、別卷ニ記セル如ク、大村ハ命ニ由テ門徒皆神棚荒神ヲ飾レリ、右ハ偵者ヲ以テ犯禁ノ民ハ本主及ビ組合ハ改宗、庄屋ヨコイ人ヲ越度タルコトヨロシ、是則易レ俗ノ仁政後世ニ流ル者ナリ

○客云、吾田タイクハシ峻ノ職分トシテ、未ダスキ鋤ヲ秉トラザル故耕業ヲ知ラズ、愧ラクハ陶犬瓦雞ト云レンカ

答云 其職ニ在テハ其職ニクハシカラズシテ叶ハズ、然レドモ官ニ大小ノ差等有ルユエ、知フズシテモ可ナリ、論語、「樊遲請レ學レ爲レ稼、子曰、吾不レ如ニ老農一」トミユ、農業ニ心ヲ竭ス身ヲ以テ、禮義信ノ道ニ心ヲ竭サバ指搗ニ及バズ、民皆互ニ奮勵スベシ、農務ハ躬クハヲ鋤ヲ操ラズ、見聞シテ言フ所ハ皆空談ナリ、ナマシイ勸ニ指搗スレバ、返テ下ヨリ嚙ワカ嚙ニ逢フベシ、農業ハ壯者ハ未熟、智慧有レドモ、年老ザレバ功者ト成ラズ、故ニ聖人モ老農ニ如ズト宣フ、農ハ商賈ト殊ニシテ、才略伶俐ノ者ハ偏多ナリ、緩氣魯鈍ノ者ハ上首ナリ、村里ニ商氣有テ、素博覽ノ者一人モ在レバ、一村之ガ爲ニ化セラレ、自然ト農ニ懈怠スルユエ、早ク市町ニ移スベシ、地ハ狹濶ニ拘ラズ、穀多キヲ貴ブ、穀ノ多少ハ輒チ其長タル

者一人ニ歸ス、故ニ長官ハ農業鄙事ニ目ヲフレズ、唯賞罰ノ二條ニ夙夜心ヲ竭スノミ、是ヲ國家社稷ノ臣ト稱ス、賞ハ孝子・順孫・力田・正直ノ者ナリ、賞厚ケレバ天下高名ノ者起ル、是萬世君ノ美稱ナリ、若シ起ラズンバ、他邦ニ對シテ耻辱トス、罰ハ大酒・博奕・姪色・佞佛・懶惰・徒口ノ民ナリ、是等ヲ瞠トスルハ餘ノ小惡ハ自ラ盡シ、因テ弊習五六年ヲ歷テ消弭シ、郷中富饒ハ手中ヲ指ガ如シ、何ゾ躬ヲ農務ヲ知ルニ及バンヤ、是事能ハザルニ非ズ爲ザル故ナリ、頃日大村ニ豐後ヨリ來テ、勸農ノ法ヲ教ヘ、土人ニ不馴ノ長柄ノ鍬數百挺ヲ作り、村里ヲ巡徊シテ、苗ハ斯ク播ケ、斯ク植ヨ鍬ハ斯ク執レト日ニ指搗スレドモ、一人モ從服セズ、公威ヲ假リ執拗シテ示セバ、益々激シテ拒ムユエ、終ニ行レズシテ止ケル、上モ過分ノ冗費ヲ無用ニシテ、溝壑ニ捨ルニ同ジ、數百年來子孫承續テ、其田ノ好惡ニ從テ耕スニ、何ゾ遠方ノ者其ノ土性ヲ遽ニ辨知スベキヤ、豐後ハ長柯ナレドモ、筑前・肥前ハ短柯ナリ、是又今改ルニ及ンヤ、右ノ費財ヲ以テ良民ニ賞ヲ與ルトキハ、教ヲ施サズ自ラ豐登スベシ風俗ハ先ヅ禮義ヲ教ルニアリ、是ヲ知ルハ上タル人ヨリ行フテ示スベシ、由レ是時々下ニ親接スル者、第一行フベシ、今時ハ徒倚皂隸ノ者ドモ見分スルニ、庄屋ノ廳ニモ股引半著ヲ脱サズ、飲茗酒宴饌膳ヲ受ク、其綬帶暴謾全ク公威ニ假托スルユエ、衆人喁喁シテ上ヲ譏刺ス、故ニ長官ヨリ謙讓恭敬ヲ時時下吏ニ教諭スベシ、大坂毛六ノ說、既ニ艸茅危言ニ見エタリ庶民ニ恩賜米、或ハ借米等ノ時ハ、其人數ヲ計ヘ庄屋ノ庭ニ積置キ、奉行來テ一人ヅツ手渡シニスベ

シ、若シ本人病有テ不參ノ時ハ、其父母妻子ニ渡シテ、他人ニ渡サズ、必ス書札ヲ以テ子ユル事勿レ、下ニ賜品物統テ如<sup>レ</sup>是

或邦ニ四民ノ名目ヲ改メ、市廛<sup>シチン</sup>ト村里ヲ分テ守職ヲ匡シ、市廛ニ住ム者ハ農業ヲ禁ズ、元來是法ハ席上ノ理談ニテ、畠水練ト云ベシ、商賈ノ輩ハ固ヨリ農職ハ強テ嗜マズ、若シ萬戸以上ノ市廛ニ在テ、工商一職ニテ給周足ラバ自ラ爲スベカラズ、田畠ハ四民共ニ爭ヒ作ラザレバ、良田ト成テ豐登ヲ得ズ、故ニ職多ニテサヘ無レバ皆許スベシ、占ハ商賈工人皆六十歲迄ハ公田ヲ賜ハル、商工耕作ナラズンバ、古ノ聖王何ゾ之ヲ許サンヤ、蓋シ農民ノ商賣ハ堅ク禁制スベシ、農夫商賣ニ志ザセバ、恰悞ト成テ農職ハ迂遠シテ、田畠竟ニ荒ル、者ナリ

唐津元和年中ノ記錄ヲ見ルニ、寺澤志摩守鄉村ノ法令ニ、酒肴菓子等ニ至ルマデ、村々ニ賣申スマジク、并ニ諸商人多葉粉等マデ、一人モ村内ニ入申スマジク、若シ入者アラバ、早速組合ヨリ大庄屋ニ相届ケ、沙汰ニ及ブベシト其嚴禁アリ、是時代ハ干戈已ニ戢<sup>ナヤム</sup>リ、天下寢治ニ入ラントスレバ、質素儉朴ノ風俗トイヘドモ嚴法如<sup>レ</sup>是、況ヤ昇平數百年、一般花奢ノ時ヲヤ、風俗ヲ亂シ富潤ノ害ハ、四民雜居ニ在リ、前ニ述タル大洲ノ村民禁止ノ條目ニモ、酒ヲ賣ル者ハ家内ニモ入レズト記セリ、是ヲ以テ酒肆ノ村落ニ害有ル事ハ、既ニ視ヘタリ、鄉村ヲ隆ンニ成シ豐登ヲ欲セバ、先ヅ一番ニ酒肆ヲ悉ク市町ニ住棲スベシ、遠路ニ往テハ賁ル事モ叶ハズ、同村目前ニ視ルユエ、之ヲ視テ絶ツ事ヲ得ズ、又邑

中ニ貸散シ麥大豆摘綿モ交易シ、已ニ秋ニ至レバ、未ダ貢モ輸メズ酒債ニ出シ、其外農家様々ノ害有  
ルコト、民間ニ有ザレバ、其實情ハ士大夫ノ知ル所ニ非ズ、次ニ魚買、其次ハ大鮑・斧工等ナリ、昔  
ハ皆掘立屋ナリ、近隣大鮑住スルユエ、造屋ノ美妍トナル、遠ク市町ニ居レバ、大抵ノ事ハ自分ニテ  
勤ルナリ、次ニ質屋、是人近キニ在ラザレバ難澁ト云ハ、未ダ實情ヲ知ラズ、質屋近キユエ様々ノ入  
費多シ、農家ハ市中ノ如ク火急的用アラズ、已事無キ時ハ、トホク市町ニ質物ヲ持チ行クヲ厭ヒ、大  
體ノ入用ハ堪ユルナリ、紺屋モ近キニアル事儉約ノ障リトナル、四十年前ハ、田舎ノ婦女木綿ヲ織  
リ、其中二三尺ヲ餘シ用ヒシニ、今ハ大坂堂島形ト云美妍ナル手拭二百文ニテ買メ<sup>モト</sup>、其上紅ヲ付ケ、  
專奢侈ノ風ニ移リ、耕ス所ノ穀物ト給用不足シ、自然ト姦智ヲ止ズ、目ニ見レバ欲心起ルハ人情ナリ、  
故ニ鄉里ニハ附木・燈心・紙・元結・鹽ニ至ル迄一切ノ賣物・小商人ハ宿驛トイヘドモ、二百戸計リノ市中  
ヨリ外ハ、必ズ許スベカラズ、若シ二百戸ナクンバ、假令數里ヲ阻トイヘドモ、其處ニ一所ニ集メ、  
農業ノ者ヨリ外ハ、一切ノ職人商賈一人モ置ベカラズ、油鹽等無レバ難澁ト云ハ好事ノ者ノ謂フ所ナ  
リ、二里三里阻タル孤島幽僻ノ民家ハ、却テ富ルハ如何ノ譯ゾヤ、農民ハ菜穀ヲ市中ニ携ヘ交易スル  
ハ、古ヨリ皆爾リ、當今是制度無キユエ、鄉民手ニ鉄ヲ秉ルコトヲ嫌ヒ、動モスレバ往還ニ家ヲ造リ、  
人馬ノ通フ所ハ、餅・饅頭・干菓子<sup>ヤイヒト</sup>・饅頭・餅・餛飩・煎餅・餛・粗糲<sup>オコシ</sup>・柿・蜜柑時々ノ菓等、日増ニ店ヲカザルユエ、  
牧豎僮子ニ至ルマデ、菜穀ヲ盜ミ爭論モ起リ、國家衰絀ノ端トナル、右ノ如ク雜居ヲ禁制スレバ、商

人工職モ同處居住ユエ、我劣ラジト自職ニ相勵シテ出精シ、上巧ニ及バ直モ下低シ、村里ハ目ニ視ザルユエ、儉約自然ト行レ、兩方共ニ大ニ繁昌スベシ、此事富國第一ノ要務ナリ、倘是制度ヲ建ズ、徒富潤昌盛ヲ欲スルハ、草菜ノ種ヲ播テ又耘ルガ如シ、余尾州ニ往キ、遠在ヲ巡<sup>メ</sup>シニ、村里ハ貢道トイヘドモ、二里三里茶一服憩フ處モ無ク、草鞋ヲ賣ル所モ無シ、市中ヲ去ラバ斯ク有ルベキナリ

郷里麴肆無レバ、農家味噌ヲ釀スルニ不自由ト云ハ、嗜<sup>ル</sup>奢者ノ談ナリ、農人ハ每家夏ニ至テ皆自屋ニ拵ヘ、適麴肆ニ遣ル者ハ驕リ者ニテ、萬戸ニ一戸ナリ、是意ヲ考ヘ、村里ニ一屋モ置カズ、悉ク市中ニウツスベシ、況ヤ郷中ニ賣歩行ヲヤ、彼等押賣リ、或ハ貸シ置ユエ、自然ト惡弊甚シキ風儀ト成ル、入用ノ者ハ時々市中ニ往テ買ル事ヨロシ、是又富國善風ノ樞要ナリ

郷里ノ土宇<sup>クニ</sup>ハ、農民ハ道傍ニ一戸モ建ルベカラズ、農業ヨリ外ノ者ハ、海道トイヘドモ、建場或ハ町ニ悉ク集メ、二百戸計トナスベシ、茶店モ官道ハ一里半二里ホドニ究メ、驛所ノ外ハ禁ズベシ、蓋シ一二里モ、山林曠野ノ地ニテ民屋無ンバ、茶店二三軒其地ノ畠地ヲ免除シテ、往來強盜ノ難ヲ防グベシ、天下ノ人ニ慈仁ト云ベシ、或ハ二三里ノ曠野ニテ、炎暑ニ避ル所無ンバ、諸所ニ樹木ヲ種ルベシ、水府義公モ是事ヲ爲シ玉ヘリ

諸國田租ノ高低大體同ジトイヘドモ、其中ニ仁、不仁アリ、上々田・上田・中田・下田・下々田ト五等ニ建レドモ、古王代ハ九等ニモ立ツ、古ハ天下聊ノ畛田ナレドモ、後世漸々山野ヲ墾<sup>ヒ</sup>ヒ、江海ヲ填メ墾

田スルユエ、租税ノ増減高下モ、段々差等無クテハ耕民不利アリ、諸國大體五六等ニ定ム、然レ共亦其中ニ數ヲ立テ、下田ニモ三ノ下・四ノ下・五ノ下・六ノ下・七ノ下・八ノ下迄、段々減租スルハ最モヨロシ、成丈數ヲ多ク立ルヲ仁政トスルナリ。田租ハ上田一石ナラバ、下々田ハ凡ソ半ト減立レドモ、未ダ耕耘ノ情ヲ知ラズ、下々田ニ致テハ、十ケ一ニ減ジテモ、上田ヲ作ルヲ利トス、下々ハ手間ハ十倍シ、糞モ又同ク倍シ、旱歲ニハ初發ニ燒ケ、山田ハ禽獸ノ餌ト爲リ、豐年ニ遇ヘドモ僅一石乃至一石一二斗マデ也、故ニ<sup>ヤノニ</sup>農扈ノ官ニ與ル者ハ能ク是情ヲ察シ、無税ノ様ニ懸置クベシ、眞ノ上々田ト云者ハ、一國ノ中ニ於テモ少キ者ナリ、間ニハ作德三石ト唱レドモ、上々田モ大豐年ニ逢ズンバ得難シ、又三石五六斗ノ地有リト稱スレドモ、是ハ畝方モ廣カラシ、奥羽ハ水田多キコト天下第一トス、仙臺ノ農人ニ尋シニ、上田ハ一段租税六斗許、作德二石五六斗ニ至ル、大豐年ニ逢ヘバ三石餘ニ及ベドモ、幾ド希ナリト云、西國ニ併セ見所有ト云ハ、定メテ古法三百六十歩ナラン、諸國一般十苞ヲ極上ト聞及ベリ、筑後ハ三公七民ト云テ上ニ三分ヲ輸ム、筑前ハ七公三民ト云テ民ノ作德三分ユエ、困窮シテ時時出奔者多シト風聞スレドモ、未ダ其證ヲ得ズ、畢竟是國ハ石高ヨリ地小狹ユエ、已ム事ナク租モ厚高ナラン、肥後ハ上田作德三石ト積リ、一石五斗ノ定額ト古來究リシヲ、近年民ノ困苦有フント減耗セラルハ仁政ナリ、大抵ノ沃磽年ノ豐凶ヲ平均テ作德ニ石ト積リ、諸懸物入レテ租税三四斗ヲ上々ト致シクレズンバ、農民繁營相續シガタシ、是ノ上ニ又窮民ハ加地子懸レリ、是事ハ盡ルト云フコト決

シテ無シ、古王朝ハ三百六十歩一段ニテ、上田ハ稻十束、中田ハ八束、下田ハ六束、下々田ハ三束  
出三弘仁式稻三束ハ今ノ米一升五合ニ當レリ、其上畝廣キユエ、一升トモ成ルベシ、此ヲ以テ觀レバ、中華  
井田ヨリ猶減耗トミユ、後世封建武家ト爲テ、租ノ掛方古ト併セ稽フベシ、當時國主群主有リトイヘ  
ドモ、民ハ天子ノ民ナリ、耕ス民ハ古ト易ル事ナシ、後世ニ及デハ、古代ノ通りハ所詮屑クコトニモ  
非ザレドモ、其職ニ與ル人々古代ノ事ヲ想ヒ、其心持ニテ萬事ヲ計リ、武威ニ誇リ妄ニ收斂スベカラ  
ズ、天下ノ禍生ニ於細故、田租ハ其處ニ由テ高低有リ、又無稅ノ地モアリ、今ニ於テ幽國ニ於テハ、井  
田ヨリ下低ノ所モアリ、米穀モ亦好惡有テ、春精炊爨ニ減増アルユエ、其登<sup>ミソリ</sup>ノミ稱シガタシ、市町宅邊  
ハ其登<sup>ミソリ</sup>多ケレドモ其性惡ク、脫粟春精ニ至テハ、其減耗山田ニ劣レリ、尙諸國米穀ノ好惡ハ、大坂直段  
ニテ大抵知ル、ユエ、諸國ノ相場ハ征權ノ部ニ出ス

諸國年貢ヲ粟<sup>モミ</sup>立ニスル處アリ、是ハ古代ノ遺意トミユ、又四ツ高・三ツ高ト云コトアリ、四高ハ地米一  
石五斗ヲ四分一ニシテ、正米三斗七升五合ヲ輸ム、三高ハ三分一ニシテ、正米ハ五斗ヲ輸ム、是勘定・  
出入・指引殊ノ外ムツカシキコトニテ、頑民共ハ卒爾ニハ分斷シガタシ、粟立ト云ハ、上々田高一石八  
斗、粟六苞一斗二升二合四勺ナリ、正米三苞六升一合二勺、外ニ公役・郡役・普請料等ノ掛リ一苞、共  
ニ合セテ四苞二斗許、是ヲ四ツ五分成ト云テ、本石粟六苞一斗二升二合四勺ハ、井田ノ古法九ケ一ト  
唱ルヨシ、亦上田ハ粟一石六斗、中田ハ一石四斗、下田ハ一石二斗、下々田ハ一石ト究ム、右ハ古法

トイヘ共、今ニ於テハ正米ユエ、本帳ノミ記シ置モ至極無益ノ事ナリ、子曰、「溫故而知新、可ニ以爲  
師矣、」韓文公謂、「古者古之道也、新謂己之新意可爲新法、」是ヲ監ミ、今ノ時代ニ隨ヒ、正米ニ記  
シ置カバ繁雜モセズ執筆モ早ク煩キコトナシ、農民ハ牙籌ニ拙ク、魯鈍ナル者ユエ、何事モ簡易ニシ  
テ、會得捷ハヤキ様ニシテ、譬ヘバ上田ハ正米九斗、中田ハ七斗五升、下田ハ五斗八升、下々田ハ四斗七  
升、三ノ下ハ三斗六升、四ノ下ハ二斗九升、五ノ下ハ二斗七合、六ノ下ハ九升、七ノ下ハ六升、八ノ  
下ハ四升ト致シ置トキハ、入リ亂レザルユエ、愚ナル者モ視取リ易ク、敢テ疑念ヲ起サズ安心シ、亦  
姦智ノ庄屋モ妄リニ私曲モ得ズ、右モ亦上田ヨリハ下マデハ減ジ、乃至五六七引ナドト、其減耗ノ算  
法ヲ兼テ農民ニ諭シ置クベシ、動モスレバ猜嫌ヲ生ジテ、罪モ無キ上ヲ怨ルコト間多シ、諸掛物等ハ  
尙モ細ニ諭スベシ、是事頗ル凶賊不興ノ根本ナリ

諸國大體市町ノ宅租ハ、農民ノ宅租ト同様ニスベキコトナレドモ、商工ハ舊調ノ二ヲ括リ納ルユエ、  
農民ヨリ少シ高キハ當然トイヘドモ、諸國皆同様ニ致スモアリ、又田租ヨリ宅租ハ低シ、又上田ノ租  
ニ建ル處モアリ、是ハ貧婪ト云ベシ、或邦ニ國初ヨリ農家ノ宅地ハ、三畝十步ヅツ免除トイヘドモ、  
其子孫一人モ所持スル者無ク、今ハ段々人手ニ渡リ、或ハ田畠ト成レドモ、本帳ニハ輒免除ナリ、舊  
章ヲ改メズ、寛宏ノ政ナリ、國政ニ與ル者ハ、斯ク有ルベキ事ナリ

或國ニ免方ノ吏人毎年毛上ヲ視ント、村里ヲ見分シテ増減ヲ施シ、種入・苗代・植付・青田・旁拵・樓課ナ

トト時々見分シテ、返テ耕耘ノ妨ト成ルユエ、農民甚ダ憂ヒ、水田ニハ肝熬ズ、揚圃ヲ主トシテ耕ス  
ユエ、漸々水田荒穢ス、是理ヲ考ヘ、如<sub>レ</sub>烹<sub>ニ</sub>小鮮<sub>ト</sub>其村長邑吏ニ任セテ得ト諭シ、妄リニ村里ニ入ザ  
ルヲ仁政トスベシ

○客云、農民等秋收ニ至レバ、商賈ヨリ米穀下直ニ買レテ損失多シト聞ク、由此官署ヨリ之ヲ買テ  
蓄置キ、明春ヲ迎ヘ高價ヲ待テ此ヲ賣ラバ、農民利ヲ得テ、富饒ノ本ヲ闢クニ非ズヤ

答云 是ハ一家ヲ治ル匹夫ノ小見ト云者ナリ、「愛克<sub>ニ</sub>厥威、允罔<sub>レ</sub>功、」君ハ四民ノ父母ナリ、胡ゾ分部愛  
憎センヤ、春秋曰、「四民均則王道興、而百姓寧」トミユ、國天下ヲ治ル者ハ、太陽ノ下土ヲ照臨スル

ガ如ク一點モ私無ク、四民ハ勿論、法外ノ僧徒・朱驗ニ至ルマデ、憎ムト云コト無ク、最眞偏頗ヲ大禁  
ス、天地ノ間ニ生レテハ、赤子トイヘドモ欲無キ者有ラズ、高直ナル物ヲ下直ニ賣レバ損有ル事ハ、

五尺ノ童子モ皆知ル所ナリ、吏人ニ第一愼ムベキ事一條アリ、官局ニ褻<sub>ナレ</sub>近ク者ノ言ヲ諒トシテ、妄ニ  
信ズルベカラズ、多クハ私欲ノ<sub>タラシ</sub>諂言ト察スベシ、苟子<sub>カフ</sub>「膠<sub>ジュン</sub>々<sub>ジュン</sub>肫々<sub>ジュン</sub>、其事不可<sub>レ</sub>循」トミユ、今目前ニ

俗夫頑民ノ言ヲ證トシテ、終ニハ禍國家ニ及ビシ事間有リ、古聖代ニハ八月衣ヲ援ク<sub>ミユレ</sub>共、後  
世無キ事ナリ、富民ハ一年ノ米穀ヲ飭セドモ、是等ハ百人ニ一人、其餘ハ皆已ニ四五月ニ至レバ食穀

盡キ、田植時分ヨリ冬ノ綿入衣類等ヲ質屋ニ納メ置クユエ、稍九月ニ至リ新穀登レバ、先ヅ密ニ一二

苞モ賣リ、質屋ヨリ衣類ヲ受ケ寒氣ヲ凌グナリ、故ニ是情ヲ推量シテ、面ニハ年貢皆納無キ中ニハ、

一苞タリトモ出米大禁ト令ヲ下シ、僅一苞二苞ハ<sup>ワレヨウ</sup>汪洋ニ視テ、若シ是情無ク小狹トキハ、民苛酷ニ堪ザルユエ、未ダ郡縣ヲ治ル器ニ當ラズ、徒胥小吏ノ輩多クハ小狹ク者ユエ、長官ヨリ兼テ道理ヲ教諭シテ置ベシ、商人ハ又右ノ米穀ヲ市中ヘ日雇ノ徒ニ賣リ、庶民融通シテ相俱ニ世ヲ送レリ、是則天道循環ノ理ナリ、如何ゾ一民ニ泥マンヤ、世間俗吏ノ徒大形自身ノ役所ニ偏頗スルハ人情ナレドモ、國家社稷ノ忠臣トセズ、公儀ハ新田開發アルヲ大ニ懼ビ玉フテ、御賞美アラセラレ、其地ノ代官ニハ十分一ヲ賜リ、開發第一ト台命有テ、若シ願フ者アラバ、役人ヲ遣ハスニ及バズ、其地ノ代官ヨリ取計ラバ、上ノ失墜<sup>シツツイ</sup>モナク、旁<sup>カガム</sup>以テ向後心掛ルベシト懇命アリ、如レ是重ンジ玉フニ、諸國ニ於テ勸メモセズ、マタ輿人ニ其賞モ無キ處モ有ルハ、如何ナル故ゾヤ、開發ト云ハ、思ノ外物入スル者ユエ、容易ノ事ニ非ズ、此事ハ余モ明試シ知レリ、華城ニ錢塘ト云海岸アリ、漢世ニ萃信ト云者塘ヲ築カント、土在一斛ニ錢一千貫ヲ與ヘント令ヲ下セバ、十日ノ間ニ日傭雲霞ノ<sup>アツク</sup>集レユエ、貨錢遂ニ空ク成リテ謫テ逃去レリ、故ニ是ヨリ錢塘ト名ク、年久ノ歷テ、又明朝ニ至テ築ク、壹州ニ土井市兵衛ト云天下高名ノ豪富アリ、土井ノ阿保普請ト云所アリ、貨錢ハ錢ノ掘取ニ致セシニ、半途ニ廢シ<sup>アツク</sup>礪<sup>アツク</sup>今ニ遺レリ、偕是掘取ヲ卒爾ニ聞テハ、高利ノ日傭ト視ユレドモ左ニ非ズ、亂錢ヲ大桶ニ入レ、兩手ヲ以テ掘取ルニ、片手ニ僅百文ヨリ上ハ握ラレズ、然バ一日僅二百文餘ニ當レリ、斯ルコトハ全ク驕慢俠者ノ致ス所ナリ、開發半途ニシテ崩ル、處諸國甚ダ多シ、若シ官ニ餘財モ有ラバ、時ノ豪家ニ貸財シ、再築成

就セシムルベシ、後世天下ノ爲ナリ、墾地ハ山林荒野海岸、其場ニ由テ入費多少アリ、始メ能々見積ルベシ、若シ見損ズル時ハ、大枚ノ金銀ヲ捨ルノミナラズ、土地ヲアラス者也、山林ハ墾キ易ク入費モ寡シ、海岸ハ入金大總ナリ、大體塘一間ニ銀壹貫目、田モ又一段壹貫目ト大積リノヨシ、山野ハ堤防ヲ除テ、一段五百目計ト積ルヨシ、堤防ハ其土地ニ由ルユエ、其處ヲ觀テ考ヘザレバ究メ難シ、第一場所ハ谷長ク幅隘ク、赤土近キニ有レバ、十分一ノ入費ナリ、平戸ハ下ヨリ開發ヲ願フトキ、堤防ヲ上ヨリ築ケバ其租ヲ増シ、自力ヲ以テ築ケバ其租ヲ減ズト令アリ、能ク下情ニ通ズト云ベシ開發入費ヲ上ニ願フトキ、必ズ上普請ニ致ス事勿レ、其雜費十倍スルノミナラズ、又堅固ナラズ、輒富家ノ人物ヲ見立テ年賦ニ貸シ、彼ガ永業田ト爲シ、加地子ヲ取ラスルベシ、六韜ニ、「無レ取レ於民者、取レ民者也、無レ取ニ於國者、取レ國也、無レ取ニ於天下者、取ニ天下者也、無レ取ニ於民者、民利レ之」ト云、民ノ長タル者己一人利ヲ擅ニスレバ、秦ノ始皇ガ取レ之盡ニ鎡鋸ガ如ク、天下ノ民皆惡ンデ滅亡スルニ同ジ、故ニ利ヲ上下共ニスレバ、却テ國盛ニシテ上富メリ、是ヲ考ヘ、倘シ下ヨリ開發等致サバ、私欲ヲ去テ利ヲ下ニ與ヘ置ベシ、假令ヘ田一段ノ年貢ヲ農民納ル所米三斗ナレバ、上ニ其半ヲ減ジテ一斗五升ヲトリ、地主ニ一斗五升ヲ取ラスルトキハ、農民ノ納ル高ハ同フシテ、何ノ苦ニモナラズ、上一人統テトラント私欲有ルトキハ、開發スル者決シテナシ、其マヽニ墾カセズンバ、千百年不毛ノ土ヲ墾<sup>ヒ</sup>キ穀祿ヲ賍モ、其國功ニ於テハ優劣有レドモ、其勳績ハ易ル事ナシ、然レバ是情ヲ知ルトキハ、

褒賞輕キニモ非ズ、今時ハ他ノ畔ヲ刻リ奪フ者ハ多ケレドモ、礪石ヲ瘞メ荆藪ヲ掃ヒ、一步モ弘ムル者ハ、一郷ニ一人モ無キトミユ、前ニ述シ通り、田畔荆棘礪礪ノ空地少ラズ、是ヲ一國ニ合スレバ莫大ノ利潤トイヘドモ、民心斯ル風俗ニ移ラザルハ、畢竟上ヨリ其令モ無ク、又賞無キニ由レリ、適良農有テ、五畝一段荆藪ヲ開キテ、地ヲ廣ムレバ、時ニ由テ穢吏ノ輩、聚斂シテ上ニ利セントスルハ、頗ル小慳ニテ國家有益ヲ妨ゲ、天地ニ對シテノ罪人、我民ノ救恤ヲ賊フト云ベシ、大村ハ墾闢ノ時、始メテ荒繩ヲ受ルニ一段ナレバ、本帳ニ一段ト記シ、再檢無シ、因テ其後自放ニ塌キ、設令少々公林ナドニ伐リ入リテ、一段ハ一町二町開イテモ、各ル者モ無シト聞及ベリ、夫土地ハ禁ヲ犯シ勅メ廣ムルトイヘドモ、之ヲ運ンデ他邦ヘ持往者ニモ有ラズ、其止リハ我國家ノ爲ニテ、徒上ノ租税ニ少シ利欲ヲ去ルノミ、其職掌是理ヲ考ヘ、縦ヒ上ニ願ハズ密ニ開クトモ、強テ咎メズ大量ニ致シ置カバ、小ヲ棄テ大ヲ取ル國器ノ英才ト稱スベシ、小池ニハ大魚ハ容レラレズ、大海ニハ萬魚千貝悉ク棲メリ

今清朝ハ開田鐵始ヨリ十年無税ナリ、諸國大概五年七年ト究ムレドモ、七八年モ宥メ置ベシ、五年ヤ十年ハ瞬息中ナリ、若シ開カズンバ、千百年モ空地ニテ五穀此世ニ出ズ、一斛土中コリ出レバ、其一斛ハ國家ノ益ナリ、故ニ小利ニ日ヲ厭レズ、七年過テ始テ開キシト思ヒ切ラバ、租ヲ棄ルコト最易キ事ナリ、兎角官吏ハ果敢ナル事好シ

開發ヲ願フ者有ラバ、五段以上ハ成就ノ上、二割ノ免地ヲ與ヘテ其感牒ヲ賜リ、永ク子孫ニ所持セシ

メ開田免狀ニハ賣買ヲ禁ジ、又其郷ニ觸レ置ベシ、一町ノ開田ニハ、二割ノ免地ニ致セバ二段ナリ、譬ヘバ一段ニ年貢一斗掛レバ、一町ニ一石トナル、其内二段ノ免租二斗ヲ殘リ八段ニ割付テ、一段ニ一斗二升五合ヅツ掛レバ、八段ニ一石トナルユエ、上ニ取ル所ハ石數同算ナリ、是事奇術ノ様ニ視ユレドモ、勵善ノ良策ナリ、四段以下ハ免地セズ、賞賜スベシ、畠開モ免地セズ、賞賜ニスベシ、賞賜ノ品物ハ法令ノ部ニ委ク記セリ、其外自力ヲ以テ田畠修理スル者ハ、一人モ洩サズ賞賜スベシ、夫庶民ハ家ヲ富サント、日ニ自職ニ精力シテ片時も逸ンゼズ、然レバ上ニ仕ユル者モ、國家ヲ盛ニスルハ自職ユエ、須臾モ忘レザルハ當然トイヘドモ、民事ニ晝夜心ヲ掛ル者、今ノ世ニ殆希ナリ、農ニ心ヲ竭スハ、治世ニ於テ國家第一ノ要務ト知ルベシ

開田ハ一村ノ願ヒニ許サンコリ、當家一人ニ許セバ其成就速也、衆人ノ勸物ハ多ハ半塗ニ廢者也、島原陣ノ時水野日向守、是戰ハ竹釘軍故速功有ラズト云、竹釘ハ頭無シト云事也、一切ノ其長無レバ和セズ、開田ノモヤヒ事ハ其中一人家内ノ病氣、或ハ吉凶私用ニ付テ出ザレバ、又一方モ是ニ假托テ出ズ、特ニ貧キ者ハ目前賃錢手ニ入ヲ閣<sup>サシオキ</sup>テ、四五年過テ穀ヲ取ル事ハ迂ク、唯隙有ル時ノミ、蓄<sup>ヒラ</sup>ク故、許約ノ年期ニ合ハズ、竟ニ上ヲ欺キ事半ニテ賣斥ス、故ニ富家一人ニ命ズレバ、年期充ザル中早ク穀ヲ取ラント、急ニ毎月賃ヲ渡シ、多クノ人ヲ傭フ故、其成功速也、凶年ノ時トモハ各別ナリ、故ニ上ニ租ヲトル利モ又早シ、此意ヲ考ヘ、士農工商ハ勿論、僧山伏ノ徒ト雖、其勢有ル者ニ許スベシ、開田ハ農民ノミト

云ハ、國家ノ大功ヲ妨ル、小量偏屈モノニテ、一日モ廣大ノ國政ニ與事能ハズ、開田四五段マデハ自耕ノ爲ナレドモ、二三町以上ハ他人佃戸ニ作ラセ、生税ヲ取ル爲トハ知レタルコトナリ、故ニ生租ヲ禁ズルトキハ、一人モヒラク者無ク、永ク空地ト爲シ置ハ無理ト云ベシ、今昇平久ク生齒毎年ニ蕃息シ、穀食不足ユヘ、昔ノ一町ノ開發ヨリ、今ノ一段ヲ貴シトス、況ヤ昔ハ樟朴ノ風俗ニテ財貨モ多シ、今時ノ者ハ華奢ニ陷リ財用乏クシテ、タバ一向利ニ趨リ、斯ル迂キ開發等ニ、大金ヲ費ス者ハ幾希ナリ、或邦ニ凡四五十戸ノ村民、山野ヲ芟テヒラカント請フ、畝數大概二十町、奉行是ヲ一戸宛ニ配當シ、五年ヲ期ト究メ銀主ニ渡サズ、各永ク所持セヨト懇命ス、然レドモ月ヲ逾ズ過半賣斥シ、凡ソ廿四五年ヲ歷レドモ、曾テ一段モ成就セズ、依然トシテ曠野空土ト成レリ、是時富家一人ニ許サバ、早ノ上下ノ利潤タルベキニ、畢竟下情ヲ知ラズ偏執ナルユエ、カヘツテ仁ハ不仁ト爲ルナリ或邦ニ官ヨリ開發シテ、村中ニ配當スレドモ、未ダ熟田トナラザル中ニ片端ヨリ賣斥ス、是ヲ以テ觀レバ、貧者ニ永持ト云ハ、假ヘバ猶ニ香ヲ預ケ置ニ同ジ、所詮賣田ハ禁ジ得ル事ニ非ズ、是ヲ禁ゼントスルハ所レ謂屠龍ナリ

富人開發ヲ希フトキ、其村嫉妬ノ者一兩輩有レバ、忽チ黨ヲ催シ、草薊場ノ妨ゲナドト故障ヲ云事アリ、是等ハ財ヲ用ユレバ從服スレドモ、實ニ亦後世村害ト成ル場所モ有リ、又海岸ノ斥ハ一里填レバ、其先又一里斥ト成ル者ナリ、是等ハ理外ノ理ト云者ユヘ、舟乘港埠ノ害無キ事、時ノ官吏能々點檢シ

テ許スベシ

下ヨリ開發ヲ願ヒ、其勢乏キ者ニハ、山陸ナラバ堤防ハ官金ヲ以テ築キ、海濱ハ<sup>ドテ</sup>堀ヲ築キテ、開田ノミ致サセ、入金ハ其租ニ掛テ可ナリ、若シ後年其入金ヲ返サバ、其時租ヲ減耗スベシ

開田ハ先ヅ堤防ヲ一番ニ築キ、其後水勢ノ多少ヲ計リ漸々墾クベシ、平地ナラバ十町ノ田ニハ、三町餘モ池ト定ムベシ、堤防ハ始メ能ク水理土性ヲ考ヘズンバ、其場處ハ好トイヘドモ終ニ用達セズ、河邊ナラバ、決川ニ達セシ時ノ功者ニ檢地ヲ請フベシ、莫大ノ黄金人力ヲ費スコトユエ、深ク慎ムベシ

加藤清正ハ戰伐ノミナラズ、又地力ノ智術有テ、決川塗道ノ成功、後世迄有益ノ事間有リ、今兵家石壘ニ加藤ガ傳ト云事有リ、夫國郡ノ長タル者、宮室臺榭及ビ翫好ニ財ヲ棄ンヨリ、地力ノ功ヲ立テ、萬世天下ノ民ニ德澤ヲ布キ施ス事ニ財ヲ費シ置カバ、縱爵ハ低シトイヘドモ、其德ハ帝王ニ侔シカラズヤ、諸侯トイヘドモ千萬世永續セザルハ、和漢ノ歴史ヲ觀テ察スベシ

町家ハ豪富トイヘドモ永ク續ク者ニ非ズ、大抵鄙舍ハ百年ヲ過ズトミユ、皆賭酒色遊藝奢靡ニテ散財衰微ス、故ニ蓄積ノ時開田等致サセ置ケバ、永ク國家ノ益ト成リ、彼ガ子孫モ亦匱乏ニ至ラズ、由レ是上下利ヲ同フシテ、年貢ヲ三分ト定メ、<sup>ウハナリ</sup>生租ヲ七分ト究ムベシ、下ニ取ル七分ハ、年ニ由テ三分トモナル者ユエ、是實味ヲ考ヘ、必ズ年貢ヲ厚クスベカラズ、返テ小欲大損トナルベシ、六韜ニ、「取ニ天下」

者、若<sup>レ</sup>逐野獸、而天下皆有<sup>ニ</sup>分肉之心<sup>ニ</sup>トハ、人君ノ守ルベキ語ナリ

明ノ制ニ、官人ニ開田致サセテ永業田トス、永業田ハ私田ニテ、子孫永ク所持シ、縱ヒ浪人スルトモ取揚ゲナシ、大村ハ家臣開發ヲ願ヘバ之ヲ許シテ知行ニ賜フ、之ヲ下地ト云、官ニ入レバ、職給或ハ音信ナドニテ、一時富ム事ヲ得ル者モ、問ニ在レバ子孫ニ及デ賈<sup>レ</sup>スルハ天下皆爾リ、故ニ家財等無益ノ事ニ財ヲ費サンヨリ、開田ヲ致シ置カバ、第一國家ノ爲ノミナラズ、薄祿ノ身モ貪婪ノ心モ寡ク、藝術修練モ存分ニ成リ、武具書籍モ買メ易シ、貧ハ諸藝ノ妨ト云、貧苦ニ逼リテハ心ニ如<sup>シ</sup>在<sup>ル</sup>ハ無<sup>レ</sup>ドモ、不圖清廉ヲ失ヒ武ヲケガス事モ有リ、此情ハ富貴ノ人ノ知ル所ニ非<sup>ズ</sup>ス

太宰子ノ經濟錄ニ新田ヲ開ケバ故田ノ障ト成ルユエ、卒爾ニ念立ツ事勿レトミユ、今豊後ニモ禁制ノ所アリ、彼地空地曠原甚ダ多ケレドモ、之ヲ禁ズルハ、定テ民數寡キトミユ、故田荒ル、ト云ハ其地ニ由レリ、一般ニ決シ難シ、太宰ハ元祿時分ノ人ナリ、故田荒レテモ、一方ニ新田生ズレバ、國計ハ易ル事ナシ、又故田ハ舊來ノ田ユエ、人家近ケレバ荒ル、ベキ様ナシ、始テ開發スル者、大金ヲ費ス事ユエ、其郷ノ民數ヲ計ラザル者ナシ、庶人ノ利ニサトキ事、學士大夫ノ及ブ處ニ非ズ、上ヨリ出金サヘセズンバ損モ無ク、中途ニ廢セバ地主ノ損ナリ、故ニ下ヨリ願ハハ、山林牧圯トイヘドモ田畠トナスベシ、薪ハ藁ヲ焚テモ不自由ナシ、又他邦ヨリモ買ラル、ナリ、賢君出テ善政ヲ施シ玉フトモ、子孫ニ至ツテハ必ズ凌夷ス、夏紂王モ、始祖ハ大聖神禹ナリ、地力ノ功ハ縱ヒ絶世スルトイヘドモ、其

餘澤千載盡キズ、唐津ニ二萬石ノ田地、昔寺澤志摩守ノ禦開ユエ、寺澤ハ子孫咸絶スレドモ、今ニ於テ志摩田ト稱ス、國ノ盛衰ハ其封内ニ入テ、田畠ニテ分ルベシ、民羸レテハ故田モ<sup>シラ</sup>芟<sup>シ</sup>稽<sup>シ</sup>ニ蔽ハレ、開發等ハ思ヒモヨラズ、近年開發多キハ、九州ニ於テハ肥後トミユ、信州桔梗ヶ原ハ凡三里四方一面前平地ユエ、開田ニ入費寡シト見ユレドモ、溉水無キ故カ、近年公儀ヨリ檢者來テ測量アルト聞及ベリ、我邦中華ニ比ブレバ、人多ク田數寡キユヘ、列國ノ人主各開墾ニ心ヲ掛玉ハバ、兵ハ饑ニ因ル者ユヘ、食足ルトキハ千載泰平ナラン、開發ハ唯豪家ニ命ズル事甚ダ便利ナリ、柳川ニ紅屋開キト云廣大ノ田アリ、長崎ニ上田開ト云所生租五六百苞、元上田何某ト云、商人ノ開田ナレドモ、今ハ潰レテ人手ニ渡レリ、平戸佐々ト云處ニ二十餘町ノ開田アリ、城下ノ酒肆、谷村何某ガ墾開ナリ、是内三千石ハ免除ニシテ年貢百苞、谷村ガ取レル生租ハ百苞、今ニ於テ依然タリ、別莊ノ庭前ニ石ヲ建テ、先侯躬ヲ碑銘ヲ著シ、其功勞ヲ褒稱アリ、書中ニ月ノ及ブ所ノ山林ヲ賜フト記ス、凡周リ一日程、是地一名大悲觀ト云、大觀濶達ト稱スベシ

新田初テ租ヲ掛ル時、功者ヲシテ能ク上中下ヲ觀斷スル事肝要ナリ、尤モ其地形ニハ由レドモ、大抵一列ニ檢テ置クモ宜シ、古人上下ヲ究メ置レシヲ纖毫モ差ハズト、農民ドモ今ニ於テ感稱シ、始メ素ウヘシテ試シト評スレドモ、然ラズ、古人ハ忠恕ヲ以テ眼心蔽ハレズ、故ニ見聞スル所少シモ差ハズ、後世ノ者ハ易道ノ損益ヲ知ラズ、姑息ニ目ヲ舐レ、私心ヲ以テ檢ルユエ、眼心朦ンデ差フ事アリ、是

眼勢不明ニ非ズ、一心ニ由テ古今ノ違アリ

或邦ニ開田ヲ願ヘバ、凡ソ一段ニ米拾苞無利足ニシテ、拾ヶ年賦ニ致シテ貸シ、十年過レバ其土ニ應  
ジテ租ヲ懸ルハ誠ニ良制ト云ベシ、但拾苞ヨリ上ハ、必ズ貸スベカラズ、多クカセバ却テ上ノ難題ト  
ナル者ナリ、畠開ハ一錢タリトモ貸ベカラズ、亦開發ハ其郷其土地ニ由テ雜費多少有テ、一段十金入  
ル處モアリ、五金ニテ足ル處モアリ、時ノ檢者此ヲ能ク考ヘ、縦ヒ熱地トイヘドモ、年租ノ高下ヲ定  
ムルコト肝要ナリ

開苗<sup>カキヒ</sup>ト云テ二三段モ苗代シテ植置ク處アリ、是ニ附テ一術アリ、一村毎ニ祭田ト云テ、村中筋田ニシ  
テ組ヲ立テ會耕スルユエ、是ヲ開苗ト致シテ一段ヲ圍ヒオキ、大抵苗ノ腐傷ハ十日ホドニテ知ル者ユ  
エ、村中ノ田傷マザル時ハ、是田ヲ植直スベシ、十日ホド時候ニ後レテモ、各別ノ損毛ニ非ズ、大概  
七八分ノ登モ有ラン、是ヲ祭給トセバ、假令米ハ減ルトイヘドモ、神ハ却テ歆玉<sup>ウケタマ</sup>ヘリ

根苗ト云者アリ、關東ニハ多ケレドモ、西國ニハ稀ニアリ、専ラ泥深キ水田ニ植ユ、地拵ハ徒植ト同  
ジ、種ヲ浸スニハ、寒中ヨリ雪水ヲ桶瓶ニ蓄ヘ置テ、三月苗代時分四五日前ヨリ、扱ハ苞裏<sup>フミ</sup>セズ、右  
ノ桶ニ五日ホド浸シ、輕キ秕<sup>シヒツ</sup>ノ浮ブ者ヲ去リ、三四粒ヅツ播ベシ、必ズ密ニ播カズ、疎濶ニ撒スベシ、  
是事古人ノ說アリ、證トスベシ

四五月時分大旱ニテ、苗ヲ植ルコトナラザル時ハ、六月土用迄ハ苗床ヲ干ザル様ニ致シ置ベシ、土用

ニ雨ヲ得テ植付ケ、秋登<sup>ミナリ</sup>ヲ得シ事アリ

野稻ハ五穀神ノ崇<sup>アカシ</sup>ヲ受クト、其地ニ應ジテモ播ズ、農民ハ頑愚ニテ、斯ル國害タル事世ニ甚ダ多キユエ、

上タル人ヨリ諭スベシ、山野ノ窮民ハ大ニ便利ノ穀ナリ

鄉村ハ場圃<sup>ヘダ</sup>多キヲ善トス、中以下ノ農民ノ爲トナルナリ

捨苗<sup>ステ</sup>ト云者ノリ、山上燥地若シ雨年得レバ秋登<sup>ミナリ</sup>アリ、或ハ山溪濕地若シ旱年ヲ得レバ、秋登<sup>ミナリ</sup>アリ、或

ハ大河ノ岸等、是皆天ノ僥倖ヲ恃テ苗ヲ植置ユエ、捨苗ト云、故ニ斯ル所ハ始ヨリ無税ニ致シ置ベシ、

租ヲ掛レバ空ク穀ヲ求メズ、江湖湖邊ニハ捨苗ト云フ間アリ、苗サヘ捨ルニ何ゾ年貢ヲ捨ザランヤ、

故ニ永代無税ハ言フニ及バズ、山村ニハ無高ト云テ、處々ニ無年貢ノ田地、五段モ一町モ作り取ノ者

少ナカラズ、寬量ノ政ト云ベシ、田畠<sup>コナケ</sup>障<sup>ササ</sup>リ公林ハ勿論、受山ニテモ南山ハ六間、北方ハ四間、通向

フニ伺ハズ、勝手ニ伐拂フテ苦シカラズト時々令スベシ、毎年ノ事ユエ、時々吏人ニ訟ヘ、迎ヘテハ

其難澁甚シ、峻ク聳シ所ハ、北ハ八間、南ハ十四五間ト究ムベシ、右ニ就テ互ニ爭論盡キズトミユ

雲<sup>アマゴヒ</sup>ニ色々奇術ヲ爲スハ我邦ノミナラズ、中華ニモ昔ヨリ方士ノ輩、印令・旗劍・符圖・氣訣<sup>ケツ</sup>ノ類ヲ以テ雨

ヲ禱ルコトアリ、廣州記ニ、鬱林郡ノ池邊ニ石牛アリ、年旱スレバ牛ヲ殺シ、血ヲ泥ニ和シ、石牛ノ

背ニドロヲ塗テ祠レバ忽チ雨降リテ、ドロヲ洗盡セバ即晴ト云、是例ニモ因ル事カ、余ガ近郷ノ野ニ

臥牛ノ如キ大石アリ、早ノ時酒三斗脯<sup>フル</sup>蓋<sup>メ</sup>十斤ヲ以テ是ヲ洗フコト有リ、是等ニ水三斗ニ酒一升ヲ和

シテモ、是石モ承知セザル事ナシ、古ヨリ和漢共ニ、其證モ無キコトニ財ヲ費ス事甚ダ多シ、蒙古ハ唯一盆ノ中ニ淨水ヲ入レ、其内ニ鮓荅ト云、牛馬諸獸ノ中ニ生ズル鷄卵ノ如キ小石ヲ數枚入レ、鮓荅、今蘭人持來藥石ニモナアンゾ、密咒ヲ持シテ淘漉玩弄スレバ雨降ルト輟耕錄ニ載タリ、中華ノ君子ハ之ヲ聞テ、人ヲ愚ニ爲ルト大ニ誹レドモ、人ヲ愚ニスルヨリ、我邦ハ神ヲ愚ニスルナリ、右ノ密咒ハ我邦今時ノ様ニ、淫祀ニ入費失墜ナキユエ、國家ノ爲ニハ最好シ、今時農民等神主出家ヲ恃テ禱ルハ雜費寡キユエ、彌々其證モ視エザレバ、又惡キニモ非ズ、然ルニ男女雜集シテ踊狂言角抵囉練物、或ハ鉦太鼓ヲ鳴シ、喚幌テ聲ヲ囁シ、傍人モ日ニ掛ラズ、或ハ諸侯行列ノ眞似ナド致シ、種々ノニ氣大談戲ヲシテ毎日ノ酒食、後ニハ喧嘩口論止ムコトナシ、神ニ假托シテ、己ガ嗜樂ヲ以テ天地神明ヲケガシ、却テ後日天罰降ル事ヲ知ラザルハ、頑民一般ノ情ナリ、凡夫ノ嗜ム所ハ天地神明ハ好ミ玉ハズ、倘凡夫ノ意ト同ジケレバ神ハ尊ブニ足ラズ、人ニシテ天地ト同德ナル時ハ、則聖人ニ至ナリ、天ハ清淨ナリ、烈風迅雷ハ天ノ怒ナリ、論語ニ、「屏氣似不忍者」ト云ハ、孔子公門ニ入り玉フ時ノ事ナリ、聖賢ノ身ニ於テハ公門ニ入テサヘ、氣ヲ屏メ息モツカザル様ニ敬ミ玉フ、況ヤ天地神明ヲ祭ルニ、右ノ如ニ恩劇シ鼻情落ヲ爲シ、何ヲ以テ感有ルベキヤ、若シ斯ル時僥幸ニ雨ヲ得ルハ、時來テ降ル者ナリ、必ズ淫祀ノ所爲ト思フベカラズ、國家ノ害ハ淫祀ヨリ甚シキハナシ、世俗ハ區ヨリ癩癩ニテ、斯ル淫祀ハ禮ト念フユエ、上タル人ヨリ能ク天道ノ理ヲ教ヘテ悉ク嚴禁シ、旱魃ノ時ハ士農工商相共ニ、一七日齋戒沐浴シ

テ其郷ノ神殿ニ參籠シ、高笑放談セズ、心ヲ清淨ニシテ祈ルベシ、齋戒ト云ハ、第一酒ト女ヲ禁ジ、魚肉五辛ヲ食ハズ、如何様ノ事有リトモ怒リヲ起サズ、氣ヲ屏メ髮結沐浴シテ、無念無想ニ成ル事ナリ、又俗人ヲ頼ミ樂ヲ奏スレバ是上ナシ、右ノ如ク勸ムレバ、錢三文ノ費モ無ク、天地ノ道理ニ協ヒ風俗モ改マリ、國家安全ノ基ナラズヤ、今時ノ様ニ無藥俗コトニ、數十日ノ暇ヲ偷ミ、大總ノ給金ヲ費シ、凶作ノ上ニ又モ年貢ニ掛ルハ、雪上ノ霜ト云ベシ、全體費用ハ上ヨリ出ルハ當然ユエ、賜給ノ邦モ有レドモ、下花奢ヲ竭スユエ、不足シテ又醜會スルコト多シ、或ハ農人舉テ跣歩絶食シテ炎熱ヲ犯シ、一日山頂ニ坐シテ身ヲ焦ス處モアリ、春以來艱難ヲ盡セシ青苗ヲ看枯野ト成スニ忍ビズ、心顛倒シテ巫僧ヨリマドハサル、ハ尤ナリ、夫君ハ民ノ耕シテ養ナフ所、土亦之ヲ得テ命ヲ繫グニ非ズヤ、若シ是源ニ氣ヲ附カバ、旱魃ニ至テハ先ヅ農民ニ慰シテ禱ルベキニ、今時ノ土ハ多クハ農民ドモノ役日ト心得テ、清涼ノ座ニ扇ヲ握リ、避暑ノ宴ヲ設ケ、斯ル零ノ時ナドハ、見物ニ往ク者ハ多ケレドモ、其艱苦身ニ體認シテ祈ル士ハ殆希ナリ、間ニハ魚獵ヲ爲サント堤坊ノ水盡ルフ待ツ者モアリ、是等ハ禮儀ヲ知ラズ、天道ヲ畏レザルユエ、土トスルニ足ラズ、下ハ水ノ如ク方圓ニ随フ者ユエ、何事モ長タル者ヨリ身ヲ以テ行フテ視セバ服セズト云コトナシ、近年或代官三日絶食跣歩シテ祈レバ、鄉村市町感服シテ、毎戸絶食シテ參籠セシニ、翌日時雨盆ヲ傾ク、由是種々淫祀ノ失墜一錢モ入ラズ、却テ神助ヲ得シナリ、上杉鷹山侯ニハ五穀豐登ヲ祈リ、齋戒シテ祖宗謙信ノ廟ニ、二夜三日斷食シテ座シ

王フ、後漢載封ハ西華ノ令ト爲ル時大ニ旱スレバ、甚ダ憂ヒテ禱レドモ其驗無キユエ、必死ト究メ、  
薪ヲ積テ其上ニ座シ、自ラ焚ントセシニ、火既ニ起ルトキ乍チ大雨降レバ、遠近感服ス、殷ノ湯王ノ  
時旱魃續イテ七年ニ及ブ、王祝シテ曰、「政不節耶、使人疾耶、苞直行耶、<sup>ハウシヨ</sup>讒夫昌耶、宮室營耶、女謁  
盛耶、何不雨也」ト、身ノ過失ヲ述テ禱リ玉ヘバ、言未ダ已ズ大ニ雨降ル、又漢書五行志ニ、君威盛  
シナレバ旱リ多ク、臣威強ケレバ雨多シトミユ、又上間ク獄訟正シカラザレバ大旱有リ、唐ノ玄宗ノ  
世ニ、時ノ廷尉不肖ニシテ裁判不決、罪無キ者ヲ入牢スレバ年大ニ旱ス、時ニ御史大夫顏真卿、之ヲ  
獄レバ、乍チ雨降ル、由之時ノ人之ヲ御史雨ト稱ス、凶年ハ皇天震怒ノ兆ユエ、上タル人常ニ慎ムベ  
キナリ

論干ハ天下統テ禁法トイヘドモ、肥後ハ各別ニ嚴刻ノヨシ、最モ宜シ、今十四五日ヲ過サバ熟登スル  
ハ、農民固ヨリ知ルトイヘドモ、窮民止事ナキトミユ、此等ハ身ノ饑ニ臨ンデノ態トミユレドモ、門  
徒ノ農民ドモ、秋ノ彼岸ニハ先ヅ新穀ヲ寺ニ納ル者ト心得テ、縱ヒ古米ヲ蓄ルトイヘドモ、未ダ熟セ  
ル青田ヲ獲リ、之ヲ論干ニシテ、毎戸一升ヅツ寺ニ納メ、近年門徒多キ鄉村ハ、他宗マデ火化セル  
風俗ト成ル、尙一升ヲ取納スルニハ、稻五把モ十把モカフデ叶ハズ、熟登一升ハ、論干スレバ七八合  
ニ減ズ、然レバ千石ヨリ二三百石ノ減耗ユエ、一國ニ積レバ仲々莫大ノ損失ニテ、僅廿日許ノコトニ、  
一年心苦ヲ竭セシ穀食ヲ空ク大海ニ棄ルニ異ナラズ、是意ヲ考ヘ、秋ノ彼岸ニハ古米共ニ寺ニ納メ、

永キ宿習ユエ容易ノ事ニテハ行レマジ、斯ル事ハ全ク其庄屋ニ在ルベシ

或鄉村他宗ノ農民トモ、早稻ヲ獲ルトキ先ヅ一升ヲ遣シ、取納終ツテ年貢ヲ納ルトキ、是米ヲ苞ニ入レ、又少シ許リ紙ニ包ミ置クモアリ、國主ヲ敬フ志實ニ感心スベシ、門徒ノミ之ヲ爲ザルハ甚ダ惡ムベキ者ドモナリ、佛有ルコトヲ知テ、君有ル事ヲ知ラズ、不忠不臣ノ俗、右ノ一事ヲ以テ察スベシ  
郷中富農ノ輩初秋未ダ一苞ノ貢ヲ輸メズ、密カニ醪酒ヲ造リ賣ル者間有リ、當時農家利ニ走ル事如此、左レバ免職ノ酒肆等ハ怨害ヲ恐レテ官ニ告ズ、默シテ許スハ萬事下民ノ情ナリ、故ニ官ニ居ル者ハ須臾モ政事ヲ忘レズ、日ヲ諸方ニ配ラズンバ、農夫ノ耘耨ニ怠ルガ如ク、一時ニ惡草茂盛シテ嘉穀ヲ害フニ同ジ、必弓斷スルコト勿レ、爲レ政者、必須ニ子細詳密

或孤島幽僻ノ山村ニ往シニ、民屋皆上古穴栖モ斯ク有ラント思ヒシ事アリ、家ハ掘立柱ニテ、壁ハ石垣練塀、牛馬モ家ノ内ニ置キ、沐浴モセズ、髮ハ麻ノ如ク、宛モ猿猴ニ似タリ、毎日芋ヲ常食トス、然レドモ皆乏シカラズ、正直ナリ、是ヲ以テ觀レバ暴行邪智ハ總テ驕奢ニシテ不足ヨリ生ズ、故ニ鄉村ヲ富潤ニセント欲セバ、種々ノ法令ヲ出スニ及バズ、唯一條ニ心ヲ掛ルベシ、其一條ハ極々ノ鄙舍ニ爲ス事ナリ、是ヨリ外ニ仕組ハ無シト思フベシ

## 經濟問答秘錄卷十二終

# 經濟問答秘錄卷十三

## 田賦考

○客云、近年海リニ田ニ蟲生ジテ、農民甚困窮ス、吾嘗テ古書ヲ看ルニ、説文ニ、「食<sub>レ</sub>根曰<sub>レ</sub>蠹<sub>（ベウ）</sub>、食<sub>レ</sub>節曰<sub>レ</sub>蠃<sub>（リョウ）</sub>、吏冒<sub>ニ</sub>取民財<sub>ニ</sub>則生<sub>（トミユ）</sub>」トミユ、又漢書ニ、「蝗蟲食<sub>レ</sub>苗爲<sub>レ</sub>災、貪苛之所<sub>レ</sub>致<sub>（トミユ）</sub>」トミユ、又淮南子ニ、法ヲ枉<sub>レ</sub>バ螟蟲多シ、斯諸書ニ載タレバ、蟲害ハ彌國政ノ不正ヨリ生ズト見ユレドモ、亦天地不順ノ所爲ト思ハル、是事孰<sub>（イナレ）</sub>ニ據ンカ

答云 人事不順ナレバ、天事不順ト有レバ、天地不順ハ、乃時ノ人君ニ在ルトミユ、故ニ唐長孫無忌ハ、洪水ニ由テ身ノ不徳ヲ顧ミ、躬<sub>（ミ）</sub>ラ其官ヲ辭ス、後世斯天道ヲ恐レ、其職ヲ敬慎スル者幾稀ナリ、古唐虞ノ世ニハ五風十雨ト云テ、五日ニ風一遍、十日ニ雨一遍、豈榮穀登盛セザランヤ、近世神祖登極ノ時三年續シト聞ク、今ニ於テ大風・洪水・旱魃・蝗蝻ノ凶年ニ當テ、諸國ニ比<sub>（クラ）</sub>ベ試<sub>（ロム）</sub>ミヨ、一統ノ國禍トイヘドモ、政正ノ藩ハ其損毛他國ノ様ニハ有マジ、足下今疑念ヲ起スハ、未ダ善ニ進マザル氣アリ、實説ト思ヒ、蹈<sub>（オミ）</sub>込<sub>（ム）</sub>デ仁義ヲ行ヒ、尙モ不足ト益々進ミ、先賢ト肩ヲ駢<sub>（トラ）</sub>ベテ試ムベシ、天道ニ古今ト云事決シテ無シ、漢ノ王莽ガ時天下旱蝗アルユヘ、粟<sub>（モミ）</sub>一斛ヲ黃金一斤ニ代ユ、是ヨリ凶賊起リ大

亂トナル、後漢ノ戴封<sup>エイ</sup>汝潁<sup>エイ</sup>ヲ治ル時蝗災アレドモ、戴封<sup>カイ</sup>ガ治ル所ノミ其界<sup>サカイ</sup>ニ入ラズ、時ニ督郵其處ヲ巡レバ、蝗蟲忽チ大ニ生ズ、去ルニ及ンデ蝗亦除ケバ、一郷ノ民之ヲ奇トス、又魯恭<sup>キヤウ</sup>ガ治メシ郡國ハ、舉テ蝗蟲界ニ入ラズ、卓茂<sup>タクモ</sup>ガ密縣<sup>ヘイ</sup>ノ令<sup>レイ</sup>タルトキモ曾テ生ゼズ、陽球<sup>ヤウキウ</sup>ガ茂陵<sup>モウリョウ</sup>ノ令ト爲レバ其界ニ入ラズ、唐貞觀二年蝗蟲大ニ起レバ、太宗之ヲ覽テ蝗蟲數枚ヲ取リ、神ニ祝テ云、人以<sup>レ</sup>穀爲<sup>レ</sup>命、然ニ汝之ヲ喰フテ百姓ニ害アリ、百姓過有<sup>アヤマチ</sup>ラバ、予一人ニ在ルノミ、其靈有<sup>フ</sup>バ我心ヲ蝕<sup>グ</sup>ヒ、百姓ヲ害スルコト無レト、之ヲ吞ントシ玉ヘバ、左右諫メテ、恐ラクハ毒ニ中<sup>ア</sup>リ玉ハント止ムレドモ、太宗聽ズ、我糞<sup>チガ</sup>所ハ災ヲ朕躬ニ移サン、何ノ病力之ヲ避<sup>サケ</sup>ント、遂ニ之ヲ吞ミ玉ヘバ、是ヨリ又災ヲ爲<sup>ワザ</sup>サズ、夫レ天災ハ至誠ヲ以テ感ズベシ、人力ヲ以テハ勝ガタシ、其後玄宗ノ世ニ至テ蝗災起ルトキ、遣使<sup>ケンシ</sup>之ヲ捕ヘ、人力ヲ以テ天ニ勝ントスレドモ其害逾<sup>イ</sup>甚シ、享保年中西國蝗蟲大ニ起リ、人民死亡甚多シ、是時筑前孝子<sup>アヒ</sup>庄助ガ耕田ニハ、畦<sup>アヒ</sup>ヨリ内ニ一蟲モ入ラズ、是ヲ以テ觀レバ、道德ニ於ル天地神明ノ擁護ハ勿論、禽獸魚蟲ニ至ルマデ感應セズト云事無シ、國多<sup>出ニ淵</sup>孝子、則風雨時<sup>鑑</sup>、倘<sup>モシ</sup>天災地妖ノトキハ、僧巫ノ禱祈ハ末ナリ、先領中ノ孝子ヲ探リ重賞スベシ、佛神ハ形モ觀エズ、孝子ハ佛神ト同德ノ者ナリ、然レドモ上ニ賢明在サズ、賞罰正シカラズンバ、孝子良民ハ容易ニ興ラズ、却テ姦猾愷民ハ日増起ルベシ、故ニ其郡郷ノ宰タル者、夙夜政道ヘ心ヲ竭ス。風俗一變セバ、天道時順シテ、凶饉ノ憂モ亦少カラシ

田蟲ニ種類多ク、和訓俗語ノ謬アリ、蝗ハ田蟲ノ總名ナリ、今俗ニ云フ蝗ハ蜻蛉ノ形ニテ、ホク青ク、苗ノ心ヲ吮フ、西國ニテ一名「タカ」ト云フ、則螽斯ナリ、關東北國畿内邊ハ是ヲ炙テ食スト聞ク、飛翔スルユヘ、油ヲ以テハ死セズ、格別田害ニハナラズ、時節ニ違フテ早ク植レバ、蜻蛉ト云蟲生ズ、本名ハ蟻蚋ト云、菜蟲ノ類ニテ葉ヲ啖フ、油ニテハ死セズ、故ニ一々執ヘ殺スベシ、又蚋ト云蟲有リ、早稻ノ穗ヲ吸フ、人ニモ咬附ナリ、其形斑猫ニ似テ小ク、色ハ鼠色、能ク飛行ス、油ニテハ死セズ、又蚋ト云有リ、蟻トモ名ク、人皆其名ヲ云ズ、唯田蟲ト稱ス、始ハ糠ヲ散サガ如ク、漸々長ジテ羽翼ヲ生ジ、蛾ニ似テ、老レバ頭胃ヲ落ル故、實盛ノ化蟲ト名ク、火ヲ慕フテ燈火ニ入り、又山林ニ飛入り、明年マデモ死セズ、是蟲田害ノ最上トス、夜中焦火モヨシ、唯油ヲ以テ殺スニ如ズ、然レドモ燒蟲ト云ニナツテハ、所銓人力ニ及バズ、皆燒クガ如キモ皆是蟲アリ、又八月時分稻已ニ登ルトキ寄蟲ト云テ諸處ニ集リ、一時ニ喰倒スモ是蟲ナリ、再ビ水ヲ溜テ油ヲ灑掛ルベシ、蕎麥藁ヲ煎ジ、苦楝ノ葉モヨシ、大體蟲ハ早稻ニ生ズ、二三日時刻ヲ差フテ豊凶アリ、能時候ヲ考ヘ其土ニ應ズベシ、中華ノ農民ハ田漏ト云フ、時刻ヲ知ル圭計ヲミナ農家ゴトニ置ク、農務ニ心ヲ竭ス事カクノゴトシ、今時ノ農民倉卒ナル事更ニ論ナシ

蟲害ハ人力ヲ以テハ勝ガタシト雖モ、能ク精出シテ務ムレバ、大抵ハ防ガル、故時ヲ移サズ、晝夜懈ラズ、精力シテ油ヲ用ヒテ灌漑シ、或ハ捕殺シ、或ハ焦火ヲ以テ除クベシ、弓斷スレバ一夜ノ中ニ、一

段ニ米五升一斗ハ損毛故、須臾モ怠ルベキニ非ズ、然レ共神速ナル者曾ノ無ク、多クハ氣長ク、小事  
ニ暇ヲ費シ、又ハ寺堂ニ參リ遂ニ後ヲ取り、秋ニ至レバ却テ天ヲ匿ミ、上ニ檢實ヲ願フハ、惡ムベキ  
コトナリ、又蟲迫ト云テ、鉦太鼓ヲ擊テ、村中暇ヲ徊リ、後ニハ讌會酒食ノ冗費、又ハ僧徒ヲ頼ミ祈  
禱ヲ爲シ、何ノ益ニモ立ザル厭符ヲ懸ニ立並べ、其雜用ハ年貢ニ掛ケ、結句雪上ノ霜ト爲ツテ益々困  
究ノ本トナル、島原凶賊ノ發端ハ蟲迫ト譎リ、金鼓ヲ借テ兵ヲ起セリ、民間ニ金鼓ヲ措クハ、一トシ  
好ト云事ナシ、必群黨ノ媒妁、斯ル情ハ下ニ居ザレバ、貴キ人ノ知ル事能ハザルナリ、又實盛ト名ケ  
偶人ヲ塑リ河ニ流シテ咒咀トス、是等ハ入費モ少キユヘ許シテ可ナリ、兎角鄉村入費寡キヲ、治國富  
民ノ第一トス、本租ニ賦増ユヘ、民窮シテ未進多シ、是増減ハ全ク時ノ宰尹庄屋ニ在ル事ナリ  
油ハ一段ニ僅ニ合計リ、一町ニ二升、米價ニ併見レバ米七八升、聊ノ事ナレドモ、蟲害ハ弓斷スレバ  
半作、又ハ一町ニ六七石ノ損トモ成ルナリ、油代七八升ト併ミレバ莫大ノ違ユヘ、是勘考ヲ以テ上ヨ  
リ早ク授クベシ、農民ハ固ヨリ知ラザル事ニ有ラザレドモ、貧苦ニ蹙リ肯テ勤メズ、官署ニ訟ユレバ  
閑取ユヘ、庄屋ヨリ兼テ心ヲ附ケ授ケヨ、肥後ハ毎年配當シテ惠ミ玉フ、諸國一般斯有ルベキ事ナリ、  
平戸ハ四分一ノ價ヲ納ム、是モ仁政ト云フベシ、山田礪地ニハ木糠實、罌子桐ヲ用ユレドモ、鯨ヲ好  
トス、鯨ハ後ニ害アリト云者アレドモ、殺虫ノ最上トス、沃土好田ニハ芥子ヲ善トスルユヘ、諸國過  
半之ヲ用ユ、近年樟腦ヲ少シ入レテ用ユ、油一升ハ五合、三度ハ一度ニテ其功大ナリ、若上ヨリ惠マ

ズ、下ヨリ油代ヲ願ハバ、銀子ニ致サズ油ヲ渡シ、返納ハ無利息、翌秋ニ納ルコトヨロシ、國ノ豐登  
センコトヲ欲セバ、恤グムニシカザルナリ

藤養須知ト云書ヲ讀シニ、蟲ハ風ニ由テ塵埃ヨリ生ズ、故ニ日々風ノ方位ヲ考ヘ、風ニ從ヒ吾田ニ往

キ、風下ニ湊集シタル塵埃ヲ去リ、其處ニ少シ油ヲ澆グヲ以テ位想セシム、或ハ蟲生ゼント欲スルト

キハ、稻ノ水際（ミヅヅミ）黒キヲ帶ビ、汚穢ノ者（キズメ）黏着ク、是蟲生ゼントスル前兆ユヘ、油ヲ澆グベシト云、是著述

ハ未ダ實地ヲ踏ズトミユ、尤稻ノ根黒ク皮ルトキハ、蟲生ズハ實說ナレモ、亦蟲生ゼズシテ其儘

腐ルコトアリ、早ク油ヲ注グモ無用ユヘ、其時ニ應ズベシ。除蝗錄ハ明試ノ書ユヘ、農村ニ論スベシ

○ 客云、村里豐登ノ爲ニ、時々植付料・油代・牛馬代・糞代等ヲ貸シ、種々ノ仕組モ付レドモ、一際

富饒ノ風モ見エズ、又其術モ有ランカ

答云 唯恩貸ノミニテ、未ダ心ヲ竭サズ、豪家ノ衆人ニ金ヲ貸ガ如キ故ナリ、農ハ國之本也、本ヲ養

セバ、枝葉ハ自ラ盛ンナリ、君臣トモニ其本ハ民ノ穀ヲ作りテ養フ所ユヘ、人君ハ先ヅ農事ニ心ヲ盡

シ、其後文武ノ場モ盛ニスベキニ、武用一遍ニ財ヲ費シ、田畝ノ事ニハ出金ヲ惜ミ、宮室・臺榭・衣服等

ニハ其入費多少ヲ問ハズ、適農村ヨリ難澁ヲ申シ立レドモ、様々其根ヲ探リ、卒時ニ出金モ無ク、唯

收斂ノミニ心ヲ掛ルトミユ、一卑宮室、而盡ニ力ヲ滿瀝ト、神禹ノ心トハ天地懸隔ナリ、間ニハ儉約

ノ君在シテ、內庫ニハ充財アレドモ、倉方ニハ乏クシテ、救濟ナラザル事間多シ、唐太宗曰、「君多欲

則人苦、朕所以抑<sup>レ</sup>情尅<sup>レ</sup>己自勵<sup>ハゲマ</sup>耳」ト云、古王代ニハ、仁德天皇ヲ始メトシ、時代ニ隨ヒ三年又ハ一年租稅ヲ免ジ玉フ事間アレドモ、武家トナツテ、一年ノ租ヲ免ゼシコト未ダ聞ズ、今吾子民ヲ慈ム志ハ善トイヘドモ、耘耨セズシテ糞培<sup>糞トヲ</sup>スル故ナリ、魯草ハ糞セズ、自ラ蕃盛シテ竟ニ嘉穀ヲ亡ス、其愛スベキ者ヲ愛シ、其惡ムベキ者ヲ惡メバ、善惡炳然ト分レ、善者ハ日ニ進ミ、惡者ハ日ニ改マリ、遂ニ善村ト成テ、五穀大ニ登ルハ必定ナリ、政道正シカラズ賞罰缺テハ、縱千萬金ヲ施ストモ、破桶ニ水ヲ入ル、ガ如シ、是意ヲ考ヘ、先ヅ政ヲ正スベシ、家ヲ富スハ糞<sup>糞</sup>グニ在リ、故ニ糞<sup>糞</sup>グニ貧乏追付ズト云、農務ハ一ニ働キ、二ニ糞<sup>糞</sup>、三ニ工夫、是三條ニ止レリ由<sup>カセ</sup>是農務ニ限ラズ自職ニ怠ル者ハ、僧及ビ郷士農人、其村里逐一ニ査點シテ誡ムレバ、穠蔭<sup>チヤシグサ</sup>ノ根ヲ斷チ糞培シテ、嘉穀蕃盛スルガ如シ、又村里ニ便捷伶俐ニシテ商賈ノ如キ者、好ンデ官署及ビ寺觀ニ出入シテ奉加ヲ勸メ、或ハ事ヲ工ンデ、斯<sup>カ</sup>スレバ一村ノ爲ト成リ、斯願ヘバ利ヲ得ルト誣引ユヘ、熾欲一遍ノ頑民、目前ノ利ニ迷ヒ黨ヲ結ンデ、竟ニ一村ノ厄害<sup>イハレ</sup>ト成テ、衰微ノ處寡カラズ、唇衰ハ全ク、風俗ニ由ルユヘ、賞罰ヲ本トスベシ、是則富國強兵ノ基ナリ

苗床四五年ニ一度傷ム事アリ、播<sup>マ</sup>厚ケレバ蟲生ズ、薄ケレバ生方モヨシ、腐ル時ハ床ヲ易ルハ善シ、然レドモ、噴<sup>ムキ</sup>水懸リニ由テ易難<sup>カヘ</sup>キ處モアリ、肥シ過セバ腐ル事アリ、其了簡スベシ、蕎麥<sup>ソウバク</sup>藜<sup>リ</sup>ヲ菰<sup>モ</sup>ニ<sup>カシキ</sup>發<sup>アヒ</sup>テ入レバ蟲生ゼズ、春分晴天長キ時、妄リニ干事ナカレ、世ノ人不時候ユヘト云、然レドモ不順ナラ

バ、何ゾ其地ノミ腐ルベケンヤ、全ク肥シ過スニ由レリ、瘦テ傷ハナシ、生テ後幾程モ肥サル、者ナ  
リ、蕝モ竹葉・木葉・草類腐レザルヲ入ル事ヨロシ、蟲モ亦生ゼズトミユ

鶴林玉露云、蝗纔飛下、卽交合、數日産子、如<sub>ニ</sub>麥門冬之狀、日以長大、又數日、其中出<sub>テ</sub>如<sub>ニ</sub>小黑蟻  
者八十一枚、卽鑽入<sub>ニ</sub>地中、詩註、謂<sub>ニ</sub>螽斯一產、八十一子者、卽蝗類也、其子入<sub>レ</sub>地、至<sub>ニ</sub>來年禾秀時<sub>ニ</sub>乃  
出、旋生<sub>ニ</sub>翅羽、若臘雪凝凍、則入<sub>レ</sub>地愈深、或不能<sub>レ</sub>出、俗傳、雪深一尺、則蝗入<sub>レ</sub>地一丈、東坡雪詩  
云、遺蝗入<sub>レ</sub>地應<sub>ニ</sub>千尺、是也、蝗災見<sub>ニ</sub>於大兵之後、或人言、乃戰死之士、冤魂所<sub>レ</sub>化、雖未<sub>ニ</sub>必然、但  
余曩在<sub>ニ</sub>湖北、見<sub>レ</sub>捕蝗者、雖<sub>ニ</sub>群呼聚喊、蝗不<sub>ニ</sub>爲動、至<sub>ニ</sub>鳴<sub>レ</sub>金鑿鼓、則聳然而聽、若<sub>レ</sub>成<sub>ニ</sub>行列、則謂爲<sub>ニ</sub>  
殺傷殄氣之所<sub>レ</sub>化、理或然也

農ハ元天地ノ氣候ニ由レリ、故ニ尙古ノ初發ニ記シ、曆次ヲ正シ以テ人ニ時ヲ授ケ玉フ、今清朝ノ時<sub>ヲ</sub>  
憲書ヲ看ルニ、日月ノ蝕ヲ記サス、是ハ天變ニ<sub>レ</sub>、別ニ其時告グルナリ、漢ノ丙吉ガ人ノ死タルヲ顧  
ミズ、牛ノ喘<sub>ニ</sub>グ<sub>ニ</sub>氣ヲ付シハ、其身宰相ノ官ニ居ル故ナリ、由<sub>レ</sub>是觀レバ、天地ノ氣候ヲ常ニ心掛ケ、  
農務ニ心ヲ竭ス事、人主ノ道タルベキニ、今時ノ執政タル者、斯ル所ニ氣ノ付ク者曾テナシ、又華域<sub>モロコシ</sub>  
ハ日本ニ方ブレバ、農業ヲ重ジ畏敬スルトミユ、業穀ノ種播ニハ圭計ヲ置テ時候ヲ測量ス、麥ノ倒レ<sub>モロコシ</sub>  
シハ、挾把ト云物ヲ以テ一々起ス、是ハ我邦ニ嘗テ爲ザル事ナリ、穫トキハ土地ニ置ズ、麥綽ト云<sub>ハサミ</sub>  
ヲ以テ鋤<sub>ハサミ</sub>ミ取り、積<sub>ヒツ</sub>ハ腐レザル様ニ積、筥ト云物ニテ上ヲ能ク蔽フ、苗ヲ植ルニ泥土高低<sub>ヒキ</sub>少シモ無キ

様ニ、屯車平板ニテ能ク平ニス、我邦代子ヨリ尙細密ナリ、又繩ヲ引テ豎横寸法ヲ差ヘズシテ植ユ、  
刈トキハ我邦ノ様ニ藁ヲ土地ニ置ズ、喬扞麥荒ト云テ高ク柱ヲ立テ、横ニ丸木ヲ三四段モ架ヘ、梯子コ  
リ登リ、稻ヲ掛並テ干ナリ、是事近年我邦ニモ漸々流行ス、其益アル事次ニ出ス、右掛干シテ能クタ  
ル時、扱テ貫稻簞ト云物ノ上ニ粟ヲ干ス、是又我邦蓆ノ様ニ薄カラズ、脫粟ニハ石礮ト云テ瓦ヲ以テ作  
リ、中ニ幹軸ヲ立テ石窩ヲ貫キ、牛馬ニ牽セテ磨ル、其外一切農具我邦ニ倍シテ、收納ニ能念ヲ入  
レ、又高山ニテ水難キ處ニハ、高轉筒車牛曳ナドト云器械ヲ以テ、數百丈ノ處ニ水ヲ取り、又江海ノ  
岸ニハ槽ヲ作リ、連環シテ泥土ヲ入レ苗ヲ植ユ、之ヲ封田ト云、斯農事ニ艱難シテ穀ヲ尊ブ事、日本  
人ノ及ブ所ニ非ズ、別テ九州ノ者ハ倉卒ナリ、又中華ハ田草ヲ薅ニハ、數人雜話シテ心ヲ他ニ移シ、  
能ク念ヲ入レザルユヘ、側ニ一人太鼓ヲ搥チ、拍子ヲ取テ執スルナリ、是ヲ田鼓ト名ク、我邦モ諸國  
ミナ田植歌ヲ謳フ、國ゴトニ其調皆異ナリ、余諸國ヲ廻リ是歌ヲ聞クニ、其音ニ短長アリ、大抵音長  
キハ、心從優トシテ能ク念ヲ入ル、音短キ處ハ、氣早クシテ颯瑟ト辨ルユヘ、直ニ又生ズ、芭蕉ノ發  
句ニ「風流ノ始メハ奥ノ田植歌」、是句ハ陸奥ニ往テ田植歌ヲ聞キ、其昔古風ニシテ優艶美妍ナキヲ賞  
美ヒシトミユ、江州邊ハ、婦女ノ田草ヲ搦ルヲ見ルニ菅笠ヲ被リ手脱・脚半・背帶ニテ、靜ニ歌ヲ謳ヒ、  
能念ヲ入レテ取レル姿ハ、最優艶ナ・風情ナリ、九州ハ上方ニ方ブレバ、氣短ク倉卒ナルユヘ其藏ル  
所モ少カラシ、農器モ亦關東ヨリ半減ス、農業ハ他ナシ、唯穀ヲ愛スル事子ノ如ク、穀ヲ敬フ事親ノ

如ク思フベシ、是ニヲ常ニ心ニ懸レバ、吾家ニ於テ因作ト云ハ無カルベシ、鳩翁道話ニ、播州三早ニ農業ニ心懸ル者アリ、豊凶ニ拘ラズ、世間ニ勝レテ堪實ヲ得タリ、先粟種ヲ能ク念ヲ入レ、庭ノ天井ニ鈎置キ、火氣廻リテ煖マル様ニ致シ、翌春種籾ノ時ハ、餘人ハ竿ノ先ニ鎌ヲ振リ切落セドモ、是者ハ最大切ニシテ、梯子ヲ掛ケ、自肩ニ寄テ卸シ大事ニ持チ、水ニ入ル時モ、少シヅッ水ニ淬シテ次第ニ入レ、揚ル時モ又大事ニ稍々ト揚グ、萬事如此五穀ヲ大切ニシテ敬畏ノ二字ヲ忘レズ、故ニ大ニ堪實ヲ得タリ、斯ル者世ニ稀ナルユヘ、職掌タル人郷村ニ敬畏ノ二字ヲ時々論ズベシ、是大ナル國家ノ功ト云ベシ

農術廣益錄ニ、稻ヲ懸干ニスルハ、穗先ヲ下ニシテ干セバ、稻株ノ清氣自然ト穗ニ降り、粒重リ米ニ光澤出來、其地相應ニハ、米性締リテ上米ニ成リ、第一年貢ニ致シテモ粃米モ有ルマジ、又御用米ニテハ虫付ザル益アリ、御賣米直揚ノ益アリ、又藪干ヨリ升數多シ、又精グルニ多ク耗ラズ、飯ニ炊テ増ル益アリ、是ヲ試ルニ新米ト古米ノ如ク、一割餘ノ違モ有テ、一年ニ積レバ莫大ノ利アリ、藁モ甚ダ強ク、苞ト爲テ米ニ盡付ズ、是又一年大總ノ功アリ、繩・藁・筵・草履・屨・牛馬ノ沓、又薪ニシテモ餘ノ藁ヨリ功アリ、其外用ユル所悉ク利アルノミナラズ、德米ノ積、設ヘバ田一段ニ一斗五升モ益ト見ユレバ、百町ニ百五十石、一萬町ニ一萬五千石、百萬町ニ百五十萬石、一段一斗宛ニシテモ百萬石ノ國益アリ、右一石ニ付銀二匁ニ立レバ、一萬石ニ銀二十貫目、百萬石ニ二千貫目、一匁ニシテモ千貫

目ノ國益ナリ、其仕方ハ睦<sup>アヒ</sup>ニ枕<sup>クシ</sup>三本ヅツ立テ、竹ヲ結付ケ干スト云、委シキハ右ノ書ヲ見ルベシ、古ヨリ中華ハ今ニ至ルマデ、總テ是ヲ用ユレバ、益有ル事トミユ、我邦古來無キ事ユヘ、今卒カニ令ヲ下シテモ行レマジ、其故ハ世俗ノ者ハ、今親手ニ取ル事ハ欣ンデ致セドモ、斯ル目前ニ觀エザル事ハ迂遠ト思ハン、是ニ由テ上ヨリ右ノ農術書ヲ求テ得ト讀諭シ、其中藏心セル農民ニ竹木ヲ與ヘ試ムベシ、其竹木ハ圍置ケバ、數十年用ニ立ツベシ、近年畿内邊ハ漸々流行ノヨシ、是事能ク思ヘバ、大總ノ國益アル事ハ、今農民ノ致ス所ト併セ知レリ、片時モ早ク勸メシムルニ如ズ、蓋シ一時ニハ行レズ、年ヲ歷テ漸々流行シ、後ニハ常ト成ルベシ、時ノ官人コレヲ發轍セバ、萬世天下ニ大功之ニ過ギタルハナシ

「忠臣孝子、不<sup>レ</sup>爲<sup>ニ</sup>昭々信節、不<sup>レ</sup>爲<sup>ニ</sup>冥々情行、」是ハ衛南子ガ語ナリ、女言トイヘドモ、人道ノ主要タリ、左レバ昇平ノ世ニ於テ、百官其職ヲ受ケ、賢不肖ヲ分タズ、過失無クシテ終身能守レドモ、皆昭々タル信節ニテ、國澤ヲ後世ニ貽サント思フ者幾稀ナリ、夫農ハ邦ノ本ナリトイヘドモ、貴キ身ヲ以テハ、賤業ノ務メヲ細ニ知ル事能ハズ、故ニ古人農ニ心ヲ竭セシ書ヲ民ニ諭シ、下民尙モ職業ニ勵マサバ、硯<sup>ヤミ</sup>田<sup>イナ</sup>モ竟ニ變ジテ良田ト成リ、五穀登シテ、千石ハ二千石トナルベシ、近年農書漸々世ニ出テ、頑夫モ發明シテ、菜穀ヲ多ク收ル者モ其中ニ有リ、故ニ農術廣益錄・農書・農業全書、或ハ樹木ハ農家益、其外農業有用ノ書ヲ求メ、一村毎ニ授ケ置キ、兩彼岸ニ庄屋ノ輩役宅ニ集メ、自身不學ナラバ、

筆者ヨリ讀ンデ聞カスベシ、今時彼岸ニハ數日寺院ニ集リ、死シテ後往生安樂ナドト說法ヲ聞ンヨリ、今日前我身ノ益ト爲ル職分ノ事ヲ聞カバ、是ヨリ過タル安樂ハナシ、自職ニ委シタレバ、貧乏ト云事決シテ無シ

農民ハ朝ハ未明コリ起テ其業ヲ勤メ、夜ハ約<sup>ナ</sup>ヲナヒ依ヲ編ハ、古ヨリ皆爾リ、然ルニ今時上ノ政道亂レシ處ハ宿弊ト成テ、鄉村皆朝ハ太陽ノ出玉フモ知ラズ五時ニ起ル、是事全ク僧徒夜分ノ說法ヨリ生ズ、故ニ門徒村ハ各別ニ多シ、先一番ニ是事ヲ嚴刻ニ改ムベシ

○客云、十年以來田ニ穗稿ヲ生ジ農民等甚困レリ、之ヲ除ク術モ有ランカ

答云 定テ市町近邊ナラン、早稻ハ晚田ニ易ヘ、晚田ハ中稻ニ易<sup>カ</sup>テ作ル事モ有ラン、先試ミニ作リ來リノ早稻ナラバ、十里モ離レテ市町ノ近田穗枯無キ種ヲ求メ植テ見ヨ、又種ヲ温水ニ蘸<sup>ツ</sup>來ラバ、寒水ノ流レニ易ヘ、寒水ナラバ、温水ヲ溜水ニ易ヘ、其處ヲ改メテ視ヨ、又春田ナラバ、地ヲ踐<sup>ム</sup>裸麥ヲ播、苗モ晚田<sup>ナ</sup>ノ地賤苗、及ビ髯長キヲ植ヨ、麥芥ヲ作來ラバ、春田ニシテ暫ク荒シ置キ、第一種ヲ能干シ、斑<sup>カ</sup>無キ様ニスベシ、泥田沃土ナラバ石灰ヲ糞トシ、是マデ木ノ芽・莖<sup>カシキ</sup>ノ耗・酒滓・干魚等ナラバ、石灰ヲ入レテ試ミヨ、右數條一二段ヅツ、毎年試ミテ工夫スベシ、古來は無キ處、今俄ニ其地ノミ土氣不和スベキ様モ無シ、未ダ工夫ノ足フザル故カ、年ヲ累テ國計大總ノ損失ユヘ、晏然トシテ日ヲ過ス事ニ非ズ、功者ヲ探リ詢<sup>ハ</sup>ル事急務ナリ

農民本租ノ高ハ奉ヨリ承知ノ事ナレドモ、雜費諸掛多キヲ甚ダ心苦ス、群黨ハ元是ヨリ起ルユヘ、第一諸掛ヲ減耗スベシ、諸掛諸國毎ニ差ヒ、二割三割、乃至四五割モ掛ル處モアリ、又占麥一割ニ究ル地モ有リ、姦智ノ庄屋ハ、雜費ノ顏色々筆數多キヲ嗜ベシ、其故ハ譬ヘバ諸掛惣高銀四百目ニ、一割四十目ヲ私曲シテ掛ントスルニ、十筆ニ四<sup>モシ</sup>錢懸レバ、人皆不審ニ思ヘドモ、百筆ニ四分ヅツ懸レバ、之ヲ忍ンデ疑念モ生ゼズ、又貧村ホド雜費益々多シ、借財スルニモ往來進物及利息、或ハ債促人ニモ酒食川、一飯ニ米二合半、一宿ノ者ニハ夜具賃、官吏一人來レバ、僅ニハ酒一合トイヘドモ、厨所ニハ一二升、魚一尾ハ十尾モ用ヒ、散使・村役・土使ナド集リ、官吏ニ假托シ我物入ラズニ飲食シ、其入費秋ニ至テ利息ヲ懸テ、大抵客一人ハ米一苞ニモ成ルト聞及ベリ、或ハ村毎ニ彼ノ者ドモ少シノ吟味ニ集會飲酒、其入費ハ庄屋ニ書出シ、其外色々ノ雜用利息ヲ<sup>アツ</sup>償ヘ、秋ニ至テ租ニ懸ルユヘ、本租三斗ハ四斗四五升ニモ成テ、農民大ニ苦心ス、余按ルニ、是ヲ減耗ノ法ハ、本租二ノ口、三ノ口反等、上ニ納ル高數ヲ究メ、雜費ハ成タケ省約シテ、其極ル所ノ大高ヲ勘定シ、田畠二町乃至三町ヲ職田ト爲シ、右ノ田給ヲ以テ、時々官吏ノ來臨宿信ノ用、其外一切ノ雜費ヲ<sup>ツツ</sup>償ヒ、庄屋ノ自力一手切ニ致シ置バ、雜用多キトキハ自身ノ損トナルユヘ、自儉約スベシ、蓋シ民多ク年貢ノ定額小キ處ハ、<sup>ユツ</sup>加地子有ルユヘ年貢懸テモヨシ、加地子無處ハ年貢免除セズンバ、入用出ル所ナキユヘ、能其土ヲ考テ出入ヲ計ルベシ、倘下情ヲ知ラズ、執拗シテ妄リニ法ヲ立ツレバ、三年ヲ逾ズ頽廢シ、却テ世間ノ嘲笑ヲ得ルナ

リ、其士ノ正直明智アツテ、上ニ詔ハザル者ニ諮詢シテ、共ニ事ヲ議ルニ如ズ

或邦ニ一郷ノ小庄屋ヲ月ニ一廻招キ、參會日ト云、法令ノ事モ教成スル事カトモ視エズ、退朝シテ茶店ニ集會シ、酒食ノ費、皆其止リハ農人ニ掛ルヨリ外ナシ、必庄屋ノ徒猥リニ衆會サスルベカラズ、是内情ハ又上タル人ノ知ル所ニ非ズ、用アラバ一人ヅツ招フベシ

庄屋給諸國各異ナリ、年貢ノ定額ヲ減ジテ、農民毎戸ニ懸ル所アリ、或ハ年貢二三日反ヨリ出シ、一萬石ノ高ヨリ、大庄屋・小庄屋・共ニ二十石ト究メシ處アリ、大小共ニ同ジキハ、小庄屋ハ其支配所ハ狭ケレドモ、雜務繁キ故カ、又石高ニ拘ラズ、領中一般ニ同キ處アリ、是法ハ不想ト云ベシ、遠近ニ從ヒ増減無ンバ、遠境ノ庄屋ハ時々都府ニ往來、信宿雜費多シ、故ニ遠キホド次第ニ職給ヲ増スベシ、蓋シ風俗惡ク政用繁多ナル處、孰ノ邦ニモ二三カ所ハ有ル者ユヘ、斯ル處ハ亦其給ヲ増スベシ、又遠郷幽僻ハ棹朴ニシテ、庄屋モ事寡ク、閑靜ノ處モアリ、能其風土ヲ查點シ増減スルヲ想ト云ベシ、或邦ニ二郡ニテ高五萬石計ノ處ニ大庄屋三人、其家ニ散使一人ト究メ、是ニテ隨分事濟リ、閑靜無爲斯コソ有ベキナリ、其微祿ノ吏人ヨリハ、シノウヤ里正ノ職給過分ト思フハ尤ナレドモ、亦是職ヲ勤メテ試ミザレバ其實情ハ知ル事能ハズ、當今ニ於テハ大庄屋ハ百二三十苞、小庄屋ハ五六十苞モ無テハ不足ナラシ、不足ヨリ私曲自ラ生ズ、是俗情ナリ、倘世祿ノ臣ヨリ勤ルトキハ、半減シテ可ナリ、名主モ同様ナリ、其情上タル人ノ知ル所ニ非ズ

四職ノ次第ヲ班ツニ、農ハ士ノ次トス、然レドモ後世工商ノ徒ハ、農ヲ賤職ト思フテ相卑シミ、士モ又賤シズル事犬馬ノ如シ、是ニ由テ侯國ハ農民皆被官セドヲ徼ム事遠國ハ特ニ多ク、自然ト農職ニ怠ルノミナラズ、國政ノ開闢間々有リ、京都ハ古言未ダ盡ザル事カ、市中ノ者皆田舎ノ者ヲ御百姓ト稱ス、肥後ノ公帳ニハ皆御百姓ト記セリ、斯尊崇スレバ、農民モ又農業ノ重キ事ヲ知リ、益々精昏スベシ、因テ御百姓ト唱ル事令スベシ

鄉村横目ト云ハ公監ヲ托セラレ、最モ大任ユヘ、吏人コリ勤ムベキニ、邦ニ由テ農家頑夫ヨリ勤メテ、職料數十苞ヲ取ルハ、定ニ戸祿ナリ、除クニシカズ

或邦ニ鄉村毎ニ下吏一人置テ、山林田畠ヲ掌リ、時々山林ヲ見巡リ、亦田畠ハ植付・綠田・穫取・麥播・田荒レ等時々巡檢ス、是法ハ良制トス、都府ヨリ來ルトキハ其雜費モ亦多シ、由之別卷ニ記セシ通り、小人目附ヲ二郷計ノ中央ニ置キ、右ノ巡檢及ビ庄屋ノ邪正ヲ視聽シ、且ツ民難ノ事ハ黨ヲ爲サズ、一人是者ニ訟ルヲ掟トスベシ

鄉村ニ小役多キヨリ下ノ難澁ナルハナシ、仁政ヲ施ント思ハバ、成丈減少ニ如ハナシ、今札頭・村役・大小ノ散使・大小ノ夫伴マカイ・米量・觸頭・堤役・祐筆・見聞役ナドト様々ノ役有テ、給米甚多ク却テ煩ク、使用ナラザル事ノミ多シ、由之右役ヲ省約シ、祐筆ハ二三郷兼役シ、庄屋ニ散使一人、大夫使ハ五六郷ニ一人、一村ニ村役一人、諸觸ハ庄屋ノ散使來テ村役ニ告ゲ、堤防風雨ハ其近村ヨリ一年代リニ勤メ、

米量役ハ一村毎ニ斗量一ヅツ渡シ置テ、村役ヨリ量ルトキハ、是一役ノ給米數十苞ヲ除カルナリ、右  
ヲ考ヘ、郷村ハ里正・筆耕・村役・堤監二人・大散使一人・夫使合テ六役、一村二村其處ノ大小ニ由テ増減  
シ、餘ハ悉ク除クベシ、右ノ給米ハ職田ヲ與ヘ、村役ハ小村ハ田畠五畝、大村ハ一段ト極ムベシ、職  
田ニ致セハ自年貢ヲ運ビ、又官倉ヨリ持歸リ、出納欠折ノ難澁ナシ、諸役多キハ蝸ノ手ヲ啖フト云者  
ナリ

倉納ノ時量目不足ナレバ、其欠米ヲ一村ニ懸ル所アリ、斯不正ノ制ヲ立ルユヘ、農民姦ヲ生ジテ、米  
拂ノ時盜ム事甚多シ、由之其札印ノ姓名ヲ視テ、卒伍ノ法ニ從ヒ、其組五人ニ欠米ヲ懸ル事ヨロシ  
年貢米ヲ農民ドモ面々自身ニ量ル所アリ、是事決シテ宜シカラズ、其村役ヨリ一人ニテ量リ、米ノ善  
惡ヲ改メ、升目一統同様ニスベシ

郷村ニ奉公口人役ヲ立ル處アリ、是等ハ大都會ニテ、諸方ヨリ輻輳スル故ナリ、在郷ニハ無益ユヘ除  
クトキハ、給米モ又減ジテ、上下 爲トナルナリ

菜蔬公用ノ地ハ其名産ヲ擇ミ、其租ヲ除免シテ置ベシ

庫納ノ時米ノ善惡ヲ視ルニ、竹筒ヲ刺シ三合四合モ取ルハ甚ダ惡シ、右竹筒ハ大抵五抄計入ル様ニ、  
其所ニ節ヲ附ケ置キ、丸長ノ寸法ヲ彫テ、官印ヲ致シ置ベシ

郷村ノ祈禱所ト稱シテ、田祈禱・虫祝・郷内安全ナドト、數苞ノ布施米年貢ニ懸ル事アリ、除クニ如ズ、

又諸國神社ノ賦納。配札・施米、毎戸年貢ニ懸ル事減耗シテ、庄屋職田ノ中ニ加ヘ置ベシ

馬醫料ハ牛馬ヲ畜ノ家ノミ出スハ論ニ及バズ、郷醫諸國ニ郷米ト名ケ、大郷ニ二人、小郷ニ一人米四十石、麥三十石、或ハ二十石、庄屋官廩ヨリ受ケ、又藥謝不足ハ庄屋ヨリ取立ツ、故ニ深更風雨ヲ厭ハズ、時ヲ過サズ往ズンバ叶ズ、謠ニ細工貧乏、醫者福德ト云ハ、工人ハ家富バ怠惰アリテ、人ノ頼モ聞ニ合ズ、醫者ハ富ザレバ良業ヲ用ル事叶ハズ、故ニ斯云ヘリ、郷米ハ本租ニ懸ズ、別ニ里正ヨリ、貫立テ、藥料ハ年ノ終リニ貼數ヲ書出シ、一貼二十五文ニ極メ、庄屋ヨリ取立ルベシ、又病人死人ノ員數ヲ記シテ納メ、是ヲ奉行ニ捧グベシ

肥後ハ田畠畝數、年貢諸懸、名易ノ出入ヲ細ニ書キ、毎年八月限リ毎戸配當シテ告ルユヘ、筆者ハ里正ヨリ役給ヲ曉ト聞ク、農民ハ算勘ニ拙キユヘ尤モ宜シ、吾藩モ減耗米ノトキハ、其員ヲ一村毎ニ授ケ玉フ事國制ナリ、トトシテハ言ヒタキ事モ、胸ヲ摩リテ堪ユルユヘ意恨累リ、遂ニハ徒黨ノ端トナルハ、今世上ニ少カラズ

鄉村群黨起ルハ、畢竟上ノ不正ヨリ生ズルハ勿論ノ事ナリ、薪ヲ焚ニ、始メ一二本ノ時ハ微火ナリ、薪木多キホド火勢熾ニ成テ、竟ニハ向近キ難シ、火ハ陽ナリ、人モ陽物ユヘ、多キニ從ヒ猛勢ト成ルハ自然ノ理ナリ、是意ヲ考ヘ、村寄說法ハ勿論、一切ノ集會五人ヨリ外ハ嚴禁時々諭スベシ、若シ庄屋私曲有ラバ、伍長ヨリ鄉村目附ニ奏セヨ、若シ奉行ニ蔽障セラレバ、都府ノ倉方長官ニ一人進ンデ願

フ事ヨロシ、「君子如<sup>ニ</sup>松柏」小人如<sup>ニ</sup>「藤蘿」衆ヲ恃ムハ庶民ノ常ユヘ、必ズ群集ヲ禁ズベシ  
辻狂言・角力ヲ催シ、或ハ傀儡・三絃・亂舞・小謳ノ者一宿モ叶ハザル事、我封内國初ヨリ禁制タルハ、  
寔ニ善政ナレドモ、年ヲ歴テ自然ト弛シニ、近年上賢明ニシテ復古シ玉ヒ、必至ト止ムハ、實ニ富潤  
移風ノ本ナリ、他邦習弊ノ土モ斯有リタキ者ナリ、世ノ情民ドモ樂ム所ナシト誹ルトイヘドモ、聆々  
タル民言ヲ信ゼズ、タゞ仁義ノ道ニ引入ル、ベシ

鄉村ヲ盛ニセント欲セバ、其本一條アリ、前ニモ記セシ通り、唯至極ノ幽僻トナスニ在リ、勿論鹽・  
油・燈心・販賣。及ビ僧巫屢々來リ、其外諸人無用ニ徘徊スル事ヲ禁ジ、宿弊近キ處ハ十丁二十丁ヲ隔  
テ、遠キホド農村盛ナリ、高賈雜沓ニルハ利ヲ先ニス、農民ハ五穀ノ價ヲ知ラザルヲ良農トス、穀直  
昂ルトハ、穀ハ穀ト思ヒ之ヲ蓄フテ、用物ハ時々穀ヲ携ヘ、市中ニ往テ交易スル迄ナリ、斯ル者ハ數  
代永昌スル事、今ニ於テ諸處ニ在リ、全體農民ハ牙籌<sup>ソロダン</sup>ハ入ラザル者ナルニ、今ハ農民少シ富メバ、皆  
牙籌ヲ床ニ置ク、是ニテ農業ヲ捨テ利ニ走ル事已ニ見エタリ、市遠ケレバ一切ノ入用不自由ニテ、自  
儉約ヲ遂ゲ、租稅未進モ無ク、訟ヘモ無ク、上ニ難題ト云事決シテ無ク、終身無爲安樂ニシテ、堯舜  
ノ世ト異ナルコトナシ、其證ハ今孤嶋幽僻ニ往テ試ミレバ、炳然ト分明ナリ、近郷八九十歳ノ老夫ノ話  
ニ、吾幼稚ノ時分ノ孩兒<sup>コドモ</sup>ハ、與ヲ觀テ大ニ怪ミ、家ヲ荷フテ往クト云シニ、今ハ遠埵ノ野巫醫迄乘輿ス  
ル風俗ト云ヘリ、余一年或遠境ノ山村ニ宿セシニ、適<sup>タマ</sup>ノ客來ユヘト酒饌ヲ設ケント思ヘドモ、市遠ノ

シテ酒肴ヲ買ム事間ニ合ハズト、自耕ノ燕菜蕪ヲ釘トス、翌日郷士兩三輩ト廻リシニ、向ニ壯觀ノ瀑布アリ、郷夫ニ彼徑路ヲ問ントスレバ、士云、是邊ノ者ニ瀑水ト云テハ解ラズ、水ノ落ル處ト問ハレヨト云、余ハ之ヲ信ゼズ、瀑水ト問ヘバ、果シテ解ラズ、斯言語迄質朴ユヘ、民家皆盛ナリ、市近キ處ハ商賈ニ倣シテ唯利ニ走り、穀ヲ仿セバ之ヲ貸テ利息ヲ取り、五穀ヲ土中ヨリ取ル事ヲ棄テ、人手ヨリ取ラント志スユヘ、竟ニ豐登ヲ得ズ、已ニ米千俵ヲ蓄レバ、身ノ程ヲ考ヘズ寺堂ニ寄附シ、或ハ他出シ、或ハ衣服專一ニ奢靡ヲ竭シ、外ヨリ見レバ、百俵ノ身代ハ内ハ百俵ノ借用、竟ニ八田畝ヲ賣斥ス、是風俗全太平久キ習弊トミユ、余ガ近村ニ安永ノ比農夫宅地ヲ墾テ一甕ヲ掘出シ、慶長銀四百八挺ヲ得タリ、凡斤日二十五六貫匁、今時ノ相場ニ合スレバ、大概五六百兩トナラン、斯豪家トイヘドモ、倉廩モ無ク、小キ茅屋今ニ於テ遺レリ、今時ノ民家ト併セ考ベシ

唐太宗謂侍臣曰、凡事皆須務本、國以人爲本、人以衣食爲本、凡營衣食、以不失時爲本、夫不失時者、在人君簡靜、乃可致耳、若兵戈屢動、土木不息、而欲不奪農時、其可得乎、略又有司上書言、皇太子將行冠禮、宜用二月爲吉、請遣兵以備儀注、太宗曰、今東作方興、恐妨農事、令改用十月、太子少保蕭瑀奏言、準陰陽家、用二月爲勝、太宗曰、陰陽拘忌、朕所不行、若動靜必依陰陽、不顧理義、欲求福祐、其可得乎、若所行皆遵正道、自然常與言會、且吉凶在、人、豈假陰陽拘忌、農時甚要、不可斃失、是章ヲ觀テ古ノ明君農隙ヲ愛ミ玉フ事察スベシ、然ル

ニ今時農務ヲ罣碍スル者ハ門徒僧ナリ、霜月二十一日ヨリ二十八日迄家内舉テ遊ビ、官倉ニ米一俵輸  
行シ事會テ無ク、女ハ紡績一時モ勤メズ、空ク青天白日ヲ費スハ如何ナル事ゾヤ、女ニ四十五日アリ  
トハ<sup>出</sup>鶴<sup>林</sup>夜延スルヲ云、六七十ノ老母トイヘドモ、八日ノ間緩々紡績スレバ、單衣一著ハ微ムベシ、  
他宗ハ斯隙ヲ費ス事無レドモ、惡人ト成ルニモ非ズ、門徒ノミ善人ト成ルニモ非ズ、右太宗目前陰陽  
ノ拘忌禍福吉凶サヘ捨玉フ、況ヤ其證モ無キ死後ノ事ヲヤ、蜷川ガ歌ニ、「死ンデカラ佛ニ成ルハ入ラ  
ヌモノ、生タル内ニ善人ニ成レ」、日月ハ須臾モ休玉ハズ、天地ノ間ニ遊惰ヨリ天理ニ逆ク者ナシ、斯  
一家舉テ職務ニ精勤シ、其餘レル貨穀ヲ僧徒ニ與ルトキハ天道ニ應ジ、又佛意ニ協ヘリ、翅十日霜月  
ノ二ケ月、農民佛龕有ル家ニハ、四五日毎ニ村中ノ男女群詣シ、僧ヲ招テ法談ヲ問キ、終リニ酒食ヲ  
設ケ、報恩講ト名ク、何ヲ以テ萬里ヲ隔シ蕃神ノ恩ヲ受ンヤ、釋迦如來報謝經ヲ作リシニ、國ノ恩父  
母ノ恩ト一番ニ説レタリ、今天下太平ノ大恩ハ公儀及ビ國主ニ非ズヤ、昔京都ニ或人朝夕神佛ヲ拜ス  
ルニ、唯天下泰平、國家安全ト祈リ、我家内ノ事ハ曾テ云ハズ、或人之ヲ問ヘバ、我孩兒ノトキ戰國  
ニ長ジテ母ニ懷カレ、時々山中ニ隱レ、或ハ凍饑シ、或ハ自燒・亂妨・狼藉ニ遭ヒ、縦ヒ財ヲ蓄ヘテモ、  
一日モ寢食ヲ安ンベズ、今治世ニ遇ヘドモ、昔ノ艱難苦行片時モ忘レズ、故ニ唯太平ヲ祈ルト云、此  
意ニ思ヒ報恩ヲ致サバ、第一上ノ法度ヲ守リ一日モ遊バズ、正直ニ家業一遍ニ、年貢ヲ衆ニ拔デ先ニ  
納ルヲ、眞ノ報恩講ト云者ナリ、今ノ様ニ一月二月白日ヲ費シ、稼稿ヲ疎ンジ、特ニ上匱乏ノトキ獻

金ヲ勸ムレバ、是ヲ忌ム事寇讐ヲ如ク、何ゾ恩モ無キ寺院ニハ身ヲ賣リ權ンデ納ルハ、曾テ報恩ノ道理ヲ知ラズ、人ハ萬物ノ靈トイヘドモ、教ニ由テ斯頑愚ニ成ル者カ、偕是佛蠶有ル家ニハ、村ノ者ドモ霜月ニハ面々豆腐・茼蒿<sup>フシニヤク</sup>色々ノ干物ヲ贈リ、婦女ドモハ二ヶ月ハ毎日毎夜群會絶エズ、農民ハ皆雜穀ヲ食スルニ、每朝佛飯ト云テ白飯ヲ炊テ供フ、一年ニ積リ是費モ幾許ゾヤ、他宗マデ此ヲ羨ミ、弊屋ニモ十兩二十兩ノ佛籠<sup>モトム</sup>ヲ買ル事日増ニ競フテ、文化以來夥キ事ハ別卷ニモ述置タリ、一昨年大村ハ是ヲ觀ルニ忍ビズ教令ヲ下シ、賤民トシテ身代不相應ニ大總ノ財ヲ費シ、金銀珠玉ヲ鑲<sup>チリメ</sup>シ佛籠ヲ求ルハ僭上ト云ベシ、<sup>ヤキ</sup>摩陀ノ畫軸ハ他宗ノ如ク棚ニ置ベシト、領中統テ取寄セ一郷毎ニ庄屋ノ庭ニ於テ悉ク燔棄タリ、<sup>此時、寺社奉行村瀬善右衛門七十歳於レ</sup>是薪炭白飯群會偷隙ノ冗費忽然ト輟ミシハ、農民昏作鄉村富潤ノ基ニテ、寔ニ人主ノ規範ト云ベシ、今ニ於テハ村中他宗ノ者迄モ火化スレドモ、是染凝極弊ヲ消弭スル事、衆ニ拔ンデタル英傑ニ非ズンバ成リ難シ、今法ヲ立テ遊偵ヲ入レ、倘制ニ背ク者ハ、卒伍ノ法ヲ以テ、十人組マデ他宗ト爲スニ如ズ

## 經濟問答秘錄卷十三終

# 經濟問答秘錄卷十四

## 田賦考

○客云、「三年耕、有<sup>ニ</sup>一年食<sup>ト</sup>」ト見ユシニ、今ノ世ハ「十年耕、無<sup>ア</sup>レ<sup>マ</sup>ス<sup>ス</sup>」ト見ユ、如何シテ食<sup>ア</sup>ヲ<sup>マ</sup>飭<sup>マ</sup>サンヤ

答云 古今易ラズ、唯儉奢ノ二ツニ在リ、今ノ世ニ、仁德天皇出玉フトモ、三年ノ租ハ免シ玉フマジ、縦ヒ上ヨリ免租有ルトモ、ドヨリ酒屋ト僧徒ノ娼虐ニ盡ク、人皆蝗害ノミ惡メドモ、是害ハ農務ノ苦勞其半途ニ在リ、其後收ル迄ハ刈穫・扱干・磨春・脫粟ノ苦勞ハ、始ノ撥俗播植ニ同ジ、斯艱難シテ稍收レバ、未ダ貢モ輸メズ、片端ヨリ酒債ニ納メ、或ハ家釀ニ竭シ、五六月迄穀ヲ貯フ者ハ百戸ニ一二人、新穀マデ續ク者ハ萬戸ニ一二人ナラン、故ニ禽獸ト同ク一生口ノ爲ニ身ヲ使ハル、次ニ門徒宗ハ寺詣セザレバ謫ルユヘ、五度參リト名ケ、寸隙モ無キ四五月ニモ、一月寺參五回ノ隙ヲ儉ミ、日ニ月ニ券<sup>ホウカ</sup>縁ハ絶エズ、讀經スルニモ、他宗法華經八卷ニ、布施百六七十錢ナルニ、三部經僅三卷一時モ懸ラズ、布施念一步ナドト究メ、様々ノ方便ニテ、民ヲ虐<sup>シイダ</sup>グル事、民間ニ在ザレバ、上タル人ノ知ラザル所ナリ、且男女不<sup>レ</sup>同<sup>レ</sup>席ハ禮ナリ、國家ヲ治ルニハ、先ヅ男女ノ禮ヲ正フスルハ、人倫ノ本

始ナル故ナリ、然ルニ深更迄男女席ヲ同シテ雜沓<sup>ヘシ</sup>合蠶會シ、暗夜無燭ニテ外出スルユヘ、姪情起テ  
婿者ト成リ貞婦モ之ガ風俗ニ化セラレ、佛ハ姪亂ノ封間<sup>ウラマユキ</sup>子ト爲レリ、今試ニ門徒黨<sup>ツツ</sup>ノ鄉村ヲ觀テ察ス  
ベシ、故ニ盛隆ヲ欲セバ先右ノ二條ヲ禁ジ、其上ニテ租ヲ減耗セズンバ、壞防ニ零スルガ如シ  
街市ニハ僮婢ノ姦通ハ稀ナレドモ、鄉村ニハ亦滋シト聞ク、是事全ク說法集會ノ餘毒ナリ、公儀御掟<sup>オセテ</sup>  
通り家ノ主見室リ次第、斬殺シテモ大事無シト令ヲ下シテ、旁ク衆ニ徇<sup>トナ</sup>フベシ、然ラバ恐れ慎ム事モ  
有ラン、門徒黨ハ格別ナリ

郷中ニ旅僧・旅醫・千ヶ寺數人同伴ノ薦僧・及ビ家相・卜筮等空手ノ惰民徘徊スルヲ堅ク禁ズベシ、下ハ  
愚痴ユヘ舟中セラレテ、身代潰<sup>イナレ</sup>ニ及ブ者間有リ、卜筮シテ衆ヲ惑ハスハ、聖王ノ誅ヲ免レズ、釋迦モ祈禱  
シテ吉凶禍福ヲ云ヒ、財ヲ貪ルヲ禁ズル事遣教經ニ見エシニ、今ノ僧徒・修驗・巫祝・佛經神書ヲ知ラズ  
トミユ、農業ノ民他邦ヨリ來ラバ其人ヲ試ミ、何十人ニテモ滞在ヲ免スベシ、若永住セバ門徒ナラバ、  
今改メテ他宗ノ籍ニスルベシ

鄉村ノ風俗ハ全ク庄屋一人ニ決ス、庄屋ヲ撰ムハ勿論ノ事ナレドモ、下戸ニ如ハナシ、又民ヨリ勸ル  
村役等ハ、縦ヒ不辨トイヘドモ、五六十以上ニ任ズベシ、農業ハ體ヲ勞スル者ユヘ、老年ヲ使ヘバ耕  
田ノ登<sup>ミ</sup>モ少シ、壯年ノ役者ヲ勤レバ身體ノ勞寡ク、後々ハ癰ト成テ鋤ヲ秉ル事ヲ嫌ヘリ、故ニ良農ハ  
仕官ヲ好マズ、老者ハ舉動手鈍ク見ユレドモ、思慮厚キユヘ便用ス、右兩法トモニ善法ナリ

國家ノ患ハ大風・洪水・旱魃・蝗蝻ニ在リ、是中人力ヲ以テ防ギ難キ者ハ大風ノミ、其餘ハ精力ニ由テハ亦其難少カルベシ、洪水ハ山崩レ河壅ル等天地ノ大變ユヘ、如何トモ爲スベキ様無レドモ、平生ノ漲溢ハ、兼テ欲ヲ去テ水邊ハ否ト成シ、或ハ決川ノ法ヲ工夫シテ置ベシ、蝗蝻ハ後レヲ取ラズ、精力シテ油ヲ用ユベシ、干魃ハ廣田ノ處ハ池墮ヲ掘ルベシ、百町ノ田二十町ノ損有ト見ユレドモ、一年ノ掘實國計ニ合セ觀レバ、歲累ツテハ算計格別ノ損ニモ成ラズ、譬ヘバ土井敷機張百坪ノ池ヲ掘リ、其土ヲ側ノ百坪ノ地ニ高ク積立テ、封壇ヲ作レバ、四方ノ小延ニテ、地ノ廣狹ハ差フ事ナシ、田租ト畠租ノ高下ニ由テ少シ損有ルノミ、然レドモ始ヨリ町數寡キ土地ト思ハヤ、旱魃ニ至テ大損ナシ、古井田ノ時ハ、一井毎ニ膏腴タル田ヲ費シ、豎横溝洫ヲ掘レリ、水無クシテハ良田モ惡田ニ劣レリ、土ヲ積立ルニハ南方陰無キ様ニ、南北ニ長ク畝ヲ立ルベシ、其邊堤防ヲ築ク地アラバ是ニ如ズ、蓋シ陂堰ヲ築キ掛リ、半途ニシテ頽ル、事諸國ニ寡カラズ、余ガ宅邊ニモ、先年凡役夫ニ萬口計リノ陂堰壞頽ノ跡アリ、斯數萬ノ民ガ森林ヲ費シ土骨ヲ崩シ、莫大ノ財貨ヲ棄テ、永ク不毛ト成ス事ユヘ、畏敬シテ忽遽ニ致サズ、必ズ農民等ガ聒言ヲ信ジ、妄リニ始ムベカラズ、時ノ官吏不練ニシテ農民ノ言ニ任セテ誤ルノミ、耕耘ハ生來ノ職分ユヘ、固ヨリ熟練スレドモ、堤防ハ時々無キ事ユヘ、渠等ガ知ル所ニアラズ、余其土地ヲ觀ズシテ玆ニ其術ヲ述ルハ、孟浪ノ談トイヘドモ、大體ハ先能ク其地ノ土性水脈ヲ觀ルニ在リ、管子ニ、堤防ハ内土ヲ外ニ置クト云ハ人皆知ル所ナリ、豎巖溪谷ニシテ土墳墜ノ處ハ最上ナリ、或人

巖界ハ紙ヲ張ルト云、是亦屈ク事ニ非ズ、能ク岩ヲ濯ギ掃クベシ、末代ノ事ユヘ必ズ速ヲ欲スベカラズ、速ヲ欲スレバ必ズ仕損ジアリ、其地床ト成ル地ニ疑ハシキ所有ラバ、先二三間四方計リノ井戸二三ヶ處、其深サハ垓界マデ掘トッケ、兩三年ヲ過シテ溜洩ヲ得ト試テ、若シ善ト思ハバ、土井敷幅四五十間ト積ラバ、先ヅ四五間ニ致シ、高サ二間餘リ築立テ、兩三年モ試ミ、又幅十間餘モ内外ニ延ベ、高サハ又二間計リ、右ノ様ニ段々年ヲ經テ積立テ、必ズ一度ニ成就スベカラズ、堤防ハ端口ヲ大事トス、垓<sup>チヨリ</sup>ノ土ヲ以テ端口ヲ罷堅メ置トキハ減多ニ洩ラズ、塘ヲ築クニ衆人音頭<sup>オシド</sup>拍子ニ從ヒ踏堅ムレドモ、端口<sup>ハメ</sup>機張二三間ハ等撞ニセズンバ決シテ宜シカラズ、等撞ハ石ニテ分銅ノ形ヲ作り、蜈足ノ様ニ繩ヲ附ケ、五六十人ニテツクナリ、役夫ハ衆クトモ百人ニ過ベカラズ、大衆ナレバ騒々トシテ纒密ナラズ、又指揮モ行トッカズ、扱人ヲ無理ニ使フベカラズ、仁恕モ無ク減多無性ニ使ヘバ、役夫激シテ隠レシ處ニ和厄<sup>ワヤク</sup>ヲ爲シ、或ハ衆人取り圍ンデ、半死半生ニ爲ス事間アリ、徒胥ノ輩ハ常ニ多人ヲ使フ事モ無キ身ニテ、其情モ無キ者ユヘ、仁恕ニシテ人ヲ使フ任ニ當ル者ヲ銓ンデ長トスベシ、午飯ハ早ク致サセヨ、餒テハ仕事計ドラズ、却テ損アリ、暮ニハ日ノ傾ク時早ク返シ、朔望ナドニハ酒ヲ與ヘヨ、但シ中飯ニ一合ヅツニ究メヨ、百人ニ僅一斗ユヘ聊ノ事ナリ、兎角仁愛ヲ垂レ、千口ノ入費ハ、千五百口ト思ヒ切ラバ何事モナシ、子路郡奉行ト爲ルトキ、農民衆ク集リ溝瀆普請セシニ、役夫大ニ精カスルユヘ、自身ヨリ出シテ酒食ヲ與フ、人皆仁恩ヲ稱美スレドモ、孔子之ヲ聞テ不忠ト宣ヘリ、自身ヨリ

出シテハ己ガ名ヲ取ルナリ、官ヨリ出シ君ノ賜トセヨト宣フ、夫聖人ノ繩墨ニ併スレバ、斯世俗ト齟齬スル事多シ、ユヘニ君ニ仕ユルモノハ、學バズバ有ルベカラズ

井樋ハ窠物ニスル處モアレドモ大ニ惡シ、海邊數百年ヲ歷シ松櫛ニ如ズ、近年石ヲ以テ造ルハ尙又宜シ、尺八ハ水中ニ建ル所アレドモ、塘ニ伏スルニ如ズ、我藩ハ皆伏尺八ナリ

山田僅ニ三段ホドノ處ハ、大抵天水ナリ、故ニ旱損多シ、毛見ヲ顧ハザレドモ、國計ニ合スレバ、一年ニ掘實幾許ノ損ゾヤ、故ニ其地ヲ見分シ、悉ク上ヨリ堤防ヲ築クベシ、中國邊ハ、山田僅ノ畝町ニモ、兩方山端ニ凡ソ一里モ二里モ、塙<sup>ミツリ</sup>石垣<sup>テリベイ</sup>ヲシテ猪鹿<sup>イノシシ</sup>ヲ禦グ、是ヲ思ハバ小堤十ヶ處二十ヶ處、何事カ有ランヤ、統テ九州ハ上下トモニ田地ニ不心掛トミユ

稻田ハ水ヲ本トス、肥瘦ハ其人ノ精情ニ在リ、故ニ古人租ヲ掛ルニ、大抵水ヲ以テ上田トスルモ、亦畔カザルコトナリ、決川ノ法ハ最モ難キ事トミユ、余モ開闢セシトキ謬<sup>アヤマリ</sup>テ大ニ後悔セシ事アリ、是ニ由テ田畷<sup>タイノヘン</sup>ノ官ニ居ル者ハ、第一水利ノ術ニ達スベシ、決レドモ是術ニ達スル者幾希ナリ、近世ニハ加藤清正、及ビ我藩祖ノ時成富兵庫水利ニ達シ、其功今ニ於テ遺レリ、國人舉嘆稱ス、筑後ニ凡ソ一里計リ、往還ノ道ヲ掘抜キ埵道ヲ作り、大河ヨリ水ヲ取ル事、凡ソ田地十萬石ホド溉グヨシ、何ノ時代カ其邊庄屋ナル者工ミシ事、碑銘有レドモ磨滅シテ明カニ視エズ、廣大ノ事ニテ九州ニハ類ナシ、中華ニモ水利ノ智術ヲ得シ者稀ナリ、尤モ魏ノ史起・秦ノ季冰・漢ノ文翁、元帝ノ時邵信臣・後漢ノ王景・

順帝ノ時馬臻・蜀ノ孔明・宋ノ元帝ノ時劉義欣・後魏ノ孔雍・唐ノ太宗ノ時李襲嗣・曹王臯孟簡・宋ノ太宗ノ時何承矩・呂頤浩等ナリ、其餘ハ歴史ニ見エズ、是ヲ以テ觀レバ、容易キ事ニ非ズトミユ

魏ノ襄王ノ時史起爲鄴令、起曰、魏氏之行レ田也、以ニ百畝賦田之法一次百畝獨二百畝、是田惡也、漳水在其旁、西門豹不レ知、用是不レ知也、於是乃引ニ漳水、溉レ鄴以富ニ魏之河内、民歌之曰、鄴有ニ賢令ニ兮爲ニ史公、決ニ漳水、兮灌ニ鄴旁、終古島鹵兮生ニ稻粱

水利之說、三代無レ有也、蓋井田之行、方井之地、廣四尺謂ニ之溝、十里之成、廣八尺謂ニ之洫、百里之同、廣二尋謂ニ之洿、夫自ニ四尺溝、積至ニ二尋之洿、則夫一同之間、而捐ニ膏腴之地、以爲ニ溝洫之制、捐ニ賦稅之入、以治ニ溝洫之利、蓋不レ少也

古ハ庶人ノ贄ニハ鷺アヒルヲ用ユ、鷺ハ翼有テ翔ズ、故ニ庶人ハ遠行セザルヲ示ス、然ルニ近年農民花奢ノ弊習ニテ、遠行益々繁シ、特ニ六七月ハ田草拵最中ニテ、一日後ルレバ、秋ニ至テ其塲實モ減ル事、目前ニ視エシニ、門徒ノ窮民ハ借財シ、或ハ頼母子錢ヲ取り、京都本山ニ詣リ、其中ニモ少シ米穀ヲ飭セル者ハ、大枚ノ金銀ヲ出シテ佛龕ヲ買メテ歸リ、法華ハ甲州身延山、他宗ハ讃州金毘羅・伊勢等ニ往ク、故ニ國ニ由テハ領内ニ建置ルレドモ信仰セズ、或ハ四國・西國・坂東巡禮ナドト夥シク出遊シテ、自國ノ財ヲ散ラシ、農務ノ障リトナル事、已ニ別卷ニモ記シ置タリ、是風壞ハ一ハ商賈雜居ヨリ興ルトミユ、大都ノ風ヲ視ルユヘ、奢靡ヲ嗜ム弊俗ト成リ、資給自然ト不足シテ姦智ヲ生ジ、罪獄繁クナ

レリ、因テ嚴制ヲ立テ、路引キツテヲ受ズ潛行ノ者ハ、門徒法華ノ族ハ卒伍ノ法ヲ用ヒテ、十人組迄改宗シ、他宗ハ重ク贖刑スベシ、若シ路引ヲ授ルニ、大國ニシテ都府ノ職掌ヨリ受ルトキハ、遠程ユヘ願フマジ、故ニ近ク其地ノ惣庄屋ニ認ヘ、宰尹ヨリ授ルコト便利ナリ

早速ニ至テ水ヲ爭ヒ、相共ニ貢ヲ輸ルユヘ、喧嘩ハ仕勝ト言ヒ傳ヘテ、凶暴ナル事多シ、始メ如何ナル者ノ欺キシヤ、以テノ外ノ惡言ナリ、互ニ辭讓ナル事時々論シ、倘シ邪欲ヲ以テ剛愎ナラバ、正政ヲ開拓シ、屹ト罪罰懲チカツスベシ、ユヘニ田數ヲ校量シ、堤池ヲ築キ置テ、爭論スル事無ラシムベシ、水ヲ爭フ年ニ非ズンバ、豐登トハ視エズ、穀ハ武備ノ本ニヘ、田圃ノ方ヲ專一ニ心ヲ竭スベシ

畠井戸ノ水ヲ盜ムモ、穿窬ニ一等ヲ増スベシ、是井戸九州ニハ無シ、畿邦中國邊ニ在リ、或郷ニ菜蔬ヲ盜ム者ニハ料錢六貫宛ト定メ置クハ、尤モ善法ナリ、聊ノ事上ニ訟ユベキニモアラザルユヘ、是法令ヲ下シ置ク事ヨロシ、蓋シ五穀ヲ盜ムニ至テハ、上ヨリ罪罰セラル、ハ論ズルニ及バズ

清朝ノ農家ハ統テ茅屋ニテ瓦屋無ク、唯福祿ノミ瓦屋有リ、士大夫ハ圓瓦ヲ用ユ、之ヲ陽瓦ト名ク、庶人ハ平瓦、之ヲ陰瓦ト名ク、今大村ハ士人ト庶民ノ家ニ瓦ノ形ヲ分ツハ、定メテ清朝ノ制度ニモ由ル事カ、コセツク醒コセツクタル小量、國天下ヲ治ル器ニ非ズト思ヘリ

筑前ハ鄉村ニ瓦屋ヲ造レバ、運上銀四十目ト聞ク、故ニ豪家ハ運上ヲ遁レンガ爲ニ、棟ヲ少シ藁ワラ葺ニシテ、四方ハ下屋ハ瓦葺ニス、是ヲ母衣屋ト名ク、是事實ハ正キ道ニハ非ザレドモ、亦奢リヲ停ル良

制トモ云ベシ、市町ハ瓦葺、田舎ハ廂<sup>ヒサシ</sup>トイヘドモ藁葺ニスベシ、鄉村ハ茅屋ナレバ、自作ノ藁ヲ用ヒ、又繩藁互ニ持來テ葺キ、古藁ハ糞トスルユヘ、甚ダ便利ニテ一錢モ入ラズ、江都ハ天下第一ノ大都會、然レドモ鄉村ハ寺院ニ至<sup>マ</sup>テ藁葺ナリ、古聖代ハ民ヲ集メテ法令ヲ下スニモ、大樹ノ下ニ於テ致セシハ、家造モ元民ノ輸<sup>ナサ</sup>ムル租稅ヲ以爲ス故ナリ、或邦ニ寺院ト庄屋ハ聖<sup>シニツサ</sup>ヲ以テ飾リ壯觀ノ美ヲ竭スハ、元民ノ租稅ニ氣附ズト云者ナリ、近年田舎漸々花美ノ家造ハ、大鉤斧工雜居ニ由ル所ナリ、昔ノ農家ハ皆掘立家ナリ、是意ヲ考ヘ一切ノ諸職免札ハ鄉村ニ許サズ、今居ル所ノ者ハ盡ク市町ニ移宅セバ、職人モ相迭ニ自職ヲ勵ミ、農家ハ市町ヨリ雇ハバ、今ノ様ニ美造セズ、自然ト質朴ノ風ニ化セン、或邦ニ農民及ビ閑人ドモ、歸路ニハ自ラ乘馬シテ、往來ノ人ニ妨ゲトナルハ、甚以テ惡キ風俗ナリ、孝子庄助ガ歸路ニ自ラ鞍<sup>カマダ</sup>ヲ<sup>マコ</sup>テ還ルトハ、雲泥ノ差ナリ、國政ニ與ル者此ニ目ノ附ザルハ、燕石ト云ベシ

或邦ニ農民木屐傘ヲ用ルモノハ、一貫文ノ上金ニテ免許ス、定テ上ノ賈乏ニ由テ倭賊ノ制力母衣家ノ運上ト同ク視ユレドモ、其意ハ大ニ異ナルナリ

「非<sup>ニ</sup>其<sup>ニ</sup>土<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>生」ト聖言アリ、元弘年中玄慈庭訓ヲ著シ、諸國ノ土産ヲ舉シニ、今モ大抵違ハザレドモ、既ニ四百餘年、今ニ於テハ漸ク諸國ニ名産ノミ衆キハ人工ニ由レドモ、土性ハ古今不易ユヘ、能ク其土性ヲ稽ヘズンバ勞シテ功ナク、唯財貨ヲ捨ルノミ、產物ヲ生ルニハ、先國家的用ノ物ヲ擇ム



ヲ勸ルユヘ國產ト爲レバ、自然ト美饌ノ風ニ化ス、因テ自國ニ不<sub>レ</sub>產ヲ善トス、琉球ノ如キハ其土ニ應ズルユヘ名產トス、草木菜穀ハ天地ノ時候ニ由テ生不生アリ、是ヲ測ラズ猥リニ樹ル時ハ、勞シテ功無キノミナラズ、又財貨ヲ捨ル事多シ、日本ハ九州三十一度迄ニテ、奥州ニ至テ四十度ニ盡ク、僅八九度ノ差ニシテ、北國ニ樟楠<sup>イナ</sup>甘<sup>カ</sup>諸<sup>ソ</sup>ハ生ゼズ、琉球ハ僅南渡二三百里、然ルニ彼地ノ草花<sup>ムロ</sup>蒸室ニ入レ圍フテモ、十二七八分ハ枯ル、或ハ領主植木ヲ嗜玉ヒ、蘭人コリ丁子・檳榔<sup>ビツウ</sup>・椰子<sup>ヤシ</sup>ヲ求メラレシニ、年ヲ逾ズ枯槁ス、彼木ハ元南方七八度ノ邦ニ生ズ、我四十度ノ土ニ何ヲ以テ生長センヤ、是理ヲ考ヘ、菜穀モ求ルベシ、又其地ニ由テ僅ノ地ヲ隔テ生不生アリ、京都杉明神ノ境内ニ諸木ヲ植レバ、皆杉ニ變ズ、尤杉松ノ如キ其葉大ニ異ナル者ハ變ゼズ、土佐ニ一年兩度田ヲ植ル處少シ有り、是稻ヲ日次ト名ク、同國トイヘドモ他村ヘ生ゼズ、是米ヲ炊ギ觀ルニ其性惡シ、或ハ諸國ニ二度蕎麥・二度粟ナドヲ播トモ、其<sub>ミ</sub>堪<sub>ミ</sub>實一度ニ同ジ、筑前ハ紅染ヲ名物トスレバ、紅花ヲ植ルハ當然ナレドモ、其花色濃カラズ、故ニ肥後ヨリ買<sub>ミ</sub>ム、薩州ハ大豆ヲ播ケバ蔓トナルヨシ、余東遊ノ時尾張菜菔<sup>ガイフレン</sup>・守口大根<sup>ミヅナ</sup>・京<sup>ミヅナ</sup>菰、其外諸國ノ菜蔬穀類、果<sub>ホ</sub>蔬<sub>ノ</sub>種子ヲ求メテ歸リ、試ニ之ヲ播シニ、一兩年ヲ歷テ皆變ズ、故ニ種子ヲ妄リニ易ルニ及バズ、尤モ麥粟稻ノ種子數十年ヲ經ル時ハ、他處瘦地ニ播來ル貧人ノ種子ヲ求テ作レバ、一兩年ハ大ニミノリヲ得ルナリ、亦自國ニ植ズシテ叶ハザル種類モアリ、後世ニ生レ秦ノ李悝ガ如キ者希ナルユヘ、慙ニ事ヲ興シ、屠龍ノ技ヲ以テ民力ヲ費ス事勿レ、上ヨリ手ヲ附ケシ事ハ永ク續者有ニ非ズ、

下ヨリ願ハバ許シテ可ナリ、蓋シ鑿<sup>ヤマシ</sup>空人有テ興利ヲ説キ、上ヲ掠ントスルユヘ、必ズ財ヲ貸ス事ナカ  
レ、上タル人唯利ハ賤キ者ト思ヒ之ヲ嗜ズンバ、下ヨリ誣誑サル事決シテ無シ

尾州ノ醫工淺野元甫ガ説ニ、日本人參ハ朝鮮本巢ト稱ス、有徳公日本ニ是種無キヲ憂ヒ、種子ト生苗  
ヲ朝鮮ヨリ徵玉ヘバ、生苗三莖ヲ盆ニ植エ、並ニ種子ヲ貢ス、生苗一莖ハ途中ニ枯ル、二本ハ日光山、  
其土著ノ者ニ命ジ、土性ヲ視テ植エ玉ヘバ、數年ヲ歷テ實ヲ結ビ繁蔓スルニ、朝鮮ニ少シモ差ハズ、  
又病人ニ試ルニ易ル事ナシ、廣東ノ効能ハ醫書ニ見エズ、其證無キヲ用テ之ヲ用ヒザルハ、甚ダ惑ヘ  
リト云、又或説ニ、人參ハ山中自生ヲ善トシ、培養ハ性味劣ルト云ハ僻言ナリ、朝鮮モ自生ニ非ズ培  
養ナリト云、余モ此説ヲ尤ト思ヘリ、近年肥後・筑前專ラ制産シ、播殖<sup>マキウエル</sup>ヲ秘スレドモ、左マデ瀧奥ト  
スルニ足ラズ、先ヅ其大概ヲ茲ニ擧ルニ、子ヲ夏ノ土用ニ、蔦草<sup>セバ</sup>茄種ノ如ク一處ニ播キ、其後十一月  
冬至ヨリ四日ト前ニ右ノ苗ヲ拔テ、四寸計リ間ヲ隔テ植エ、土ハ小石塊無ク能ク碎キ、上ニハ土ヨ  
リ三尺計リノ高サニ竹瓦ヲ葺キ、七八年ヲ歴テ掘リ、右ヲ晒シ蒸スニ傳アリ、山中ニ限ラズ、宅中ニ  
モヨシ、是ヲ自國ノ産トシテ郷村庄屋毎ニ渡シ置ハ、他國ヨリ高直ノ品ヲ買メズ、窮民ニハ秋マデ貸  
テモヨシ、近年華舶夥ク持歸レバ、其効能廣東ニ勝ルベキカ、日光ヲ第一トシ、奥州・會津・雲州ヲ次  
トス

經濟錄ニ、畿内近邦ノ民ハ、農業ヲ精勤スル事他國ニ超タリ、關東ハ懶惰ナリ、風俗モ畿内近邦ハ質素

ナリ、關東ハ奢侈ナリ、是余ガ視聞見シタル所ト云、余案ニ、農業ニ限ラズ、諸職皆精勤スルユヘ、四方ノ遠國ヨリ上方ノ器材ヲ買ルニ舉下直ト云ハ、職人ニ四ツノ手有ルニモアラズ、全ク精勤ニ由レリ、西國ハ農工共ニ無精ナリ、畿内關東ハ農務ニ氣長キユヘ勞寡シ、西國ハ氣短ク攘ユヘ疲レルコト多シ、農書ニ、犁一擺六ト云テ、一回犁キ六回カキナラセバ、田ハ能ク糞エ、水モ亦能ク保ツベシ、西國ナドニ無キ事ナリ、甲信ノ場ヲ代ヲ視ルニ、長柯ノ鋤・同ク鋤・同鐵鋤合テ四挺ヲ用ユ、九州ハ僅二挺ヲ用ユ、關東ノ農人ハ奢侈ト記セドモ、西國ニ方ベ家造ヲ視ルニ、瓦ノ廂ト云者一ツモ無ク、棟ニハ鳶尾ナドヲ植エ、塋ニ至マデ至テ質素ナリ、山陽ハ厩モ家内ニ作り、八月中旬比茶ヲ拵ルニ鋏ヲ以テ寸斬シ、之ヲ糞テ干スナリ、九州ハ農業ハ偏手ノミナラズ、酒食ニ奢レリ、尤肥後ハ麩食ニテ、粟ヲ常食トナス、是風壤戰國ヨリノ事カ、加藤清正溝洫修理ニ躬ラ往テ指揮スルトキ、役夫ノ中飯食肉ヲ視テ、汝ハ年六十餘トミユ、最早子供童僕テモ出スベキニ、老ニ及ンデ自ラ勤ム、貧乏ハ自身ノ所爲ト諭セリ、余筑前博多ノ市外ニ農夫ノ餉ヲ視シニ、白飯ヲ食ズ、路傍ノ人ニ彼ガ素姓ヲ問ヘバ、元父ハ富家ナリ、今ハ貧窮ニテ自ラ鋤ヲ秉ルト云、筑後・肥前ハ衣食花奢ナリ、肥後・豐後ノ鄉村ハ稗・蕎麥ヲ上食トス、大村諸島ハ甘藷ヲ常食トス、斯ル處ハ大饑トイヘドモ曾テ餓莩ナシ、義倉・常平・糶園ニモ及バズ、上ニ難題モナシ、美食ノ地ハ凶年或ハ不虞ニ臨ンデ、直ニ騷動餓死ニ至レリ、當今皆興利ヲ肝要トスレドモ、易俗ノ德ニ非ズンバ社稷ノ臣ニ非ズ、興利ハ姑息ノ事ナリ、唯易俗移風工

夫スベシ

諸國倉究ハ、十一月限リ、銀納ハ是時ノ相場ニ致シ、或ハ正二月、或ハ三四月ト定ム、永キハ却テ仁ハ不仁トナルナリ、又庄屋私曲ノ取計ヲヒモ成ル事アリ

王朝ハ、租税不輸ノ者ハ、家屬共ニ水牢ニ入ル、是刑律ハ四方ニ虎落<sup>ヤライ</sup>ヲ結ビ、内ニ池ヲ掘リ、膝ノ長計リ水ヲ溜メ、寒中晝夜入置クナリ、其趾筑前ノ太宰府水地村庄屋ノ宅中ニ今ニ遺レリ、菅公時代ヨリ一千餘年ノ庄屋ト聞ク、酷刑ナレドモ、古ハ十ヶ一ノ租、且ツ椀朴ニテ家給不足ナキ時代ユヘカ、肥後ハ近年迄行レシニ、寶曆年中、銀臺侯之ヲ除キ玉フ、貢ヲ心ニ掛ル者ニ富マザル事ナシ、不納スル者ハ皆惡行ナリ、故ニ不納ノ刑ハ苛酷ニ如ズ、今侯國ハ割木責ヲ專ラトス、或ハ一族ニ掛レドモ、此律ハ内情ニ拙シ、姦惡ノ者ハ親族ヲ恃ミテ不納スル者モ有リ、王朝ハ翌年七月ニ納ム、大抵窮民ハ庄屋ニ借用スルハ善トスレドモ、借米ニ斗附ノ利ト云事有リ、一年ニ一苞ノ利息ニ一斗ヲ添ルナリ、元米僅一苞ナレドモ、二十四年ニハ、元利千苞ト成ル、利息ノ重ル事、年ヲ歴レバ百増倍トナル事如此或孤島ニ往シニ、江邊ニ鍋釜ヲ棄措キ、或ハ田畠ニ錡鋤ヲ捨置ク處アリ、從者感嘆シテ、「夜不<sup>レ</sup>鎖<sup>レ</sup>戸、途不<sup>レ</sup>拾<sup>レ</sup>遺、聖代ノ風俗ト云、余モ亦感心ス、蓋シ上ノ政教尙闕ゲタリ、農夫ノ排具ハ武士ノ刀ニ同ジ、職務ヲ輔ル器ユヘ、最大切ニ思ヒ、之ヲ洗フテ毎日持歸リ、恭ク棚ニ掛置キ、又翌朝之ヲ携フベシ、農家ニ往キ盛衰ヲ視ルニ、丁寧ニ農具ヲ懸ケ並ベシ家ハ必ズ繁昌ス、龜抹スル家ハ皆貧シ、之ヲ洗

ヒ歸ルヲ勞苦トスルハ懶<sup>アレイウ</sup>媮者ニテ、其耕ス所モ又倉卒ユヘ、遂ニ豐登ヲ得ズ、特ニ器物ハ雨露ニ晒<sup>サシ</sup>セバ朽ル事早シ、俗ニ云フ貧乏人ノ爲ス事ハ、爲事成事一トシテ好事ハナシト、天ヲ怨レドモ皆己ヨリ爲ス所ナリ、農具ハ大切ニ致者事、上タル人ヨリ時々教令スベシ、農具ヲ借ル者少カラズ、魯鈍ノ者ハ取りモ得ズ難澁アリ、白下ノ器ヲ借ルハ、武士ノ刀ヲ借ルガゴトシ、令ヲ下シテ借ルベカラズト言ハズ、貸スベカラズト命ズベシ

國家ノ盛衰ハ儉奢ノ二ツニ在リ、泰平久ク上下益々花奢ヲ好ムハ自然ノ事ナリ、蓋シ四境遠國ニハ、亦古風盡ザル處モ有リ、九州我藩ヲ始メトシテ道中扉ヲ賣ルニ、其主無テ竹筒ニ〇如<sup>レ</sup>是丸ヲ六ツ書シテ置クニ、往來ノ者六錢ヲ竹筒ニ入ル、或ハ柿・蜜柑・栗等ヲ皿ニ入レテ、幾個モ盆ニ載テ路傍ニ置ケバ、一錢ヲ入レテ一皿ヲ取ル、是ヲ以テ視レバ、遠堦ハ上方ヨリ民ヲ治ル事易シト思ヘリ、倘一變セバ道ニ至ンカ

近年農夫利ニ趨リ、穀ヲ植バ迂遠トシテ、良田ニ一瓜・西瓜ヲ植ル事年ヲ逐テ倍蓰ス、一時ノ美饌ニ、救命ノ穀ヲ妨グルハ、國家ノ害ナリ、因テ僅名産ノ地ニ免シテ運上ヲ納メサセ、蓮ハ水田泥濘ノミ免スベシ、自國ハ五穀ヲ耕シ、驕奢ノ果蔬ハ他國ヨリ買ル事宜シ

農民私田ニ紫根・藍・楮・紅花・黃<sup>ハ</sup>蘆・茶等ヲ植レバ増租スルハ、產物不生ノ本ナリ、初ノ田租ニ致シ置カバ、面々心ニ任セ、或ハ植エ或ハ畠トナシ、勝手ニ致スユヘ、產物ハ自然ト蕃盛ス、故ニ畦塘ニ黃<sup>アサヒ</sup>蘆・楮

ヲ植テモ免シテ置ベシ、茶園モ數町一園ニ植エ產物ト致サバ、即租モ有ラン、農民自用ニ畠中ニ僅ニ三十株植ルトテ、上田ノ租ヲ掛ルハ甚ダ無理ナリ、故ニ農民自畠ニ菜・粟・黃櫨等勝手次第ニ植テモ、曾テ一錢ノ運上ナキ國モアリ、仁政ト云ベシ、斯黃櫨・楮・茶・漆等ニ運上有ルユヘ、農民ドモ二階ノ年貢ト風刺スルハ尤ナリ、國家ノ小計ニ合スレバ聊ノ小欲ユヘ、小利ニ目ヲ舐レズ、寛仁ノ政ヲ布カバ、產物自盛ナリ

古ハ圭田アリ、孟子、「郷以下必有圭田」、又杜氏通典、「圭田五十畝、圭田者祿外之田、以供祭祀」、加田者既賞レ之、又重賜<sup>ヤウマデコロス</sup>之田也」トミユ、左レバ謀叛或ハ君父ヲ弑スル等ノ酷逆ハ、固ヨリ天地モ入レザル大罪ユヘ、笮戮シテ永ク宗祀ヲ絶バ、王道トイヘドモ又不事無嫡ノ絕家モアリ、或ハ開國ノ功臣厄難ニ罹リテ、子孫民間ニ陷ルモ有リ、後藤基次ガ如キハ剛邁ニシテ出奔シ、其後裔上座郡民間ニ居レリ、是等ハ白國ノ人ハ惡メドモ、天下ノ人ハ亦嘆稱ス、同家ノ栗山大膳、酒井家ノ高力喜兵衛等ハ、剛直折檻ニ由テ沈沒ス、上杉家ノ宇佐美駿河守ハ景勝ニハ仇讐トイヘドモ、父謙信ノ爲ニハ忠死シテ功ヲ立ル開國第一ノ功臣タリ、又諸國ニ有功ノ子孫卑臣微祿ノ者モアリ、其孫ヲ搜リ甲乙ヲ以テ圭田ヲ賜ラバ、勵士ノ法ト云ベシ、栗山ガ嫡孫ハ今奥州ニ百石ノ棄扶持ニシテ郷士ナリ、近年筑前侯其餘裔ヲ搜リ、久留米ヨリ迎ヘテ微庸ス、當侯ノ志最モ深切ナリ、臣下ニ限ラス、庶民トイヘドモ國功ノ子孫ハ、之ヲ探テ圭田有ラバ、尙モ人傑起ツテ國功ヲ立ン、明智ノ人ハ大形下ニ起ル者ナリ、筑前上

座郡ニ杏貫ト云三千石ホドノ村アリ、筑後川ノ支流ニテ、大雨毎ニ漲溢シテ潦湮水底ト成リ、荒蕪シテ穀ヲ得ズ、是村ニ瀨川ノ術ニ達スル者アリ、竊ニ命ヲ受テ萬金ヲ費シ、遂ニ成就シテ今ハ熟田ト成リ、毎年千萬石ノ穀ヲ生ズ、豈天下ノ大功ナラズヤ、因テ扶持ヲ賜リ、今其村ニ耕耘ス、治世ニ於テハ庶人ノ國功ハ、開鑿ヨリ大ナルハナシ、或ハ嶮巖ヲ鑿テ途道ヲ通ジ、或ハ剏テ橋梁ヲ掛ケ、或ハ始テ國產ヲ興シ、或ハ澮川築塘、其外器械・武用・農具ハ勿論、一切ノ事古來自國ニナキ器物ヲ發軔スル者ノ子孫ヲ探リ、絕世ヲ繼シメバ、國家盛隆ノ本ナリ

大道ヲ貢道ト云、民ノ物ヲ運ブハ年貢ヨリ重キハナシ、今時翫物等ノ獻上ハ、御用ト云テ路ヲ拂ヒ、年貢ヲ輸メ運ブハ、往來ノ者穢多丐乞ニ至マデ道ヲ避ル事モナク、庄屋ノ徒モ又農民ドモ運ビ來ル時、私用同様ニ會釋ヒ、敬禮シテ受取ル事會テナシ、故ニ能ク教令シテ叮嚀ニ受藏メ、道中ハ庶人ハ勿論帶刀ノ者トイヘドモ道ヲ避テ通ス事令スベシ、斯ク大切ナル事ヲ示シ置ケバ、農民モ大切ナル事ヲ知リ、米拵ヘ、苞作リ等モ、大事々々ト最モ丁寧ニスベシ、昔ハ民ヲ重ンズル、其證ハ筑前ニ往テ視ルニ、年貢ヲ納ムルニ、米何石何斗何升皆納ナリ、何某ヘ、長政判ト、國主ヨリ百姓直當ノ自筆ノ書、今ニ於テ所持スル者間アリ、又池田侯輝政ハ國中統テ高一石ニ二升減ジ玉フニ、年號月日、堀甚五兵衛殿ト、庄屋名當ノ自書今所持ノ者有リ、其後芳烈公モ村々田畔ニ杙ヲ立テ、何村ノ種ハ斯ク致セ、何ノ賦役ハ斯ク爲ヨト躬ヲ書シ、又庄屋直當ノ書、今ニ於テ卓山ニ在リト聞ク、「夫出レ門如レ見ニ大賓、

使<sub>レ</sub>民如<sub>レ</sub>承<sub>ニ</sub>大祭<sub>ニ</sub>トハ、聖賢ノ民ヲ使<sub>フ</sub>ヲ云ナリ、今時ハ人臣タル郡代トイヘドモ、百姓直當ノ書嘗テ看  
タル者ナシ、治世久シケレバ自然ト武士ノ驕慢、右ヲ以テ古今ノ奕易併セ稽フベシ、下トシテ孰ヲ瞠ニ禮  
讓ヲ見働フベキヤ、下禮讓ヲ守レバ敢テ法ヲ犯サズ、民ノ風俗ハ全ク上ニ在リ、君子ノ德ハ風ト思ヒタマヘ  
原野・山林・池澤ニ悉ク柴穀ヲ生ジ、租ヲ取ラント欲スルモ得ベカラズ、故ニ開墾ヲ下ヨリ願ハバ、先  
其土地ト民數ヲ校量シテ、租欲ノ爲ニ妄リニ許スベカラズ、還テ國計小欲大損トナル、又原野ニ野手  
租ヲ掛ルハ無理ト云フベシ、一郷毎ニ原野無レバ、田<sub>カシ</sub>糞<sub>カシ</sub>耗<sub>カシ</sub>盡テ耕田成ラズ、亦<sub>シ</sub>草<sub>シ</sub>無クテハ牛馬ヲ蓄  
フ事ナラズ、其郷ハ餘分アリトイヘドモ租ヲ掛クレバ、他村ノ者ハ斐ルコトヲ得ズシテ大ニ難澁ス、一  
郷コリ見ル所ト、一邑ヨリ見ル所ト、其大小ノ分ヲ知ルベシ、是事昔大猷公ノ裁判モアリ、又山林ハ  
悉ク下ノ受山トナセバ、貧民樵ル處ナキユヘ、其村ノ大小戸數ヲ計テ公林トナスベシ、沃土ハ受山ニ  
與ヘ、坵地ヲ公林ニスベシ、薪樵餘リ寛ケレバ、民間ノ炊爨奢ヲ生ジ花發ニシテ、二ケ年ノ薪ハ一ケ  
年ニ焚盡ス、餘リ嚴ナレバ民人甚ダ困窮ス、故ニ寬<sub>カシ</sub>猛<sub>カシ</sub>酬<sub>カシ</sub>酢<sub>カシ</sub>スベシ、四五月田糞耗ヲ取ルニ、公林ニ入  
ルヲ禁ズル處アリ、甚ダ不仁ナリ、國計小欲大損ヲ知ラズ、是事全ク徒行小吏ノ所爲ユヘ、上タル人  
ヨリ諭シ置クベシ

都府ヨリ四方五六里ニ、一ヶ所公林トシテ、兵備トスベシ

竹林ヲ樹木ノ山ヨリ租ヲ増ス處アリ、定メテ竹ハ毎年價ヲ取り、樹木ハ數十年ヲ歷ル故ナラン、斯ル

小利ハ賤キ商賈ノ見ニテ、天下國家ヲ治ル器ニ非ズ、山林同租ニシテ、庶人ノ嘲笑ヲ受ル事ナカレ  
薪蒸ハ一日モ無クテ叶ハズ、大抵一國戸數ヲ考ルニ、飲食花奢ナレバ、三年ノ薪ハ一年ニ焚盡ス故、  
領内ノ山林モ荒ル、ノ理ナリ、近年石炭大ニ流行ユヘ、薪モ減少スベシ、然レドモ農家ハ田畑ノ大害  
ユヘ、決シテ用ヒ難シ、鄉村ハ牛馬ヲ畜ヒ、又害ヲ防グニヘ、市家二十倍ス、江州・尾州邊・關東、山林  
遠キ處ハ、田畦或ハ塘ニ黃櫨・櫟等ヲ植ユ、或ハ麥・稻葉ヲタキ、海邊貢道ハ並木ノ松葉等ヲタク、斯ク  
儉約ユヘ、一年ノ薪モ多ク盡サズ、由之森林茂盛ヲ欲セバ、伐木ヲ禁ゼンヨリ先飲食花奢ヲ禁ズベシ  
受山運上諸國異同アリ、公領ハ無稅ト人皆知ル所ナリ、世俗ハ一畝一段ト唱ヘテ、諸國ミナ一畝ノ租  
ハ凡ソ其餘地一二段モアリ、或邦ニ運上銀一段ニ二三分ニテ、公用木一二本立置クハ下ノ難澁ナリ、  
或ハ一段ニ四五分ニシテ、地主是山ヲ伐リ賣ルトキ其估十兩ナレバ、四分通リニテ四兩ヲ上ニ納ム、  
是法ハ賸吏利ヲ得テ地主上ヲ欺クユヘ、正キ法ニアラズ、何事モ制度ハ斯ク繁雜ナラズ、簡易ニセザ  
レバ、下ノ憂ノミナラズ上モ亦損アリ、或ハ上林ハ場コリ租ノ高キ處有テ、農人開畠シテモ、貧吏租  
ヲ減ゼザル所モアリ、或ハ一段十文位ヨリ四十文ニ致シ、其中松楠ハ公木ニス、斯ク無稅同様ユヘ、  
公木ハ能ク養フベキニ、民ハ卑劣ノ心ユヘ、藥ノ時悉ク艾斬スルハ惡ムベキ事ナリ  
伐場・野開・海斥等ノ田畠、諸國一般無稅同様ノ運上ナリ、農人ハ本田ノ租ハ上ニ輸メテ、雜穀ノ食ユ  
ヘ、貧者ハ畠無テ叶ハズ、大抵一鄉百町ノ田アレバ、畠ハ二三十町モ無レバ、貧人ハ住居シガタシ、

故ニ一圓ノ田ニテ畠無キ所ハ、田租ヲ減ジテ畠租ニ致シ置クベシ、孤嶋山村ハ本田無レドモ、年貢低  
キユヘ、居民却テ貧シカラズ、或邦新田ハ一段ニ粗七斗五升、米ニシテ三斗七升五合、此ヲ上田ノ租  
トス、作徳ハ十俵餘モアリ、故ニ民大ニ仁恩ニ服ス、或邦ノ租ニ三年ノ作毛ヲ平均シテ掛ケ、凡三百五十  
畝ヲ一段ト究メ、伐堀ハ竿ヲ當ズシテ、大積リニテ目檢地ト云、是ハ大量ノ見ナリ、是ニ狹濶アリ、  
狹シトイヘドモ一段ノ本帳ハ二三段モアリ、仁政ト云ベシ、上畠ハ八升、中ハ六升、下々ハ四升、但  
シ未ダ耕耘ノ情ニ拙シ、上畠八升ナラバ、下々四升ハ甚ダ高租ナリ、畠ハ上熟地ニ非ズンバ、唯耕耘  
ニ手間多ク、其ノ登ハ上熟地ノ三分一ナリ、田畠ハ餘地廣カラザレバ、民ノ潤澤トナラズ、或ハ大麥・  
裸麥・荳種・大豆ノ雜穀、或ハ銀納、或ハ正米等其邦ニ由テ異ナレドモ、愛山ノ運上共ニ春秋兩度ニシ  
テ、倉方役所ニ納ム、或邦匱乏シテ租ヲ増セドモ、一際其贖モ見エズ、又モ賸セドモ益々窮ス、民ヲ  
愛スル者ハ天報アリト云事ヲ知ラズ、夫レ稼穡ハ播種蠶養手足<sup>ヒツクコン</sup>胼<sup>アカギレ</sup>ノ難行ヲ<sup>アカギレ</sup>恕思セバ一合タリトモ收歛  
セラル、若ニ非レドモ、汙吏黠胥ノ輩小利ニ昧ムハ、元來不智ヨリ生ズ、所詮窮スル時ニ至テ、民怨  
ヲ受ケ獨夫々ツンヨリ、尊崇セラレド、君位ヲ失ハザル事ヲ善トスベシ、古王代ニハ租ハ十ゲ一トイ  
ヘドモ、匱乏ニ及ンデモ租ヲ増シ玉ハズ、凶歲ニ及ンデハ、官人皆自身ノ祿ヲ減ジ、以テ民ヲ救ヒシ  
事ハ歴史ニ炳然ナリ、夫農ハ國之本、本堅國安シ、君臣ハ樹木枝葉ナリ、民ハ土ナリ、土肥レバ樹木  
ハ盛ナル事ヲ思ヒ、須臾モ民事ヲ忘ルベカラズ、書云、「王貴民事」

古山澤ヲ職ル官ヲ虞衡ト云、今諸國一般山林方ト云役所アリテ、唯公林ヲ掌ルノミ、民人開畠ヲ願フ  
トキハ倉方ニ訟ヘ、倉方ヨリ山林役ニ申シ渡シテ、右ハ倉方ニ與ヘ、其租ハ倉方ニ納ム、年々開畠多  
ク、山林原野狹クナレリ、諸國一般ノ通り、年貢ハ倉方一局ニ納ムル事、民ノ難澁寡カルベシ  
九州ハ野原多キハ肥後・豊後ナリ、兩筑前ハ山林曠原寡シ、富民ニ生租ヲ取ラセテ租ニ目ヲ舐レズ、開  
墾セシメ、天地ノ間ニ穀ヲ求ルニ如ズ、況ヤ年ヲ逐テ生齒蕃息スルヲヤ

晉平公之時、藏寶之臺燒、士大夫聞者馳馬救火、三日三夜乃勝之、公子晏獨束帶而賀曰、甚善、  
平公勃然作色、晏曰、臣聞之、王者藏于天下、諸侯藏于百姓、商賈藏于筐櫃、今百姓短褐不蔽形、  
糟糠不充口、虛耗而賦斂無已、君收大半而藏諸臺、是以天火之、昔桀殘賊海內、賦斂無度、  
萬民甚苦、是故湯誅之、爲天下戮、今天降災於藏臺、是君之福也、而不自知變悟、臣恐君之爲隣  
國笑矣、平公曰、善、自今以往、請藏百姓之間

稼穡ハ艱難ノ職ユヘ、又一日二日ハ遊樂有ルモヨシ、然レドモ手ヲ添レバ肩ニ上ルハ、女子小人ノ習  
ニテ、弛メ過セバ放縱奢侈ナリ、十一月諸神祭祀ニ群飲數日、後ニハ醉醺喧嘩ノ種トナル、是ニ紂押  
ノ一術アリ、祭日ニ元定日ハ無キ者ユヘ、十一月二十一日ヨリ二十二日迄兩日ニ致ス事嚴令スベシ、  
唯困レル者ハ門徒宗トイヘドモ、我邦ニ生レ我神ヲ祭レバ、却テ天幸ヲ得ルナリ、數百年ノ宿習穢弊  
ヲ消弭スルハ、仲々以テ容易ノ事ニ非ザルユヘ、時ノ官吏人傑ノ志ヲ懷キ、焦思苦心一朝一夕ノ事ナ

ラズ、必ズ中途ニ止ムル事勿レ、中華モ古ヨリ十二月ニ蜡祭アリ、蜡ハ索ト訓テ、群神ヲ索メテ祀ル  
事ナリ、「子貢觀ニ於蜡、孔子曰、賜也樂乎、對曰、一國之人皆如<sub>レ</sub>狂、賜未<sub>レ</sub>知<sub>ニ</sub>其爲<sub>ニ</sub>樂也、孔子曰、百  
日之勞、一日之樂、一日之澤、非<sub>ニ</sub>爾所<sub>ニ</sub>知也、張而不<sub>レ</sub>弛、文武不<sub>レ</sub>能、弛而不<sub>レ</sub>張、文武不<sub>レ</sub>爲、一張  
一弛、文武之道也」トミユ、國ノ宿習ニ由テ、初夏ニ花見螢見ト名ケテ、郷中男女老幼舉家群飲數日、  
是ヨリ豪飲火化ノ頑習トナル、特ニ婦女ノ大酒民戸不<sub>レ</sub>榮ノ基ユヘ、大禁スベシ

田峻タル官ハ、先ヅ其土ノ剛柔及ビ風壤ヲ能ク知リ、其郷俗ニ隨ヒ寛猛アルヲ專一トス、今昇平久キ  
所、民戸トシテ擊劍拳法ヲ稽古スル事大ニ流行スルハ、剛氣ヲ生ズル基ナリ、剛ノ失ハ虐トナル、聖

言ニテ、遂ニハ上ヲ犯ス本ナリ、下ハ柔ナレバ無爲ニシテ、家自ラ富饒ナリ、是事畢竟馳卒難居ヨリ  
起レリ、奥州仙臺ハ給襖坊ト名ケ、馳卒一處ニ家宅ス、筑前モ一圓ニ住宅ス、最良制ナリ、三迫翁ガ

話ニ、或商賈劍術ヲ嗜ミ、師家ニ往テ劍法肝要ノ術ヲ學バント請ヘバ、隨分教ユベシ、明日ヨリ七

日ノ間、三里ニ灸シテ來レト云ヘバ、此者怪メドモ師命ニ從ヒ、七日灸シテ入門ス、師其灸痕ヲ見テ

是ニテ好シト云ヘバ、此者合點セズ、是時諭シテ町人百姓トシテ人ト刃ヲ交ユル事ハ入ラス者ナリ、

倘シ狡猾者カ亂心者有テ斬懸ラバ、尻引排ゲテ一散ニ逃ルニ如ズ、其時ハ足ガ達者ナラネバ叶ハヌユ

ヘ、毎月三里ニ灸ヲ爲ヨ、是庶民兵法ノ極意ト示ス、寔ニ其分ヲ知テ教ヲ爲ス、師道ノ規範ト云ベシ

郷黨ノ人氣ハ一村毎ニ異同アリ、氣質ハ土性ニ在ラズ、風俗ニ陷溺スルニ據レリ、近市ハ勿論村里ニ

於テ、四五戸モ軒ヲ並ベル地ハ、花舎ヲ嗜ムハ今觀前視所ナリ、心得草ト云書ニ、天明ノ頃マデハ、洛外ノ農人スベテ髻ヲ以テ篋頭シタル者ナク、引裂紙カ藥ニテ結び、正月・五節句・盆祭リナドニハ月額モ致セシニ、今ハ白髻ニテ卷立テ、水油ヲ刷毛ニ附テ塗り、漆桶ヲ視シ如キ風ニテ小便桶ヲ荷フテ往來スト云、京都近キ處ユヘ左モアルベキ事ナリ、遠國ノ部舍僅四五十戸ノ宿驛ニ至ルマデ、髮結床・風呂屋ヲ立テ、農民四五日毎ニ髮ヲ結び、手拭ハ大坂堂島絞ヲ用ヒ寺參スルユヘ、衣服モ奇麗ヲ競ヒ、一切ノ給用惣テコレニ準ズ、之ニ由テ漸々困窮シ、田畠不登ノ本トナル、故ニ國計ノ多キヲ欲セバ、其法ヲ立テ質朴トナスニシカズ

田圃ニ禽獸ノ害多ケレドモ、鶺鴒尤モ大ナリ、門徒宗ハ之ヲ殺サズ、喰盡サレテ凶作ト慍リ、時ニ由テハ兎ヲ請フコソ可笑ケレ、肥後ハ鳥ハ鷹殺スルヤ稀ナリト聞ク、之ヲ殺スコト旁ク令ヲ下シ、又一術アリ、鳥ハ諸鳥ヨリ射難キ者ユヘ、一羽三四百文、卵ハ五十錢計リ、雀ハ二十錢、卵ハ十錢計ト究メ庄屋ニ納メ、其價ハ農家ニ割付ルトキハ、今ノ様ニ群生セズトミユ、市近キ處ハ尙モ甚ダ多シ或邦ニ、鶴・雁・鴨殺生禁制ニテ、農民丁役ニ鳥逐ト云テ積雪ヲ厭ハズ、終夜柝ヲ撃テ暇ヲ徘徊ス、其凍苦見ルニ忍ビズ、夫人ヲ役フハ國家益用ノ爲ナリ、是等ハ人ヲ翫物ニスル者ナリ、「己所不欲、無レ施於人」人ニ君メル者は言片時モ捨難シ、北條早雲ハ關八州ノ太守ニシテ、萬事ヲ人ニバカリ申シ付ルト思ハズ、我モ致シテ後ニ人ニ致サスルベシト壁書ヲ出ス、躬ヲ試ミテ後ニ人ヲ使ヘバ、人皆信

服ス、鄕ノ子產川ヲ渡リ、始メテ寒キヲ知テ梁ヲ掛シモ、躬ヲ致シテ其情ヲ知ルユヘナリ、其職掌ノ吏躬ヲ巡リ、其寒苦ヲ知ルベシ、倘シ鳥類無クンバ、此公役ハ除カルベキニ非ズヤ、君者民之所<sup>レ</sup>養也、穀ハ命ヲ助クル大寶ナリ、君モ臣モ民ノ穀ヲ得テコソ、治亂共ニ相續ス、古人モ民竈ルハ士ノ耻ト云ヘバ、民ノ難<sup>レ</sup>盡ヲ除キ以テ民恩ヲ報ズベキナリ、僅一斗ノ粟トイヘドモ禽獸ニ予ヘズ、國ニ留メ置カバ國用トナルベキニ、ミス、其穀害ヲ爲ス鳥獸ヲ愛シ、穀ヲ作ル民ヲ苦ムルハ、如何ナル國制ゾヤ、聖王初テ之ヲ興スハ、田獵ハ田害ヲ除ク爲ナリ、鶴ハ千歲ノ壽ニテ尊ムベキトイヘドモ、若シ民害トナルトキハ雀ハオロカ麒麟トイヘドモ、却テ時ヲ告ル鶏、鼠害ヲ除ク猫ニ劣レリ、狐モ猿モ共ニ千歲ナレドモ人皆稱セズ、尤モ雀雁ハ半年ナレドモ、雀鴝ハ終歲ノミナラス、五穀菜葉ノ害アリ、大ナルモノ餌モ大ニシテ、獸類ハ其害又甚シ、兎・鹿・狸等ハ菜蔬點々ニ喰ヘドモ、野猪ヨリ大害ナルハナシ、其上鹿ハ一疋ヲ生メドモ、野猪ハ四五疋ヲ生ミ、其中ニ牡ハ僅一疋ニテ、餘ハ牝ナルユヘ年毎ニ蕃息シ、田害益々繁シ、故ニ中國邊ノ山田ハ墮ヲ掘リ、或ルハ墟<sup>イミガキ</sup>ヲ嚴重ニ營ム、五島ハ猪ヲ獲レバ、一疋ニ八百文ヅツ上ヨリ賜フユヘ、他國ノ獵人モ時々往ク事アリ、或領分ニ山村ノ農家ハ過半鳥銃ヲ所持スルユヘ、曾テ田害ナシ、固ヲ妄リニ建ルベカラズ、猪鹿蕃息シテ其近田ニ害ヲナスユヘ、農人ドモ已ム事ナク審ニ之ヲ殺セバ、小吏ドモ公威ヲ鼻ニ掛ケ、岡<sup>オウ</sup>賴<sup>ライ</sup>光棍<sup>コウコン</sup>ナド致スユヘ、農人大ニ困苦ス、餘リノ事ニテ時ニ山テハ火ヲ掛テ天火ト唱フハ、實ニ眞ノ天火ト名クベシ、夫田狩ハ操戰ノ爲ナリ、

其操戰ハ元ト安民ノ爲ナリ、操戰ハ多クノ獸在ラズトイヘドモ、一疋ニテモ操戰ノ法ハ立ツベシ、右ニ由テ仁政ノ國ニハ、罔ヲ滅多ニ立テズ、若シ罔ヲ立ナバ民ト共ニスベシ、山城ナラバ郭外モ鳥銃ヲ禁ゼズ、農民ハ見當リ次第ニ殺スベキ事ヲ令シ、國害ノ禽獸、人命ヲ救フ榮殺ト易ラレザルコトヲ能ク考フベシ、是ニ氣ノ付ザルハ、畢竟殺ヲ重ンゼザル所ニ由レリ、朱子黜ガ秦漢論斷ニ云ク、仁者ハ其愛スル處ヲ以テ、其愛セザル所ニ及ボス、不仁者ハ其愛セザル所ヲ以テ、其愛スル所ニ及ボス、仁不仁ノ辨、義ト利トノ間ナリ、伏羲ハ網罟ヲ作り、舜帝ハ山澤ヲ焚キ、禹王ハ龍蛇ヲ驅リ、周公ハ虎豹犀象ヲ馳ル、夫豈不仁ナランヤ、萬物性ヲ遂ゲ、生民ノ居ヲ尊クセンコトヲ欲スルノミ、是其愛スル所ヲ以テ、其愛セザル所ニ及ボスト云者ナリ

日本ハ異域ニ比レバ禽獸ノ害甚ダ寡ナシ、朝鮮ハ小國ニシテ虎豹多ク、時々牛馬及ビ人ヲ喰フコトアレドモ、我邦ニハ曾テ居ラズ、又豺狼モ少ナシ、中華蠻國ニハ大象・駱駝、及ビ獅子・鰐其外種々ノ獸類、寔ニ國家ニ無益ノ者多ク、人民ノ妨アレドモ、我邦是害ナキハ誠ニ有リ難キ事ナラズヤ、是故ニ尙モ農務ヲ勤メ、天恩ニ報ユベキコト時々諭スベシ

野原木寡キ田邊ニハ、淺木ヲ植ルハ皆知ル所ナリ、或地ニ野原ノ高山横ハリ、其麓ハ一圓ノ田アリ、水難クシテ旱損絶エズ、農人會議シテ、其山ニ常盤木ヲ植テ林ニ爲サント願フ、是時奉行余ニ得失ヲ詢フ、余云ク先ヅ上ヨリ播キ植ルヤ、麓ヨリスルヤ、奉行云ク、上ヨリ始ムレバ其實下ニ限テ自然ト

生ジ、植ルモ又落葉下ニ流レテ肥土ト成ラン、余云理談トイヘドモ、技ニ於テハ迂遠ナラン、上ハ瘠地ニシテ下ハ沃土ナリ、沃土ハ播<sup>ア</sup>モ植<sup>テ</sup>モ早ク、根付テ漸々茂レバ、遂ニハ上モ深林トナルベシ、又麓<sup>フモト</sup>早ク茂レバ、水氣モ田ニ漑<sup>グ</sup>事早シ、水氣ヲ求ルハ杉ニ如クハナシ、是ニ由テ高サ百間計リ、打壤<sup>ウツ</sup>シ、杉ノ刺穂ニ致セバ四五年ニ茂ルナリ、是時又高サ百間計リ右ノ如クスベシ、杉ハ實播ハ間遠シ、刺穂ハ百本ニ廿本グライハ枯ルレドモ、上首ニナレバ百本ニ一二本ナリ、實播ハ釣栗<sup>ツクリ</sup>櫛實ヨロシ、兎角早ク太リ易キ者ヲ<sup>マ</sup>堀クベシ、土佐ノ野中謙山ハ<sup>ヘ</sup>禿山ニ<sup>ヘ</sup>虚苞ヲ多ク棄置シニ、諸鳥來テ其實ヨリ樹實ヲ生ゼシト云、四五十年モ過サバ左モ有ンカ、數千苞ノ價ヲ以テハ播植ルモヨシ

下ヨリ願ハザル事ヲ上ヨリ仕組ヲ組テ、空地荒原トイヘドモ妄リニ樹木ヲ植ルベカラズ、或邦ニ椎ノ實ヲ買メテ、野原ニ大想ニ<sup>シ</sup>堀シニ、已ニ芽ヲ生ズル時、農民ドモ草刈毎ニ伐拂フ、又楮種ヲ他邦ヨリ買入レ鄉村ニ配當シテ、畠畔或ハ塘<sup>ヤシキ</sup>宅邊無用ノ地ヲ見立テ植シムルニ、農民ドモ窺カニ引拔キ、三年ノ中ニ悉ク種盡テ元ノ空地トナレリ、國ヲ治ルニ餘リ小泥<sup>コヒツ</sup>トキハ却ツテ小欲大損ナリ、ユヘニ農民ドモヨリ願フトキハ致シテ可ナリ、農民持來リノ地ヲ寺院ニ寄附スル事、且ツ墓所詰ソヘ地等ハ、庶人ハ勿論領主トイヘドモ、容易ニ叶ハザル事、寶曆十三年公儀ノ法令ナリ、或領主佛法ニ倭シ、其隣端士宅ノ空地ヲ賜ハレバ、一家中甚ダ不服スルハ尤ナリ、寺院ノ宅地トナレバ、末代不易トナル、若シ不虞ニ臨マバ、衛懿公ガ愛鶴ニ同ジカラシカ

農民ノ墓所、近世マデハ其宅中ニ葬リ、朝夕拜セシ平日ト墓、封日ト墳、高日ト墳、古人墓樹、多植ニ松根一トミユ、鄉村ニ元祿・享保年中

ノ銘刻多シ、墓ハ墓也ト訓ミテ、先祖ヲシタフニカタドルユヘ、最ナル事ナリ、源賴朝ハ天下ノ主ト

イヘドモ、其墳元域中ニアリ、後世人數益々衆多ニナレバ、一所ニ集瘞スルハ最モヨシ、諸國ミナ墓

地ハ無税ナレドモ、寺内ニ在レバ寺主ヨリ墓租ト名ケ、本租ニ引掛ケ十倍シテ取ルハ、不義ノ名ヲ上

ニ與ユルト云者ナリ、因テ其無税ヲ旁ク衆ニ告ルベシ、又寺主ニ増税セザル様ニ令ヲ下サバ、下民ミ

ナ上ノ直道ニ服スベシ

牧民者ハ四維ヲ兼ルハ言フニ及バズ、大學ニ、「與<sub>ニ</sub>其有<sub>ニ</sub>收斂之臣、寧有<sub>ニ</sub>盜臣<sub>一</sub>」トミユ、試ミニ盜人ニ

向ツテ盜人ト云ヘバ必ズ瞋レドモ、收斂スル人ニ向テ、收斂トイヘドモ、君ノ爲ト思フユヘ少シモ耻

ヂズ、古今人道ノ違フ事是ノ如シ、又草萊薈薈スルハ國ノ耻ト、古人之ヲ誠シム、今路傍ニ杭ヲ立テ

田ヲ荒ス者ハ、縛リ付ルト記セドモ、曾テ讀ム者モナク、空ク雨露ニ朽ルノミ、田ニ莠滋蔓スルハ一

時ノ事ニアラズ、嬾惰ニテ年ヲ累スルヨリ生ズ、農業ハ明年ヲ思フテ手ヲ入ルヲ良農トス、由<sub>レ</sub>之卒伍

ノ法ヲ以テ組中ニ贖金シ、或ハ其用帛ヲ減耕シテ、時ノ良農ニ與ユルモヨシ、耕作ハ惰民十人ニ作ラ

センヨリ、精民四五人ニ作ラセナバ、其登リハ十倍スベシ、其精民トナルハ輒チ上ノ教ト政ニ在リ、

民サヘ富メバ良田トナルハ必定ナリ、貧富ハ天ヨリ憎愛致セルニ非ズ、貧ハ自身ノ所爲ナリ、今試ミ

ニ世間ヲ見ヨ、貧者ノ言行一ツトシテ富メル者ノ氣ニ應ゼズ、若シ應ズルトキハ必ズ富ムナリ、貧者

ハ己ガ行狀ヲ顧ミズ、少シ凶作スレバ毛見ヲ顧ヒ、或ハ救濟拜借様々ノ事、上ニ難題ノミ多ク、何程仁恵ニ逢フトモ、豚犬ノ心ニテ更ニ恩義ヲ知ラズ、人ノ恩義ヲ知ルモノハ富マズト云事ナシ、倘シ教政ニ由テ信義ニ化スレバ、凶作トイヘドモ、私欲ヲ捨テ毛見ニ出サズ、餘力ヲ以テ噪<sup>ツカ</sup>吸<sup>ツカ</sup>ヲ顧シ、眺<sup>アセ</sup>嚻<sup>セ</sup>ヲ填メ、地ヲ弘メテ沃土ト成シ、十苞生ズルヲ二十苞土中ヨリ出シ、國家ニ大功ヲ立テ上ノ爲トナルハ、貧者ト天地懸隔ノ差等アルハ、全ク教政ニ在ルコトナリ、故ニ國ノ盛衰ハ、教ト政ノ二條ニ決スト思フベシ

貧村借財ヲ顧ハ、成丈ヶ官ヨリ出サズ、富家ニ與印シテ借ラシムベシ、北條泰時ハ自印シテ富家ニ借ラシメ、利息ハ自ツ出シ與ヘ玉ヘリ、孰レカ其財ヲ無用ニ使ハンヤ、最モ大切ニ用ニ立ツベシ

○ 客云、孟子ニ河内凶、則移其民於河東、移其粟於河内、河東凶亦然トミユ、民家幾萬ゾ、斯ク爲サンヨリ、食ヲ與フルトキハ家造ノ弊無ク、老幼ニ離レズ至テ便利ナリ、梁ノ惠王ハ智慮薄キモノカ

答云 未ダ時代ヲ稽ヘズ、小ヲ以テ大ヲ計ルト云フ者ナリ、是時代ハ井田ニテ農夫究リアリ、中華ハ田地多ク、我邦ノ様ニ每半其地ニ耕サズ、隔年ニ作り、子共生ルレバ又別田ヨリ授カル、我邦ハ田數究リ有テ、民蕃息スレバ耕田足ラズシテ、已ムコトナク空手游民トナリ、民減耗スレバ田地ハ自ラ荒ルルハ當然ノ理ナリ、後世宅地ニ租ヲ懸クレドモ、古ハ五畝ノ宅、其中二畝半ハ屋敷トナル、今ノ二段

ニ當レリ、二段ノ免地ハ寔ニ結構ナル者ナラズヤ、又今ノ農家ノ様ニ堅固奇麗ニ架ヘズ、今時ノ掘立家ユヘ、大駒モ雇ハズ、竹木モ別ニ買ハズ、繩ハ白ウ絢テ一錢入ラズ、移宅ニ何ノ雜作モ無シ、其上一年ノ食ヲ予ユルユヘ、隨分秋ノ登リマデ、饑エズシテ昏作スルナリ、今ノ世ニ併スレバ惠王ハ仁君ナリ、然レドモ孟子尙不足トシテ王道ヲ説キ玉フ、其對話ニ由テ今ノ民俗ヲ視ルニ其盛衰全ク政道ニ在リ、賦歛役力ヲ減ジ、儉約孝悌ノ義ヲ教ユルトキハ、一年耕シ三年ノ食ヲ飭セバ、親備圍米ヲ致スニ及バズ、下富メバ必ず上富ムハ必定ナレドモ、治世久シク漸々氣弛ンデ、財ハ元ト民ヨリ出ルト云所ニ氣ヲ付ケズ、宮室・第邸・服食・器用ニ奢靡ヲ盡シ、僅ニ三十石取レバ、氣位ハ百石取ノ治生方、百石取ハ千石取、一萬石ノ領主ハ十萬石ニ準ズルユヘ、下モ又是ニ見倣ヒ、十苞ノ身代ハ百苞ノ治生方ト成リ、酒ハ上ヨリ飲ンデ視スルユヘ、之ニ慣フテ火化シ、又ハ僧徒ノ日ニ月ニ殘虐スルヲモ制禁無キユヘ、酒債券縁ノ二箇ニ益々窮シ、庶民モ五十二及ベバ帛ヲ衣ルハ古ノ法ナルニ、今ハ百歲トイヘドモ許サズ、敬老ノ教ヘモ無レバ、七十ノ者肉食ハオロカ、却テ壯者ヨリ輕侮スル風俗ナリ、肥後ノ條目ヲ見ルニ、敬老ヲ主トスル法令ナリ、本ヲ正スノ善法ト云フベシ、間ニハ蓄財シテ少シ財穀ヲ飭セバ、上金或ハ石掛リ、賦揚人別救、又ハ平談疊置ナドト、様々ノ不正ノ制ヲ出シ、又一方一ハ遠郷ニハ名被官ト云者アツテ、無祿ノ上ニ却テ屢々獻金ヲ勸メラレ、少シモ蓄積ト云事ナク、何ヲ以テ富饒ノ體見ユベキヤ、若シ凶饑ニ至レバ、一人ニ二三合ニ充レドモ、上臈ノ人々坐食シテ知ル所ナリ、下ハ身

體ヲ勞シテ、平生ヨリ大食ニ馴ル、ユヘ、五合ナラデハ體ヲ勞シテ勤職スルコトヲ得ズ、是ニ由テ國政正ク民ヲ信義ニ導キ、儉約ノ風ニ火化セバ、凶歉トイヘドモ、餓孍ト云フ事有ルベカラズ

村里日岸角抵ト唱ヘバ、貪樂者<sup>どろぶ</sup>ドモ佛神ニ假托シ、未ダ租稅モ輸<sup>ナ</sup>メザル中ニ諸村ヲ驅<sup>カ</sup>廻リ、米四苞五

苞、乃至十苞ヲ出シ合セ、他國ノ遊惰素放者ヲ呼ンデ同類ヲ集メ、群民醺會遂ニ爭鬭ノ媒トナレリ、

庶人ハ柔和ノ風ニ化スレバ國家安全ナルベキニ、勸<sup>サカ</sup>勸<sup>ム</sup>ノ者ハ威勢ヲ得テ、怯弱老者ヲ侮ル風俗ト成リ、

後ニハ遂ニ失職シテ博奕ヲ業トシ、一生村中ノ厄界トナル者モアリ、又歌舞妓モ有リ、コレ又姪風ヲ

誘導スルモノユヘ、治國ノ要本ハタゞ民人群集スル事ヲ第一ニ制禁スベキナリ

都府ノ外遠近ニ從ヒ、田宅ノ租稅增減アルハ當然ナリ、然レドモ遠墀ニ至テ其差等ナキ處モアリ、都

府ハ四境ヨリ訴訟公用往來ニ食給暇隙ノ費、數日庄屋ノ雜費モ民ニ掛レリ、タトヘバ府下ノ者ト十里

外ノ者ト爭論ニ及ベバ、遠方ノ者ハ滯宿ノ食用アリ、裁許ニ至テ同罪ナレドモ、府下ノ者ハ直ニ歸宅

シ、遠方ノ者ハ翌日歸宅ス、一切ノ事遠近ノ差等ミナ如此、是意ヲ考ヘ、遠境ハ田宅租稅課役ヲ、府

下近邊ヨリハ又減耗スベシ、東都近國ヨリ北國・西海・南海・山陰ノ諸道遠キニ從ヒ、里數其高ト相倍ス

ルハ人皆知ル所ナリ、尤モ九州ニ於テモ、筑前ハ石高ヨリ田數狹キヨシ、然レバ租稅モ高キハ尤モナレ

ドモ、肥後ノ相良・肥前ノ大村等ハ石高ヨリ廣キヨシ、一國ノ中ニモ一封毎ニ狹濶アルユヘ一般ニ究

メズ、其潤地ハ天幸ヲ思ヒ、尙又其民ニ頒ツテ減租スルヲ仁恕ト云フベシ、獨リ富ミ獨リ貴トハ君子

之ヲ耻ヅ、是聖人ノ誠メナリ、肥後ハ郭中三里ヨリ外ハ租銀半減ト聞ク、平戸ハ城下ノ宅租ハ一坪六錢、是ヨリ遠キニ從上段々減ズ、疆界ニ至レバ十ケ一ニ減ズルヨシ、民ヲ懷クル武備ト云フベシ、小吏ハ姑息ノ利ニ据ルユヘ、宰相タル人國界ハ隣國ノ租ヲ併セ試ミ、尙モ減耗スルコト武備ノ要領ナリ、太宗云「爲君之道、必須先存百姓、若損百姓、以奉其身、猶割股以啖腹、腹飽而身斃」

○客云、瑣碎錄「稅多稅少、稅少稅多」ト云ハ如何ナル事ゾ

答云 君子遠大ノ見ニテ、小人近小ノ見ニアラズ、俗ニ云フ小欲大損トハ此事ナリ、年貢昂ケレバ阡陌困倦シテ耕耘ニ力ヲ竭スコトヲ得ズ、田圃荒蕪シテ租稅モ減耗ス、年貢少ケレバ民富ンデ昏作シ、段々墾闢モ致シ、荒壤モ自力ヲ以テ修理シ、凶歲ニモ檢見モ願ハズ、故ニ稅少ナケレバ却テ稅多シト云フナリ、或一郷ニ河ヲ隔テ、一方ハ古田ニテ稅高ク、一方ハ開發ニテ稅少シ、凶年ノ時古田ハ檢實ニ出セリ、一方ハ稅少ナキユヘ自ラ愧テ出サズ、是ヲ以テ分ル、ナリ、古十ケ一ト云フハ、タトヘバ十苞生ズル地ニ一段ノ租ナリ、然レバ一段ニ一畝ノ租ヲ懸ルモ同ジ、今時ハ大抵本田沃土十苞ノ地ハ四苞モ懸リ、其上諸懸リ加ハル處モアリ、然レドモ、遠墾孤島ノ地ニハ、八九苞生ズル地ニ僅五六升ノ租モアリ、是等ハ古ノ十ケ一二モ勝レリ、ユヘニ民大ニ富テ、賦落ト云フ事曾テナシ、富民ト貧民ノ耕田併セ見レバ、百町ノ田ニ四五百石ハ、其登リ毎年増減アルハ目前ニ見エタリ、縱ヒ一石増シテモ、土中ヨリ生ジテ人間ニアレバ、上ニ在テモ下ニ在テモ自國ノ益ナラズヤ、青砥藤綱ガ十錢ヲ水中ニ落シ、百錢ヲ

以テ拾ヒシハ、誠ニ天下ヲ治ル規範トスベシ

今時農民水田ノ糞ニ、大豆ヲ引割テ用テ、或ハ嘆田ムキタニ鹽ヲ糞トス、夫鹽ハ一日モ無クテ叶ハズ、天下ノ大寶ニテ、金銀ノ及ブ所ニアラズ、特ニ鹵シホヲ製スル其艱難思ヒヤルベシ、頑民ハタゞ利ヤトニ喻ク、天道ヲ知ラザルユヘ、右二條ヲ堅ク禁制スル事ヨロシ

垆牧カヒバハ兵備ノ用ユヘ、領内ニ有ル事ヨロシ、然レドモ應土ヲ得ザレバ、千里ノ曠原有リトイヘドモ詮

ナシ、妄リニ新垆ヲ設ルベカラズ、古ハ甲州ヲ最上ト記セドモ、今ハ仙臺ヲ屈拇トス、西國ハ薩州、

次ハ肥後及對州モ良シ、農馬ハ島原次ハ唐津、皆垆馬ニモアラズ、圄產ナリ、牛ハ上方ニハ丹波・九州

ニハ平戸ヲ名產トス、之モ僅一里ノ海ヲ距サヘスレバ惡性ナリ、然レバ爛々コヤワミ其土ニ由レリ、牛馬ハ農

業第一ノモノユヘ、各々自國ニ於テ圄產ヲ工夫スベシ、但シ原野廣カラザレバ思ヒ立ツベカラズ、奥

州ハ過半圄產ナリ、運上ハ牝馬ハ金一兩、牡馬ハ金三兩ナリ、尙委シキハ別卷ニ見エタリ

垆野ニ木蝨水蝨多ク生ジテ、馬瘦疲レテ後ニハ死スルコトアリ、斯ルトキハ其馬ヲ農家ニ預ケ、春秋

兩度其野ニ餘蠹ナク燔盡スベシ、又ハ半ヲ殘シテ燔クモヨシ、凡ソ二ケ年ホド燔クトキハ必ズツキン

宋羅大經云、「樵夫談レ王、童子知レ國一トミユ、國家ノ得失ハ民能ク之ヲ知レリ、夫下聞ヲ耻ルハ小人

ナリ、況ンヤ國天下ヲ治ムル者ハ、度量廣大ナル事江海ノ如ク、淨穢ヲ擇マズ悉ク之ヲ容レ、其善ヲ

執リ不善ヲ棄テ、天下ノ智ヲ以テ己ガ智トス、之ヲ大智ト稱ス、後世封建ト爲テ、侯國各々制度ヲ建

ルニ、黎民服否アリ、其良制ヲ聞ク毎ニ、悉ク取テ之ヲ用ユルトキハ、民服シテ天下最上ノ國ナラズヤ、今ノ世ハ他邦ノ良制ヲ聞テモ、我邦ハ古來ナシト我慢強ク、依然トシテ默止スル事、畢竟小量ニシテ頗僻ノ心ヨリ生ズ、頃日肥後土貢管見録ト云フ書ヲ竊カニ閲シ、其大概ヲ茲ニ枚舉ス、寶曆ノ年山場<sup>ハタ</sup>ヲ改正シ、委ク記シテ見圖帳ト名ケ、奉行所ニ一卷、諸村ニ一卷簞物ニシテ置ク、宅畠ハ、田畝二十七步迄ハ田作御免、五畝以上畝物ハ、畝物年貢ヲ掛ケ、外畠二十七步迄ハ田作御免、一畝以上畝物年貢ヲ掛ケ、又右ノ外空地作畝物ハ七ヶ年上納御免、八年ヨリ地相應ノ定ニテ德米上納仰付ラル毎年三月初旬、郡代上地内檢、惣庄屋出席、郡中ノ庄屋村役共ヲ、年番會所ニ召レ、令シテ云フ、當御免ノ義倉納、御給知新知方共ニ去春御土免通リニ致シ置カル、孰レモ其意ヲ得ベク、小百姓ドモニモ此旨申シ渡スベシト、御土免・御免狀・惣庄屋免銀高ヲ半紙ニシルシ、郡代印形ニテ村中ニ渡ス上納ニ元五ノ口ト云テ、本租ノ外ニ諸掛アリシヲ、寛文中中弦掛升ヲ京判ニ改メラレ、五口ヲ三ノ口ニ致シ玉フ

余按ズルニ、京判ハ九合七抄ナリ、三抄減ズ

三ノ口トハ、年貢十石ニ二升ヅツ加ヘ納ルコトナリ、寶曆十年ヨリ悉除ク

千石水夫米ト云ハ、本租十石ニ米三升六合六抄納ム、寛永十年マデ水夫米高百石ニ二石ナリシヲ、寛文八年ヨリ物成掛リニ致シ、水夫數三千三百六十人、千石二十人ヅツニ極リシニ、明和四年ヨリ是ヲ鯨

油給トナス

諸田米トハ、惣庄屋筆紙墨代・會所役人給米・諸所繼飛給米・會所床米・村庄屋筆紙墨代・帳書給米・肝熬給米等悉ク免除帳ニ入レテ除ク

田畠入替差帳ヲ作り、毎年二月、高究ノ寄合致シ、村庄屋ニテ人別ニ相糺シ、讓地質地ノ分ハ證文割印相願ヒ、受返ノ分ハ古證文割印ヲ取揚ゲ消ス

外ニ高掛ハ、三月・七月・十二月三度ニ取立ツ

右諸掛リ他國ニ比ブレバ少シハ多シ、愚按ズルニ、諸國ミナ高掛リト云テ、雜用ヲ本租ニ加ヘ懸ルナリ、肥後ノ如ク高懸リハ本租ノ外、一年三回ニ取立ツレバ農民悅ベドモ、本租ニ入レテ一度ニ責ルユヘ、大ニ難澁ス、又庄屋私曲ノ媒ハ諸懸リニ在リ、之ニ由テ雜用ノ高ヲ大抵勘定シテ本租ニ入レ、タトヘバ本租四斗ニ諸懸三割ホド毎年懸レバ、本租ヲ五斗二升ニ究メテ取立テ、五ノ口・三ノ口・賦料・口米・反米・諸掛・郡掛リナドト旁ク告ルニ及バズ、一筆ニ致サバ庄屋ノ私欲モナラズ、簡易ニシテ甚ダ便利ナリ、民ハ算勘ニ拙キユヘ、煩雜無キヲ安民ト云フベシ、上ノ帳ニハ數々如何様ニモ細密ニ記シ置クトモ、下ニハ一筆ニスベシ、又前ニ述タル職田ノ方モヨロシ、其土俗農民ノ衆寡ト、田畠ノ多少ニ應ジテ法ヲ立ルベシ

銀臺遺事ニ、國守ノ命ニ、郡代職務ニ用ユル筆紙墨料百姓ヨリ出セルト聞ク、以後ハ國府ヨリ出スベ

シト仰ラル、是料一年ニ三千貫計リ、田蝗鯨油ハ是マデ百姓ドモ買メシニ、國中舉テ上ヨリ賜フ、又百姓ノ宅ハ七田ニ準ヘ年貢ヲ納ムルト聞キ、古ハ一畝毎ニ五畝ノ宅ヲ與ヘシト聞及ベリ一畝ハ二百四十畝ニ當ルユヘ八畝ニ當左マデ叶フマジクハ、責テ其地ノ程ニ從ヒ出サセヨ、過分ニ取ルハ勝レタル不法ナリト、改メテ減耗アリ、又年貢ニ諸掛物有ルト聞及ビ、三品マデ除カル、是料一年ニ一萬五千石、彼是一代三十二年ノ間ニ、下ヲ賑恤スル事四十五萬石餘、是故ニ國民悅服シテ、年々毎戸餅ヲ搗キ酒ヲ供ヘ生祀ヲ爲ス、夫國ヲ治ルハ第一寡欲ニ在リ、寡欲ナレバ法令一言ニテ行ハル、若縱欲ナレバ、日鞭撻ヲ用ユルトイヘドモ一事モ行ハレズ、今諸國ヲ觀ルニ、治平久シキユヘ下ヲ侮リ、國初ノ舊典ニ背キ、賦歛徭役ヲ賸シ、或ハ種々ノ產物等ヲ工夫シ、民職ヲ奪フモ元是欲心ヨリ生ズ、下ハ上ニ倣フ者ユヘ、民心日増ニ姦ヲ生ジ、甚シキハ竊盜ヲ爲ス、今諸國一般祖宗ノ時ニ方ズレバ、増サルレドモ減ルト云コト幾ンド稀ナリ、然ルニ銀臺侯、國初傳來ノ租ヲ減排シ玉ヘドモ、國計不足シテ窮匱シ玉フニモ非ズ、是ヲ監ミ一潤ノ利ニ迷フ事勿レ、侯國士人大夫、往古賢君良臣治國ノ紀ヲ看テ、隨分感心ハ有レドモ、之ヲ身ニ體<sup>忠</sup>志<sup>シテ</sup>下ニ施ス事能ハザルハ、畢竟嗜欲ヲ離ルコトヲ得ズ、果決ナキ故ナリ、夫見<sup>レ</sup>善<sup>ニ</sup>移、謂<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>大勇、是章ヲ看テ奮然ト義勇ヲ發シ、民心ヲ得ルトキハ、國家社稷ノ良臣ト稱スベシ

郷村ニ於テ諸運上等ハ、田租ト共ニ一度ニ取立テ、上ニ於テ各其官局ニ引分ルトキハ、民ノ便利ニシテ難澁ナラズ、是事モ下ニ居ラザレバ、其情ヲ知ベカラズ

○ 客云、古藉田ノ禮トハ如何ナル事ゾヤ

答云 藉ハ借ト訓テ、民ノカヲ借テ耕ス事ナリ、天子ハ千畝、諸侯ハ百畝、一畝二百四十步年ノ始ニ天子躬ラ

一鍤ナカ壞シ、公ハ三壞、卿ハ九壞、大夫ハ二十七壞、其後ハ農民ニ任セ、秋收シテ神倉ニ藏メ、是ヲ以

テ天神地祇及ビ先祖ノ粢盛ニ供フ、本朝モ古ヨリ御田ノ禮有テ、天子親ミタカ農業ヲ營ミ、農具ハ高御倉ニ

納メ玉フ、大嘗會ハ新穀ヲ嘗テ神祇ヲ祭ルヲ云、朝ニ諸神相嘗ノ祀、夕ニ新穀ヲ至尊ニ供ヘ玉フ、是皆

民ノ長タルユヘ、先ヅ自ラ勸メテ衆ヲ導キ、稼穡ノ艱難ヲ俱ニシテ、天神地祇先祖ニ報イ玉フ、武田

信玄ノ代、百姓ドモ爭論出訴ニ及ベバ、倉方官吏信玄ノ前ニ出デ、今度ノ爭論ハ鎌トヤラ云フ物ヲ奪

ヒ取リシヨリ起ルト云ヘバ、信玄艷然トシテ、汝等知ラズヤ、延喜帝ノ御製ノ和歌ニ、「賤ノ女ノ鹽

筥ケノ塵ヲ拂フホド、サヤカニ照ラセ山ノ端ノ月」、夫レ尊キ天子ノ御身サヘ卑キ業ヲ知シメシ玉フニ、

士トシテ其職務ニ居リ、農器モ知ラザルグライニテハ、何ヲ以テ大切ナル政事ニ與カル事ヲ得ンヤト

大ニ呵リ玉フ、後世有祿ノ者ハ上臈ニシテ、終身鍤ヲ手ニ握ラズ、播マキ種ノ業會テシラズ、已ニ秋ニ至

レバ武威ニ誇テ刻剝キツクニ責メ、既ニ輸メ來レバ一禮モセズ、倭作惡シ、米性アシ、ナドト呵リ、對話ハ

犬馬ニ異ナラズ、新米ハ脾胃ニ當ルユヘ明春ヨリ食ハン、或ハ釀酒ニ汁寡ナシト古米ニ交易シ、或ハ

銀主ニ前借シテ新穀ノ面ツツモ視ズ、農民直ニ銀主ノ庫ニ運ブモアリ、倘シ農業ノ粟一粒ハ、汗一滴ノ艱

難ヲ思ヒヤラバ、仲々大酒モ致サル、事ニアラズ、又坐シテ之ヲ取ル其本ヲ考レバ、自職ノ文武片時

モ懈ルベキニ非ズ、故ニ新穀ヲ納ル時ハ、恭シク之ヲ受納メテ精燐シ、先君及ビ我先祖ニ供フル事、禮義ト云ベシ、大樹吉宗公ハ諸國代官ヨリ、年貢皆納ノ目錄ヲ上レバ、台覽アツテ落涙シ、我不肖ニシテ、大任ヲ受ケ、未ダ庶人快樂ノ法ヲ出サズ、上ヨリコソ惠ムベキニ、却テ下ヨリ惠マル、コト、甚ダ聖賢ノ慊トセザル所ト、一首ノ和歌有リ「受續シ國ノ司ノ甲斐ヅナキ、惠マヌ民ニ惠マル、身ハ」、賢君ハ斯ク仁恕アラセ玉ヘリ、有祿ノ者民ヨリ養ハル、其德吾身ニ保ツヤト嘗テ省ミズ、徒取ルベキハズト心得ルハ、甚ダ不了簡ト云ベシ、近年羽州米澤領先代嬖臣國權ヲ執テ、政事亂レ國大ニ困窮シテ、田畠遂ニ荒蕪ス、鷹山君世ヲ嗣テ古藉田ノ法ヲ用ヒ、城南千餘町ノ荒田ヲ自作ス、先ヅ諸士ヲ引テ祖廟ニ謁シ、其後田ニ往イテ、自ラ泥土ニ入テ三鍬墾シ、諸家老モ皆墾キ、祖廟ニ供ヘシ御酒ヲ田邊ニテ賜リ、近習佐藤又四郎ヲ農長ニ任ジテ名代ト爲シ、執政竹股美作ハ、其子ニ鍬ヲ持セテ日々ニ遣ハセバ、諸士モ相爭テ耕田ス、其時又四郎ハ君寵愛ノ名馬ヲ借テ、糞ヲ負セ、風雨ヲ厭ハズ、毎日力田ス、既ニ秋ニ至テ大ニ登<sup>ミ</sup>レバ、是粟ヲ領中ノ農民ニ種ヲ頒チ與ヘ玉フユヘ、農民感激シテ精業ヲ勵ミ、國大ニ盛シナリ、夫合戰モ兵糧ヲ第一ノ要トスルユヘ、古ハ屯田ノ法アリ、故ニ武家ハ一番ニ農務ヲ知ルベキナリ、郷士ノ輩昔土着ノ餘流ニテ、耕田ノ者モ間有レドモ、正月鍬始ニハ、僅僕ニ命ジテ自身ハ視ヤリモセズ、前文ノ通り天子ノ御身デサヘ、躬ラ藉田ニ鍬ヲ取り玉ヘリ、是意ヲ考ヘ、食邑ヲ得ル者ハ、正月始ニ躬ラ三鍬<sup>ス</sup>バカリモ墾キ始メナバ、農民舉テ穀ノ貴キ事ヲ知テ大ニ



莫不震動、恪恭於農、修其疆畔、日服其鎛、不懈於時、財用不<sub>レ</sub>乏、民用和同、是時也、王事唯農是務、無有求利於其官、以于農功、三時<sub>秋</sub>務農、而一時講武、<sub>冬</sub>故征則有威、守則有財、若是乃能媚於神、而和於民矣、則享祀時至、而布施優裕也、今天子欲修先王之緒、棄其大功、賈神之祀、困民之財、將何以求福用民、王不聽

漢高祖二年、故秦苑囿池、令民得之

文帝二年詔曰、夫農天下之本也、其開藉田、朕親牽耜、以給宗廟桑盛、<sub>今昔上而趨末、生之者甚少、而靡</sub>

<sub>之者甚多、天下財產、何得不蹙、今殿民而歸之農、昔若於本使天下各食其力、末技遊手之民、轉而緣南畝、則吉積足、而樂其所、上感實誠言、乃開藉田一</sub>

十三年詔曰、朕親率天下農耕、以供<sub>七</sub>桑盛、皇后親桑、以奉<sub>七</sub>祭服、其具禮儀、<sub>合</sub>立耕桑之禮制也

景帝後二年、親耕藉田

征和四年、帝耕于鉤盾

昭帝<sub>白高祖七代</sub>始元元年、帝耕于鉤盾弄田<sub>時帝年九歲、未能耕、帝爲鉤盾、宦者近署、故往試耕、爲戲弄也、弄田、在未央宮中</sub>

六年、帝耕于上林

後漢書禮儀志曰、正月始耕、畫漏上水初納、執事告祠、先農已享、<sub>先農、神農炎帝也、藉田、在二國之辰地</sub>

耕時有司請行事、就耕位、天子三公九卿諸侯、以次耕力田、種各稷訖、有司告事畢、是月令日、郡國守相皆勸民、始耕如儀、諸行出入、皆鳴鐘、皆作樂、其有災眚、有他故、若請雨止雨、皆不鳴

鐘、不作樂

魏制、天子親耕藉田、藩鎮闕諸侯百畝之禮、

晉武帝大始四年正月、帝躬耕藉田于東郊、詔曰、近代以來、耕藉田於數步之內、空有慕古之名、曾無供祀訓農之實、而有百官車從之費、今循千畝之制、當率群公卿士、躬稼穡以先天下、於東郊之南、洛水之北、帝御本略以耕、自惠帝後禮廢

宋文帝元嘉十二年、將親耕、司空·大司農·京尹令·度官之辰地、八里之外、整制千畝、中間阡陌

齊武帝永平年中、耕藉田

梁依宋齊禮、天監十二年、以啓蟄而耕、啓蟄、二月節也

梁武帝普通二年、移藉田於建康北岸

後魏太武帝天興三年春、始躬耕藉田、穀大豆赤黍、北齊藉於帝城東南千畝內、種赤梁白小豆·黑穰·麻子·大小麥·色別一頃、自餘一頃中通阡陌

隋制、於國南十四里、啓夏門、置地千畝爲壇、行播殖禮、九穀納于神倉、以擬黍盛、秸藁以餉犧牲

唐太宗貞觀三年二月、藉于千畝之甸

高宗永徽三年正月、率公卿耕于千畝之甸

乾封二年・儀鳳二年・景雲三年、並躬藉田

玄宗開元二十三年正月、躬耕藉田

宋太宗端拱元年、親耕藉田、以勸農事

天禧元年、以久罷畋遊、其京城而禁園草地、令開封府、告諭百姓、許其耕牧

米穀

禾・麻・粟・麥・豆 周禮、麻・黍・稷・麥・豆

米穀

禾・麥・黍・稻・粟・菽 鄭氏註、稌・黍・稷・粱・麥・苽

米穀

黍・稷・稻・粱・菽・麻・大豆・小豆

米穀

稷・黍・稻・粱・菽・麻・大豆・小豆・小麥西陽雜俎、以黍・稷・稻・粱・三豆・二麥爲九穀

四木 桑・楮・漆・茶

五木 桑・槐・桃・楮・柳

五菜 韭・薤・葵・葱・藿



## 經濟問答秘錄卷十五

## 田賦考

○客云、先年東肥ニ分ニ經界ト、數人ノ官吏國中ヲ巡檢シ、事果サズシテ較ムト略聞キ及ベリ、我藩ニモ亦之ヲ行ハント思フ族モアリ、抑々經界トハ如何ナル事ゾ

答云 經ハ徑也、如ニ徑路無所不通ト云、通典云、「各無立限、不使富者過制則貧弱之家可

足」ト云、華域古ハ井田ニテ、統テ公田ユヘナリ、今ハ私田ニテ、農民ハ欲深キ者ニテ、故無クシテ

一寸トイヘドモ、他ヨリ取ラル、コトナシ、中華ニ提封田ト云者アリ、東方朔傳、謂提封田四萬方之內總計戶數漢ノ世ニ提

封田十萬四千五百二十三萬六千四百頃十頃是ハ皆不耕ノ地ナリ、又定墾田アリ、漢ノ世ニ定墾田八百

二十七萬三十六頃、東西九千三百里、南北四千八百十五里、是ハ毎年耕ス田ナリ、又易田ト云フコト

アリ、毎年耕スヲ不易ノ上田トス、一年休メテ耕スヲ一易ノ中田トス、二年休メテ耕スヲ再易ノ下田

トス、「三歲更耕」之、自爰カヘ其處、農民戶人已受田、其家衆男爲餘夫、以口受田如レ此出前漢食殖志、場ハ一

年休ムレバ埒地ト成レドモ、田ハ一年休ムレバ明年能ク登ルモノユヘ、之ヲ易テ耕スナリ、是ヲ以テ

華域ハ田ノ廣キ事推知スベシ、斯ク公田多キユヘ、貧人ハ密カニ之ヲ賣テ姦ナルコトヲ爲シ、富ル者

耕田多ク、貧キ者ハ益々窮スルユヘ、經界ヲ分ツテ爭端ヲ防ゲナリ、今時ハ稅畝ノ法ナルユヘ、經界ヲ致ス内ニハ、一時ニ頗レテ勞シテ功無シ、是ハ頗ル時變ニ疎キト云者カ、官吏一人郷村ニ巡廻シテ、庄屋・村役・<sup>コメ</sup>墾人・散使・小伴・<sup>ボカヒ</sup>觸頭・組頭等ハ勿論、一郷ノ者舉テ暇ヲ費シ、酒食ノ失墜、縦ヒ官吏ノ食料、一日ニ二百文三百文ノ料ヲ上ヨリ賜トイヘドモ、其雜費十倍シ、其難澁甚シク、實ニ郭橐駝ガ接木ニ異ナラズ、是情ハ民家ニ在ラザレバ、士人ノ知ル所ニアラズ、民ハ二日ト隙ヲ偷マズ、五人ト集ラズ、毎日無事ニ職業ヲ營ムヲ、政盛ノ國ト稱スベシ、田畠經界ハ、其郷民其土ニ生レテ能ク熟知スルユヘ、寛宏ノ政ヲ以テ七人ニ任セ置キ、今改メテ遠方ヨリ未熟ノ官吏來徊ニ及バズ、唯民言ヲ徵トシ、一國ヲ以テ經界トスルニ如ズ、興利憐惻ノ士動モスレバ新制ヲ立ルニ、始メ計ルトキハ上ノ爲ト<sup>カシコウ</sup>嚙口スレドモ、上下共ニ利潤ト爲ル事ハ無キ者ニテ、其止リハ一トシテ下ノ難澁トナラザル事ナシ、故ニ上ニ仕組啗アレバ、舊典<sup>レテ</sup>漸々下<sup>ツカ</sup>羸レ、竟ニハ虛國ト爲ルコト、諸邦ニ巡觀スレバ<sup>マシヤリ</sup>視前視ニ<sup>マシヤリ</sup>事ナリ、東肥ハ元割據ノ地ニテ、菊池以降總官モ無ク、國人等各領シ、大友・龍造寺・島津等互ニ割<sup>ニ</sup>刪スレドモ一時ニシテ、田租步畝ノ員數モ究ラズ、佐々成政太守ト爲テ國中ニ令シ、百姓ヨリ田畠ノ<sup>サシ</sup>差出高ヲ取リシニ、菊池・山鹿・山本ノ三郡、桑部但馬守ガ領内ノミ令ヲ拒ンデ出サズ、成政怒テ<sup>サシ</sup>猛責シ、是ヨリ群黨興ツテ、遂ニ鬪戰ニ及ベバ、太閤之ヲ聽テ成政ハ御民ノ任ニ當ラズト、國ヲ騷ガス罪ニ伏シ、遂ニ死ヲ賜ハリ、其後小西・加藤分領スレドモ、是モ久キ事ヲ得ズ、治世ノ制度田賦ノ甲乙分明ナ

ラズ、今細川家始メテ太守タルユヘ、不易肇基ノ爲ニテ、左モ有ルベキコトカ、今ノ世ニ於テハ經界ハ無クシテ好トイヘドモ、圖籍無クテハ武備ノ缺典ユヘ、國初已ニ侯國ヨリ大樹家ニ獻貢アリ、一國數侯有ツテモ其大侯ヨリ納ム、我邦ハ唐津・島原・五島・大村・平戸ヨリ佐嘉ニ納ム、是ヲ輯メテ江戸ニ獻ズ、故ニ御繪圖本ト稱ス、久亂已ニ治ニ入ル時ハ、法律制度更始無クテ叶ハザレドモ、田租ハ舊來ニ因循セザレバ又騷亂トモ爲ル事アリ、必縱欲スベカラズ、松平樂翁君ノ資治清要ヲ讀シニ、御衆ノ學問ハ斯クコソ有ルベキニ、今時ノ王侯大夫ノ學問ハ動スレバ文雅ニ陷リテ、時變機發ニ拙ク、何事モ恢復セント、時ニ由テハ書物ノ丸出シト云事アリ、是等ハ所謂書箱ト云フベシ、其時變其鄉俗ニ應ジテハ、法名刑術ヲ用ル事モアリ、諸葛孔明ガ王道ヲ用ヒズト朱子ハ譏刺スレドモ、武侯ハ固ヨリ文將ユヘ、若シ撥亂ノ功ヲ遂ゲナバ、三代ノ風ニ復サンカ、故ニ明ノ張棧是事ニ就テ朱子ヲ批判ス、宋朝ハ天下分裂シテ遂ニ一統ヲ得ズ、然レバ先ヅ兵道ニ心ヲ竭スベキニ、王安石王荊公等我領内ノミ種種ノ仕組ニ口ヲ過シ、戈亂ヲ戢ムル工夫ヲ爲サルハ、小ヲ知テ大ニ闇シト云フベキモノカ、朱子モ是時經界ヲ行ハントス、其譯ハ次ニ出ス

天正年中羽柴秀次尾州ヲ領スル時、家臣ノ食邑好惡有テ、屢々爭論起ルユヘ條目ヲ出シ、昔ハ田畠トイヘドモ、今ハ荒地或ハ河原ト成ル地ハ、知行ノ石高ニ加ユルコト勿レト云、又檢地ヲ致セシニ、智多郡並ニ三州刈屋邊、僅ノ處ニ前高ヨリ二萬石ホド減ズルユヘ、檢者モ惘然ト其得失ヲ問ヘバ、秀次

答テ、百姓給人痛マザル様ニ成シテ置クベシト云、寔ニ人君ノ度量ト云ベシ、扁舟ハ萬石ヲ載ル事能ハズ、小吏ノ僚其器小ニシテ、租一升ヲモ官庫ニ藏ムルヲ忠仕ト思フハ人情ユヘ、寬仁大度ニ致スベキ事、其職頭ヨリ常ニ諭告スベシ、田畠ハ畦一尺隔テ狹濶沃磽アルハ、其耕ス者ノ天幸不幸ナリ、惟天ニ任セテ國初ノ石數ニ隨ヒ、必ズ度竿ヲ入レテ永ク碩鼠ノ詩ヲ謳ハシムル勿レ、是國家第一ノ耻辱タリ、近世或邦ニ賢君世ヲ嗣玉ヒシニ、先代匱乏ニテ屢々收歛アル事ヲ默觀シ、慷慨深カリシニ、治粟內史ニ向ヒ、二三十年以前ノ田租帳ト、近年ノ帳ヲ視セヨト仰ユヘ、即チ之ヲ呈ズレバ、已ニ二千石餘ノ增益アリ、侯之ヲ覽テ、民ニ取ルニ義アリ、國ハ初ヨリ年貢定リ有テ、子々孫々相續スベキハツナリ、上窮スルハ全ク驕リヨリ生ズ、然レバ其罪ハ上ニ在リ、己ガ罪ヲ省ミズ、如何ゾ下ヲ殘虐センヤ、折角祖宗ノ仁政ヲ垂置レシニ、今之ヲ廢スルハ先祖ニ不孝トスルナリ、早ク復古シテ、本租ノ通リニ減ゼヨ、其代リニ吾身ヲ儉約シテ償ハント、乍チ減租ノ令ヲ下シ玉ヘバ、國民悅服シ、令セズシテ法度能ク行レ、罪罰盡テ閑靜無爲ニ治リ、上ハ却テ利潤アリ、是以テ觀レバ、仁義ヲ行ヘバ、利ハ自ラ其中ニ在ル事必定也

### 經 界

朱文公守<sub>レ</sub>漳、將<sub>レ</sub>行<sub>レ</sub>經界、王子合疑ニ其擾、公答書曰、經界一事、固知<sub>レ</sub>不能無<sub>二</sub>小擾、但以爲不<sub>レ</sub>若<sub>レ</sub>此、則貧民受<sub>レ</sub>害、無有<sub>二</sub>了時、故忍而爲<sub>レ</sub>之、庶幾一勞永佚耳、若一々顧恤、必待<sub>二</sub>人々情願、而後行<sub>レ</sub>之、

則無時可行矣。宋紹興間，正施行時，人々嗟怨，如在湯火中，但說事後，田稅均齊，田里安靜，公私皆享其利，凡事亦要其久遠如何耳。少時見所在所立土封，皆爲人題作「李椿年墓」，豈不知人之常情，惡勞喜逸，顧以爲利害之實，有不得而避者耳。禹治水，益焚山，周公驅猛獸，豈能不役人徒，而坐致成功，想見當時，亦須有不樂者，但有見識人，須自見得利害之實，知其勞我者，乃所以佚我，自不怨耳。子合議漢事甚熟，曾看高祖初定天下，蕭何大治宮室，又從嬰敬策，徙齊楚大姓十數萬於長安，不知當時是幾箇土封底工夫，而不聞天下之不安，何也。文公此論可謂明確，蓋自商鞅有成大事者，不知於衆之說，卒以滅宗，故後之爲政者，每畏拂人情，不知人情固不可拂，亦不可徇，唯當論理之是非，事之當否爾。商之遷亳，周之遷洛，何嘗不拂人情，及其事久論定，然後知拂之者乃所以愛之也。司馬相如曰：世必有非常之人，然後有非常之事，有非常之事，然後有非常之功，夫非常者，國常人之所異也。故曰：非常之元，黎民懼焉。及臻厥成，天下晏如也。亦見得此理。東坡嘉祐間，作思治論曰：所謂從衆者，非從衆多之口也，從其不言而同然者耳。其說最好，然厥後荆公行新法，公上書爭之，乃曰：爲國者，未論行事之是非，先觀衆心之向背，其說却有病。天下豈有悖理傷道之事，可以衆心之所向，而始爲之乎。宜其不足服荆公，而指爲戰國縱橫之學也。

朱子云：經界謂沿地分田，經畫其溝塗封植之界也。此法不修，則田無定分，而豪強得以兼并。

故井地不<sub>レ</sub>均賦<sub>一</sub>無<sub>レ</sub>定法<sub>一</sub>而貪暴得<sub>レ</sub>以多取、故穀祿不<sub>レ</sub>平、野郊外都鄙之地、九一而助、爲<sub>レ</sub>公田、行<sub>レ</sub>助法<sub>一</sub>也

朱子開阡陌辨云、按、阡陌者、舊說以爲田間之道、蓋因<sub>レ</sub>田之疆畔、制<sub>レ</sub>其廣狹、辨<sub>レ</sub>其縱橫、以通<sub>レ</sub>人物之往來、即周禮所謂遂上之徑・溝上之畛・洫上之涂・澮上之道也、  
南北曰阡、東西曰陌、遂廣二尺、溝四尺、洫八尺、澮二畝、則丈六尺矣。

○客云、古井田ノ法ハ如何建シヤ

答云 是法黃帝ノ時ヨリ起リ、周ニ盛ンニシテ、秦ニ至テ絶ユルトアレドモ、今ノ如ク畝方ニ掛ルハ秦以前ヨリ起ル、「魯宣公十五年稅<sub>レ</sub>畝」トミユレバ、是時代ヨリ肇レリ、孟子、「方里而井、井九百畝」、是中百畝ハ公田トス、一井ハ日本ノ法ニシテ、凡四丁四十七間五尺餘、田ニシテ二十七町六段二畝許リ、此ヲ八家シテ耕セバ、一家ハ三町五反ホド作レバ、今時ノ大百姓ナリ、是ヲ無年貢ニテ作ルユヘ、富マザルコトアルマジトミユ、什ゲ一ハ天下之正中、損<sub>レ</sub>上益<sub>レ</sub>下、民悅無<sub>レ</sub>疆」ト群書要語ニ見ヘタリ、二隣ノ間ニ溝アリ、廣サ四尺、深サ四尺、此ヲ遂ト云テ、遂人ト云フ官ヲ立ツ、今ノ水方役ニ當ル、遂ノ上ニ徑アリ、之ヲ畛ト云、路アツテ車ヲ通ズ、則八家ノ田ノ四方ニ在リ、百夫前ノ處十里ヲ成ト云、此間ニ洫アリ、廣サ八尺、深サ八尺、是上ニ涂アリ、幅ノ廣サ乘車モ通ルナリ、千夫耕ス處ニ澮アリ、川ヨリ溝ニ漑グヲ澮ト云、廣サ二尋、深サ二仞、澮ノ上ニ道アリ、萬夫ニ河アリ、四井ヲ邑ト云、四邑ヲ兵ト云テ軍役アリ、上地・中地・下地ヲ分チ、八家ノ者ニ子ドモ生レテ成長スレバ、餘夫ト云フテ

又別ニ餘田ヨリ授ク、今ノ様ニ商賈ノ耕田法度ナク、商人モ職人モ、二十歳ヨリ六十歳迄ハ皆田ヲ受ク、右ノ法ハ後世ニ至テ民人蕃生スルユヘ、仲々屈クコトニ非ズ、故ニ廢絶スルナリ、然レドモ後世少シハ其餘流ニ據据スル所モアリ、殷ノ世ニ助法ヲ用ユ、一家各々七十畝ヲ受ク、公田ヲ助ケ耕スユヘ名ク、夏ノ世ニ貢法アリ、故ニ今ノ世ニ貢ト名ク、周ノ世ニ徹法ト云、百畝ヅツナリ、蓋シ鄉遂ニハ助法ヲ用ユ、徹トハ國中ヲ都鄙鄉遂ト頒テ六鄉六遂、是ヲ鄉遂ト云テ都鄙ノ外ニ在リ、都近キ處ハ殷ノ助法ヲ用ヒ、鄉遂ノ遠キ處ハ夏ノ貢法ヲ用ヒ、二代ノ法ヲ通用スルユヘ徹法ト名ヅク、徹ハ通徹ノ義ナリ、其中一人前ニ百畝ヲ授クルユヘ、孟子ニ、「周人百畝而徹」トミユ、年貢ノ名世々ニ易レドモ、大概十分ニ九分ヲ百姓ニ予ヘラル、ニ由テ、十ゲ一ノ税ト云、北朝ノ比ニ至テ大抵米穀布帛ヲ取リ、又夫役ヲ使フニ十畝ヲ給ヒ、其内ニ十畝ヲ永業田ト云テ、代々ノ家督ニシテ子孫マデ傳領ス、其外ヲ口分田ト云テ、一代ノ内是ヲ作ル、年貢ハ三品有、租<sup>有レ田</sup>庸<sup>有レ身</sup>調<sup>有レ家</sup>ト云、丁男一人ヨリ粟<sup>モミ</sup>二斛ヲ出スヲ租ト云、又丁男一人ヨリ綿・絹布ヲ出スヲ調ト云、丁男一人ニ一年中ニ二十日役ニ使フ、若シ役ニ當ラザレバ、其代ニ絹三尺ヲ取ルヲ庸ト云、永業田ハ百姓ノ墾田ヲ請フ者ニ授ルヲ永業田ト云、唐朝モ是ニ從ヒ、又口分田ヲ賜フ、永業田ハ官人農人共ニ是アリ、假令罪ヲ得ルトモ下シ置レテ取上ナシ、唐ノ代宗ノ世ニ宰相楊炎ガ計ニテ、租庸調ヲ改メテ兩税トス、夏ハ麥、秋ハ米ヲ兩税ト云、今我國公儀ヲ始トシテ侯國舉此ニ倣ヘリ、明ノ時田地ノ廣狹ニ由テ年貢ヲ定ム、今我邦ノ法ノ如シ、時ニ

由テ免ノ上下アリ、是ヲ科則階降ト云、官田ノ起科一畝毎ニ五升三合五勺、民田ハ一畝毎ニ三升三合五勺、明ノ末ニ一畝一石ト云ハ十倍増ナリ、蓋シ是ハ斗斛ノ積リ前代ト違フ故ナリ、又畝ニ廣狹アリ「本朝崇神天皇十二年、人皇十代始校ニ人民調役、十町田奉ニ一町稻、百人民奉ニ一人役、其後華域ヨリ書籍渡リ、政律皆唐朝ニ據テ、田有<sub>レ</sub>租、身有<sub>レ</sub>庸、戸有<sub>レ</sub>調、右三法ヲ用ヒ、田租ハ一段ニ稻二束二把、一町ニ稻二十二束、一把稻ハ是ヲ春バ米五升ナリ、然レバ一段三百六十坪ニ米ヲ出ス事五十束、其内ヨリ二束二把ヲ年貢トス、一町ノ場モ又準<sub>レ</sub>之、又之ヲ米ト爲セバ、稻一束ヲ春テ米五升ナリ、一段五十束ハ二石五斗、其内ヨリ一斗一升ヲ年貢ニ納ム、一町ニテハ二十石ノ内一石一斗取ルナリ、然バ廿五分ノ一ヲ税トシテハ少シ重シト制度通ニモ出

文武天皇世ニ

人皇四十二代

一町ニ一斛一斗ヲ出セシヲ減少シテ、七斗五升ニ定メ玉フ、弘仁式人皇五十二代嵯峨天皇曰、

「上田一段地子十束、中田一段八束、下田一段六束、下々田一段三束、是年以<sub>ニ</sub>水旱<sub>一</sub>復罷<sub>レ</sub>之、孝德天皇三十七代安帝世、田長三十步、廣十二步爲<sub>ニ</sub>一段<sub>一</sub>、一段稻二束二把、十段爲<sub>レ</sub>町、六尺爲<sub>レ</sub>步、三十六步爲<sub>レ</sub>畝、

十畝爲<sub>ニ</sub>一段<sub>一</sub>、三百六十步ナリ

通考云、周家授田之制、但如<sub>ニ</sub>大司徒遂人之說<sub>一</sub>、則是田肥者少授<sub>レ</sub>之、田瘠者多授<sub>レ</sub>之、如<sub>ニ</sub>小司徒之說<sub>一</sub>、則口多者授<sub>ニ</sub>之肥田<sub>一</sub>、口少者授<sub>ニ</sub>之瘠田<sub>一</sub>、如<sub>ニ</sub>王制孟子之說<sub>一</sub>、則一夫定以<sub>ニ</sub>百畝<sub>一</sub>爲<sub>レ</sub>率、而良農食多、惰農食少、三者不<sub>レ</sub>同

孔氏云、田下而賦土者、人功脩也、田上而賦下者、人功少也、又曰、量其地遠近、而爲納賦之輕重精租。

西漢食貨志云、聖王量能授事、四民陳力受職、民受田、上田夫百畝、中田夫二百畝、下田夫三百畝、歲耕種者、爲不易上田、休一歲者、爲一易中田、休二歲者、爲再易下田、前田三歲更耕之、自爰其處、農民戶人已受田、其家衆男爲餘夫、亦以口授田、如此土農工商家受田、吾乃當農夫一人、口二此謂平土可以爲法者也、若山林藪澤、原陵淳鹵地、各以肥磽多少爲差、民年二十受田、六十歸田、七十以上、上所養也、十歲以下、上所長也、十一以上、上所強也。

宋志、林勣賀州人、宋紹興中、登進士第、嘗進本政書、欲漸復三代井田之法、大略謂、五尺爲步、步百爲畝、畝百爲頃、頃九爲井、井方一里、井十爲通、通十爲成、成方十里、成十爲終、終十爲同、同方百里、一同之地、提封萬井、實爲九萬頃、三分去一、爲城郭市井、官府道路、山林川澤、與夫磽塉不毛之地、定可耕與爲民居者、三千四百井、實爲三萬六百頃之田、二夫耕之、夫田五十畝、餘夫亦如之、惣二夫之田、則爲百畝、百畝之收、平歲爲米五十石、上熟之歲、爲米百石、二夫以之養數口之家、蓋裕如矣、總八頃之稅、爲米十有六石、錢三貫二百文、此之謂什一井、復一夫之稅、以其人爲農正、掌勸督耕耨賦稅之事、但收十有五夫之稅、總計三千四百井之稅、爲米五萬一千石、爲錢一萬二千貫、以此爲一同之率、一頃之居、其地百畝、十有六夫分之、夫宅五畝、總十有六夫之宅、

爲<sub>二</sub>地八十畝、餘<sub>二</sub>二十畝、以爲<sub>二</sub>社學場圃、一井之人共<sub>レ</sub>之、使<sub>二</sub>之朝夕群居、以教<sub>二</sub>其子弟、然貧富不<sub>レ</sub>等、未<sub>レ</sub>易<sub>二</sub>均齊、奪<sub>二</sub>有餘、以補<sub>二</sub>不足、則民駭矣、今宜<sub>レ</sub>立<sub>二</sub>之法、使<sub>一</sub>一夫占田五十畝以上者爲<sub>二</sub>良農、不<sub>レ</sub>足<sub>二</sub>五十畝<sub>一</sub>者爲<sub>二</sub>次農、其無<sub>レ</sub>田者爲<sub>二</sub>間民、與<sub>一</sub>非<sub>二</sub>工商在<sub>レ</sub>官、而爲<sub>二</sub>遊惰未作者<sub>一</sub>皆爲<sub>レ</sub>驅<sub>レ</sub>之、使<sub>レ</sub>爲<sub>二</sub>隸農、良農一夫、以<sub>二</sub>五十畝<sub>一</sub>爲<sub>二</sub>正田、以<sub>二</sub>其餘<sub>一</sub>爲<sub>二</sub>羨田、正田毋<sub>レ</sub>收廢<sub>レ</sub>業、必躬耕<sub>レ</sub>之、其有<sub>二</sub>羨田<sub>一</sub>之家、則無<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>買<sub>レ</sub>田、至<sub>二</sub>於次農、則毋<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>賣<sub>レ</sub>田、而與<sub>二</sub>隸農、皆得<sub>レ</sub>買<sub>二</sub>羨田、以足<sub>一</sub>一夫之數、而外與<sub>二</sub>良農、凡次農隸<sub>レ</sub>之、未<sub>レ</sub>能<sub>レ</sub>買<sub>レ</sub>田者、皆使<sub>二</sub>之分<sub>二</sub>耕良農之羨田、各如<sub>二</sub>其夫之數、而入<sub>二</sub>其稅於良農、如<sub>二</sub>其俗之故、非<sub>一</sub>自能買<sub>レ</sub>田、及業主自收<sub>レ</sub>其田、皆毋<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>遷<sub>レ</sub>業、若良農之不<sub>レ</sub>願<sub>レ</sub>賣<sub>二</sub>羨田<sub>一</sub>者、宜<sub>レ</sub>悉俟<sub>二</sub>其子孫之長、而分<sub>レ</sub>之、官毋<sub>二</sub>苛奪以買<sub>二</sub>其怨、少須<sub>レ</sub>暇<sub>レ</sub>之、自合<sub>二</sub>中制<sub>一</sub>矣、其書如<sub>レ</sub>此、朱文公・張宣公、皆喜<sub>二</sub>其說、謂<sub>二</sub>其有志<sub>二</sub>復古、然今時欲<sub>レ</sub>行<sub>二</sub>經界、尙以爲<sub>レ</sub>難、況均田乎

荒地ヲ間クニ一歳ヲ苗ト云、始反<sub>レ</sub>艸也、二歳ヲ畚ト云、漸ク和柔ナリ、三歳ヲ新田ト云、田ニ成ルヲ云フ

田ニ様々ノ名アリ、圭田・永業田・爰田・名田・代田・縵田・屯田・樣田・營田・職田・公廩田・均田・藉田・弄田・功田・位田・口分田・義田ナドト云テ皆其譯アレドモ、茲ニ略ス、位田ト云ハ今ノ知行ナリ、職田ト云ハ役米ナリ、古王代ニハ役米ヲ田地ニテ賜ハル、若シ凶作アレバ之ヲ免スニ由テ、役米減少トナルユヘ官吏ノ爲ニハ不便利ナリ、因テ今ノ倉米大ニ善トス

本朝食封一品八百戶

稻三萬二千束、當米千六百石

二品六百戶

二萬百千束、當米千二百石

三品四百戶

一萬六千束、當米八百石

左右大臣二千戶

三萬二千束、當米四千石

大納言二千戶

三萬二千束、當米千六百石

若以理解官致仕者、減半

正一位三百戶

同四品一萬二千束、當米千六百石

慶雲三年二月、改六百戶

從一位二百六十戶

一萬四百束、當<sub>三</sub>米五百二十石<sub>一</sub>

正二位二百戶

八千束、當<sub>三</sub>米四百石<sub>一</sub>

從二位百七十戶

八千束、當<sub>三</sub>米四百石<sub>一</sub>

凡五位以上<sub>謂二品以下</sub>以<sub>レ</sub>功食<sub>レ</sub>封者、其身亡者、大功減<sub>レ</sub>半傳三世、上功減<sub>三</sub>三分之二傳二世、中功減<sub>三</sub>四

分之三傳<sub>レ</sub>子、下功不<sub>レ</sub>傳

給<sub>二</sub>口分田<sub>一</sub>者男二段、<sub>當<sub>三</sub>米七十石</sub>女減<sub>三</sub>三分之一<sub>一</sub>當<sub>三</sub>米三石三斗三升三合三抄<sub>一</sub>

五年以下不<sub>レ</sub>給<sub>レ</sub>其地、有寬狹者、從<sub>二</sub>其鄉土法<sub>一</sub>、易<sub>レ</sub>田倍給

位田一品八十町<sub>當<sub>三</sub>米一千石</sub>

二品六十町<sub>當<sub>三</sub>米一千五百石</sub>

三品五十町<sub>當<sub>三</sub>米一千二百五十石</sub>

四品三十町<sub>當<sub>三</sub>米七百五十石</sub>

正一位八十町<sub>同二品</sub>

從一位七十四町<sub>當<sub>三</sub>米八百五十石</sub>

正二位六十町同三品一

從二位五十町當米千三百五十石

職分田、太政大臣四十町當米千石一

左右大臣三十町當米七百五十石一

大納言二十町當米五百石一

右以理解官、及致仕者、准職封減半、國司郡司以理解官、其職田即收、不可准此也、蓋有<sub>レ</sub>功則給

功田、大功世々不<sub>レ</sub>絕、上功傳<sub>二</sub>三世<sub>一</sub>、中功傳<sub>二</sub>二世<sub>一</sub>、下功傳<sub>レ</sub>子、大功非<sub>二</sub>謀叛以上<sub>一</sub>以外、非<sub>二</sub>八虐之除名<sub>一</sub>不<sub>レ</sub>收

○客云、賣田ハ神君禁制シ玉ヘドモ、行レザルハ如何ナル事ゾ

答云「政之所興、在<sub>レ</sub>順<sub>二</sub>民心<sub>一</sub>、政之所廢、在<sub>レ</sub>逆<sub>二</sub>民心<sub>一</sub>」ト云、是事ハ神君一時ノ禁法ナリ、是時江戸ハ天下會同ノ地トナルユヘ、商工四方ヨリ集ル、近邊ノ農民之ヲ美ミ、田地ヲ賣テ商賈トナラントスル故禁ジ玉ヘリ、政談云、是事ハ口分田ノ謬ナリ、口分田ハ古王制ニ男子廿歲ニテ賜リ、六十歲ニテ上ニ返スベキ物ユヘ賣買ハ叶ハズ、永業田ハ持來ル田地ニテ、面々金ヲ出シ買シ者ユヘ、賣之ハ定リタル道理ナリ、之ヲ上ヨリ禁ズルハ甚無理也、無理ナル法ヲ立ントスルユヘ、或ハ讓タルナドト名ヲ

付ケ、或借銀契券ヲ拵ヘ、種々ノ僞是ヨリ起ル、故ニ奉行モ僞ト知ナガラ法ヲ立ン爲ニ是ヲ許ス事ニナレルハ、畢竟民ニ僞ヲ教ルト云ヘリ、本朝孝德天皇<sup>三十七代</sup>大化二年、「詔禁賣地」ト見シモ、是時口分田ユヘナリ、田ヲ賣事ハ古聖王ノ時代ヨリ有<sup>レ</sup>之、夏禹王初仕ユル時、田地ヲ賣テ車馬ヲ求玉ヘリ、史記趙奢傳、「買田宅」又前漢ノ晁錯傳、「賣田宅、粥<sup>ニ</sup>子孫以償債」トミユ、又漢ノ陳孝婦ハ姑死スル時、田宅ヲ賣テ葬リ祭給ヲ奉ズ、淮陽太守黃金四十金ヲ賜レドモ受ズトミユ、漢ノ王莽篡<sup>レ</sup>位時、下<sup>レ</sup>令曰、「富者驕而爲<sup>レ</sup>邪、貧者窮而爲<sup>レ</sup>姦」ト賣田ヲ禁ジ、悉取上テ王田・奴婢田・私禹田ト名ケ、配分シテ與ユレバ、天下大ニ騷動シ、法ヲ犯シ死ニ至ル者多ク、制度定ラズ、俗吏姦ヲ爲シ穩ナラズ、王莽之ヲ視テ後悔シ、重ネテ王田モ共ニ賣賣スベシト令ヲ下ス、是時王莽叛逆ユヘ民ヲ懷ケントスレドモ、固ヨリ不正ノ令ユヘ行レズ、君子ノ制度ハ私無キユヘ、千載不朽ナリ、「罔<sup>ニ</sup>違<sup>レ</sup>道以干<sup>ニ</sup>百姓之譽」ト聖王堅戒メ置玉ヘリ、後世國民匱乏ノ時ト視レバ、頓テ不正ノ法ヲ出シ平談德政ナドト名ケ、良民ノ財ヲ奪テ衆ニ施セドモ、一時ノ潤澤ニテ其効少シモ見エズ、却テ風俗弊レテ後世ニ餘毒ヲ殘ス事アリ、宋孝文帝ノ時李安上疏シテ、賣田ヲ禁ゼントスレドモ行レズ、故ニ後世禁制ナシ、通考云、「井田受<sup>ニ</sup>之於公、母<sup>レ</sup>得<sup>ニ</sup>粥賣、故王制云、田里不<sup>レ</sup>粥、秦開<sup>ニ</sup>阡陌、遂得<sup>ニ</sup>賣賣、」又文武周公モ後世ニ生レ玉ハバ、井田ハ用ヒ玉マジト宋ノ馬端臨ガ説アリ、今ノ田宅ハ唯坊中士宅ノミ、餘ハ皆私田ナリ、若公田トナサバ、今時ノ人氣ニテハ、租ハ十二八九分ハ納ルマジ人生欲無キ者ナシ、故無クシテ孰カ田宅ニ離レンヤ、貧苦身ニ

通り、或ハ因駄不貢ノ罪ニ遇フ時ハ、田宅ヲ賣ズンバ、赤飯枕ニ餓死ト云者ナリ、故ニ禁制アレバ、毎年十萬金ノ救濟無テハ叶ハズ、是亦成ラザル事ナリ、田宅ハ勿論賣買ノ免職ヲ始トシ、森羅萬像<sup>イナフ</sup>舉賣買アリ、昔ヨリ公領ヲ始トシ、諸國皆君ヨリ賜リ置レシ俸祿榮色サヘ、密ニ<sup>カサ</sup>目<sup>メ</sup>姓買フ事甚多シ、故ニ法ヲ立置クトモ其情ヲ察シ、仁恕ヲ以テ汪洋ニ視ベシ、略聞クニ、薩州ハ家老迄領知ヲ賣斥スルト聞ク、幸爾ニ聞テハ甚不義ト視ユレドモ、其内情ヲ聽クニ、其本ハ廉直ヨリ生ズ、賤キ<sup>テ</sup>龍斷ノ徒ニ低頭シ、債責ニ逢ヒ不信ノ名ヲ受ンヨリ、幸自所持スル田祿ヲ賣テ急難ヲ免レナバ汚名モ無シ、倘汚名ヲ受レバ却テ君ヲ愧カシム、且三十石アレバ饑ニハ至ラズト、千石ヨリ四十石ニ及ブマデハ賣祿ス、格式ハ古來ヨリ降ラザルヨシ、備前芳烈公賣田ハ郡代ニ訟ヘ、商議ノ後賣ベキ令アリ、蓋下情ニ疏シト云ベシ、譬ヘバ家ニ疫症數人有テ、目前米錢無テハ片時モナラザレドモ、銀主ハ契券無テハ貸サズ、庄屋頼ミ願書ヲ上ゲ、官斷ヲ受ケ沽券ヲ認メ、金ヲ取ルマデハ凡四五日、金子ハ目前ニ有レバ、心ハ焦燥ヲ急ゲドモ、人ノ上ハ吾身ノ様ニ心配速ナル者ニ非ズ、特ニ地ヲ賣ル身ハ、錢一貫文有レバ藥料モ調フベキニ、諸處ニ音物モ無クテハ、報恩ノ禮義モスマザルハ人情ユヘ、田地代ヨリ之ヲ出セルハ、僅一貫文トイヘドモ、俗ニ云生爪起スト云者ナリ、斯ル<sup>ア</sup>偶合ハ下ニ居テ俗情ニ<sup>ナ</sup>絆サレズンバ、知ル事能ハズ<sup>ニ</sup>爲レ政、通<sup>ニ</sup>於下情爲<sup>ニ</sup>急ト宋薛文清ガ語ハ、官吏ノ針砭ナリ、右ノ道理ヲ稽ヘ、妄リニ新法ヲ立ズ、賣田ハ庄屋迄ニ致シ置ベシ、諸國大抵如此

○ 客云、武家モ田地ヲ賣ル法有リヤ

答云 日本ハ世倅其差等ニ由テ賜ルユヘ、隨分有屬不自由ナシ、或邦祖宗ノ憲法ニ、家中ハ耕作ヲ禁ズ、此一條ヲ以テ昔ノ仁政ヲ想感ス、別卷ニ述シ通り、昔ハ現米ニテ十石八十石ナレドモ、今時ニ諸國大抵一石一俵、其土賦掛ナドト現米ニ石ニモナレリ、何ヲ以テ其格位ニ居ルコトヲ得ンヤ、是皆君ヨリ臣ニ僞ヲ示スト云者ナリ、中華ニ古ヨリ禁法ナシ、宋ノ太祖老職守臣ニ向ヒ、郷田ヲ買テ子孫ノタメニ永久ノ業ヲ立ヨト詔アリ、又唐ノ盧從愿ハ刑部尙書ト爲リ、良田數百頃ヲ買ム、玄宗之ヲ薄ンジ、屢々用ヲナサントス、時ノ人多田翁ト號ス、然レバ古ヨリ通用トミユ、武士ハ第一支體ヲ剛強セザレバ合戰ノ用ニ立ズ、故ニ古ハ農兵又屯田ノ法ヲ立ツ、近世マデハ武士ハ皆土着ユヘ、稼穡シテ健康ナリ、蘇軾教戰策曰、「大小民盛夏力作、窮冬暴露、其筋骸之所ニ衝犯、肌膚所ニ沒漬、輕霜露而狎風雨、故寒暑不能爲之毒、今王公貴人、處於重屋之下、出則乘輿、風則襲裘、雨則御蓋、凡所以慮患之具、莫不備至、畏之太甚、而養之太過」ト云、是ニ由テ古ノ人傑ハミナ自ラ耕シ身ヲ剛強ニス、畠山重忠・楠正成、近世ハ板倉内膳正等、躬ラ耕耘ヲ樂メリ、徳川長親公田獵ノ中、是地ノ代官近藤何某奴僕ト共ニ田圃ヲ取リシニ、公遙ニ看テ、彼ハ近藤ナラント侍臣ニ命ジ召シ玉ヘバ、畦ニ枴ヲ立テ掘リ置シ大小ヲ帶ビ、泥手ヲ洗ヒ來拜スレバ、公甚ダ感嘆アリ、今時ノ代官ニ併セ觀テ、古今ノ儉奢ヲ考フベシ、故ニ俸祿ニテ耕地ナキ者ハ、田地ヲ買フカ又ハ受作モ致シ、身ヲ剛健ニスベキ事、強

兵ノ本ナリ

農民田畠ヲ市町ノ者ニ賣ルヲ嗜ムハ、同郷ニ賣ルトキハ自作ヲ得ズ、加地子未納重ナレバ支配ニ遇ヘドモ、市町ハ不馴ノ業ニテ自作モ得ズ、他ニ授ントスレバ一村阿黨シテ作ラズ、是意味有ルガユヘ、皆市町ニ賣ルヲ好メリ、斯ル事ハ其下情ヲ知ラズシテ、唯法ノミ立テモ民ノ難儀トナル者ナリ、中國邊ハ年限賣ト名ケ、田一段ヲ金二兩計ニ究メ、十年二十年銀主ニ作ラセ、年限充ザレバ、縦ヒ金調アレドモ受ル事叶ハズ、故ニ貧者ハ耕地ナク、竟ニ日傭ノ身トナル、今諸國甚ダ多シ、大意ハ古王代ノ賃租ニ比ス、是事甚ダ高利ユヘ、儼前芳烈公郡代ト商議シテ、二三十年モ賃代ニ耕ス者ハ、本主ニ返ス事宜シカラシ、然レトモ銀主難澁無キ様ニ取計ヘト命令ユヘ、一時行ルレドモ漸々頽レタリ、肥後ハ田地ヲ質物トシテ、金三兩ニ米一苞ヲ納ム、是ヲ年限モノト云、諸國ミナ然リ、近年是仕組ヲ立テ、官ヨリ元利ヲ銀主ニ渡シ、三兩一俵ヲ二斗ニ減ジテ上ニ取り玉フ、是事互ニ難澁無ク、偏頗ナキ公道ト云ベシ、然ルニ今民ノ内情風説ヲ略聞クニ、今ニ於テハ心中慊トセザルヨシ、其故ハ庶人相對ハ、苞モ惡ク米モ匱ニシテ濟ミ、時々相談モ叶ヒ、凶作直引モ易ケレドモ、公輸トナツテハ、苞作り米拵ヘ升目等ノ差モアリ、様々ノ難澁ハ米一斗減耗ノ事クライニ非ズ、始メ庶人相對ニ一苞納ムルヲ慕ヘリト云、斯ク仁政モ却テ民心ニ乖ケルハ、上下ノ人情齟齬スル故カ

本朝田宅律令

凡賣買宅地、皆經所部官司申牒、然後聽之

註云、謂有宅地之地也、略舉宅地、田園皆同、其實買倉屋等者、自須證據分明、不可經官司也

凡賃租、田者各限一年、園任賃租、及賣皆須經所部官司申牒、然後聽之

凡官人百姓、士農工商並不<sub>二</sub>得<sub>一</sub>將田宅園地、捨施及賣與寺者、拾施者、布施也、賣易者、賣田及財易也

凡公私田荒廢

謂位田、賜田、口分田、樂田等類、是爲私田、自餘者皆爲公田也

三年以上有能<sub>二</sub>借佃<sub>一</sub>、經官司判借之、雖隔越亦聽、私田三年還主、公田六年還官、限滿之日、所借人口分未足者、公田卽聽充口分、私田不合、共官人於所部界內、有空閒地願<sub>二</sub>佃者<sub>一</sub>、任聽營種、晉解之日還公

註云、謂國司共以上人任爲國司並部司、及百姓士農工商等營種者、卽永爲私田

凡諸國公田、皆國司隨鄉土估價、賃租

註云、公田畚田也、畚田限二年賣、春時取直者爲賃也、與人令佃、至秋輸稻者爲租

### 中華賣田說

文獻通考水心言、唐方使民得立券自賣其田、而田遂爲私田、此說恐亦未深攷、如蕭何買民田自汗、禹貢有田一百五十畝、被召之日、賣其百畝、以供車馬、則自漢以來、民得漢自賣賣田土矣、蓋自秦開阡陌之後、田卽爲庶人所擅、然亦惟富者可得之、富者有貲、可以買田、貴者有力、

可以占田、而耕田之夫、率屬役於富貴者也、王翦爲大將、請美田宅甚衆、又請善田者五人、可以見其時、田雖在民、官未嘗有授田之法、而權貴之人、亦可以勢取之、所謂善田、則屬役者也、蘇秦曰、使我洛陽有田一頃、安能復佩六國相印、蓋秦既不能躬耕、又無貲可以買田、又無權勢可以得田、宜其貧困無賴也

漢晁錯說文帝云、今農夫五口之家、其服役者、不下二人、能耕者不過百畝、百畝之收、不過百石、春耕夏耘、秋穫冬藏、伐薪樵治官府、四時之間、無日休息、又私自送往迎來、弔死問病、養孤、長幼在其中、勤苦如此、尙復被水旱之災、急政暴賦、斂不時、朝令而暮改、於是賣田鬻子孫、以償責者矣

漢始耕田用牛馬、通考云、此理未然、孔子弟子、冉伯牛、司馬牛皆名耕、若非用於耕、則何取於名乎

唐制、其度田之法、濶一步、長二百四十步爲畝、百畝爲頃、一夫受田一頃、周制、乃是百步爲畝、唐却是二倍有餘、此一頃制度、與成周不合、八十畝爲口分、二十畝爲世業、是一家之田、口分須據下來人數、占田多少、周制、八家皆私百畝、唐制、若子弟多、則田愈多、此又一頃、與成周不合、所謂田多、可以足其人者爲寬鄉、少者爲狹鄉

宋紹興元年、詔盡鬻諸路官田、命各路憲臣總領措置、時以軍興用度不足、又先時知永嘉縣霍蓋言、

温州四縣沒官田、勢家詭名請佃、歲責保正長代輸、公私病之、乃詔並召人鬻、五年又詔、見佃人願承買者聽佃、及三十年以上者、減價錢三之一

十二年戶部言、諸常平司未賣田、令見佃人添租三分、不願者勒令離業召人佃

知邵州呂稽仲言、湖南廣西閑田甚多、若輕租召佃、收其所輸、糴共贏餘、可寬州縣、詔戶部措置

劉夔爲福州帥、買易僧寺田以取資、至張守帥閩、始議存留上等四十餘剎、以待高僧、外悉令民實封請買、歲入七八萬緡、以助軍旅、餘寬百姓雜科、民皆便之

戶部言、諸路賣官田錢、乞以下以七分上供、三分充常平司糴本

今諸買官田者、免納稅契錢、又免和買二年免物力、三年至十年

千貫以下免三年、千貫以上五年、五千貫以上十年

已給買後、不許執隣取贖、舊六十日輸錢、不足者錢沒官、別占買、今倍其日、皆從之

諫議大夫何溥言、比議臣欲優恤見佃者、令減價二分承買、而復謂其低價買、增價賣、或借錢收買、增價准折、許人告即拘沒、夫始憐其失業、而爲之減價、終設爲轉賣之說、而開其爭端、望明詔改

○客云、當今受作ヨリ地主ニ加地子ヲ納ルハ、古ヨリ有ルコトカ

答云、地子ト云ハ、元年貢ナリ、本租ニ受作ノ者ヨリ借貸ヲ加ユルユヘ、加地子ト名ク、唐貞觀年中、

以職田給逃還貧戶、每畝給粟二斗、謂之地子、本朝元弘年中、北畠玄慧ガ著ス庭訓往來ニ、「隨田  
 山畠之乾熱、可課桑代、加地子ミツトミユ、古奈ノ世ニ貧人ハ田地無キユヘ、受作シテ耕ス者ハ、地主ニ  
 十分ノ中五分ヲ納メヨト令ヲ下ス、漢朝モ又是ニ因ル、然レバ古ヨリ有ルコト、見ユ、今清朝ハ下作  
 ノ者ヲ佃戶ト云、加地子ヲ田租ト名ケ、大總ニ取ル者多シ、清俗紀  
 開ニ出今天下ノ侯國凡二百六七十ノ封地  
 公領ヲ始トシテ陪臣僅十石ノ食邑、及ビ寺社領一段ノ田トイヘドモ、加地子無キ處一モ無ク、多クハ  
 富商ノ手ニ屬ス、肥後ハ城下ノ者ハ田地ヲ買ムルコトハ禁制ニテ、郭外コリ國中舉免許ト聞ク、久留  
 米ハ城下ノ者モ加地子ヲ取ル事多シ、加地子ノ名諸國各異ナリ、關東ハ毛德、又德米・禮米ト云、北國  
 ハ生租ウラナリ又餘米ト云、彼地ハ本租薄キカ、餘地廣キカ、大總ニ取者多シ、出羽庄内ハ領主十五萬石ノ地  
 ニ、本間孫四郎ト云大賈ハ生租凡十四萬石計リ、是ヲ天下ノ最上トス、加賀ノ木屋・錢屋ハ本租八萬石、  
 然レバ生租是ニ倍ストミユ、其外千石萬石ノ者ハ北陸道ニハ夥シキヨシ、大坂鴻池・三井等モ諸國ニ聞  
 發ノ生租莫大ノヨシ、洛西ノナリ一大厦アリ、土人三井ノ代官ト呼ブ、一國ノ田皆三井ノ下作ノヨシ、  
 中國ハ中年貢又加調トモ云、播磨市場ト云公領ノ地ニ、一萬石取レル商賈アリ、其名ヲ呼バズ、唯市  
 場ト稱ス、其外千石ホド取ル者ハ寡カラズ、四國ニ大總取ル者又多シ、伊豫小松一柳侯ハ一萬石、領  
 内ニ岸上何某一萬石ヲ取リ、領主ト石數ヲ同フス、讃州大野原ニ源助ト云者ハ五萬石、揚小次郎モ一  
 萬石ト唱フ、九州ニハ斯ク大總ニ取ル者ハ無シ、近國ニハ肥後二千石五百石取ル者寡カラズ、其餘ハ

國毎ニ三四百石ヲ以上トシテ、百石二百石ハ學テ數ヘ難シ、蓋シ生租ハ其高世間ニハ大總ニ評判スレドモ、實ハ六七分ナラン、諸侯ニシテ生租ヲ取ルハ、九州ニハ細川ト松浦ナリ、是皆生租・生米・賦料・恩米・禮米・毛德・家德・加調・中年貢・餘米・加地子ト云、其國郡ニ由テ區々ニ異ナリ、倘國衰ヘ民羸<sup>ツカ</sup>ル、トキハ、田地ハ一錢ニモナラズ、加地子ハ竟ニ廢ルベシ、本租高キ田ハ生租掛ラズ、少シ凶作ニモ免ヲ願ヒ、竟ニハ上ゲ地トナルカ、荒田ト爲ラン、モシ國盛ンニ民數多ケレバ、田價高クナツテ、加地子モ又流布ス、又上收歛スレバ加地子少シ、仁恕ノ國ハ加地子多シ、是故ニ國ノ盛衰仁不仁ヲ知ラント欲セバ、先ヅ加地子ノ衆寡ヲ問ハバ、分明ニ知ル、也

## 經濟問答秘錄卷十五終

## 經濟問答秘錄卷十六

## 田賦考

○客云、生租ヲ本租ニ加ユルユヘ、貧農益々困窮シ、地主ハ彌々富驕ナリ、近年或邦ニ官ヨリ出金シテ買メ、貧農ニ配分シテ與ヘシト聞ク、是例ニ從ヒ官ヨリ金ヲ出シテ買入レ、加地子ヲ上ニ取テ、農民ドモニハ年賦ニ致サバ、上ニモ損失ナク、下ヘ勝劣ナレバ宛民モナク、盛隆ノ本ヲ闢クベキカ」

答云 惠制ナリ、蓋シ苟且ノ利潤ニテ、甘キ毒ヲ喰ハスル婦人ノ仁ト云ベシ、「小人爲政以ニ姑息」ト云、君子ハ成功ヲ貴ブ、始メ業ヲ創ル時、千歲不朽ヲ稽ヘ、後人之ヲ徵スル事ハ、衆議ヲ排シテ興スベシ、易、「未<sup>アルベ</sup>繙<sup>ルベ</sup>井、羸其瓶凶」トハ功ノ不成ヲ誠ム、財ハ衆人ノ得ル所ニアラズ、富ムベキ者ヲ富セテ置クベシ、貧ハ自ラナス所ユヘ、一時惠ムトイヘドモ、未ダ年ヲ逾ス賣斥スルハ、鏡中ニ見ルガ如シ、今試ミニ一村無税ニ致シテ、十年ホド過シテミヨ、百人ノ中ニ其庇ヲ以テ富ル者ハ一二人ナラン、諸侯歲ニ于國、自國ニサヘ蓄ハヘ置ケバ、何時モ國家ノ用ニ立ツナリ、加地子ヲ出ス者モ我民ナリ、之ヲ取ル者モ我民ナリ、何ゾ頗僻偏固ノ事ヲナサンヤ、國計ハ瑣細ノ事ニ拘泥セズ、其大括ヲ要トスベシ、加地子ハ中華ヲ始メトシ、日本國中古來依然トシ盡キズ、若シ惡キト思ハバ、其中ニハ

明君智士モ既ニ出玉ヘバ、禁制ノ國一二ヶ處モアルベキニ、公領ヲ始メ天下一般免許ト爲リ、其中ニ  
モ北國ニハ加賀ヲ始トシ、上ヨリ取立クレ玉ヘリ、九州ニハ久留米・大村等モ、上ヨリ年貢ト共ニ取  
立ナリ、今は是ヲ惡弊ト見テ禁ゼントセバ、天下ハ皆愚ニシテ、自國ノミ賢トセンカ、一國ヲ以テ天下  
ヲ推スコトハ遂ゲ難ク、却テ扇ヲ破テ下手ノ名ヲ取ラン、是事盡キザル證據ハ、タトヘバ貧農ドモ田  
宅ヲ費ルニ、加地子ヲ禁ズルトキハ、此ヲ買ル者ドモ自作スルユヘ、後々ハ一郷ニ耕ス者僅四五人ト成  
リ、其餘ノ貧民ハ耕地無クシテ、竟ニハ日傭トナリ、又ハ身ヲ賣リ、或ハ出奔ス、又始メ一二町ノ田  
ヲ作ル農家、夫死シテ子ドモハ幼少ユヘ耕スコト叶ハズ、成長マデ田地ヲ他人ニ托スルニ共報無ク、  
タバ作り取ニアハ義ナキユヘ其謝米ヲ納ム、此ヲ加地子ト名ク、或ハ始メ貧窮ヨリ艱難出精シテ田畠  
ヲ買メ、又ハ開發モ致シ、若干ノ田畠ヲ所持スル身ト爲リ、一家ニテハ耕作届カズ、人ニ授ケテ耕サ  
シム、貧民之ヲ耕シ賃米ヲ納ム、之ヲ加地子ト名ク、或ハ始メ大總ニ加地子ヲ取リシ家モ、其子ニ至  
テ疎業ニシテ家傾キ、傳來ノ田畠ヲ賣ル、是時受作シテ加地子ヲ納メ居リシ貧者モ、出精シテ富メル  
者ハ之ヲ買ム、貧富交々起テ賣買シ、加地子ヲ出納スルハ、則チ天ノ常理ニシテ、人力ヲ以テハ所詮  
防ギ難シ、田地ハ今年ハ他人ノ手ニ在レドモ、明年ハ我手ニ入ルユヘ、迭ヒニ此ヲ<sup>イノカセ</sup>隣ニ<sup>カセ</sup>儀グトイヘド  
モ、年貢ハ一合ニテモ一度増ストキハ、終身ノ憂トナルユヘ甚ダキラヘリ、縦ヒ加地子ヲ惡ミ、是ヲ  
禁ジテ租ヲ増ストモ、結句雪上ノ霜トナツテ、盡ルト云フ事決シテ無キハ、委曲前ニ述シナリ、水戸

義公ノトキ農民群集シテ、生租掛ルユヘ作徳無ク、年貢モ未進ニ及ブト、頻リニ愁訴スルユヘ、公試

ウヘナリ

ミニ數町ノ田ヲ自作シテ、農夫ノ給銀・飯料・糞代・雜用・年貢ヲ勘定シ玉ヘバ、登穀不足トナルユヘ、甚ダ心痛シ玉ヘドモ、加地子禁制ハ致シ玉ハズ、出西山遺事<sup>一</sup>公ハ明君ニテ下情ニ達シ玉フユヘ、縦ヒ

禁法ヲ出ストモ、盡ザル事ヲ察シ玉フ故ナリ、又豫州大洲侯ハ當時ノ賢主ト稱セシニ、寛政年中凶歉

ノ時、或村ニ受作ノ貧人加地子七斗ノ究メニ、四斗ナラデ有ルマジト想ヒ、二斗ヲ乞ヘバ地主モ許容

ス、其後收納セシニ案外ノ登ユヘ、再ビ携ヘ往テ地主ニ返ス、侯之ヲ聞テ其正直ヲ感ジ、米穀數苞ヲ

賞賜アリ、出三好  
人傳一人間萬事ノ借貸復恩ノ道斷テバ、竟ニ禽獸ニ陷ルナリ、大坂ハ天下第一ノ大都會ニ

テ、人皆精力シ富ムベキニ、家數十二萬二千餘戸、其中ニ吾家ニ住ム者ハ僅一萬八千人、其餘ハ統テ

家賃ヲ出シテ永續シ、妻子從類能ク養育セリ、或士田舎<sup>イナカ</sup>ニ移居ス、戶外ニ一畝ノ畝ヲ持ツ者アリ、視<sup>ア</sup>

前菜薙無クテハ一日モ叶ハザルユヘ、賃ヲ遣<sup>ツカハ</sup>シ借ラント請フ、若シ加地子無レバ、親族トイヘドモ賃

サズ、借テ賃ヲ收メズンバ、奪ヒ取ルニ異ラズ、故ニ人道ヲ盡ス者ニ、富人亦寡カラズ、然レバ貧富

ハ全ク其人ノ精勤ト、怠惰トニ據レリ、古ノ均田ニハ餘夫アレバ、上ヨリ其耕田ヲ授クルハ、別ニ提

封田ト云テ、不耕ノ餘田アルユヘナリ、今一國ニ於テ均田ヲ行ハバ、子ドモ一兩人生ル、トキハ、何

地ヨリ興ルヤ、又農家死亡、又ハ罪罰有テ潰<sup>ツアル</sup>ルトキハ、暫時ニ工商ヲ農籍ニ入ル、ヤ、貧農卒爾ニ一

町ノ主ト爲ルハ、トモガフ  
アシガル駛卒ノ儔ニ田祿千石ヅツ與ユルガ如シ、遽<sup>ニハカ</sup>ニ文武ハ勿論、禮義・作法・威儀・

應對・言語・進退等君ヲ辱シメザル事ヲ得ルヤ、庶民ノ出世モ亦如是、高山ニ登ルモ麓ノ一步ヨリ往ク、始ヨリ自ラ艱難シテ、二三畝ノ作ヨリ五畝ヲ耕シ、五畝ヨリ一段ヲ作り、一反ヨリ終ニ一町ノ大百姓ニ騰ラザレバ、扁舟ニ萬石ヲ積ガ如ク、其載スル力無キユヘ、乍チ沈没スルガ如シ、故ニ愛シテ毒ヲ予ユルト云者ナリ、余生來村里ニ棲遲シ、盛衰ヲ明試スルニ、貧ハ自身ノ所爲ナル事間違ナシ、偕是迄一反作りノ窮民ドモ、遽ニ一町ノ田ヲ受レバ、秋迄ノ飯料酒食ノ雜用・農器・糞代等手廣ク事ヲ致セバ、入費モ之ニ準ズルモノユヘ、其費本ハ貸方禁制ナレバト記セリ、是法ハ民制カ

答云 古ニ復ス法カ、古ノ均田ニ據ラバ、租モ亦十ゲ一トナスヤ、徒名ノミニテ實無レバ、是民ヲ欺ク者ニテ、君子ノ嫻笑ヲ免レズ、夫政貴知變、人情ニ和漢古今ノ差別アリ、故ニ讀書ハ斟酌セズンバ、頗僻ト成テ文ニ陷リ、却テ身ノ害ヲ徵ムルコト有リ、武王ノ筆銘ニ「蹈水可活、陷文不活」トミユ、其著書ハ未ダ小池ニ釣シテ、大海ニ漁スルヲ知ラズ、古ヲ知テ今ヲ知ラズ、席上ノ理ニ由リ下情ニ疎シトミユ、發端ノ間違ハ六石ノ作德ニ三石ノ年貢ト云ハ、貪婪ノ國主トイヘドモ、其半ヲ納ル事他國ニ於テ未ダ聞カズ、又生租二石ヲ納メ、一石ノ作德ニテハ砂ヲ食フテモ猶給用足ラズ、何人カ耕ス者アラシヤ、是ヲ以テ虛誕ナル事察スベシ、公領ハ二斗租ナリ、侯國ニモ新田ハ一段ニ作德三石ノ處ニ、年貢僅ニ一斗、或ハ六七升ノ邦モアリ、諸國大抵上田一段四石ノ作德ニハ、年貢生租共ニ二石ヨリ増サズ、年貢高キ處ハ固ヨリ生租ハ掛ラズ、故ニ受作シテモ、古ヨリ今ニ於テ人皆相續ス、上

田年貢高クシテ生租ハ無レドモ、其耕ス者ニ貧人甚ダ多ク、受作シテ生租ヲ出サル時ハ、加地子ノ法廢ルト云事有ラザルナリ

或邦ニ一村ニ名田ト云者アリ、村中數町ノ内ニ加地子高ク掛ル田地四五町モ有ル事カ、是地田畠寡ク、右ノ田ヲ耕ス者ドモ村中ニ談ジテ、右ノ加地子ヲ村中ノ田數ニ割附テ租ヲ増ス、此ヲ名田ト唱ユルヨシ、是ヲ以テ加地子ノ盡ザル事察スベシ

○客云、吾均田茅議ト云書ヲ讀シニ、世ニ傷マシキ者ハ貧民ノ貸田ナリ、豪民ノ田ヲ借耕スルニ、數段ノ田ニ米六石登レバ、三石ヲ貢ニ納メ、二石ハ地主ニ納メ、僅一石ヲ自家ニ殘セバ、糞培農具ノ費ニ不足シ、唯麥ヲ植テ自德トスルノミ、是ゾ年貢ヲ兩方ニ納ムルユヘ、一方ニ片附クヤウニ均田ノ法術ヲ立テ、一戸ニ田一町限リニ究メ、悉ク公田ト爲テ貧民ニ予ヘ、年貢ハ新古平等ニ致サバ、貧民忽チ富民ト爲ルナリ、是時令ヲ出シテ、田ヲ質トスル借金ヲ禁制シ、若シ止ム事無クバ、上ニ借テ賃ヲ納メヨ、若シ犯ス者ハ其田ヲ沒收シ、貸シタル者モ科アルベシ、偕賃租ノ者ハ作德ヲ薄シ年限ヲ立テ、凡十年ノ貢調滯リ無クバ、其田ヲ返シ賜フベシ

答云 何レヨリ出ルヤ、又一町ヲ耕セバ、半期ノ家僕モ雇ハザレバ、夏時分ニ至テハ耕ス事ヲ得ズ、其中ニハ病モアリ、妻子ノ死モアリ、國中均田ユヘ、僮僕ハ他邦ヨリ雇フヤ、商工日傭ノ者ハ用ニ立ズ、故ニ均田ニ致サバ、四五年ヲ經ズ荒穢シテ、十萬石ノ登<sup>ミナリ</sup>ハ七八萬石ニモ減ズルハ必定ナリ、其證

ハ今親<sup>マフアリ</sup>富農ト貧農ノ耕田ヲ併セ視レバ、其畧實晰然ト分ル、ナリ、又上ニ借財シテ貸ヲ納メヨト云、是又下ニ居テ分金ヲ借ル情ヲ知ラズ、譬ヘバ父母妻子死スルニ、即時ノ入用、庄屋ニ就テ官局ニ願ヒ、間ニ逢フベキヤ、官金ヲ借ルニハ大金ニ非ズンバ、僅三兩四兩ニテハ、此彼地種々ノ雜用ニテ、我手ニ入ル所無キトミユ、故ニ正路ノ良民ハ拜借ヲ好マズ、農民ハ商賈ノ様ニ財ヲ増サントスル志ハ無キ者ニテ、農務ニ精力シテ財ヲ餘セバ、只田畠ヲ買メントスル迄ナリ、均田ニ致セバ、縦ヒ財ヲ餘ストモ、田地一町ト究マレバ、其隙無キユヘ遂ニ相勵マズ、又貸ス者科ニ逢フユヘ、貧人時々ノ入用借ル處モ無レバ彌々困窮シ、遂ニハ身ヲ賣ルカ、逐電カニツニ在リ、又賃租ヲ上ニ取ルト云事、人君ノ道ニ於テ甚ダ卑シトスルナリ、抑々均田ト云ハ、方田ト名ク、「唐武德七年、始定均田賦稅、凡天下丁男、十八以上者、給田一頃、篤疾廢疾、給田四十畝、寡妻妾三十畝、若爲戶者加二十畝、皆以二十畝爲永業田、其餘爲口分田永業田」トミユ、永業田ハ自身ノ持來リナリ、右均田ノ法ニモ永代所持アリ、余頃日或一儒ノ著セル安良滿保志ト云書ヲ看ルニ、是ニモ均田ニテ一町ヅ、頒チ耕サバ、貧富ヲ分メズ共ニ相續スト云、近年諸學者未ダ人情ヲ知ラズ、様々ノ書ヲ著ハシ、天下ノ人ヲシテ惑ハシムル事モアリ、韓非子ニ、「世之愚學、皆不知治亂之情、聶談多誦先古書、以亂當世之治」トハ是等ノ事ナリ、坎井ノ龜ハ江海ノ大ナルヲ知ラズ、斯ル小量ニテハ王佐ノ才ニハ至リ難シ、又海國兵談ト云書ニ、家臣ノ祿ハ大小ト無ク、統テ五百石ヅツニ致ス事宜シト云、是モ亦天道ヲ知ラズ、樹木ノ苗ヲ一度ニ

植テミヨ、糞培同フシテ長短肥瘦アルハ、如何ノ事ゾヤ、秩祿舉テ同列トセバ、有功・加増・有罪・薄祿ノ差等ハ何ヲ以テ分タンヤ、庶民ハ祿無キ身ユヘ、利ヲ以テ祿トス、良民艱難シテ田地ヲ買メ、永ク子孫ノ重寶ト恃シヲ、其罪無キニ之ヲ奪ヒ、何ノ功モ無キ民ニ與ユルハ、萬石ノ大身衆ヲ事無キニ之ヲ沒收シ、十石取ノ小身者ニ五百石ヅツ宛行フガ如シ、恐ラクハ年チ冗亂ニ及バンカ、下ハ柔弱ニシテヒニ逆ハザル者ユヘ、之ヲ侮リ無理憐酷ナル法ヲ行ハ、倚リ憫ユル所モ無レバ、唯歐罵シテ天ニ籲<sup>ヨム</sup>リ、恐ラクハ天ノ災國家ニ降ラン、夫天ニ代レルハ人君ナリ、天道ニ私ナシ、國天下ハ廣大ナル者ユヘ、齊一ニハ成リ難シ、地ニ淳<sup>コキ</sup>鹵沃<sup>ニガリ</sup>土アリ、人ニ貧富貴賤アリ、是皆天ノ常理ナリ、試ミニ先一村ヲ均田シテ視ヨ、國中乍チ騷動スルノミナラズ、未ダ三年ヲ逾<sup>コエ</sup>ズ元ニ歸スルハ、掌ヲ指ガ如シ、其證ハ先文化ノ年或邦ニ新制ヲ建シニ、右ノ書ニ據<sup>ヨ</sup>ル事カ、生租<sup>ウハナリ</sup>ヲ惡ミ、富民所持ノ田畠ヲ取揚ゲ、受作ノ者ニ予ヘシニ、領中乍チ騷動シテ鼎ノ湧ガ如ク、是迄正直人ト呼レシ者モ忽チ邪心ヲ生シ、佞姦ノ者ハ吏人ニ狎親ンデ相欺キ、様々ノ姦計ヲ工ミ、姓名ヲ易テ多ク取り、鈍直ノ者ハ少シク取り、俗ニ云田地ノ放樂蒔ト云者ニテ、弱キ者ハ壓倒サレ、強キ者ハ取勝ト爲リ、其田價五十兩百兩、乃至三百兩四百兩、大枚ノ財不義ニシテ取レルハ寔ニ是非モ無キ時節ト、心有ル人ハ舌ヲ卷テ惘然タリ、偕未ダ三月過ズ、十二八九人ハ片端ヨリ質物或ハ賣斥シ、已ニ翌年ニ至リテ、吏人庄屋ニ往キ租帳ヲ視レバ、始ノ如ク悉ク人手ニ渡リ、上ヨリ賜フト云ハ、唯一時名ノミニテ、是ヨリ風瀟瀟姦ヲ生ジ、甚シ

キハ穿窬ニ勝ル者寡カラズ、舊家ハ皆潰レ、僥倖ノ者一方ヨリ下直ニテ買メ、或ハ高利ノ質ニ取リ、村里却テ益々困窮ス、其故ハタトヘバ始メ一村ニ於テモ、千兩ニ僅米二百苞計リヲ出セシニ、是ヨリ高利ト爲テ、六七百苞ヲ出セル様ニ成リ行ケバ、其損失ハ何レヨリ出ルヤ、已ム事ナク窮セズシテ如何ナランヤ、竟ニ弊國ノ種ヲ播キ、訟ヘ罪罰赭衣ニ充ツ、又是制ニ七條ノ損アリ、第一良民ヲ潰シ情民ヲ悅バシム、是天理ニ戾ル一條ナリ、國家ヲ騷ガス、一條ナリ、貧民高利ヲ出シテ益々窮迫ス、一條ナリ、民心流水姦佞ニ化シ、後年政務益々繁キニ及ブ事、一條ナリ、勞ンテ功無キ、一條ナリ、我物ヨリ人ノ物ハ尙重ンズベキニ、人ノ物ニテ惠メルト世間ノ譏リヲ受クル、一條ナリ、惜ムラクハ斯ル狡黠ノ者ヲ惠マンヨリ、孝子・順孫・良民・力田ノ者・節婦・貞女・鰥寡・孤獨・篤疾・癡病ノ者ニ賜ハラバ、人心ニモ應ズベケレ、君子ハ富ニ繼ズ窮ヲ賑ハスベキニ、中以上ノ農夫狡黠ノ者ハ、俄カニ僥倖ノ福ヲ得テ、却テ窮民以後ノ害ヲ招キ益々逼ルハ、實ニ金玉ヲ溝谷ニ抛ツト云フベシ、是故ニ新法ヲ立ント欲セバ、先其士ノ下情ヲ知ラズンバ、是ヲ毫釐ニ失ヘバ、差フニ千里ヲ以テス、斯ル事ハ畢竟政ハ正ナリト云聖經ヲ稽ヘズ、當時文俗ノ徒未ダ人情ニ通徹セズシテ、經濟ノ書ヲ著ハシ、侯國ノ官僚之ヲ信ジ鹵莽ニシテ忠恕ノ二字ヲ稽ヘズ、出水練ニテ令ヲ下ス故ナリ、韓魏公其子ニ誡メテ、「莫<sub>レ</sub>爲<sub>二</sub>無益事<sub>一</sub>、莫<sub>レ</sub>觀<sub>二</sub>無益書<sub>一</sub>」トハ、實ニ國政ニ與ル人ノ針砭ナリ、武侯曰、「治<sub>レ</sub>世以<sub>二</sub>大德<sub>一</sub>、不以<sub>二</sub>小惠<sub>一</sub>、」大德トハ仁義ノ道ヲ云、如何ゾ斯ル小惠ヲ爲サンヤ、華域ノ學者ハ民間ヨリ及第シテ官ニ入

ユヘ、能ク下情ニ達シ、其土ニ生レ風壤モ知テ書ヲ著ハス、ソレデサヘ末書ニ至テハ人情ニ協ザル所モアリ、然ルニ我邦ノ學者ハ遠ク華域ノ書ヲ學ビ、讀ム所ハ古書ノミ多シ、故ニ古ヲ知テ今ヲ知ラズ、上情ニ熟シテ下情ニ疏シ、是ニ由テ紙上ニテハ、尤ト視ユレドモ、惜ヒカナ其業ニ至テハ大ニ齟齬スル事多シ、所謂葉公ガ畫龍ト云ベシ、故ニ書ヲ看テ盡ク妄リニ信ズル事無キハ、先賢既ニ誠メ置玉ヘリ、均田ノ法ヲ立ンヨリ、先ヅ教導ヲ立テ、日ニ月ニ教ヲ施シ、賞罰嚴明ナルトキハ、縦ヒ上ヨリ惠マズトイヘドモ、人皆自カラ以テ田地ヲ求ルナリ、是則均田ノ捷徑ト云ベシ、其功無クシテ人ヨリ貰ヒシ者、永持セシ事未嘗テ有ラズ、生租ハ如何ナル法ヲ立ルトイヘドモ、千百歲盡ザル事ハ、已ニ前文ニ見エタリ、必ズ屠龍ノ技ヲ爲ス事勿レ、却ツテ識者ノ嗤笑ヲ招クノミ、唯一術ハ斗數減耗ニシカズ

使<sub>レ</sub>民以<sub>レ</sub>時、是語人君ノ主要トスベシ、鄉村ニ於テ五月一ヶ月ハ、國家ノ大變ニ非ズンバ、官奴トイヘドモ一人モ入事勿レ、況無用ノ人ヲヤ、農民諺ニ親ノ死メニアハズト云、一日ハ百日ニ當ルユヘ、其情ヲ察スベシ

○客云、毛見ハ上下ノ損、此ヲ苞苴ニ喩フ、經濟錄ニ、公儀田租ヲ取ルニ二法アリ、視取定免ノ二ナリ、年ノ豐凶ニ上下ノ熟アリ、視取ハ每年秋ニ代官並ニ手代等巡行シテ熟不熟ヲ視テ、上熟ニハ多ク取リ、下熟ニハ少ク取ル、是ヲ免ト云、代官廻見シテ其領主ニ告ゲ、領主其年ノ免ヲ定メテ、文書ヲ民ニ下

シ租ヲ徵ス、是ヲ免狀ト云、免狀ノ如ク收納スルユヘ、視取ト云、定免ハ十年二十年ホドノ内ニ、上熟下熟ノ中ヲ取テ定免トシ、毎年收納ス、上熟ノ時多ク取ラザルユヘ、下熟ノ時黠ムル事ナシ、此法ハ孟子ニ云ヘル眞法ニテ、夏ノ法ナリ、孟子ハ龍子ガ言ヲ引テ、惡キ法トイヘドモ、彼ハ別ニ謂レ有ル事ナリ、日本古ハ姑ク論ゼズ、當代ニハ定免ニ勝レル善法ハ無シ、視取ハ民害甚キハ、代官秋成ヲ視ルヲ毛見ト云、代官毛見ニ往ク時、民數日奔走シテ供具ヲ營ミ、道路ヲ除ヒ、館舍ヲ掃キ、前日ヨリ種々ノ珍饌ヲ調ヘ、其來ルヲ侍チ、庄屋名主等人馬肩輿ヲ率テ迎ヘ、種々ノ饗應、其上種々ノ進物其歡樂ヲ極メ、手代等ハ云ニ及バス、僕從ノ至テ賤者迄ニモ金銀ヲ贈ル、其費幾許ト云事ヲ知ラズ、若シ少シモ彼等ガ心ニ滿ス事有レバ、様々ノ難題ヲ以テ圖賴苦メ、下登<sup>ミツリ</sup>ヲ上熟ト云テ免ヲ高クス、若シ上下トモニ賄賂ヲ重クシ、彼等ガ心ニ足レバ、上熟モ下熟ニシテ免ヲ低ス、由レ之里民萬事ヲ闇<sup>サシガキ</sup>テ、代官ノ喜ブ様ニ計ルノミ、代官從者等は皆上ノ物ヲ盜ム者ナリ、毛見ニ限ラズ、平日代官手代等ニ賄賂ヲ贈ル事限ナシ、故ニ代官ノ輩ハ皆小祿ナレドモ富封君ニ均ク、手代等ハ僅三口ヲ養フホドノ俸祿ナレドモ、十餘口ヲ養フノミナラズ、鉅萬金ヲ畜ヘ、終ニハ與力父ハ旗本衆ノ家ヲ買ヒ取テ榮華ヲ極ム、斯ク代官私欲ノ狀ハ、吾<sup>太宰純</sup>久ク田舎ニ住ミテ親見聞シタル事ナリ、是徧ニ視取ヨリ起レリ、民痛國害ト云ハ是ナリ、定免ナレバ毎年毛見ニ及バス、故ニ民ヨリ賄フ事モ無ク、小民ノ役使ヒ無ク、金銀ノ費無キユヘ、少シ高免ニ取テモ、定免ハ民ニ利有リ、代官ヲ置ニ及バス、代官ニハ口米ト云テ許多賜レドモ、

是モ出ルニ及バズ、國家ニ利アリ、今世ノ田租ノ法定免ニ勝ルコト無シト云ハ是ナリ、大聖神禹ノ法ナレバ、言フモ愚ナリト見ヘタリ、余ガ云、侯國ニ於テ斯ク迄ハ有ルマジ、然レドモ大意ハ差ハズ、今定免ノ法ヲ立ル處モアレドモ、凶歉ニ至テハ又モ毛見ヲ願フハ、今猶免ノ高キユヘナリ、禹王ノ時ハ什ヶ一、今ノ世ニ併セ見レバ、二石登ル地ニ二斗ニ當レリ、其二斗ヨリ、引クヲ定免トス、斯ル低租ナレバ、今時職欲ノ民俗トイヘドモ、免ヲ乞フ者有マジ、<sup>マシアヌリ</sup>視前大凶ニモ至極下低ノ田租ノ處ハ毛見ヲ願ハズ、羽州酒井領ノ毛見ハ、侯躬ヲ巡檢シ玉フヲ、憲法ニテ凶作ニ由テ減耗米ヲ又十年賦ト爲シ、其中ニ又凶年來レバ、前ノ年賦米ヲ捨テ、新タニ其年ノ減耗米ヲ十年賦ト定メラル、最仁政ト云ベシ、文祿四年八月三日、豐臣太閤憲法ヲ立テ、天下ノ領分地ノ上ヲ以テ三分ニ見分ケ、二ハ地頭、一ハ百姓ニ取ルベシ、兎角地ノ荒レザル様ニスベシト令ヲ下ス、斯ク不仁ノ令、諸國ノ人生孰カ用ヒンヤ、百姓一分ナラバ、農民水ヲ飲ミ塊ヲ食フテモ不足シテ、田地自ラ荒穢セン、水府義公隱居シテ農耕ヲ樂ミ、毛見ノ時ハ檢者ヲ召レ、免薄ケレバ心痛シ、尙モ減耗スベシト宣ヘリ、是ハ自ラ耕シ其情ヲ知リ玉フ故ナリ、檢者タル者ハ寛仁大度ニシテ、其地ノ免ニ強縱欲スベカラズ、豐凶ハ天地ノ常ナリ、西境凶トイヘドモ亦東境豐アリ、一年ノ國計大積リヲ引括リテ勘定スベシ、今年凶トイヘドモ明年豐アリ、是ハ十年平均ノ勘定スベシ、民ハ土地ナリ、土地瘦ザレバ幹枝自茂シ、易ニ損<sup>レ</sup>上益<sup>レ</sup>下曰<sup>レ</sup>益、損<sup>レ</sup>下益<sup>レ</sup>上曰<sup>レ</sup>損毛見ノ法諸國大抵視取ナレドモ、其中亦種々ノ術アツテ、是ニ仁不仁有ルハ、全ク當主ノ賢不肖ニモ

由レリ、或邦ニ農民一町ヲ作り、其中一段ヲ毛見ニ出セバ、其餘ノ九段ヲ總テ毛見シ、残り九段上熟ナレバ、一段ノ不熟ノ租モ減ゼズ、此ヲ惣毛見ノ法ト名ク、甚ダ不直不仁ト云ヘドモ、國ニ由テ、譬ヘバ有畝三段僅一段ホドノ年貢ヲ掛け、其餘ハ無高ナルユヘ、右ノ毛見モ亦無理トハ云ベカラズ、故ニ大凶年ニモ毛見ハ願ハズ、或ハ九十月毛見ヲ願ヘバ、態ト日ヲ延ベ霜月下旬ニモ及ブ、故ニ山田等ハ鳥獸ノ餌ト爲テ少シモ收ル所ナシ、是ハ再ビ願ハザル様ニ懲シメンガ爲ノヨシ、其人ヲ惡ンデ天地ノ呪ヲ空ク鳥獸ニ予エルハ、其姦惡ナル事天誅ヲ畏ルベシ、我藩ハ數町ヲ作リテモ、其中一段不熟ナレバ、其處ノミ定額ヲ減ズ、是直道ノ仁政ナリ、或邦ニ一段毛見ヲ願ヘバ、其中一坪ヲ稷把磨シテ是ヲ量リ、一坪ノ高ヲ以テ一段三百坪ノ勘定ス、其手間取ル事仲々窄シクシテ堪ラレズ、因テ苛政トス、夫君ハ民ノ父母ナリ、斯ク細密コセツク事ハ商賈ノ侵ニテ、天下國家ノ大器ニ非ズ、大量ニシテ早く民ニ穫收サスルベシ、若シ大計ノ出來ザル者ハ國家ノ命ヲ受ル檢者ノ任ニ當ラズ、或ハ檢者庄屋ノ座ニ留リ、其郷不熟ノ畝數帖ヲ視テ、席上ニ於テ租ヲ庄屋ト談ジテ減ズル事モアリ、是ヲ居毛見ト云、是事甚ダ不直トミユレドモ、一步穫ノ試シヨリハ却テ大量ナリ、斯ク民僞ラズシテ實言シ、上亦民言ヲ證トシテ、田ニ往テ毛見セズンバ、寔ニ古三代ノ風俗ナリ、其實ヲ得タキ者ナリ、或ハ加地子ハ其地主ノ損ナリ、或ハ其凶作ニ減租ヲ致サズ、一村ノ毎戸ニ割付ル所アリ、是ハ未ダ天道ニ協ハズ、刻剝ノ政ナリ、又春落ト云テ田畠共ニ凶作ヲ推量シテ、始ヨリ減租ノ處アリ、是モ上ノ政嚴明ナラズン

バ、里正ノ徒時ニ由テ私曲有ル故へ、始メヨリ高ヲ低クシテ旁ク村里ニ告置ベシ、又年限ト云テ山崩川溢荒穢ノ地ハ否ト爲シ、公役ニテ修葺シ、自力ヲ以テスレバ、五年十年ニ再檢ノ官吏來テ租ヲ掛ル、是ヲ年限満ト名ク、是ハ上ヨリ普請シテ、年期ヲ縮メテ早ク租ヲ取ラバ、上下共ニ利ヲ得テ、天心ニモ叶フベシ、又免方役ト云テ、下吏ノ徒田舎ニ住シテ、右等ノ事ヲ見聞ス、是ハ檢者遠ク都府ヨリ來レルヨリ善トス、其故ハ大魚ノ餌ハ太シ、其豐凶ヲ視ル眼ハ、賢愚ニ在リテ貴賤ニ在ザルユへ、小吏二人ニ致シ、再檢ノ役ヲ用ヒズ、偵者ヲ用ユベシ、定免ノ法ヲ建ント思ハバ、先大旱・大風・永雨ノ年ヲ算へ、凡二十年ホド勘定シテ減米ヲ引キ、總計何程ニ成ルヤ、其高ノ定額ヲ以テ減租シ、其上ニモ又一二分減ジ、其鄉村ノ土地ニ由テ衆寡高下ヲ定メ、水邊山田荒易キ處ハ無稅ニ致シ、中華ノ提封田ト思ハバ、年限満ト云事モ無ク、且凶年ニ至テモ減多ニ檢芒ハ願フマジ、大歎ニ及ンデ毛見ヲ願ハバ、惣庄屋ト毛見無キ處ノ小庄屋二三輩ニ任セ置テ、其後偵者ヲ入ルベシ、是事却テ上ニ損寡カルベシ、莊子云、「有<sup>ニ</sup>虚船<sup>ニ</sup>來觸<sup>レ</sup>舟、雖有<sup>ニ</sup>輻心<sup>ノ</sup>之人<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>怒<sup>ル</sup>」ト云ハ、度量廣大ノ言ナリ、或人製藥ヲ嗜<sup>ブ</sup>テ藥園ヲ拵<sup>ヘ</sup>、僮僕<sup>ヲ</sup>伴<sup>フ</sup>テ能ク糞穢シ、已ニ掘リ採ルトキ、藥種寡ケレバ心中僧々タラズ、是ハ童僕ヲ使フユヘナリ、又山中ニ往テ藥ヲ掘リ、衆ケレバ悦ビ、亦寡シトイヘドモ怨ミズ、是ハ自然ニ生ズル故ナリ、斯ク心中喜怒有ルハ、向ニ人有ルト無キトニ由テ起ル事ナリ、五穀ノ毛見モ如是、自然ニ生ズルト思ヒキラバ、何程減租シテモ咎ムル事無レドモ、農民ヲ瞠<sup>メ</sup>トスルユヘ慊ラズ、仁者無<sup>レ</sup>畝、

上仁ヲ施セバ、下肯テ欺クコトヲ得ズ、唯人民ヲ虛舟ト思ハ、後ニハ上ノ大利ト成ルナリ、楚ノ恭王ノ弓矢ヲ監トスベシ、檢者ノ官ヲ命ズルニハ、第一下戸ニシテ大量ノ者ヲ銓ムベシ、酒食ノ費ヲ以テ租ヲ減ズレバ、天心ニ應ズルナリ、今時ノ毛見ハ農民ニ惠ムニ非ズ、却テ酒肆魚賣等ヲ惠ムニナレリ、右ノ酒餐ヲ腹中ニ入レンヨリ、官吏ノ身ノ爲トナル土產ヲ贈ラバ、却テ善シトス、酒食ヲ一時ニ喰盡スヨリ天ノ惡メルハナシト心得ヨ

本朝律令曰、凡田有「水旱蟲霜不熟之處」、國司檢實、具錄申官

註云、謂一戸以上田、損五分以上者、若不滿五分者、唯註租帳所<sub>レ</sub>勞言上、其戸内之口或扣者、正免其分租、不<sub>レ</sub>免調庸、若不熟之田、一處滿五十戸者、馳驛言上、若通計數處、滿五十戸者、國司處分申官、此條唯爲口分立<sub>レ</sub>文、其實買田、及功田・職田、賜田・樂田等者、依見損數、免其田租、不<sub>レ</sub>依口分例也

十分損、五分以上免租、損七分以下、免租庸、損八分以上、課役俱免

註曰、課者、調及副物田租類也、役者、庸及雜徭類也

若桑麻損盡者、各免調

註曰、若無課有役者、即免役、其桑麻所<sub>レ</sub>輸却不<sub>レ</sub>同、故稱各也

其已役已輸者、聽折<sub>マツ</sub>來年

註云、來年者、若有恩復及遭水旱蟲霜者、須待後年免上

公役ニ公役・畝公役・石公役ト云ニアリ、戸役ハ軒別ニテ道作り、或ハ洒掃ナドニ出ヅ、石役ハ田ノ

石數ニ付テ、五百石ノ高ニハ一月ニ三日勤ム、然レバ上田一段八斗ニ立レバ、六段三畝ホドナリ、六町作レバ、三百六十日出ズシテ叶ハズ、其賃ハ一石前ニ一斗五升、其半ハ轉役ニテ、役人往來或ハ普請用ナリ、寺社領・足輕領等ハ轉役ナシ、故ニ是田ハ質入ニモ其估高シ、畝役ハ其畝數ノ高ニ掛ク、田地ハ一列ナラズシテ、本帳ニ狹<sup>ヒス</sup>クシテ有畝廣キ處アリ、是等ハ作人ノ天幸ト云者ニテ、賣田モ又高直ナリ、一郡ノ中ニ於テモ、其郷ニ因テ石公役モアリ、畝公役モアリ、農民皆承服シテ古來ヨリ勤ムレバ、必革ムル事勿レ、下ハ私欲一逼ニテ、道理ニ昏キ者ユヘ、新政ヲ出セバ乍騷動スベシ、一村一村公役帳割ト云テ、正月初旬集會シ宴會スルユヘ、是等ハ飲酒ヲ禁ズル事宜シ、又轉役割ハ大配分ハ一分半、小配分ハ四分、倉入ハ六分役ト定ル國モアレドモ、田祿無キ處ハ是法ナシ、又上ヨリ公役日雇賃ヲ出ス所アリ、是ハ元年貢ニ加ヘテ有ルコトトミユ、王制、「用<sup>ニ</sup>民之力<sup>ニ</sup>歲不<sup>レ</sup>過<sup>ニ</sup>三日<sup>一</sup>」ト云、「薄<sup>ニ</sup>賦歛<sup>ニ</sup>減<sup>ニ</sup>役力<sup>ニ</sup>」ハ人君ノ道ナレドモ、今時ハ民役年ニ從ヒ益々滋キニ及ベリ、役繁ケレバ田畠自然ト荒穢シ、國計不足ト成ルナリ、特ニ新制ナド立ル國ハ公役甚ダ多ク、民堪難キ者ナリ、平生ノ時サヘ一段耕セバ、七日八日乃至十二三日モ出ヅ、然レバ一町耕セバ、半年ノ隙ヲ費スナリ、一丁ハ一家ニテ耕スニ、半年公役ヲ勤ル時ハ、何レノ日カ耕田スベキヤ、已事ナク田畠荒レニ及ブハ、目前ニ見エシ事ナリ、或國ニ堤<sup>ミツアヒ</sup>漁<sup>ミツアヒ</sup>鰯<sup>ミツアヒ</sup>類ル等、農務ニ掛ル一切ノ事ハ農民ヨリ勤メ、其餘ノ事ハ上ヨリ夫賃ヲ出ス事アリ、然レドモ本租ニ夫料ヲ掛置クハ、俗ニ云蛸ノ手ヲ嚙ニ同ジ、皆民ノ輸ス所ナリ、天子ノ往キ玉

ヲ幸ト云ハ、古ハ天子ノ過ギ玉ヘル道筋ハ、民ノ洒掃スル其報ニ、其邊鄉村皆一年ノ租役ヲ除キ玉  
フユヘ、民モ不<sup>レ</sup>圖幸ヲ得ルニ由テ、幸ノ字ヲ御行ト名ク、今ノ世ハ不<sup>レ</sup>然、太平久キユヘカ、小吏ト  
イヘドモ、自ラ手ニ提テモ好キ品モ夫役ヲ用ユ、左レバ政事ニ與ル官人ハ、夫役ヲ取ルハ勿論ノ事ナレ  
ドモ、其職ニ在ラザル僧徒・朱轡ノ輩、他邦ノ商賈・角力取ニ至ルマデ、京都五條家ニ金一步ヲ納メテ  
繪符ヲ受ケ、緩帶ニ夫役ヲ使フハ、甚以テ非法ナリ、又官道ハ勿論田舎ニ入テモ如此、若民ノ難苦ヲ  
思ハハ、僧徒・遊民ノ者ドモ一々査點シ、多賀・伊勢・熊野<sup>三社</sup>配札ノ者モ、自身ヨリ賃ヲ出シテ雇ヒ、  
民役寡キ様ニ致スヲ仁政ト云ベシ

或國ニ都監<sup>ジンダイ</sup>鄉村廻見ニ、庄屋毎ニ平生鞍一ツヲ置キテ鄉馬ヲ出ス、由<sup>レ</sup>是郡代ハ肩輿ヲ求メズ、乘馬シ  
テ徧歴スルハ、第一練武ト云ヒ、雜用モ少ク民役モ少ク、地理モ能ク知り、寔ニ良法ナリ、若シ歩行  
セバ尙善トスベシ

一邦ニ夫石ト云事アリ、祿ノ高ニ掛テ、農民ノ耕田ニハ掛ラズ、中華免役錢ニ當レリ、大村領ハ道路  
堤防溝洫ノ普請等ニハ、婦女出テ公役ヲ勤メ、男子ノ半日ニ充ルハ、清朝ノ制ニ從ヘリ、不虞ノ時ニ  
臨ンデモ便利アリ

春秋杠梁ヲ作り、道路掃除スルハ、古ヨリ禮トス、道路ノ清キヲ見テ、國ノ盛衰ハ大抵知ルベシ、先  
年防州遠市邊ノ官道ヲ過シニ道路蒼蒼ナリシニ四五年逾テ鄉民群黨ト聞ク、兩彼岸ニハ農夫男女トモ、

カサシケン

七日ガ間懸空トシテ、無益ノ事ニ丁場ヲ立テ洒掃スベシ、但シ戸公役ニシテ、狹村ハ廣キ村ヨリ加勞シテ、丁場ヲ宿ムルベシ

或領内ニ都府ノ家中ニハ、領民總テ奴婢ノ役ヲ取り、子ドモ五人有レバ五人共ニ勤ム、是ヲ城下奉公ト名ク、農民甚ダ苦ムヨシ、但シ富農ノ徒飢ヲ救フ事有ルカ、國用ニ立シ者ハ是役ヲ除ク、又僮僕ハ給銀百二十目、婢女ハ八十目ト究メ、若シ儉約シテ婢一人ヲ除ケバ、八十目ハ庄屋ヨリ納ム、是役米モ皆民ヨリ輸ス事カ、斯ル事ハ諸國ニ於テ減多ニ無キ事ナリ、或ハ采邑ヨリ交勤メ、或ハ女ハ一年奉公セザレバ嫁ヲ許サズ、田舎ノ者繁花ノ地武家ニ永ク居レバ、押柄ニ成テ農業ハ下手ト成ルベシ、召使ハ第一酒ヲ禁ゼヨ、是事吾欲心ニテ慍ムニ非ズ、民俗ヲ易ル國家ニ忠ナリ、或ハ領内遠境ヨリ、都府ニ書簡ヲ毎日携ヘ行ク公役アリ、清朝ハ急狀ニハ雞ノ羽ヲ付ル、我邦飛脚ノ狀ニ赤紙ヲ糊ガ如シ、遠路ヨリ都下ノ狀ハ、公務ノ事急用ニ非ズンバ、一月ニ一度グライニ致ス事ヨロシ、餘國ニハ無クシテ事足レリ、役力ヲ減ズルハ仁政ノ本ナレドモ、治世ノ士ハ自ラ使ハレザルユヘ其情ヲ知ラズ、民ヲ使フハ何トモ思ハズ、今目前ニ見エネドモ民役多ケレバ、一年ニ積レバ田畠ノ登大ニ減ズベシ、故ニ課役ヲ薄フスル法ヲ工夫スベシ、是則五穀豐登、國家富饒ノ根元ナリ

「本朝王制、凡男女三歲以下爲<sub>レ</sub>黃、十六以下爲<sub>レ</sub>小、二十歲以下爲<sub>レ</sub>中、其男二十一歲爲<sub>レ</sub>丁、六十歲爲<sub>レ</sub>老、六十六爲<sub>レ</sub>耆、無<sub>レ</sub>夫者爲<sub>レ</sub>寡妻妾、」是皆唐朝ノ制ニ准ズ、稱德天皇詔、「昔者先帝、亦有<sub>ニ</sub>此意、獨

未<sub>レ</sub>施行、自<sub>レ</sub>今以後、宜<sub>下</sub>以<sub>ニ</sub>十八<sub>ニ</sub>爲<sub>ニ</sub>中男、二十二以上成<sub>ニ</sub>正丁<sub>ニ</sub>、是時成丁ノ年數優免セラレテ如<sub>レ</sub>是、成丁トハ公役ニ出ル事也、丁ヲ「ヨホロ」ト訓ス、古ハ鰥寡孤獨ハ役ヲ免ル故ニ、二十二歳ヨリ究テ善シトイヘドモ、今ハ寡婦並ニ七十ノ老夫モ免ル事ヲ得ズ、漢律年二十三ニシテ使ヒ、五十六歳ニナレバ免ズ、其後ハ段々易レリ、本朝今ハ明ノ制ニ由テ、十六ヨリ六十ニ至レリ、大清會典、「以<sub>レ</sub>丁言則有<sub>ニ</sub>二等、曰成丁、曰不成丁、民生登<sub>ニ</sub>其名于籍、曰<sub>ニ</sub>不丁<sub>ニ</sub>、年十六曰<sub>ニ</sub>成丁<sub>ニ</sub>、丁成而役、六十而免、婦女若不<sub>ニ</sub>成丁<sub>ニ</sub>、不<sub>レ</sub>役、言則有<sub>ニ</sub>三等<sub>ニ</sub>、以<sub>ニ</sub>戸計曰<sub>ニ</sub>里甲<sub>ニ</sub>、以<sub>レ</sub>丁計曰<sub>ニ</sub>均徭<sub>ニ</sub>、上命<sub>ニ</sub>非時<sub>ニ</sub>徭<sub>ニ</sub>、曰<sub>ニ</sub>雜泛<sub>ニ</sub>、略<sub>ニ</sub>民年七十而上<sub>ニ</sub>、許<sub>ニ</sub>一子侍養<sub>ニ</sub>、免<sub>ニ</sub>雜泛役<sub>ニ</sub>、」右ノ中七十歳ノ子ハ雜泛ノ役ヲ免サバ、老ヲ敬フ事ヲ知ルベキニ、今ノ世ハ曾テ之ナシトミユ

庄屋ノ輩ニ一日ノ役ヲ許ス處アリ、一年三百六十日トナル、其中ニハ白ラ勤メテモ濟ベキ事モ、身ヲ勞セズ人ヲ使フテ私用トスルハ惡ムベキ事ナリ、又田舍<sup>イナガ</sup>ノ寺堂普請ハ兎モアレ、薪其外聊ノ事迄モ、檀家ハ勿論同村ニ加勢夫ヲ取ル事間有リ、朝ニ願ヒ其人數ヲ乞フ事宜シ民ノ風俗盛衰ハ全ク庄屋一人ニ歸スル事ユヘ、上ニ諂フ事無ク、廉直ニシテ賢才ナル者ヲ銓<sup>セン</sup>ムベシ、是本正シケレバ、末亂レザル要領ナリ

六十以上ノ者ハ役ヲ除キ、七十ヨリ共家子息一人ヲ除ク事、令ヲ下スベシ

### 復除蠲符之事

古ハ民ヲ使フハ一歳ニ二日ナリ、其家代々易レリ、又年貢モ異同アリ、時ニ由テ免ス事アリ、周禮ニ、此ヲ舍ト云、漢ニハ復ト云、後世ニハ蠲ト云、又免ト云、漢ヨリ以來ハ年貢モ免ス事アリ、或ハ軍功ニ由リ、或ハ三老或ハ孝悌ノ者、或ハ農業精力ノ者、或ハ明經、或ハ博士弟子、或ハ功臣ノ子孫ニ至ル迄、或ハ二年或ハ三年ノ年貢ヲ免シ玉フ事アリ、唐制モ漢ノ法ノ如ク天子ノ外族及ビ貴人、或ハ學者或ハ孝子・節婦・老病・流民<sup>難民ニ漂流シテ歸ル者ヲ云、</sup>等年貢ヲ免玉フ事次第アリ、復除ノ時ハ上ヨリ證文ヲ賜フ、是ヲ蠲符ト云、宋仁宗ノ時、八品以下死スル者ノ子孫ノ田ハ役編戶ニ同ジ、是時其家ノ役ヲ蠲ク、神宗ノ時王安石ガ計ヒニテ、差役ノ法ヲ改メ雇役トス、又免役錢ト云者ヲ百姓ヨリ取レリ、以前ハ百姓ヨリ公役ニ當ル者ハ、自身ニ國々ヨリ役ヲ勤ルナリ、是ヲ差役ト云、然ルニ諸國ノ官差役ノ割付ケ不均ユヘ、百姓難澁ニ及ビ家滅スル者アリ、神宗諸國ニ觸レテ、其難澁ヲ申シ出ベシト、命ニ由テ條例司ヨリ奏ス、衆論ヲ考ヘ民ニ錢ヲ出サセ、雇役スルカ勝ナラント、差役ヲ改メ雇役トナス、是ハ自身ハ出デズ、出錢シテ人ヲ雇フナリ、差役雇又差衛前トモ云、雇役法ヲ天下ニ頒チ、役戶ヨリ出錢セシム、免役錢・助錢トモ云、通考曰、「凡當役人、又戶以ニ等第ニ出レ錢、名ニ免役錢、其坊郭等策戶、及成丁單丁、女戶寺觀品官之家、舊無ニ色役、而出レ錢者、名ニ助役錢」ト云、助役トハ常ニ役ヲ免サレタル家ヨリ出錢シテ役ヲ助ク、單丁ハ一人アル者、女戶ハ女ノ家ニ當リテ居ル者、品官ハ官人、是等ハ皆常ニ免役ナレドモ、是時ニ出錢セシム、又免役寬剩錢ト云事アリ、免役錢ノ上増ヲ取ル事ア

リ、又率其數、増取二分、以備水旱、欠闕雖増、毋得過二分、謂之免役寬剩錢、是時差役ノ利害諸臣ノ議論區ニシテ、王荊公ガ法モ全ク民害ノ術ニ非ザレドモ、小人ハ信用シテ君子ヲ擯棄シ、急ニ目前ノ驗ヲ求ルニ由テ、種々ノ法制皆宋朝敗亡ノ本トナル、其後南宋ノ世トナツテ、義役ト云事起レリ、續文獻通考曰、「凡元賑恤之名有二、曰蠲免者、免其差稅、即周官大司徒所謂散利者也」ト云、元ノ世モ復除ノ法是ト同ジ、明朝蠲免ノ法、洪武ノ初ヨリアリ、弘治二年、議准災傷、應免糧艸事例、全災者免七分、九分者免六分、八分者免五分、七分者免四分、六分者免三分、五分者免二分、四分者免一分」

「本朝制、有免租、有免租調、有課役俱免、有復一年・二年・三年・四年・五年・十年・終身」年貢ヲ免ジ玉フ事國史ニ見ハル、其中仁徳天皇三月己酉、詔諸國三年ノ課役ヲ免ジ玉ヒ、又重テ免ジ、始終七年免ジ玉フ、免租免課ノ事ハ、賦役令ニ見ヘタリ

令曰、凡田有<sub>二</sub>水旱・虫霜不熟之處<sub>一</sub>、國司檢實、具録申官、十分損五以上免稅、損七分以下免租調、損八分以上課役俱免

註云、課名調及調物田租之類也、役者庸及雜徭之類ト云、是課ハ稅法ハ租・庸・調ト三品ニテ、田アレバ租アリ、戸アレバ調アリ、身アレバ庸アリ、租調ナ合セテ課ト云、庸ナ役ト云、三等ハ、一ニ免租トハ、田ノ年貢バカリヲ免スナリ、二ニ免租調トハ、田稅ト戸調ヲ免スナリ、是ヲ免課ト云、然レドモ庸ハ其備勤ルナリ、三ニ課役俱免トハ庸モ免ナル・ナリ、是上ニ復一年ヨリ十年、又終身ノ<sub>二</sub>荒アリ、外國ニ沒落シテ歸ル者、又中華並ニ外蕃ニ使シテ歸ル者、故郷ト移ル者、皆復ナ賜フニ年數アリ、又二位以上ノ親族

等ハ、終身ノ免役ナリ

本朝王制云、「凡應<sup>レ</sup>免<sup>ニ</sup>課役者、待<sup>ニ</sup>調符至<sup>ニ</sup>、然後注<sup>ニ</sup>免<sup>ニ</sup>、謂<sup>ニ</sup>調除課役之旨<sup>ニ</sup>也、今京都諸役免除ノ符アルハ此類ナリ、右委キハ制度通ニミヘタリ

經濟問答秘錄卷十六終

宮崎幸麿  
小西武治 校

大正五年三月六日印刷

大正五年三月十日發行

日本經濟叢書 非賣品

—卷二十二—

編者 瀧本誠一

佐藤卯兵衛

東京市神田區駿河台  
鈴木町六番地

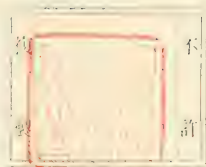
中田福三郎

東京市牛込區市谷  
加賀町一丁目十二番地

印刷所

株式會社秀英舎第一工場

東京市牛込區市谷  
加賀町一丁目十二番地



發行所

東京市神田區駿河台  
鈴木町拾六番地

日本經濟叢書刊行會

電話本局三一八五番  
振替口座東京二六八一〇番

理事

高木範之丞  
佐藤卯兵衛





## CONTENTS

of the twenty-second volume

KEIZAI MONDŌ HIROKU, *or secret memoirs of dialogues on political economy.* About 1841.

By SHŌJI KŌKI

(1787-1857)

*The first half: containing Books 1-16.*

*Books 1-2. Outlines of political economy*

*Books 3-5. Of schools*

*Books 6-7. Of laws*

*Books 8-10. Of ways and means of a state*

*Books 11-16. Of land taxation*

---



BIBLIOTHECA  
JAPONICA  
ŒCONOMIÆ POLITICÆ

VOL. XXII



TŌKIŌ  
NIHON KEIZAI SŌSHŌ  
KAN KŌKWA I

1916.







EAST-ASIAN LIB. UNIVERSITY OF TORONTO



3 1761 02987 9574

